

武蔵国分寺跡発掘調査概報

30

— 北方地区・(仮称) 国分寺プロジェクト計画工事に伴う調査 —

2005年3月

国分寺市遺跡調査会

武蔵国分寺跡発掘調査概報30：北方地区・（仮称）国分寺プロジェクト計画工事に伴う調査(2005)

頁	行	誤	正
(4)	8	荒井健二	⇒ 荒井健治
(4)	8	江口桂、及川良彦	⇒ 江口桂、大坪宜雄、及川良彦
(4)	9	渋江芳浩、高林均	⇒ 渋江芳浩、高島英之、高林均
21	1	スタンプ型石器	⇒ スタンプ形石器
21	8	胴張隅丸形	⇒ 胴張隅丸方形
21	10	か対	⇒ 堅い
39	14	(図面122-5図版58)	⇒ (図面122-5、図版58)
47	15	SD21	⇒ SD23
91	29	考古学研究調査報告第2冊	⇒ 考古学研究室調査報告第2冊
94	7	台形石器	⇒ 台形様石器
94	7	槍先形石器	⇒ 槍先形尖頭器
96	緯度経度	北緯 35度41分09秒 東経 139度28分12秒	⇒ 北緯 35度41分42秒 東経 139度28分25秒
101	図面	24	⇒ 19
110	S1759J住居 石器一覧	石材 ホルンヘルス	⇒ 石材 ホルンフェルス
112	図面51-2	打製石斧	⇒ 砂岩
127	図面番号 60-19	特徴 057	⇒ 特徴 JC57
138	SK3076J土坑 土器一覧	図面番号58-3 図版番号47 遺物番号JF06	⇒ 図面番号58-2 図版番号47 遺物番号JF07
139	SK3076J土坑 土器一覧	図面番号58-2 図版番号47 遺物番号JF07	⇒ 図面番号58-3 図版番号47 遺物番号JF06
151	123-10～12 124-1～3	?	⇒ 塙
図面14	20	FI 374～377	⇒ FI 01～04
図面17	31	FL 90・92・95	⇒ FL 91・92・95
図面17	32	ST 40	⇒ ST 40 FL 42
図面17	33	ST 40	⇒ ST 40 FL 72
図面18	40	ST 40 FL 74	⇒ ST 40 FL 71
図面18	41	ST 40 FL 117	⇒ ST 40 FL 70/117
図面21	71	ST 40 FL 120	⇒ 削除
図面22	81	ST 40	⇒ ST 40 FL 97
図面22	89	ST 40	⇒ ST 40 FJ 07
図面24	103	EN 82 FA 17	⇒ EN 82 FA 19

2021年2月8日作成

2025年6月18日更新



(S=3/5)



1. 旧石器時代石器 (S=4/5)



2. 「国寺」墨書土器

(S=1/2)



3. 「国寺」墨書 (原寸)



4. 「国寺」墨書赤外線モニター写真

序

現在、国分寺市においては国分寺市史跡武蔵国分寺跡整備計画策定委員会を発足させ、国分寺跡の整備、保存活用についての検討に着手している。この事業の遂行にとって不可欠の要件は、寺院地の確定に伴う保存範囲の認定とその活用方途の検討及び主要伽藍跡の整備活用に関する方針の検討であるといえる。とくに、寺院地の四至の確定はきわめて重要であり、関係者間で常に問題意識をもって対応し、検討を重ねているのが実情である。

かかる時点において、寺院地の北側を画する溝に接して共同住宅建設の計画がもたらされた。当該予定地は「国分寺市遺跡№19」として周知された埋蔵文化財包蔵地であり、かつ、「都名勝真姿の池湧水群」の北側直上の地域でもある。国分寺北側の区画溝の存在についてはかねてから知られていたところであり、また、至近地における既調査に際しては、奈良～平安時代、縄文時代、旧石器時代の遺構の検出と遺物が出土し、考古学研究上、きわめて注目されてきた地域であった。

よって、原因者（株式会社大京・トヨタホーム株式会社・KDDI開発株式会社）に対して保存と調査の対応について協力を要請してきた国分寺市教育委員会は、埋蔵文化財の保護に加えて市の関係部局と協議し、環境の保全についても前向きな検討を要望したのであった。その結果、開発計画を一部変更して、寺院地北側の区画溝とその周囲を「国指定史跡」として追加することに同意をみたのである。その間、市民団体からも周辺環境の保全に関する要望が提起されたことを受けて原因者と協議する場がもたれ、原因者・市民団体・市関係部局の三者の意見交換の場を設定する試みがあった。

この度の「(仮称)国分寺プロジェクト計画」の開発に対し、国分寺市遺跡調査会は、当該地域の発掘調査を実施し、予期した結果を得ることができた。あわせて武蔵国分寺跡の寺院地北側の状況を明らかにすることが出来たのは幸いであった。これによって、整備と保存活用の良好なデータを提出することが可能となった。

報告書の刊行にあたり、関係された各社・各位の尽力とご協力に対して感謝の意を表させて頂くと共に今後も変わらぬご理解を願う次第である。

2005年3月

国分寺市遺跡調査会

会長 坂 詰 秀 一

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市 西元町1丁目2448番3、2449番1・2地内に所在する武蔵国分寺跡北東地域において、トヨタ自動車株式会社・株式会社大京・ケイディーディーアイ開発株式会社の3者を事業主として計画された共同住宅建設計画「(仮称)国分寺プロジェクト計画」に伴う事前発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 調査は、平成15年2月25日から同年10月25日まで行った。報告書作成作業は発掘調査終了後速やかに着手し、平成17年3月31日の刊行とした。

発掘調査については合田方正・熊崎保が担当した。なお、発掘調査の作業員は事業者より委託を受けた共和開発株式会社より提供され、同社にて一部報告書作成のための基礎整理作業を行った。
3. 本書の執筆・編集は坂詰秀一の監修のもとに、合田方正・国武貞克・上敷領 久が担当し、福田信夫・上村昌男・中道誠がこれを助けた。なお、報文の執筆担当は以下のとおりである。

上敷領 久 I、II-1・2、V-2、VII-2-(2)(3)・3-(5)
国武 貞克 II-3、IV-(1)~(5)、VII-1
合田 方正 III、IV-(6)(7)、V-1-(1)(6)(7)、VI-1・2、VII-3-(1)(3)(4)
中道 誠 VII-3-(2)
斉藤由美子 V-1-(2) SI764J住居・(3)~(5)、VII-2-(4)
戸辺 千裕 V-1-(2)、VII-2-(1)
佐藤絵里奈 V-1-(4) SS105集石
中村 慶子 VI-1-(3) SI767住居
4. 本書のトレース・版下作成・写真撮影作業は主に、野村美智子・永尾美智子・佐藤令・渡辺良重・嶋田圭吾・駒澤大学考古学研究会がこれにあたった。
5. 遺構図の作成については、株式会社こうそく「リプログラフ」、アドビー社「イラストレーター10」を使用した。
6. 鉄製品の保存処理は(株)東芸に、炭化材の造形保存および樹種の鑑定については石川隆司氏にお願いした。
7. 縄文土器の一部実測・トレースは、(株)榎吾妻考古学研究所に委託した。
8. 縄文土器の分類については、明治大学考古学博物館阿部芳郎氏、東京都埋蔵文化財センター小栗一夫氏、同中西充氏、国立市教育委員会馬橋利行氏、神奈川県立埋蔵文化財センター恩田勇氏、府中市教育委員会中山真治氏の助言を得た。

9. 甲斐型暗文土器については韮崎市教育委員会山下孝司氏に助言を得た。
10. 赤外線モニターによる墨書土器の観察については、財団法人府中市郷土の森博物館学芸員 深澤靖幸氏のご協力を得た。
11. 炭化材の年代測定については国立歴史民族博物館研究員小林謙一氏、坂本稔氏、尾崎大真氏、新免歳靖氏のご協力を得、その成果を本文中に掲載した。
12. 発掘調査及整理作業についてご指導いただいた方は以下のとおりである。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

荒井健二、荒井秀規、有吉重蔵、石井則孝、伊藤敏行、今井亮、江口桂、及川良彦、岡崎完樹、川田壽文、菊池誠一、黒尾和久、小坂隆司、酒井清治、渋谷芳浩、高林均、武川夏樹、館野孝、塚原二郎、手塚直樹、永田史子、中澤寛将、野口淳、橋口尚武、服部敬史、張替精司、福嶋宗人、松沢直大、松葉崇、宮崎博、武笠多恵子、村山光一、山口正憲、山中敏史

13. 発掘調査及整理作業に参加、協力いただいた方は以下のとおりである。また駒澤大学文学部歴史学科教授飯島武次氏と同学非常勤講師古庄浩明氏の指導のもと、駒澤大学考古学研究会の協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

駒澤大学関係者 (肩書き、学年は調査時点)

太田喜美子 (駒澤大学講師)、黒澤春彦 (上高津貝塚ふるさと歴史の広場)、高島裕之 (駒澤大学禅文化歴史博物館)、池尻篤 (鷺宮町立郷土資料館)、西秀子 (日本考古学協会)、中村賢太郎 (東京都立大学大学院修士2年)、嶋田圭吾、高野晶文 (國學院大学大学院修士2年)、林純子 (法政大学大学院修士2年)、立川明子 (鶴見大学大学院修士1年)、浅間陽、小堀幸子、近藤貴徳、坂井深雪、林紘太郎、山下舞子 (駒澤大学4年)

(駒澤大学発掘実習生)

早船裕樹、肥田野由梨、庄司昌耶、中谷安夫、内藤嘉泰、沼野健一、久保田晶、榎本裕紀、千々松さとみ、山道修平、永井裕美、小林大輔、岸本卓也、舩洋介、松本亮太、吉田翔翔、横島千加、牧孝太郎、近内美由紀、水野鈴子、佐々木将臣、木村庄作、小川麗子、吉崎純一、新井雅之、木村嘉孝、高安夏織、山崎和人、池田晋、伊藤恭介

(駒澤大学考古学研究会生)

浅見貴子 (修士2年)、石塚宇紀 (修士1年)、折原覚 (修士1年)、木暮直隆 (修士1年)、工藤朱里 (修士1年)、青木浩平、神山武万、佐藤絵里奈、坪倉早智子、森屋雅幸、藤野一之 (学部3年) 石井聖美、石丸あゆみ、植田雄己、大井和実、千葉隼人、中田徹、中村慶子、正木未央、八木聡 (学部2年) 伊地知亮、片山裕子、瀧音大、長野友洋、新津尚之、前山喜英 (学部1年)

発掘作業

畑山豊、笹津備当（青山学院大学大学院修士）、和田伸哉（青山学院大学大学院修士）、戸辺千裕（東京都立大学大学院修士）、鈴木春香（青山学院大学）、小林雄介（中央大学）、共和開発株式会社

整理作業

大下ゆみ・大羽正子・小林幸江・鈴木靖彦・鈴木雪江・山口啓子・共和開発株式会社

凡 例

1. 遺構は遺跡をとおしてほぼ発見順に連続番号を付し下記の遺構記号を冠して表示する。

旧石器時代の遺構については末尾にPを付け、縄文時代の遺構については末尾にJを付けた。

ST：石器集中部 SC：炭化物集中部 SKP：土坑

SIJ：住居 SU：屋外埋甕 SS：集石 SKJ：土坑 SXJ：不明遺構 SBJ：掘立柱建物

PJ：小穴

SB：掘立柱建物 SA：柱穴列 SI：住居 SD：溝 SK：土坑 P：小穴

2. 遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

旧石器時代

石器類

FA ナイフ形石器

FC 尖頭器

FI 礫石器

FJ 石核

FC 剥片

FN 叩き石

FP スクレーパー

FW 台形礫石器

石器石材

an：黒色緻密安山岩 bsh：黒色頁岩 ch：チャート ft：細粒凝灰岩 tuf：凝灰岩

ob：黒曜石 sa：砂岩 ssh：珪質頁岩

縄文時代

土器類

土製品類

石器類

JB 早期前半

DE 土製円板

AB 石鏃

JC 早期後半

AD スクレーパー

AL 磨石

JE 中期前半

AF ピース・エスキュー

AM 挟入磨石

JF 中期後半

AG 打製石斧

AN スタンプ形石器

JG 後期

AH 磨製石斧

AP 石皿

AI 調整剥片石器

AQ 砥石

AJ 礫器

AT 剥片

AK 叩き石

AU 砕片

歴史時代

土器類	瓦類	陶製品	土製品	石製品	金属製品類
PH 土師器	KA 鍔瓦	CA 陶硯	TH 土鍾	GL 砥石	MG 不明青銅製品
PK 須恵器	KB 宇瓦				MH 刀子
PL 土師質土器	KC 男瓦				MJ 鎌鉄製品
PN 灰釉陶器	KD 女瓦				MK 鈍鉄製品
PQ 青磁	KE 熨斗瓦				MM 釘鉄製品
PT 中近世陶器	KH 埴				MX 不明鉄片
					MY 鉄滓
					MZ 不明鉄製品

3. 遺物の記述については全て一覧表とした。

- (1) 表は遺構、種別毎にまとめてあり、原則として遺物番号順に列記してある。
- (2) 表中の計測値の内、括弧のないものは完数值、()は残存数值、()は復元数值、
一は計測不可を表す。また、単位は特に表記しないものは全てcmである。

図面・図版

1. 遺構

- (1) 遺構配置図表示(グリット)の数字は発掘基準線中心点からの距離を表す。発掘基準中心点と僧寺金堂中心点の位置関係は前者の南北基準線上中心点南26.276mに後者がある。

また、僧寺中軸線の方位は発掘南北基準線と一致し、真北から6°34'46"、磁北から0°4'46"それぞれ西偏する。

- (2) 断面図表示の数字は水系レベルで海拔高を示す。

(3) 遺構のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

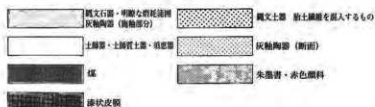


(4) 図面の縮尺は次のとおりに統一したが、一部異なるものがある。

遺構全体図	1/400	柱穴列	1/40	1/80	1/200
旧石器分布図	1/40	1/50	住居・土坑	1/60	
旧石器炭化物集中部	1/10	土坑	1/30	集石・住居竈・炉	1/30
掘立柱建物	1/40	1/80	屋外埋壺	1/10	

2. 遺物

(1) 遺物のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。



(2) 遺物図面中の数字は、図面番号・遺構名・遺物番号の順とした。

(3) 遺物図版中の数字は、遺構名・図面番号の順とした。

(4) 遺物の縮尺は次のとおりに統一した。

[図面]

旧石器時代	石器	4/5		
縄文時代	土器類(破片)	1/3	土器類(復元・完形)	1/6
	石器	1/3	1/6	石鏃 3/4
歴史時代	土器類	1/3	瓦 1/4	金属製品 1/2

[図版]

旧石器時代	石器類	4/5						
縄文時代	土器類(破片)	1/2.5	土器類(復元・完形)	1/3	1/5	土製品類	1/1	
	石器類(石鏃を除く)	1/2.5	石鏃	1/1				
歴史時代	土器類	1/2・1/3	金属製品類	1/1	瓦	1/4	石製品	1/2
文字資料	1/1							

目 次

序	
例 言	(3)
凡 例	(6)
目 次	(9)
本文目次	(9)
挿図目次	(11)
表目次	(11)
図面目次	(12)
図版目次	(15)
I 調査にいたる経過	1
II 調査地区の概観	5
1. 調査地区の位置・立地	5
2. 周辺地区の調査	6
3. 層序	7
III 発掘経過	9
IV 旧石器時代	10
(1) 石器集中部	10
(2) 石器集中部の遺物	12
(3) 遺構外の石器出土状態	15
(4) 遺構外出土の石器	15
(5) 礫の出土状態	17
(6) 土坑	17
(7) 炭化物集中部	18
V 縄文時代	19
1. 検出遺構	19
(1) 掘立柱建物	19
(2) 竪穴住居	19
(3) 埋 甕	23
(4) 集 石	23
(5) 土 坑	28
(6) 不明遺構	34

(7) 小穴	35
2. 出土遺物	35
VI 歴史時代	36
1. 検出遺構	36
(1) 掘立柱建物	36
(2) 柱穴列	39
(3) 竪穴住居	40
(4) 溝状遺構	56
(5) 土坑	57
(6) 道路状遺構	61
(7) 不明遺構	62
(8) 小穴	62
2. 出土遺物	63
VII 小 結	64
1. 旧石器時代	64
2. 縄文時代	67
(1) 燃糸文期の集落	67
(2) 中期の遺構	69
(3) 土器について	71
(4) 石器について	73
3. 歴史時代	74
(1) 土師器・土師質土器・須恵器・灰釉陶器・墨書他	74
(2) 瓦	74
(3) 金属器	78
(4) 調査区の遺構分布	79
(5) 北方台地上の集落	83
4. 東京都国分寺市武蔵国分寺跡第563次調査出土試料の ¹⁴ C年代測定	85
VIII 総 括	90
参考文献	91
国分寺市遺跡調査会組織	93
調査の概要	94
報告書抄録	96

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置 (1/30000)	第6図	野川上流域の砂川期の消費石材別分布図
第2図	調査地区の位置 (1/5000)	第7図	縄文時代早期集落全体図
第3図	調査区深度図	第8図	縄文時代中期遺構分布図
第4図	標準土層図	第9図	歴史時代主要遺構分布図
第5図	野川上流域の旧石器時代遺跡ローム層調査範囲	第10図	暦年較正確率密度分布
		第11図	年縞堆積物による暦年代推定

表 目 次

第1表	旧石器時代遺物組成表	第33表	縄文時代遺物一覧表 (24)
第2表	旧石器時代遺物属性表 (1)	第34表	縄文時代遺物一覧表 (25)
第3表	旧石器時代遺物属性表 (2)	第35表	縄文時代遺物一覧表 (26)
第4表	旧石器時代遺物属性表 (3)	第36表	縄文時代遺物一覧表 (27)
第5表	縄文時代土坑一覧表 (1)	第37表	縄文時代遺物一覧表 (28)
第6表	縄文時代土坑一覧表 (2)	第38表	縄文時代遺物一覧表 (29)
第7表	縄文時代土坑一覧表 (3)	第39表	縄文時代遺物一覧表 (30)
第8表	縄文時代土器集計表	第40表	縄文時代遺物一覧表 (31)
第9表	縄文時代石器集計表	第41表	縄文時代遺物一覧表 (32)
第10表	縄文時代遺物一覧表 (1)	第42表	縄文時代遺物一覧表 (33)
第11表	縄文時代遺物一覧表 (2)	第43表	縄文時代遺物一覧表 (34)
第12表	縄文時代遺物一覧表 (3)	第44表	歴史時代竪穴住居一覧表
第13表	縄文時代遺物一覧表 (4)	第45表	歴史時代竪立建物一覧表・土坑一覧表 (1)
第14表	縄文時代遺物一覧表 (5)	第46表	歴史時代土坑一覧表 (2)
第15表	縄文時代遺物一覧表 (6)	第47表	歴史時代土坑一覧表 (3)
第16表	縄文時代遺物一覧表 (7)	第48表	歴史時代土坑一覧表 (4)
第17表	縄文時代遺物一覧表 (8)	第49表	歴史時代主要遺構出土土器類集計表
第18表	縄文時代遺物一覧表 (9)	第50表	歴史時代主要遺構出土瓦埴集計表
第19表	縄文時代遺物一覧表 (10)	第51表	歴史時代遺物一覧表 (1)
第20表	縄文時代遺物一覧表 (11)	第52表	歴史時代遺物一覧表 (2)
第21表	縄文時代遺物一覧表 (12)	第53表	歴史時代遺物一覧表 (3)
第22表	縄文時代遺物一覧表 (13)	第54表	歴史時代遺物一覧表 (4)
第23表	縄文時代遺物一覧表 (14)	第55表	歴史時代遺物一覧表 (5)
第24表	縄文時代遺物一覧表 (15)	第56表	歴史時代遺物一覧表 (6)
第25表	縄文時代遺物一覧表 (16)	第57表	歴史時代遺物一覧表 (7)
第26表	縄文時代遺物一覧表 (17)	第58表	歴史時代遺物一覧表 (8)
第27表	縄文時代遺物一覧表 (18)	第59表	歴史時代遺物一覧表 (9)
第28表	縄文時代遺物一覧表 (19)	第60表	歴史時代遺物一覧表 (10)
第29表	縄文時代遺物一覧表 (20)	第61表	歴史時代遺物一覧表 (11)
第30表	縄文時代遺物一覧表 (21)	第62表	歴史時代遺物一覧表 (12)
第31表	縄文時代遺物一覧表 (22)	第63表	歴史時代遺物一覧表 (13)
第32表	縄文時代遺物一覧表 (23)	第64表	歴史時代遺物一覧表 (14)

第65表	歷史時代遺物一覽表 (15)
第66表	歷史時代遺物一覽表 (16)
第67表	歷史時代遺物一覽表 (17)
第68表	歷史時代遺物一覽表 (18)
第69表	歷史時代遺物一覽表 (19)

第70表	歷史時代遺物一覽表 (20)
第71表	歷史時代遺物一覽表 (21)
第72表	歷史時代遺物一覽表 (22)
第73表	歷史時代遺物一覽表 (23)

圖 面 目 次

圖面1	旧石器時代全体図
圖面2	ST25石器分布図
圖面3	ST26石器分布図
圖面4	ST38石器分布図
圖面5	ST39石器分布図
圖面6	ST40石器分布図
圖面7	接合1 (bsh I) 作業内容別分布図
圖面8	ST41石器分布図
圖面9	遺構外石器分布図
圖面10	ST25・ST39礫分布図
圖面11	SK3124P土坑・SC43炭化物集中区
圖面12	ST25・ST26・ST38・ST39出土石器
圖面13	ST38・ST40 (1) 出土石器
圖面14	ST40 (2) 出土石器
圖面15	ST41出土石器
圖面16	bsh I 接合資料 (接合1) 1
圖面17	bsh I 接合資料 (接合1) 2
圖面18	bsh I 接合資料 (接合1) 3
圖面19	bsh I 接合資料 (接合1) 4
圖面20	bsh I 接合資料 (接合1) 5・ch2 接合資料 (接合2) 1
圖面21	ch2 接合資料 (接合2) 2・ch1 接合資料 (接合3) 1
圖面22	ch1 接合資料 (接合3) 2
圖面23	遺構外出土石器1
圖面24	遺構外出土石器2
圖面25	縄文時代遺構全体図
圖面26	縄文時代土坑全体図
圖面27	SB211J・SB212J掘立柱建物
圖面28	SI171J住居
圖面29	SI759J住居
圖面30	SI759J・SI760J・SI761J住居
圖面31	SI762J・SI763J住居
圖面32	SI764J住居
圖面33	SU8・SU9屋外埋塞

圖面34	SS94～SS109集石
圖面35	SK2903J・SK2905J～SK2907J・SK2909J・SK2911J・SK2912J土坑
圖面36	SK2912J土坑遺物出土状況
圖面37	SK2913J・SK2914J・SK2916J・SK2918J・SK2920J・SK2921J・SK2922J・SK2924J・SK2925J・SK2927J～SK2929J土坑
圖面38	SK2926J・SK2930J・SK2936～SK2941J・SK2943J・SK2952J～SK2955J・SK2962J土坑
圖面39	SK2944J～SK2946J・SK2951J・SK2959J・SK2960J・SK2963J・SK2966J・SK2968J～SK2970J・SK2972J土坑
圖面40	SK2973J～SK2975J・SK2977J～SK2979J・SK2981J・SK2983J・SK2888J・SK2989J・SK2990J・SK2992J・SK2995J土坑
圖面41	SK2997J～SK3003J・SK3007J・SK3010J・SK3018J～SK3020J土坑
圖面42	SK3021J～SK3024J・SK3026J・SK3028J・SK3030J～SK3032J・SK3033J・SK3034J土坑
圖面43	SK3039J・SK3040J・SK3043J・SK3047J～SK3052J・SK3055J～SK3057J・SK3059J土坑
圖面44	SK3062J～SK3065J・SK3067J～SK3069J・SK3071J～SK3073J・SK3075J～SK3077J土坑
圖面45	SK3078J～SK3080J・SK3082J・SK3083J・SK3086J～SK3092J・SK3102J・SK3107J土坑
圖面46	SK3111J～SK3117J・SK3120J～SK3123J土坑
圖面47	SI171J住居出土遺物・SI759J住居出土遺物 (1)
圖面48	SI759J住居出土遺物 (2)

- 図面49 SI759J住居出土遺物(3)・SI760J住居出土遺物・SI761J住居出土遺物・SI762J住居出土遺物(1)
- 図面50 SI762J住居出土遺物(2)・SI763J住居出土遺物(1)
- 図面51 SI763J住居出土遺物(2)・SI764J住居出土遺物(1)
- 図面52 SI764J住居出土遺物(2)
- 図面53 SS95~SS98・SS100~SS102・SS104・SS106 集石出土遺物
- 図面54 SS107~SS109集石、SU8・SU9 屋外埋藏、SK2912J土坑(1)出土遺物
- 図面55 SK2912J土坑出土遺物(2)
- 図面56 SK2912J土坑出土遺物(3)
- 図面57 SK2912J(4)~SK2914J・SK2925J~SK2928J・SK2937J・SK2944J~SK2946J・SK2951J・SK2960J・SK2984J・SK2997J・SK3021J・SK3051J土坑出土遺物
- 図面58 SK3057J・SK3076J・SK3113J・SK3117J土坑、SX239J遺物集中部出土遺物
- 図面59 SX242J・SX243J・SX246J(1)遺物集中部出土遺物
- 図面60 SX246J遺物集中部出土遺物(2)
- 図面61 SX246J遺物集中部出土遺物(3)
- 図面62 SX246J遺物集中部出土遺物(4)
- 図面63 SX246J遺物集中部出土遺物(5)
- 図面64 SX246J遺物集中部出土遺物(6)
- 図面65 SX246J遺物集中部出土遺物(7)
- 図面66 SX247J遺物集中部、PJ-112・PJ-232・PJ-304・PJ-373・PJ-553・PJ-600小穴出土遺物
- 図面67 遺構外出土遺物(1)
- 図面68 遺構外出土遺物(2)
- 図面69 遺構外出土遺物(3)
- 図面70 遺構外出土遺物(4)
- 図面71 遺構外出土遺物(5)
- 図面72 遺構外出土遺物(6)
- 図面73 遺構外出土遺物(7)
- 図面74 遺構外出土遺物(8)
- 図面75 歴史時代遺構全体図
- 図面76 歴史時代溝状遺構分布図
- 図面77 歴史時代土坑分布図
- 図面78 SB206掘立柱建物
- 図面79 SB207掘立柱建物
- 図面80 SB208掘立柱建物
- 図面81 SB209掘立柱建物
- 図面82 SB210掘立柱建物
- 図面83 SB210掘立柱建物柱穴断面図
- 図面84 SB213掘立柱建物
- 図面85 SB213掘立柱建物柱穴断面図
- 図面86 SA24柱穴
- 図面87 SA25・SA26・SA27柱穴
- 図面88 SI740住居・竈
- 図面89 SI740住居竈
- 図面90 SI740住居遺物分布図
- 図面91 SI741住居
- 図面92 SI741住居竈
- 図面93 SI742・SI743住居・竈
- 図面94 SI744住居・竈
- 図面95 SI745・SI746・SI747住居・SI747住居竈
- 図面96 SI748住居・竈・SI749住居
- 図面97 SI749住居竈・炭化材出土状況
- 図面98 SI749住居遺物分布図
- 図面99 SI750住居・竈・SI751住居・炉
- 図面100 SI752住居・竈
- 図面101 SI753住居・竈・SI754住居
- 図面102 SI754住居竈
- 図面103 SI754住居・炉・SI755住居・竈
- 図面104 SI756住居・竈
- 図面105 SI757・SI758・SI765住居
- 図面106 SI765住居竈・SI766住居・SI767住居・竈
- 図面107 SI767住居竈
- 図面108 SK2697~SK2699・SK2701・SK2703・SK2705・SK2707・SK2709・SK2711土坑
- 図面109 SK2712~SK2714・SK2718~SK2726土坑
- 図面110 SK2727・SK2729~SK2733・SK2735~SK2739・SK2741~SK2744・SK2746・SK2747・SK2751・SK2752土坑
- 図面111 SK2755~SK2759・SK2762~SK2773土坑
- 図面112 SK2774~SK2790土坑
- 図面113 SK2792・SK2793・SK2795~SK2799・SK2801~SK2803・SK2805~SK2807・SK2811・SK2826土坑

- 図面114 SK2809・SK2812～SK2817・SK2819～SK2823土坑
- 図面115 SK2824・SK2828～SK2830・SK2833～SK2837・SK2839・SK2840・SK2842・SK2844・SK2846土坑
- 図面116 SK2847・SK2848・SK2850・SK2853～SK2857・SK2860・SK2862・SK2863・SK2866～SK2873土坑
- 図面117 SK2874・SK2878・SK2880～SK2885・SK2887・SK2889・SK2892～SK2894・SK2897・SK2931～SK2935土坑
- 図面118 SK2898・SK2956・SK2965・SK3005・SK3006・SK3011～SK3015・SK3035土坑
- 図面119 SK3036・SK3045・SK3085・SK3103・SK3108土坑
- 図面120 SX 6 道路状遺構 (1)
- 図面121 SX 6 道路状遺構 (2)
- 図面122 SB207・SB209・SB213掘立柱建物出土遺物、SA24・SA25・SA26柱穴列出土遺物、SI740住居出土遺物 (1)
- 図面123 SI740住居出土遺物 (2)
- 図面124 SI740住居出土遺物 (3)
- 図面125 SI740住居出土遺物 (4)
- 図面126 SI740住居出土遺物 (5)
- 図面127 SI740住居出土遺物 (6)
- 図面128 SI740住居出土遺物 (7)
- 図面129 SI741住居出土遺物 (1)
- 図面130 SI741住居出土遺物 (2)
- 図面131 SI741住居出土遺物 (3)・SI742住居出土遺物
- 図面132 SI743住居出土遺物・SI744住居出土遺物 (1)
- 図面133 SI744住居出土遺物 (2)・SI747住居出土遺物 (1)
- 図面134 SI747住居出土遺物 (2)・SI748住居出土遺物
- 図面135 SI749住居出土遺物 (1)
- 図面136 SI749住居出土遺物 (2)
- 図面137 SI749住居出土遺物 (3)
- 図面138 SI749住居出土遺物 (4)・SI750住居出土遺物・SI751住居出土遺物 (1)
- 図面139 SI751住居出土遺物 (2)・SI752住居出土遺物 (1)
- 図面140 SI752住居出土遺物 (2)
- 図面141 SI754住居出土遺物 (1)
- 図面142 SI754住居出土遺物 (2)
- 図面143 SI754住居出土遺物 (3)・SI755住居出土遺物
- 図面144 SI756住居出土遺物 (1)
- 図面145 SI756住居出土遺物 (2)
- 図面146 SI756住居出土遺物 (3)・SI757住居出土遺物 (1)
- 図面147 SI757住居出土遺物 (2)・SI758住居出土遺物・SI765住居出土遺物
- 図面148 SI767住居出土遺物 (1)
- 図面149 SI767住居出土遺物 (2)
- 図面150 SD383・SD384溝、SK2698・SK2699・SK2703・SK2707・SK2739・SK2756土坑出土遺物
- 図面151 SK2764・SK2768・SK2775・SK2782・SK2792・SK2807・SK2813・SK2837・SK2839・SK2866・SK2871・SK3013土坑、SX 6 道路状遺構、P-40・P-70小穴出土遺物
- 図面152 P-171・P-328・P-437・P-547・P-595小穴、遺構外 (1) 出土遺物
- 図面153 遺構外出土遺物 (2)

図 版 目 次

- 巻頭図版1 1、空撮全景—右手前の二重白線は武蔵国分僧寺寺院地北辺の溝SD23—(南上空から)
2、黒色頁岩接合資料(接合1)
2 1、旧石器時代石器
2、「国寺」墨書土器
3、「国寺」墨書(原寸)
4、「国寺」墨書赤外線モニター写真

図版1 旧石器時代調査区・トレンチ

- 1 旧石器時代南側調査区ST38~ST41(東から)
2 旧石器時代トレンチ(南から)
3 旧石器時代第1トレンチ北壁土層(南から)

図版2 ST25・ST26・ST38・ST39石器集中部

- 1 ST25石器集中部(北から)
2 ST26石器集中部(南から)
3 ST38石器集中部(西から)
4 ST39石器集中部(東から)
5 ST39石器集中部南側(北から)
6 ST39石器集中部北側(南から)
7 ST39石器集中部遺物出土状況(南から)
8 ST39石器集中部石核出土状況(南から)

図版3 ST39・ST40・ST41石器集中部

- 1 ST39石器集中部台石出土状況(南から)
2 ST40石器集中部(西から)
3 ST40石器集中部(東から)
4 ST40石器集中部最下面(東から)
5 ST40石器集中部石核周辺遺物出土状況(東から)
6 ST40石器集中部石器・剥片出土状況(南から)
7 ST40石器集中部局部磨製礫出土状況(東から)
8 ST41石器集中部(東から)

図版4 ST40・ST41石器集中部・遺構外石器出土状況

- 1 ST40・ST41石器集中部(南西から)
2 FE-72区Va層ナイフ形石器出土状況(南から)
3 ES-70区Va層遺物出土状況(南東から)
4 FA-83区Va層遺物出土状況(北から)
5 ET-78区Va層石器出土状況(南から)
6 ET-79区Va層ナイフ形石器出土状況(南から)
7 EN-82区VI層石器出土状況1(東から)
8 EN-82区VI層石器出土状況2(東から)

図版5 遺構外石器出土状況、SK3124P土坑、SC41・SC43炭化物集中部

- 1 FL-82区VI層石器出土状況(南から)
2 SK3124P土坑(南から)
3 SK3124P土坑土層断面(東から)
4 SC41炭化物集中部(西から)
5 SC41炭化物集中部断面(南から)
6 SC43炭化物集中部(東から)
7 SC43炭化物集中部炭化材出土状況(南から)
8 SC43炭化物集中部炭化材出土状況(東から)

図版6 縄文時代調査区・縄文時代早期集落

- 1 縄文時代調査区東側(南から)
2 縄文時代調査区南半中央部(東から)
3 縄文時代早期集落(東から)

図版7 SI171J・SI759J・SI760J・SI761J・SI762J住居

- 1 SI171J住居(北西から)
2 SI759J・SI762J住居(西から)
3 SI759J住居炉(東から)
4 SI759J住居北側柱穴状況(東から)
5 SI759J住居遺物出土状況(南から)
6 SI760J住居(東から)
7 SI760J住居遺物出土状況(西から)
8 SI761J住居(北から)

図版8 SI762J・SI763J・SI764J住居

- 1 SI762J住居（北西から）
 2 SI762J住居跡（北から）
 3 SI762J住居遺物出土状況（南から）
 4 SI763J住居（西から）
 5 SI764J住居（南から）
 6 SI764J住居埋藏跡（西から）
 7 SI764J住居出入り口施設（南から）
 8 SI764J住居南西部遺物出土状況（南東から）
- 図版9 SB211J・SB212J掘立柱建物、SS94・SS95・SS96・SS97集石
 1 SB211J掘立柱建物（南から）
 2 SB211J掘立柱建物1-3（西から）
 3 SB212J掘立柱建物（東から）
 4 SB212J掘立柱建物2-2土層断面（東から）
 5 SS94集石（西から）
 6 SS95集石（東から）
 7 SS96集石（東から）
 8 SS97集石（東から）
- 図版10 SS98・SS99・SS100・SS101・SS102集石
 1 SS98集石（北から）
 2 SS99集石（西から）
 3 SS100集石（北から）
 4 SS100集石最下面（南から）
 5 SS100集石周辺（南から）
 6 SS100集石クルミ出土状況（南から）
 7 SS101集石（北から）
 8 SS102集石（北から）
- 図版11 SS103・SS104・SS105・SS106・SS107・SS108・SS109集石、SU8・SU9屋外埋藏
 1 SS103集石（北から）
 2 SS104集石（北から）
 3 SS105集石（北から）
 4 SS106集石（南から）
 5 SS107集石（西から）
 6 SS108・SS109集石（南から）
 7 SU8屋外埋藏（東から）
 8 SU9屋外埋藏（南から）
- 図版12 SK2912J土坑
 1 SK2912J土坑（南西から）
 2 SK2912J土坑（北から）
- 3 SK2912J土坑遺物・焼土出土状況（北西から）
- 図版13 SK3076J土坑
 1 SK3076J土坑（東から）
 2 SK3076J土坑土層断面（南から）
 3 SK3076J土坑（南から）
- 図版14 SK2903J・SK2907J・SK2909J・SK2911J・SK2913J・SK2914J・SK2918J・SK2925J・SK2926J・SK2930J・SK2943J・SK2945J・SK2951J・SK2959J・SK2960J・SK2962J・SK2966J・SK2969J・SK2971J土坑
 1 SK2903J陥穴（南から）
 2 SK2907J土坑（南から）
 3 SK2909J土坑（南から）
 4 SK2911J陥穴（南から）
 5 SK2913J陥穴（東から）
 6 SK2914J土坑（北から）
 7 SK2918J土坑（北から）
 8 SK2925J土坑（東から）
 9 SK2926J・SK2930J炉穴（東から）
 10 SK2943J陥穴（東から）
 11 SK2945J陥穴・SK2951J土坑（東から）
 12 SK2959J・SK2960J・SK2966J土坑（南から）
 13 SK2962J土坑（南から）
 14 SK2969J土坑（南から）
 15 SK2971J土坑（東から）
- 図版15 SK2976J・SK2977J・SK2981J・SK2983J・SK2995J・SK2997J・SK3002J・SK3012J・SK3018J・SK3024J・SK3025J・SK3028J・SK3032J・SK3033J・SK3038J土坑
 1 SK2976J土坑（東から）
 2 SK2977J土坑（南から）
 3 SK2981J・SK2988J土坑（南から）
 4 SK2983J土坑（南から）
 5 SK2995J土坑（東から）
 6 SK2997J土坑（東から）
 7 SK3002J土坑（南から）
 8 SK3012J土坑（東から）
 9 SK3018J土坑（南から）
 10 SK3024J土坑（南から）
 11 SK3025J土坑（南から）

- 12 SK3028J土坑(南から)
 13 SK3032J陥穴(南から)
 14 SK3033J土坑(北から)
 15 SK3038J土坑(南から)
- 図版16 SK3046J・SK3047J・SK3048J・SK3051J・SK3052J・SK3059J・SK3069J・SK3071J・SK3072J・SK3075J・SK3078J・SK3079J・SK3084J・SK3089J・SK3090JJ・SK3093J土坑
 1 SK3046J土坑(東から)
 2 SK3047J土坑(南から)
 3 SK3048J土坑(南から)
 4 SK3051J・SK3052J陥穴(北東から)
 5 SK3059J陥穴(北から)
 6 SK3069J土坑(南から)
 7 SK3071J土坑(東から)
 8 SK3072J土坑(南から)
 9 SK3075J土坑(南から)
 10 SK3078J土坑(東から)
 11 SK3079J陥穴(南から)
 12 SK3084J土坑(南から)
 13 SK3089J土坑(南から)
 14 SK3090J土坑(南から)
 15 SK3093J土坑(東から)
- 図版17 SK3102J・SK3113J・SK3122J・SK3123J土坑、SX239J・SX242J・SX246J遺物集中部、ET-84区大型打製石斧出土状況、PJ-235小穴
 1 SK3102J土坑(東から)
 2 SK3113J土坑(東から)
 3 SK3122J土坑(南から)
 4 SK3123J土坑(東から)
 5 SX239J遺物集中部遺物出土状況(東から)
 6 SX242J遺物集中部遺物出土状況(北から)
 7 SX246J遺物集中部第1面(北から)
 8 SX246J遺物集中部第2面(東から)
 9 SX246J遺物集中部南端部2面近景(東から)
 10 SX246J遺物集中部南端部大型打斧出土状況(北から)
- 11 SX246J遺物集中部石皿出土状況(北西から)
 12 SX246J遺物集中部磨製石斧出土状況(北から)
 13 ET-84区大型打製石斧出土状況(西から)
 14 PJ-235小穴断ち割り状況
- 図版18 調査区南半部空撮、調査区中央部、調査区西半部
 1 調査区南半部空撮(上空から)
 2 調査区中央部(南から)
 3 調査区西半部(南から)
- 図版19 SB206・SB207・SB208・SB209・SB210掘立柱建物
 1 SB206掘立柱建物(東から)
 2 SB206掘立柱建物1-3柱穴瓦出土状況(南から)
 3 SB207掘立柱建物(東から)
 4 SB207掘立柱建物2-1(南から)
 5 SB206・SB207掘立柱建物(東から)
 6 SB208掘立柱建物(東から)
 7 SB209掘立柱建物(東から)
 8 SB210掘立柱建物(東から)
- 図版20 SB210・SB213掘立柱建物
 1 SB210掘立柱建物1-5(南から)
 2 SB210掘立柱建物6-4(南から)
 3 SB213掘立柱建物(南から)
 4 SB213掘立柱建物(西から)
 5 SB213掘立柱建物東側柱穴確認状況(南から)
 6 SB213掘立柱建物3-1柱痕跡(南から)
 7 SB213掘立柱建物3-2柱痕跡(東から)
 8 SB213掘立柱建物3-2遺物出土状況(東から)
- 図版21 SA24・SA26・SA27柱穴列、SI740住居
 1 SA24柱穴列南側(南から)
 2 SA26・SA27柱穴列(東から)
 3 SI740住居(西から)
 4 SI740住居電(西から)
 5 SI740住居電長軸断面(南から)

- 6 SI740住居竈遺物出土状況(西から)
 7 SI740住居竈煙道部状況(西から)
 8 SI740住居竈煙道部男瓦除去後状況(西から)
- 図版22 SI740・SI741住居
 1 SI740住居竈志瓦列出土状況(西から)
 2 SI740住居竈北側瓦列出土状況(南から)
 3 SI740住居竈南側瓦列出土状況(北から)
 4 SI740住居竈掘方(西から)
 5 SI740住居炉(西から)
 6 SI741住居(東から)
 7 SI741住居竈と周辺遺物出土状況(東から)
 8 SI741住居竈(東から)
- 図版23 SI741・SI742・SI743・SI744a・SI744b住居
 1 SI741住居竈(東上から)
 2 SI741住居竈天井部壁除去後状況(東から)
 3 SI741住居竈掘方(東から)
 4 SI742住居(南から)
 5 SI742住居竈(南から)
 6 SI743住居(北から)
 7 SI744a・SI744b住居(西から)
 8 SI744a住居竈(西から)
- 図版24 SI745・SI747・SI748・SI749住居
 1 SI745住居(南から)
 2 SI747住居(南西から)
 3 SI747住居竈(西から)
 4 SI747住居中央部遺物出土状況(南から)
 5 SI748住居(南から)
 6 SI749住居(西から)
 7 SI749住居炭化材検出状況(北から)
 8 SI749住居竈(西から)
- 図版25 SI749・SI750・SI751住居
 1 SI749住居竈(北から)
 2 SI749住居竈掘方(西から)
 3 SI749住居北東隅部炭化材検出状況(北から)
- 4 SI749住居南東部遺物出土状況(北から)
 5 SI749住居甲斐型暗文土器(「国寺」墨書)出土状況(北から)
 6 SI750住居(西から)
 7 SI751住居(東から)
 8 SI751住居中央ビット(東から)
- 図版26 SI751・SI754・SI752・SI753・SI754a～SI754c住居
 1 SI751住居炉状ビット土層断面(東から)
 2 SI752・SI753住居(西から)
 3 SI752住居貼床(西から)
 4 SI752住居遺物出土状況(西から)
 5 SI753住居(北から)
 6 SI754c住居(西から)
 7 SI754a～SI754c住居掘方(西から)
 8 SI754c住居竈(西から)
- 図版27 SI754b・SI754c・SI755住居
 1 SI754c住居炉1(西から)
 2 SI754c住居炉2土層断面(北から)
 3 SI754c住居北壁際遺物出土状況(東から)
 4 SI754c住居遺物出土状況(東から)
 5 SI754b住居竈(南から)
 6 SI755住居(西から)
 7 SI755住居竈掘方(西から)
 8 SI755住居周溝内ビット(東から)
- 図版28 SI756・SI757住居
 1 SI756住居(南から)
 2 SI756住居遺物出土状況(南から)
 3 SI756住居掘方(南から)
 4 SI756住居竈(西から)
 5 SI756住居竈掘方(西から)
 6 SI756住居鉄製品出土状況(南から)
 7 SI757住居(南から)
 8 SI757住居遺物出土状況(東から)
- 図版29 SI757・SI758・SI765・SI766・SI767住居
 1 SI757住居遺物出土状況(南から)
 2 SI758住居(東から)
 3 SI758住居掘方(東から)
 4 SI765住居(西から)

- 5 SI765住居鉄製品出土状況（北西から）
 6 SI766住居（東から）
 7 SI767住居竈（西から）
 8 SI767住居竈掘方（西から）
 図版30 SD381・SD382・SD383・SD384・SD385
 溝状遺構・SK2698・SK2699・SK2703・
 SK2707・SK2711・SK2713・SK2719・
 SK2727・SK2721土坑
 1 SD381・382溝状遺構（西から）
 2 SD383・384溝状遺構（南から）
 3 SD385溝状遺構（西から）
 4 SK2698土坑（南から）
 5 SK2699土坑（南から）
 6 SK2699土坑焼土検出状況（南から）
 7 SK2699土坑南北土層断面（東から）
 8 SK2703土坑（北東から）
 9 SK2703土坑東西土層断面（南から）
 10 SK2707土坑（南から）
 11 SK2711土坑（南から）
 12 SK2713土坑（南から）
 13 SK2719土坑（南から）
 14 SK2721土坑（東から）
 15 SK2727土坑（南から）
 図版31 SK2730・SK2756・SK2766・SK2775～
 SK2778・SK2782・SK2792・SK2793・
 SK2799・SK2801・SK2805・SK2807・
 SK2809・SK2813・SK2814・SK2816・
 SK2817・SK2830土坑
 1 SK2730土坑（南から）
 2 SK2756土坑（南から）
 3 SK2766土坑（南から）
 4 SK2775～SK2778土坑（南東から）
 5 SK2782土坑（南から）
 6 SK2792・SK2805土坑（南から）
 7 SK2793土坑（南から）
 8 SK2799土坑（南から）
 9 SK2801土坑（南から）
 10 SK2807土坑（東から）
 11 SK2809土坑（南から）
 12 SK2813・SK2814土坑（南から）
 13 SK2816土坑（東から）
 14 SK2817土坑（北から）

- 15 SK2830土坑（西から）
 図版32 SK2834・SK2836・SK2837・SK2839・
 SK2840・SK2844・SK2847・SK2862・
 SK2866・SK2871・SK2889・SK2931・
 SK2965・SK3005・SK3006土坑
 1 SK2834土坑（南から）
 2 SK2836（左）・SK2837（右）土坑（南から）
 3 SK2839土坑（南から）
 4 SK2839土坑東西土層断面（南から）
 5 SK2840土坑（南から）
 6 SK2844土坑（南から）
 7 SK2847土坑（南から）
 8 SK2862土坑（南から）
 9 SK2866土坑（南から）
 10 SK2871土坑（南から）
 11 SK2889土坑（南から）
 12 SK2931土坑（南から）
 13 SK2965土坑（南から）
 14 SK3005土坑（南から）
 15 SK3006土坑（南から）
 図版33 SK3013・SK3058・SK3108土坑、SX6道路
 状遺構、ビット群、P-40・P-70・P-595小
 穴
 1 SK3013土坑（北から）
 2 SK3058土坑（南から）
 3 SK3108土坑（東から）
 4 SX6道路状遺構（北西から）
 5 SX6道路状遺構（東から）
 6 SX6道路状遺構北端部検出状況（南から）
 7 SX6道路状遺構北端部第4面（南から）
 8 SX6道路状遺構北端部掘方（南から）
 9 ビット群EM～EP-83～85（南から）
 10 ビット群ET～FA-80・81（南から）
 11 P-40（北から）
 12 P-70鍍金具出土状況（北から）
 13 P-595瓦出土状況-2枚重ねの上（西から）
 14 P-595瓦出土状況-2枚重ねの下（西から）

図版34 旧石器時代遺物（1）

図版35	旧石器時代遺物 (2)	図版55	縄文時代遺物 (16)
図版36	旧石器時代遺物 (3)	図版56	縄文時代遺物 (17)
図版37	旧石器時代遺物 (4)	図版57	縄文時代遺物 (18)
図版38	旧石器時代遺物 (5)	図版58	歴史時代遺物 (1)
図版39	旧石器時代遺物 (6)	図版59	歴史時代遺物 (2)
図版40	縄文時代遺物 (1)	図版60	歴史時代遺物 (3)
図版41	縄文時代遺物 (2)	図版61	歴史時代遺物 (4)
図版42	縄文時代遺物 (3)	図版62	歴史時代遺物 (5)
図版43	縄文時代遺物 (4)	図版63	歴史時代遺物 (6)
図版44	縄文時代遺物 (5)	図版64	歴史時代遺物 (7)
図版45	縄文時代遺物 (6)	図版65	歴史時代遺物 (8)
図版46	縄文時代遺物 (7)	図版66	歴史時代遺物 (9)
図版47	縄文時代遺物 (8)	図版67	歴史時代遺物 (10)
図版48	縄文時代遺物 (9)	図版68	歴史時代遺物 (11)
図版49	縄文時代遺物 (10)	図版69	文字瓦集成 (1)
図版50	縄文時代遺物 (11)	図版70	文字瓦集成 (2)
図版51	縄文時代遺物 (12)	図版71	文字瓦集成 (3)
図版52	縄文時代遺物 (13)	図版72	^{14}C 年代測定試料 (1)
図版53	縄文時代遺物 (14)	図版73	^{14}C 年代測定試料 (2)
図版54	縄文時代遺物 (15)		

I 調査に至る経緯

平成12年6月8日、株式会社大京より国分寺市教育委員会に対し西元町1丁目1番地に所在する三和銀行国分寺寮を解体し、新たにマンション建設計画があるため埋蔵文化財の状況について問い合わせがあった。これに対し、周辺地区の調査履歴を説明し、旧石器時代から縄文時代、歴史時代遺構が検出されていることから、新たな建物建設に際しては発掘調査の必要があることを回答した。

翌年の平成13年2月19日、再度株式会社大京より問い合わせがあり、当初予定地に加えて近接するトヨペット社員寮、国際電信電話株式会社国分寺寮（以下KDD社員寮）を含めた地域での開発事業に変更されたため、それに対応する埋蔵文化財等の取扱について打ち合わせを行うこととした。

変更計画地は遺跡No.19として周知された武蔵国分寺跡の北東域で国分寺崖線の武蔵野段丘面の際に位置する。先述したようにKDD社員寮・三和銀行国分寺寮・トヨペット社員寮の建物が既存する地域で、既存建物を解体撤去した後、新たなマンションを建設する計画であった。

計画地区周辺は集合住宅建設に伴う事前調査や公共下水道面整備工事に伴う事前調査等が比較的多くの実施されている地域である。特に今次調査計画地内で解体撤去されるKDD社員寮については、昭和58年に建物建設に伴う第51次調査が実施され、歴史時代の武蔵国分寺跡に関連する住居跡や掘立柱建物跡、縄文時代の住居跡等の遺構群、旧石器時代の石器群等が検出されていた。さらに、トヨペット社員寮の敷地内には武蔵国分僧寺の伽藍地北辺溝が東西方向に存在し武蔵国分寺の北東域の様相を知るための重要な地域であり、基礎工事が及ぶ範囲・深度に応じて本発掘調査を実施する必要がある事と重要遺構の保存についての協議を継続した。

このような埋蔵文化財の保護に関する事前打ち合わせとは別に、一部市民団体より国分寺市議会に対して当該計画地区の南側崖線直下には「真姿の池湧水群」があることから、基礎工事が与える湧水への影響や、国分寺崖線の歴史的景観を保全するために建設計画の再考を求める陳情が出された。こうした動きを受けて、国分寺市では当初1万㎡に及ぶ事業計画地の約1/3にあたる僧寺寺院地北辺溝以南の計画地約3000㎡を買収し、遺跡の保存と活用を図ることを開発事業者と協議し、その理解を得られた。これによって平成14年12月に当該地を国指定史跡として追加指定を受けた。

さらに開発業者・行政・市民団体の三者で問題を検討するラウンドテーブルの文化財部会において平成14年6月21日に「埋蔵文化財のできる限りの保存の可能性について検討を行う。」という文化財部会の任務に基づき、平成17年2月23日まで全12回の文化財部会が開催された。文

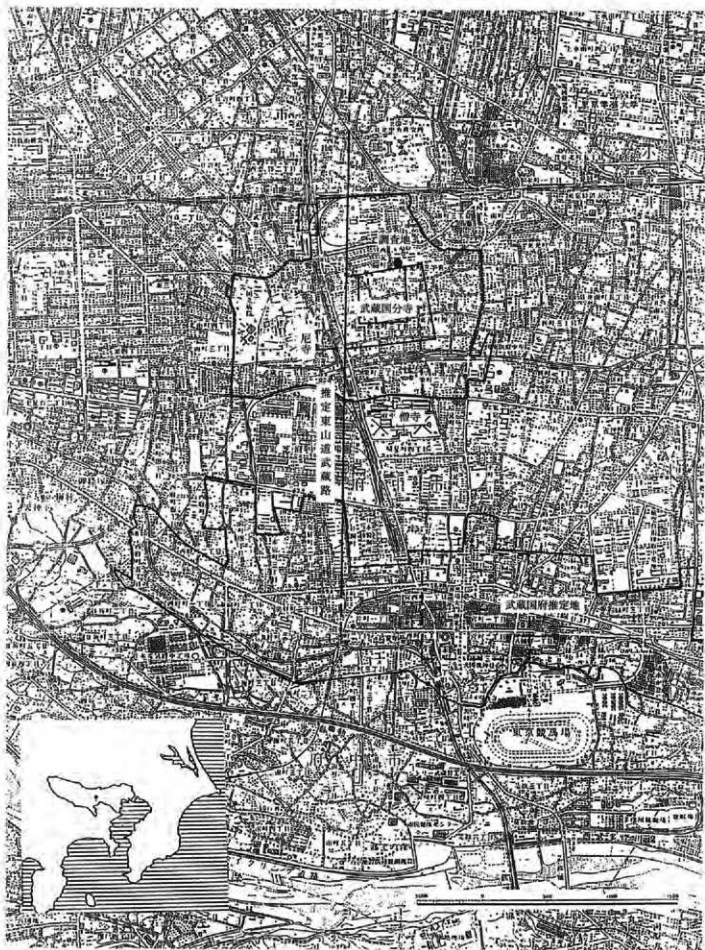
化財部会のテーマとして①溝以南の保全について、②的確な調査の実施について、③重要な遺構が発見された場合の対応について検討された。

さらに、テーマごとに、

- ① 溝以南を保全するために、建設予定地の南約3分の1を史跡追加指定を行い、溝北側隣接部分は保全のための余地として全線（東側道路含む）提供公園とする。
- ② 調査を国分寺市遺跡調査会に委託する。
- ③ 史跡武蔵国分寺跡保存管理計画書（平成元年3月刊、以下「保存管理計画」という）に基づいて、極めて重要な遺構が発見された場合は保存を検討する。

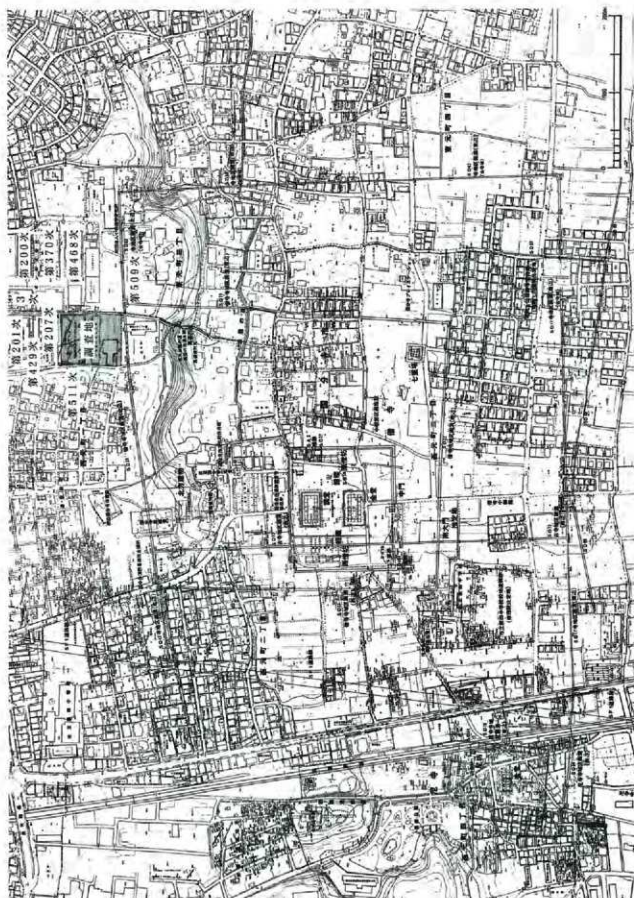
という内容で進められてきた。なお文化財部会の最終報告は平成17年度7月に報告される予定である。平成14年10月30日、僧寺院地北辺溝以南の計画地約3000㎡を除いた新たな事業計画に基づく文化財保護法による届出がトヨタ自動車株式会社・株式会社大京・ケイディーディーアイ開発株式会社より市教育委員会に提出され、これに基づいて発掘調査計画を立案し具体的な調査実施に向けての協議を行った。

調査計画は周辺における既往の調査等から、本地区内に歴史時代堅穴住居、掘立柱建物、土坑、小穴、縄文時代遺物包含層、堅穴住居、土坑等、並びに旧石器時代文化層を予測した上で、工事対象面積6448.75㎡の内、建物本体と立体駐車場部分と周囲に埋設する給排水設備等の掘削範囲及び影響範囲周囲0.5mを加えた6298㎡を調査範囲として諸条件を詰め、調査計画を作成し提示した。①発掘調査は国分寺市遺跡調査会（会長坂詰秀一）に調査事業を委託して実施する。②発掘深度は建物本体と周囲に埋設する給排水設備等の掘削範囲及び影響範囲周囲0.5m部分をGL-1m±0.5mとして歴史時代・縄文時代・旧石器時代上部の調査とし、立体駐車場部分および建物支持杭部分をGL-3mとして旧石器時代下部の調査を行う。③土木作業および発掘調査能力を有する土木作業員は事業者が提供する。③調査終了後の埋戻しは状況に応じて協議するなどを前提条件として、現地調査期間100日間（6ヶ月）、整理・報告書作成期間240日間（12ヶ月）、委託経費29,100,000円でトヨタ自動車株式会社・株式会社大京・ケイディーディーアイ開発株式会社3者と合意に達し、委託契約を締結した。この内容について平成15年2月17日に事業者3者と国分寺市教育委員会、国分寺市遺跡調査会の5者で埋蔵文化財に関する協定書を締結した。これをうけて、事業者3者と国分寺市遺跡調査会の4者で平成15年2月24日に埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、平成15年2月25日現地調査着手した。



第1図 遺跡の位置

1. 調査に至る経緯



第2図 調査地区の位置

II 調査区の概観

1. 調査地区の位置・立地

調査地区の名称は旧石器時代・縄文時代では多喜窪遺跡C地点、歴史時代では武蔵国分寺跡北東地域に当たる。国分寺崖線の際に位置し、寺院地北辺区画溝の外側に位置する（第2図）。

国分寺市は地質学的に言うところ関東平野の中でも「武蔵野台地」と呼ばれる台地上に位置している。最初にハケの成り立ちと旧石器時代・縄文時代の環境について述べる。

国分寺市の特徴的な地形である通称「ハケ」は、正式には「国分寺崖線」と言う学術用語が付けられている。国分寺崖線は北西端を立川市の北東部から始まり、中央線を国立駅の東で横切り、国分寺市、深大寺を経て二子玉川方面へと続く高低差10～20mの崖である。崖の北側で高い方を「武蔵野段丘」、南の低い方を「立川段丘」と呼んでいる。この国分寺市の基本的な景観は古多摩川が武蔵野台地を削り取って流れた結果にできた地形である。10万年から7万年前の武蔵野台地上では古多摩川が青梅付近を源流としながら放射状に流路を変え、扇状地のような景観を呈し、広範囲に河原が広がっていた。この時の河原を「武蔵野礫層」と呼んでいる。5万年前にはヴイルム氷期の訪れと共に気温が下がり、徐々に海面が低下していった。約2万年前には海面が100m程度低下しアジア大陸と日本列島が陸続きになっていた。その結果武蔵野台地と海面との勾配が急傾斜になり、多摩川の流路は急流で流路も固定され、現在の府中方面に向かって大地を削り取って流れることになった。この時の河原を「立川礫層」と呼んでいる。恋ヶ窪谷・さんや谷・殿ヶ谷戸谷・本多谷といった市内の谷もこの時期までに形成されている。さらに箱根火山から噴出した火山灰が堆積し、これを「武蔵野ローム層」と呼んでいる。約3.5万年前から1万年前の活発で大規模な火山活動により火山灰が立川・武蔵野両段丘面に厚く堆積した。これを「立川ローム層」と呼んでいる。崖線の際や谷の奥からは随所で豊富な湧水が流れ出し、これが集まり「野川」となっている。我々が現在見ているハケの景観は約3.5万年前に形成されたと考えられている。

市内に所在する旧石器時代から縄文時代遺跡、ひいては歴史時代の遺跡に及ぶまで、主としてこの国分寺崖線の湧水点周辺と恋ヶ窪谷・さんや谷・殿ヶ谷戸谷・本多谷等の野川源流域周辺に分布している。市内最古の石器が出土する多摩蘭坂遺跡は国分寺崖線の際で武蔵野段丘面に位置し、石器は立川ローム下層（第X層）であるから国分寺市の旧石器時代はおおよそ3.5万年前まで遡ると考えられている。

市内縄文時代遺跡の分布は概ね旧石器時代と重なっており、国分寺崖線と野川源流域に集中

するが、近年崖線下の立川段丘面からも柄鏡形敷石住居が検出されており、立川面における当該期の検討が迫られつつある。各時期の遺構・遺物は恋ヶ窪東遺跡において草創期の微隆起線文土器片と爪形文土器片が一点ずつ出土している。早期では、本報告の多喜窪遺跡C地点および恋ヶ窪南遺跡が代表的な集落遺跡である。大規模な集落遺跡が形成されるのは中期中葉の勝坂土器様式から加曾利EⅢ式期にかけてであったと考えられている。恋ヶ窪遺跡・恋ヶ窪東遺跡・多喜窪遺跡A地点はその代表的な遺跡であり当該期の指標として位置付けられている。

歴史時代の遺跡である武蔵国分寺跡は立川段丘面に枢要部の建物群を構築しながら、伽藍地北辺に国分寺崖線と湧水地点を取り込むように、北辺の区画溝を武蔵野段丘面にまで広げている。武蔵国分寺の創建に際して当時の人々が寺全体の生活と環境整備のために崖線と湧水点の利用を強く意識していたものと考えられる。

2. 周辺地区の調査

本遺跡の周辺で実施された発掘調査によって検出された遺構群は、以下のとおりである。

①国分寺市遺跡調査会第3次調査（リオン株式会社厚生会館建設に伴う調査）

縄文時代の土坑1基

歴史時代の竪穴住居7軒、土坑4基

②国分寺市遺跡調査会第51次調査（国際電信電話株式会社国分寺寮建設に伴う調査）

旧石器時代の石器集中地点3箇所

縄文時代早期撫糸文期の竪穴住居1軒、早期条痕文期の土坑1基、中期後半加曾利E期の埋甕を伴う配石遺構2基他、時期不明の多量の小穴群

歴史時代の竪穴住居2軒、掘立柱建物跡4棟、溝跡、道路状遺構他多量の小穴群

なお今次調査区の北半部はこの第51次調査と重なり、当時の建築で影響を受けなかった部分で今回の共同住宅建設工事に影響を受ける部分を調査した。

③国分寺市遺跡調査会第107次調査（佐藤国分寺アパート建設に伴う調査）

旧石器時代の石器集中地点1基、礫群1基

縄文時代の土坑4基

歴史時代の竪穴住居5軒、土坑3基、道路状遺構1条他小穴多数

④国分寺市遺跡調査会第200次調査（リオン株式会社本館等建設工事に伴う調査）

旧石器時代の石器集中地点1箇所

縄文時代の土坑9基

歴史時代の竪穴住居1軒、掘立柱建物跡4棟

⑤国分寺市遺跡調査会第201次調査（佐藤国分寺アパート第二期建設に伴う調査）

II 調査区の概観

縄文時代早期燃糸文期の竪穴住居1軒、早期条痕文期の土坑1基

歴史時代の

- ⑥国分寺市遺跡調査会第370次調査（リオン株式会社新3号館等建設工事に伴う調査）

縄文時代の土坑1基

歴史時代の竪穴住居4軒、掘立柱建物跡4棟

- ⑦国分寺市遺跡調査会第429次調査（三菱地所㈱共同住宅建設工事に伴う調査）

縄文時代の集石1、集石土坑1基

歴史時代の竪穴住居6軒、地下式横穴墓1基

- ⑧国分寺市遺跡調査会第509次調査（小林理学研究所新音響試験棟建設工事に伴う調査）

縄文時代早期燃糸文期の竪穴26基、中期勝坂様式期の集石土坑10基

歴史時代の竪穴住居8軒

なお、本調査は、上記の調査地と比較し、最もSD23伽藍地北辺区画内に近接した地域であり北方地区の集落様相を知る上で重要な地域である。

3. 層 序

先行する51次調査の層所区分に準拠した。以下に基本層序を略記する（第4図・図版1-3）。

Ia層 盛土。ロームや砂利などが混じる。層厚は40cm程度。

Ib層 表土。いわゆる耕作土。乾燥しやすく崩れやすい。層厚は20cm程度。

II層 黒褐色土。粒子が粗く、粘性に欠ける。歴史時代の堆積土に類似する。

IIIa層 暗茶褐色土。粒子はやや粗く、粘性に欠ける。II層とIIIb層の中間的な特徴。層厚は15cm程度。

IIIb層 暗茶褐色土。下部ほど褐色が強くなる。縄文時代の遺物を多く包含する。

IIIc層 茶褐色土。ローム漸移層。上部ほど縄文時代の遺物を多く包含する。

IV層 暗黄褐色ローム。ソフトローム。

Va層 黄褐色ローム。ハードローム。色調の違いによりV層はa、bの2層に分ける。下層ほど黄色が薄くなり灰褐色を帯びる。赤色と黒色のスコリアを多量に含む。

Vb層 暗灰褐色ローム。ハードローム。色調はVa層とVI層の中間。

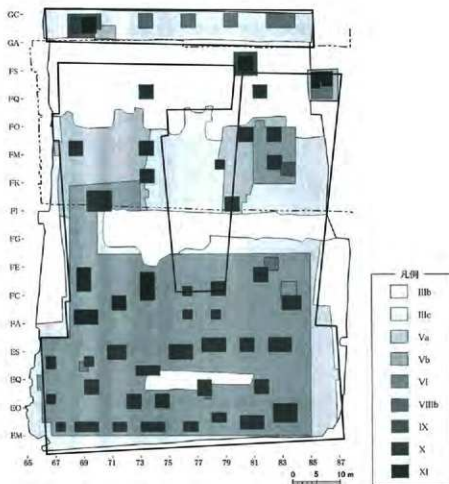
VI層 暗褐色ローム。立川ローム第I黒色帯。スコリアは細かいが密集している。粘性は増す。

VII層 黄褐色ローム。黄色が強くなり明るい。VIII層へは漸移的に移行する。火山ガラスが肉眼で観察できる。

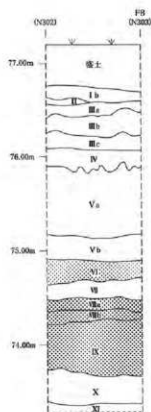
VIIa層 褐色ローム。やや暗くなり始めるところからVIII層とした。立川ローム第II黒色帯。

II 調査区の概観

- VIIIb層 暗褐色ローム。立川ローム第II黒色帯。上層と比べるとさらに暗くなる。粒子は暗く緻密で粘性が出てくる。
- IX層 黒褐色ローム。立川ローム第II黒色帯。上層との区分は明確で、より黒味を増し、細粒で下部に行くほど緻密となり粘性が増す。
- X層 黄褐色ローム。粒子が極めて細かく緻密で粘性がある。
- XI層 暗黄褐色ローム。上層よりも暗くなり粘性が増す。



第3図 調査区深度図
(——計画建物範囲)



第4図 標準土層図

Ⅲ 発掘経過

発掘調査は平成15年2月25日に開始し、10月25日までの日程で行われた。

まず、4月初旬までの重機による表土掘削と並行して遺構の確認に入る。その結果、周辺調査区の状況から割り出された当初予想の遺構数よりも大幅に密度の高いこと、とくに調査区南半に遺構・遺物が密集することが判明した。それとともに、建物基礎の攪乱以外に調査区中央部（第51次調査の南端に接する位置）と南部に、東西に長い一部は立川ルームX層にまで達する大規模な攪乱が確認され、それに因って多くの遺構が損なわれたことが推測された。

調査は、建物建設計画にともなう工事掘削深度に沿って調査深度を設定した（第3図）。Ⅲ層上面までの調査を予定した東側は通路を確保するために後回しとした。

歴史時代の調査は、竈の残存状態の良いSI740住居の竈と焼失住居のSI749住居と残務を残して5月に終了した。その間も着手できる縄文時代遺構の調査も同時に平行して進め、縄文時代早期の6軒の竪穴住居ほかを調査した。その見頃を見計らい、5月31日の台風の大雨の中、歴史時代と縄文時代の一部の遺構を中心に第1回目の現地説明会を開催し、引き続き6月2日には歴史時代と既掘縄文時代遺構の空撮を行った。

6月以降は残りの歴史時代の継続調査とともに縄文時代の調査が本格化し、7月には旧石器時代の調査に入った。縄文時代・歴史時代の調査は、それぞれ一部の遺構を除いて9月初旬にはほぼ完掘し、それ以降旧石器時代の調査が主体となった。

それを受けて9月22日には、旧石器時代を中心とした第2回目の現地説明会が行われた。

その後は、旧石器時代の調査を継続し10月25日の期限までに調査を完了することができた。

その間、多くの研究者が訪れ、貴重な御教示をいただいた。また、8月には駒澤大学考古学専攻生の考古学実習を受け入れた。

IV 旧石器時代

旧石器時代の石器は、6箇所の石器集中部（ST25、ST26、ST38、ST39、ST40、ST41）から193点と石器集中部外から30点の総計223点が検出された（第1表-1・2、図面1）。礫は3箇所の石器集中部（ST25、ST39、ST40）から26点、石器集中部外から3点の総計29点が検出された。

石器集中部の分布は、ST25が調査区北端のGA-70区に、ST26が調査区中央部のFI-70区に、ST39が調査区南半部のEP-77区にそれぞれ孤立しているが、ST38、ST40、ST41はそれぞれ調査区南端部のFA-74区、EN-74区、EM-72区に近接して分布している（図面11・図版1-1）。石器による遺構間接合はST38とST40の間にのみ認められる（接合1）。礫による遺構間の接合関係は認められない。石器集中部の出土層位はすべてVa層の中部から上部にかけての範囲に収まるが、ST25はVa層（立川ロームIV層上半部）の中部に、ST39はIV層（立川ロームIII層）下部に集中している。後で述べる出土石器の特徴からみてST26、ST38、ST39、ST40は武蔵野IIb期前半すなわち砂川期の石器集中部と考えられる。残りのST25、ST41からは時期を判別することが可能な石器が出土していないが、出土層位からみてこれらと同じか近い時期の石器集中部と考えられる。

これに対して、石器集中部外（遺構外）出土の石器は出土層位と技術形態学的な特徴から、砂川期と前後する時期、具体的には武蔵野IIb期後半すなわちナイフ形石器終末期と武蔵野IIa期の石器が出土している。つまり、石器集中部と遺構外出土の石器では時期が異なっている。

(1) 石器集中部

ST25（第1表-3、図面2、図版2-1）

分布 GA-70区を中心に3点の石器が分布する。東西に二つの分布に分かれており、西の分布は礫がまとまり、東の分布は石器がまとまっている。出土層位はVa層中部から上部にかけてであり、垂直分布は標高75.666mに中央値が求められる。

母岩 中世代の珪質頁岩ssh3の二次加工痕のある剥片1点を組成する。ssh3はST26と共有する。製品は二次加工痕のある剥片1点と微細剥離痕のある剥片1点である。

ST26（第1表-4、図面3、図版2-2）

分布 FI-70区の直径40cmの範囲に密集して分布している。出土層位はVa層上部であり、垂直分布は標高75.674mに中央値が求められる。

母岩 不透明な黒曜石のob1によりナイフ形石器とブランディングチップを組成する。ssh3は1点のみであるがST25と共有する。製品はナイフ形石器1点、二次加工痕のある剥片

1点、微細剥離痕のある剥片1点である。

ST38 (第1表-5、図面4、図版2-3)

分布 EP-77区の1m×0.72mの範囲内に比較的密集して分布している。南東部に馬蹄形に分布の空白が認められる。出土層位はVa層上部であり、垂直分布は標高75.632mに中央値が求められる。

母岩 利根川上流に分布する赤谷層の黒色頁岩bsh1で石刃核の上設打面の調整を行っている。接合1の上設打面の調整であり、接合1のはじめの5点が分布している。他に高原山南麓に分布する寺島累層産の珪質頁岩(田村・国武・吉野 2003) ssh1を16点組成する。ssh1では打面調整剥片と縦長剥片を少数剥離した痕跡が認められる。製品はナイフ形石器1点、微細剥離痕のある剥片1点である。

ST39 (第1表-6、図面5、図版2-3~8・3-1)

分布 FA-74区からET-74区にかけて3.2m×1.6mの範囲内に分布している。石器の分布は礫と重なって東よりにまとまっている。出土層位はVa層上部からIV層下部にかけてであり、垂直分布は標高75.574mに中央値が求められる。

母岩 第三紀の珪質頁岩の小円礫ssh2により小型で細身の小石刃が剥離されている。小石刃は大形の礫に接して出土している。製品は微細剥離痕のある剥片1点、石核1点である。

ST40 (第1表-7、図面6・7、図版3-2~7)

分布 EN-74区を中心にEO-75区にかけて直径3.4mの範囲内に密集して分布している。出土層位はVa層中位からVa層上位にかけてであり、垂直分布は標高75.523mに中央値が求められる。西端のbsh1の分布密度の高い部分において2箇所のかく乱があり、特にbsh1はある程度失われている可能性が高い。北西部に直径65cmの分布の空白域があり、これを要として扇形に分布が広がり、かつ空白域に近いほど密度が高くなっていることから、空白域は石器製作者の着座位置の可能性もあり、そうすると南東部に向かって一連の石器製作が行われた可能性もある。

母岩 利根川上流に分布する赤谷層の黒色頁岩bsh1による石刃剥離が84点と卓越しており、これによる接合1の分布がST40の分布の大部分を構成している。この他に、西部にch2による縦長剥片の連続生産の接合2が分布し、東部にはch1による一般剥片生産による接合3が分布している。局部磨製礫は東部に分布しbsh1による接合1の分布範囲内に収まっている。寺島累層産の珪質頁岩ssh1をST38と共有しており、石刃製のナイフ形石器と大形の剥片を1点ずつ組成する。

接合1の分布を図面7に示した。ST38とST40に分布するが、63点の接合のうちのはじめの6点がST38に分布し、それ以後に剥離された石器がST40に分布しているため、ST38→ST40の順

で残されたと考えられる。ST38に分布する6点のうち5点までは上設打面の調整であり、6点目は上設打面からの剥片剥離である。ST40に分布を移すと、主に中央部において上設打面の調整と上設打面からの剥片剥離が行われて最も密度の高い分布域を構成し、その後剥離順序が下るにつれて東側へ分布を移している。剥離順序が新しくなると下設打面の調整と下設打面からの剥片剥離が顕著に行われているが、これらは分布の東部にまとまって分布しており、石核と局部磨製礫はともにその範囲内から出土している。製品はナイフ形石器9点、搔器1点、二次加工痕のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、石核3点である。

ST41（第1表-8、図面8、図版3-8）

分布 EM-72区を中心に4点の石器が散漫に分布している。出土層位はVa層中位であり、垂直分布は標高75.488mに中央値が求められる。

母岩 ch3による円盤型の石核と砕片がほぼ重なって出土している。やや離れて叩石と微細剥離痕のある剥片が1点ずつ分布している。

(2) 石器集中部の遺物（第2～4表、図面12～24、図版34～38）

図面12-1 微細剥離痕のある剥片。ST25から出土した。中生代珪質頁岩のやや分厚剥片を素材としている。左側縁に突出部があり、その縁辺部の裏面に微細剥離痕が観察される。

2 二次加工痕のある剥片。ST25から出土した。中生代珪質頁岩のssh3による小型の剥片を素材としている。素材の左側縁に不規則ながら連続した剥離が観察される。素材末端部の縁辺を刃部とした小形のナイフ形石器の可能性も考えられる。

3 ナイフ形石器。ST26から出土した。不透明で白色の挟雑物を含む黒曜石ob1による縦長剥片を素材としている。左側縁基部の裏面側と右側縁基部の表面側にやや浅い角度の調整が連続して施されている。右側縁は稜上からも調整されており対向調整となっている。

4 ナイフ形石器。ST38から出土した。無斑晶の良質な黒色緻密質安山岩による石刃を素材としている。ブランティングは左側縁全体と右側縁の下半部に施されている。左側縁のブランティングにより打面を除去し、また先端部付近の加工により決めている。

5 微細剥離痕のある剥片。ST39から出土した。チャートの幅広い縦長剥片を素材としている。右側縁の下半部にノッチ状に微細な剥離痕が観察される。左側縁にもわずかに観察される。

6 石核。ST39から出土した。赤色のチャートの小転石を素材としている。打面は上下両面に作出されているが作業面に残された剥離痕はほとんどが上設打面からの剥離である。打面の調整は比較的細かく行われている。裏面に礫面を大きく残している。

7 石核。ST39から出土した。幅2.8cmの薄い板状のチャートの転石を縦に用いて小口面よ

り縦長の剥片を剥離している。単剥離面による打面の作出以外には石核調整は施されていない。

8 石核。ST39から出土した。きわめて良質な細粒凝灰岩の小転石を素材にしている。作業面には2枚の幅広い縦長剥片が剥離されており、これにより2本の主な稜線が残されている。しかし、左の稜線はその後剥離によるヒンジフラクチャーによって、また右の稜線は打面とのなす角が鈍角のため剥離が停止している。後者は打角を修正するために稜線直上の打面部に集中的な調整が施されており、その結果として打面が欠けている。

図面13-9 ナイフ形石器。ST40から出土した。やや風化の激しい赤谷層産と推定される黒色頁岩の石刃を素材にしている。右側縁全体と左側縁下半部にブランティングを施している。打面を下に設定しているため、パルプの厚みを裏面基部の平坦な調整により除去している。

10 ナイフ形石器。ST40から出土した。高原山南麓に分布する寺島累層に産出すると推定される珪質頁岩ssh1による石刃を素材にしている。左側縁全体と右側縁の下半部にブランティングを施している。素材石刃の肥厚する末端部を裏面基部の平坦な調整により薄くしている。

11 ナイフ形石器。ST40から出土した。赤谷層産と推定される黒色頁岩の縦長剥片を素材としている。左側縁全体と右側縁下半部にブランティングが施されている。接合1に含まれる。

12 ナイフ形石器。ST40から出土した。赤谷層産と推定される黒色頁岩の幅広い縦長剥片を素材としている。左側縁にブランティングが施されている。接合1に含まれる。

13 ナイフ形石器。ST40から出土した。赤谷層産と推定される黒色頁岩の石刃を素材としている。左側縁の基部と先端部にブランティングが施されている。接合1に含まれる。

14 ナイフ形石器。ST40から出土した。赤谷層産と推定される黒色頁岩の小形の縦長剥片を素材としている。左側縁にブランティングが施され先端部は欠損している。接合1に含まれる。

15 ナイフ形石器先端部。ST40から出土。赤谷層産と推定される黒色頁岩bsh1を素材とする。

16 搔器。ST40から出土。寺島累層産と推定される珪質頁岩ssh1の幅広い縦長剥片を素材としている。やや肥厚する末端部に連続する急角度の加工を施し刃部を作出している。

17 微細剥離痕のある剥片。ST38から出土。寺島累層産と推定される珪質頁岩ssh1の縦長剥片を素材とする。左側縁下半部にノッチ状に剥離が観察される。

18 剥片。ST38から出土。寺島累層産と推定される珪質頁岩ssh1を素材とする。

図面14-19 石核。ST40から出土した。赤谷層産と推定される黒色頁岩bsh1を素材とする。上下に打面が設定された石刃石核である。打面は複数の剥離によって作出されている。主に上設打面から石刃が剥離されている。石刃剥離は石核全周を廻っている。接合1に含まれる。

20 局部磨製礫。ST40から出土。軟質で厚みが1.3cmの扁平な円礫を素材とし、上下両端部

に擦痕からなる面が観察される。擦痕面は上端部において少なくとも5面、下端部において少なくとも3面認められ、これらの擦痕はそれぞれ方向が異なっている。上下の擦痕はともに礫面に直接はたらく摩擦により形成され、下端部の剥離面は擦痕面のあとに形成されている。

図面15-21 微細剥離痕のある剥片。ST41から出土した。良質なチャートによる幅広の縦長剥片を素材とする。左側縁の上半部に微細な剥離痕が連続的に観察される。

22 石核。ST41から出土した。裏面に角度の高い剥離を全周に施しこれらを打面として表面で幅広の剥片が求心状に剥離されている。表面下半部の礫面により石核消費の結果薄くなったのではなく、厚さ3cm程度の扁平な転石を素材にし原石形状に沿って剥離されたと考えられる。

23 叩石。ST41から出土した。細粒軟質な砂岩を素材とする。全体に被熱しているが下端部が顕著に潰れている。

図面16-24～図面20-19 接合1。赤谷層産と推定される黒色頁岩bsh1を素材とする。接合した総点数は63点で、折面接合を差し引くと48点である。製品はナイフ形石器5点、二次加工痕のある剥片1点、石核1点を含む。分布はST38とST40にまたがっているが(図面7)、ST38で上設打面の初期段階の調整を行い、その後の打面調整と石刃剥離はST40で集約的に行われている。図面17-20には剥離順序に従って掲載している。剥離順序は以下の通りである。

25→26→27→28【ここまで上設打面調整①】→29→14(ナイフ形石器)【ここまで上設打面からの剥離②】→30【上設打面調整③】→31【上設打面からの剥離④】→32→33【ここまで上設打面調整⑤】→12(ナイフ形石器)→34【ここまで上設打面からの剥離⑥】→35→36→37→38→39【ここまで上設打面調整⑦】→40→41→42→43→44【ここまで上設打面からの剥離⑧】→45【下設打面からの剥離⑨】→46【下設打面調整⑩】→47【上設打面からの剥離⑪】→48【下設打面からの剥離⑫】→49(ナイフ形石器)→50【ここまで上設打面からの剥離⑬】→51→52→53→54【ここまで上設打面調整⑭】→55→11(ナイフ形石器)【ここまで上設打面からの剥離⑮】→56→57【ここまで下設打面調整⑯】→58→59【ここまで上設打面からの剥離⑰】→60→61→62→63(同時割れ)【ここまで下設打面からの剥離⑱】→64→65【ここまで上設打面からの剥離⑲】→66【下設打面からの剥離⑳】→67→68【ここまで上設打面からの剥離㉑】→19(石核)。

bsh1は97点検出されているがそのうちの約65%に該当する63点が接合している。非接合資料は碎片類が大部分を占める。遺跡への搬入形態は打面が作出され、末端部を除いて礫面が大部分除去された状態である。先行して幅広の縦長剥片が剥離されていたが、石刃が連続剥離されていたわけではない。石器製作作業は上設打面の調整(①・③・⑤・⑦・⑭)、上設打面からの剥離(②・④・⑥・⑧・⑪・⑬・⑮・⑰・⑲・㉑)、下設打面の調整(⑩・⑯・⑳・㉒)、下設打面からの剥離(⑨・⑫)の4種に明確に区分される。上設打面は大きく4面(①・③・

⑤・⑦) 作出され、それぞれの打面から石刃・剥片剥離(②・④・⑥・⑧)が行われている。そして上設打面の調整は作業工程の前半に偏っている。これに対して作業工程の後半になると、上設打面からの剥離の前後に下設打面の調整や下設打面からの剥離が行われている。とりわけ下設打面の調整の直後には必ず上設打面からの石刃・剥片の剥離が行われているため、下設打面の調整と下設打面からの剥離は、上設打面からの石刃・剥片剥離に伴う作業工程後半段階の石核調整であったと考えられる。つまり目的的な石刃・剥片剥離は基本的の上設打面から行われ、これの石核調整として前半段階は上設打面の調整が、石核が小形化した後半段階は下設打面の調整(石核末端部の調整)と下設打面からの剥離(作業面調整)が行われていたと考えられる。ナイフ形石器の素材はすべて上設打面から剥離され、5点のうち4点の素材が作業面の正面から剥離されている。

図面20-69～図面21-76 接合2。良質なチャートch2を素材とする。接合した総点数は7点である。剥離順序は70→71→72→73→74→75→76(石核)である。半割礫か分厚い剥片を素材とし、石核調整をまったく行わずに縦長剥片を連続剥離している。中央部が抜けている。

図面21-77～図面22-89 接合3。節理の多い扁平なチャートch1の円礫を素材とする。接合した総点数は12点である。剥離順序は78→79→80→81→82→83→84→85→86→87→88→89(石核)である。原石の平らな面に打面を作出し、原石の端部の鋭い角度と自然稜を利用して石核調整をまったく行わずに基本的には縦長で幅広の剥片を剥離している。

(3) 遺構外石器の出土状態(第1表-2、図面9、図版4-2～8)

石器集中部外から30点の石器が出土したが、内訳は槍先形尖頭器2点、ナイフ形石器9点、基部加工尖頭器1点、台形椋石器1点、削器1点、石核2点、剥片12点、砕片2点であり製品の比率が高い。調査区南東部のFA-74区からFC-83区においてVa層上部からIV層より出土しているナイフ形石器と槍先形尖頭器(90～97)は、武蔵野Ⅱb期後半すなわちナイフ形石器終末期に比定される。他に調査区南東隅ではEP-83区においてVI層(第Ⅰ黒色帯)下部より基部加工尖頭形石刃が、EN-82区においてVb層下部より台形椋石器が出土しており、第Ⅰ黒色帯下部の石器の特徴として注目される。他に調査区西部のEQ-68区とFC-70区からはVa層下部からは武蔵野Ⅱa期に比定されるナイフ形石器が出土している。このように遺構外からは石器集中部とは異なる時期の石器が出土している。

(4) 遺構外出土の石器(第2～4表、図面23～29、図版39)

図面23-90 両面加工の槍先形尖頭器の下半部。FA-79区からIV層より出土。左側縁は階段状剥離になっている。裏面からの力により折損している。

91 片面加工の槍先形尖頭器。ET-79区からVa層より出土。良質の黒曜石を素材とする。右側縁には素材縁辺を残す。基部裏面に調整により素材剥片の湾曲が修正されている。

92 ナイフ形石器。FA-83区からVa層より出土した。良質な黒曜石を素材とする。発掘によって破損したが、左側縁に張り出しのある特徴的な形態である。基部には打面を残置している。二次加工は表面のみに施され、魚鱗状に稠密に並び平坦である。形態と二次加工の特徴から東内野型尖頭器に関連するナイフ形石器である。

93 ナイフ形石器。FE-72区からVa層より出土した。良質の黒曜石による幅広の縦長剥片を素材としている。打面を基部に残置し、左側縁全体と右側縁下半部にブランティングを施し、基部に丸をもつ形態に加工している。先端部には刃部縁辺と稜縁の双方に突端部からの衝撃によると推定される槌状の小剥離面が観察される。

94 ナイフ形石器。ET-78区からVa層より出土した。良質な黒曜石の縦長剥片を素材とする。45度程度の浅い加工を右側縁上半部に施し、下半部は礫面を残置する。左側縁の下半部と基部には裏面に平坦な加工を稠密に施し、縁辺は微細な剥離により形状を整えている。

95 ナイフ形石器の下半部。FC-83区からVa層より出土した。良質な透明度の高い黒曜石の石刃を素材とする。右側縁全体と左側縁下半部にブランティングを施している。

96 ナイフ形石器。FE-77区からVa層より出土した。透明度があるが赤みの混じるやや質の悪い黒曜石の縦長剥片を素材としている。右側縁全体と左側縁の一部にブランティングを施している。

97 ナイフ形石器の上半部。FE-77区からVa層より出土した。狭雑物を含む不透明な黒曜石の縦長剥片を素材とする。左側縁全体と右側縁の一部にブランティングが施されている。

98 中生代の珪質頁岩の分厚い横長剥片。FL-83区からVI層より出土した。

99 ナイフ形石器。EP-66区からVa層より出土した。透明度の高い良質の黒曜石の縦長剥片を素材とする。基部と先端部に二次加工が施されている。先端部の加工は右側縁に僅かに残されているが、大部分は折損によって失われている。折損面には二次加工が施されている。

100 ナイフ形石器。EQ-68区からVa層より出土した。チャートの横長剥片を横に用い、打面は左側縁のブランティングにより除去している。

101 ナイフ形石器。FC-70区からVa層より出土した。透明度の高い黒曜石の分厚い横長剥片を素材とし、右側縁には急角度の分厚いブランティングを施し、左側縁には下半部にやや角度の浅いブランティングを施している。左側縁の刃部には微細な剥離痕が観察される。

102 削器。ET-70区からIV層より出土。左側縁に二次加工を施し刃部を作出している。

103 基部加工尖頭形石刃。EN-82区からVI層より出土した。透明度の高い大形の石刃を素材としている。基部と先端部は折損している。先端部は左側縁の連続する加工により尖頭部

が作出されていたと考えられる。このような基部加工尖頭形石刃が第1黒色帯の下半部から出土している例に注意すべきである。

104 台形様石器。EP-83区からVb層より出土した。透明度の高い黒曜石の剥片を切断し横に用いている。両側縁ともに切断面を残しているが、右側縁の切断面からは表面に向かって平坦な調整が施され、左側縁は先端部付近に微細な調整が施されている。刃部には微細な剥離痕が観察される。

105 石核。ET-82区からIV層より出土した。大形の黒色頁岩の亜円礫を摂理面を介在とする剥離によって分割した半割礫を素材とする。分割面に観察される剥離面は分割に伴う同時割れの剥離面である。分割面を打面として幅広の厚みのある剥片が剥離されている。

(5) 礫の出土状態

礫は総計29点が出土しており、石器集中部から26点、遺構外から3点出土している。石器集中部からの25点の内訳はST25から10点、ST39から14点、ST40から2点である。10点以上出土したST25とST39の礫出土状態について以下に述べる。

ST25 (第1表-9、図面10、図版2-1)

分布 ST25の分布の西よりにまとまって分布しており、石器と分布をずらしている。出土層位はVa層下部からVa層中位にかけてであり、垂直分布は標高75.532mに中央値が求められる。属性 石材はすべて砂岩で破損している。総点数10点のうち9点が被熱している。被熱していない礫は最も大形のもので1439gである。3点に煤状もしくはタール状の付着物が観察される。

ST39 (第1表-10、図面10、図版2-7)

分布 ST39の分布の南よりにまとまって分布しており、石器の分布と重なっている。出土層位はVa層上部であり、垂直分布は75.567mに中央値が求められる。

属性 総点数14点のうち2点がチャートで他は砂岩である。完形のものは5点である。6点に煤状の付着物が観察される。

(6) 土坑

SK3124P (図面11、図版5-2・3)

本土坑は、EM-67区に位置する。IV層上面を覆うSX246Jの調査完了後、IV層上面では確認されなかったが、IV層掘り下げ中に検出された。周辺のIV層中であってやや暗いシミ状になっており、精査を行ったが平面形は不鮮明であったので、確実に異なる色調の部分から掘り進めた。

平面形は、隅の丸い三角形の不整円形で、大きさは70×65cm、深さ25cmである。緩やかな皿状の土坑の中央部にビット状の掘り込みがある。

覆土は三層に分層され、1層にVa層ブロックを多く含んでいることが特徴的である。

(7) 炭化物集中部

炭化物集中部SCは、調査区内で23箇所検出された。前回の第51次調査でも38箇所の炭化物集中部が調査されており、あわせて61箇所及び、調査区全域にかなりの密度で分布することがあらためて確認された。層的にはIV層からX層にかけて密度の粗密を見せながら分布するが、主としてVb層～VI層とIX層～X層に集中する傾向がある。ここでは、もっとも密度の高いSC41と比較的まとまった炭化材を伴うSC43を取り上げることとする。

SC41炭化物集中部（図版5-4・5）

FK・FL-83区にあり、径約2.4mの範囲のVb層～VI層にかけて約23000点の炭化物が集中していた。炭化物は、径1～2mm前後の微細なものが主体で、10mmほどのものまでが含まれ、それらが揃り鉢状に堆積していた。

炭化物分布範囲内のロームは、V・VI層に似ているものの、幾分暗い印象があり、移植ゴテで削るとVI層はシャリシャリと歯切れのいい感触が伝わり、炭化物分布範囲内では移植ゴテが滑るという相違があることから、土坑を意識して調査したが、その境界は明瞭でなく、分層するにはかなり無理が伴うことから土坑と認識するには至らなかった。

SC43炭化物集中部（図面11、図版5-6～8）

調査区北西隅部GA・GB-68・69区の広い範囲に位置する。

微細な炭化物は、IX層～X層にかけて分布するが、特に集中するのはGA-68区で、IX層下部～X層上部で炭化材が検出された。炭化材は、一本ではなく何本かがほぼ南北方向に長く横たわっていた。最長16cm、最大幅6cm、最厚2.5cmである。人為によるものかどうかは不明だが、炭化材の出土は重要な知見を与えてくれる。

炭化材の2箇所について樹種同定を行った結果（石川隆司・高橋利彦氏による）、両者とも落葉高木のモクセイ科トネリコ属の根材と幹（または枝）材と同定された。トネリコ属は温帯地方に生育する樹木であり、当時の気候状態が比較的温暖であったことがうかがわれる。

V 縄文時代

本調査では、早期の住居6軒、中期の住居1軒の計7軒の竪穴住居をはじめ、掘立柱建物2棟・集石16基・炉穴5基と陥し穴7基を含む土坑189基・屋外埋甕2基・大規模な遺物集中区1箇所を含む遺物集中区6箇所・小穴698基が調査されている。

包含層からは、早期から後期の土器・石器が大量に出土している。特に、早期撚糸文系土器・沈線文系土器・条痕文系土器・中期前半の土器が多く、それらに伴う石器も数多く出土した。

1. 検出遺構

(1) 掘立柱建物

SB211J掘立柱建物（図面27、図版9-1・2）

FM・FN-231区に位置し、重複関係はない。確認面はⅢc層上面である。

6本の柱穴で構成される1間×2間の細長い掘立柱建物である。南北3.95m、東西1.8m、面積7.1㎡を測る。

柱穴1-2・3、2-2・3の4本は大きさ・深さも等しく、底面に堅く締まった硬化面（破線部・図版9-2）が確認された。柱穴1-1・2は浅く、他の四本と異なり、柱穴1-1は柱通りが悪いが、周辺にビットがないことや位置関係から本掘立柱建物に取り込んだ。

柱穴1-3・2-2には柱痕が確認された。

遺物はない。周辺には縄文時代早期の竪穴住居・土坑・炉穴、中期の伏甕土坑SK3076Jが分布しているが、覆土の状態は色調・土質から見てどちらかというところと中期に近い。

SB212J掘立柱建物（図面27、図版9-3・4）

ER-65・66区に位置し、重複関係はない。確認面はⅢc層上面である。

4本の柱穴で構成される1間×1間の掘立柱建物であるが、位置関係から西側調査区外に延長する可能性もある。東西1.8m、南北2.2m、面積3.8㎡である。

柱穴は、四本ともほぼ同形・同規模で直径約30cm前後、深さ30～40cmで、柱穴2-2には太さ20cmほどの柱痕（図版9-4）と柱穴2-2以外の底面には硬く締まった硬化面（破線部）が見られた。

出土遺物はないが、SB211J掘立柱建物同様に覆土の状態から中期の可能性がある。

(2) 竪穴住居

SI171J住居（図面28、図版7-1）

FH～FK-68～71区に所在する。北半部が第51次調査で、南半部が今回の調査分である。重複はなく、IIIc層で確認された。

平面形は、北壁、西壁はほぼ直線的で東壁は弧状を描く不整形な扇形を呈し、規模は南北9.2m、東西6.9mを測る。

壁は、確認面から最深部で25cmである。北・西壁は垂直に立ち上がり、東壁は緩やかに立ち上がる。床面は、軟質で緩やかな凹凸がある。大小合わせて48基の柱穴状のピットが確認されたが、ピット1の46cmを除いてはほとんどが10～25cmほどの掘り込みの浅いものである。炉および焼土跡は検出されなかった。

覆土は三層に分層される。3層はロームに近く床面と識別しにくいところもあるが、土器が出土する。

遺物は土器・石器がある。土器は細片ばかりで南壁側にややまとまるが、これといった出土傾向は見られない。燃糸文系土器がほとんどを占め、条痕文系土器8点、加曽利E式土器1点が混じる。

石器は、前回出土の20点と今回出土の7点を合わせて27点となった。打製石斧3点、磨石8点（うち凹石4点）、棒状石器1点、敲石1点、スタンプ形石器2点、石皿2点、楔形石器2点、剥片類8点である。

本住居の時期は覆土中の土器の出土比率から早期前半燃糸文期と考えられる。

SI759J住居（図面29・30、図版7-2～5）

FM～FK-76～78区に所在する。IIIc層で確認され、西側でSI762Jに切られ、覆土上面にSS95集石が設けられていた。

平面形は、南東隅部が角張る不整形な隅丸台形を呈し、規模は東西6.9m、南北7.5mを測る。壁は確認面から最深46cmでなだらかに掘り込まれている。床面はIV層中の地床で、部分的に固く締まったところが見られたが、全般的に軟弱である。

中央部より南西寄りで72×95cm、深さ10cm程度の方形の掘り込みが認められ、南西隅を除く三隅に小ピットが穿たれていた。埋土は、ロームブロック混じりの少し灰色がかった暗黄褐色土で粘性がある。やや軟質で、指頭で押すと床面よりもめり込む感じが強い。

床面には99基の小穴が確認されたが、いずれも直径15cm～50cm、深さ8～26cmと浅いものである。北壁際と東壁際で不揃いな並びが見られるものの、全体的には規則的な配列は認められない。

覆土は九層に分層される。ほとんどの層は締りが強く、粘性を持つ。

住居からは、土器159点、石器16点が出土し、その内訳は土器が燃糸文系157点（稲荷台式27点、稲荷原式108点、無文121点）、沈線文系1点、加曽利E式1点、不明1点、石器が石鏃1点、

礫器1点、搔器1点、磨石7点、棒状石器1点、スタンプ型石器3点、石皿1点、剥片類1点である。ほか、燃糸文系土器を再加工した土製円板2点が出土した。

本住居の時期は覆土中の土器の出土比率から早期前半燃糸文期、とくに稲荷原式期の可能性が高い。

SI760J住居（図面30、図版7-6・7）

FI・FJ-78・79区に所在する。Ⅲc層上面で確認され、西側でSI763Jを切り、歴史時代のビットや小さな攪乱に切られている。

平面形は、胴張隅丸形で円形に近い。規模は2.6×2.7mと比較的小型である。壁は、最深部で24cmを測り、緩やかに立ち上がる。床面はⅣ層中に設けられ、住居中央部から南西部にかけて比較的对面が見られた。

13基の小穴が検出されたが、P-1を除いていずれも浅く、南壁際の5基が不規則に並ぶ程度である。

遺物の出土は少なく、覆土から土器11点、石器3点のみであった。内訳は土器が燃糸文系（稲荷台式）10点、沈線文系1点、石器が棒状石器1点、石皿1点、剥片類1点である。

本住居の時期は出土土器から早期前半燃糸文期、とくに稲荷台式期の可能性が高い。

SI761J住居（図面30、図版7-8）

FI・FJ-72～74区に所在する。南側のほとんどが攪乱され、1/3ほどが残存している。平面形は不明だが、ほぼ円形になるものと思われる。残存部の最大長で2.8mと小型であることが予想される。Ⅲc層下部で確認され、壁は確認面から最深で18cmを測る。床面は、地床でⅣ層中に設けられている。西壁でテラス状の段差をもち、北西部床面は硬質化していた。

遺物の出土は少なく、覆土から燃糸文系無文土器4点のみであった。

本住居の時期は遺構の掘り込み面の状況から早期前半燃糸文期の可能性が高い。

SI762J住居（図面31、図版7-2・8-1～3）

FM・FL-76・77区に所在する。Ⅲc層で確認され、西南側でSI759Jと重複するが、本住居のほうが新しい。

平面形は、ほぼ円形を呈し、東西3.1m、南北2.9mと比較的小型である。床面はⅣ層中にあり、全体に軟質で東に傾斜している。壁は確認面から最深部で46cmあり、斜めに掘り込まれている。住居西側の床面から14基のビットが確認されたがいずれも小規模で浅い。

中央部より東寄りで64×58cm、深さ24cm程度の円形の掘り込みが確認された。東側は垂直に立ち上がるが西側は緩やかに立ち上がる。焼土等は認められなかった。

覆土は、六層に分層され、レンズ状に堆積していた。SI759Jと重複する部分で、5層流土が確認されたことで本住居のほうが新しいものと判断した。

覆土から疎らな状態で、土器46点、石器2点が出土し、内訳は土器が撚糸文系42点（稲荷台式24点、稲荷原式18点）、条痕文系1点、不明3点、石器が鉋石1点、剥片1点である。

本住居の時期は、土器早期前半撚糸文期、特に稲荷台式～稲荷原式期の可能性が高い。

SI763J住居（図面31、図版8-4）

F1～FK-77・78区に所在する。SI760Jの東に接してロームのしみが確認されたが明瞭でなく、SI760Jの確認面よりもさらに下げた段階で確認された。SI760Jとは東壁の一部で重複するが本住居のほうが古い。

平面形は、隅丸方形を呈し、東西3.7m、南北4.2mを計る。壁は最深部で38cmあり、緩やかに立ち上がる。床面は、軟弱で中央部がややくぼむ。床面から29基のピットが確認されたが、いずれも浅いものであった。

炉および焼土跡は検出されなかった。

覆土は六層に分層されるが、5・6層は、ロームに近い。

覆土から土器89点、石器12点を出土し、その内訳は土器がすべて撚糸文系（稲荷台式88点、花輪台式1点）で、石器が磨石7点、スタンプ形石器4点、砕片1点である。

本住居の時期は土器から早期前半撚糸文期、特に稲荷台式期の可能性が高い。

SI764J住居（図32、図版8-5～8）

FD・FE-75・76区に位置する。東側を建物の基礎に切られる。確認面はⅢc層下位である。確認面での形状は不整な円形を呈し、長軸は4.7m、短軸は残存部分で3.9m、確認面から床面までの最深部は0.3mを測る。断面は皿形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる傾向にあるが、上面部が大きく削平されているため壁および壁際の様相は不明である。

覆土は八層に分けられ、暗褐色土を基調とした自然堆積の様相を呈する。

床はⅣ層の地床である。中心部分に長軸3.0m、短軸2.4mの不整な楕円形を呈する硬質範囲が見られる。床面は攪乱に切られる部分以外はほぼ平坦である。

ピットは17基検出された。そのうちP-1、P-4、P-6、P-7、P-11が並び方、深さから主柱穴と考えられる。5本柱の住居であろうか。P-13も柱穴の可能性がある。主柱穴間の距離は1.1m～1.4mである。主柱穴ピットの平面形は不整な円形を呈し、ほぼ垂直に掘り込まれており、床面からの最深部は36cm～76cmである。断面は箱形を呈するが、P-11以外の柱穴は浅いテラスを有する。P-9、P-10は、炉に対してほぼ南面の壁際に平行して位置しており、これらと主柱穴P-7およびP-11を結ぶと、五角形の主柱穴ラインに接続する約1mの方形が描かれ、入り口施設と推定される。P-9、P-10の平面形はいずれも不整楕円形を呈し、最深部は80cmである。断面形はP-9が箱形、P-10が逆台形である。

炉は中央部から少し北寄りに位置する埋甕炉である。平面形は不整楕円形を呈し、長軸は

82cm、短軸は69cmで、最深部は27cmを測る。覆土は暗褐色土を基調として四層に分けられ、1・3層は焼土粒を多量に含んでいる。断面は底部から10cmまではほぼ垂直に立ち上がるが、それより上部は緩やかである。炉体土器として五領ヶ台式の底部を欠いた深鉢が正位に埋められている。土器は胴部下半の細い部分を炉の底部付近に置き、胴部上半は立ち上がりの緩やかな部分に引っ掛けるように置いてあり、炉体土器の器形に合わせて炉を掘ったことがうかがえる。

遺物は縄文土器が237点、石器が14点である。

本遺構は炉体土器から中期前半、五領ヶ台Ⅱ式期のものと推定される。

炉体土器の胴部内部の焦げで¹⁴C年代測定が行われている。第Ⅶ章第4節を参照されたい。

(3) 埋 壙

SU8屋外埋壙（図面33、図版11-7）

ER-71区に位置する。Ⅲb層中で確認された。確認面で土器が露出していた。加曽利E式の深鉢の胴部下位で、潰れて外側に開いた状態で検出されている。土器を埋設した際の土坑状の掘り方は検出されなかった。

SU9屋外埋壙（図面33、図版11-8）

EQ-70区に位置する。Ⅲb層中で確認された。確認面での形状が不整形円の土坑内から五領ヶ台式の深鉢の胴部が正位で検出された。土坑は長軸0.30m、短軸0.24m、最深部0.12mを測る。確認面で土器が露出していた。土坑内の覆土は明褐色土である。土器内には暗褐色土の土が詰まっていた。

(4) 集石

SS94集石（図面34、図版9-5）

FL-79区に位置し、SX247J内、SK2945Jの覆土上にある。Ⅲb層中で確認された。平面形は不整形円形で、東西0.65m、南北0.73mの範囲に礫が集中する。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は、砂岩の磨石1点、礫57点の58点である。

礫は砂岩49点、閃緑岩1点、チャート5点、泥岩2点で構成されており、砂岩が全体の86%をしめる。焼礫は55点あり、煤が付着している礫はない。破片礫は38点、完形礫は19点あり、重量が1800g以上の礫は9点出土している。これは本遺跡で調査された集石の中では大きい礫の多い集石といえる。9点の礫は礫下部から出土している。重量最小の礫は7g、最大の礫は2200gである。

SS95集石（図面34、図版9-6）

FK・FL-76区に位置し、SI762Jの西約50cmにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は不整な円形で、東西1.2m、南北0.9mの範囲に礫が集中しているが、比較的散漫であり、隙間が目立つ。断面からみると礫は積み重ねられた形跡はない。

遺物は石器3点、礫47点の50点である。

石器は閃緑岩の石皿2点、砂岩の礫器1点である。石皿は2点とも破片で、礫器は被熱している。

礫は砂岩37点、チャート10点で構成されており、砂岩が全体の78.7%をしめる。焼礫は31点、煤が付着している礫は15点ある。破片礫は33点、完形礫は14点あり、比較的重量の軽い礫が多く、1～250gの礫は全体63.8%あり、その他の礫も814gまでの範囲におさまる。重量最小の礫は7g、最大の礫は814gである。

SS96集石（図面34、図版9-7）

FK-73区に位置し、SK2920Jの堆積土上にある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は楕円形で、周辺にも同様の礫が点在している。東西0.5m、南北0.4mの範囲に礫が集中する。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は土器1点、礫32点の33点である。

礫は32点全てが砂岩である。焼礫は11点あり、煤が付着している礫はない。32点全てが破片であり、完形の礫はない。重量最小の礫は17g、最大の礫は290gである。

土器は口縁部片で、稲荷台式に比定される。

SS97集石（図面34、図版9-8）

ER-77・78区に位置する。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は円形で、東西0.7m、南北0.5mの範囲に礫等が集中し、その北側半径0.5mの範囲に礫が比較的散漫に散っている。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は土器4点、礫52点の56点である。

土器は口縁部片1点、胴部片3点で、稲荷台式に比定される。

礫は砂岩45点、チャート6点、玄武岩1点で構成されており、砂岩が全体の86.5%をしめる。焼礫は50点、煤が付着している礫は2点ある。破片礫は34点、完形礫は18点あり、重量最小の礫は4g、最大の礫は2000gである。

SS98集石（図面34、図版10-1）

FD-81区に位置する。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は不整形で、東西1.5m、南北0.9mの範囲に礫等が集中しているが、それほど密ではなく、比較的散漫に散っている部分もある。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は土器片2点、石器4点、礫50点の56点である。

土器は胴部片で稲荷原式に比定される。

石器は閃緑岩の磨石2点、砂岩の礫器（図面53-4）1点、挟入磨石（図面53-5）が1点である。磨石には黒い煤が付着し、礫器は被熱している。

礫は砂岩46点、チャート2点、泥岩2点で構成されており、砂岩が全体の92%をしめる。焼礫は44点、煤が付着している礫は2点ある。破片礫は34点、完形礫は16点あり、重量1~400gの礫が全体の92%をしめる。重量最小の礫は2g、最大の礫は746gである。

SS99集石（図面34、図版10-2）

ES-72・ET-72・73区に位置し、SK3102Jの北約0.3mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は不整形で、東西2.0m、南北1.6mの範囲に礫が比較的散漫に散っている。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は礫61点である。

礫は砂岩52点、チャート8点、ホルンフェルス1点で構成され、砂岩が全体の85.2%をしめる。焼礫は60点あり、煤の付着した礫はない。破片礫は50点、完形礫は11点あり、重量最小の礫は16g、最大の礫は1900gである。

SS100集石（図面34、図版10-3~6）

FA-68・69区に位置し、SK2932Jの東約2.0mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は円形で、東西80cm、南北70cmの範囲に礫等が集中しており、その東側2mの範囲に礫等が散在している。礫は積み上げられている。

遺物は土器47点、石器2点、種子17点、礫89点の155点があり、一般的に遺物を伴わないこの種の遺構としては、異様ともいえる出土状態である。

土器は47点で全て加曾利B式である。完形のものが2個体ある。

石器はホルンフェルスの扇形剥片1点、閃緑岩のスタンプ形石器1点である。

種子はクルミを含む17点が出土している。種子は集石の北東部と南西部に分かれて出土している。北東部の種子は縄文土器（図面53-7、図版44）周辺からの出土である。

礫は砂岩72点、チャート15点、泥岩1点、頁岩1点で構成されており、砂岩が全体の80.9%をしめる。焼礫は36点、煤が付着している礫は1点である。破片礫は31点、完形礫は58点ある。調査された集石の中で、完形の礫が破片の礫より数が多いのはSS100、SS103、SS107だけである。重量最小の礫は19g、最大の礫は3300gである。

本集石については完形に近い土器が2個体出土していることから、屋内炉の可能性も考慮して、周辺の精査を行ったが、掘り込み・柱穴等が確認されなかったため屋外集石とした。

ちなみに、クルミについて¹⁴C年代測定が行われている。第七章第4節を参照されたい。

SS101集石（図面34、図版10-7）

EM-78区に位置し、SK3089Jの西約0.2mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は

不整形で、東西1.5m、南北1.4mの範囲に礫等が集中しているが、隙間のあいている部分もある。礫は断面からみると積み上げられた形跡はない。

遺物は土器6点、礫55点の61点である。

土器は口縁部片1点と、胴部片5点であり、稲荷台式に比定される。

礫は砂岩48点、チャート4点、ホルンフェルス1点、花崗岩1点、石英1点で構成されており、砂岩が全体の87.3%をしめる。焼礫は26点、煤の付着した礫は8点ある。破片礫は47点、完形礫は8点あり、重量最小の礫は10g、最大の礫は3000gである。

SS102集石（図面34、図版10-8）

EM-76・77区に位置し、SS101の西約2.0mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は不整形で形をなしていない。東西1.7m、南北1.0mの範囲に礫等が集中するが、比較的散漫に散っている部分もある。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は土器16点、礫57点の73点である。

土器は稲荷台式に比定されるのが4点、田戸上層式に比定されるものが3点、五領ヶ台式に比定されるものが9点である。土器片は半数以上が集石の北東部から出土しており、出土したレベルは礫と同じである。

礫は砂岩52点、チャート5点から構成されており、砂岩が全体の91.2%をしめる。焼礫は30点、煤の付着した礫は18点ある。破片礫は34点、完形礫は23点あり、重量最小の礫は2g、最大の礫は376gである。

SS103集石（図面34、図版11-1）

EN-74区に位置し、SS104の東約4.0mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は本来円形であったとみられるが北側部は攪乱に切られている。東西70cm、南北50cmの範囲に礫等が比較的散漫に散っている。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は土器2点、礫22点の24点である。

土器は口縁部片1点と、胴部片1点であり、撚糸文系に比定される。

礫は砂岩19点、チャート2点、凝灰岩1点で構成されており、砂岩が全体の86.4%をしめる。焼礫は15点あり、煤の付着した礫はない。破片礫は8点、完形礫は14点あり、重量最小の礫は15g、最大の礫は834gである。

SS104集石（図面34、図版11-2）

EN-72区に位置し、SS103の西約4.0mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は楕円形で、東西90cm、南北60cmの範囲に礫等が集中する。礫は断面からみると積み上げられた形跡はない。

遺物は土器片3点、石器2点、礫37点の42点である。

土器は3点全て胴部片であり、稲荷原式に比定される。

石器は閃緑岩の磨石1点、黒曜石の調整剥片1点である。磨石は被熱している。

礫は砂岩29点、チャート8点で構成されており、砂岩が全体の78.4%をしめる。焼礫は37点あり、煤の付着した礫はない。破片礫は32点、完形礫は5点あり、重量が1～300gの礫が全体の90%をしめる。重量最小の礫は8g、最大の礫は934gである。

SS105集石（図面34、図版11-3）

FB・FC-78区に位置し、Ⅲc層中で確認された。不整形な楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸1.1mの範囲に礫が分布する。掘り込みなどの下部施設は認められなかった。

礫の総数は55点で、すべて砂岩である。接合例は9例23点で2点接合が6例、3点接合が2例、5点接合が1例である。総重量は19558gで、1000～3000g以上が7点、500～1000gが15点、500g以下が33点である。

被熱によって赤化した礫は16点あるが、顕著なものは5点である。

時期を示す遺物はないが、Ⅲc層中で確認されたことから、早期の可能性が高い。

SS106集石（図面34、図版11-4）

EN・EO-66区に位置し、遺物集中区SX246J内にある。集石の平面形は円形で、東西90cm、南北70cmの範囲に礫等が集中する。

遺物は土器11点、石器2点、礫85点の98点である。

土器は底部片が1点、胴部片が10点で、撫糸文系に比定される。

石器は砂岩の礫器1点、ホルンフェルスのスクレイパー1点で、礫器は被熱している。

礫は砂岩81点、閃緑岩1点、チャート2点、頁岩1点で構成されており、砂岩が全体の95.3%をしめる。焼礫は81点、煤の付着した礫は1点ある。破片礫は52点、完形礫は33点あり、重量が1～400gの礫が全体の85.9%をしめる。重量最小の礫は2g、最大の礫は1600gである。

SS107集石（図面34、図版11-5）

ES・ET-84区に位置し、SK3069Jの北約0.8mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は不整形な楕円形で、東西70cm、南北70cmの範囲に礫等が集中する。周辺にも大小の礫がかなり点在しており、いくつかの集石が重複していることも考えられる。断面から見ると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は石器2点、礫25点の27点である。

石器は泥岩の石皿1点、閃緑岩の石皿1点で構成されており、2点とも被熱している。

礫は砂岩21点、チャート3点、礫岩1点から構成されており、砂岩が全体の84.0%をしめる。焼礫は23点あり、煤の付着した礫はない。破片礫は10点、完形礫は15点あり、重量最小の礫は56g、最大の礫は1100gである。

SS108集石（図面34、図版11-6）

EN-85区に位置し、SS109の西約0.5mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は一部抜けているが円形で、東西90cm、南北90cmの範囲に礫等が集中する。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は土器3点、石器1点、礫60点の64点である。

土器は胴部片が3点で、撫糸文系に比定される。

石器は石英閃緑岩の磨石1点で、被熱している。

礫は砂岩46点、チャート11点、ホルンフェルス3点から構成されており、砂岩が全体の76.7%をしめる。焼礫は54点あり、煤の付着したものはない。破片礫は38点、完形礫は22点あり、重量最小の礫は32g、最大の礫は2000gである。

SS109集石（図面34、図版11-6）

EO-85区に位置し、SS108の東約0.5mにある。Ⅲb層中で確認された。集石の平面形は不整な円形で、東西80cm、南北40cmの範囲に礫等が比較的散漫に散っている。断面からみると礫は積み上げられた形跡はない。

遺物は土器1点、石器2点、礫18点の21点である。

土器は胴部片が1点で、田戸上層式に比定される。

石器は石英閃緑岩の磨石1点、黒曜石の碎片1点である。磨石は被熱している。

礫は砂岩15点、チャート3点から構成されており、砂岩が全体の83.3%をしめる。焼礫は17点、煤の付着した礫は1点である。破片礫は15点、完形礫は3点あり、重量最小の礫は34g、最大の礫は1200gである。

(5) 土 坑

本調査で検出された縄文時代の土坑は186基である。その中には、遺物が大量に出土した特殊な土坑のSK2912J土坑、伏壁土坑のSK3076J土坑、陥し穴7基、炉穴5基を含んでいる。

全容がほぼ判明する172基の規模・平面形はともに多種多様であるが、平面形・規模・分布状況について概観してみる。

平面形は4種類に分類でき、その数量は楕円形107基（62.2%）、円形34基（19.8%）、方形17基（9.9%）不整形12基（7.0%）、不明2基となる。平面形は楕円形を呈する土坑がもっとも多い。

平面規模では、遺構の切り合によって長軸または短軸の全長が損なわれている土坑は対象からはずしている。その対象となる土坑数は130基である。

平面規模による分類では、長軸0.50m～1.00m、短軸0.30m～0.80mの土坑が74基でもっとも多く、全体の56.9%を占める。平面形が楕円形を呈する土坑の規模も長軸0.5m～1.0m、短軸0.3m～0.8mのものがもっとも多く、楕円形土坑の65.5%を占め、全体と同じ傾向を示す。また、円形の土坑は径1.25m以上のものはない。その他の平面形の規模についてはこれといった偏在性は認められない。

調査区内での分布状況からみると集中域はなく、調査区全体に点在する様相を呈している(図面26)。

土坑の時期については、土器を出土する土坑が少ないため、時期は明言できないが、出土した遺物は縄文早期の土器が多く、当該期の土坑が多いものと推測される。

個々の土坑については、一覧表と挿図を参照していただくこととし、ここでは、特殊な土坑・炉穴・陥し穴など主要な土坑を報告することとする。

特殊土坑

SK2912J土坑 (図面35・36、図版12)

FM・FN-75・76区に位置する。SK3076Jに隣接する。Ⅲc層中で確認された。

平面形は不整な円形を呈し、長軸2.53m、短軸2.11m、最深度0.87mを測る。底部は多少の凹凸はあるが概ね平坦である。断面は長軸が逆台形、短軸が段差を持つ播鉢状を呈する。

覆土は十二層に分けられるが、大きく分けると上層は黒色土、中層は暗褐色土、下層はロームを主体とした暗黄褐色土の3種類に分けられる。中層の4層は焼土を多量に含んでいる。出土遺物は、縄文土器片183点、石器96点、礫210点、炭化物4点である。

土器は、早期前半の稲荷台式が混じるが、ほとんどが子母口式に比定される。石器は石鏃5点、打製石斧5点、搔器4点、磨石6点、挟入磨石3点、棒状石器2点、敲石1点、石皿1点、楔形石器2点、残核2点、無調整剥片25点、調整剥片4点、砕片36点である。礫は120点が被熱しており、120点中、108点が破片である。石材で分けると、砂岩167点、ホルンフェルス12点、チャート30点、頁岩1点である。

遺物は平面分布からみると遺構の中心部に集中している。このような平面分布の在り方は遺物別に見ても同様である。断面分布からみると焼土層である4層と、暗褐色土の6層に遺物出土のピークがあり、下層であるロームを主体とした暗黄褐色土からの出土は非常に少ない。また、上層の黒色土からの出土も少ない傾向にある。礫は出土数が多いためか、出土する範囲が広い。また、炭化物は焼土層、または焼土層付近から出土している。

6層の下位に子母口式土器(図面54-16、図版46)が潰れて外側に開いた状態で検出された。

本遺構は覆土の堆積、遺物の出土分布傾向から、土器・石器・礫を廃棄した遺構と推測され

る。ロームを主体とした暗黄褐色土（下層）が堆積した後に、大量の焼土とともに土器・石器・礫を廃棄し、その後に黒色土で埋めた、という過程を推測できる。

SK3076J土坑（図面44、図版13）

FM-76区に位置する。重複はないが、SB211Jに隣接する。Ⅲc層中で確認された。

形状は円形を呈し、長軸は1.05m、短軸は1.03m、最深部は0.59mを測る。底面は平坦である。断面は寸胴形を呈し、立ち上がりは垂直に近い。

覆土は暗褐色土を基調とした七層に分けられる。覆土には多量のロームブロック（特に2層に多い）が混じり、自然堆積ではなく人為的な埋め戻しと思われる。

土坑内の東側から、伏せられた状態でほぼ完形の土器が2個体検出された。

口縁部径43.9cm、器高52.0cm、底部径7.4cmの大型深鉢（図面58-2、図版47）と、口縁部径25.6cm、器高30.0cm、底部径7.4cmの小型の深鉢（図面58-3、図版47）である。小型の深鉢は、口縁部から胴部下位にかけて約1/3ほど欠損している。土坑は埋め戻された状態であるから、そこに納められた時からこの状態であったことが分かる。大型深鉢に添えられたものであろうか。いずれも加曽利EⅢ式新段階～EⅣ式段階の土器である。

大型の深鉢は、西壁に立てかけられた状態で伏せられ、口縁部の一部が底面に着いていた。小型の深鉢は、欠損した側を大型の深鉢の南東側にもたれかかる状態で伏せられていた。これらは斜位の状態で出土しているが、当初からそうであったのかは判然としない。大小の深鉢の中には暗褐色土が詰まっていた。深鉢以外の遺物の出土はない。

本遺構は、覆土の堆積、土器の埋置のされ方から土器棺墓と思われる。

ちなみに、大型深鉢の内部に残っていた炭化物と小型深鉢の内面胴部下位に付着したコゲで¹⁴C年代測定を行っている。詳細は第Ⅶ章第4節を参照されたい。

陥し穴

SK2903J（図面35、図版14-1）

GB-83区に位置する。北側は調査区外で、調査不可能であった。Ⅲ層中で確認された。

平面形は狭長方形を呈する陥し穴である。確認面での長軸は残存部分で75cm、短軸は55cm、最深部は95cmを測る。底面での長軸は残存部分で64cm、短軸は30cmを測る。

断面は長軸が箱形、短軸が漏斗形である。西壁、東壁の立ち上がりは底面から70cmまではほぼ垂直に立ち上がり、それより上部はやや緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、2基のピットを有する。ピットはどちらも径10cm、最深部14cmの不整な円形を呈し、南端部に並んでいる。

覆土は上層が暗褐色土、下層が暗黄褐色土の十一層に分けられる。10層は黒褐色土で、締まりが強い。出土遺物はない。

SK2911J (図面35、図版14-4)

FM・FN-79区に位置する。SK2946Jの北東部分を切る。Ⅲc層中で確認された。

確認面、底面ともに平面は長楕円形を呈する陥し穴である。確認面の長軸は1.71m、短軸は90cm、最深部は69cmを測る。底面での長軸は1.80m、短軸は57cmを測る。断面は長軸が箱形、短軸が逆台形で、壁の立ち上がりは垂直に近い。南西コーナー部では7cm、北壁では5cmオーバーハングしている。底面はほぼ平坦で、3基のピットがある。ピットは径20cm、最深部20～24cmの不整な円形で、南北約0.2mの距離でほぼ規則正しく並んでいる。

覆土は上層が暗褐色土、下層が暗黄褐色土の八層に分けられ、自然堆積と思われる。出土遺物は縄文土器3点で、撚糸文系に比定される。

SK2913J (図面37、図版14-5)

FI・FJ-73・74区に位置する。Ⅲc層中で確認された。確認面、底面ともに平面は長方形を呈する陥し穴である。確認面での長軸は1.44m、短軸は91cm、最深部は86cmを測る。底面での長軸は1.20m、短軸は60cmを測る。断面は長軸が逆台形、短軸が漏斗形である。西壁、東壁の立ち上がりは底面から50cmまでは垂直に近いが、それより上部はやや緩やかになる。底面はほぼ平坦で、ピットを有する。ピットは、径7～14cm、最深部16～25cmの不整円形を呈するものが4基ある。3基は中央部に南北に17cmの間隔でほぼ規則正しく並んでおり、1基は中心から西寄りに位置する。

覆土は暗褐色土と暗黄褐色土を基調とした八層に分けられ、自然堆積と思われる。出土遺物は縄文土器8点、礫15点で、土器は稻荷台式に比定される。

SK2945J (図面39、図版14-11)

FL-79区に位置する。SK2951Jと重複し、本土坑が新しいが、位置関係から一体のものかもしれない。Ⅲc層中で確認された。確認面、底面ともに平面は長方形を呈する。確認面での長軸は2.06m、短軸は1.0m、最深部は83cmを測る。底面での長軸は1.86m、短軸は50cmを測る。断面は長軸が巾着形、短軸が漏斗形で、西壁、東壁は底面付近が5cmオーバーハングしており、立ち上がりは底面から35cmまでは垂直に近いが、それより上部はやや緩やかになる。底面はほぼ平坦で、ピットを4基有する。ピットは径10cm、最深部15～40cmの不整な円形を呈し、東西に並んでおり、2基が西寄りに、残り2基が東寄りに位置している。

覆土は暗褐色土を基調とした十三層に分けられ、自然堆積と思われる。壁際の覆土は暗黄褐色土である。出土遺物は縄文土器6点、石器1点、礫2点がある。土器は稻荷原式に比定され、石器はスタンプ形石器である。

SK3032J (図面42、図版15-13)

FC・FD-75区に位置する。Ⅲc層中で確認された。確認面、底面ともに平面は狭長方形を呈

する。確認面での長軸は2.34m、短軸は0.81m、最深部は1.0mを測る。底面での長軸は2.13m、短軸は22cmを測る。西壁、東壁の立ち上がりは底面から40cmはほぼ垂直で、それより上部は緩やかになる。北壁、南壁は底面近くが膨らむように10cmオーバーハングしている。底面はほぼ平坦で、ピットを1基有する。ピット状の掘り込みは径10cm、最深部10cmの不整な円形を呈し、中心から南寄りに位置する。

覆土は暗褐色土を基調とした十一層に分けられ、自然堆積と思われる。3・10層は暗黄褐色土、8層は黄褐色土である。出土遺物はない。

SK3059J (図面43、図版16-5)

EO・EP-72区に位置する。北側を攪乱に切られている。Ⅲc層中で確認された。確認面、底面ともに平面は長方形を呈する。確認面の形状の方が丸味を帯びている。確認面での長軸は残存部分で1.36m、短軸は76cm、最深部は68cmを測る。底面での長軸は残存部分で1.2m、短軸は52cmを測る。断面は長軸・短軸ともに箱形である。壁の立ち上がりは垂直に近い。底面はほぼ平坦で、ピットを2基有する。ピットは径20～25cm、最深部60～65cmの不整な円形を呈し、南寄りに位置するものと本遺構を切っている攪乱の底面から検出されたものがある。

覆土は暗褐色土を基調とした七層に分けられ、自然堆積と思われる。出土遺物はない。

SK3079J (図面45、図版16-11)

EM・EN-84区に位置する。Ⅲc層中で確認された。確認面、底面ともに平面は長方形を呈する。確認面での長軸は1.66m、短軸は0.87m、最深部は0.82mを測る。底面での長軸は1.35m、短軸は0.29mを測る。断面は長軸が箱形、短軸が漏斗形で、西壁、東壁の立ち上がりは底面から40cmまでは垂直に近いが、それより上部はやや緩やかになる。底面はほぼ平坦で、ピットを3基有する。ピットは径7～10cm、最深部7～10cmの不整円形を呈し、2基が北寄りに、1基が南寄りに南北に並んでいる。

覆土は暗褐色土を基調とした十二層に分けられ、自然堆積と思われる。下層、壁面際の覆土は暗黄褐色土である。出土遺物はない。

炉穴

SK2926J土坑 (図面38、図版14-9)

FL-73区に位置する。SK2930Jの東側を切る。Ⅲc層中で確認された。確認面での平面形は長楕円形を呈し、長軸1.85m、短軸71cm、確認面から炉までの深さ25cm、底面までの深さ34cmを測る。底部は小さな凹凸はあるが、概ね平坦である。断面は長・短軸ともに逆台形である。

覆土は暗褐色土を基調とした七層に分けられ、自然堆積と思われる。4・5層は焼土粒を多量に含む暗褐色土である。被熱範囲は長軸84cm、短軸44cmの不整な楕円形で、厚さは10cmであ

る。

出土遺物は縄文土器1点、石器3点、礫10点で、縄文土器は東山式に比定され、石器は調整剥片が1点、碎片が2点である。

SK2928J土坑（図面37）

FL-79区に位置する。北側部分は調査区外のため、調査不可能であった。Ⅲc層中で確認された。確認面での平面形は狭長方形を呈し、長軸は残存部分で1.71m、短軸65cm、確認面から炉までの深さ19cm、底面までの深さは南側で6cm、中央部で17cmを測る。底部は南側がテラス状に浅くなっており、中央部は炉に向かって傾斜している。断面は長軸が皿形、短軸が逆台形である。

覆土は暗褐色土を基調とした四層に分けられ、自然堆積と思われる。4層は焼土粒を多量に含んでいる。被熱範囲は長軸が残存部分で55cm、短軸40cmの不整な楕円形で、厚さは5cmである。

出土遺物は縄文土器が1点で、稲荷台式に比定される。

SK2930J土坑（図面38、図版14-9）

FL-73区に位置する。SK2926Jに底面部分を切られる。Ⅲc層中で確認された。確認面での平面形は狭長方形を呈し、長軸は残存部分で52cm、短軸60cm、確認面から炉までの深さ17cmを測る。底部は平坦である。断面は長・短軸ともに逆台形である。

覆土は暗褐色土を基調とした三層に分けられ、自然堆積と思われる。被熱範囲は径30cmの円形で、厚さは5cmである。

出土遺物はない。

SK3051J土坑（図面43、図版16-4）

FB・FC-81・82区に位置する。SK3052Jの南側を切る。Ⅲc層中で確認された。確認面での平面形は長楕円形を呈し、長軸は1.79m、短軸82cm、確認面から炉までの深さ34cm、底面までの深さは南側で35cm、中央部分で25cmを測る。底面は南側は丸く窪んでいるが、中央部分は平坦である。断面は長軸が不整形、短軸が逆台形である。

覆土は暗褐色土を基調とした九層に分けられ、自然堆積と思われる。8・9層は焼土粒を多量に含んでいる。被熱範囲は長軸が60cm、短軸が50cmの楕円形で、厚さは13cmである。

出土遺物は縄文土器3点、石器1点、礫5点である。縄文土器は条痕文系土器で、石器は無調整剥片である。

SK3052J土坑（図面43、図版16-4）

FC-81・82区に位置する。SK3051Jに底面部分の一部を切られる。Ⅲc層中で確認された。確認面での平面形は長楕円形を呈し、長軸は残存部分で1.36m、短軸80cm、確認面から炉までの深さ36cm、底面までの深さ25cmを測る。底面は平坦である。断面は長軸が不整形、短軸が逆

台形である。

覆土は暗褐色土を基調とした八層に分けられ、自然堆積と思われる。8層は焼土粒を多量含む。被熱範囲は径55cmの円形で、厚さは10cmである。

出土遺物はない。

(G) 不明遺構

SXJ不明遺構は、6箇所で開催された。それらのうち5箇所は、大小の遺物集中部で、SX241Jだけが浅い皿状の掘り込みである。ここでは比較的良好的な土器溜まりであったSX239Jと、もっとも広い拡がりを持ち、豊富な遺物が出土したSX246J遺物集中部を報告することとする。

SX239J (図面25、図版17-5)

EQ-69・70区に位置し、Ⅲb層中で確認された。33点の土器片（個体数18）と石皿1点が、直径1mほどの範囲に面的にまとまって出土している。そのほとんどは五領ヶ台式土器（図面58-10~15）であるが、それらに混じって異質な土器（図面58-9）が出土した。

口縁部1/8、胴部1/4ほどの破片だが、図上復元した。形態は、口縁部が緩く外反し、膨らみの少ない胴部へ連なる。底部がないので全容は不明だが、砲弾形のような形状を想像させる。文様は、器面全面に貝殻背圧痕文を施して地文とする。さらに口縁部下に沈線を巡らし、平行する2本の太い沈線で半円形を描いて連弧状の文様を施し、その中を4~5本の縦位の短沈線で飾る。特異な文様構成である。

SX246J (図面25、図版17-7~12)

EL~EQ-65~71区のⅢa~Ⅲc層にかけて広く分布する遺物集中区である。調査区の南西隅部に位置し、南北約17m・東西約21mが調査されたが、西・南・南西側は調査区外に続いているので、全体の1/4ほどが調査されたものと考えられ、本来はこの3倍ほどの拡がりが見込まれる。10基の土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。SS106集石とも重複しているが、集石はⅢb層中で確認されており、縄文時代中期相当のものと考えられる。

本集中部北側は急激に遺物分布が希薄になり、東側は一定の分布が見られるもののSX246Jとして括った部分ほどの密度ではない。

この範囲の中に、縄文土器1499点・石器334点・土製円板8点・焼石を含む多数の礫など約5200点の遺物が足の踏み場もない状態で乱雑に集積していた。集中部内の遺物分布状態は一見これといった傾向はないが、最下層Ⅲc層中の遺物は、縄文時代調査最終段階近くで検出されたSK3113J周辺と、調査区南壁付近に密度が高い。

土器は、総数1499点のうち、早期撚糸文系土器が1363点と90%を占め、主体となっている。

石器も早期に通有のスタンプ形石器106点・挟入磨石66点・礫器29点・小型打製石斧22点が含まれている。

それ以降の遺物には、早期中葉の沈線文系土器94点、後半の条痕文系土器30点、中期の土器10点があるものの、燃糸文期に比べるときわめて客体的である。

以上のことから、本遺物集中部は燃糸文期に形成されたものと考えられ、中でも稲荷台式期・稲荷原式期の土器が73%を占めることから、当該期を中心とする生活痕跡と推定され、調査区中央部で検出された当該期住居群との関連も想定される。

(7) 小 穴

本調査区では、698基の小穴が調査されている。分布に粗密はあるものの、全体に疎らでこれといった特徴は見られない。大小・深浅差はあるが並ばない。特徴的な小穴に、斜めに深く掘られたものがある（図版17-14）。

2. 出土遺物

土器の時期と型式

第Ⅰ群土器…早期燃糸文系土器群（井草、大丸、夏島、稲荷台、稲荷原、大浦山、花輪台、東山、平板、無文）

第Ⅱ群土器…早期押型文系土器

第Ⅲ群土器…早期沈線文系土器群（田戸下・上層、無文）

第Ⅳ群土器…早期条痕文系土器群（子母口、条痕文、無文）

第Ⅴ群土器…前期（諸磯）

第Ⅵ群土器…中期（五領ヶ台、阿玉台、勝坂、加曾利E）

第Ⅶ群土器…後期（堀之内、加曾利B）

特に第Ⅰ群土器の稲荷台、稲荷原期の土器が主体的である。

石器は石鏃、打製石斧、磨製石斧、スタンプ形石器、挟入磨石等が出土しているが、縄文時代包含層が薄いことから土器の型式と対応した時期分布を認めることができなかった。

しかしながら、早期の典型的な石器であるスタンプ形石器が、器種が判別される石器の4割を占めることや、挟入磨石、長さが1cm程度の小型石鏃、寸詰まりの磨製石斧等早期石器群の様相が強い。SX246J出土の打製石斧（図面61-13・図版51）は長さ29.9cm、幅15.0cm、重さ3105.3gを測り、縄文時代の石斧群全体から見ても大型である。平面形は長楕円形に整形され、両面調整によって横・縦断面は概ね平坦に調整されている。刃部が基部に対してやや幅広で基部が緩やかに尖っており、特異な形態といえよう。

VI 歴史時代

本調査では、掘立柱建物6棟・柱穴列4条・竪穴住居22軒・溝状遺構6本・道路状遺構1条・土坑228基・小穴1157基が調査された。

1. 検出遺構

(I) 掘立柱建物

SB206掘立柱建物（図面78、図版19-1・2・5）

本掘立柱建物は、EL～EN-77～79区（僧寺中軸線からN275～280m・E232～239m）に位置する。

掘立柱建物は、全体に削平を受けており、Ⅲb層上面で確認された。柱穴2-2はSX221畝状遺構に切られ、柱穴4-2はSK2736を調査して確認され、それよりも古く、柱穴4-3は畝状遺構よりも古い。SB207と重複するが、新旧は不明である。

2間×3間の東西棟だが、柱穴3-1がない。東柱をもつ総柱式掘立柱建物で、規模は東西7.2m、南北4.5m、面積32㎡である。主軸方位はN90°Eを指し、国分僧寺中軸線にほぼ直交する。

柱穴は、円形で直径約30cm～40cm、深さ約20cm～60cmである。柱痕はすべての柱穴で確認され、観察面で径20cm～30cmであった。柱穴2-2・3、3-3では底面が硬く締まっていた。また、柱穴1-3の底面からは瓦片が出土した（図版19-2）。

遺物は、土師器甕3点、灰釉陶器皿1点の破片、瓦がある。

SB207掘立柱建物（図面79、図版19-3～5）

本掘立柱建物は、EN・EO-78・79区（僧寺中軸線からN278～284m・E234～239m）に位置する。

Ⅲb層上面で確認された。SB206と重複するが、新旧は不明である。柱穴3-3はSX221に切られており、それよりも新しい。南辺にSA25が並んでいる。やや斜交するが、位置関係からおそらく本掘立柱建物にともなう柱穴列状施設か南に広がる掘立柱建物跡の可能性はある。

規模は2間×2間の中央に東柱を持つ総柱式掘立柱建物で、南北4.9m、東西4.3m、面積21㎡の南北がやや長い南北棟である。主軸方位はN6°Eを指す。

柱穴は、円形で直径約30cm～40cm、深さ約30cm～60cmである。柱痕は柱穴1-2、2-1・2-3で確認されており、観察面で径20cm～25cmであった。柱穴2-1（図版19-4）・2、3-1・2・3では覆土中と底面が強く締まっていた。

南東隅部の柱穴3-1は3本の柱穴があり、補助柱というよりも建て替えの結果かもしれない。

焼土が柱穴2-3から、炭化物が柱穴1-2、3-1・3から検出されており、本掘立柱建物が焼失した可能性がある。

出土遺物は、土師器・土師質土器・須恵器などの小片20点がある。

柱穴1-2の柱痕内から炭化米が検出された。2.5×1.8cm、厚さ0.8cmほどの塊となっている。焼失掘立柱建物とすれば、火災時に混入したことも考えられる。籾殻ではなく脱穀された状態である。

鉄製品は、柱穴1-1から釘1点と柱穴3-1bから棒状鉄製品1点が出土している。

SB208掘立柱建物（図面80、図版19-6）

ER~ET-78~80区（僧寺中軸線からN293~297m・E236~242m）に位置する。Ⅲb層上面で確認された。柱穴1-1・2-1はSD382を、柱穴3-3はSD381を掘ってから検出されているので溝よりも古い。柱穴1-2はSK2807とわずかに重複するが、新旧は不明である。

2間×2間だが、東西4.8m、南北3.0mで東西の柱間が長い東西棟である。中央に東柱がある総柱式である。面積は14.4㎡を測る。柱間は東西2.4m、南北1.5mと東西が極端に長い。主軸方位は、N84°Wを指す。

柱穴は、いずれも直径20~30cmと細い。深さは、側柱1-2が14cmと浅いほかは約20cm~50cmほどである。柱穴2-3には柱痕がある。

出土遺物は土師器皿片1点のみである。

SB209掘立柱建物（図面81、図版19-7）

FC・FD-76~78区（僧寺中軸線からN306~311m・E229~246m）に位置する。

Ⅲb層上面で確認された。柱穴2-1・4-1は現代の建物基礎の攪乱で失っている。柱穴1-1も攪乱を受けており、柱穴底面付近が辛うじて残っているだけである。柱穴3-3はSK2785と重複し、土坑の調査後確認されたので、本掘立柱建物のほうが古い。

2間×3間の東西棟で、東西6.4m、南北4.8m、面積30.7㎡である。桁行の柱間が約2mに対し、梁間の柱間は2.4mと長い。主軸方位はN87°Wを指す。

柱穴は、いずれも直径30cm前後で、深さは柱穴2-3・3-3が40cm代であるほか、50cm代で比較的揃っている。

柱穴1-3は、底面が硬く締まっており、柱穴3-3には柱痕が観察された。柱穴1-2と柱穴4-2は内側に浅い添え柱を据えたようなテラスがあり、柱穴本体は通よりやや外側に位置する。南東の4-3は不明だが、各隅の柱穴がもつとも深く掘られている。

SB210掘立柱建物（図面82・83、図版19-8・20-1・2）

ET→FD-78～81区(僧寺中軸線からN299～309m・E234～245m)に位置する。

柱穴はⅢb層上面で確認された。柱穴1-2・1-3はSK2787に、5-5はSK2806に切られている。柱穴3-5と4-5の東側半分はSX6道路状遺構の硬化面に覆われていた。柱穴6-3はSK2888に切られ、柱穴5-2はSK2878と小さく重複するが、新旧は不明である。

当初は、柱穴1-1・2-1・3-1・4-1・5-1は柱穴列SA28として調査し、柱穴1-2・1-4・6-1・6-3は土坑として調査したが、掘立柱建物の可能性も視野に入れて調査を進めた。歴史時代調査の終盤になって、道路状遺構SX6の硬化面をはずしたところ、柱穴3-5・4-5が検出され、かねてから注意していた同形の大型ビットP-645(5-5)・P-650(6-5)・P-590(6-4)と並び、他のよく似た柱穴の全体の配列を見直した結果、北側柱穴2-5・4-5のように柱通りがよくないものも含むけれども、18本の柱穴(連接する柱穴2-1・2-5の2本を加えると20本)で構成される4間×5間の大型掘立柱建物であることが判明した。

規模は、南北4間、東西5間のわずかに東西方向の長い大型の東西棟で、東辺9.3m、西辺9.05m、南辺10.6m、北辺10.7m、面積98㎡である。各辺にわずかに差があり、厳密な長方形ではない。主軸方位はN84° Wを指す。

柱穴の配列は、北・南辺が柱間平均距離2.1m、東辺2.1m、西片2.175mと梁間がわずかに長い。柱穴2-1a・bと2-5a・bは、南北対称の位置にあって、それぞれ東西に並ぶ2本の柱穴が使用されている。いずれも柱通りからわずかに内寄りに位置している。上屋の構造に関わる配列かもしれない。東柱の検出に努めたが、相当する柱穴は見つからなかった。

柱穴の形状は、不整形のものが多いが、柱穴1-5・3-1・6-3のように不整形ながらも隅丸形状を呈するものがある。

柱穴の大きさは、直径30～75cm、深さ40～75cmまであり、概して太くて深いものが多い。

柱穴の断面形は、ほとんどがわずかに傾斜するものの、寸胴形にほぼ垂直に掘られ、底面はわずかに丸みをもつ鍋底状になるといった共通する掘方を有している。

また、柱穴1-1・6-1・1-2・1-4・4-4・5-4のように一部オーバーハングするものもある。

柱痕の確認された柱穴は1-3・1-5・3-5・6-5の4本で、底面が硬化したものは柱穴3-5・5-1・5-5の3本である。

遺物は土師器・土師質土器・須恵器・灰釉陶器など39点があるが、小片ばかりである。

SB213掘立柱建物(図面84・85、図版20-3～8)

ES→EA-84～86区(僧寺中軸線からN294～301m・E252～258m)に位置する。

Ⅲb層上面で確認された。柱穴1-1がSD381に浅く切られ、柱穴3-1が東側でSK3058に

切られていた。また、柱穴1・2・3-4が配管溝と建物基礎によって大きく破壊され、柱穴2-4は柱穴中央部が、柱穴3-4は北東隅部がかろうじて残存していたにすぎない。

2間×3間の側柱式掘立柱建物であるが、柱穴2-1は確認できなかった。その位置に70×60cm、深さ10cmほどの楕円形を呈する浅い窪みがあつた（図面84の破線）が、柱穴とは考えられず、厳密には本掘立柱建物との関わりは不明である。

規模は南北7.6m、東西5m、面積38㎡の南北棟で、東側2mに庇をもつ。主軸方位はN8°30'Eで、ほぼ北を指し、国分僧寺中軸線に沿っている。

柱穴の平面形は、ほとんどがやや胴の張った隅丸長方形である。特に柱穴3-2・3は端整な長方形をしている。柱穴3-1〜3では柱痕が確認されている。

東側柱に沿って庇の可能性のある4本の小柱穴が並んでいる。いずれも細くて浅いが、柱穴4-1は底面が硬く締まっており、周囲に同様のピットがないことや身舎との位置関係から庇とみなした。

遺物は、柱穴3-1・3-2から、須恵器杯・甕片が出土している。柱穴3-2では柱痕内にずれ落ちるように1/2ほどの須恵器杯（図面122-5図版58）が出土した（図版20-8）。

(2) 柱穴列

SA24柱穴列（図面86、図版21-1）

EL〜FE-75区（僧寺中軸線からN299〜309m・E225〜228m）にある。

柱穴のほとんどがⅢb層上面で確認されている。随所で土坑と重複する。とくに南側EM-75区では、SK2739・2743〜2745と複雑に重なっていたが、確認できた範囲では土坑のほうが新しい。

柱穴列は、僧寺中軸線に平行して、延長約40m、幅約1mの柱穴群列で、大小約80本の柱穴で構成される。主となる柱穴は、僧寺から東へ227mの位置に南北に並ぶ。

北から12〜13mほどのところは柱穴の分布が希薄になり、並びが悪く、柱穴自体も小規模になる傾向があるが、柱穴列としての方向性は見て取れる。

個々の柱穴には大小差があり、径40cm前後が多い。主体となる柱穴は深さ0.5mほどだが、1m近い深い柱穴も混じる。柱穴の間隔は不揃いで、整然としていない。

それらは、227mの南北ラインを中心として、その周辺に補助柱や、修繕・補修にともなつて柱が立てられ続けた結果、柱穴群として列をなしていることが考えられる。

遺物は、土師器19点・土師質土器1点・須恵器5点・灰胎陶器2点・瓦8点・棒状鉄製品1点が出土した。

SA25柱穴列（図面87）

EM-70~73区（僧寺中軸線からN297m・E233~240m）にある。Ⅲa層上面で確認された。4本の柱穴で構成される。現長6.8mだが、まだ南東調査区外に続く可能性もある。調査区外南に掛かる掘立柱建物の可能性もある。

P1 覆土中から薄い板状青銅製品1点と銅滓2点が出土している。

SA26柱穴列（図面87、図版21-2）

ET-70~73区（僧寺中軸線からN275m・E208~220m）にある。Ⅲa層上面で確認された。東西に並ぶ9本の柱穴で構成され、全長11.2mである。柱通りが悪く、柱間距離もP7-P8・P8-P9間の2.2mからP3-P4・P5-P6間の0.8mまでの長短がある。

柱穴径30cm前後、深さ20~50cm前後で、P2とP8の底面は硬く締まっていた。

SA27柱穴列（図面87、図版21-2）

ET-70~73区（僧寺中軸線からN297m・E211~219m）にある。Ⅲa層上面で確認された。SA26柱穴列の北側におおむね平行して柱通りのよくない7本の柱穴で構成されている。全長11.2mである。

柱穴規模は、SA26柱穴列とほぼ同様で、同時に存在していた可能性がある。

(3) 竪穴住居

SI740住居（図面88~90、図版21-3~8・22-1~5）

FD-68・69区（僧寺中軸線からN309~311m・E206~211m）に位置する。

西側を建物基礎の概乱で削平されているが、床面には達していない。竈の左右にある掘り込みは小穴との重複で、本住居のほうが古い。確認面はⅢa層中である。

平面形は東西に長い長方形である。規模は北壁3.7m、南壁3.6m、東壁2.5m、西壁2.4m、床面積7.1㎡である。主軸方位はN96° Eを指し、僧寺中軸線とほぼ直交する。

壁は、垂直に60cm掘り込まれており、壁下には竈部分を除く全面に周溝が巡っている。

床面はⅣ層中の地床で、ほぼ全面が堅くなっているが、とくに竈前面から住居中央部が堅く締まっている。また、竈前面には径90cm、深さ12cmの浅い土坑が掘られ、焼土・炭化物を含む黒色土が充填され、上面をローム混じりの黄白色粘土で厚さ5cmほど貼り、堅く踏み締めていた。床下土坑と考えられる。

西壁下北寄りに径30cm、深さ12cmほどのビットが検出された。急角度になるが、位置的に梯子穴と考えられる。

竈は、東壁中央部にやや黄色がかかった白色粘土で造り付けられている。粘土の流出が激しいが、瓦・石・土器を用いた芯材の残存状態はきわめて良好で、竈の構造・造り方がよく観察されるので、復元的に詳しく報告しておきたい。

竈（図面88・89、図版21-4～8・22-1～4）は、まず東壁中央部を基部幅80cm、奥行110cmの長三角形に掘り込み、同時に焚口・燃焼部を掘り窪めて構築時の掘方とする（図面89-4、図版22-4）。

焚口は新旧2箇所あり、手前の浅い方はこの竈の前段階のもので、埋め戻されており、周囲の床面ほどではないが上面が堅く踏み締まっている。おそらく竈は補修程度ではなく、本格的に造り直されたものと思われる。旧焚口と東壁の位置関係から見て、住居はこの時に東へ少し拡張された可能性がある。燃焼部掘方は、皿状の火床面の奥でいったんほぼ垂直に立ち上がり、そこから煙道部が約40度の勾配で傾斜する。煙道部斜面は緩い段掘りとなっていた。

この段階で支脚位置を決めてそれを据える穴を掘り窪め、壁への掘方基部両端（壁と掘り込みの交点）に自然石を配置する。掘方と支脚位置は掛穴・焚口の位置・高さなど竈全体の基本的構成を決定し、竈造り工程の目安になるものと思われる。

その後、煙道部の両側壁に、打ち欠いて形と大きさをほどよく整えた女瓦を立て並べる。壁にもたせかけるように、向かって右側に女瓦を7枚（他に1点だけ自然石が使用されていた）、左側にも8枚を、ほぼ左右対称に袖部の基部に据えられた自然石まで立て並べる（図面89-3、図版22-1～3）。丈を揃えるために上下2段に並べていた部分もある。壁と瓦の隙間には少量の粘土混じりの黒褐色土（18・22・23・25層）が詰められていた。被熱でぼろぼろになっていたが、瓦を並べるときに裏込めにした土であろう。この土は煙道部斜面にも貼られていた。

支脚のやや後方では、側壁に沿って並べた瓦のさらに内側に二重になるように、長さ27cmと23cmの大きな女瓦を立てる。その上に前後2枚の女瓦を鳥居状に架け渡して天井を作っている（図版21-8）。次に、天井部女瓦の奥端に男瓦の一端を乗せ架けて、そこから2本の男瓦を煙出し部に向かってまっすぐに連ねて煙道部とする（図面89-2、図版21-7）。

女瓦の天井部と煙道部の男瓦、煙道部の男瓦どうしの継ぎ目の隙間は、坏（図面123-10、図版58）と甕の口縁部から胴部を縦割りした大きな破片を覆い被せて目張りとして塞ぎ、その上を粘土（8層）で覆っていた。煙道の横からも甕が出土し、男瓦を覆っていた甕と接合している。（図面89-1、図版21-6）

袖部の芯と推定される瓦は、竈前面に少なくとも8枚があり、すべて倒れていた（図面88、図版21-4）。したがって、詳細は不明だが、掘方内での作業に引き続き、袖芯として瓦が立て並べられていたことが考えられる。

以上の手順で芯（骨組み）を組み、その上から粘土を塗り付け、あるいは貼って竈の形を整えたものであろう。粘土が比較に残っていた8・9層は、その痕跡と考えられ、流入土の12層が嵌入し、表面は6層のように流出しているが、ほぼ原位置を保っているものと思われる。

貯蔵穴は、竈右側住居の南東隅部にあり、不整長円形の浅い掘り込みで南壁周溝と連なって

いる。

竈の対壁（西壁）下で、出入り口にともなう梯子穴と推定される深さ10cmほどの小穴が検出された。多量のローム粒子混じりの軟質黒褐色土が充填しており、底面には女瓦の破片が置いてあった。梯子を受ける根石と思われる。

床面中央部には、直径25cm、深さ5cmほどの小規模な炉が掘られていた（図版22-5）。火床面はガリガリに焼け固まり、焼土が混入した黒色土が堆積していた。小鍛冶炉の可能性を考慮して鍛造剥片・粒状滓などの検出に努めたが見つからなかった。

遺物は、全体的には、竈とその前面に集中する傾向がある（図面90）。西壁側の出土遺物が希薄なのは、床面に達していない攪乱が南北に入っていたことがその要因だが、全体の傾向からみて本来さほどの密度をもっていないことが推定される。

竈内からは、土師器環2点・土師質土器環4点・須恵器環2点が出土している。また、竈煙道部上面から土師質土器耳皿が確認段階で出土した。耳皿の内面に針書き刻書「太」が書かれている。

土師質土器壺（図面123-10、図版58）は、先述のように竈煙道部をなす2本の男瓦の繋ぎ目に、その隙間の上を塞ぐように割って伏せられていた大型壺である。高台が取れた後も欠けた面が擦れているのでそのまま使用され、最後に竈用材として転用されたものと考えられる。興味深いことは、体部内面に同心円を描くように赤色顔料が塗布されていることである（トーン部分）。顔料は彩度の低い赤黒い色をしており、肉眼的には良質のものとは見えない。どの時点で塗布されたかは明らかでないが、祭祀に関わる壺と見られる。竈の要所の一つである煙道上に目張りとして埋め込まれていたことを勘案すれば、竈を築く際の祭祀との関連が推定されるものとも考えられる。

土師質土器の耳皿（図面124-4、図版59）は、遺構確認段階で竈粘土上面からあたかも置かれたかのような状態で出土した。あるいは竈に関する何らかの儀礼に用いられたかもしれない。

SI741住居（図面91・92、図版22-6～8・23-1～3）

FB・FC-71～73区（僧寺中軸線からN304～309m・E215～220m）に位置する。住居の大半を建物基礎による攪乱で壊されている。北壁の一部をSK2696土坑に浅く切られている。確認面はⅢa層中である。

平面形は方形である。規模は東壁4.0m、西壁4.2m、南壁3.6m、北壁3.6m、床面積12.8㎡である。主軸方位はN81°Wを指す。

壁高は、最深部で42cmあり、ほぼ垂直に立ち上がる。周溝はない。

床面はⅣ層中の地床で、竈前面以外は概して軟弱だが、住居中央部は攪乱のため不明である。

竈は、西壁やや南寄りに白色粘土で造り付けられている。粘土の流出が激しく、原形をとど

めていない。とくに掛穴から手前の天井部は痕跡もなく、住居覆土にわずかに粘土粒が混入しただけである。袖部でもその周辺にわずかな白色粘土が疎に残っていたにすぎない。

壁への掘り込みは三角形で、幅65cm、奥行50cmである。掘り込みに沿って女瓦を立て並べ、そこに奥から順に女瓦・甕2個体・男瓦を横位に架け渡して掛穴奥部の天井とし、さらに男瓦の上に少なくとも2～3個体の甕を置き並べていた。また、手前の甕の右上には坏が伏せ置かれていた。天井の女瓦と男瓦は10cmほど離れているが、出土状態から男瓦は甕とともにずり落ちたものと推定され、本来は隣り合わせになっていたものと復元される。

天井の奥は煙道部で、底部から胴部下半を打ち欠いた3個体以上の甕が押し潰れている状態であった。底部を抜いた甕を入れ子状に連結して煙突にしていたものが土圧で圧縮されたものと推定される。2・13～15・17層は煙道内の堆積土だが、締りがある。

袖部は、地山(IV層)を高さ5～10cmほど掘り残して芯としているが、粘土部分は流出してほとんど残っていない。

焚口は、平面形が舌状で壁から45cmの位置にある。火床面は、少なくとも3面(3・21・24層)あり、いずれも真つ赤に焼け固まってガリガリになっていた。最終火床面は深さ約20cmの深い掘方にロームを貼って作られている。上面は真赤になって15cmほどの厚さで焼け固まっている。掘方底面も焼けており、最初の火床として使用されていたことが知られる。

また、掘方に沿って立て並べられた瓦の後の土は、赤黒く焼け固まっていた。

出土遺物は、竈とその左側床面に集中し、大きく攪乱されていたにもかかわらず、図示した土器以外に377点の破片があり、とくに竈の左側、南西隅部では甕がまとまって出土している(図版22-7)。

SI742住居(図面93、図版23-4・5)

FF・FG-67～68区(僧寺中軸線からN316～319m・E203～206m)に位置する。北壁西半分がわずかに建物基礎で攪乱されている。住居中央部が南北にSD378溝に切れ、西側でSI743住居の竈部分を小さく切っている。

平面形は方形である。規模は東壁2.4m、西壁推定2.4m、南壁3.1m、北壁3.1m、床面積7.2㎡である。主軸方位はN1°Eを指し、僧寺中軸線にほぼ沿っている。

壁高は5～8cmと浅く、ほぼ垂直に立ち上がる。周溝が部分的に巡る。

床面はIV層中の地床で、固く踏み締まった中央部は部分的に貼床となっている。

竈は北壁東寄りに黄白色粘土で造り付けられている。残存状態は非常に悪く、粘土はほとんど流失している。壁への掘り込みは半円形で、その外形に沿って馬蹄形に粘土が残っていた。燃焼部奥寄りには、長さ24cmの自然石を用いた支脚が立てられていた。焚口から燃焼部にかけて焼土が堆積していた。

遺物は少なく、竈右側に散在する程度で、これといった傾向を示さない。

SI743住居（図面93、図版23-6）

FF・FG-66～67区（僧寺中軸線からN317～321m・E199～204m）に位置する。北壁と東壁北半分が建物基礎と樹木の移植にともなう攪乱で壊されている。住居西側が南北にSD384溝に切られ、竈東側がSI742住居に上面を削平されている。

平面形は主軸方向の長い長方形である。規模は西壁3.0m、南壁3.8mで北壁と東壁は不明だが、面積9.9㎡ほどと推定される。主軸方位はN101°Eを指す。

壁は本来浅い竪穴住居であった上に削平を受けているので、残りのよいところでも4～5cmしかなく、床面のほうが高い部分も見られた。したがって、覆土もほとんどなく、わずかに残った部分では粒子の粗い赤色スコリアを少量含む黒褐色土であった。

周溝は幅12～15cm、深さ10cmで、西壁の北部と竈部分以外に巡っていた。

床面はIV層中の地床で、中央部がわずかに高くなる。住居中央部と南東部以外は概して軟弱である。とくに竈前面はもっとも堅くなっていた。

竈は、東壁に設けられている。粘土はほとんど流失して、燃焼部と右袖部にわずかに残っていただけである。壁への掘り込みは、三角形で45cmほど張り出している。竈の手前には、芯材に用いられたと考えられる瓦片5点が倒れた状態で出土した。燃焼部から煙道にかけては瓦の出土がなく、もともと使用されていなかったものと推定される。燃焼部の掘方は、浅い皿状である。

竈の右側、住居南東隅部に深さ10cmほどの浅い貯蔵穴が設けられている。不整形な円形で、土器の小片が入っていた。

遺物の出土状態は、竈と貯蔵穴周辺に土器・瓦片が散在している程度で、顕著な特徴はない。

SI744住居（図面94、図版23-7・8）

EO・EP-70～71区（僧寺中軸線からN317～321m・E199～204m）に位置する。北壁を攪乱で失っている。南西隅部は削平されている。確認面はⅢb層上面である。

本住居は一度の建て替え・拡張が行われており、古い住居を744a、新しいほうを744bとする。

SI744a住居

平面形は方形である。規模は南壁3.3m、西壁・東壁は2.6m以上である。北壁は3.2mほどであろう。主軸方位はN91°Eを指す。

壁は、東壁を共有しており、約15cmの深さで、やや斜めに掘られている。西壁と南壁下には周溝が巡るが、東壁下には744a住居にともなうと推測される周溝は見られない。744b住居を作るときに掘り直されたものと思われる。

床面は、a・bで共有されている。地山IV層中に作られた地床であるが、どちらにともなうも

のか分からない土坑状・ピット状の浅い掘り込みが6箇所確認され、上面が踏み締められており、少なくとも744bの段階では埋まっていたものと考えられる。

竈は東壁にあり、中央より南寄りに位置している。744bの周溝によって焚口から燃焼部が壊されている。粘土はほとんどが流出しており、焼土混じりの粘土が掘り込みの両側にわずかに残っていた程度である。壁への掘り込みは、幅67cm、長さ30cmの半円形である。竈内からは、芯材の女瓦が倒れた状態で出土しているが、かなり壊れており、原位置を保っていない。火床面はあまり焼けていない。

竈右側の住居南東隅部には、貯蔵穴がある。40×30cmの不整円形で、深さ12cmと浅い。出土遺物はない。

遺物は少なく、出土傾向も顕著でない。

SI744b住居

744a住居の建て替えにともなって拡張された住居である。その際、竈は東竈から北竈へ移されているらしく、北壁側中央部床面上にわずかが焼土・粘土が見られた。主軸方位は、北を指しており、僧寺南北中軸線に沿っている。

平面形は方形だが、拡張の際に西壁が緩やかに張り出して不整形になっている。規模は、東壁3.4m以上、西壁3.3m以上、南壁3.4mである。北壁は推定3.5mほどと思われる。

床面は、IV層地山の地床で、東側2/3ほどが堅く踏み締まり、西側は軟弱である。

竈は攪乱された北側中央部床面に、わずかが粘土と焼土があることから、北壁に造られていたものと推定される。

遺物はまとまった状態ではないが、土器・土師質土器・灰釉陶器・瓦片が散在していた。坏(図面132-4、図版60)は北西隅部の床面直上から出土した。

SI745住居(図面95、図版24-1)

EQ-70・71区(僧寺中軸線からN290m・E213~215m)に位置する。南側の大半以上を攪乱で壊されており、北側1mほどが調査されただけである。

北壁には竈はなく、主軸は東西方向にあり、東西どちらかにN90°ほど振れているものと思われる。床面は全面貼床で、ロームブロック・暗褐色土ブロックで5~6cmほどの厚さに貼ってある。全体に比較的軟弱である。壁は垂直に15cm前後の深さで掘り込んでいる。壁下には周溝が巡っていた。

遺物は、土器の細片が11点あるだけである。

SI746住居(図面95)

ES-67・68区(僧寺中軸線よりN295~296m・E202~205m)に位置する。北側のほとんどが樹木の移植による掘削のため壊され、南壁の東側が建物基礎で失い、痕跡程度である。住居

中央部東寄りを南北に走るSD378溝状遺構に切られている。

平面形は方形と推測される。規模は東西2.5mとしか分からないが、小型の住居である。主軸方位は不明である。

壁は削平を受けていることもあって、2～6cmほどしか残っていない。床面はⅢ層地山の地床で、南西隅部に堅い面があった。

遺物は、土師器1点と須恵器2点の細片があるだけである。

SI747住居（図面95、図版24-2～4）

ER・ES-67区（僧寺中軸線よりN291～295m・E202～204m）に位置する。東壁際を南北に走るSD383溝状遺構に切れ、東壁中央部がSK2629に切られているが全容は分かる。南壁際でSK2691とSK2729を切っている。

平面形は方形である。規模は東壁2.9m、西壁2.9m、南壁2.5m、北壁2.2m、床面積6.0㎡である。主軸方位はN96°Eを指し、僧寺中軸線とほぼ直交する。

壁高は約20cmで、垂直に立ち上がる。壁下には幅15～20cm、深さ10cmほどの周溝が竈部分を除いて全周する。

床面はⅢ層地山の地床で、竈前面と住居中央部が強く踏み締まっていた。床面上には4箇所焼土の堆積があったが、炭化材もなく、焼失住居というような状態ではない。南側中央部床下にSK2729があり、本住居の床下土坑とも考えられたが、別土坑として調査した。

竈は住居南東隅部にあり、主軸は東壁に直交している。燃焼部から煙道までをSD383溝に切られている。粘土は流出してほとんどなく、芯の用材としての瓦・自然石などが残っていただけである。

壁への掘り込みは、現状で奥行き20cm、幅70cmの半円形で、焚口から燃焼部は5～6cmほど浅く掘り込まれている。瓦の出土状態から、竈掘方に沿って立て並べられていたことが推定される。燃焼部中央には同一個体の甕片が散乱しており、すぐそばに自然石が倒れていた。おそらく、支脚とその上に掛けられていた甕であろう。

遺物は、竈周辺と住居中央部にまとまりを見せ、床面直上ないしやや浮いた状態で、須恵器環や折れ曲がった鎌などの鉄製品が出土している。

SI748住居（図面96、図版24-5）

EN-67区（僧寺中軸線よりN278～282m・E201～204m）に位置する。西側をSK2709土坑に大きく斜めに切れ、南東隅部はわずかにSD383土坑が掠っている。

平面形は方形である。規模は東壁2.6m、西壁2.6m、南壁2.4m、北壁2.6m、床面積6.1㎡である。主軸方位はN10°Wを指す。

壁は10cm弱の高さで、垂直に立ち上がる。壁下には竈部分を除いて周溝が巡っている。

床面はⅣ層中の地床だが、竈前面の一部が薄い貼床となっていた。そこを中心に東寄りが堅く締まっている。

竈は北東隅部寄りにあり、崩れてしまっていて粘土もほとんどが流失し、瓦などの用材もなく、掘方の状態で掘り上げるしかなかった。掘方の壁への掘り込みは不整形な半円形で、その奥にわずかな黄白色粘土が残っていた。竈内覆土は、各層とも多寡はあっても粘土・焼土が混じっている。

本住居にともなうと考えられるビットが西南部（P-1）と竈右手（P-2）にある。P-1には土師質土器塊（図面134-5、図版61）が入っていた。

遺物は少なく、P-1内の塊を除けば破片ばかりである。

SI749住居（図面96～98、図版24-6～8・25-1～5）

EM-69区（僧寺中軸線よりN276～279m・E206～219m）に位置する。東壁南半をSK2705土坑に、南壁中央部をSK2707土坑に浅く切られる。

平面形は方形である。規模は東壁2.4m、西壁2.2m、南壁2.8m、北壁2.9m、床面積6.4㎡である。主軸方位はN92° Eを指し、僧寺中軸線とほぼ直交し、南約7mに東西に走る寺院地区画溝北辺の溝SD21と平行している。

壁は高さ40cmで、やや斜めに立ち上がる。周溝はない。

床面は全面貼床で、竈前面の東半分と西側で3箇所の堅い面があった。貼床は、ほとんどがロームとⅢ層の土を用いているが、竈前面だけは粘土・黒色土も混じっていた。竈の前面は何度か補修されたのであろう。貼床下の住居掘方は、緩やかな凹凸があるが、概して中央部が深く掘られている。

また、竈右手前には、下面で70×50cm、上面で50×30cmの範囲が3cmほどの平坦な高まりとなっており、その上に台石に転用された埴が据えられ、隣に二枚重ねの坏（図面135-6・7、図版25-4・61・62）が置かれていた（図版25-4）。屋内での固定的な作業場と考えられる。

竈は、東壁中央部に白色粘土で造り付けられている。燃焼部と煙道の約半分の上面がSK2705土坑に削平され、かつ自然崩落による粘土の流出が激しいが大略は把握される。

壁への掘り込みは、幅90cm、奥行き75cmの半楕円形である。火床面と煙道の境に8cmほどの段差があり、そこから煙道は煙出しに向かって緩やかに立ち上がっている。煙道部には崩れているけれども男瓦が2枚分あり、SI740住居同様の煙突状の煙道が造られていたことが考えられる。

燃焼部には大小5枚の女瓦片があり、そのうち右手前の瓦は立った状態であったことから、他の瓦も本来は、掘方に沿って立て並べられていたものと推定される。

袖部は粘土が流失していて明瞭ではないが、左袖部の付け根は、一部地山を掘り残して、そ

の上に塼を打ち欠いて置いていた。竈前面には、左右に女瓦が2枚ずつ、計4枚が出土しているので、袖芯に瓦を使用したことが考えられる。また、完形の男瓦が斜めではあるものの、竈の長軸に直交するかのように出土しており、焚口の天井に用いられたことが想定される。

こうしてみると竈の芯の組み立ては、まず掘方を掘り、その両側壁に沿ってまばらに女瓦を立て並べ、袖部にも瓦を立てて芯とし、焚口には男瓦を架け渡し、煙道にも男瓦で煙突を作って芯としていたことが推定される。先に見たSI740ほど丁寧ではないが、基本的には同様の造り方である。

燃焼部の火床面は、ガリガリによく焼け固まっていた。燃焼部右寄りに須恵器坏で落し蓋状に蓋をされた小型甕が正位の状態で出土した。

住居の南東隅部に長径20cm、深さ10cmのピットがある。竈の右側で、通常は貯蔵穴の位置だが性格は不明である。

本住居は焼失住居である(図版24-7・25-3)。焼土は覆土中に疎らに混入しており、とくに最下層に多く、床面上には3箇所の密な部分がかった。炭化材は大小合わせて68点が検出された。材のほとんどは、径約数cm～5cm前後の丸太材で垂木と思われるが、最長1.1mと70cmの材は、最大幅10cm前後・厚さ2～3cmほどの断面長方形の板材で垂木以外の建材と見られる。出土位置が住居の出入り口と推定される部分に近いことを考慮すれば、それとの関連も想定されるが確証はない。垂木の方法は、放射状になるもの、南北に向くもの、東西に向くものの3通りがある。屋根材のカヤも多くはないものの、3箇所で検出されている。

遺物は多くはないが、竈周辺を中心に分布し、完形ないしそれに準じるものは竈の右手前から出ている(図面98)。竈内から、小型甕(図面135-1、図版61)が正立した状態で出土しているが、燃焼部の中心から右にずれている。下に芯材に使用されたと思われる女瓦が左斜め方向から潜り込んでいる(図版25-1)ので、竈が崩壊したときに何かの弾みで甕の胴下半部を瓦が突き抜くように滑り込んだことが考えられるが、胴下位から底部の破片は1片も確認されなかった。口縁部には須恵器坏(図面135-8、図版62)が正位の状態で落とし蓋のように嵌まっていた。坏口縁部外面1/3と甕口縁部内面の接触部には、吸炭して黒色に変化した部分が円周に沿って巡っている。おそらく、火災時に還元状態になって帯状に黒変したものと推定される。胎土には骨針が多量含まれており、比企丘陵産のものと考えられる。破片資料にも骨針を含む須恵器坏・甕片がある。

また、竈の左袖に貼り付くように坏2点(図面135-4・5、図版61)が、焚口からは釘が1点出土している。

住居中央部南寄り床面直上から、甲斐型暗文土器坏(図面135-3、巻頭図版2、図版62)が正位の状態で出土した(図版25-4・5)。口縁部から体部の約1/3が欠けている。きめの細

かいきわめて精良な胎土で、堅く焼成されている。底面内面と体部内面に放射状暗文が密に施され、体部外面はやや雑な暗文状のヨコヘラミガキが加えられている。底部外面中央部には「国寺」の二文字墨書が書かれている。土圧で墨書の部分が細かく割れている上に墨痕が薄くて明確ではないが、赤外線モニターで観察するとくっきりと見える。国構えの中の「玉」の縦画が下突き出て、なおかつ右側の点が見られないが、全体の字形から「国」と判断される。「寺」の下半分「寸」はハネと点が重なって肉眼的には一体のものに見えるが、赤外線モニターで、墨痕の濃淡からハネでいったん筆を離して点を加えたことが分かる。

南壁下では床を掘り残して低く盛り上げた平坦な面の上に完形の塼が据え置かれていた。上面は何かで叩かれて痘痕状になっている。何らかの作業台として転用されたものだが、表面の状態から叩いた道具は硬いものではないようである。その隣の床面上からは、土師器坏（図面135-6、図版61と須恵器坏図面135-7、図版62）が重なって出土している（図版25-4）。

本住居は本調査区で唯一の創建期の竪穴住居である。

SI750住居（図面99、図版25-6）

EL-68区（僧寺中軸線からN273～275m・E204～207m）に位置する。調査区南端に掛かっていたため、北1/3ほどしか調査できなかった。住居中央部の西寄りにSD383が南北に重なる。北東隅部は直径約60cmのP-70に切られている。Ⅲb層上面で確認された。

平面形は方形で、規模は北壁が3.1mであることしか分からないが、正方形とすれば床面積10.2㎡となる。主軸方位は、N93°Eを指し、僧寺中軸線とほぼ直交している。

壁は7cmほどで垂直に掘られている。周溝はない。床面は、粘土・黒色土混じりのIV層土による全面貼床で、竈全面が硬く締まっていた。

竈は左袖の流出粘土で確認され、本体は調査区外にあって不明である。住居北東隅部に直径55cm、深さ25cmのビットが見られた。貯蔵穴かもしれないがよく分からない。

遺物は、土器類41点と少なく、小片ばかりで図示できたものは竈から出土した台付甕の脚部だけである。

SI751住居（図面99、図版25-7・8）

EQ・ER-73・74区（僧寺中軸線からN290～293m・E221～224m）に位置する。

北壁の大部分と中央部を建物基礎に攪乱され、南壁が深い攪乱によって壊されている。さらに、南西部を円形のSK2914に、東側を南北に細長いSK2710とP-67に切られている。Ⅲb層上面で確認された。

平面形は方形である。規模は東西3.3mで、南北は不明だが、東西長と同じくらいと思われる。主軸方位は北竈とすれば、ほぼ僧寺中軸線に沿っている。

壁は残りのいいところで10数cmの高さで、壁下には幅10～20cm、深さ10cmの周溝が巡る。

床面は地山Ⅲc層中の地床で、ほぼ全面が堅くしまっている。床面上には数箇所に焼土が堆積していたが、炭化材もなく焼失住居とは判断できなかった。竈はないが、壁の残存状態から北竈と推定される。

住居の中央部には、2個の炉状の円形ピット（P-1・P-2）が重複し、P-1がP-2を切っている。P-1は直径約60cm、深さ32cmで胴形に掘り込まれている。中には焼土と黒色土が交互に詰まっており、上・中層からは土器・礫・炭化物が出土している。P-2は直径53cm、深さ34cmである。中には焼土と粘土が混入していた。小鍛冶炉の可能性も検討したが、確認するに至らなかった。ただ、ピット内から出土した坏（図面138-10、図版63）は、覆土中の土器よりも古く、覆土がピット上面に堆積しているので、本住居より古い遺構の可能性もある。

遺物は、土師器・土師質土器・瓦・埴・釘があるが、特徴的な出土傾向は見られない。

SI752住居（図面100、図版26-2～4）

EL・EM-72区（僧寺中軸線からN275～278m・E216～219m）に位置する。北東隅部を建物基礎に深く抉られ、竈を中心に樹木の移植にとまって大きく攪乱されている。南西隅部をSK2703土坑に少し切られ、東側でSI753住居を大きく切っている。Ⅲb層上面で確認された。

平面形は方形で、東西2.7m、南北3.3m、床面積5.8㎡である。主軸方位はN100°Eを指す。

壁はやや斜めに40cmほど掘り込まれている。竈部分以外の壁下に周溝が巡る。

床面は中央部だけ地床で、周辺は黒褐色土・暗褐色土（Ⅲ層）・ロームの混じった土で貼ってあった。全面非常に堅緻でよく踏み固められているが、平坦ではなく西から東にかけて緩やかに傾斜し、竈前面付近がもっとも深くなっている。掘方は緩やかな凹凸が多い。

竈は東壁中央部に位置しているが、本体内部が攪乱を受けて原位置を損なった瓦が散乱しており、ほとんど掘方しか分からない状態であった。

竈の右隣には床面から40cmほどの高さに棚状遺構が設けられていた。本調査では唯一の施設である。棚の上からは、扁平な石（台石）が壁に立て掛けられた状態で出土している（図版26-4）。

遺物は豊富で、竈とその右側から土器・瓦・自然石などがある程度まとまって出土している。

SI753住居（図面101、図版26-5）

EL・EM-73区（僧寺中軸線からN275～277m・E219～220m）に位置する。西側をSI752に切られ、東壁際で大型の単独柱穴P-40に切られていた。また、北半分ほどは攪乱によって床面まで削平されている。

平面形は、方形と推定され、規模は、南北1.6mとしか分からないが、小型の住居跡であることは間違いない。主軸方位は不明である。

北側半分の壁はすでになくなっているが、確認面と床面の高低差から20cm強ほどの深さと考

えられる。床面は比較的堅緻である。

竈は、削平によって北東隅部にわずかに掘り窪めた燃焼部の火床面が残るだけで、少量の焼土と粘土があった。竈長軸は、北壁に直交し、南北方向を指している。

遺物は土師質土器片1点だけである。

SI754住居（図面101、図版26-6～8・27-1～5）

EQ・ER-78～80区（僧寺中軸線からN289～293m・E235～241m）に位置する。南半分ほどを攪乱で失い、西側が南北にSK2757・2773に切られている。

本住居は2回の建て替えが行われ、その都度拡張されている。最初の住居からSI754a・b・cとする。

754a住居は、規模は北壁の2.9mしか判明しないが、南北は3.0m以上あり、平面形は主軸側の長い長方形である。主軸方位は、a・bがN5°E、cがN94°Eを指す。

壁は不明だが、幅20～30cm、深さ10cmの周溝が巡っている。床面はIV層中の地床で、竈前面が固くなっている。掘方はb・cによって掘り直されているが、中央部はa～cまで共通して島状に掘り残されている。竈は北壁中央部に設けられており、燃焼部の楕円形の掘方だけが残り、浅い窪みとなっている。わずかに被熱の痕跡がある。

SI754bは、SI754cの床面をはずして確認された。平面形は方形で、SI754aを拡張している。拡張は北・東・西方向へ拡張されている。南側もおそらく拡張されたものと思われるが、攪乱のため不明である。その結果、南北は3.6m以上、東西4.2mで、面積13.5㎡以上となる。主軸方位はSI754aと同じである。

壁は北壁だけが残っており、高さ約30cmで、ほぼ垂直に掘られている。壁下には幅20cm、深さ15cmの周溝が巡る。北東と北西隅に直径25cm、深さ50cmのピットが掘られている。

床面はSI754aの床を数cmほどはずして検出された。堅く踏みしめられており、とくに竈前面が顕著である。西側は軟弱であった。

竈は、北壁の拡張にともないSI754aの位置からわずかに北に移している。少量の粘土と焼土が残されていたが、ほとんど掘方だけとなっていた。竈とその周辺からは、竈の芯材としていたと推定される瓦が出土している。SI754cを作るときにそのまま貼床内に埋められたものであろう。

床面の二箇所に皿状に浅く掘り窪めただけの炉が設けられている。いずれも火床面がガリガリに焼け固まっていた。小鍛冶炉を想定して調査したが、鉄滓・鍛造剥片などは確認できなかった。

SI754cは、SI754bをさらに拡張して作られるが、それと同時に竈の位置が東へ移されている。

遺物は、そのほとんどがSI754cのもので、北壁際に多い（図版27-3）。

SI755住居（図面103、図版27-6～8）

EQ・ER-80・81区（僧寺中軸線からN290～293m・E242～247m）に位置する。

住居南側を大撓乱で破壊され、SK2701・2756・2809・2839土坑、P-383・543に随所で切られている。重複関係は、SI755→SK2756→SK2701土坑の順で新しくなる。確認面はⅢa層中である。

平面形は方形で、規模は北壁の4.1mしか分からない。主軸方位はN96° Eを指す。

壁は、約10cmの高さでほぼ垂直に掘られている。壁下には周溝が巡り、全周していたものと推定される。周溝底面には、10個の小ビットが穿たれているが、間隔は一定していない。

床面は、東側半分ほどと北西部が貼床で、西側に一部Ⅲb層中の地床である。貼床部はⅢ層の暗褐色土を埋め戻している。貼床面は堅く締まっており、地床面は相対的に軟弱である。床面上には焼土が何箇所も点在していたが、炭化材はなく、焼失住居かどうか不明である。

竈（図面103、図版27-7）は東壁に粘土で造り付けられている。南半分を撓乱で壊され、北側をSK2839で失い、真中をP-543が重複していて、竈本体はわずかしが残っていない。

遺物は多いが、小片がほとんどで、これという傾向を示さない。

SI756住居（図面104、図版28-1～6）

EQ・ER-83・84区（僧寺中軸線からN289～293m・E250～254m）に位置する。

南西隅部がわずかに撓乱で切り落とされていた。東壁北側でSK2994を切り、南西隅部の一部で道路状遺構SX6と重なる。SX6はこの付近では掘り込みを持たず路面が明瞭でなく、痕跡程度に硬化していただけだが、覆土上面を路面が覆って締まっていた。確認面はⅢa層中である。

平面形は端正な方形で、規模は東西3.7m、南北3.8m、床面積10.3㎡である。主軸方位はN81° Eを指す。

壁はほぼ垂直に28cmほど掘り込まれている。壁下には、竈部分を除いて幅20～30cm、深さ約20cmの広めの周溝が全周している。

床面は中央部が島状に掘り残されて地床となっている以外は貼床であった。北壁下に沿って軟弱な部分が見られたが、他は概して堅緻であり、とくに竈手前から住居中央部にかけては顕著に堅くなっていた。

竈は東壁中央やや南寄りに黄白色粘土で造り付けられているが、粘土の流出が激しく、両袖も崩れていて一部しか残っていなかった。壁への掘り込みは半円形で、奥行き40cm、幅110cmである。竈内には芯に用いられた瓦片があったが、右側壁に立っていた数枚を除いて原位置を留めていない。燃焼部掘方には6基の小ビットが穿たれている。

貯蔵穴は竈の右側住居南東隅部に設けられている。周溝と重なっているが、区別が付かな

かった。不整形な長方形で、底面には凹凸があり、きちんと掘り込んでいないようである。最深度で約20cmと浅い。貯蔵穴内からは、土器・須恵器・瓦片が乱雑な状態で出土している。

出入り口ピットと考えられるいわゆる梯子穴が、竈の対壁(西壁)中央部下で確認されている。

竈右手前の床面上に焼土が堆積していたが、性格は分からない。

また、本住居は覆土の状態に特徴が見られた。竪穴住居が約20cmほど埋没した段階で3・4・5層上面に広く斑状の硬質面が形成されており、用途は不明だが竪穴埋没過程で窪地が再利用されていたことが推定された。

遺物は多いが、床面から覆土にかけて散乱した状態で一定の傾向を示さない。

SI757住居 (図面105、図版28-7・8、29-1)

FB・FC-83・84区 (僧寺中軸線からN305~308m・E251~254m) に位置する。

建物基礎の攪乱によって南東隅部から東壁の2/3を失っている。

平面形は端正な長方形で、規模は東西3.6m、南北2.1m、床面積6.1㎡である。主軸方位はN100° Eを指す。

壁はほぼ垂直に14cmほど掘り込んでいる。壁下には幅15cm、深さ約10cmの周溝が北西隅部を除いて全周している。床面は全面貼床で、7~8cmほどの厚さで貼っていた。東側半分が堅緻である。

竈は確認されなかったが、攪乱部の東壁側南寄りに設けられていたものと推定される。

遺物は、床面から覆土にかけて散乱した状態で出土している(図版28-8)。厚い板状鉄製品(図面147-1、図版65)は北壁際から出土した(図版29-1)。

SI758住居 (図面105、図版29-3)

調査区の北端、GC-72・73区 (僧寺中軸線からN366~367m・E218~221m) に位置する。

北側約2/3ほどが調査区外に掛かり、東側でSK2900と道路状遺構SX6に切られている。

平面形は、南側の一部だけしか残っていないが、方形を呈するものと推定される。規模は、南壁の2.4mが判明している。

壁は、垂直に30cm掘り込まれ、壁下には幅25cm前後の幅広の周溝が巡っている。南西隅部の周溝底面には小ピットが1箇所あった。

床面は、全面貼床で比較的硬質であった。貼床は厚さ12~13cmで、それをはずすと比較的平坦な掘方が現われ、南西隅部に貯蔵穴状の土坑が発見された。床下土坑の可能性もあるが、新旧二時期の住居とすれば旧住居の貯蔵穴の可能性もある。

竈は、調査区外にあって調査できなかったが、貯蔵穴が南東隅部にあることから東壁に設けられていた可能性がある。ただし、調査境の東西断面に粘土の流出は観察されなかった。

貯蔵穴は深さ14cmの不整形円で、周溝に接している。中からほぼ完形の土師器杯(図面147-

2、図版65)が出土した。

遺物は少なく、散在していて、これといった傾向は見られない。

SI765住居（図面105・106、図版29-4・5）

FE・FF-84・85区（僧寺中軸線からN314～316m・E253～256m）に位置する。

東壁と北西隅部を攪乱で失い、覆土西側がちょうど床面まで攪乱されている。拡張建て直しがあり、古いほうをSI765a、新しい土をSI765bとする。SI765aは、SI765bの貼床をはずした段階で住居中央部西寄りに南北の周溝が検出されて確認された。

SI765aは、正方形の平面形で、南北2.6m、東西2.4mで、床面積は5.1㎡である。主軸方位は、竈の位置を765bと同じとすればN107° Eを指す。

床面は平坦ではあるが、薄く貼ってあったようで、北壁際と南西隅部側にテラス状の掘方の掘り残しが認められた。

SI765bは、765aを西へ1.4mほど拡張して造られ、東西方向の長方形となっている。

壁は、垂直に18cmほど掘られていた。壁下の竈以外のところには周溝が巡っている。

床面は、拡張部の西側半分ほどがIV層地山の地床で、後は薄くロームブロックなどで貼ってあった。全体に良好な床面であるが、特に中央部から東寄りがよく締まっていた。

竈は、南東隅部の東壁に設けられているが、攪乱で燃焼部の中ほどから煙道部がなくなっていた。左袖部にあたる位置には白色粘土が流出していた。掘方は不整槽円形で西側が焚口になっている。燃焼部には支脚と思われる長さ20cmの自然石が倒れていた。

遺物は、特に特徴的な出土状態は示さず、住居内にまばらに散在していた。

SI766住居（図面106、図版29-6）

EM・EN-64・65区（僧寺中軸線からN278～280m・E199～200m）に位置する。

III層掘削中、調査区の西壁に掛かった縄文時代の大形土坑を検出するために、西側を拡張する途中に確認された。西側が調査区外にあり、東側は削平されて失い、中央部を溝SD384が南北に切っている。残存状態は非常に悪い。確認面はIIIb層上面である。

平面形は方形と考えられるが、壁がほとんど削平されており、周溝によって範囲が確定されたので、規模は南北長2.2mしか分からない。

床面はIIIb層中の地床で、わずかに堅くなっていた。竈その他の施設は不明である。北壁周溝内に小穴があるが、本住居にともなうかどうか不明である。

遺物は床面に貼り付いて4点の土器片があったにすぎない。

SI767住居（図面106・107、図版29-7・8）

FH・FI-65・66区（僧寺中軸線からN322～325m、E197～199m）に位置する。北側および西側が調査区外のため、住居の全容は明らかではない。北側覆土上層がSD389に切られ、竈の

南側は一部削平されている。

平面形は方形と推定されるが、規模・面積は不明で、確認された規模は、東壁で1.8m、南壁で1.0mである。主軸方位はN92° Eを指す。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、一番深い所で50cmである。竈より北側の壁下内側には幅23cm、床面からの深さ4cmの周溝が確認され、周溝の南端には径10cm、床面からの深さ8.8cmの小穴が認められた。床面はロームの地床で、ほぼ平らである。

竈は東壁南端を掘り込んで構築されていた。壁への掘り込みは幅90cm、奥行き80cmの楕円形を呈する。煙出し部には底部を欠いた土師器の甕が口縁部を下にした状態で利用されていた。側壁は黄白色粘土と黒褐色土で構築され、側壁の両側には構築材である瓦を据え付けたと考えられる窪みが認められた。右側壁部分には女瓦を直立させ、芯材として使用していた。袖は長さ14cm～15cm、幅12～32cm、高さ8～18cmほどで、ローム粒子混じりの黄白色粘土で造り出されていた。掛口は32×32cmの円形で、土層断面図の10層の堆積状況から明瞭に認められる。火床は35×55cmの範囲を隅丸方形に掘り込み、30×35cm、厚さ4cmの範囲で赤く焼けていたほか、下部のロームが熱を受けガサガサしていた。火床の奥壁はほぼ垂直に立ち上がり、煙道は緩やかに傾斜する。

焚口は規模20×28cm、床面からの深さ38cmに掘り込まれている。

南東隅には規模28×60cmで、平面形が隅丸方形を呈する貯蔵穴が認められた。断面はU字形で床面からの深さは38cmである。

覆土は黒色土を主体とした自然堆積層である。

周溝付近には西側の調査区外に続く性格不明の溝が確認された。確認された長さは62cm、幅10～14cm、床面からの深さ14cmである。

遺物は竈付近から多数の土師器の甕が出土したほか、貯蔵穴から土師器の坏、土師質土器の坏、瓦が出土している。

出土遺物総数は164点で土師器坏10、甕111、不明5、須恵器A坏1、不明1、土師質土器坏4、高台付坏2、男瓦10、女瓦18、不明1、縄文土器1点が出土した。

(4) 溝状遺構

今回の調査で7条の溝状遺構が調査された。

SD57溝状遺構（図面76）

GA-67・68区で確認された。本溝は、第51次調査の西側延長部分で、今回9m分が確認され、総延長71mとなった。重複関係はSK2898を切り、前回の第51次調査で道路状遺構SX6に切られていることが明らかにされている。

幅50～60cm、深さ20cmで、断面は浅いU字形をなす。覆土は二層に分かれ、1層黒褐色土、2層暗褐色土で、どちらも締りがある。出土遺物はない。

SD381溝状遺構（図面76、図版30-1）

ES・ET-74～85区にかけて東西に位置する。SB208を切る。

全長32mが調査されたが、東西両端は削平されて浅くなって消えていくので、本来はさらに延長する。幅50cm前後、深さ10cmほどである。覆土は単層だが、所々で焼土を含む。

遺物は、土師器・土師質土器・須恵器片など24点が出土した。

SD382溝状遺構（図面76、図版30-1）

ES-77～79区にかけて東西に位置するが、西側で北西に向かって曲がり、その部分で幅が広がっている。

全長8mが調査されたが、全体に削平されており、さらに東西に延長するものと思われる。最大幅1.6m、深さ0.15mである。覆土は単層の部分が多いが、最大幅のところで二層に分かれる。ローム粒子を微量含んだやや締りのある暗褐色土が基調である。

遺物は、土師器・土師質土器・灰釉陶器片6点だけである。

SD383溝状遺構（図面76、図版30-2）

EM-FG-67・68区にかけて南北に走る。SI742・SI746・SI747・SI750を切っている。

北は削平され、南は調査区外に延長する。わずかに曲がるが、ほぼ直線的に延びている。現長47m、幅50cm前後、深さ15cmほどである。覆土は単層で、I b層が混じる暗褐色土である。

遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器などの細片45点と板状の青銅製品（図面150-1、図版66）がある。

SD384溝状遺構（図面76、図版30-2）

EM-FH-65・66区にかけてやや東に傾きながら南北に走る。SI743・SI766を切っている。

北は削平され、南は調査区外に延長する。現長44m、幅30cm～80cm、深さ10cmほどである。覆土は単層でI b層の混じる暗褐色土で、部分的に焼土が混入している。

遺物は、土師器・須恵器の細片6点と釘3点（図面150-2・3・4、図版66）、不明鉄製品1点（図面150-5、図版66）、青銅製針金（図面150-6、図版67）が出土した。

SD385溝状遺構（図面76、図版30-3）

FD-72～76区にかけて東西に走る。重複はない。

全長9.2mと短い、東西の両端は立ち上がり完結している。最大幅1.7m、最深部で0.35mである。中央部から西と東端は一段深く掘り込まれている。覆土は黒褐色土で7層に分層される。一部に焼土・炭化物が少量混じる。

遺物は、土師器・土師質土器・灰釉陶器片16点がある。

SD386溝状遺構 (図面76)

ES～FB-86区にかけての南北溝である。重複はない。

現長12mだが、南北両端は、削平されており、さらに延長する。覆土は単層で、1b層の混じる締りの弱い暗褐色土である。

遺物はない。

SD389溝状遺構 (図面76)

FH-66区で確認された東西溝である。SI767住居を切っている。

東は削平され、西は調査区外に延び、2m分だけ調査できた。幅60cm、深さ15cmである。覆土は黒褐色土でⅢ層ブロック、微量の焼土を含む。方向からみて、第51次調査のSD58溝の延長部の可能性が高い。

遺物は須恵器小片1点だけである。

(5) 土 坑

総数228基の土坑は、形態・規模から次のように分類される。

円形系統 円形の土坑。不整円形土坑を含めて83基 (36.4%) がある。

楕円形の土坑。不整楕円形土坑を含めて64基 (28.1%) が調査された。

長楕円形の土坑。長軸が短軸に対して極端に長い土坑で3基 (1.1%) がある。

方形系統 ほぼ正方形の土坑。隅丸方形2基を含めて15基 (6.6%) が確認された。

長方形の土坑。隅丸長方形を含めて33基 (14.5%) がある。

狭長な長方形の土坑。10基 (4.4%) が調査された。

不整形な土坑 20基 (8.8%) がある。

土坑の分布は、ほとんどが調査区中央部のFGライン以南に集中するという顕著な傾向を示している (図面77)。第51次調査の12基と今回調査した調査区北端の9基の計21基を除いて、総数の約9割が南半部に位置している。この南北の対照的な在り方は、一見して異常とも捉えられる。

個々の土坑については、図面と表を参照していただき、主要な土坑を報告することとする。

SK2699土坑 (図面108、図版30-5～7)

本土坑は、ES・ET-82・83区 (僧寺中軸線からN298m・E84m) に位置する。重複関係はない。

平面形は、卵形に近い楕円形である。西側に浅い張り出しがある。長軸2.7m、短軸1.6m、深さ54cmの大型土坑である。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底面は緩やかな凹凸があるが、ほぼ平坦である。

本土坑の特徴は、覆土各層に焼土が含まれていることである。とくに2・4層は厚い焼土層となっており、微細な炭化物が混じっていた。これらは自然流入ではなく、投棄されたものと考えられる。

また、破片とはいえ、遺物が多いことも特徴の一つで、土坑で最多の土器類154点、瓦22点を数える。完形の土師質土器皿（図面150-11、図版67）は焼土（2層）の上面に置かれたような状態で出土した。1点だけだが、椀形滓（図面150-14、図版67）も出土している。

SK2703土坑（図面108、図版30-8・9）

本土坑は、EM-71区（僧寺中軸線からN276m・E214m）に位置する。南東部でSI752と小さく重複するが新旧は不明で、北東隅と南側を攪乱で壊されている。

平面形は、狭長な長方形である。唯一残った北西隅は直角になっており、端正な長方形をしていたものと思われる。全長は南側の攪乱のため不明だが、現長で2.4mを計る。攪乱の幅は、1mで、その南には延びていないので最長でも3.4m以内の長さの中に収まる。幅は最大1m、最小0.7mで、南側が狭くなっている。深さは二段掘りとなっているため、南北で異なり、南側で約20cm、北側で50cmである。

土坑は、断面逆台形に20cmほど掘削し、さらに北側を長さ1.36m（底面105cm）、幅70cm（底面50cm）の長方形に30cmほど掘り込まれていた。一段目の底面は凹凸があるが、二段目の掘り込みの底面は平坦に整えられている。

覆土は六層に分かれる。注意されるのは、二段目の掘り込み底面から壁に沿って見られる多量のロームブロック・粒子が混ざる3層暗黄褐色土と、その中に包み込まれるように収まる断面箱型の2層黒色土である。この2層は軟質で締りがなく、腐植土と考えられる。さらに、その上の土坑全体を1層黒褐色土が覆っていた。

この覆土の状態からは、2層は有機質の腐植土層で木質の構造物（箱・棺など）の存在を示唆し、3・4層は土坑と有機質の間に詰め込まれた土と推定され、木質構造物痕跡（2層）と裏込め（3・4層）、そしてそれを被覆する埋土（1層）と見ることができる。

二段目の掘り込みの長さが1mほどと短いのが気になるが、本土坑は墓坑の可能性が高いものと考えられる。そうであれば、3層上面から出土した完形の鎌（図面150-15、図版67）は副葬品と考えられよう。

SK2756（図面111、図版27-6・31-2）

本土坑は、ER-81区（僧寺中軸線からN291m・E243m）に位置し、SI755住居を切り、西側でSK2701に切られている。

平面形は比較的整ったやや胴の張る隅丸方形を呈し、長軸1.55m、短軸1.26m、深さ66cmの大きさである。壁はほぼ垂直に立ち上がる箱型をしているが、東側では壁の中位以下がオー

パーハングし、北東隅部でもっとも顕著である。底面は平坦で小穴が8箇所確認された。

覆土には、各層で多寡はあるものの、焼土・炭化物粒子・ロームブロック・皿層ブロックが含まれており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は、土器類102点や瓦7点のほかに、錐・棒状鉄製品の2点の鉄製品と鍛冶関連遺物が含まれていることが特徴的である。

出土状態には、これといった特徴はなく、下層から上層まで満遍なく出土している。

鍛冶関連遺物は、大小12点の鉄滓・鉄塊系遺物2点・2cm以下の微細な炉壁片と思われる発泡した粘土小片がある。鉄滓は径5cmほどの碗形滓から直径5mm前後の粒状滓までである。

鉄滓（図面150-24、図版67）は不整三角形の碗形滓である。鉄滓（図面150-25、図版67）は、碗形滓で、側縁部はすべて破面となっている。

また、覆土中に厚さ1mmほどの微細な剥片状の薄い銅片が混じっている。緑青を吹いており、銅製品の一部と思われる。

この付近に、SI755住居廃絶時以降の鍛冶関連遺構があつて、焼土などとともに廃棄されたものであろうが、本土坑が廃棄のために掘削されたかどうかは分からない。

他に、1点だけだが、炭化種子が出土している。

SK2807土坑（図面113・図版31-10）

本土坑は、ES-78区（僧寺中軸線からN294m・E234m）に位置する。重複関係はないが、東に浅い攪乱が入っている。

平面形は、端正な長方形を呈し、角も直角に整えられている。壁は垂直に掘られ、きれいな箱形をなしている。長軸1.56m、深さ69cmである。

覆土は十二層に分層され、各層は北壁側に乱れはあるが、ほぼ水平に堆積しており、概して全体に硬く締まっている。ほとんどの層にローム粒子が混じり、少量だが、焼土・炭化物が混入する。埋め戻された土坑と思われる。

遺物は、須恵器大甕片を含む93点・瓦5点と釘状の棒状鉄製品（図面151-7）がある。

SK2809土坑（図面114、図版31-11）

本土坑は、ER-81・82区（僧寺中軸線からN292m・E246m）にあり、SI755住居を切っている。西側にテラス状の張り出しがあるが、別の遺構かもしれない。

平面形は、隅丸長方形だが、東壁は円弧を描き、全体に丸みが強い。長軸2.24m、短軸1.16m、深さ47cmの大型土坑である。

壁は、わずかに傾斜するものの、ほぼ垂直に掘られている。底面は平坦で20個の小穴があるが、並ばない。

遺物は図示できるものはないが、比較的豊富で土器類93点・瓦17点が出土している。

SK2813土坑 (図面114、図版31-12)

本土坑は、ES-76・77区 (僧寺中軸線からN294m・E228m) に位置し、東側でSK2814土坑を切っている。

平面円形の土坑で、長径1.46m、短径1.2m、深さ70cmで、比較的大きな部類である。覆土各層にⅢ層・ロームブロックを含み、埋め戻されたものと考えられる。

遺物は、須恵器大甕を含む土器類21点、瓦1点、鉄滓 (図面151-8、図版67) 1点がある。

SK2839土坑 (図面115、図版32-3・4)

本土坑は、EQ・ER-81・82区 (僧寺中軸線からN291m・E243m) に位置し、SI755住居を切る。確認面はSI755住居覆土上層である。

平面形は、比較的端正な隅丸長方形で、長軸1.5m、短軸0.94m、深さ0.66mの大型土坑である。壁は東壁と南壁東半分以外は小さく内傾し袋状に掘り込んでいる。底面は平坦に整えられ、直径10cm内外、深さ5~10cmほどの小穴が12箇所あるが並ばない。西壁下の小穴は斜めに掘られていた。

覆土は、九層に分層され、焼土・微細な炭化物、ロームブロック・粒子が混じっている。焼土・炭化物はSI755住居の覆土・床面上からも多量確認されていることから、本土坑使用後埋め戻しの時に混入したものが含まれることが考えられる。

遺物は、土坑内各層から土器類51点、瓦5点が出土した。これらの中には、本土坑掘削にともなってSI755住居から混入したものが含まれていることが考えられる。

灰釉陶器輪花段皿 (図面151-10、図版67) は、土坑中央部の覆土2層から出土した1/2ほどの破片である。位置関係から見て、埋め戻しの最終段階直前で埋められた可能性がある。内底面とその割れ口に朱墨の痕跡があり、断面に顕著である。おそらく、朱墨を溶いているときにヒビが入り、その隙間に朱墨が侵入したものと思われる。

SK2699・2813・2839の3基の土坑では、接合しないが同一個体と考えられる須恵器の大甕片が出土している。破片がもっとも多く出土したSK2813を基点にするとSK2840は12m、SK2839は15m、SK2699とは18m離れている。SK2840が径約1m、深さ35cmとやや小振りだが、他は大型土坑である。これらは覆土の状態から埋め戻された形跡がある。とくにSK2699・2839・2840は、量の多寡はあるものの覆土に焼土・炭化物・ロームブロックや粒子を含み、同様の組成をなしている。SK2813も各層にローム粒子やブロックが混じっている。こうしたことから、3基の土坑はほぼ同時に掘削されていたことが考えられる。

一方、SK2756・SK2809・SK2839は、近接して不規則ながら長軸を東西に揃えて並び、形態・底面の小穴・覆土の状態などに共通する点が多い。これらもほぼ同時に掘削された可能性

がある。

(6) 道路状遺構 (図面120・121、図版33-4～8)

道路状遺構SX6は、第51次調査で検出された道路の南北延長線上で、北へ6m、南へ53mが確認され、その結果、調査区内で南北総長97mが調査されることとなった。本道路状遺構の北側延長部分では107次・201次・429次(国分寺市遺跡調査会1999)・444次調査でも確認されており、総延長は約600mに及んでいる。

主要な重複関係は、北からSI758を切り、SX237に切られ、SB210・SK2698を切り、南でSD381に切られ、SI756の覆土上面を覆う。その他随所で多くのビット・土坑と重なり、新旧関係の判明しないものもあるものの、多くは道路のほうが新しい。

道路状遺構は、地形の傾斜に沿って北から南南東に向かってほぼ一直線で緩やかに下っており、その延長方向の国分寺崖線下には、今も豊富な湧水を湛える真姿池が存在する。FC-79区で南西に向かう幅1mほどの枝道が派生しているが、4mの長さしか確認できなかった。

最大幅は北端(GB-74区)の2.9mで、南へ向かうほど少しずつ狭まって、もっとも狭いところで1.3mほどとなる。

道路は浅い皿状の掘方内に土を固めて普請されているが、FC-80区あたりから南側では、それ以北のように掘方を設けず、たんなる踏み分け道のような硬質面であり、堅い路面は確実に続くものの、後世の填圧が加わったこともあり、路肩が不明瞭で道幅は厳密には把握されない部分もあった。しかしながら、南側だけが全体に削平を受けていたとも考えにくいので、本来道の造りが異なっていたものと思われる。

残存状態のよい北端部では、最深部40cmの浅い掘方内に累積する4面の路面が確認されているが、場所によっては2～3面のところもあり、FC-80区以南では1面だけである。

本道と枝道が交差する付近では、粗密はあるが、瓦・土器類・石が敷き詰められるような状態であった。泥濘など路面に対する一時的な補修の際に入れられたものと推定される。

また、道路に沿って小穴がまわりつくように密集する部分があり、先の第51次調査と同様の状況であった。

出土遺物には、土師器・土師質土器・須恵器・灰釉陶器・瓦・中近世陶器・カワラケがあり、瓦・須恵器が圧倒的に多い。女瓦にはSI740住居竈内出土のものと接合する例がある。

時期は、道筋が変わっていなければ、重複関係から上限がSI756・758・SB210の廃絶以降、つまり11世紀中にあり、下限が時期不明のSD381・SX237以前である。

遺物の上では2～3面から出土した13世紀前半の捏ね鉢(図面151-15、図版68)・カワラケや17世紀後半の瀬戸美濃系碗(図面151-16、図版68)(註1)などの破片があり、本道路状遺構が

生活道路として長く活用されていたことを示している。

(7) 不明遺構

とくに図示していないが、不明遺構SXとして40基の遺構を調査している。ほとんどは土坑状のもので、形態からは土坑と区別できないものも含まれるが、I b層主体の軟質の覆土のものが多く、概して新しい時期のものが多いと思われる。

その中でもSX221畝状遺構（図面75）は、EM～EP-74～80区に位置し、東西に平行する9条以上の畝で構成される。最長部で約9m幅50cm、深さ約10cmである。畑跡と推定される。覆土は軟質で表土のI層が主体である。本遺構にともなう遺物はないが、覆土の状態から近世以降の所産と考えられる。

(8) 小 穴

今回調査された小穴は1157基あり、第51次調査の1245基を加えると2402基となる。前回の調査では、SD57溝とSX6道路状遺構との相関が指摘されているが、SX6周囲に関しては前回ほどではないけれども、今回も同様の状態で道路本体（図版33-9）とその南東延長部（図版33-10）に相対的に多い傾向が見られる。

小穴は、粗密を見せながら調査区全体に分布する。部分的にはFC84区周辺にも密集する部分があり、ごく簡単な小屋掛けや囲いなど何らかの屋外施設・構造物が考慮されるが抽出できない。

EN-73区のP-40（図版33-11）は、掘り鉢状を呈するが柱痕があり、須恵器などの遺物（図面151-20・21、図版68）が出土している。

EN-68区のP-70（図版33-12）は、SI750を切っており、底面付近から鍔金具（図面151-22、図版68）が出土している。

ER-81区のP-595からは、2枚の女瓦が重なって出土している（図面152-5・6、図版33-13・14、図版68）。覆土には多くの皿層・ロームブロックや少量の少量を含んでおり、埋め戻されたものと思われる。性格は不明だが、人為的に瓦が埋置されたものであろう。

2. 出土遺物

本調査で出土した遺物は、土師器・土師質土器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦埴類・金属製品（鉄製品・青銅製品）・鉄滓・石製品（砥石）など多岐にわたり、総量は整理箱で約170箱に及んでいる。他に、炭化材・種子などの自然遺物も出土している。それらはほとんどが堅穴住居から出土したものであるが、他の遺構からも少なからず出土している（第49表）。

当然ながら、土器類がもっとも多く、瓦埴類が次いでいる。土器類の器種構成は、甕・坏を主体とするこの時期の一般的な傾向と同様である。

土師器は、甕・台付甕・小型甕・坏・皿があり、32点を図示した。甕・坏がほとんどを占め、須恵器坏・土師質土器坏とともに日常什器の主体となる。内面を黒色処理された坏も少量出土している。

土師質土器は、坏・埴・皿・耳皿があり、30点を図示した。ほとんどが坏・埴である。SI740住居出土の耳皿（図面124-4、図版59）は例外的なものである。

須恵器は、坏・埴・甕があり、49点を図示した。大甕など接合しない同一個体の破片から図上で復元したものもある。

灰釉陶器は、埴・皿・段皿があるが、小片が多く絶対量も多くはない。9点を図示した。

緑釉陶器は、遺構外から埴の小片が1点出土しただけである。

瓦埴類は、鎧瓦・字瓦・男瓦・女瓦・熨斗瓦・塼が、破片が多いものの1133点の量が出土している。その多くが竈の用材として転用されたものと思われるが、SI749住居の完形塼は作業台に転用されている。これらは僧尼寺から持ち込まれたものと思われる。

個々の遺物の説明は、遺物一覧表を参照していただき、主要な遺物については小結でまとめることとする。

VII 小 結

1. 旧石器時代

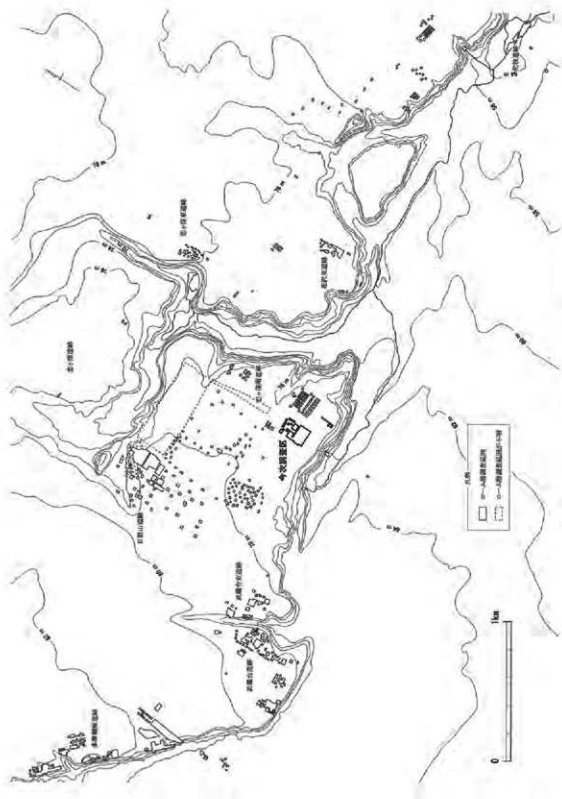
武蔵国分寺跡遺跡の今次調査区は、野川源流域の武蔵野段丘面上に位置している。この武蔵野段丘は北を野川源流である恋ヶ窪谷によって解析され、南は同じく野川源流域の大形湧水群のひとつである真姿の池などに由来する野川のもう一方の源流によって解析されている。この台地を中心とする野川源流域の武蔵野段丘面は、第5図にみられるようにこれまで非常に高密度にローム層の調査が行われており、旧石器時代の遺跡立地を高精度に分析する上では極めて良好なフィールドである。

今次調査でも6448.8㎡にわたる広範囲においてローム層の調査が行われ、良好な資料が得られた。6箇所の石器集中部から検出された193点の石器は、出土層位とナイフ形石器の技術形態学的特徴から武蔵野Ⅱb期前半のいわゆる砂川期の所産として評価された。

6箇所の石器集中部のうち確実に同じ機会に残されたと推定されるのは接合関係をもつST38とST40の2箇所のみで、その他の4箇所はST41を除くと立地も孤立している。ST38、ST40、ST41の立地からみて、崖線に近い南側の調査区外にもブロックが続く可能性が高いと考えられるため、必ずしも全体が明らかになったわけではない。しかし、調査区内で検出された6箇所の石器集中部は、1箇所から2箇所の石器集中部が散漫に残され、それが一定の時間幅のうちに累積した結果と考えられる。

このように小規模なブロック群であるが、ST40では1個体の石刃石核を用いて、集約的な石刃生産が行われていたことが接合資料（接合1）より明らかとなった。利根川上流の三国峠に分布する赤谷層に由来する黒色頁岩（bsh 1）が利用され、砂川期の典型的な石刃生産技術を示す良好な接合資料である。技術的な特徴をみると、打面は上下に設定されているものの、剥離の前半段階は上設打面の調整が、石刃剥離の合間に頻繁に行われているが、剥離の後半段階になると下設打面の調整と下設打面からの剥離が頻繁になっていた。そのため下設打面の調整と下設打面からの剥離は、上設打面の調整に代わる石核調整と考えられた。またST40では石刃生産ばかりでなく、チャートを用いた粗雑な石刃生産と、一般剥片生産も行われていた。複数の剥離技術が選択的に運用されていることが理解できる。

ST38、ST40の石材構成をみると、石刃接合資料が残された赤谷層黒色頁岩を主体にして、これに高原山南麓に産する寺島累層珪質頁岩が組み合わされている。この組み合わせは近隣の日影山遺跡で確認され、武蔵野台地の砂川期の石材構成の基本パターンの一つでもある赤谷層黒



第5図 野川上流域の旧石器時代遺跡ローム層調査範囲

色頁岩とチョコレート頁岩の組み合わせの変異体と評価される。高原山はチョコレート頁岩が採取される会津盆地以北の石材産地と関東地方南部を結ぶ途中経路に位置しており、東部関東では高原山周辺産の珪質頁岩は、チョコレート頁岩の代替石材として消費されている例も多く認められるためである。これに加えて当調査区ではチャートによる粗雑な石刃生産と一般剥片生産が伴っていたが（接合2、3）、日影山遺跡でもこの石材構成をもつブロック群では、チャートや中生代珪質頁岩による一般剥片生産をともなっており、この点も共通する。

これに加えてST40では局部磨製礫も検出された。軟質であるが緻密な扁平礫を素材とし、礫の縁辺の細い面が機能部となり、度重なる擦痕によって形成された面が複数観察された。そして擦痕面の顕著な端部の反対側の端部には、90度方向からの打撃によって形成されたと考えられる剥落痕が観察される。少なくとも二通りの方法によって使用されたことが理解される。この点は小金井市荒牧遺跡（第1文化層）（国武2002）で検出された同種の石器と酷似する。

砂川期の石器集中は周辺においても多数検出されている（第6図）。この時期は遺跡の規模の差が明瞭に分かれており、5～6箇所の石器集中部からなるブロック群が複数大規模に集合し、この時期の石材構成のすべてのパターンを網羅する大規模遺跡が少数ながら流域の一定の範囲において立地する傾向がある。野川源流域では恋ヶ窪谷を北に望む日影山遺跡を中心にした範



第6図 野川上流域の砂川期の消費石材別分布図

囲がそれに該当することが第6図から読み取れる。この観点からみると、当調査区で検出された砂川期のブロック群はチョコレート頁岩（あるいは高原山周辺産珪質頁岩）と黒色頁岩を石刃生産の主要石材とする類型の小規模な消費地点として評価されることになる。

2. 縄文時代

(I) 早期の遺構（第7図）

本遺跡からは縄文時代早期から後期までの遺物を検出した。早期の遺物がもつとも多く、特に燃系文系土器がまとまって出土している。

本調査区周辺地域は、国分寺崖線に沿って点在する多喜窪遺跡として周知されており、地域ごとに西からA・B・C・D地点に分けられている。本調査区は多喜窪遺跡C地点にあたり、早期燃系文系の遺物・遺構が主体的に出土する地域として認識されてきた。

今回の調査によって、早期前半燃系文期の竪穴住居は5軒（SI759J～SI763J）と第51次調査のSI171J住居と合わせて6軒を数えることとなった。住居以外にも、陥穴を含む土坑も当該期に属するものが多いかと考えられるが、時期を決められる土器の出土が少なく、不明な点是否めない。

6軒の竪穴住居は、隅丸方形を基調として不整形な形態をとる。床面からは多数の小穴が検出されているが整然とは並ばない。SI759J・SI762Jでは住居中央部附近で方形の掘り込みが確認された。いわゆる灰床炉と思われる（今村1985）。これらは当該期の住居に共通する特徴である。

住居群は、国分寺崖線からやや離れた台地上にあり、調査区の中央部寄りの東西30m、南北15mの範囲に小群をなして分布している（第7図・図面25）。住居群のすぐ南側は、大きな攪乱に遭っており、そこにも何軒かの住居の存在が推定されるが、そこから南には拡がらない。調査区外西方にも住居群の拡がりが考慮されるけれども、本調査区のまとまりのある在り方から推察して、住居があっても大きな拡がりは期待できそうにない。

したがって、本住居群は比較的完結性の高い状態を示しているものと思われ、多くても6軒＋数軒であったことが推定される。その中でも二箇所（SI759J・SI761J、SI760J・SI763J）で重複があり、少なくとも二時期を経ていることが確実である。出土土器は、稲荷台式～稲荷原式土器が主体を占めるが、SI759J・SI760J・SI763J住居の近接性から、あるいはさらに細分されるかもしれない。

こうしたことを勘案すれば、一時期2～3軒で構成される集団の集落と考えられ、当該期の集落単位を考える上で良好な資料と考えられる。

一方ほぼ同じ頃、調査区の南西隅部には、大型遺物集中部であるSX246Jが形成されている。

積し、その形状・規模から住居またはそれに準ずる施設とは考えられず、特異な遺構である。土器・石器の出土量も非常に多く、その異質性を際立たせている。それらの遺物は一括投棄の様相が濃厚で、性格は不明だが、当該期の一括資料として良好な資料である。

186基の土坑のうち、土器が出土した33基は、量も少なくその帰属性の問題があるが、SK2979J・SK3055J・SK3076Jの3基を除いて早期の土器が出土している（第8表）。早期でも燃系文系土器が多いが、SK3113J土坑は沈線文系土器（20点）のみの出土に限られ、当該期の土坑と考えられる。

(2) 中期の遺構（第8図）

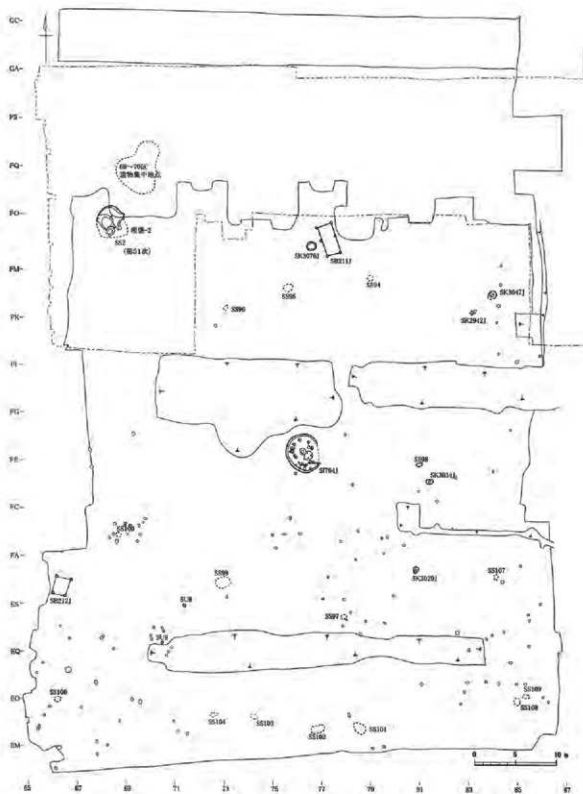
本調査区周辺地域は多喜窪遺跡として周知されており地域毎にA・B・C・D地点に分けられている。本調査区は多喜窪遺跡C地点にあたり、早期燃系文系の遺物・遺構が主体的に出土する地域として認識されてきた。中期の遺構群は多喜窪遺跡A地点に集中しており、この地域では早期の遺物・遺構は極端に少なく、時期によって遺構群の立地に顕著な違いがあると考えられてきた。

今次調査において検出された中期の遺構群は、五領ヶ台期のSI764J住居・SX239J・SU9屋外埋甕と加曽利E式期のSK2979J・3055J・3076J土坑・SS100集石・SU8屋外埋甕および覆土の特徴から中期の遺構と考えられるSB211J・212J掘立柱建物である。特にSK3076J土坑は大型の甕と小型の甕が伏せた状況で埋置されており埋葬遺構と推測されるが、こうした遺構が単独出土することは崖線際や野川源流域の遺跡には類例が少ない。

また、先述したように本調査区に近接する地区での発掘調査で五領ヶ台期、加曽利E式期の遺構群そのものが検出されていないことから、これらの遺構は、ほぼ単独の住居あるいは極めて少数の土坑・建物群である。多喜窪遺跡A地点や恋ヶ窪・窓ヶ窪東遺跡における中期遺跡群の中核を成す時期は勝坂様式・加曽利E式期の土器群を主体とする遺構群であり、また、当該期の住居や土坑は集落を成し、墓坑群を形成する事が常態である。よって本調査区周辺の中期遺構の性格は、単独の五領ヶ台期の住居分布や加曽利E式期の墓坑の分布から、従来設定されていた集落や墓坑群とは異なった性格をもった地域であると推定される。

多喜窪遺跡A地点や恋ヶ窪・窓ヶ窪東遺跡等湧水源をひかえた地域では比較的大規模な集落を形成していることから集落の形成条件に湧水の状況が影響していると仮定すると、あるいは本調査区直下の湧水点の水量が減少・枯渇し、その時期に大規模な集落が形成されなかった可能性も指摘されよう。また、湧水の状況とは無関係に当該地区の立地条件に集落を形成しない何らかの要因があったことも考えられる。

Ⅶ 小 結



第8圖 縄文時代中期遺構分布図

(3) 土器について

沈線文系土器から条痕文系土器について

本調査区からは、縄文時代早期中葉沈線文系土器と後葉の条痕文系土器が比較的まとまって出土した。既往の調査例では、早期初頭燃糸文系土器の出土量が圧倒的であったことから、多喜窪C地点を当該期の遺跡として一括することが多かった。しかしながら、本報告の検出遺構説明の項や第8表の縄文土器出土集計に示したように、燃糸文系土器が遺構・遺構外関係なく調査区全体から出土しているのに対し、沈線文系土器はSK3113J・SX246J・遺構外条痕文系土器SK2912J・遺構外から出土しており比較的集中して出土する傾向が認められた。

本稿では当該期の土器を検討し、本調査区における早期中葉沈線文系土器から後葉の条痕文系土器への変遷の様子について観察する。ただし、縄文時代早期の遺物包含層が約20cm程度しかなかったことから、当該期の遺物・遺構の時期を層位ごとに確認することはできなかった。そのため、変遷の様子については文様や調整技法の特徴の変遷についての考察であり、層位の上下関係の裏付けはなされなかった。

①沈線文系土器の分類

第Ⅰ群 田戸下層式 波状口縁で尖底のキャリバー型の器形を呈す。全体の色調は灰色がかった茶褐色で、胎土は細砂粒が多い。文様は半截竹管によるやや太めの沈線で波状、平行線等を描く。これらの沈線で区画された中に刺突文や貝殻腹縁等を連続あるいは圧痕として施文する

a類…半截竹管による沈線文によってやや太めの波状、平行、曲線、幾何学線等を描く一群。

図面60-17、図面67-50（口縁部に細沈線による縦位の集合沈線）・51・52・54・55

b類…半截竹管による沈線文によって区画された中に刺突文や貝殻腹縁等を連続あるいは圧痕として施文する一群。図面60-14~16、図面67-53

第Ⅱ群 田戸上層式 波状口縁でキャリバー型の器形を呈し、口唇部に刻みを施す例もある。全体の色調は暗茶褐色で、胎土は細砂粒が多く、繊維を含む土器も多い。文様は半截竹管による細い沈線で波状、平行線等を描く。これらの沈線で区画された中に刺突文や貝殻腹縁等を連続あるいは圧痕として施文する。

a類…半截竹管による沈線文によって細めの波状、平行、曲線、格子、幾何学線等を描く一群。図面59-4・5、図面60-20・22・23、図面54-3（外面に丁寧なヘラミガキ）、図面67-57、図面68-1・2・12・13（角押文による区画）・15~17・20~23・30・32、図面69-1・5・10~12・14~18・21・22（細沈線による条線）・24~29・31・34・36・37・39~42・44

b類…半截竹管による沈線文によって区画された中に刺突文や貝殻腹縁等を連続あるいは圧痕として施文する一群。図面48-26、図面53-13・14、図面60-18・19・21・24、図面67-58・59、図面68-3・4・～10・11・14・18・19・24～26・31・33、図面69-2・3・4・6～9・13・19・20・23・32・33・35・38・43・45

c類…無文、色調・胎土から当該期と判断した一群。図面49-9、図面59-1（ヘラミガキ顕著）、図面67-56、図面69-21、図面69-30（不規則な擦痕）

第Ⅲ群 沈線文系無文土器 胸部一括資料である。色調は主に赤褐色を呈し、丁寧な擦痕の上に縦位のヘラミガキが施され、光沢感を持つ土器もある。器面に凹凸が著しい土器も認められる一群。

a類…比較的丁寧に器面調整される一群。図面57-7、図面58-4・5、図面69-46・47・59（顕著な擦痕）

b類…ヘラミガキが顕著で光沢感のある一群。図面57-32、図面69-48・49・51

②条痕文系土器の分類

第Ⅰ群 子母口式 平口縁で尖底、口縁部にかけて湾曲の少ない深鉢型を呈する。色調は概ねやや暗めの赤褐色で、胎土に少量の繊維を含む。粗い器面調整で、条痕による整形痕も認められる。文様は底部の一部に列点状の刺突を巡らす例がわずかに認められるが、大部分は無文である。

a類…底部の一部に列点状の刺突を巡らす。図面55-25

b類…無文で条痕が認められる一群。粗い器面調整を施し、縦位のやや細く浅い条痕によって整形する一群、器面に凹凸が著しい土器もある。図面50-4、図面54-7・10・11・12・14・15・16、図面55-1・2・3・5・6・7・8・10・11・13・14・22・33

c類…無文。粗い器面調整を施されているが、器面に凹凸が著しい土器もある一群。49-9、図面54-8・9・11～13、図面55-4・9・12・15・17～21・23・24・31・32

第Ⅱ群 条痕文 器形を復元できる資料は出土していない。色調は主に茶褐色ないし黄褐色で、胎土に繊維を少量含む。概ね表裏面に条痕を施す。

a類…ミガキ等の器面調整の後に斜位・縦位の条痕を施す一群。図面70-9, 14, 18

b類…顕著な器面調整が認められず、斜位・縦位の条痕を施す一群。図面60-29・30・31・32・33・34、図面70-8～13・15～17

c類…無文、色調・胎土から該期と判断した一群。図面57-7・32（ヘラミガキ顕著）、図面60-19（横位の擦痕）・20～23、35～37

田戸下層式と上層式は、土器の色調と胎土の違い。および沈線の幅と貝殻腹縁文等の文様の

組み合わせによって分類した。また子母口式土器については大部分が無文であるがヘラミガキによる器面調整を施し、縦位のやや浅い条痕が認められることから、後続する条痕文土器と区別した。特に無文土器の分類において沈線文系土器第Ⅲ群として分類した沈線文系無文土器は子母口式の無文的な様相を持ちながらも条痕文系土器的な深く顕著な条痕が認められないことから、田戸上層式から子母口式への過渡期的様相を持つ一群として分類した。

また、SX239J出土の深鉢は(図面58-9、図版48)丁寧に器面調整された後、貝殻背圧痕文を器面全体に配している。貝殻背圧痕文を施す文様は田戸下・上層式に認められることから当該期の時期に相当すると考えられるが、口縁部下に二本の太い沈線で連弧文を描きその中に縦位の短沈線を4~5本配している。こうした文様は後代の文様要素にも認められることから時期の判別には注意を要する。

今時調査においては、特に沈線文系土器は無文土器を合わせると1080点を数え、良好な一括資料が得られた。また、SK2912Jからは子母口式土器が主体的に出土しており、条痕文系土器の遺構の性格を考える上でも重要である。

先述したように多喜窪C地点は早期初頭の遺跡として考えられてきたが、こうした土器群の検討から早期中葉までを含めた遺跡として捉え直す必要がある。

(4) 石器について

遺構外出土石器の平面分布

本調査において遺構外から出土した縄文時代の石器は635点である(第9表)。これらは、土器の出土状態・量との相関から早期・中期を中心に残されたものとみられる。

主な石器の種類と数量の関係を見ると、石鏃(15点)、打製石斧(62点)、磨製石斧(4点)、石皿・磨石・敲石類(190点)、スタンプ形石器(77点)、スクレーパー類(30点)、礫器(46点)、その他剥片類(182点)であり、相対的には打製石斧・スタンプ形石器・磨石・礫器が多い傾向にある。石器の垂直分布を観察するとほぼⅢb~Ⅲc層に集中しているが、器種・形態と土器の時期について層位的な相関関係を把握するに至らないので、ここでは遺構外の出土状況を平面分布から概観することとする。

石器は、調査区南側のEM-71~EO-86区、中央部に近いFJ-73~FL-75区、東側のEQ-81~FA-86区に集中する傾向にあり、順に第1・2・3地点と仮称する。

第1地点の石器は171点出土した。種類は多岐にわたっているが、石皿・磨石・礫器・打製石斧の出土がとくに多い。第2地点の石器は28点がある。出土石器の種類は少なく磨石・打製石斧・スタンプ形石器が主体的である。第3地点の石器は140点出土した。磨石・礫器・打製石斧の他にスタンプ形石器の出土が多い。

隣接する遺構群との関連を見ると、第1地点はSX246Jに隣接している。SX246Jからはスタンピング形石器が集中的に106点出土し、その他早期石器群に通有の石器群で構成されていることから、遺構形成の時期と第1地点石器群の形成には時期差があると推定される。またSX246Jは調査区外南西域に広がるのに対し、第1地点は調査区外南側に全体的に分布すると推定される。第2地点については東側に早期の遺構群として住居・炉穴・陥し穴・土坑・SX247Jが集中して位置し、石器群の時期とも相関性が認められることから遺構との密接な関連が推定される。第3地点は周辺に目立った縄文時代の遺構はないが、石器の出土数が多い。

以上の分布状況から、遺構群との関連性が指摘されるのは第2地点石器群であるが、石器の形状から見ると石核や不定形剥片類、未製品類は總体的に少なく、完成品や破損品が多いことから、製作跡というよりも廃棄・遺棄の結果による集中地点であり、これは他の二地点も同様と思われる。

3. 歴史時代

前章で見てきたように数多くの遺構・遺物が調査されたが、ここでは主要な遺物と集落の概要をまとめておくこととする。

(1) 土師器・土師質土器・須恵器・灰釉陶器

土器類は、膨大な量が出土しているが、基本的には8世紀後半（武蔵国分寺創建期）のものと10世紀～11世紀初頭（武蔵国分寺衰退期）のもので、その中間（武蔵国分寺再建期）のものは見られない。

8世紀の土器は、SI749住居出土のものに限られる。焼失住居の床面直上と竈からの出土で、一括性の高いものである。時期は、須恵器の特徴から8世紀第三四半期と考えられ、「国寺」墨書の甲斐型暗文土器も同時期とされる。

SI749住居では、南武蔵・北武蔵の土器に加えて甲斐型暗文土器が伴出していることから、彼我の間の土器編年のクロスデイトイングに有用な資料としても特筆される。

SI749住居以外の住居から出土した須恵器は、いずれも南多摩窯跡群G5・G14窯式の範疇に収まるものであり、10世紀代～11世紀初頭に該当する。

墨書・刻書土器

墨書には、「国寺」1点（SI749住居）・「丈」1点2字（SI765住居）・「乚」2点3字（SI741・754住居）・「卩」1点1字（SK2707土坑）のほか、不明の文字2点2字の7点9字がある。

SI749住居出土の甲斐型暗文土器の底部外面の墨書（図面135-3、巻頭図版2・図版62）は、墨痕の濃淡差が大きく肉眼では読み取りにくいが、赤外線モニター写真で「国寺」であることが

判明した。意味するところはいうまでもなく「国の寺」、つまり武蔵国分僧寺を指しているものと考えられる。当時、国分僧寺が「国寺」とも呼ばれていたことが推定される貴重な資料である。

SI765住居出土の須恵器杯（図面147-9、図版66）は、体部内外面に大小の「丈」が書かれている。内面の字は一部かけており、「大」とも読めるが、内外同一文字と思われる。「丈」は丈部との関連も想定される文字である。「仕」（図面129-7、図版60・図面141-1、図版64）は「廿」の数詞と読めるが、それだけではなく、草冠と見ることもでき、その表記だけで「花」の意とすることがあり、そうであれば法華滅罪之寺の「華」との関連も想定される（註2）。「卒」（図面150-16）は、欠けた部分が多いが、坏体部に逆位に書かれている。「奉」とする指摘がある（平川2000・荒井2003）。

刻書土器は、SI740住居の土師質土器耳皿の片側に書かれた針書きの「太」（図面124-4、図版59）とSK2698土坑出土の土師質土器の坏体部内面に正位に刻まれた「上」（図面150-7、図版67）がある。後者は焼成前に刻まれているので、製作地で書かれたものである。

転用碗

SI757住居覆土出土の灰軸陶器碗の底部片（図面146-9）は、内底面の全面に墨痕が付着している。重ね焼き時に上に重ねた碗の高台皿み付き部が剥がれて貼り付いた出張りまでよく磨られて減っており、かなり使い込まれていたことが示されている。

SI752住居の覆土上層から出土した須恵器大甕の破片（図面139-13、図版64）内面に、赤色顔料を溶いた痕跡が非常に薄く残っている。接合しないが、同一個体の3点である。擦った痕跡は見られないが、転用碗の一種と見られる。

SK2839土坑出土の灰軸陶器段皿（図面151-10、図版67）は、内底面とその割れ口に朱墨の痕跡があり、断面に顕著である。おそらく、朱墨を溶いているときにヒビが入り、その隙間に朱墨が嵌入したものと思われる。

(2) 瓦・埴

本調査区では、鎧瓦1点、宇瓦2点、男瓦447点、女瓦564点、鬘斗瓦3点、埴20点、種別不明の瓦が96点の計1133点の瓦・埴が出土した。

鎧瓦は、SI751住居から出土したが、瓦当面の欠損した男瓦部のみの小片のため図示していない。

宇瓦は、三重弧文（図面128-7、図版59）と内向する均正唐草文（図面147-10、図版66）との2種である。三重弧文は胎土から南比企窯跡群産である。

男瓦は、無段式（行基式）と有段式（玉縁式）とが確認され、多くは無段式である。有段式

男瓦は2点出土し、うち1点を図示した(図面136-2、図版63)。特殊な男瓦として、無段式であるが、玉縁付近に段差のある有段式男瓦特有の円筒形成形台を使用したものがある(図面136-3)。文字瓦は、押印「埤」・「大」(図面151-17、図版69)、ヘラ書き「父」・「方」?・「山」?などがある(図面140-3・148-8・151-1・152-7、図版70)。朱墨書は「寺」と読めるものが含まれる(図面125-2)。

女瓦は、桶巻き作りと一枚作りとがあり、桶巻き作りは2点出土し、両者とも凸面は縄叩き後に全面横位ヘラ削りを施す(図面137-4・5、図版63)。一枚作りは、縄叩きが多く、格子叩きは47点である。縄叩きの女瓦には、G5窯式期と類似した作りを持つものあり、同時期の男瓦も確認された(図面126-1・127-4・131-2・140-4・141-7)(板橋他2001)。特殊なものに凸面に砂(離れ砂)が付着した縄叩きの女瓦がある(図面144-7)。文字瓦は、押印「榛」・「荏」・「入」?・「父」・「瓦」・「川口瓦印」・「草瓦」(図面122-14・128-4・131-1・133-1・137-1・138-6・143-1・145-1・152-5・153-1、図版69)、型押「荏」(図面130-3・134-2・143-3、図版69)、模倣文字「生」(逆字)・「中」?・「上」(逆字)・「七」・「玉」?・「丙」・「工」・「十」?・「中」(図面127-1・2・128-2・3・131-3・140-5・145-2・146-1・149-1・2・151-5、図版69・70)、ヘラ書き「荏」・「瓦」・「田」・「右」?・「干」?(図面127-3・139-1・151-19・152-1・8、図版71)などがある。朱墨書には「寺」と考えられるもの(図面145-3)があるが多くは判読が不明である。

鬘斗瓦は、縄叩きが2点(図面128-6・153-3、図版59・68)、変形格子叩きが1点(図面128-5、図版59)出土した。図面153-3は、女瓦の3分の2ほどの大きさがあり、他2点に比べて大振りである。

埤は、胎土から南多摩窯跡群産と南比企窯跡群産とに分けられる。SI749住居出土のほぼ完形の埤は、一つの面だけに布目痕が全体的に残る(図面138-2、図版63)。他の埤は調整されており、布目の残るものはみられない。ヘラ書き「中」の文字埤が1点出土している(図面138-3、図版71)。

SI749住居出土の瓦・埤

出土した瓦・埤は、竈の構築材など本来の使用目的とは異なっており、また、どのような経緯で寺院地外の当地に持ち込まれたのかも不明であることから、瓦・埤の時期をそのまま遺構の時期とみることはできない。しかしながら、ある程度の傾向を知ることはできると思われる。そこで、一括性の高い土器の出土状態であったSI749住居の出土瓦・埤について若干の検討を加えたいと思う。

SI749住居は、本調査区において唯一武蔵国分寺の創建期に属する住居である。武蔵国分寺跡の創建期は、天平13年の国分寺建立詔が發布され造営が着手されたIa期、天平19年の郡司層

の協力要請を受けての造寺計画の変更と造営が終了するⅠb期（天平宝字年間頃まで）以降、塔の再建を中心とする整備・拡充期のⅡ期までをⅠc期とする。SI749住居出土の瓦・埴は、男瓦10点、女瓦17点、埴2点、種別不明瓦4点で、このうち時期比定が可能な資料は図面136-2・137-1・3~5・138-1~3）であり、Ⅰa期~Ⅰb期に比定される（註3）。出土状況は、図面137-3・138-2は床直出土で、それ以外は竈内からの出土である。

Ⅰa期の瓦は、図面137-1・4・5である。図面137-4・5（図版63）は桶巻き作りの女瓦である。図面137-1（図版63）は、凸面に押印文字「榑」が押捺される女瓦で、この押印はⅠ期の窯跡である多摩ニュータウン遺跡Na513遺跡5・7号窯で同印が出土する（加藤他1987）。しかしながら、当資料は胎土から南比企窯跡群産であり、南比企窯跡群で大規模な瓦生産が開始されたⅠb期に下る可能性がある。

図面136-2（図版63）は有段式男瓦で、胎土から南多摩窯跡群産である。南多摩窯跡群産の有段式男瓦は、Ⅰa期の多摩ニュータウン遺跡Na513遺跡（Na513遺跡）の4・5号窯、Ⅰb期の八王子市谷野瓦窯で出土する（内藤1961）。生産窯は不明であり、Ⅰa~Ⅰb期に比定される。

Ⅰb期は、図面137-3・138-1~3が挙げられる。図面137-3の叩きは、Ⅰb期の南比企窯跡群における瓦生産のセンター的施設であったと想定される雷遺跡のB2類の叩き同型である（金井塚1991）。B2が叩かれる女瓦にはⅠb期の金沢瓦窯で出土する押印「埴」（図面151-17と同印）が伴う。図面138-1の叩きは、Ⅰb期のNa513遺跡8号窯の出土女瓦に叩かれている格子F類と同型である（加藤他1987）。図面138-2・3（図版63）など埴は、Na513遺跡・瓦谷戸窯跡（松原1999）・石田瓦窯（渡辺1995）・久保1号瓦窯（金井塚1993）・金沢瓦窯・新沼窯跡（立正大学1979）などで出土しており、Ⅰb期を中心に作られ、これ以降は生産されていないようである。

以上、SI749住居の出土瓦はⅠa期~Ⅰb期で、明らかにⅠc期以降の瓦は確認できない。これらの瓦は、本来とは異なる使用目的で持ち込まれており、瓦の年代をそのまま住居の年代とみることができない。ただし、共存する土器が8世紀第3四半期であることとほぼ一致する結果が得られた。

榑沢郡の郡名文字瓦について

SI749住居から出土した図面137-1の文字瓦について、新たな知見が得られたので、若干触れておく。図面137-1は、押印「榑」が凸面に押捺されているが、この押印「榑」の文字瓦は、前述のとおり、南多摩窯跡群と南比企窯跡群との二箇所生産されていることが判明した。このことは、押印「榑」が両窯跡群間を移動したことを示している。武蔵国分寺跡創建期は、Ⅰb期に本格的な造営が開始され、瓦生産も拡大し、南比企窯跡群での生産が中心となる。このとき、南多摩窯跡群から南比企窯跡群へ瓦生産技術の導入があったことが指摘されており（渡辺1994）、押印「榑」の存在は、このような状況の一端を表すものとして注目される。

(3) 金属製品

鉄製品36点と青銅製品4点の計40点が出土している。主要なものを概観しておきたい。

鉄製品

農具・工具・釘・馬具・棒状鉄製品・板状鉄製品・その他が出土した。

農具には、鎌2点があり、いずれも完形品である。他に手鎌の破片と推定されるSK2866土坑出土の鉄製品(図面151-11、図版68)が出土している。

SK2703出土の鎌(図面150-15、図版67)は、長方形土坑中央部底面近くから、そこに埋置された状態で出土している。報告のとおり、木質痕跡があり、木箱・棺などが納められていた可能性がある。土坑本体の掘り込みの長さが1mほどと短いのが気になるが、本土坑は墓坑の可能性が高いものと考えられる。そうであれば、底面から出土した完形の鎌は副葬品と考えられよう。研ぎ減りはほとんど見られない。

SI747住居出土の鎌(図面134-4・図版61)は、完形だが、先端部寄りで折り重なるように曲がっている。明らかに人為的に曲げられたものであろう。こうした事例は刀子などの利器を含めて稀に見られる。

工具は、鉋(図面153-5、図版68)と鉋(図面150-21、図版67)があり、万能ナイフの刀子も便宜的にここに入れておく。鉋は鋒部と茎部を欠き、遺構外(FB-84区)から出土した。刃部断面は薄い蒲鉾型で鋸がなく大きく反り返っている。鉋は、鉄滓などの鍛冶関連遺物を含む大型のSK2756土坑から出土した。両端が尖り、一方に錆に覆われた木質らしき痕跡が残るが明瞭でない。

刀子は、3点出土した。SI756出土の刀子(図面146-2、図版64)は、茎部先端を欠くがほぼ完形で刃部よりも柄の方が長いタイプのものである。

釘(図面122-1、138-4・7・8、139-3、146-3、147-7、150-2・3、151-6、図版58、63、65~67)は10点あり、頭部形状の判明するものは、折頭形6点と無頭形2点である。他に、棒状鉄製品としたものの中にも釘が含まれる可能性が高い。

馬具は、SI754住居から鍔金具(図面143-5、図版64)が1点出土している。「コ」字状を呈し、両端に目釘が2箇所ずつ開く。

鍔金具(図面151-22、図版68)は、SI750住居を切るビット(P-70)から単独で出土した。環状部の下に脚が付かないタイプで、環状部から茎部先端までが通しで割りピンになっている。全長3.5cm。環状部から割りピンとなる茎部の折り曲げ部まで1.5cmで、その間に厚さ1mmの座金が2枚通っている。したがって、厚さ1.3cmの板に打ち付けられたものと考えられる。座金は下の一枚の一隅が残存しており、それから推測すると約3.0cm四方の方形となる。取り付けられた対象は、板材の厚さや大きさの釣り合いから見て、やや大きめの櫃類・箱・厨子などの

観音開きの扉などが考慮される。

銅脚（図面147-11、図版66）は、SI765住居から出土した。長さ5.8cmの短い獣脚で铸造品である。基部で大きく窄まり、そこから下に向かって少しずつ幅を減じる。断面は三角形で、各角は丸味をもつが明瞭な稜を作り出し、内側はわずかに凹面となる。一部に錆とは異なる赤い部分があり、赤色顔料の可能性があることが、処理を依頼した東芸（株）から指摘されている。

SI757住居出土の鍋底状の板状鉄製品（図面147-1、図版65）は、鍋釜としては最大厚1cmと厚すぎる感があり、X線写真で細い孔が一箇所確認されているので鍋釜の類ではないかもしれない。全容は不明としかいえないが、本体はかなり大きなものが想定される。

青銅製品は4点出土しているが、他に銅滓と思われるものが5点ある。

4点の青銅製品は、SD383溝状遺構と遺構外出土で時期不明だが、平安時代に遡る可能性は否定できない。用途不明のものばかりだが、きわめて薄い板状品や飾り金具の破片のようなものや針金状のものである。そのうち、遺構外出土の棒状品（図面153-7、図版68）は時期不明だが、一端に鉄の目釘が残っており、何かに打ち付けたことが確実である。本体は特定できないものの、装飾を兼ねた補強を必要とする器物と推定される。同じグリッドから出土した平行する沈刻文様を鑿て施した板状青銅製品（図面153-8、図版68）とともに、特異な遺物である。

ちなみに、これらの青銅製品・銅滓はすべて調査区南端付近から出土している。

本調査区での金属器の特徴は、種類・量がやや多いことである。

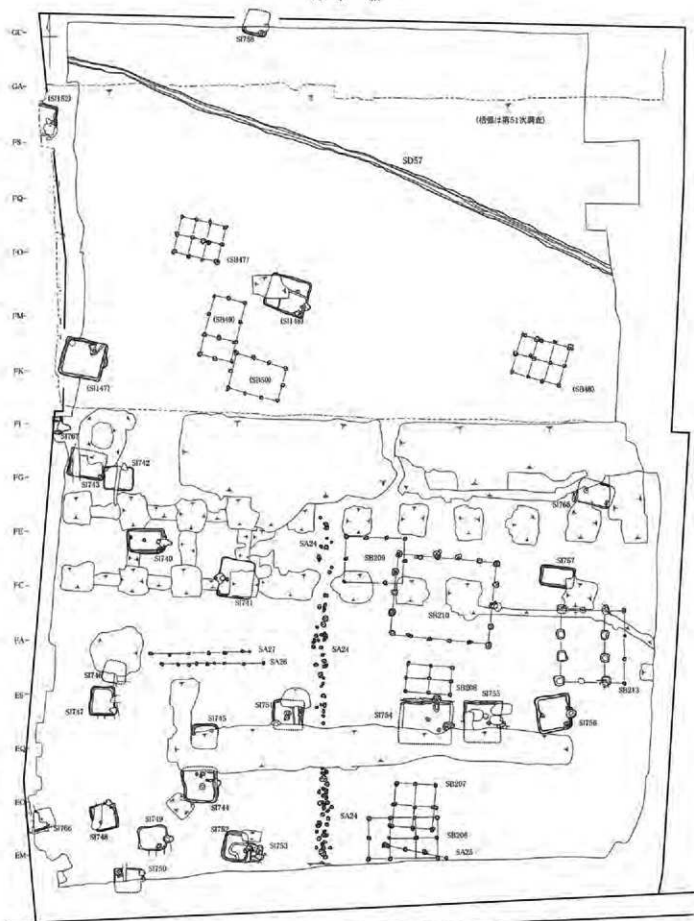
鉄製品は、今回出土した36点に第51次調査で出土した釘（SI48住居）と棒状鉄製品（SI47住居）の2点を加えると38点となり、青銅製品は、前回出土の海獣葡萄鏡を含めて5点となる。

用途を特定できない棒状鉄製品と釘がもっとも多くそれだけで24点になるが、一般集落では普通類例を見ない銅脚・鍔金具・厚みのある铸造板状鉄製品や、第51次調査で出土した海獣葡萄鏡を含む青銅製品など所有者層がある程度限定されうるようなものが含まれていることは、10世紀代の武蔵国分寺周辺集落の性格を考える上で留意されてよい。

(4) 調査区の遺構分布（第9図、図面75、巻頭図版1-1）

本調査区は、既往の周辺調査事例と比較し、SD23伽藍地北辺溝に近接した地区であり、北方地区の集落の様相を明らかにする上でも重要な地域である。

今回の調査で確認された遺構は、堅穴住居22軒・掘立柱建物6棟・柱穴列4条・溝状遺構6条・土坑228基・道路状遺構1条・小穴1107基である。調査区と同じくする第51次調査では、堅穴住居3軒（4軒が調査されているが、うち1軒は今回の調査区外に位置する）・掘立柱建物4棟・溝状遺構1本・土坑18基・小穴1297基があり、道路状遺構SX6とSD57は、今回その延長



伽藍地北辺溝SD23

第9圖 歴史時代主要遺構分布図

部が調査された。

これらを合わせると、本調査区では、竪穴住居25軒・掘立柱建物10棟・柱穴列4条・溝状遺構7条・土坑253基・小穴2454基・道路状遺構1本が調査されたこととなる。

これらの遺構のうち時期の判明するものは、武蔵国分寺跡創建期（8世紀後半）のSI749住居を除いて、すべて衰退期（10世紀代～11世紀初頭）に営まれているが、今回出土土器の詳細な検討ができなかったため、個々の遺構の時期差を明確にしえなかったので、遺構の分布から総体的にまとめておきたい。

8世紀後半の状況については不明な点が多く、現状ではSI749住居が単独で営まれていたとするほかない。遺構外から出土した土器の中にも当該期の土器らしきものは破片でもほとんどなく、少なくとも、調査区内ではSI749住居以外の生活痕跡は確認できない。唯一SI751住居の焼土が入った炉状小穴から出土した坏（図面138-10、図版63）が古相を示すが例外的である。

SI749住居の南側約7mには伽藍地北辺の溝SD23が東西に走っており、そのすぐ外側にあって主軸方位が溝とほぼ平行していることは、区画溝を意識して営まれていたことが考えられる。

北方台地上の周辺既調査区での状況との関係は後節に詳しいが、「国寺」銘墨書とも絡んで、創建期の国分寺との関連において、ある役割を担って本住居が営まれたことも考慮される。

10世紀～11世紀初頭の集落は、掘立柱建物・竪穴住居・柱穴列・溝・土坑・小穴群で構成されている。遺構の希薄な北側空地も集落構成を考える上で重要な部分である。

調査区内で見え限り、遺構は南半部（崖線側）に一定の密度をもって分布し、北へ向かうほど希薄になってくる。

集落は柱穴列・溝によって区画されていたことが推定される。整然とは並ばないものの、無数の小穴の中にも、部分的にそうした区画機能を果たしたものがあることも考慮しておかなければならない。

調査区北部では、北西西から南東東にかけて一直線にSD57溝が走る。SD57溝は、東端で最大幅1.4mを測り、西へいくほど幅を減じて50～60cmになり、最深部で30cmの溝である。前回の調査でSX6道路状遺構よりも古いことが確認されており、出土した土師質土器からG5～G14窯式並行期の年代が与えられ、掘立柱建物・竪穴住居などの建物群とほぼ同時に存在していたことが示されている。

SD57溝の周辺には小穴が無数にあるものの、溝から一定の間隔を置いて建物が建てられている状態であり、南側に展開する集落域を大きく区画する溝として機能していたことが指摘さ

れている。

そして、その中をさらに、柱穴列や空閑域で区画される状態が看取される。

僧寺中軸線に沿って南北に走るSA24柱穴列がいつ設けられたかは不明だが、柱穴が乱雑に並ぶ状況から、何度にもわたる補修が考えられ、比較的長期にわたって機能していたことが推定される。SB209・SI751のように2～3mほど近接する建物はあるが、掘立柱建物・竪穴住居のどれとも重複しないことは、建物群が継続した期間存続したことが考えられる。

SA24柱穴列は北半部には及ばないが、調査区南半を東西に二分し、東側には竪穴住居以外に掘立柱建物の存在が顕著で、西側には竪穴住居しか見られない。この現象は、調査区の東側と西側の調査を待たなければ詳細は不明としなければならないが、区画を示すものとしてきわめて示唆的である。今後の周辺調査の課題の一つとなるだろう。

そして、SA24柱穴列に直交するように5～6mほどの間を置いて、西側にSA26・27柱穴列が不揃いながらも東西方向に2列に並んでいる状態は、SA24柱穴列との関連性を窺わせるが、柱穴自体は比較的小規模で浅く、堅固なものでもないことから長期にわたるものではないかもしれない。

しかしながら、これらの柱穴列による区画の中に掘立柱建物・竪穴住居がほどよく分布する状態が看取され、集落の存続期間を通じて一定の区画意識が働いていたことを感じさせる。

SA24柱穴列の東側では、SB210掘立柱建物の南に3m離れて検出されたSB208掘立柱建物と16m南に位置するSB207掘立柱建物が主軸方向を揃えて整然と並んでおり、同時に存在した建物と考えられる。

SB207・SB208掘立柱建物は、総柱で倉庫の可能性が高い。SB210掘立柱建物は、面積98㎡に及ぶ大型掘立柱建物であるが束柱穴がない。土間の可能性もあり、規模から見ても一般的な住居ではないかもしれない。あるいは何らかの生業に関わる作業所のような建物とも考えられるが、遺物の上から検証する材料もなく、想像の域を出ない。

SA24柱穴列の西側は、さらにSA26・27柱穴列によって南北に区画される。その中の建物配置は現状では、竪穴住居で構成される。

SA24柱穴列の途切れる北側にも、前回の調査で確認された掘立柱建物（SB47・49・50）竪穴住居（SI48）などの遺構群が緩やかなまとまりを見せており、東西に区画された南域とは一定の距離を保つ。調査区の中央部に大きな攪乱があるため、南域の遺構群との連なりに不明な点もあるが、空閑地や柱穴列などによって区画されていた可能性がある。

以上のように、SD57溝以南では、SA24柱穴列によって東西に二分された南域（南域西側ではさらに南北に区画される）と、遺構密度がやや稀薄になるものの、北域とに区画される状態が見て取れる。

ちなみに、土坑の分布（図面77）も調査区南半に集中するといった顕著な傾向を見せている。時期は不明なものの、遺構の稀薄な北半部との土地利用の相違を際立たせており、建物密度の比較的高い場所での生活痕跡として捉えられる。

一方、SD57溝の北側は調査区内では、SI758住居1軒だけが確認されているだけである。しかしながら、そのさらに北方にも集落が展開していることは従前の調査で明らかであり、その間に空白域が存在していたことは明白である。こうした空閑地は、畑や雑木林のような景観も候補の一つにあげられるが、国分寺北方台地上集落の全体像の復元を行う上でも、その意味がさらに検討される必要がある。

前回の調査報告書で、すでに本集落はSD57溝と他の遺構の配置などから、本調査区を含む北方台地集落が「計画的集落」であることが指摘されているが、今回の調査結果からも追認・補強されるところである。

(5) 北方台地上の集落

武蔵国分寺跡は発掘調査によって明らかにされた寺地・寺域範囲の変遷と、検出遺構群・出土遺物の検討から創建期・再建期・衰退期の大略三期に区分して、その変遷を捉えている。なお、僧寺金堂跡を中心として府中市域にある推定武蔵国分寺参道口を南限として概ね東西1.5km、南北1.0kmに及ぶ範囲を寺地と仮称している。僧・尼寺それぞれの区画を伽藍地、僧・尼寺を含む外側の区画を寺院地と仮称している。

〔創建期〕国分寺が創建された8世紀中頃を中心に8世紀末。

〔再建期〕塔の再建（上限845年）を中心とする9世紀代の時期に当たり、塔の再建とともに僧尼寺の整備・拡充が行われたと考えられている。寺院地内に数多くの竪穴住居跡・掘立柱建物跡が出現する。

〔衰退期〕寺院地・伽藍地内に竪穴住居が進出する時期。10世紀中ごろから11世紀が考えられている。

本調査区は第2図に見るように、伽藍地から見ると北東城台地上にあたり、伽藍地北辺溝の外側に位置する。この地域は地形的に見れば国分寺崖線のうえで武蔵野段丘面の斜面際であり、既往の調査から僧・尼寺の北方台地上には集落が広がっていることが指摘されてきた。

本調査区周辺では、共同住宅建設工事等に伴う調査が比較的集中的に行われ、今次調査の成果を加えて41軒の竪穴住居が検出された。そのうち8世紀後半～9世紀初頭の竪穴住居3軒、10世紀後半から11世紀初頭の竪穴住居38軒を数える。特に第370次調査で検出された創建期代のSI457住居は2箇所の竈と棚状の付帯施設を持ち、規模は約8×8m、64㎡を測り、武蔵国分寺周辺集落最大の規模である（国分寺市遺跡調査会1994）。これに匹敵する規模を持つ竪穴住居

は、尼寺北方台地上の位置する武蔵台遺跡で検出された60号住居で約46㎡を測り、やはり2箇所の竈と棚状の付帯施設を持つ。大きさは異なるが構造は類似している。この例だけで判断することは危険であるが、創建期の竪穴住居の特徴には、大型で複数の竈を持ち棚状の付帯施設を持つ点が指摘されるが、具体的な住居の機能を出土遺物から検証することは困難である。

再建期以降の竪穴住居の配置についてみると、本調査区では東西方向の溝（SD57）と南北方向にほぼ一直線に並ぶ柱穴列（SA24）群に区画された中に計画的に配置されているように見られる。また、第509次調査区では伽藍地北辺溝の内側を調査し、10世紀後半～11世紀初頭の竪穴住居8軒を検出し当該期の集落分布が伽藍地内に大きく進出することを明確に裏付けている。

これに対し、本調査区の西側で僧寺北方台地上の様相は、平成8年～12年まで調査された市立第四小学校建設に伴う調査で須恵器等の検討から集落を5時期に区分し、各時期の竪穴住居の数を抽出した（国分寺市道跡調査会2003）。

1期…9世紀後半～10世紀初頭に位置づけられて6軒が検出された。2期…9世紀末～10世紀前半に位置づけられ、19軒が検出された。3期…概ね10世紀中葉を中心とした時期に位置づけられ、19軒が検出された。4期…10世紀中葉から末葉に位置づけられ、19軒が検出された。5期…11世紀初頭～中葉に位置づけられ、11軒が検出された。

本調査区周辺の集落の時期と比較すると当該地域では創建期に該当する時期の竪穴住居は検出されておらず、集落形成が開始される時期が異なっている。さらに住居形態を観察するとSI658住居（4期）・SI661住居（3期）は鍛冶工房と考えられており住居の機能が明確になっている。また住居群の周囲に比較的直線に伸びる小穴群や溝が走っており、何らかの規制の下に集落が配置されているようにも見て取れる。この傾向は、前項（4）調査区の遺構分布で述べているように、今次調査区においても柱穴列や溝によって区画された中に計画的な住居の配置が認められる。

最も住居が作られる10世紀中葉から11世紀初頭にかけて、北方台地全体にわたって集落が展開し、一部は寺院地内にまで進出するが、それは計画性を持った集落展開であると判断される。

4. 東京都国分寺市武蔵国分寺跡第563次調査出土試料の¹⁴C年代測定

小林謙一¹⁾・坂本 稔¹⁾・尾崎大真¹⁾・新免蔵靖²⁾

1) 国立歴史民俗博物館

東京都国分寺市武蔵国分寺跡第563次調査出土の、縄紋から岩宿時代（旧石器時代）の炭化材片と、縄紋時代土器付着物の¹⁴C年代測定を試みた。試料番号はTMKIとした。

TMKI-3（図面58-3、図版47）土器付着物。底部内面に煮げ状に付着。SK3076J（墓）出土の土器で、縄紋時代中期加曽利E3式新段階からE4式古段階に比定される。多摩武蔵野台地の縄紋中期土器編年、いわゆる新地平編年（黒尾・小林・中山1995）の12c期に相当する可能性がある。

TMKI-100 集石SS100Ⅲb層-NO1のクルミ殻である。加曽利E3式新段階からE4式古段階の土器（図面53-6・7、図版44）（新地平12c期か）が共存する。

TMKI4302 岩宿時代（旧石器時代）武蔵野10b層の炭化物集中SC49出土の炭化物No.236。細かく破砕し、樹種は不明である。これ以外にも、数点のローム層中の炭化物集中出土炭化物を前処理したが、微量なため、十分な炭素量を確保することができなかった。

TMKI4388（図面58-2、図版47）TMKI3と同じ、縄紋時代中期SK3076J土坑出土の土器内側に包含されていた炭化物である。細かく破砕し、樹種は不明であるが、クリなどの環孔材に類似する。

TMKI126（図面51-5、図版43）縄紋時代中期初頭の金魚鉢形を呈する深鉢形土器の胴部破片裏側に魚げ状に付着していた。この胴部破片は、SI764J住居の炉体土器の胴部破片と考えられる。この炉体土器は五領ケ台2a式（八辺2式相当）に相当し、新地平編年2期である。

1. 炭化物の処理

試料については、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において以下の手順で試料処理を行った。126は少量のため、③をベータアナリテック社に委託した。

(1) 前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

AAA処理は、土器付着物については、アセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した（1回）。AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1N-HCl）2回、アルカリ溶液（NaOH、1回目0.01N、2回目以降0.1N）4回、酸処理（240分以上）、水により洗浄（4回）を行った。炭化材については自動処理器で、80℃、各1時間、希塩酸溶液（1N-HCl）2回、アルカリ溶液（1N-NaOH）5回、酸処理（240分以上）2回、純水を使って洗浄5回を行った。

- (2) 二酸化炭素化と精製:酸化銅により試料を酸化(二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。
- (3) グラファイト化:鉄触媒のもとで水素還元しグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

2. 測定結果と暦年校正

AMSによる ^{14}C 測定は、加速器分析研究所(測定機関番号IAAA)に、依頼して行った。126は、炭素量が少ないため、ベータアナリティック社に委託した。

年代データの ^{14}C BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した ^{14}C 年代(モデル年代)である(^{14}C BPと表記)。 ^{14}C の半減期は国際的に5,568年を用いて計算する。誤差は測定における統計誤差(1標準偏差、68%信頼限界)である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を加速器により測定する。同時に加速器で測定した $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比は、標準体(古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比)偏差値に対する千分率 $\delta^{13}\text{C}$ (パーミル, ‰)で示され、この値を-25‰に規格化して得られる $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比によって同位体効果を補正する。補正した $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、 ^{14}C 年代値(モデル年代)が得られる。

$\delta^{13}\text{C}$ 値については、表には、加速器分析研究所による誤差を付して記す。126は、炭素量不足で、ベータアナリティック社が通常行う質量分析計での $\delta^{13}\text{C}$ 値測定は行われていない。

TMK13については、別に保存しておいた前処理済の試料を昭光通商に委託し、安定同位体分析を行った。 $\delta^{13}\text{C}$ は-25.2‰、 $\delta^{15}\text{N}$ は0.05‰、C含有量は43.9%、N含有量は0.78%であった。

測定値を校正曲線INTCAL98 (Stuiver, M. et al. 1998)と比較し、実年代(暦年代)を推定する。両者に統計誤差があるため、測定値と校正曲線データベースとの一致の度合いを、統計数的に暦年代の推定値確率分布として表す。暦年校正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いる。統計誤差は2標準偏差95%信頼限界で計算した。年代は、校正された西暦 cal BCで示す。第10図は、各試料の暦年校正の確率分布である。

五領ヶ台2a式期のTMK126は、3640~3500に81%の確率である。これまでの測定から、3520cal BC以前は十三菩提式期である可能性が高いため、3500cal BC頃と捉えておきたい。TMK13とTMK14388は、同一のSK3076J土坑出土の土器付着物と炭化材片で、誤差範囲内の年代を示している。土器は加曽利E3式新段階から加曽利E4式古段階に属し、新地平編年12c期であろう。両者の校正年代は2670~2560cal BCの年代において、最も高い確率で重なり、中期後半後葉の年代として整合的である。ほぼ同一時期の加曽利E4式土器を伴う集石出土の炭化材であるTMK100も、2705~2550cal BCにおいて最も高い確率を示し、整合的である。

TMKI100・4388の試料は、土坑内・集石内からの炭化材片の一部であり、もとの材の樹齢によつては、古木効果を考慮する必要もある。結果を見る限りでは、ほぼ土器と近い年代であるといえるものの、縄文期によく見られるクリ・コナラなどの雑木である場合、樹齢は30年～50年程度と考えられるので、校正年代の誤差範囲である可能性もあり、この事例だけでは判断できない。しかしながら、同様な他の共伴例で、類似した年代を測定することができるので、古木効果があるとしても数十年、おそらくは10年から30年程度であろう。

武蔵野X層出土の炭化物TMKI4302は、32000¹⁴C BPを示した。現時点では、1.2万年前までは、INTCAL98において、年輪年代で校正された暦年校正曲線が提示されているが、それ以前についてはサンゴ礁および湖沼堆積の年輪年代で校正が行われている(Kitagawa at all1998)(第11図)。この水月湖での年輪による炭素年代測定から推測すると、およそ34000年前ごろより以前の可能性がある。

この分析は、国立歴史民俗博物館 平成16年度基盤研究「高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究」(研究代表 今村峯雄)の成果を用いる。国立歴史民俗博物館今村峯雄教授には、暦年校正についてご協力を得ている。

＜参考文献＞

- 黒尾和久・小林謙一・中山真治1995「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」『シンポジウム縄文中期集落研究の新地平 [発表要旨・資料]』縄文中期集落研究グループ・宇津木台地区考古学研究会
- Hiroyuki Kitagawa and Johannes Van Der Plicht 1998 A 40,000-Year Varve Chronology from Lake SUIGETSU, Japan:Extension of the 14C Calibration Curve. *Radiocarbon* 40(1), 505-515
- Stuiver, M. et al. 1998 INTCAL98 Radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. *Radiocarbon* 40(3), 1041-1083.

表1 試料の重量・炭素含有率

No.	試料の重量 (mg)				含有 状態	含有 含有			
TMKI	採集	処理	回収	率1 %	精製用	ガス*	率2 %	率3 %	
3	59.1	44.02	16.37	37.2	やや良	5.45	3.04	55.7	20.7
100	786.6	47.25	21.64	45.8	良	5.70	3.56	62.4	28.6
126	55.9	33.99	1.12	3.3	M少	—	—	—	—
4302	119.3	36.28	12.23	33.7	良	5.50	3.32	60.3	20.3
4388	143.7	47.85	11.08	23.2	良	5.52	3.35	60.6	14.0

註) mはミネラル。ガス*は、二酸化炭素ガス圧からの炭素換算量(mg)。

含有率1は回収量/処理量、含有率2はガス相当量/精製用重量、含有率3は含有率1*含有率2。

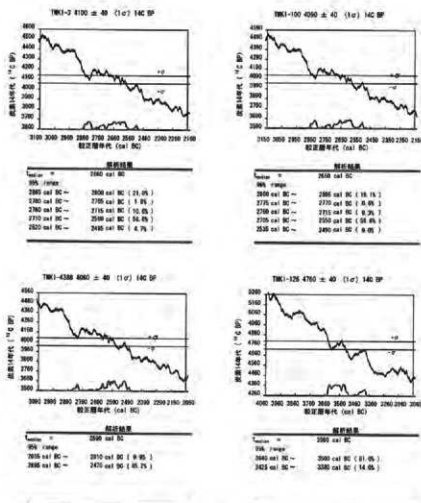
表2 測定結果と暦年較正年代

試料 番号	測定機関 番号	炭素年代 $\delta^{13}\text{C}_{\text{‰}}$	^{14}C BP (補正值)	暦年較正cal BC (2 σ) (%) は確率密度
TMKI 3	IAAA-40500	$-25.7 \pm 0.7^{1)}$	4100 $\pm$ 40	2865-2800 21.8%
		$-25.2^{2)}$		2780-2765 1.8%
				2760-2715 10.6%
				2710-2560 56.6%
				2520-2495 4.7%
TMKI 100	IAAA-40501	-21.7 ± 0.6	4090 $\pm$ 40	2860-2805 19.1%
				2775-2770 0.6%
				2760-2715 8.3%
				2705-2550 58.6%
				2535-2490 9.0%
TMKI 4302	IAAA-40502	-29.5 ± 0.6	31910 $\pm$ 240	—
TMKI 4388	IAAA-40503	-30.6 ± 0.6	4060 $\pm$ 40	2855-2810 9.9%
				2695-2470 85.2%
TMKI 126	Beta-197425	—	4760 $\pm$ 40	3640-3500 81.0%
				3425-3380 14.0%

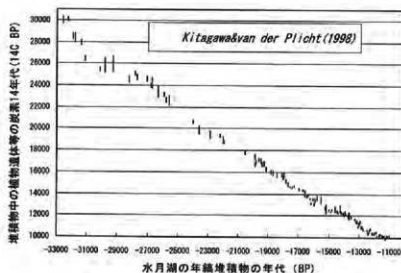
註 1) $\delta^{13}\text{C}$ 値は、加速器による測定である。

2) TMKI 3については、昭光通商に委託して、安定質量分析計で ^{13}C 値を測定しなおした。

Ⅶ 小 結



第10図 周年較正確率密度分布



第11図 年縞堆積物による暦年代推定 (Hiroyuki Kitagawa and Johannes Van Der Plicht 1998)

Ⅷ 総 括

武蔵国分僧寺の寺院地の北を画する東西方向の溝は、国分寺崖線上の武蔵野段丘面に存在していることが知られている。この溝は、中軸線の西方が住宅地となっているが、東方は比較的良好に残されている。かかる東方の区画溝の南、崖線下には「都名勝真姿の池湧水群」があり、段丘上には奈良～平安時代以前の遺跡が形成されている。この度、事前調査の対象となったのは西元町1丁目の「国分寺市遺跡Na19」とそれに接する地域であり、発掘の結果、予期した通り奈良～平安時代、縄文時代、旧石器時代の遺構・遺物が検出された。

奈良～平安時代の遺跡は、北側区画溝の北方から遺構（竪穴・掘立柱の住居など、柱穴列、溝、道路、土坑など）と当該時代の遺物（土器類、瓦類、金属製品など）が検出された。その多くは10～11世紀初頭に位置づけられるが、1軒の竪穴住居跡は8世紀後半の所産と目されるものであった。北限区画溝の北方に約7m離れた地に立地するこの竪穴住居跡は焼失されたものであり、須恵器・土師器など一括遺物として把握された。なかに「国寺」墨書の甲斐型暗文土師器があり、武蔵国分僧寺の創建期に“甲斐”との関連を示す資料となった。周辺各国と武蔵国分僧寺との関連を有する遺物として、すでに僧寺西方域において“下野”の瓦が見いだされ、彼我の交流を認識する資料として着目されているが、ここに“甲斐”との交流を示す資料が提供されることになった。10～11世紀の遺構は竪穴21軒をはじめ、大型掘立柱（4間×5間）と一体化した2棟の掘立柱遺構などが検出され、国分僧寺の衰退期における調査地域の有様を示している。それらに伴って多くの瓦埴、特に郡郷名瓦を含む文字瓦の出土は注目される、その多くは、僧寺あるいは瓦埴類ストック場所からもたらされ再活用されたものである。これらの示すところは、調査地域の歴史的状況を明らかにしたものとして評価される。

縄文時代の検出遺構（竪穴7、掘立2、集石16、炉穴5など）および遺物（土器、石器）のなかでも注目されるのは、早期前半の竪穴集落、中葉・後半の土器群とそれに伴う石器群であった。また、中期後半の坑中より2点の土器が出土し、壙と確認された。さらに同期の集石遺構も検出され、クルミの炭化種子が見出されたことは特記されるべきことであった。

旧石器時代にあつては、武蔵野Ⅱb前期前半～砂川期の黒色頁岩（群馬県三國峠付近産出母岩）の接合資料の検出は、ナイフ形石器の時期における広域交流の実態を示し、各種の石材（黒曜石・珪質頁岩）のあり方ともども野川流域に形成された旧石器時代後期の地域研究に有用な資料を提供することが出来たのであるが、あわせて、第Ⅸ層下部～第Ⅹ層上部にかけて炭化材の検出も注目されるであろう。

（坂 詰 秀 一）

註

1. 青山学院大学手塚直樹氏のご教示による。
2. 群馬県埋蔵文化財事業団高島英之氏のご教示による。
3. 瓦の時期比定は有古重蔵1994・1995・2001によるところが多い。

参考文献

- 荒井 秀規2003 「東国墨書土器研究の新視点」『駿台史学』第117号 駿台史学会
- 有古 重蔵1994 「武蔵国分寺」『シンポジウム関東の国分寺資料編』 関東古瓦研究会
- 1995 「武蔵国分寺の創建期瓦窯」『王朝の考古学』 雄山閣出版
- 2001 「軒先瓦、文字瓦から探る武蔵国分寺」『多摩のあゆみ』 たましん地域文化財団
- 今村 啓爾1986 「縄文早期の堅穴住居跡に見られる方形の掘り込みについて」『古代』80 早稲田大学考古学会
- 加藤 修他1987 『多摩ニュータウン遺跡昭和60年度「第4分冊」』 東京都埋蔵文化財センター
- 金井塚厚志1991 「埼玉県比企郡鳩山町 雷遺跡」 鳩山町教育委員会
- 1993 「埼玉県比企郡鳩山町 久保1号瓦窯跡」 鳩山町教育委員会
- 上敷 領久2005 「武蔵国分寺の集落について」『武蔵野』第81巻第1号 武蔵野文化協会
- 国武 貞克2002 「第2章 旧石器時代」『荒牧遺跡』 小金井市荒牧遺跡調査会
- 国分寺市1986 「国分寺市史 上巻」
- 国分寺市遺跡調査会1987 「恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報Ⅰー都営国分寺第8都営住宅建設に伴う調査ー」
国分寺市文化財調査報告第24集
- 1990 「恋ヶ窪東遺跡発掘調査概報Ⅰー山一証券国分寺独身寮建設に伴う調査ー」
- 1994 「武蔵国分寺跡発掘調査概報XIXー北方地区・リオン株式会社社新3号館等建設に伴う調査ー」
- 1999 「武蔵国分寺跡発掘調査概報XXIVー北方地区・三菱地所(株)共同住宅建設工事に伴う発掘調査ー」
- 2002 「武蔵国分寺跡発掘調査概報26ー北方地区・平成8～10年度 西国分寺地区土地区画整理事業および泉町公園事業に伴う調査ー」
- 2003 「武蔵国分寺跡発掘調査概報29ー北方地区・平成11～13年度 西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査ー」
- 坂詰秀一編1971 「武蔵新久窯跡」 雄山閣出版
- 1984 「八坂前」立正大学文学部考古学研究調査報告第2冊
- 坂詰秀一他2001 「南多摩窯跡群ー八王子市みなみ野シティ内における古代窯跡の発掘調査報告ーⅣ」 八王子市南部地区遺跡調査会
- 田村隆・国武貞克・吉野真如2003 「下野ー北総回廊外延部の石器石材(第1報)」『千葉県史研究』第11号 千葉県県史
- 東京都埋蔵文化財センター2003 「国分寺市 武蔵国分寺跡北方地区ー西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査ー」 東京都埋蔵文化財センター調査報告第136集
- 都営川越道住宅遺跡調査会 1999 「武蔵国分寺跡西方地区 武蔵台東遺跡」
- 都立府中病院内遺跡調査会1989～1999 「武蔵台遺跡」Ⅰ～Ⅳ

- 内藤 政恒1961 「八王子市谷野瓦窯跡調査報告」『多摩考古』第3号
- 平川 南2000 『墨書土器の研究』 吉川弘文館
- 松原 典明1999 東京都稲城市 瓦谷戸窯跡群発掘調査報告書 都内遺跡調査会瓦谷戸窯跡群調査団
- 武蔵国分寺遺跡調査団1985 『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅶ—北方地区・国際電信電話株式会社国分寺寮建設に伴う調査—』 国分寺市文化財調査報告第19集
- 立正大学1979 『考古学陳列室図録』
- 渡辺 一→1995 『埼玉県比企郡鳩山町 竹之城・石田・皿沼下遺跡』 鳩山町教育委員会
- 1988～1992 『鳩山窯跡群』Ⅰ～Ⅳ 鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会

国分寺市遺跡調査会組織

(平成17年3月現在)

—— 役員および監事 ——

会 長	坂 詰 秀 一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	藤 間 恭 助	元国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	星 野 信 夫	国分寺市長
理 事	大 平 恵 吾	国分寺市教育委員会委員長
理 事	野 村 武 郎	国分寺市教育委員会教育長
理 事	星 野 亮 雅	国分寺市社会教育委員
理 事	古 関 豊	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	関 口 雄基臣	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	北 原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	坂 本 克 治	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	宮 崎 賢 一	東京都教育庁生涯学習スポーツ部副参事(文化財担当)
理 事	小 林 文 治	国分寺市教育委員会教育部長
監 事	榎 戸 潔	元国分寺市社会教育委員
監 事	岡 崎 完 樹	東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課埋蔵文化財係長

—— 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会 ——

委 員	坂 詰 秀 一	(考古学) 立正大学文学部教授
委 員	藤 井 恵 介	(建築史) 東京大学大学院工学系研究科助教授
委 員	佐 藤 信	(古代史) 東京大学大学院人文社会系研究科教授

—— 事務局 ——

事務局 長	本 多 孝 一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局 員	太 田 和 子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局 員	齋 藤 美由紀	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事務局 員	松 崎 亜希子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事務局 員	中 倉 まり子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
事務局 員	稲 井 亮	国分寺市遺跡調査会

—— 調査団 ——

団 長	坂 詰 秀 一	立正大学文学部教授
主任調査員	福 田 信 夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	上 敷 領 久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課普及担当係長
調 査 員	上 村 昌 男	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調 査 員	中 道 誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	板 倉 歆 之	国分寺市遺跡調査会
調 査 員	合 田 芳 正	委託調査員
調 査 員	国 武 貞 克	委託調査員

調査の概要

調査区は、国分寺市西元町1丁目に所在する。武蔵国分僧寺跡北東の武蔵野台地南縁に位置し、調査区南端から南に7mには東西に走る武蔵国分僧寺北辺の寺院地区画溝SD23がある。

旧石器時代

石器集中部6箇所（Va層）、石器・剥片単独出土地22箇所（Va層・X層）、炭化物集中地区23箇所（Va層～X層）、土坑1（IV層中）が検出された。

遺物は、黒曜石・黒色頁岩・珪質頁岩のナイフ形石器、台形石器、槍先形石器、石核、敲き石、局部磨製礫、剥片・チップ類・礫が出土した。

6箇所の石器集中部の中でもST40では、直径約3mの範囲に石核・ナイフ形石器・剥片・チップ・礫など137点が出土した。そのうち特筆されるものは、群馬県利根郡新治村の三国峠付近で産出する黒色頁岩の接合資料である。石核を中心に約60点のナイフなどの製品や剥片が接合し、当該期の石器製作技法を検討する上できわめて良好な資料といえる。

SC43炭化物集中区では、IX層下位～X層上位にかけて、良好な炭化材（モクセイ科トネリコ属）が出土し、当時の植生を復元する資料を提供した。

縄文時代

竪穴住居7、掘立柱建物2、集石16、土坑184、炉穴5、小穴698、遺物集中区などが調査され、早期前半・中葉・後半、中期前半・後半、後期の遺物が出土した。

早期前半では、6軒の竪穴住居（SI171J・SI759J～763J）が確認された。住居の分布は、ほぼ完結した状態と推定される。2箇所重複があり、一時期2～3軒の小規模な集落を営んでいたものと考えられ、当該期集落の単位を検討するうえで貴重な資料といえる。

早期中葉は、まとまった資料が少ないといわれる沈線文系約1000点が出土している。

早期後半では、数多くの条痕文系土器・石器・剥片類・焼土が出土した直径約2.4m、深さ約1mの不整形の大型土坑SK2912Jがあるが、性格は不明である。

早期の遺物は、調査区南東部のSX246J遺物集中区（撚糸文系土器を中心に石器・剥片・焼石・礫約5800点出土）をはじめ、調査区の随所で多数出土している。石器には、早期に特徴的なスタンプ形石器・挟入磨石・局部磨製石斧などが多い。

中期前半では、SI764J住居が単独で発見された。住居内南側に、出入口施設と想定され、とくに深いビット4基が台形に並んでいた。

中期後半のSK3076Jは、直径約1m、深さ約60cmの円形土坑中に大小の完形の深鉢が2個並んで伏せられていた。周辺には当該期の遺構・遺物が希薄なことから、単独の墓壇と推定され

る。

SSI00集石は、一般的には土器がともなうことのないこの種の遺構としては珍しく、ほぼ完形に近い状態に復元される2個体の中期後半の土器が出土している。それだけではなく、クルミなどの炭化した種子10点以上が伴出していることも注目される。

時期を特定できないが、柱穴覆土の状態から中期と想定される掘立柱建物が2棟（2間×1間・1間×1間）検出できたことも成果の一つである。

歴史時代

竪穴住居22・掘立柱建物6・柱穴列4・溝6・道路状遺構1・土坑228・小穴1157が調査された。

竪穴住居は、焼失住居で多くの炭化材が発見されたSI479住居が奈良時代で、他は平安時代に属する。

SI740住居は、竈の残存状態が良好で瓦による竈芯の造り方がよく分かる好例である。

掘立柱建物は、2間×3間が3棟（SB206・209・213）、2間×2間が2棟（SB207・208）、4間×5間の大型掘立柱建物が1棟（SB210）の計6棟が調査された。

SB206・208・210は、軸を揃えて整然と南北に並んでいることから同時に存在していた可能性が高く、3棟が一体となって機能した建物群と考えられる。

柱穴列SA24は、調査区南部中央を国分僧寺中軸線に平行して、南北約40m、幅約1mの不規則に並ぶ柱穴群列で、大小約80本の柱穴で構成される。集落内を区画する施設と考えられる。

遺物は、土器類・瓦埴類・金属器類がある。

土器類は膨大な量が出土し、器種は甕・坏・埴・皿・耳皿などがある。

特徴的な土器に、SI479住居出土の甲斐型暗文土器があり、底部外面中央部に「国寺」の墨書が記されていることは国分僧寺との関連で重要である。

各種の瓦には、押印・模骨・へう書き・朱墨書などによる文字瓦34点が含まれ、「荏」「父」「榛」「埴」「川口瓦印」「草瓦」「瓦」「山」「中」「七」「上」「千」「田」「寺」などが判読できる。

金属製品は、鎌・釘・刀子・錐・鍔金具・釵金具・銅釜の獣脚などの鉄製品36点、飾金具の一部と思われる小片や針金状の青銅製品など4点がある。

報告書抄録

ふりがな	むさしこくぶんじあととつちようさがいほう30							
書名	武蔵国分寺跡発掘調査概報30							
副書名	北方地区・(仮称) 国分寺プロジェクト計画に伴う事前調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	国分寺市遺跡調査団(団長坂詰秀一) 合田芳正・国武貞克・上敷領久							
編集機関	国分寺市遺跡調査会							
所在地	〒185-8501東京都国分寺市戸倉1丁目6-1 国分寺市教育委員会内 ☎042-325-0111							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡	とうきょうとくぶんじし 東京都国分寺市 にしもとまち 西元町1丁目	13-214	19	35度 41分 09秒 ～ 35度 41分 30秒	139度 28分 12秒 ～ 139度 28分 47秒	2003.2.25 ～ 2003.10.25	6,298	共同住宅建 設計画に伴 う事前発掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
武蔵国分寺跡	集落跡	奈良・ 平安時代 縄文時代 (早～後期) 旧石器時代	奈良・平安時代 掘立柱建物 柱穴列 住居 溝 土坑 道路 小穴	6棟 4条 22軒 6条 228基 1条 1157基	奈良・平安時代 土師器・須恵器・土師 質土器・灰軸陶器 ・瓦・埴 ・鉄釘・鉄脚・金具 縄文時代 縄文土器・石鏃・打製石 斧・磨製石斧・スタ ンプ形石器・抉入磨 石 旧石器時代 ナイフ形石器・尖頭器・ 搔器・刮器・石核	奈良・平安時代 土師器・須恵器・土師 質土器・灰軸陶器 ・瓦・埴 ・鉄釘・鉄脚・金具 縄文時代 縄文土器・石鏃・打製石 斧・磨製石斧・スタ ンプ形石器・抉入磨 石 旧石器時代 ナイフ形石器・尖頭器・ 搔器・刮器・石核	甲斐型暗文 土器に「国 寺」墨書 墨色頁岩接 合資料	
		縄文時代 掘立柱建物 住居 屋外埋壺 土坑 集石 小穴 旧石器時代 石器集中部		2棟 7軒 2基 186基 16基 698基 6箇所				

表

第1表 旧石器時代遺物組成表

第1表-1 母岩別器種組成1 (石器集中部全体)

	ナイフ形石器	刮器	二次加工痕剥片	微細剥離痕剥片	剥片	砕片	石核	局部磨製礫	叩石	総計
an単	1									1
bsh1	6		1		73	14	1			95
bsh単	1									1
ch1				1	20	5	1			27
ch2	1				13	4	1			19
ch3						1	1			2
ch単				2	1	1	3			7
ssh1	1	1		1	11	4				18
ssh2					4					4
ssh3			1							1
ssh単				1						1
fl単							1			1
obl	1					10				11
sa単									1	1
tuf1								4		4
総計	11	1	2	5	122	39	8	4(接合して1個体)	1	193

第1表-2 母岩別器種組成2 (遺構外出土)

	槍先形尖頭器	ナイフ形石器	刮器	二次加工痕剥片	微細剥離痕剥片	剥片	砕片	石核	総計
bsh1						2			2
ch1						1	1		2
ch2						1			1
ch単	1	1				1	2	1	6
ssh2						2			2
ssh単						1		1	2
obl	1	8	1	1		2			13
sa単						1		1	2
総計	2	9	1	1	1	12	2	2	30

第1表-3 母岩別器種組成3 (ST25)

	二次加工痕剥片	微細剥離痕剥片	総計
ssh3	1	1	2
総計	1	1	2

第1表-4 母岩別器種組成4 (ST26)

	ナイフ形石器	砕片	総計
obl	1	10	11
総計	1	10	11

第1表-5 母岩別器種組成5 (ST38)

	ナイフ形石器	刮器	二次加工痕剥片	微細剥離痕剥片	剥片	砕片	総計
an単	1						1
bsh1				10	1	11	
ssh1			1	11	4	16	
総計	1	1	1	21	5	28	

第1表-6 母岩別器種組成6 (ST39)

	微細剥離痕剥片	剥片	砕片	石核	総計
ch単	1	1	1	3	6
fl単				1	1
ssh2		4			4
総計	1	5	1	4	11

第1表-7 母岩別器種組成7 (ST40)

	ナイフ形石器	刮器	二次加工痕剥片	微細剥離痕剥片	剥片	砕片	石核	局部磨製礫	叩石	総計
bsh1	6		1		63	13	1			84
bsh単	1									1
ch1				1	20	5	1			27
ch2	1				13	4	1			19
ssh1	1	1								2
tuf1								4		4
総計	9	1	1	1	96	22	3	4(接合して1個体)		137

第1表-8 母岩別器種組成8 (ST41)

	微細剥離痕剥片	砕片	石核	叩石	総計
ch3			1		2
ch単	1				1
sa単				1	1
総計	1	1	1	1	4

第1表-9 礫組成 (ST25)

	被熱	総計
破砕	10 (2309.3g)	10 (2309.3g)
総計	10 (2309.3g)	10 (2309.3g)

第1表-10 礫組成 (ST39)

	被熱	非被熱	総計
完形	4 (6044.9g)	1 (220.9g)	5 (6265.8g)
破砕	9 (1540.1g)		9 (1540.1g)
総計	13 (7585g)	1 (220.9g)	14 (7805.9g)

第2表 旧石器時代遺物属成表(1)

図面	番号	遺物番号	出土層位	母岩	産地	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	状態	打面	磨面
12	2	ST25	Va層	sah3	二次加工板石	20	16	4	1.2	完形	なし	なし
12	1	ST25	Va層	sah3	微細割断板石	30	21	8	11	完形	単面磨	あり
		ST26	Va層	abl	砕片	2	1	1	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
		ST26	Va層	abl	砕片	1	1	1	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
		ST26	Va層	abl	砕片	5	9	3	0.1	長さ破損	単面磨	なし
		ST26	Va層	abl	砕片	3	2	1	0.1	長さ×幅破損	なし	有り
		ST26	Va層	abl	砕片	1	1	1	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
		ST26	Va層	abl	砕片	1	1	1	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
		ST26	Va層	abl	砕片	6	3	1	0.1	長さ×幅破損	なし	有り
		ST26	Va層	abl	砕片	3	2	1	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
		ST26	Va層	abl	砕片	5	3	1	0.1	長さ×幅破損	なし	有り
12	3	ST26	Va層	abl	ナイフ形石	26	17	5	2.1	長さ破損	なし	なし
		ST26	Va層	abl	砕片	1	1	1	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
12	4	ST38	Va層	ac3	ナイフ形石	51	18	9	3.7	完形	なし	なし
17	25	ST38	Va層	bh1 (接合)	剥片	27	5	4.1	0.6	長さ×幅破損	単面磨	有り
17	25	ST38	Va層	bh1 (接合)	剥片	13	5	1.3	0.1	長さ破損	なし	なし
17	26	ST38	Va層	bh1 (接合)	剥片	39	49	7.5	13.9	完形	単面磨	なし
17	27	ST38	Va層	bh1 (接合)	剥片	41	32	4.9	5.6	完形	単面磨	なし
17	28	ST38	Va層	bh1 (接合)	剥片	18	16	3.8	0.9	完形	単面磨	なし
17	29	ST38	Va層	bh1 (接合)	剥片	15	18	4.5	1	完形	復原磨	なし
		ST38	Va層	bh1	剥片	13	13	1.8	0.3	長さ破損	なし	なし
		ST38	Va層	bh1	剥片	39	10	3.9	1.2	長さ破損	なし	なし
		ST38	Va層	bh1	剥片	15	10	2.2	0.2	長さ破損	単面磨	なし
		ST38	Va層	bh1	剥片	25	11	4.3	1.2	長さ破損	なし	なし
		ST38	Va層	bh1	剥片	5	9	2	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
13	18	ST38	Va層	sah1	剥片	22	18	3.9	1.3	長さ破損	復原磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	9	6	2	0.1	完形	点	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	7	8	1	0.1	完形	點状	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	9	15	3	0.1	長さ破損	単面磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	11	8	1.9	0.1	完形	点	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	19	13	2.8	0.6	完形	単面磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	23	35	4.1	2.7	長さ破損	なし	有り
		ST38	Va層	sah1	剥片	26	31	4	3.5	長さ破損	復原磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	8	16	4	0.4	完形	単面磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	7	11	3	0.1	長さ破損	単面磨	なし
13	17	ST38	Va層	sah1	微細割断板石	38	17	3.1	2.2	長さ破損	磨面	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	11	11	1.5	0.1	完形	単面磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	7	12	2	0.1	完形	単面磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	8	9	12	0.1	完形	単面磨	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	8	11	1	0.1	長さ破損	磨面	なし
		ST38	Va層	sah1	剥片	8	4	2	0.1	完形	点	なし
12	6	ST39	Va層	ch3	石核	37	30	36	40.3	完形	なし	有り
12	5	ST39	Va層	ch3	微細割断板石	50	26	12	11.6	完形	復原磨	なし
		ST39	Va層	ch3	石核	30	34	50	23.7	完形	なし	有り
12	7	ST39	Va層	ch3	石核	41.1	27.8	40.5	66.5	完形	なし	有り
		ST39	Va層	ch3	剥片	9	7	2	0.1	完形	なし	有り
		ST39	Va層	ch3	剥片	10	10	6	0.4	長さ破損	なし	なし
12	8	ST39	Va層	ch3	石核	51	45	37.8	132.7	完形	なし	有り
		ST39	Va層	ch3	剥片	21	11	6	1.3	完形	単面磨	有り
		ST39	Va層	ch3	剥片	10	12	2	0.1	完形	単面磨	有り
		ST39	Va層	ch3	剥片	8	10	2	0.1	完形	単面磨	なし
		ST39	Va層	ch3	剥片	11	5	1	0.1	長さ破損	なし	なし
13	14	ST40	Va層	bh1 (接合)	ナイフ形石	14	9	4	0.6	長さ破損	磨面	なし
17	30	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	20	14	2	0.7	長さ破損	点	なし
17	31	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	25	22	6	4.2	長さ破損	復原磨	なし
17	31	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	41	32	8	4.8	長さ×幅破損	なし	なし
17	31	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	38	17	10	5.9	長さ破損	なし	有り
17	32	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	20	27	5	3	完形	復原磨	なし
17	33	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	13	11	2	0.3	長さ×幅破損	単面磨	なし
13	12	ST40	Va層	bh1 (接合)	ナイフ形石	38	25	5	6	長さ破損	なし	有り
17	34	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	37	16	10	3.6	長さ破損	なし	なし
17	35	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	26	12	3	0.9	完形	単面磨	なし
17	36	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	36	30	10	7.7	完形	復原磨	なし
17	37	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	27	28	5	4.8	完形	単面磨	有り
18	38	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	32	24	7	1	長さ×幅破損	なし	有り
18	38	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	33	30	7	6.2	長さ破損	なし	なし
18	40	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	17	17	3	1.2	長さ破損	復原磨	なし
18	41	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	30	29	66	3.7	長さ破損	単面磨	なし
18	42	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	35	16	5	2.7	長さ破損	なし	有り
18	42	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	20	20	4.5	2.1	長さ破損	復原磨	なし
18	43	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	15	14	3	0.8	完形	点	なし
18	44	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	9	7	1	0.1	長さ×幅破損	なし	なし
18	45	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	31	17	6	3.2	長さ破損	復原磨	なし
18	46	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	10	11	3	0.3	長さ破損	なし	なし
18	46	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	47	35	10	13.3	完形	単面磨	なし
18	47	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	19	18	5	1.7	完形	単面磨	なし
13	13	ST40	Va層	bh1 (接合)	ナイフ形石	30	15	5	2.3	完形	なし	なし
18	48	ST40	Va層	bh1 (接合)	剥片	13.5	10.2	2	0.4	完形	単面磨	なし

第3表 旧石器時代遺物属成表(2)

図面	番号	遺物番号	出土層位	母岩	器種	長さmm	幅mm	厚さmm	底さmm	状態	打面	稜面
18	50	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	10	14	2	0.5	完形	単面磨	なし
18	51	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	27	30	5	2.3	完形	単面磨	なし
18	51	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	4	22	1	0.5	長き破損	なし	なし
18	52	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	13	8	2	0.1	幅破損	単面磨	なし
19	53	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	27	30	3	2.7	完形	単面磨	なし
19	54	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	20	24	3	1.4	完形	単面磨	なし
19	55	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	13	11	2	0.5	長き破損	なし	なし
19	55	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	7	10	2	0.2	長き破損	なし	なし
13	11	ST40	Va層	bshl(接合1)	ナイフ形石器	15	12	2	0.7	長き破損	なし	なし
13	11	ST40	Va層	bshl(接合1)	ナイフ形石器	13	10	2	0.5	長き破損	なし	なし
24	56	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	22	28	6	1.6	完形	単面磨	なし
24	57	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	37	27	6	3.6	完形	単面磨	なし
24	58	ST40	Va層	bshl(接合1)	二次加工直剥片	7	11	2	0.3	長きと幅破損	なし	なし
24	59	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	13	15	2	0.8	長き破損	なし	なし
24	60	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	20	13	2	0.5	長き破損	なし	なし
24	61	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	35	20	4	2.2	長き破損	なし	なし
24	62	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	30	18	4	2.6	完形	複面磨	なし
24	63	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	13	5	2	0.1	完形	点	なし
24	64	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	23	13	4	1.4	長き破損	単面磨	なし
24	64	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	18	18	5	1.9	長き破損	なし	なし
24	65	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	51	29	10	2	完形	複面磨	有り
24	66	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	9	11	3	0.3	完形	単面磨	なし
20	67	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	20	20	2	0.9	長き破損	なし	なし
20	68	ST40	Va層	bshl(接合1)	剥片	16	30	4	2.1	完形	複面磨	なし
14	19	ST40	Va層	bshl(接合1)	石核	48	43	28	91.3	完形	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	7	9	1	0.1	完形	稜状	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	9	11	2	0.2	長き破損	複面磨	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	8	7	1	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	8	11	1	0.1	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	20	18	3	1.2	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	8	4	2	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	15	8.5	2	0.3	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	11	10	3	0.5	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	7	6	1	0.1	完形	点	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	9	6	1	0.1	完形	単面磨	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	7	8	3	0.1	完形	稜状	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	9	7	1	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	7	5	1	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	9	8	1	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	10	10	1	0.2	完形	複面磨	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	28	28	10	18.1	完形	磨面	有り
		ST40	Va層	bshl	剥片	15	11	3	0.5	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	13	8	1	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	11	12	2	0.1	長きと幅破損	なし	なし
13	15	ST40	Va層	bshl	ナイフ形石器	17	7	2	0.1	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	14	8	2	0.1	完形	点	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	12	11	2	0.3	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	8	5	1	0.1	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	15	14	3	0.8	完形	点	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	16	11	3	0.7	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	17	10	2	0.3	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	6	7	1	0.1	完形	単面磨	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	12	11	2	0.3	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	11	11	1	0.3	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	14	11	4	0.8	長き破損	複面磨	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	7	10	2	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	11	5	3	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	bshl	剥片	9	4	2	0.1	長きと幅破損	なし	なし
13	9	ST40	Va層	bshl	ナイフ形石器	44	14	7	2.5	完形	なし	なし
22	78	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	30	15	3	0.8	長き破損	なし	なし
22	79	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	15	22	4.5	1.2	完形	点	なし
22	80	ST40	Va層	chl(接合3)	微細研磨直剥片	40	15	5	2.8	完形	複面磨	なし
22	81	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	11	30	4	0.8	完形	複面磨	なし
22	82	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	59	36	11	16.5	完形	単面磨	有り
22	83	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	14.5	12	2	0.1	完形	単面磨	なし
22	84	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	23	17	4	1.5	長き破損	なし	なし
22	85	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	30	34.5	10	8.4	完形	なし	有り
22	86	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	47	40	15	24.2	完形	単面磨	有り
22	87	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	18	12	5.5	1.1	幅破損	単面磨	なし
22	88	ST40	Va層	chl(接合3)	剥片	7	9	2	0.2	長き破損	なし	有り
22	89	ST40	Va層	chl(接合3)	石核	51	57	34	124.5	完形	なし	有り
		ST40	Va層	chl	剥片	10	13	1	0.1	長きと幅破損	なし	なし
		ST40	Va層	chl	剥片	21	22	5	2	長き破損	なし	なし
		ST40	Va層	chl	剥片	17	13	3	0.8	完形	単面磨	なし
		ST40	Va層	chl	剥片	11	10	3	0.5	完形	単面磨	なし
		ST40	Va層	chl	剥片	8	5	2	0.1	完形	単面磨	有り
		ST40	Va層	chl	剥片	20.5	13.5	4.3	1.4	完形	単面磨	なし
		ST40	Va層	chl	剥片	8	5	1	0.1	完形	単面磨	なし

第4表 旧石器時代遺物属成表(3)

図面	番号	遺物番号	出土層位	緑号	図種	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	状態	打面	破面
		S740	Va層	chl	砕片	6	8	1	0.1	長さ破損	なし	なし
		S740	Va層	chl	剥片	15	11	5	0.7	完形	片面磨	なし
		S740	Va層	chl	剥片	11	21	2	0.6	軸破損	片面磨	なし
		S740	Va層	chl	剥片	7	10	1	0.1	完形	片面磨	なし
		S740	Va層	chl	剥片	7	9	2	0.1	長さ破損	なし	なし
		S740	Va層	chl	剥片	15	14	3	0.6	長さ破損	片面磨	なし
		S740	Va層	chl	剥片	13	21	4	1.1	軸破損	片面磨	なし
		S740	Va層	chl	剥片	7	8	1	0.1	長さ軸破損	なし	なし
		S740	Va層	chl	剥片	13	10	2	0.1	完形	片面磨	なし
20	70	S740	Va層	chl2(混合2)	剥片	26	16	5	2.4	完形	磨伏	有り
20	71	S740	Va層	chl2(混合2)	剥片	43	25	11	8.7	長さ破損	なし	有り
21	72	S740	Va層	chl2(混合2)	剥片	23	8	3	2.5	長さ破損	なし	なし
21	73	S740	Va層	chl2(混合2)	剥片	46	22	10	9.3	完形	片面磨	有り
20	74	S740	Va層	chl2(混合2)	剥片	32	18	6.5	3	完形	片面磨	なし
20	75	S740	Va層	chl2(混合2)	剥片	11	10	1	0.1	長さ破損	なし	なし
21	76	S740	Va層	chl2(混合2)	石核	42	32	20	23.2	完形	なし	有り
		S740	Va層	chl2	剥片	25	10	4	1.2	長さ破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	剥片	13	11	2	0.1	完形	片面磨	なし
		S740	Va層	chl2	剥片	11	10	1	0.1	長さ破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	砕片	3	5	1	0.1	長さ軸破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	砕片	10	5	2	0.1	完形	片面磨	なし
		S740	Va層	chl2	砕片	8	3	1	0.1	長さ軸破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	砕片	4	2	1	0.1	長さ軸破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	剥片	30	11	3	0.8	長さ破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	ナイフ形石器	5	6	2	0.9	長さ軸破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	剥片	12	10	13	0.2	長さ破損	なし	なし
		S740	Va層	chl2	剥片	12	10	2	0.2	長さ破損	なし	有り
13	10	S740	Va層	ssh1	ナイフ形石器	45	20	7	2.8	完形	なし	なし
13	16	S740	Va層	ssh1	磨面	42	36	1	9.6	完形	片面磨	なし
14	20	S740	Va層	tuf1	局部磨面	28	48	12	28.2	長さ軸破損	なし	有り
14	20	S740	Va層	tuf1	局部磨面	45	72	12	68.5	軸破損	なし	有り
14	20	S740	Va層	tuf1	局部磨面	81	43	13	66.5	長さ軸破損	なし	有り
14	20	S740	Va層	tuf1	局部磨面	38	38	12	23.4	長さ軸破損	なし	有り
15	22	S741	Va層	chl3	石核	85	77	32	204.1	完形	なし	有り
15	21	S741	Va層	chl3	砕片	3	2	1	0.1	長さ軸破損	なし	なし
15	21	S741	Va層	chl3	磨面剥片	60	37	12	26.7	完形	片面磨	なし
15	23	S741	Va層	ssh	甲石	77	37.5	45	126.9	完形	なし	有り
18	39	S874	IV層	bsh1(混合1)	剥片	18	29	8	3.2	完形	片面磨	なし
22	84	E875	Va層	chl(混合3)	剥片	23	17	4	1.5	長さ破損	片面磨	なし
23	90	F884	IV層	chl	磨光形尖頭	30	21	5	2.5	長さ破損	なし	なし
23	91	E779	Va層	chl	磨光形尖頭	31	14	5	1.9	完形	なし	なし
23	92	F883	Va層	chl	ナイフ形石器	51	25	8	7.6	完形	なし	なし
23	93	E872	Va層	chl	ナイフ形石器	53	21	6	7.4	完形	なし	なし
23	94	E778	Va層	chl	ナイフ形石器	25	14	4.5	2	完形	なし	有り
23	95	F883	Va層	chl	ナイフ形石器	22	14	4	1.1	長さ破損	なし	なし
23	96	E777	Va層	chl	ナイフ形石器	27	25	5	2.1	長さ破損	なし	なし
23	97	E877	Va層	chl	ナイフ形石器	25	30	4	2	長さ破損	なし	なし
23	98	F883	Va層	chl	剥片	34	44	8	15.4	完形	磨面	有り
23	99	E876	Va層	chl	ナイフ形石器	25	13	4	1.5	長さ破損	片面磨	有り
24	100	E888	Va層	chl	ナイフ形石器	30	13	4	1.4	長さ破損	なし	なし
24	101	E773	Va層	chl	ナイフ形石器	33	12	7	2.7	長さ破損	なし	なし
24	102	E770	IV層	chl	磨面	57	25	14	13.9	完形	片面磨	有り
24	103	E882	Va層	chl	局部加工尖頭形石片	59	31	10	14.1	長さ破損	なし	なし
24	104	E883	Va層	chl	有磨石	18	16	3	1.1	完形	なし	なし
24	105	E782	IV層	ssh	石核	43	88	122	420	完形	なし	有り
		E874	Va層	chl	砕片	7	8	2	0.1	軸破損	なし	有り
		E875	Va層	chl2	剥片	32	18	6.5	3	完形	片面磨	なし
		E876	Va層	chl	砕片	4	2	1	0.1	長さ軸破損	なし	なし
		E882	Va層	chl	剥片	54	21	9	6.3	長さ破損	なし	なし
		E883	Va層	chl	剥片	8	4	2	0.1	長さ破損	なし	なし
		E879	Va層	chl	剥片	17	18	4	1.2	完形	磨面	有り
		E876	Va層	chl	剥片	16	17	2	0.4	長さ破損	なし	なし
		E874	Va層	ssh	石核	73	134	55		完形	なし	有り
		E874	Va層	ssh	剥片	20	57	32		完形	磨面	有り
		E774	Va層	ssh2	剥片	16	22	5	1.1	完形	片面磨	なし
		E874	Va層	ssh2	剥片	29	9	4	0.7	長さ破損	なし	有り
		E874	Va層	bsh1	剥片	7	10	1	0.1	長さ破損	なし	なし

第5表 縄文時代土坑一覽表(1)

縄文時代土坑一覽表												
番号	図面	図版	位置	平面形	断面形		規模(cm)		重複関係	覆土	主要遺物	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸				
2901J			GR79	長楕円形	逆台形	逆台形	100	(20)	9	□		北平分区分
2902J			GR79	楕円形	楕円形	楕円形	82	42	11	□		北平分区分
2903J	35	14-1	GR83	狭長方形	楕円形	楕円形	(64)	55	95	□		北平分区分 陥穴
2904J			GA65	楕円形	楕円形	楕円形	82	55	18	□		北平分区分
2905J	35		GA79	楕円形	不整形	不整形	104	88	40	□		底面凹凸
2906J	35		GA77	楕円形	楕円形	楕円形	106	65	27	□		底面凹凸
2907J	35	14-2	GA71	楕円形	楕円形	楕円形	104	75	19	□		底面凹凸
2908J			GA-G870	長楕円形	逆台形	逆台形	103	64	19	□		底面凹凸
2909J	35	14-3	GR69	楕円形	楕円形	楕円形	77	50	23	□		底面凹凸
2910J			GR39	不整形	楕円形	楕円形	(48)	37	20	□→SK2917J		北平分区分
2911J	35	14-4	FM-FW79	長楕円形	楕円形	逆台形	171	90	69	SK2946J→□	○・焼土 条痕文土器 灰人形石 石斧 石鏃 磨石	陥穴 底面3穴
2912J	35	12	FM-FW75-76	不整形	楕円形	楕円形	253	211	87	□	○・焼土 条痕文土器 灰人形石 石斧 石鏃 磨石	大穴 底面6穴 遺物多い
2913J	37	14-5	F1-F173-74	長方形	逆台形	楕円形	144	91	88	P3610→□	○	陥穴 底面4穴
2914J	37	14-6	F174-75	楕円形	楕円形	U字形	138	86	35	□	○ 条痕文土器 磨石 緑泥石	南平分区分
2915J			GA7071	楕円形	逆台形	逆台形	108	(45)	31	□		南平分区分
2916J	37		GA-G871	楕円形	楕円形	楕円形	122	82	18	□		南平分区分
2917J			GR69	楕円形	楕円形	楕円形	57	36	12	SK2910J→□		南平分区分
2918J	37	14-7	GA71	楕円形	楕円形	楕円形	62	40	17	□		南平分区分
2919J			GA-G868	楕円形	楕円形	楕円形	67	34	13	□		南平分区分
2920J	37		FK73	楕円形	楕円形	楕円形	130	90	10	SK241J→□		南平分区分
2921J	37		GA76	長楕円形	逆台形	逆台形	100	40	14	□		南平分区分
2922J	37		GR76	長楕円形	楕円形	楕円形	91	38	12	□		南平分区分
2923J			GR75-76	楕円形	逆台形	逆台形	64	50	18	□		南平分区分
2924J	37		GA72-73	楕円形	楕円形	楕円形	140	(110)	65	□		南平分区分
2925J	37	14-8	FL74	楕円形	楕円形	楕円形	209	153	15	□	○ 条痕文土器	南平分区分
2926J	38	14-9	FL73	長楕円形	逆台形	逆台形	231	71	34	□→SK2930J	○・焼土 条痕文土器	陥穴
2927J	37		FJ-FK74	不整形	不整形	逆台形	198	81	28	□	○ 条痕文土器	陥穴が2個連続
2928J	37		FW79-80	狭長方形	楕円形	楕円形	(171)	65	26	□	○・焼土 条痕文土器	陥穴 北一部欠
2929J	37		FK79	長方形	楕円形	楕円形	126	69	26	□		南平分区分
2930J	38	14-9	FL73	狭長方形	逆台形	逆台形	(52)	60	18	SK2926J→□	○・焼土	陥穴
2931J	38		FW71	楕円形	楕円形	楕円形	120	88	32	□		南平分区分
2932J	38		F176-77	楕円形	楕円形	楕円形	(202)	146	22	SK2931J→□→SK2944J	○ 条痕文土器	南平分区分
2933J	38		FK82	長方形	U字形	U字形	120	89	29	□		南平分区分
2934J	38		FK82	楕円形	楕円形	楕円形	100	62	17	□		南平分区分
2935J	38		FJ-FK81	不整形	逆台形	逆台形	91	78	9	□		南平分区分
2936J	38		FJ-FK83	長楕円形	楕円形	楕円形	108	(71)	18	□→P159		南平分区分
2937J	38	14-10	FK83	長楕円形	楕円形	楕円形	100	52	12	□		南平分区分
2938J	38		FK83	楕円形	楕円形	楕円形	90	52	28	□		南平分区分
2939J	38		FW78-79	楕円形	楕円形	U字形	148	(94)	38	SK2946J→□	○ 条痕文土器	陥穴
2940J	39	14-11	FL79	長方形	逆台形	逆台形	206	88	63	SK2931J→□	○ 条痕文土器	陥穴 底面4穴
2941J	39		FW79	長楕円形	楕円形	楕円形	(156)	93	15	□→SK2944J→SK2911J		陥穴
2942J	39		FL82	長楕円形	楕円形	楕円形	90	49	14	□		南平分区分
2943J	39	14-11	FK83	不整形	楕円形	楕円形	112	(74)	37	□		南平分区分
2944J	39		FM-FW80	長楕円形	楕円形	楕円形	111	46	19	□→SK2945J		南平分区分
2945J	39		FJ75	長楕円形	逆台形	逆台形	88	40	25	□		南平分区分
2946J	39		FJ83	不整形	逆台形	逆台形	151	96	18	□		南平分区分
2947J	39		FF-FG70	楕円形	楕円形	楕円形	95	90	23	SK2967J→□		南平分区分
2948J	39		FL79	長楕円形	U字形	U字形	(102)	58	20	SK2960J→□→SK2950J	○ 条痕文土器	南平分区分
2949J	39	14-12	FL-FW79	長楕円形	楕円形	楕円形	(131)	(90)	16	SK2960J→□→SK2950J		南平分区分
2950J	39		FW79	楕円形	楕円形	楕円形	91	38	14	□		南平分区分
2951J	39	14-13	FE-FF71	楕円形	楕円形	楕円形	93	68	19	□		南平分区分
2952J	39		FW70	方形	U字形	U字形	104	(98)	50	□		南平分区分
2953J	39		FE71	楕円形	楕円形	楕円形	69	62	21	□→SK2960J		底面凹凸
2954J	39		FL-FW79	不整形	楕円形	楕円形	103	(77)	43	□→SK2960J		底面凹凸
2955J	39		PG69-70	長楕円形	楕円形	逆台形	(97)	62	17	□→SK2955J		底面凹凸
2956J	39		FW79-80	楕円形	楕円形	楕円形	123	110	36	□		底面凹凸
2957J	39	14-14	FE74	楕円形	楕円形	楕円形	86	64	19	□		底面凹凸
2958J	39		FK83-84	楕円形	楕円形	楕円形	154	96	16	□→SK2972J		底面凹凸
2959J	39	14-15	FK82	長楕円形	逆台形	逆台形	74	40	19	□	○・炭	北平分区分
2960J	39		FE84	狭長方形	楕円形	楕円形	(66)	48	17	SK2970J→□		北平分区分
2961J	40		FF79-80	楕円形	楕円形	楕円形	(80)	82	18	□→SK2974J		北平分区分
2962J	40		FF79-80	楕円形	楕円形	楕円形	(156)	145	18	SK2973J→□		北平分区分
2963J	40		FK82	楕円形	楕円形	楕円形	104	64	18	□	○・炭	北平分区分
2964J	15-1		FE79-80	長楕円形	楕円形	楕円形	82	41	10	□		北平分区分
2965J	40	15-2	FF78	楕円形	楕円形	楕円形	68	68	15	□		北平分区分
2966J	40		FL78	長方形	楕円形	楕円形	126	82	27	□		北平分区分
2967J	40		F1-FJ77-78	長楕円形	楕円形	楕円形	250	(108)	21	□→S1703J		北平分区分
2968J	40		FJ-FJ79	不整形	不整形	不整形	161	(149)	41	SK2987J→□		北平分区分
2969J	40	15-3	FE78	楕円形	楕円形	楕円形	130	(121)	36	□→SK2988J		北平分区分
2970J	40		FE77	楕円形	不整形	逆台形	72	52	18	J257→□	○・炭	北平分区分
2971J	40	15-4	FL76	楕円形	U字形	U字形	88	74	40	□		北平分区分
2972J	40		FL76	楕円形	楕円形	楕円形	(102)	114	11	SK2937J→□	○ 条痕文土器	北平分区分
2973J	40		FF76-77	楕円形	楕円形	楕円形	125	(89)	27	□		北平分区分
2974J	40		FE80	楕円形	楕円形	楕円形	58	30	23	□		北平分区分
2975J	40		FJ79	楕円形	楕円形	楕円形	98	(42)	24	□→SK2980J		北平分区分
2976J	40	15-3	FE77-78	楕円形	U字形	U字形	144	(60)	39	SK2981J→□		北平分区分
2977J	40		FE76	楕円形	楕円形	楕円形	92	(70)	16	□		北平分区分
2978J	40		FK75	楕円形	U字形	U字形	80	68	24	□		北平分区分

第6表 縄文時代土坑一覽表(2)

番号	図面	国版	位置	平面形	断面形		規模(cm)			重複関係	覆土	主要遺物	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸	深さ				
2991J			FA-F877	楕円形	直状	U字形	165	122	41	□			
2992J			FA67	楕円形	直状	直状	136	87	11				
2995J	40	15-6	ET73-74	円形	直状	—	120	114	16				
2996J			ET73	長楕円形	逆台形	不整逆台形	95	44	25				
2997J	41	15-6	ET-FA74-75	不整長方形	直状	直状	294	170	20	□→SK3003J→SK3004J		縄文系土器 白土皿	
2998J	41		ES-ET71-72	不整楕円形	直状	直状	130	83	23		□・横・炭		
2999J	41		ET73	楕円形	U字形	U字形	164	135	51		□		
3000J	41		ED73	楕円形	直状	直状	90	71	11		□		
3001J	41		ET74-75	長楕円形	直状	直状	165	78	29		□		
3002J	41	15-7	ET72	円形	直状	—	100	94	24		□・炭		
3005J	41		ET-FA74	楕円形	直状	直状	139	97	28	SK2997J→□			
3006J			ET-FA75	長方形	不整形	U字形	141	48	33	SK2997J→□			
3007J	41		ER-ES66	楕円形	楕円状	楕円状	(92)	94	33		□・横・炭		
3008J			FB69	不整円形	U字形	—	38	36	17	□→SK3008J			
3009J			FB69	楕円形	直状	直状	(71)	62	15	SK3007J→□			
3010J	41		FB69	楕円形	直状	直状	63	49	13		炭		
3016J			EQ68	楕円形	楕円状	楕円状	87	62	18		炭	底面段差	
3018J	41	15-9	F078	円形	直状	—	90	84	14		□・炭		
3019J	41		F079-80	不整楕円形	楕円状	楕円状	124	110	32		□・炭		
3020J	41		FC79	円形	U字形	—	82	80	24		炭		
3021J	42		FA-F879	楕円形	逆台形	逆台形	108	72	26		□・横・炭	土器・縄文系土器 土皿	底面段差
3022J	42		F079	円形	直状	—	(66)	91	18	SK3003J→SK3002J→□	単・口	縄文系土器 土皿	
3023J	42		FD-FE79-80	円形	直状	—	(124)	122	37	SK3003J→□→SK3002J			
3024J	42	15-10	FC80	楕円形	寸割	—	56	43	23	□→P1336	□・炭		底面段差
3025J		15-11	FC81	長楕円形	逆台形	逆台形	78	35	15		□・炭		
3026J	42		FD79-80	楕円形	直状	直状	71	56	10		□・炭		
3027J			FA79	長楕円形	直状	直状	68	32	18		□・炭		
3028J	42	15-12	FA79	長楕円形	直状	直状	99	65	20		□・炭		
3029J			ET80-81	不整楕円形	直状	直状	74	52	12		□・横・炭		
3030J	42		ER-ES80	楕円形	直状	直状	102	82	19		□・横・炭		
3031J			ER-ES81-82	長楕円形	不整形	U字形	185	111	48		□・炭		底面傾斜
3032J	42	15-13	FC-F075	狭長方形	巾着形	U字形	234	81	100		□		
3033J	42	15-14	FD-FE79-80	円形	U字形	—	158	(133)	49	□→SK3023J→SK3022J	□・炭		底面傾斜
3034J	42		FC-F081	円形	直状	—	89	56	19		□・炭		
3037J			FC81	楕円形	直状	直状	78	53	21		□・炭		
3038J		15-15	FB81	長楕円形	逆台形	U字形	88	48	31		□・炭		底面傾斜
3039J	43		ET82	楕円形	直状	直状	(98)	58	12	SK3040J→□	□		
3040J	43		ES-ET82	楕円形	直状	直状	51	68	26	□→SK3039J	□・炭		
3042J			EM84	楕円形	直状	直状	(78)	44	13	□→P1402	□		
3043J	43		FL-F085	楕円形	直状	直状	60	44	10		□		
3044J			FL85	長楕円形	直状	直状	72	39	10		□		
3046J		16-1	FK-FL84	楕円形	U字形	U字形	66	42	18		□		
3047J	43	16-2	FK83-84	楕円形	U字形	U字形	117	93	41	SK3053J→□	□・炭		
3048J	43	16-3	FL85	楕円形	直状	直状	98	64	15		□		
3049J	43		FC71	不整円形	逆台形	逆台形	85	(75)	14		炭		
3050J	43		ER72	楕円形	U字形	—	102	91	26	P1438→□	炭		
3051J	43	16-4	FB-F081-82	長楕円形	不整形	逆台形	(179)	82	37	SK3052J→□	□・横・炭	縄文系土器	中央・縦方向に重なる 中央・縦方向に重なる
3052J	43	16-4	FC81-82	長楕円形	不整形	逆台形	(136)	80	35	□→SK3051J	□・横・炭	北平穴	
3053J			FK83-84	円形	直状	—	(52)	68	20	□→SK3047J	□		
3054J			EN78	楕円形	直状	直状	82	51	14		単		
3055J	43		EM79	不整長方形	不整形	直状	116	51	23		□		
3056J	43		F082	楕円形	直状	直状	70	50	17		□		
3057J	43		ED73-74	不整楕円形	直状	—	110	44	13		□・横・石盤		
3059J	43	16-5	EO-EP72	長方形	箱形	箱形	(136)	76	68		□		箱穴 北平穴 底面 2穴
3061J			FC83	円形	直状	—	59	46	19		□		
3062J	44		FA83	楕円形	U字形	—	84	78	28		□		
3063J	44		FB84	不整円形	—	—	116	108	30		□		
3064J	44		PC82	円形	U字形	—	64	(49)	19	SK3065J→□	□		
3065J	44		PC82	楕円形	直状	直状	(80)	64	14	□→SK3064J	□		
3066J			ES85	楕円形	楕円状	—	70	44	25		□・横・炭		
3067J	44		ED84	円形	直状	—	70	63	17	P1465→□	□・炭		
3068J	44		PC82	楕円形	直状	直状	84	56	21		□・炭		
3069J	44	16-6	ES84	楕円形	直状	直状	108	96	38	P1591→□	□		
3070J			ED83	円形	直状	—	65	60	23		□		
3071J	44	16-7	PC82	円形	直状	—	60	50	14	P1547→□	□		
3072J	44	16-8	EQ85	円形	直状	—	60	60	16		□・炭		
3073J	44		EQ85	長方形	逆台形	逆台形	60	40	14		□・炭		
3074J			IP-EP85	楕円形	直状	直状	58	36	10		□		
3075J	44		EP85	長楕円形	逆台形	逆台形	75	35	13		□		
3076J	44	16-9	ED76	円形	寸割	—	105	103	81		□		加付利目深鉢 2 大小の穴(炭 炭灰)
3077J	44		EO-EP85	楕円形	直状	直状	78	57	8		□		
3078J	45	16-10	EP86	長楕円形	直状	直状	95	41	17		□・炭		
3079J	45	16-11	EM-EN84	長方形	箱形	箱形	166	87	82		□・炭		箱穴 底面 3穴
3080J	45		EM84	楕円形	直状	直状	90	70	19		□・炭		
3081J			FL-EM83	楕円形	直状	直状	104	(62)	22		炭		
3082J	45		EQ86	長方形	直状	直状	175	150	49		□・炭		南区外
3083J	45		FE84-85	円形	直状	—	84	80	13		□・炭		
3084J		16-12	PC75	楕円形	直状	直状	74	52	28		□		
3086J	45		FI74	方形	直状	直状	76	66	19		□		
3087J	45		EQ85	円形	直状	—	(100)	100	31	□→(SX246)	□・横・炭		
3088J	45		PD75-76	楕円形	直状	直状	130	91	17		炭		
3089J	45	16-13	EM-EN79	円形	U字形	—	981	82	34		炭		

第7表 縄文時代土坑一覧表(3)

番号	図面	図版	位置	平面形	断面形		規模(cm)			重複関係	覆土	主要遺物	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸	深さ				
3090J	45	16-14	EP77	楕円形	皿状	皿状	122	68	27		ロ・炭		
3091J	45		BP73-74	楕円形	皿状	皿状	102	80	24		ロ・炭		
3092J	45		EL75	方形	皿状	皿状	145	112	35		炭		
3093J		16-15	EL74	楕円形	U字形	U字形	72	44	18		ロ		
3094J			BP74	不整形	皿状	皿状	66	40	13				
3095J			EL73	円形	U字形	—	84	(44)	15		ロ		南区外
3100J			EL75	—	皿状	—	—	—	19				調査区地で検出
3101J			EL74	—	皿状	—	—	—	14				調査区地で検出
3102J	45	17-1	ES73	円形	皿状	—	80	74	20				
3107J	45		BN・BN69	楕円形	皿状	皿状	79	51	13	□→(SK246J)			
3109J			EL66-67	不整形	皿状	皿状	115	72	28	□→(SK246J)	炭		
3110J			BN・BN69	不整形	U字形	—	92	78	35	□→(SK246J)	ロ		
3111J	46		BN68-69	不整形	皿状	—	118	104	32	□→(SK246J)	ロ		
3112J	46		46	不整形楕円形	皿状	皿状	164	92	23	SK3114J→□→SK3120J			
3113J	46	17-2	BN・BN65	楕円形	皿状	皿状	296	208	13	□→(SK246J)	ロ・炭	沈黙文系土器 磨石・煎麦石	西区外
3114J	46		BP70	不整形	皿状	皿状	174	123	45	□→SK3112J	ロ		中央部に小穴
3115J	46		BP70	楕円形	皿状	皿状	89	68	19	□→SK3120J→ (SK246J)			
3116J	46		BN66	不整形	U字形	—	126	90	45	□→P1674	ロ・炭		
3117J	46		BN64	円形	適合形	—	80	(32)	20	□→(SK246J)	炭	燃糸文系土器	西平区外 底面段差
3118J			BN65	楕円形	皿状	皿状	84	62	15	□→(SK246J)	ロ		
3119J			BN65	不整形楕円形	皿状	皿状	52	42	11	□→(SK246J)			
3120J	46		BP70	楕円形	U字形	U字形	104	61	34	SK3112J・SK3115J→□	ロ		
3121J	46		FC68-69	楕円形	餅鉢状	—	100	52	40		ロ		
3122J	46	17-3	PD76-77	長方形	皿状	皿状	102	60	14				底面段差
3123J	46	17-4	PD76	楕円形	皿状	皿状	88	62	21				

(覆土のロはローム粒とブロック・炭は焼土・炭は炭化物。遺物は図示したもののみ。区外は調査区外。)

第8表 縄文時代土器集計表

縄文土器集計表																																		
遺構名	早 期																			中 期					後 期		備考							
	徳系文系										沈黙文系				条痕文系					諸	五 領 ヶ 台	脚 玉 台	加 賀 利 E	加 賀 利 B	小 計	明								
	井 草	大 丸	夏 島	稲 荷 台	大 田 山	花 輪 台	東 山	平 坂	徳系 文	無 文	小 計	山 戸 下	田 上	無 文	小 計	子 母 口	条 痕 文	無 文	小 計															
S 1171 J				67				1			120	1							8				1	1		32	162	第51次調査分 土製門板2						
S 1759 J			28	108						121	157		1		1											1	159							
S 1760 J				10							10			1		1																		
S 1761 J										4	4																	4						
S 1762 J				24	18						42						1		1									3						
S 1763 J				88			1				89																	89						
S 1764 J					18						18																	237						
S K2011 J										2	2															1	3	大塚上坑						
S K2012 J				13							13						158		4	162						8	183							
S K2013 J											7																	7						
S K2014 J				7															1	1								1						
S K2020 J																		2	2									2						
S K2025 J				8							8																	8						
S K2026 J							1			3	4						1	1								1	6							
S K2027 J					6						6																	6						
S K2028 J											1																	1						
S K2037 J					10			1			18	29																29						
S K2039 J																		1	1							1	2							
S K2044 J				1							1																	1						
S K2045 J					6						6																	6						
S K2060 J											1	1																1						
S K2070 J											1	1																1						
S K2079 J																									2	2		2						
S K2084 J				2							2																	3						
S K2085 J																												5						
S K2090 J																												1						
S K2097 J				2	1						3																	3						
S K3018 J					2						2																	1						
S K3021 J																												1						
S K3038 J																												2						
S K3051 J																												1						
S K3055 J																												2						
S K3056 J																												1						
S K3059 J																												1						
S K3062 J																												1						
S K3076 J																												1						
S K3079 J											1																	1						
S K3113 J																												20						
S K3114 J																												3						
S K3117 J				1							1																	1						
S S 90				1							1																	1						
S S 97				4							4																	4						
S S 98					5						5																	5						
S S 100																												16						
S S 101				6							6																	6						
S S 102					7						7		2	2														16						
S S 103											2	2																2						
S S 106											11																	1						
S S 108											3	3																3						
S S 109																												1						
S U 8																												1						
S U 9																												1						
S X239 J																												18						
S X241 J											2	2																1						
S X242 J					19						19			11		11												30						
S X243 J																												8						
S X246 J					29	61			39	9	134	1001	1363	4	34	56	94	1	13	16	30	7	1					2						
S X247 J					4						3	7				6	6	1	2	3								16						
小穴 P J				1							3																	21						
通帳外	5	9	15	171	267	3	9	60			1	3517	4030	2	6	335	739	1080	5	82	116	203	1	345	82	5	277	709	10	3	13	37	6102	土製門板3
総計	5	9	15	464	533	3	10	102	9	146	4772	6086	3	10	393	824	1080	166	104	136	414	1	537	123	5	304	947	10	3	13	120	8854		

第9表 縄文時代石器集計表

縄文時代石器集計表																								
遺 構 名	石 鏃	石 斧 打 製	磨 製 器	磨 製 石 鏃	磨石		棒 石 状	磨 石 鏃	スタンプ			石 槌 形	石 槌 石	石 槌 石	石 槌 石	石 槌 石	石 槌 石	石 槌 石	石 槌 石	石 槌 石				
					磨石	凹石			I	II	III													
S 1171 J		3			2	3	1					1	2				8			20				
					2	1	1			1	1	1								第51次調査分				
S 1759 J	1		1	1	7			1	1	2	1					1			16	黒糸文期				
S 1760 J								1				1				1			3	黒糸文期				
S 1762 J								1								1			3	黒糸文期				
S 1763 J					5	2			2	2							1		12	黒糸文期 砂片は黒曜石				
S 1764 J	1				2		1				1					3	6		14	五領ヶ台式期 砂片は黒曜石				
S S94					1							2							1					
S S95			1																3					
S S98			1		2	1													4					
S S100									1							1			2	加曽利E式				
S S104					1												1		2					
S S106			1	1															2					
S S107											2								2					
S S109					2														2					
S K2912 J	5	5		4	6	3	2	1				1	2		2	25	4	36	96	大型土坑				
S K2925 J																2		4	6					
S K2926 J																		1	2	3				
S K2937 J					2															2				
S K2945 J									1											1				
S K2946 J									1											1				
S K2997 J											1									1				
S K3021 J					1															1				
S K3051 J																	1			1				
S K3057 J	1																			1				
S K3113 J					4															4				
S X239 J											1									1				
S X242 J		1														1				2				
S X246 J	3	14	8	29	22	66	3	11	13	6	36	24	46	17	1	1	3	27	2	334				
S X247 J		1	3			1					1									6				
小穴P J					2			1									2	5	10	小穴9基分				
遺構外	15	61	5	46	31	3	104	11	10	18	10	27	25	26	37	9	3	8	92	2	88	6	638	
合計	25	86	13	82	59	3	209	19	27	37	20	68	52	77	66	13	1	4	13	165	10	144	6	1201

第10表 縄文時代遺物一覧表(1)

早期前半(JB)

S 1171J住居 土 器 一 覧										
図面番号 図取番号 遺物番号	種別 器形	出土位置	口部 底	径 高さ	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考	
47-1 40 J B01	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	口縁部	無文	細砂多 良好 外赤褐色 内灰黒色	雲母多	幅荷台式 器面荒れ	
47-2 40 J B02	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	口縁部 肥厚	摺糸文L 無文帯あり	細砂多 良好 赤褐色		幅荷台式	
47-3 40 J B03	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	胴部	摺糸文R	細砂多 良好 外暗褐色 内灰黒色		幅荷台式	
47-4 40 J B04	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	胴部	摺糸文R 条間部	細砂多 良好 外赤褐色 内灰褐色		幅荷台式	
47-5 40 J B05	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	斜位・ 底部に近い	斜位摺糸文L 無文帯あり	細砂多 良好 外暗褐色 内灰褐色		幅荷台式	
47-6 40 J B06	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	胴部	摺糸文R 器が弱い	細砂多 良好 外暗褐色 内灰褐色		幅荷台式	
47-7 40 J B07	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	胴部	摺糸文R 無文帯あり	細砂多 良好 外暗褐色 内灰褐色		幅荷台式	
47-8 40 J B08	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	底部	斜位・横位・縦位摺糸文R	細砂多 良好 外白色 内黒色		幅荷台式	
47-9 40 J B09	深鉢	S 1171J 覆土	— —	— —	口縁部	口縁部下横位沈線 無文	細砂多 良好 灰褐色	粗砂少	束山式	
S 1171J住居 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
47-10	40	AL01	磨石	覆土	11.2	8.3	4.9	698.3	閃緑岩	
47-11	40	AL02	磨石	覆土	10.1	7.2	3.5	394.1	閃緑岩	
47-12	40	AL03	棒状磨石	覆土	(7.2)	4.3	2.2	103.1	頁岩	
47-13	40	AN01	スタンプ形	覆土	11.4	6.1	5.8	572.0	砂岩	
47-14	40	AN02	スタンプ形	覆土	13.7	7.2	3.9	613.5	砂岩	
47-15	40	AP01	石皿	覆土	(14.5)	18.6	5.3	1940.6	ハンレイ岩	
S 1759J住居 土 器 一 覧										
図面番号 図取番号 遺物番号	種別 器形	出土位置	口部 底	径 高さ	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考	
47-16 40 J B10	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	口縁部 肥厚	摺糸文L 器が弱い	細砂多 良好 外黒色 内灰褐色	粗砂少 雲母	幅荷台式	
47-17 40 J B11	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	口縁部 口縁部やや肥厚	摺糸文R 器が弱い	細砂多 良好 灰黒色		幅荷台式	
47-18 40 J B12	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	口縁部肥厚	摺糸文R 無文帯あり	細砂多 良好 外黒色 内暗褐色	雲母	幅荷台式 口縁部下片無穿孔	
47-19 40 J B13	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	口縁部(薄く仕上げる) 小型 器壁薄い	無文 胴部に縦位の捺痕	細砂多 良好 黒色		幅荷台式	
47-20 — J B14	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	口縁部	無文	細砂多 良好 外暗褐色 内黒色	雲母	幅荷台式	
47-21 40 J B15	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	胴部	摺糸文R	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色		幅荷台式	
47-22 40 J B16	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	口縁部 外反 器壁薄い	無文	細砂多 良好 灰褐色	粗砂少	幅荷台式	
47-23 40 J B17	深鉢	S 1759J 覆土	— —	— —	口縁部	無文	細砂多 良好 灰褐色	粗砂少	幅荷台式	

第11表 縄文時代遺物一覧表(2)

S 1759 J 住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	機 器	別 形	出土位置	口 器 底	器 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 調	備 考
47-24 40 J B 18	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	口縁部 器壁薄い	無文	細砂多 良好 外黄褐色 内黒色	稲荷原式
48-1 40 J B 19	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	口縁部	捺糸文 R 無文帯あり	細砂多 良好 灰黒色	稲荷原式
48-2 40 J B 20	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	口縁部	捺糸文 L 捺りが弱い	細粗砂多 良好 灰褐色	稲荷原式
48-3 40 J B 21	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	口縁部	捺糸文 L 捺りが弱い	細粗砂多 良好 灰褐色	稲荷原式
48-4 40 J B 22	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	口縁部 肥厚	捺糸文 R 捺りが弱い	細粗砂多 良好 灰褐色	稲荷原式
48-5 40 J B 23	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	口縁部	捺糸文 R 捺りが弱い	細粗砂多 良好 灰茶褐色	稲荷原式
48-6 40 J B 24	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 L	細砂多 良好 外黄褐色 内灰黒色	稲荷原式
48-7 40 J B 25	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 R 節大きい	細砂多 良好 黒褐色	稲荷原式
48-8 40 J B 26	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂少 良好 暗褐色	稲荷原式
48-9 40 J B 27	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 外黄褐色 内黒色	稲荷原式
48-10 40 J B 28	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 R 捺りが弱い	細砂多 良好 黒色	稲荷原式
48-11 40 J B 29	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 R	細粗砂多 良好 黒色	稲荷原式
48-12 40 J B 30	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 黄褐色	稲荷原式
48-13 40 J B 31	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 R 節細かい	細砂多 良好 外黄褐色 内黒色	稲荷原式
48-14 40 J B 32	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	斜位・縦位の捺糸文 R	細砂多 良好 外暗褐色 内黒色	稲荷原式
48-15 40 J B 33	深鉢	S 1759 J 覆土上層	—	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 外黒色 内赤褐色	稲荷原式
48-16 40 J B 35	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	斜位捺糸文 R	細砂多 良好 外暗褐色 内灰黒色	稲荷原式
48-17 40 J B 37	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	無文	細粗砂多 良好 外暗褐色 内灰黒色	稲荷原式
48-25 40 J B 38	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	底部 尖底	捺糸文 L	細粗砂多 良好 赤褐色	稲荷原式
48-18 40 J B 39	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	無文	細砂多 良好 外黄褐色 内灰黒色	内面コゲ付着
48-19 40 J B 40	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	無文	細砂多 小石 良好 外赤褐色 内灰黒色	
48-20 40 J B 41	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	捺糸文 L 無文帯あり	細砂多 粗砂少 良好 外赤褐色 内灰色	稲荷原式
48-21 40 J B 42	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	無文	細砂多 粗砂少 良好 外暗褐色 内灰褐色	
48-22 40 J B 43	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	無文 細かい捺痕	細砂多 良好 外赤褐色 内灰褐色	稲荷原式
48-23 40 J B 44	深鉢	S 1759 J 覆土	—	—	—	胴部	無文	細砂多 粗砂少 良好 外黒灰色 内暗褐色	

第12表 縄文時代遺物一覧表(3)

S 1759 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 底 径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考		
48-24 40 J B45	深鉢	S 1759 J 覆土	— — —	胴部	無文 外面ヘラミガキ	細砂多 良好 外暗黄褐色 内黒色				
S 1759 J 住居 土 製 品 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	厚 重 高 径	文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考			
48-28 41 D E22	土製門板	S 1749 J 覆土	4.1 1.1 16.7	捺糸文	細砂多 良好 暗褐色					
48-27 41 D E23	土製門板	S 1749 J 覆土	3.5 0.7 10.9	捺糸文	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色					
S 1759 J 住居 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
48-29	41	AB01	石鏃	覆土	2.4	1.7	0.4	1.1	黒曜石	
48-30	41	AD01	スクレーパー	覆土	5.2	8.3	1.2	51.9	ホルンヘルス	
48-31	41	AJ01	礫器	覆土	9.0	10.5	3.7	459.7	粘板岩	
48-32	41	AK01	叩き石	覆土	10.6	8.8	6.1	780.7	砂岩	被熱・赤化
48-33	41	AL04	磨石	覆土	7.4	9.6	3.7	405.1	閃緑岩	
48-34	41	AL05	磨石	覆土	(6.0)	7.6	4.0	259.0	閃緑岩	
49-1	41	AL06	磨石	覆土	(8.8)	9.8	4.3	613.0	閃緑岩	
49-2	41	AL07	磨石	覆土	(8.1)	7.6	2.6	258.8	砂岩	被熱・赤化
49-3	41	AL08	棒状磨石	覆土	(7.4)	5.2	1.4	87.2	砂岩	
49-4	41	AN03	スタンプ形	覆土	13.6	6.4	4.0	401.6	砂岩	二腕縁、剥離により作出
49-5	41	AN04	スタンプ形	覆土	11.2	8.0	3.8	434.8	砂岩	底面僅かに割れ
49-6	41	AP02	石皿	覆土	(13.2)	(11.3)	4.7	976.2	閃緑岩	
49-7	—	AT01	鏡片	覆土	6.1	4.3	1.1	25.9	チャート	頂部自然面
S 1760 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 底 径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考		
49-8 41 J B46	深鉢	S 1760 J 覆土	— — —	口縁部	捺糸文 R 無文帯あり	細砂多 良好 暗黄褐色		幅荷台式		
S 1760 J 住居 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
49-10	41	AL09	棒状磨石	覆土	(11.3)	6.7	4.8	492.5	閃緑岩	
49-11	41	AP03	石皿	覆土	(9.5)	(8.1)	2.6	211.0	閃緑岩	
S 1761 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 底 径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考		
49-12 41 J B47	深鉢	S 1761 J 覆土	— — —	胴部	無文	細砂多 黒重母多 良好 外黄白色 内黒色				
49-13 41 J B48	深鉢	S 1761 J 覆土	— — —	胴部	無文 器面平滑	細砂多 良好 黄白色				
S 1762 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 底 径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考		
49-14 41 J B49	深鉢	S 1762 J 覆土下層	— — —	口縁部 外細肥厚	無文	細粗砂多 良好 暗黄褐色		幅荷台式		

第13表 縄文時代遺物一覧表(4)

S I 762 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口 器 径	器 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 調	備 考		
49-15 41 J B 50	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	口縁部 肥厚	捺糸文 R 横位の細かい・推痕	細砂多 良好 黒灰褐色	箱筒台式		
49-16 41 J B 51	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	口縁部 小さく外反	捺糸文 R 横位の細かい・推痕	細砂多 良好 灰色	箱筒台式		
49-17 41 J B 52	深鉢	S I 762 J 覆土中層	—	—	口縁部 肥厚	捺糸文 R	細砂多 良好 黒色	箱筒台式 口縁部下両面穿孔		
49-18 41 J B 53	深鉢	S I 762 J 覆土上層	—	—	口縁部 肥厚	捺糸文 R	細砂多 良好 黒色	箱筒台式		
49-19 41 J B 54	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	捺糸文 R 節細かく条間密	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	箱筒台式		
49-20 41 J B 55	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	捺糸文	細砂多 やや軟質 外暗褐色 内黒灰色	箱筒台式		
49-21 42 J B 56	深鉢	S I 762 J 覆土中層	—	—	胴部 底部に近い	捺糸文 R	細砂少 やや軟質 灰色	箱筒台式		
49-22 42 J B 57	深鉢	S I 762 J 覆土中層	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 外黒褐色 内暗褐色	箱筒台式		
49-23 42 J B 58	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 外黒色 内暗褐色	箱筒台式		
49-24 42 J B 59	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 外黒色 内暗褐色	箱筒台式		
49-25 42 J B 60	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	縦位・斜位捺糸文 R 内面へラミガキ	細砂多 良好 外灰色 内黒色	箱筒台式		
49-26 42 J B 61	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	口縁部 肥厚	無文	細砂多 良好 外灰褐色 内灰色	箱筒原式		
49-27 42 J B 62	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	無文	細砂多 良好 外暗褐色 内黒色	箱筒原式		
49-28 42 J B 63	深鉢	S I 762 J 覆土中層	—	—	胴部 底部に近い	無文	細砂多 良好 外灰褐色 内黒色	箱筒原式 黒斑		
49-29 42 J B 64	深鉢	S I 762 J 覆土中層	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	箱筒原式		
50-1 42 J B 65	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	捺糸文 R 擦りが非常に弱い	細砂多 良好 外灰色 内黒色	箱筒原式		
50-2 42 J B 66	深鉢	S I 762 J 覆土中層	—	—	胴部	捺糸文 R 無文帯あり	細砂少 良好 外赤褐色 内黒色	箱筒原式		
50-3 42 J B 67	深鉢	S I 762 J 覆土下層	—	—	胴部	捺糸文 R	細砂多 良好 外灰色 内灰黒色	箱筒原式		
S I 762 J 住居 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
50-5	42	AK02	叩き石	覆土中層	10.3	6.1	4.3	425.6	砂岩	被熱、スス付着
50-6	—	AL10	棒状磨石	覆土中層	(8.1)	5.5	3.8	187.6	砂岩	
S I 763 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口 器 径	器 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 調	備 考		
50-7 42 J B 68	深鉢	S I 763 J 覆土	—	—	口縁部 肥厚	無文 外面縦なへラミガキ	細砂多 良好 外灰色 内灰褐色	箱筒台式		
50-8 42 J B 69	深鉢	S I 763 J 覆土	—	—	口縁部 外反や中肥厚	捺糸文 R	細砂多 良好 外灰褐色 内黒色	箱筒台式		

第14表 縄文時代遺物一覧表(5)

S I 763 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口部 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考		
50-9 42 J B70	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部 肥厚	無文	細砂多 良好 暗黄褐色		桶筒台式		
50-10 42 J B71	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部 肥厚	燃糸文 R	細粒砂多 良好 灰黑色		桶筒台式		
50-11 42 J B72	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部 肥厚	無文	細砂多 良好 灰色		桶筒台式		
50-12 42 J B73	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部 肥厚	燃糸文 R 磨りが弱い	細砂多 良好 灰黑色		桶筒台式		
50-13 42 J B74	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部	燃糸文 R 磨りが弱い	細砂多 良好 灰褐色		桶筒台式		
50-14 42 J B75	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部 肥厚	燃糸文 R 無文帯あり	細砂多 良好 外灰黒色 内灰褐色		桶筒台式		
50-15 42 J B76	深鉢	S I 763 J 床面直上	— — —	胴部	燃糸文 R 無文帯あり	細砂多 雲母 良好 外暗褐色 内黒色		桶筒台式		
50-16 42 J B77	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	胴部	燃糸文 R 内外面ヘラミガキ	細砂多 雲母 良好 外暗褐色 内黒色		桶筒台式		
50-17 42 J B78	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	胴部	燃糸文 R 節大きく磨り弱い	細砂多 雲母 やや甘い 灰色		桶筒台式 穿孔		
50-18 42 J B79	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	胴部	縦位・斜位燃糸文 R	細砂多 良好 外暗黄褐色 内黒色		桶筒台式		
50-19 42 J B80	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	胴部	縦位・斜位燃糸文 R	細粒砂多 良好 外赤褐色 内黒色		桶筒台式		
50-20 42 J B81	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部 肥厚	燃糸文 R 口唇部にも燃糸文	細粒砂多 良好 赤黄褐色		花輪台式		
50-21 42 J B82	深鉢	S I 763 J 覆土	— — —	口縁部 口唇部角頭状	斜格子押型文	細粒砂多 良好 黒褐色		押型文		
S I 763 J 住居 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
50-22	42	AL11	磨石	覆土	10.4	8.3	3.3	465.9	閃緑岩	
50-23	42	AL12	磨石	覆土	10.5	(8.7)	5.4	707.1	閃緑岩	
50-24	42	AL13	磨石	覆土	(9.0)	9.4	5.1	646.3	砂岩	
50-25	42	AL14	磨石	覆土	12.9	8.2	6.2	778.0	砂岩	底面、側面磨痕顕著
50-26	42	AL15	磨石四石	覆土	9.5	8.6	4.8	532.6	閃緑岩	全面磨面、片面部中央凹み
50-27	42	AL16	磨石四石	覆土	8.7	6.6	5.0	426.6	砂岩	片面凹み
51-1	42	AN05	スタンプ形	覆土	13.0	8.1	3.5	570.7	砂岩	両側縁部敲打による潰れ
51-2	42	AN06	スタンプ形	覆土	9.4	7.4	3.8	491.5	打製石押	
51-3	42	AN07	スタンプ形	覆土	10.2	6.4	4.6	371.9	砂岩	
51-4	42	AN08	スタンプ形	覆土	7.2	4.9	4.0	221.5	砂岩	被熱・一部赤化
S S95 集石 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
53-1	44	AP05	石皿	Ⅲb 層	(10.0)	(16.6)	4.9	1370.9	砂岩	
S S96 集石 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口部 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考		
53-2 44 J B83	深鉢	S S96 Ⅲb 層	— — —	口縁部 肥厚	燃糸文 R 茶細い	細砂多 良好 灰黒色		桶筒台式		

第15表 縄文時代遺物一覧表(6)

S S97集石 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器底	径高 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴			胎土 焼色 土成調	備 考
53-3 44 J B84	深鉢	S S97 Ⅲ b層	— —	— —	口縁部 肥厚	撫糸文R 縞りが強い			細粒砂多 良好 灰褐色	箱筒台式
S S98集石 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
53-4	44	AJ02	磨器	Ⅲ b層	8.4	10.0	5.1	424.1	砂岩	
53-5	44	AM01	挟入磨石	Ⅲ b層	6.5	11.6	2.9	348.2	珪岩系	一部欠
S S100集石 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
53-10	44	AN09	スタンプ形	Ⅲ b層	(10.6)	10.9	4.9	816.8	閃緑岩	
53-9	44	AT05	剥片	Ⅲ b層	5.4	5.9	0.7	55.0	ホルンフェルス	
S S101集石 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器底	径高 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴			胎土 焼色 土成調	備 考
53-11 44 J B85	深鉢	S S101 Ⅲ b層	— —	— —	口縁部 やや肥厚	撫糸文R 縞りが強い			細粒砂多 良好 外灰黒色 内茶褐色	箱筒台式
S S102集石 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器底	径高 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴			胎土 焼色 土成調	備 考
53-12 44 J B86	深鉢	S S102 Ⅲ b層	— —	— —	胴部	撫糸文R			細粒砂多 良好 外黄褐色 内灰黒色	箱筒原式
S S104集石 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
53-17	44	AI01	調整剥片	Ⅲ b層	3.6	2.6	0.7	5.2	黒曜石	
S S106集石 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器底	径高 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴			胎土 焼色 土成調	備 考
53-18 44 J B087	深鉢	S S106 Ⅲ b層	— —	— —	底部 尖底	無文			細粒砂多 良好 外赤褐色 内灰黒色	撫糸文系
S S106集石 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
53-19	44	AJ03	磨器	Ⅲ b層	12.3	8.3	5.0	484.4	砂岩	
53-20	—	AD02	スクレーパー	Ⅲ b層	5.4	13.8	1.1	85.0	ホルンフェルス	刃部調整丁寧
S S107集石 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
54-1	44	AP06	石皿	Ⅲ b層	(19.1)	(15.6)	5.2	2336.8	ハンレイ岩	

第16表 縄文時代遺物一覧表(7)

S S108集石 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 別形	出土位置	口器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考	
54-2 44 J B88	深鉢	S S108 Ⅲb層	— — —	— — —	胴部	無文	細砂多 良好 外赤褐色	内灰黒色	捺糸文系	
S K2912J土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 別形	出土位置	口器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考	
54-6 45 J B89	深鉢	S K2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	捺糸文	細砂多 良好 外暗褐色	内黒色	稲荷台式	
S K2913J土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 別形	出土位置	口器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考	
57-6 47 J B90	深鉢	S K2913J 覆土	— — —	— — —	口縁部	捺糸文R	細砂多 良好 外灰色	内黒色	稲荷台式 器面荒れ剥落	
S K2925J土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 別形	出土位置	口器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考	
57-8 47 J B91	深鉢	S K2925J 覆土	— — —	— — —	口縁部 肥厚	無文	細砂多 良好 黄褐色		稲荷台式	
S K2925土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
57-9	—	AT13	剥片	覆土	3.2	2.8	0.7	5.5	ホルンフェルス	
57-10	—	AU14	砕片	覆土	1.3	0.9	0.3	0.3	チャート	片側に調整刻線
S K2926J土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 別形	出土位置	口器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考	
57-11 47 J B92	深鉢	S K2926J 覆土	— — —	— — —	口縁部 口唇部角頭状	口縁部下沈線	細砂多 良好 暗褐色		東山式	
S K2926土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
57-12	—	AO5	調整剥片	覆土	3.1	1.7	0.5	2.2	チャート	片側に縦な調整刻線
S K2927J土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 別形	出土位置	口器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考	
57-13 47 J B93	深鉢	S K2927J 覆土	— — —	— — —	胴部	無文	細砂多 良好 暗褐色		稲荷原式	
S K2928J土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 別形	出土位置	口器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考	
57-14 47 J B94	深鉢	S K2928J 覆土	— — —	— — —	口縁部 肥厚	捺糸文R	粗細砂多 良好 灰黒色		稲荷台式	

第17表 縄文時代遺物一覧表(8)

S K 2937 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口径 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考		
57-16 47 J B 95	深鉢	S K 2937 J 覆土	— —	口縁部 口唇部角頭状	撫糸文 条細い	細砂多 良好 外灰黒色	内黒色	稲荷原式		
57-17 47 J B 96	深鉢	S K 2937 J 覆土	— —	胴部	撫糸文 R 無文帯あり	細砂多 良好 外赤褐色	内黒色	稲荷原式		
57-18 47 J B 97	深鉢	S K 2937 J 覆土	— —	底部	撫糸文 R	細砂多 良好 外黄褐色	内黒色	稲荷原式		
57-15 47 J B 98	深鉢	S K 2937 J 覆土	— —	口縁部 やや肥厚	無文	細粗砂多 良好 黄褐色		東山式		
S K 2937 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
57-19	48	AL23	磨石	覆土	11.0	10.0	4.7	864.9	ハンレイ岩	磨面顕著でない
57-20	48	AL24	磨石	覆土	12.7	8.6	4.7	763.8	砂岩	被熱・赤化
S K 2944 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口径 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考		
57-21 47 J B 099	深鉢	S K 2944 J 覆土	— —	胴部	撫糸文 R	細砂多 良好 外黄褐色	内黒色	稲荷台式		
S K 2945 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口径 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考		
57-22 47 J B 100	深鉢	S K 2945 J 覆土	— —	口縁部 肥厚	撫糸文 R	細砂多 良好 外黒色	雲母 内灰色	稲荷原式		
57-23 47 J B 101	深鉢	S K 2945 J 覆土	— —	胴部	撫糸文 R 条細い	細砂多 良好 外黄褐色	赤色粒子 内灰黒色	稲荷原式		
S K 2945 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
57-24	48	AN10	スタンプ形	覆土	(7.2)	(10.3)	5.2	573.3	砂岩	底面やや磨耗
S K 2946 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
57-25	48	AN11	スタンプ形	覆土	11.0	8.3	5.5	626.6	砂岩	
S K 2960 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口径 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考		
57-26 47 J B 102	深鉢	S K 2960 J 覆土	— —	胴部 底部に近い	無文	細砂多 良好 外黄褐色	黒雲母 内灰色	撫糸文系		
S K 2984 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口径 底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考		
57-30 47 J B 103	深鉢	S K 2984 J 覆土	— —	胴部	撫糸文 R	細砂多 良好 黒色		稲荷台式		
57-29 47 J B 104	深鉢	S K 2984 J 覆土	— —	胴部	撫糸文 R	細砂多 良好 灰黒色	黒雲母	稲荷台式		

第18表 縄文時代遺物一覧表(9)

S K2997 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器底	径 高さ 底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考		
57-31 47 J B105	深鉢	S K2997 J 甕土	— — —	— — —	胴部	縹糸文 R	細粗砂多 良好 外黒色 内暗褐色	桶筒原式		
S K3021 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器底	径 高さ 底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考		
57-27 47 J B106	深鉢	S K3021 J 甕土	— — —	— — —	口縁部 口唇部角頭状	縹糸文 朱銅い	細砂多 良好 暗褐色	桶筒原式		
S K3021 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種 別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
57-28	48	AL25	磨石	甕土	(10.1)	8.4	5.6	714.9	ハンレイ岩	蔵行収蔵者
S K3117 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器底	径 高さ 底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考		
58-8 47 J B107	深鉢	S K3117 J 甕土	— — —	— — —	口縁部	斜位縹糸文 R	細粗砂多 良好 暗褐色	桶筒台式		
S X246 J 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器底	径 高さ 底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考		
59-7 49 J B108	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部 やや肥厚 口唇部角頭状	無文	細砂多 良好 外黄褐色 内黒色	桶筒台式 口縁部下片側穿孔		
59-8 49 J B109	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	— — —	口縁部 口唇部角頭状	縹糸文 R	細砂多 雲母 良好 外黒色 内暗褐色	桶筒台式		
59-9 49 J B110	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	— — —	口縁部 外反	口縁部下オサエ 縹糸文 R 口唇部にも縹糸文	細砂多 雲母 良好 黒色	桶筒台式		
59-10 49 J B111	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	— — —	口縁部	縹糸文 R 口唇部にも縹糸文	細砂多 良好 外黒色 内灰黄色	桶筒台式		
59-11 49 J B112	深鉢	S X246 J	— — —	— — —	口縁部	縹糸文 R	細砂多 良好 灰黒色	桶筒台式 器面荒れ		
59-12 49 J B114	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部	縹糸文 R	細砂多 良好 外灰色 内灰黒色	桶筒台式		
59-13 49 J B115	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部 肥厚	縹糸文 R	細砂多 雲母 良好 外黒色 内灰褐色	桶筒台式		
59-14 49 J B116	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部 肥厚	縹糸文 R 胎大きく粗い	細砂多 良好 外暗褐色 内暗褐色	桶筒台式		
59-15 49 J B117	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	— — —	口縁部 肥厚	縹糸文 R 朱銅い	細粗砂多 良好 外黒色 内暗褐色	桶筒台式		
59-16 49 J B118	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細粗砂多 良好 外暗褐色 内暗褐色	桶筒原式 器面荒れ剥落		
59-17 49 J B119	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 外暗褐色 内暗褐色	桶筒原式		
59-18 49 J B120	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	— — —	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 やや甘い 外灰褐色 内黄褐色	桶筒原式		
59-19 49 J B123	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部 小型	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 灰褐色	桶筒原式		

第19表 縄文時代遺物一覧表 (10)

S X246 J 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器 底	高 度	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 地 色	土 成 調	備 考
59-20 49 J B125	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 外灰褐色	内暗褐色	桶筒原式
59-21 49 J B126	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 外灰褐色	内黄白色	桶筒原式 外面煤付着
59-22 49 J B127	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細粗砂多 やや甘い 外黒褐色	内暗褐色	桶筒原式
59-23 49 J B129	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗褐色	—	桶筒原式
59-24 49 J B130	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 黒色	雲母	桶筒原式
59-25 49 J B131	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗褐色	—	桶筒原式
59-26 49 J B132	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細粗砂多 良好 暗褐色	—	桶筒原式
59-27 49 J B133	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗褐色	—	桶筒原式
59-28 49 J B135	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口縁部下に捻糸を押し付けて沈線状 に窪める 胴部捻糸文 R	細砂多 良好 外灰褐色	赤色粒子 内黒色	桶筒原式
59-29 — J B136	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	胴部	捻糸文 R 条線い	細砂多 良好 灰褐色	—	桶筒原式
59-30 — J B137	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	胴部	捻糸文 R	細砂多 良好 外灰褐色	雲母 内灰黒色	桶筒原式
59-31 — J B138	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	胴部	捻糸文 R 無文帯あり	細砂多 良好 外暗灰褐色	雲母 内黒色	桶筒原式
59-32 — J B139	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	胴部	捻糸文 R	細砂多 良好 外赤褐色	雲母 内黒色	桶筒原式
59-33 — J B142	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	胴部	捻糸文 R 条線状	細砂多 良好 外黒褐色	雲母 内黄白色	桶筒原式
59-34 — J B143	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	胴部	捻糸文 R	細砂多 良好 外黒色	内灰黒色	桶筒原式
59-35 — J B145	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	胴部	捻糸文 L	細砂多 良好 外黒褐色	内赤褐色	桶筒原式
59-36 — J B147	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	胴部	捻糸文 R	細砂多 良好 暗褐色	—	桶筒原式
59-37 — J B148	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	胴部	捻糸文 R	細砂多 良好 灰褐色	—	桶筒原式
59-38 49 J B151	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 外黒褐色	内暗褐色	東山式
59-39 49 J B152	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細粗砂多 良好 暗褐色	—	東山式
59-40 49 J B153	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗褐色	—	東山式
59-41 49 J B156	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗灰褐色	—	東山式
59-42 49 J B157	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 やや甘い 外黒褐色	内赤褐色	東山式
59-43 49 J B159	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗赤褐色	—	東山式

第20表 縄文時代遺物一覧表 (11)

SX246 J 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 器 底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考
59-44 49 J B163	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 外灰黄白色 内灰黒色	東山式
59-45 49 J B164	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 灰黒色	東山式
59-46 49 J B165	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	口縁部 小型	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗褐色	東山式
59-47 49 J B166	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 黒褐色	東山式
60-1 — J B169	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	胴部	撫糸文 R	細砂多 雲母 良好 外赤褐色 内黒色	撫糸文系
60-2 — J B171	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	胴部	撫糸文 R	細砂多 雲母 良好 外黒色 内灰褐色	撫糸文系
60-3 — J B173	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	胴部	撫糸文 R	細砂多 良好 赤褐色	撫糸文系
60-4 — J B174	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	胴部	撫糸文 R	細砂多 良好 暗黄褐色	撫糸文系 内面剥落
60-5 — J B176	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	胴部	無文	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	撫糸文系無文
60-6 — J B178	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	胴部	無文	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	撫糸文系無文
60-7 — J B179	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	底部 尖底	無文	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	撫糸文系無文
60-8 49 J B180	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	底部 尖底だが先端が 小さく平底状	無文	細砂多 良好 赤褐色	撫糸文系無文 器面短痕状に荒れる
60-9 — J B181	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	底部 尖底	無文	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	撫糸文系無文
60-10 — J B182	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	底部 尖底	無文 外面擦痕多	細砂多 良好 茶褐色	撫糸文系無文
60-11 — J B183	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	底部	無文	細砂多 良好 暗褐色	撫糸文系無文
60-12 — J B184	深鉢	S X246 J Ⅲ b 層	— — —	底部	無文	細砂多 小石 良好 灰黄褐色	撫糸文系無文 器面短痕状に荒れる
60-13 — J B185	深鉢	S X246 J Ⅲ c 層	— — —	底部	無文	細砂多 良好 外黄褐色 内灰褐色	撫糸文系無文
SX246 J 土 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	厚 さ	文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考	
60-38 — D E01	土製円板	S X246 J	3.5 0.8 10.8	無文	細砂・雲母多 良好 暗褐色		
60-39 — D E02	土製円板	S X246 J	3.3 1.0 11.6	撫糸文 R	細粗砂多 良好 黄褐色		
60-40 — D E03	土製円板	S X246 J	3.4 1.1 10.7	無文	細粗砂多 良好 暗褐色		
60-41 — D E04	土製円板	S X246 J	3.3 1.0 9.1	無文	細粗砂多 良好 暗褐色		
60-42 — D E05	土製円板	S X246 J	3.1 0.9 9.7	無文	細砂多 良好 黒褐色		

第21表 縄文時代遺物一覧表 (12)

S X246 J 土 製 品 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	径 厚 重 量	文様の特徴	胎 色	土 成 調	備 考			
60-43 — D E 06	土製内瓶	S X246 J	3.1 0.8 6.1	無文	細砂多 良好 赤褐色					
60-44 — D E 07	土製内瓶	S X246 J	3.4 1.1 14.1	無文	細粗砂多 良好 暗褐色					
60-45 — D E 21	土製内瓶	S X246 J	3.0 0.8 6.3	無文	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色					
S X246 J 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
61-1	50	AB08	石鏃		1.4	1.3	0.3	0.3	黒曜石	
61-2	50	AB09	石鏃	Ⅲ c 層	2.0	1.2	0.2	0.5	黒曜石	
61-3	50	AB10	石鏃	Ⅲ c 層	2.0	1.1	0.2	0.4	黒曜石	
61-4	—	AD09	スクレイパー	Ⅲ b 層	8.8	6.3	1.4	72.9	砂岩	
61-5	—	AD10	スクレイパー	Ⅲ b 層	7.1	8.3	0.9	68.8	頁岩	
61-6	—	AD12	スクレイパー	Ⅲ b 層	6.1	9.4	1.3	89.2	砂岩	
61-7	—	AD14	スクレイパー	Ⅲ b 層	7.7	9.5	2.0	171.0	頁岩	
61-8	—	AD15	スクレイパー	Ⅲ b 層	7.0	9.1	1.2	122.5	頁岩	
61-9	—	AD18	スクレイパー	Ⅲ b 層	4.5	3.8	1.0	17.5	チャート	
61-10	—	AD19	スクレイパー	Ⅲ b 層	4.7	6.5	2.1	55.3	チャート	
61-11	—	AD20	スクレイパー	Ⅲ b 層	4.6	3.0	0.9	15.7	チャート	
61-12	—	AD21	スクレイパー	Ⅲ b 層	(4.7)	3.0	1.0	12.2	チャート	
61-13	51	AG06	打製石斧	Ⅲ c 層	29.9	15.0	5.3	3105.3	砂岩	大型、刃部に磨耗痕あり、両面に大きく自然面を残す
62-1	50	AG07	打製石斧	Ⅲ c 層	11.1	6.9	4.3	277.4	ホルンフェルス	
62-2	50	AG09	打製石斧	Ⅲ b 層	9.5	6.6	2.8	201.3	ホルンフェルス	
62-3	50	AG13	打製石斧	Ⅲ b 層	8.4	4.2	2.1	110.6	砂岩	
62-4	50	AG14	打製石斧	Ⅲ b 層	7.6	4.8	1.8	87.6	ホルンフェルス	
62-5	50	AG16	打製石斧	Ⅲ b 層	8.9	5.7	2.3	122.0	ホルンフェルス	
62-6	50	AH01	磨製石斧	Ⅲ b 層	9.6	5.3	2.7	184.1	蛇紋岩	
62-7	50	AH04	磨製石斧	Ⅲ b 層	4.8	3.6	1.4	36.3	ホルンフェルス	
62-8	50	AH06	磨製石斧	Ⅲ b 層	6.9	4.4	2.0	80.3	砂岩	
62-9	50	AH07	磨製石斧		7.3	4.5	2.2	119.1	蛇紋岩	
62-10	50	AH08	磨製石斧		(4.8)	2.9	1.2	17.4	凝灰岩	
62-11	50	AJ05	礫器	Ⅲ b 層	8.0	8.6	4.1	209.9	ホルンフェルス	階段状剥離
62-12	50	AJ08	礫器	Ⅲ b 層	6.2	10.6	3.5	263.3	砂岩	
62-13	50	AJ12	礫器	Ⅲ b 層	7.1	12.1	2.4	207.4	砂岩	
62-14	51	AK04	叩き石	Ⅲ b 層	8.1	8.3	5.0	474.2	砂岩	
62-15	51	AK05	叩き石	Ⅲ b 層	9.0	5.7	5.1	317.8	砂岩	
62-16	51	AL29	磨石	Ⅲ b 層	7.2	5.7	4.8	260.5	砂岩	敲打痕顕著
62-17	51	AL30	磨石	Ⅲ b 層	11.4	8.0	7.2	726.2	砂岩	後縁3箇所磨痕顕著
63-1	51	AL32	磨石	Ⅲ b 層	10.2	8.6	2.9	440.1	閃緑岩	
63-2	51	AL35	磨石	Ⅲ b 層	10.7	6.9	6.5	703.6	閃緑岩	敲打痕弱い
63-3	51	AL36	磨石	Ⅲ b 層	7.9	(8.3)	5.3	792.4	閃緑岩	
63-4	51	AL37	磨石	Ⅲ b 層	6.6	(10.5)	5.0	497.9	閃緑岩	後縁2面磨痕顕著
63-5	51	AL38	磨石	Ⅲ b 層	7.3	5.3	1.9	110.6	砂岩	
63-6	51	AL40	磨石	Ⅲ c 層	7.9	7.2	4.1	314.1	閃緑岩	
63-7	51	AL42	磨石凹石	Ⅲ a 層	9.3	8.0	3.2	359.9	砂岩	被熱・赤化
63-8	51	AL45	磨石凹石	Ⅲ b 層	11.6	8.8	4.1	563.9	砂岩	
63-9	51	AL46	磨石凹石	Ⅲ a 層	8.9	7.2	4.4	380.8	ハンレイ岩	
63-10	51	AL47	棒状磨石	Ⅲ b 層	11.9	4.6	2.0	164.8	砂岩	
63-11	—	AL50	棒状磨石	Ⅲ b 層	11.1	5.2	3.1	295.3	砂岩	縦位に節理の溝状部
63-12	—	AL53	棒状磨石	Ⅲ b 層	15.1	4.1	2.5	225.2	片岩	
63-13	51	AL55	棒状磨石	Ⅲ b 層	9.9	3.8	2.5	127.6	頁岩	刃部に斜位の研磨で研ぎだす

第22表 縄文時代遺物一覧表 (13)

S X246 J 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
63-14	51	AL56	棒状磨石	皿b層	9.9	3.9	2.7	95.2	片岩	
64-1	52	AM05	挟入磨石	皿b層	6.5	10.0	2.0	206.1	閃緑岩	
64-2	52	AM06	挟入磨石	皿b層	6.1	(6.2)	3.1	148.3	閃緑岩	
64-3	52	AM07	挟入磨石		(9.2)	(6.7)	2.5	161.9	閃緑岩	
64-4	52	AN15	スタンプ形	皿b層	12.0	9.4	4.0	588.0	閃緑岩	
64-5	52	AN16	スタンプ形	皿b層	13.9	13.4	5.3	1163.2	閃緑岩	
64-6	52	AN21	スタンプ形	皿b層	10.3	11.4	4.1	519.5	砂岩	
64-7	52	AN19	スタンプ形	皿b層	5.1	5.4	3.1	106.6	砂岩	小型
64-8	52	AN22	スタンプ形	皿b層	14.3	12.6	4.8	1238.1	閃緑岩	
64-9	52	AN23	スタンプ形	皿b層	14.3	10.3	5.6	790.0	砂岩	
64-10	—	AN24	スタンプ形	皿b層	12.6	11.5	4.2	606.2	砂岩	
64-11	—	AN25	スタンプ形	皿c層	11.2	10.5	3.8	549.4	砂岩	
64-12	—	AN26	スタンプ形	皿c層	12.1	11.9	5.2	905.8	砂岩	
64-13	52	AN28	スタンプ形	皿b層	12.8	9.7	4.5	783.8	砂岩	
65-1	—	AN29	スタンプ形	皿b層	12.4	8.1	5.1	763.2	砂岩	
65-2	52	AN30	スタンプ形	皿b層	12.8	9.3	3.8	128.3	砂岩	
65-3	—	AN31	スタンプ形	皿b層	11.5	9.1	4.5	565.0	砂岩	
65-4	—	AN33	スタンプ形	皿c層	11.4	12.7	4.2	834.7	砂岩	底面やや磨耗
65-5	52	AN34	スタンプ形	皿c層	12.5	10.6	3.9	703.9	閃緑岩	底面やや磨耗
65-6	52	AN35	スタンプ形	皿b層	10.6	5.7	4.5	455.1	砂岩	底面使用痕顕著
65-7	52	AN36	スタンプ形	皿b層	13.2	7.8	5.6	781.7	砂岩	底面使用痕顕著
65-8	52	AN52	スタンプ形	皿c層	12.0	9.3	4.9	852.6	閃緑岩	底面使用痕顕著
65-9	—	AP07	石皿	皿c層	26.6	(24.1)	10.0	11000	砂岩	上面平滑
65-10	—	AP10	石皿	皿b層	21.8	18.7	5.5	3257.1	閃緑岩	
65-11	52	AT17	調片	皿b層	2.5	2.8	0.6	4.0	黒曜石	
65-12	52	AT20	調片	皿c層	3.2	2.3	0.6	4.3	黒曜石	
65-13	52	AT21	調片	皿b層	3.2	2.0	0.9	5.8	チャート	
65-14	52	AT22	調片	皿b層	4.4	2.2	0.6	4.1	チャート	
65-15	52	AT29	調片	皿b層	4.5	3.6	1.2	19.7	チャート	
S X247 J 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 器 形	出土地位置	口 径 底 径	器 形 の高 径	器形の特徴	文・器形・文様の特徴	胎 土 色 調	土 成 調	備 考	
66-1 — J B186	深鉢	S X247 J 皿b層	— — —	— — —	口縁部 肥厚	斜位捺糸文R	細粒砂多 良好 外灰色 内黒色		桶筒原式	
66-4 — J B187	深鉢	S X247 J 皿b層	— — —	— — —	胴部	捺糸文R 無文帯あり	細粒砂多 良好 暗黄褐色		桶筒原式	
66-2 — J B188	深鉢	S X247 J 皿b層	— — —	— — —	口縁部 肥厚	無文 内面ヘラミガキ	細粒砂多 良好 暗黄褐色		捺糸文系無文	
66-3 — J B189	深鉢	S X247 J 皿b層	— — —	— — —	口縁部 肥厚	無文 内面ヘラミガキ	細粒砂多 良好 灰色		捺糸文系無文	
S X247 J 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
66-6	—	AG19	打製石斧	皿b層	7.2	4.9	1.4	44.8	頁岩	
66-7	—	AJ20	礫器	皿b層	9.3	8.2	4.3	320.7	ホルンフェルス	
66-8	—	AJ21	礫器	皿b層	11.0	7.5	3.1	364.2	ホルンフェルス	
66-9	—	AJ22	礫器	皿b層	14.0	13.4	5.3	1252.0	ホルンフェルス	
66-10	—	AM08	挟入磨石	皿b層	6.7	(6.6)	2.6	198.2	閃緑岩	
66-11	—	ANS4	スタンプ形	皿b層	13.9	9.1	5.3	939.3	砂岩	

第23表 縄文時代遺物一覧表 (14)

遺 構 外		土 器 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土地	口 器 底	高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 調	備 考	
67-1 53 J B190	深鉢	E N65 Ⅲ a 層	—	—	口縁部 小さく外反肥厚	縄文	細砂多 良好 暗黄褐色	井草式	
67-2 53 J B192	深鉢	E R69 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 小さく外反肥厚	口唇部縄文 R L 胴部は口縁部下 に無文部を置いて以下縄文 R L 口縁部下に縄文原体の押圧	細砂多 やや脆い 灰褐色	井草式	
67-3 53 J B193	深鉢	E R87 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 肥厚 口唇外端面取り	口唇部縄文 R L 胴部縄文 R L 口縁部下に指痕正装	細砂多 良好 赤褐色	井草式	
67-4 53 J B194	深鉢	F B77 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 緩く外反	縄文 R L	細砂多 良好 赤褐色	井草式	
67-5 — J B195	深鉢	E L70 I・II 層	—	—	口縁部	捺糸文 R	細砂多 良好 淡赤褐色	大丸式	
67-6 53 J B196	深鉢	E P67 I・II 層	—	—	口縁部 外反肥厚	捺糸文 L 捺りが乱れている	細砂多 良好 赤褐色	大丸式	
67-7 53 J B197	深鉢	E Q68 Ⅲ a 層	—	—	口縁部	捺糸文 R	細砂多 良好 暗黄褐色	大丸式	
67-8 53 J B198	深鉢	E T82 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 肥厚	斜位捺糸文 R	細砂多 良好 外暗褐色 内灰褐色	大丸式	
67-9 — J B199	深鉢	F D76 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 外反	斜位捺糸文 R	細砂多 良好 赤褐色	大丸式	
67-10 53 J B200	深鉢	F E73 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	縦位・斜位捺糸文 R 節間かく来細い	細砂多 良好 赤褐色	大丸式	
67-11 53 J B201	深鉢	E M76 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	捺糸文 R	細砂多 良好 灰色	夏島式	
67-12 53 J B202	深鉢	E S77 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 やや肥厚	捺糸文 L	細砂多 良好 赤褐色	夏島式	
67-13 53 J B203	深鉢	E S83 —	—	—	口縁部	捺糸文 R	細砂多 良好 灰色	夏島式	
67-14 53 J B204	深鉢	E T82 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	捺糸文 R 内面ヘラミガキ	細砂多 良好 灰褐色	夏島式	
67-15 53 J B205	深鉢	F C76 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 口唇部内面状	口唇部端縄文 R L、そこから1cm幅 の無文部を置いて胴部縄文 R L	細砂多 良好 赤褐色	井草式	
67-16 53 J B207	深鉢	F L78 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 外反肥厚	捺糸文 R	細砂多 良好 外灰色 内黒色	夏島式	
67-17 53 J B208	深鉢	F J82 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	捺糸文 R	細砂多 良好 灰褐色	夏島式	
67-18 53 J B210	深鉢	E L68 —	—	—	口縁部 やや肥厚	無文	細砂多 良好 灰褐色	桶筒台式	
67-19 53 J B211	深鉢	F A71 Ⅲ a 層	—	—	口縁部 肥厚	捺糸文 R 無文部あり 内外面ヘラミガキ	細砂多 良好 暗黄褐色	桶筒台式 口縁部下両側穿孔	
67-20 53 J B212	深鉢	F C81 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 やや肥厚	捺糸文 R 無文部あり	細砂多 良好 黒色	桶筒台式	
67-21 53 J B213	深鉢	F L74 —	—	—	口縁部	捺糸文 R 無文部あり	細砂多 良好 外黒色 内灰褐色	桶筒台式	
67-22 53 J B223	深鉢	E N70 I・II 層	—	—	口縁部 小さく外反	口縁部下捺糸文原体押圧 捺糸文 R	細砂多 良好 外灰茶褐色 内黒色	花輪台式	
67-23 53 J B224	深鉢	E R70 I・II 層	—	—	口縁部	口縁部下捺糸文原体押圧 捺糸文 R	細砂多 良好 外灰茶褐色 内黒色	花輪台式	
67-24 53 J B229	深鉢	F N77 Ⅲ c 層	—	—	口縁部 肥厚	捺糸文 R 無文部あり 内外面ミガキ	細砂多 良好 灰褐色	桶筒原式	

第24表 縄文時代遺物一覧表 (15)

遺 構 外					土 器 一 覧			
国面番号 地区番号 遺物番号	種 別 器 形	出土位置	口 器 底	作 高 径	器形の特徴	文・彫刻・文様の特徴	胎 土 焼 成 色 調	備 考
07-25 — J B232	深鉢	F F79 Ⅲ b 層	—	—	胴部	捺糸文 R 無文帯あり	細砂多 良好 外暗黄褐色 内黒色	桶筒原式 233と同一個体の可能性あり
07-26 — J B244	深鉢	F A76 Ⅲ b 層	—	—	胴部	捺糸文 R 節組い 無文帯あり	細砂多 粗砂少 良好 外暗褐色 内黒色	桶筒原式
07-27 53 J B249	深鉢	E M67 I・II 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 粗砂少 やや甘い 灰色	東山式
07-28 — J B250	深鉢	E N67 I・II 層	—	—	口縁部 内面状	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 粗砂少 良好 黒褐色	東山式
07-29 53 J B252	深鉢	E N70 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 黒雲母 良好 外黒色 内灰色	東山式
07-30 53 J B253	深鉢	Ⅲ b 層	—	—	口縁部 内面状	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 暗褐色	東山式
07-31 53 J B254	深鉢	E N73 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 内面状	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 雲母 良好 外黒褐色 内暗褐色	東山式
07-32 53 J B255	深鉢	E P65 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 内面状	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 雲母 良好 外黒褐色 内暗褐色	東山式
07-33 — J B256	深鉢	E R65 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 内面状 やや肥厚	口唇部下に横位沈線状の段差 胴部無文 外面粗いヘラミガキ	細砂多 良好 灰褐色	東山式
07-34 53 J B258	深鉢	F A68 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 内面状	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 粗砂少 良好 外暗褐色 内赤褐色	東山式 黒斑
07-35 53 J B262	深鉢	F C85 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 良好 赤褐色	東山式
07-36 53 J B263	深鉢	F J77 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 内面状	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細粗砂多 良好 外灰黒色 内灰色	東山式
07-37 53 J B264	深鉢	F J78 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部下に横位沈線 胴部無文	細砂多 黒雲母 良好 外暗褐色 内灰褐色	東山式
07-38 — J B266	深鉢	E N85 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 緩く外反	口唇内面に斜位捺糸文 R 胴部横 位捺糸文 R	細砂多 良好 赤褐色	大瀧山式
07-39 53 J B274	深鉢	E O76 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	無文	細砂多 良好 外暗黄褐色 内黒色	捺糸文系無文
07-40 — J B275	深鉢	E P80 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 肥厚外反	無文	細砂多 粗砂少 良好 黄土色	捺糸文系無文
07-41 53 J B277	深鉢	E R76 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	無文	細砂多 粗砂少 良好 灰褐色	捺糸文系無文
07-42 53 J B289	深鉢	F E81 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 肥厚	無文	細砂多 良好 外暗褐色 内灰色	捺糸文系無文
07-43 53 J B295	深鉢	F L76 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 肥厚	無文 外面ミガキ	細砂多 良好 外灰黒色 内灰黄色	捺糸文系無文
07-44 — J B304	深鉢	E M82 Ⅲ b 層	—	—	底部 器壁厚い	無文 外面粗いヘラミガキ	細砂多 良好 外赤褐色 内灰褐色	捺糸文系無文
07-45 — J B305	深鉢	F E82 Ⅲ b 層	—	—	底部 尖底	捺糸文 R 底部先端付近で捺糸原体を直径3.5 cmの円形に押捺	細砂多 粗砂少 良好 外灰褐色 内黒色	捺糸文
07-46 — J B306	深鉢	E R65 Ⅲ b 層	—	—	底部	無文	細砂多 良好 灰色	捺糸文系無文
07-47 53 J B307	深鉢	F C81 Ⅲ a 層	—	—	胴部 削片	削片押型文	細砂多 良好 灰色	押型文
07-48 53 J B308	深鉢	F L83 Ⅲ b 層	—	—	胴部	格子目押型文	粗細砂多 良好 非常に堅緻 赤褐色	押型文

第25表 縄文時代遺物一覧表 (16)

遺 構 外 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 器	別 形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
67-49 53 J B309	深鉢		FAB6 田b層	— — —	— — —	口縁部～胴部 小型 疑口縁？	無文	細砂多 良好 外灰褐色 内黒色	然系文系無文

早 期 後 半 (J C)

S I 759 J 住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 器	別 形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
48-26 40 J C 01	深鉢		S I 759 J 覆土	— — —	— — —	口縁部 口縁部外そぎ状	口唇部内面にキザミ目 細点線による曲線区画。その中に横位 貝殻縦文。平行する細点線間内には 爪形文の部分と爪形文と縦位貝殻縦 文の両者を飾る部分がある 内面横へうミガキ	細砂多 繊維細 雲 母 良好 堅緻 赤褐色~暗褐色	田戸上層式

S I 760 J 住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 器	別 形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
49-9 41 J C 02	深鉢		S I 760 J 覆土	— — —	— — —	口縁部 外反 口縁部下に外耳	無文	細砂多 良好 赤褐色・黄褐色	田戸上層式

S I 762 J 住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 類	別 形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
50-4 42 J C 03	深鉢		S I 762 J 覆土	— — —	— — —	胴部	無文 縦位線痕	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式

S K 2912 J 土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 底 径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考		
54-7 45 J C 04	深鉢	S K 2912 J 覆土	(24.5) — —	口縁部	無文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式 器面被熱で細かなヒビ 口縁部下両側穿孔		
54-8 45 J C 05	深鉢	S K 2912 J 覆土	(28.0) — —	口縁部	無文 器面に凹凸がある	細砂・繊維少 良好 赤褐色	子母口式		
54-9 45 J C 06	深鉢	S K 2912 J 覆土	— — —	口縁部	部分的に斜位・縦位の条痕文 器面に縦位の凹凸顯著	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式		
54-14 45 J C 07	深鉢	S K 2912 J 覆土	— — —	口縁部	無文 縦位の微細・細隆帯状の粗い筋状の 盛り上がりがあるが、指・へうなど で強く撫で付けた結果文様状に なったと見られる	細砂多 繊維少 やや軟質 外黒色・内灰黒褐色	子母口式		
54-10 45 J C 08	深鉢	S K 2912 J 覆土	— — —	口縁部	横位条痕文を部分的に施文 無文 部が多い	細砂・繊維少 良好 赤褐色	子母口式 口縁部下2箇所に向 側穿孔		
54-11 45 J C 09	深鉢	S K 2912 J 覆土	— — —	口縁部	無文	細砂・繊維少 雲母 良好 灰色	子母口式		
54-12 45 J C 10	深鉢	S K 2912 J 覆土	— — —	口縁部	無文	細砂・繊維少 良好 黒色	子母口式		
54-13 45 J C 11	深鉢	S K 2912 J 覆土	— — —	口縁部	無文	細砂・繊維少 良好 灰黒色	子母口式		
54-15 45 J C 12	深鉢	S K 2912 J 覆土	— — —	口縁部	無文	細砂・繊維少 良好 外赤黒色・内黒色	子母口式		

第26表 縄文時代遺物一覧表 (17)

SK2912J土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別 形 式	出土位置	口 器 底	器 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 成 色	備 考	
54-16 46 J C13	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部 底部から口縁部 へ向かい逆「ハ」 字状に大きく開く 器面凹凸顯著	外面は全面斜位の条痕文 条痕は 下から上に向かって重なるように 施文 条痕を指頭オサエで潰している部 分が点的に見られる	細砂・繊維多 小石少 やや軟い 外上半灰褐色・下半灰 赤褐色 内灰褐色	子母口式 胴部1/2強残 口縁部 と底部欠 器面凹凸あり 作り難 内面下平コゲ付着顯著	
55-1 45 J C14	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条痕文 細い条痕	細砂多 繊維少 雲 母 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式 内面コゲ付着	
55-2 45 J C15	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	54-14同様の縦位細線線状の盛り上 りがある	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内暗褐色	子母口式	
55-3 45 J C16	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	斜位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外灰褐色・内灰色	子母口式	
55-4 45 J C17	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	口縁部	54-14同様の縦位細線線状の盛り上 りがある	細砂多 繊維少 良好 灰褐色	子母口式	
55-5 45 J C18	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	横位条痕文	細砂多 繊維やや多 雲母 やや軟質 外暗褐色・内灰褐色	子母口式	
55-6 45 J C19	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条痕文 細い条痕	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内灰褐色	子母口式	
55-7 45 J C20	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	部分的に縦位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色・内暗褐色	子母口式 細かく割れている	
55-8 45 J C21	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂多 繊維少 良好 暗褐色	子母口式	
55-10 45 J C22	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内赤・黒色	子母口式	
55-9 45 J C23	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	無文	細砂少 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式	
55-11 45 J C24	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	外面縦位条痕文 内面斜位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式	
55-12 45 J C25	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条痕文 条痕粗い 器面凹凸あり	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式	
55-13 45 J C26	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外灰褐色・内黒色	子母口式 内面コゲ付着	
55-14 45 J C27	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂・繊維少 良好 赤褐色・内灰色	子母口式	
55-15 45 J C28	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	無文 粗い擦痕	細砂少 良好 茶褐色	子母口式	
55-16 45 J C29	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	内外面縦位条痕文 外面は条線状	細砂・繊維少 良好 外赤褐色・内灰褐色	子母口式	
55-25 45 J C30	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	底部 尖底	無文 器面凹凸あり 底部先端付近に連続鋭突によって 径2.3cmの円を描く	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式 内面コゲ付着	
55-26 45 J C31	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	底部 尖底	無文 底部先端少し擦れて面をなす	細砂・繊維多 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式	
55-27 45 J C32	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	底部 尖底	無文	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	子母口式	
55-28 45 J C34	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位条線状条痕文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式 胴部下位1/2弱残	
55-29 45 J C324	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部	縦位の粗い条痕文 器面凹凸顯著	細砂多・繊維多 良好 外赤褐色・黒色 内灰褐色	子母口式	
55-30 46 J C33	深鉢	SK2912J 覆土	— — —	— — —	胴部下位～底部 器面の縦やかな凹 凸顯著	内外面縦位条痕文だが内面は一部 のみ・内外とも条痕を磨り消そう としており、条痕上に微細な擦痕 がある。	細砂・繊維多 良好 外暗茶褐色～灰黒色 内黒色～灰褐色	子母口式 胴部下位1/2強残	

第27表 縄文時代遺物一覧表 (18)

S K2912 J 土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口 器 底	高 度	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 調	備 考	
55-31 45 J C35	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部	無文	細砂・繊維多 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式	
55-17 45 J C36	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部	無文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内灰色	子母口式	
55-18 45 J C37	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部	無文	細砂・繊維多 良好 外赤褐色・内黒色	子母口式	
55-19 45 J C38	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部 器面凹凸	無文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内灰黒色	子母口式 黒斑	
55-20 45 J C39	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部	無文 器面凹凸	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色・内灰黒色	子母口式	
55-21 45 J C40	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	口縁部 内そぎ状	無文	細砂多 良好 灰黒色	子母口式 器面荒れ	
55-22 45 J C41	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部	部分的に縦位の弱い条痕文	細砂多 繊維少 良好 黒色	子母口式	
55-23 45 J C42	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部	無文	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色・内黒褐色	子母口式	
55-24 45 J C43	深鉢	S K2912 J 覆土	—	—	胴部	無文	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	子母口式	

S K2912 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
56-1	46	AB02	石鏃	覆土	(2.4)	1.8	0.5	2.2	チャート	
56-2	46	AB03	石鏃	覆土	1.8	1.3	0.3	0.5	チャート	小型
56-3	46	AB04	石鏃	覆土	3.0	2.2	0.5	2.3	チャート	
56-4	46	AB05	石鏃	覆土	1.9	1.6	0.3	0.8	チャート	
56-5	46	AB06	石鏃	覆土	(1.5)	1.5	0.4	0.6	黒曜石	
56-6	46	AD03	スクレーパー	覆土	6.7	10.2	2.3	221.8	砂岩	
56-7	46	AD04	スクレーパー	覆土	9.7	12.9	1.2	167.8	ホルンフェルス	
56-8	46	AD05	スクレーパー	覆土	6.8	8.8	1.3	75.4	頁岩	
56-9	46	AD06	スクレーパー	覆土	(5.8)	(4.2)	1.0	28.3	ホルンフェルス	
56-10	46	AF01	ピース・エスキュー	覆土	2.4	1.6	0.9	4.5	チャート	
56-11	46	AF02	ピース・エスキュー	覆土	3.0	2.0	0.7	4.7	チャート	
56-12	46	AG02	打製石斧	覆土	7.6	4.7	1.9	73.9	砂岩	
56-13	46	AG03	打製石斧	覆土	7.6	5.8	1.8	88.9	ホルンフェルス	
56-14	46	AG04	打製石斧	覆土	5.4	5.5	1.6	78.7	ホルンフェルス	
56-15	46	AG05	打製石斧	覆土	9.0	(3.4)	2.0	74.1	ホルンフェルス	
56-16	46	AI02	調整剥片	覆土	3.8	2.1	0.4	2.2	燧石	
56-17	46	AI03	調整剥片	覆土	2.2	1.3	0.5	1.7	チャート	
56-18	46	AK03	叩き石	覆土	7.0	9.8	3.2	314.5	砂岩	被熱・一部赤化
56-19	46	AL20	磨石	覆土	10.5	9.5	4.2	623.3	閃緑岩	
56-20	—	AL21	磨石	覆土	8.9	7.1	1.9	188.4	砂岩	一端に敲打痕
56-21	46	AL22	棒状磨石	覆土	(7.8)	5.1	4.1	242.0	砂岩	被熱・赤化・一部スチ付
56-22	46	AM02	挟入磨石	覆土	(7.4)	(6.7)	2.5	123.7	砂岩	
56-23	46	AM04	挟入磨石	覆土	8.6	14.4	3.1	519.9	閃緑岩	
57-1	45	AM03	挟入磨石	覆土	(7.1)	(5.7)	3.0	180.0	閃緑岩	
57-2	46	AT06	剥片	覆土	2.8	4.8	0.7	9.1	チャート	
57-3	46	AT12	剥片	覆土	5.0	7.4	1.4	42.2	ホルンフェルス	刃部破れ
57-4	46	AU03	砕片	覆土	2.1	1.4	0.4	0.8	黒曜石	
57-5	46	AU04	砕片	覆土	1.7	1.9	0.3	0.9	黒曜石	

第28表 縄文時代遺物一覧表 (19)

S K2914 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器 口径	底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
57-7 47 J C 44	深鉢	S K2914 J 覆土	—	—	胴部	無文	細粒砂多 良好 外赤褐色	繊維微 内灰褐色	条紋文系	
S K3051 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器 口径	底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
57-32 47 J C 45	深鉢	S K3051 J 覆土	—	—	胴部	無文 外面縦ヘラミガキ	細粒砂多 良好 外暗褐色	繊維微 内白色	条紋文系	
S K3051 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
57-33	48	AT14	剥片	覆土	7.2	9.1	1.8	121.0	ホルンフェルス	
S K3057 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
58-1	48	AB07	石鏃	覆土	2.5	1.8	0.7	2.6	チャート	
S K3113 J 土坑 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器 口径	底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
58-4 47 J C 46	深鉢	S K3113 J 覆土	—	—	胴部	無文	細粒砂多 良好 外白色	内灰白色	沈線文系無文	
58-5 47 J C 47	深鉢	S K3113 J 覆土	—	—	胴部	無文	細粒砂多 やや軟質 外赤褐色	内灰褐色	沈線文系無文	
S K3113 J 土坑 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
58-6	48	AL26	磨石	覆土	7.8	8.6	1.6	183.6	閃緑岩	
58-7	48	AL27	磨石	覆土	10.4	6.1	4.0	357.1	閃緑岩	
S X239 J 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器 口径	底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
58-9 48 J C 48	深鉢	S X239 J 皿 b 層	(30.0)	—	括れが小さく、 口縁部は縦やか に外反する。	全面に貝殻片を密に施して 地文とする。口縁部下に沈線を 施し、平行する2本の太沈線で 円形を描いて連弧状の文様とし、 その中を4〜5本の縦の短沈線で 飾る。	細砂・赤色粒子多 砂・繊維少 良好 外胴部下位赤褐色・上 位白色	粗 内灰黄色	沈線文系？ 口縁部約1/8・胴部1/4 胴部内面下位にコゲ	
S X242 J 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	口器 口径	底径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
59-1 49 J C 49	深鉢	S X242 J 皿 b 層	—	—	口縁部に向かっ て少し開く	無文 外面縦ヘラミガキ面著 器面内外面やかな凹凸顯著	細砂多 の細かい 良好 赤褐色・暗褐色	繊維少 き	田戸上層式 口縁部・底部欠 胴部最大径元径24cm 胴部下位内面コゲ付着	
S X242 J 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
59-2	49	AG18	打製石斧	皿 b 層	8.7	4.5	1.8	91.6	ホルンフェルス	
59-3	49	AT38	剥片	皿 b 層	4.2	3.3	0.4	5.7	ホルンフェルス	

第29表 縄文時代遺物一覧表 (20)

S X243 J								土 器 一 覧	
図面番号 図版番号 遺物番号	種 類 器 形	出土位置	口 器 底 径 底 高	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色 土 成 調	備 考		
59-4 49 J C50	深鉢	S X243 J Ⅲ b層	(19.3) — —	キャリバー形 胴部上位で緩や かに括れ、口縁 部に向かって内 湾しながら開く	2本1組の横位幅広平行沈線で口 縁部文様帯を画し、その中を2本 の沈線で波状文を描く 口唇部斜めキザミ	細粒砂・繊維多 砂子少 小石 良好 外赤褐色～茶褐色 内茶褐色～黒褐色	田戸上層式 口縁部～胴下位1/4残		
59-6 — J C51	深鉢	S X243 J Ⅲ b層	— — —	尖底底部	無文 底部先端付近沈線が径3cmで通る	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内黒褐色	田戸上層式 底部1/3残		
59-5 — J C52	深鉢	S X243 J Ⅲ b層	— — —	波状口縁部 口唇部角頭状	口縁部に沿って半截竹管による平 行沈線が少なくとも4条施される	細砂多 粗砂・繊維少 良好 堅緻 茶褐色	田戸上層式		
S X246 J								土 器 一 覧	
図面番号 図版番号 遺物番号	種 類 器 形	出土位置	口 器 底 径 底 高	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色 土 成 調	備 考		
60-14 50 J C53	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	口縁部 波状口縁 外反 角頭状	波状頂部の縦長刺突を境に3本の 平行沈線。その下に連続鋭突文と 平行沈線を飾る。	細粒砂多 良好 堅緻 灰褐色	田戸下層式		
60-15 50 J C54	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	口縁部 内湾 口唇部内傾	細い連続鋭突による横線文間に 間隔の長い横長刺突文	細粒砂少 良好 堅緻 灰茶褐色	田戸下層式		
60-16 50 J C55	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	口縁部 小突起底	口唇部は内側に細かなキザミと上 面から外端に細い押し引き沈線文。 口縁部に沿って細い半截竹管で横 線を引きその中に細かな刺突を充 填。その下に長めの間隔の押し引 き沈線で三角形(?)の幾何学文を 描き、小刻みの押し引きで埋める。	細粒砂多 良好 灰黄褐色	田戸下層式		
60-17 50 J C56	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部下位～底部 小型 底部丸底か	半截竹管による横線文	細粒砂多 良好 灰色	田戸下層式		
60-18 50 J C57	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	(27.8) — —	キャリバー形 波状口縁	口唇部貝殻縁線の刺突。 口縁部に沿って貝殻縁線文を連続 施文、その下に半截竹管による大 きな波状文を3条通らし、部分的 に貝殻背圧痕文を加える。間を置 いて胴部上位に連続貝殻縁線文を 2本を描き、その中に貝殻背圧痕 文を飾る。	細砂多 粗砂・赤色粒 子・繊維少 砂っぽい やや軟質 外灰茶褐色～黄褐色 内黄褐色	田戸上層式 口縁部～胴上位1/4残 口縁部多少歪みあり		
60-19 50 J C59	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	波状口縁	057と同じ文様構成だが、口唇部と 上段の波状文の間隔が大きく、そ の上位に刺突が加えられたり、下 段の波状文が押し引きによる部分 があることなどから、別個体とし た。	細砂多 粗砂・赤色粒 子・繊維少 やや軟質 灰茶褐色	田戸上層式 口縁部～胴部上位片 057と同一個体の可能 性高い		
60-20 50 J C61	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	数条の斜位細比線間に細比線で波 状文を描く	細砂多 良好 赤褐色	田戸上層式		
60-21 50 J C62	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	沈線区画内をさらに小三角形に割 い、中を貝殻縁線文で埋める。区 画下に連続貝殻縁線文と横長刺突 文。	細砂少 良好 堅緻 灰茶褐色	田戸上層式		
60-22 50 J C63	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	2本の平行沈線による方形区画と 推定される。	細砂多 粗砂・繊維少 良好 赤褐色	田戸上層式		
60-23 50 J C65	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	2本の平行沈線による区画	細粒砂多 良好 赤褐色	田戸上層式		
60-24 50 J C66	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	横位の平行する細比線間に連続貝 殻縁線文	細粒砂多 繊維少 良好 堅緻 黒褐色	田戸上層式		
60-25 50 J C67	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂・繊維多 良好 外暗褐色 内灰黒色	子母口式		
60-26 50 J C68	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	口縁部	無文	細砂多 粗砂・繊維少 良好 暗黄褐色	沈線文系無文		
60-27 50 J C69	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	口縁部	無文	細粒砂多 良好 暗赤褐色	沈線文系無文		
60-28 50 J C70	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	口縁部	無文	細砂多 良好 茶褐色	沈線文系無文 口縁部下両端穿孔		

第30表 縄文時代遺物一覧表 (21)

S X246 J 土 器 一 覧							
国面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考
60-29 50 J C71	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂・繊維多 やや軟質 外赤褐色 内灰色	条痕文系
60-30 50 J C72	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	条線状条痕文	細粗砂多 繊維少 良好 外灰茶褐色 内黒色	条痕文系
60-31 50 J C73	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	斜位接痕状条痕文	細砂多 粗砂・繊維少 良好 外灰茶褐色 内黒色	条痕文系
60-32 50 J C74	深鉢	S X246 J —	— — —	胴部	斜位条痕文	細砂多 良好 灰茶褐色	条痕文系
60-33 50 J C75	深鉢	S X246 J —	— — —	胴部	縦位条痕文 条痕細い	細砂多 良好 外灰褐色 内灰黒色	条痕文系
60-34 50 J C76	深鉢	S X246 J —	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂・繊維多 良好 外黒褐色 内灰黒色	条痕文系
60-35 50 J C77	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	無文	細砂・赤色粒子多 繊維少 良好 外赤褐色 内黄褐色	条痕文系無文
60-36 50 J C78	深鉢	S X246 J Ⅲ b層	— — —	胴部	無文 器面凹凸顕著	細粗砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内灰黒色	条痕文系無文
60-37 50 J C79	深鉢	S X246 J —	— — —	胴部	無文	細砂・赤色粒子多 繊維少 良好 黄褐色	条痕文系無文 黒斑
S X247 J 土 器 一 覧							
国面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考
66-5 — J C80	深鉢	S X247 J Ⅲ b層	— — —	胴部	縦位条痕文	細砂・繊維多 良好 灰茶褐色	子母1式
S S102集石 土 器 一 覧							
国面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考
55-13 44 J C81	深鉢	S S102 Ⅲ b層	— — —	胴部	沈線による三角形の区画の中を 貝殻脈線文で埋める	細砂・繊維多 良好 堅緻 外黒色 内赤褐色	Ⅲ戸上層
55-14 44 J C82	深鉢	S S102 Ⅲ b層	— — —	胴部	2本の平行沈線による変形菱形文 の中を貝殻脈線文で埋める	細砂多 良好 堅緻 黄褐色	Ⅲ戸上層
S S109集石 土 器 一 覧							
国面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考
54-3 44 J C83	深鉢	S S109 Ⅲ b層	— — —	胴部	沈線の一部のみ 外面丁字なヘラミガキ	細砂多・繊維少 良好 赤褐色	Ⅲ戸上層
遺 構 外 土 器 一 覧							
国面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考
67-50 53 J C84	深鉢	F C78 Ⅲ b層	— — —	口縁部 わずかに肥厚	縦列平行細沈線文	細砂少 良好 赤褐色	Ⅲ戸下層
67-51 53 J C85	深鉢	E O81 Ⅲ a層	— — —	口縁部 外そぎ状	縦位の平行沈線文 沈線はやや太い	細砂多 良好 黄赤褐色	Ⅲ戸下層
67-52 53 J C86	深鉢	E O84 Ⅲ b層	— — —	口縁部 外そぎ状	横位の平行沈線文、一条だけ幅を 広く取り、縦長柳葉文を配する。	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	Ⅲ戸下層

第31表 縄文時代遺物一覧表 (22)

遺 構 外 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種類 別形	出土位置	口部 径 底 高 径	器形の特徴	底・登形・文様の特徴	胎土・土 色・成 調	備 考
67-53 53 J C 87	深鉢	G B74 Ⅲ b 層	— — —	胴部	横位の平行沈線文、沈線間に連続短沈線横位沈線下に縦位沈線を施す。	細砂多 きめの細かい 良好 赤褐色	田戸下層
67-54 53 J C 88	深鉢	F A68 Ⅲ b 層	— — —	胴部	縦位の平行太沈線文	細粗砂多 良好 灰褐色	田戸下層
67-55 53 J C 89	深鉢	G B81 Ⅲ b 層	— — —	胴部	横位・斜位沈線の組み合わせ	細砂・赤色粒子多 良好 外赤褐色 内灰色	田戸下層
67-56 53 J C 90	深鉢	E M72 I・II 層	— — —	口縁部	無文 横位の捺痕の後、縦位の粗い捺痕	細粗砂多 良好 赤褐色	田戸上層
67-57 53 J C 92	深鉢	E M85	— — —	口縁部 角頸状	半截竹管状器具による横位の沈線文	細粗砂多 良好 赤褐色	田戸上層
67-58 53 J C 93	深鉢	E M86	— — —	口縁部 やや内湾	口縁部とその下位の細沈線内弧文に於て竹管による連続斜刺文と貝殻紋文を配す	細砂・繊維多 良好 黒色	田戸上層
67-59 53 J C 94	深鉢	E N69 Ⅲ b 層	— — —	口縁部	口唇部内側キザミ 細沈線の区画内に貝殻紋文	細粗砂多 砂っぽい やや軟質 暗褐色	田戸上層
68-1 55 J C 95	深鉢	F A79 Ⅲ b 層	(25.0) — —	口縁部～胴部 胴部上位でわずかに窄まり、口縁部で小さく外反	胴部上位で3本の太沈線による文様帯区画を設け、その上口縁部まで細沈線で格子目文を飾る。	細砂・赤色粒子多 良好 外上赤褐色・下赤褐色 内赤褐色	田戸上層 J139と同一個体の可能性あり
68-2 53 J C 96	深鉢	E N80 Ⅲ a 層	— — —	口縁部 角頸状	口唇部上面キザミ 口縁部に平行する2本の沈線下に斜位の平行沈線	細砂・繊維多 良好 黒褐色	田戸上層
68-3 53 J C 97	深鉢	E N83 I・II 層	— — —	口縁部 内湾	口唇部内側キザミ 横位の平行沈線間に斜位短沈線・貝殻紋文を施す。無文帯もある。	細砂多 繊維少 良好 堅緻 赤褐色	田戸上層
68-4 53 J C 98	深鉢	E N84 Ⅲ b 層	— — —	口縁部	口唇部内側キザミ 口縁部に平行する2本の沈線間に貝殻紋文	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸上層
68-5 53 J C 99	深鉢	E O73 Ⅲ b 層	(28.6) — —	波状口縁部	口唇部内側キザミ 口縁部に平行する3本の細沈線の上下に斜位貝殻紋文、沈線下に連続貝殻紋文、さらにその下の幅広無文帯を含んで2本1組の沈線がある。波状口縁部頂部は貝殻紋文。	細砂多 繊維少 砂っぽい 良好 外赤褐色 内灰色	田戸上層 JC100と同一個体の可能性あり
68-6 53 J C 100	深鉢	E O73 Ⅲ b 層	— — —	口縁部	口唇部内側キザミ 口縁部に平行する3本の細沈線の上下に斜位貝殻紋文 沈線下に連続貝殻紋文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内灰色	田戸上層 JC99と同一個体の可能性あり
68-7 — J C 101	深鉢	E O73 Ⅲ b 層	— — —	口縁部 内湾	平行沈線文	細粗砂多 良好 黒褐色	田戸上層
68-8 53 J C 102	深鉢	E O82 Ⅲ b 層	(17.6) — —	波状口縁部 頂部 突起状 内湾	口唇部内側キザミ 口縁部に於て連続貝殻紋文を3条、真中の線は2本の貝殻紋文で構成され、隆起状となる。その下に貝殻紋文による方形区画が。	細砂多 繊維少 良好 暗褐色	田戸上層 JC104と同一個体の可能性あり
68-9 53 J C 103	深鉢	E O83 Ⅲ b 層	— — —	口縁部	口唇部内側キザミ 横位の平行沈線文を交互に貝殻紋文で充満する。	細砂多 繊維少 良好 堅緻 赤褐色	田戸上層
68-10 53 J C 104	深鉢	E P83 I・II 層	— — —	口縁部	口縁部に於て連続貝殻紋文を3条、真中の線は2本の貝殻紋文で構成され、隆起状となる。	細砂多 繊維少 良好 黒褐色	田戸上層 JC102と同一個体の可能性あり
68-11 53 J C 105	深鉢	E Q84 Ⅲ b 層	— — —	口縁部 やや内湾	口唇部貝殻紋文 粗い列点文	細粗砂多 繊維少 良好 赤褐色	田戸上層
68-12 53 J C 106	深鉢	E R78 Ⅲ a 層	— — —	波状口縁部	口縁部に平行する太沈線3本	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内灰色	田戸上層
68-13 53 J C 107	深鉢	E R86 Ⅲ b 層	— — —	口縁部 外さざ状	口唇部内側キザミ 押し引きによる角弁文で口縁部長方形文様帯を構成	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層 JC123と同一個体の可能性あり
68-14 54 J C 108	深鉢	E R86 Ⅲ b 層	— — —	口縁部 断面角頭状	貝殻紋文による長方形区画	細砂多 繊維少 良好 白黄褐色	田戸上層
68-15 54 J C 109	深鉢	E R87 Ⅲ b 層	— — —	口縁部	沈線による扁平な斜格子目文	細砂多 良好 淡赤黄褐色	田戸上層

第32表 縄文時代遺物一覽表 (23)

遺 構 外 土 器 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種類・別形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・壁形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
68-16 54 J C 110	深鉢	E S 83 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部	口縁部に平行する太沈線4本 その下にも沈線による文様あり	細砂・赤色粒子多 良好 灰褐色	田戸上層
68-17 54 J C 111	深鉢	E S 84 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部	口唇部具段縁縁による側突 3本の平行沈線の波状文	細砂多 良好 黒色	田戸上層
68-18 54 J C 112	深鉢	E S 85	—	—	口縁部 やや内湾	口唇部内側キザミ 細沈線による渦巻き文 内面ヘラミガキ	細砂多 良好 外黒褐色 内茶褐色	田戸上層
68-19 54 J C 113	深鉢	E S 86 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部 内湾	口唇部内側平截竹管のキザミ 口縁部に沿って4本の平行細沈線、 その下に2本の沈線で区画し、さ らにその中を細沈線で小さく区画 して貝殻縁線文を埋める。	細砂多 良好 外灰黄褐色 内灰色	田戸上層
68-20 54 J C 115	深鉢	E T 84 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部	口唇部キザミ 口縁部に平行する細い平截竹管に よる沈線、その下に三角文。	細砂多 良好 赤褐色	田戸上層
68-21 54 J C 116	深鉢	E T 86 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部 断面側頭状	太沈線による曲線文	細砂多 良好 赤黄褐色	田戸上層
68-22 54 J C 117	深鉢	F A 85 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部 外反	細沈線の粗斜格子文	細粗砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内暗褐色	田戸上層
68-23 54 J C 118	深鉢	F A 85 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部	平行沈線文	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色 内茶褐色	田戸上層
68-24 54 J C 119	深鉢	F A 83 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部 内湾	口唇部内側キザミ 平行沈線間に側突文	細砂多 繊維少 良好 茶褐色	田戸上層
68-25 54 J C 120	深鉢	F B 85 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部 波状か	口唇部キザミ 口縁部に沿う平行沈線間に縦長側 突文、その下に斜線	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内灰褐色	田戸上層
68-26 54 J C 121	深鉢	F B 72 I・II 柄	—	—	底部 丸底	内湾に附て細かな連続三角側突 文、その下に細沈線1本で波状文 沈線間に三角側突文を添える部分 もある	細砂多 良好 外灰茶褐色 内黒色	田戸上層
68-27 54 J C 122	深鉢	F C 83	—	—	口縁部 角頭状	無文	細砂多 良好 外灰褐色 内灰褐色	田戸上層
68-28 54 J C 123	深鉢	F D 83 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部	口唇部内側キザミ 押し引きによる角押し文で口縁部 長方形文様帯を構成	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸上層 JC107と同一個体の可 能性あり
68-29 54 J C 124	深鉢	F E 84	—	—	口縁部	口唇部内側キザミ 口縁部に平行する押し引きによる 2本の角押し文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層
68-30 54 J C 125	深鉢	F F 71 I・II 柄	—	—	口縁部 角頭状	外面横位の細かな条線状側頭 内面ヘラミガキ	細砂多 繊維少 良好 茶褐色	田戸上層
68-31 54 J C 126	深鉢	F H 78 Ⅲ b 柄	—	—	口縁部 器壁薄	平行する貝殻縁線文	細砂多 繊維少 良好 灰褐色	田戸上層
68-32 54 J C 127	深鉢	E 1,09	—	—	胴部	平行沈線文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層
68-33 54 J C 128	深鉢	E M 81 Ⅲ b 柄	—	—	胴部	爪付文を充填した幅状の2本の細 沈線で区画を設け、その中に内形 文状の意匠を配し、無文帯を残し て貝殻縁線文を埋める。	細砂多 繊維少 砂っぽい 良好 灰茶褐色	田戸上層
69-1 54 J C 129	深鉢	E M 84 Ⅲ b 柄	—	—	胴部	3本1組の沈線によるやや長線の 格子目文	細砂多 良好 外灰褐色 内赤褐色	田戸上層
69-2 54 J C 130	深鉢	E N 85 Ⅲ b 柄	—	—	胴部	平行沈線文の間に貝殻縁線文	細砂多 繊維少 良好 茶褐色	田戸上層
69-3 54 J C 132	深鉢	E N 87 I・II 柄	—	—	胴部	横位の平行沈線を引き一つ置きに 貝殻縁線文帯と無文帯を構成	細粗砂多 繊維少 良好 茶褐色	田戸上層
69-4 54 J C 133	深鉢	E O 73 Ⅲ b 柄	—	—	胴部	横位の平行沈線を引き、その下に に横長長方形区画を設けて斜位の 貝殻縁線文を充填	細砂多 砂っぽい 良好 外黒褐色 内暗褐色	田戸上層
69-5 54 J C 134	深鉢	E O 73 Ⅲ b 柄	—	—	胴部	横位の平行沈線文	細砂多 繊維少 砂っぽい 良好 外暗茶褐色 内黒色	田戸上層

第33表 縄文時代遺物一覧表 (24)

遺 構 外 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器 底 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 成 調	備 考
69-6 54 J C135	深鉢 深鉢	E O75 Ⅲ b 層	— —	胴部	横位の平行沈線文間に横位の短沈線	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層
69-7 54 J C137	深鉢	E O83 Ⅲ b 層	— —	胴部	爪形文を埋めた幅狭の2本の細沈線で文様帯を区画し、その中に多重の円形文を配し、無文帯を残して貝殻縁文を付す。	細砂多 粗砂・赤色粒 子少 良好 赤褐色	田戸上層
69-9 54 J C138	深鉢	E O84 Ⅲ b 層	— —	口縁部→胴部 割括れ部、括れ割 い	口縁部に平行沈線を配し、無文帯を残して交互に貝殻縁文を施す。その下割括れ部以下に横長長方形の区画を設けて貝殻縁文を埋める。内面横位へラミガキ顯著。	細砂多 繊維少 小 石散 良好 堅緻 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層
69-8 54 J C139	深鉢	E O86 Ⅲ b 層	— —	胴部	断面三角形の鋭いタツナの沈線文。短沈線と思われる。	細砂多 繊維少 良好 堅緻 外黒褐色 内暗褐色	田戸上層
69-10 54 J C140	深鉢	E P67 I・II 層	— —	胴部	3本1組の沈線による格子目文	細砂多 良好 外赤褐色 内暗褐色	田戸上層
69-11 54 J C141	深鉢	E P67 I・II 層	— —	胴部	2〜3本1組の沈線によるやや長狭の格子目文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層
69-12 54 J C142	深鉢	E P76 —	— —	胴部	単沈線による粗雑な格子目文	細砂多 赤色粒少 良好 外黒色 内白黄色	田戸上層
69-13 54 J C143	深鉢	E R77 Ⅲ b 層	— —	口縁部→胴部 大きく外反	沈線文と平蕨竹管の押し引き沈線	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	田戸上層
69-14 54 J C144	深鉢	E R77 Ⅲ a 層	— —	胴部	細沈線による帯状区画	細砂多 良好 暗褐色	田戸上層
69-15 54 J C145	深鉢	E R82 Ⅲ b 層	— —	胴部	平蕨竹管の曲線文 渦巻き文か	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸上層
69-16 54 J C146	深鉢	E R85 Ⅲ b 層	— —	胴部 割くびれ部	斜位の平行沈線文 下位は三角形区画か	細砂多 繊維少 良好 灰黄色	田戸上層
69-17 54 J C147	深鉢	E R86 Ⅲ b 層	— —	胴部	斜位の平行沈線文	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	田戸上層
69-18 54 J C148	深鉢	E R87 Ⅲ b 層	— —	胴部	横位のシャープな平行沈線文	細砂多 粗砂・繊維少 良好 外黒褐色 内暗褐色	田戸上層
69-19 54 J C150	深鉢	E S78 Ⅲ b 層	— —	胴部	横位の平行沈線文間一つ置きに貝殻縁文	細砂多 良好 赤褐色	田戸上層
69-20 54 J C151	深鉢	E S78 Ⅲ b 層	— —	胴部	細沈線による扇形内形(?)区画の外に貝殻縁文	細砂多 良好 赤褐色	田戸上層
69-21 54 J C152	深鉢	E S78 —	— —	胴部	斜位平行沈線文	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	田戸上層
69-22 54 J C154	深鉢	E S86 Ⅲ b 層	— —	胴部	平行細沈線文 外面に擦痕顯著	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層
69-23 54 J C155	深鉢	E S86 Ⅲ b 層	— —	胴部	目の粗い貝殻文圧痕文	細砂・繊維多 良好 外赤褐色 内暗褐色	田戸上層
69-24 — J C157	深鉢	E S86 Ⅲ b 層	— —	胴部	タツナの弱い横位と斜位の沈線文の組み合わせで不揃いな斜格子文になる	細砂多 粗砂・繊維少 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸上層 JC171と同一個体の可能性あり
69-25 54 J C158	深鉢	E T76 Ⅲ b 層	— —	胴部	平蕨竹管による波状文	細砂多 繊維・小石少 良好 外赤褐色 内赤褐色	田戸上層
69-26 54 J C159	深鉢	E T78 Ⅲ a 層	— —	胴部	平行沈線文	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸上層
69-27 54 J C160	深鉢	E T82 Ⅲ b 層	— —	胴部	二重の沈線による連続山形文	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	田戸上層
69-28 54 J C161	深鉢	E T84 Ⅲ b 層	— —	胴部	二重の細沈線によるクランク状の幾何学文の一部と、その下に縦位の貝殻縁文	細砂多 繊維少 良好 黒褐色	田戸上層

第34表 縄文時代遺物一覧表 (25)

遺 構 外 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種類 別形	出土位置	口部 底径	器形の特徴	成・彫形・文様の特徴	胎土 焼成 色	備 考
09-29 54 J C 162	深鉢	E R86 Ⅲ b 層	— — —	胴部	シャープな細沈線の曲線文	細砂多 良好 外黒色 内暗褐色	田戸 ¹ 上層
09-30 54 J C 164	深鉢	F A82 Ⅲ b 層	— — —	胴部	横位の不規則な擦痕	細砂多 良好 黒褐色	田戸 ¹ 上層
09-31 54 J C 165	深鉢	F A83 Ⅲ b 層	— — —	胴部 胴括れ部、括れ 強い	断面三角形のシャープな平行細沈 線	細砂多 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸 ¹ 上層
09-32 54 J C 166	深鉢	F A83 Ⅲ b 層	— — —	胴部	平行沈線間に列点状刺突文	細砂多 良好 暗褐色	田戸 ¹ 上層
09-33 54 J C 167	深鉢	F A85 Ⅲ b 層	— — —	胴部 胴括れ部、括れ 弱い	縦位の細沈線間に無文帯を残して 一つ置きに横位の貝殻線文を間 隔をあけて充填	細砂多 良好 外黒褐色 内暗褐色	田戸 ¹ 上層
09-34 54 J C 168	深鉢	F A85 Ⅲ b 層	— — —	胴部	横位の平行細沈線文 縦・横位の擦痕顯著	細砂多 良好 暗褐色	田戸 ¹ 上層
09-35 54 J C 169	深鉢	F A85 Ⅲ b 層	— — —	胴部	連続爪形刺突文を施した半蔵竹管 文と細沈線で三角形と指定される 区画。中に細沈線の低平な山形文。 竹管文の下にも間を置いて平行す る細沈線。	細砂多 良好 暗褐色	田戸 ¹ 上層
09-36 54 J C 170	深鉢	F A86 Ⅲ b 層	— — —	胴部 胴括れ部、括れ 強い	上部は2本の幅広い半蔵竹管によ る波状文か。下部は同じ施文具に よる平行沈線文。	細砂多 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸 ¹ 上層
09-37 54 J C 171	深鉢	F B85 Ⅲ b 層	— — —	胴部	クッチの弱い横位と斜位の沈線文 の組み合わせで不揃いな斜格子文 になる	細砂多 良好 赤褐色	田戸 ¹ 上層 157と同一個体の可能 性あり
09-38 54 J C 172	深鉢	F C86 I・II 層	— — —	胴部	細沈線による幾何学的な縦区画を 施し、無文帯を残して一つ置きに 横位の貝殻線文を間隔を置いて 配する。	細砂多 良好 外暗褐色 内灰黒色	田戸 ¹ 上層
09-39 54 J C 173	深鉢	F C86 I・II 層	— — —	胴部	沈線文	細砂多 良好 灰褐色	田戸 ¹ 上層
09-40 54 J C 174	深鉢	F D80 Ⅲ b 層	— — —	胴部	2本の平行する沈線による曲線文	細砂多 良好 赤褐色	田戸 ¹ 上層
09-41 54 J C 175	深鉢	F E81 Ⅲ b 層	— — —	胴部	平行沈線文の組み合わせ	細砂多 良好 外黒褐色 内赤褐色	田戸 ¹ 上層
09-42 54 J C 176	深鉢	F E77 Ⅲ c 層	— — —	胴部	横位の平行太沈線によって横区画 し、その中に2本の平行する太沈 線で縦線文を添える。	細砂多 良好 外赤褐色 内黄褐色	田戸 ¹ 上層
09-43 — J C 177	深鉢	G A81 Ⅲ b 層	— — —	胴部 器壁薄い	幅1mmの間隔で貝殻線文を二重 に押し付け、わずかに波線起伏状 にした縦と単貝殻線文で広縁のあ る縦区画を行い、その間を斜位の 貝殻線文で埋める部分と無文帯 に横位の貝殻線文を3本施す部 分が見られる。	細砂・赤色粒子多 繊維少 良好 外灰褐色 内暗黄褐 色	田戸 ¹ 上層
09-44 — J C 178	深鉢	G B77 Ⅲ b 層	— — —	胴部	2本1組の沈線による菱形文	細砂多 良好 外灰褐色 内灰色	田戸 ¹ 上層
09-45 54 J C 179	深鉢	G C75 I・II 層	— — —	胴部 器壁高い	横位の弱い波線起伏の両側に連続 貝殻線文を加える。その下位に 平行沈線文、上位にやや斜交する 沈線が施される。	細砂多 良好 外灰褐色 内黄褐色	田戸 ¹ 上層
09-47 — J C 193	深鉢	E O82 I・II 層	— — —	胴部	無文	細砂多 良好 赤褐色	沈線文系無文
09-46 — J C 195	深鉢	E Q78 —	— — —	胴部	無文	細砂・繊維多 良好 暗褐色	沈線文系無文
09-48 — J C 223	深鉢	E N89 Ⅲ b 層	— — —	胴部	無文 縦位ヘラミガキ 前面凹みあり	細砂多 良好 外赤褐色 内暗褐色	沈線文系無文
09-49 — J C 228	深鉢	E N84 I・II 層	— — —	胴部	無文 縦ヘラミガキ	細砂・繊維多 良好 外赤黄色 内灰白色	沈線文系無文

第35表 縄文時代遺物一覧表 (26)

遺 構 外 土 器 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器 底	器 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 成 調 色	備 考
69-50 — J C 241	深鉢	E Q66 Ⅲ a 層	—	—	胴部	無文 縦位の擦痕顕著	細砂多 良好 外赤褐色 内灰黒色	沈線文系無文
69-51 — J C 262	深鉢	F E83 Ⅲ b 層	—	—	胴部	無文 縦へうミガキ	細砂多 繊維少 良好 外灰褐色 内茶褐色	沈線文系無文
70-1 — J C 284	深鉢	E P83 I・II 層	—	—	底部 尖底	無文 輪痕あり	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	沈線文系無文
70-2 — J C 285	深鉢	F A83 Ⅲ b 層	—	—	底部 尖底	無文 縦位擦痕	細砂多 粗砂・繊維少 良好 茶褐色	沈線文系無文
70-3 — J C 286	深鉢	F D76 Ⅲ b 層	—	—	底部 尖底の 先端を切り落としたような平底	無文	細粗砂多 繊維少 良好 外黄褐色 内暗褐色	沈線文系無文
70-4 — J C 287	深鉢	E N73 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	口唇部・口縁部下列点状の刺突 擦痕顕著	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色 内灰色	子母口式
70-5 — J C 288	深鉢	E N82 Ⅲ b 層	—	—	胴部	無文 器面平滑	細砂多 粗砂・繊維少 良好 外黄褐色 内灰褐色	子母口式
70-6 — J C 289	深鉢	F A83 Ⅲ b 層	—	—	胴部	無文	細砂多 繊維少 良好 赤黄褐色	子母口式
70-7 — J C 290	深鉢	F K72 Ⅲ b 層	—	—	胴部	無文	細砂多 繊維少 良好 外黄褐色 内灰褐色	子母口式
70-8 55 J C 294	深鉢	E M80 Ⅲ b 層	—	—	胴部	内外面条痕文	細砂・繊維多 良好 外赤黄褐色 内灰色	条痕文系
70-9 55 J C 298	深鉢	E S82 Ⅲ b 層	—	—	胴部	内面横位条痕文 外面へうミガキ顕著	細砂多 繊維少 良好 暗褐色	条痕文系
70-10 55 J C 299	深鉢	E S87 Ⅲ b 層	—	—	胴部	条痕文	細砂多 繊維少 良好 暗褐色	条痕文系
70-11 — J C 300	深鉢	F A81 Ⅲ a 層	—	—	胴部 器壁厚い	斜位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外赤赤褐色 内灰色	条痕文系 302と同一個体の可能性あり
70-12 55 J C 302	深鉢	F B81 Ⅲ b 層	—	—	胴部 器壁厚い	条痕文	細砂多 繊維少 良好 外黄赤褐色 内灰色	条痕文系 300と同一個体の可能性あり
70-14 — J C 303	深鉢	F C82	—	—	胴部	内面横位条痕文 外面へうミガキ顕著	細砂多 繊維少 良好 外灰褐色 内赤褐色	条痕文系
70-13 55 J C 304	深鉢	F C85 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	横位条痕文 内面へうミガキ	細砂多 繊維少 良好 茶褐色	条痕文系
70-15 55 J C 305	深鉢	F D67 Ⅲ b 層	—	—	胴部	外面斜位条痕文 内面縦位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外赤黄褐色 内黒色	条痕文系
70-16 55 J C 306	深鉢	F D69 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 角頭状	外面口縁部下横位条痕文、以下斜 位条痕文 内面横位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外黒色 内黄白色	条痕文系
70-17 55 J C 307	深鉢	F D80 Ⅲ b 層	—	—	胴部	粗い斜位条痕文	細砂多 繊維少 良好 外黄褐色 内灰色	条痕文系
70-18 55 J C 310	深鉢	E M75 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 突起	へうミガキ	細砂多 良好 灰赤褐色	条痕文系無文 口縁部1/5残
70-19 55 J C 312	深鉢	E T81 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 外反	無文 横位擦痕	細砂多 繊維少 良好 外黒褐色 内灰色	条痕文系無文
70-21 — J C 313	深鉢	F A84	—	—	口縁部	無文	細砂多 繊維少 良好 灰褐色	条痕文系無文
70-22 55 J C 314	深鉢	F C79 Ⅲ b 層	—	—	口縁部 やや外反	無文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内黄褐色	条痕文系無文

第36表 縄文時代遺物一覧表 (27)

遺 構 外 土 器 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径	底 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
70-23 55 J C316	深鉢	F D83 Ⅲ b 層	— —	— —	口縁部 角頭状	無文	細砂多 繊維少 良好 外赤褐色 内黄褐色	条紋文系無文
70-20 55 J C320	深鉢	F I 80 Ⅲ c 層	— —	— —	口縁部 波状	無文	細砂多 繊維少 良好 赤褐色	条紋文系無文
S K2912J土坑 土 器 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径	底 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
55-29 45 J C324	深鉢	S K2129J 覆土	— —	— —	胴部	縦位の粗い条紋文 器面凹凸顯著	細砂・繊維多 良好 外赤褐色・黒色 内灰褐色	子母口式

中 期 前 半 (J E)

S I764J住居 土 器 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径	底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 成 調	備 考
51-5 43 J E01	深鉢	S I764J 敷	18.6	—	胴上部大きく膨ら む	口縁部に沿って細線帯を巡らし、 対称位置の2箇所にY字状懸垂文 を胴中部まで貼付。同じく4分 位置に小突起→隆帯上を含め全面 に縄文Rしを施す。胴下位一部無 文部あり	細砂多 赤色粒子 良好 外赤褐色・灰色 内暗 褐色	五領ヶ台式 炉体土 底部欠
51-7 43 J E02	浅鉢	S I764J 覆土	35.2	—	肥厚	口縁部に2本の平行細沈線→線上 に半環状竹管による交互刺突	細砂多 金雲母 良好 赤褐色	五領ヶ台式 1/2割残 遺灰
51-6 43 J E03	深鉢	S I764J 覆土	11.2 16.0 9.0	—	筒状	無文 外面粗いヘラミガキ	細砂多 赤色粒子 良好 外赤褐色 内黒褐色	五領ヶ台式 口縁部は輪縁が外れ ている可能性あり
51-8 43 J E04	浅鉢	S I764J 覆土	—	—	波状口縁部 突起 外面無文	内面に横長印刷三角文 突起 外面無文	細粗砂多 雲母多 良好 黒色→肌色	五領ヶ台式
51-9 43 J E05	深鉢	S I764J 覆土	—	—	波状口縁部	竹管による角押文 縄文LR	細粗砂多 良好 外灰褐色 内暗褐色	五領ヶ台式
51-10 43 J E06	深鉢	S I764J 覆土	—	—	口縁部内湾 胴部筒状	口縁部は竹管による横位の押し引 き角押文と刺突文	細砂多 赤色粒子少 良好 赤褐色	五領ヶ台式 内面器面荒れ
51-11 43 J E07	浅鉢	S I764J 覆土	—	—	口縁部鋭く内湾	無文粗製	細粗砂多 小石含 良好 赤褐色	五領ヶ台式
51-12 43 J E08	深鉢	S I764J 覆土	—	—	波状口縁部	口縁部に平行する竹管による角押 文と波状文 波状間に刺突 縄文LR	細砂多 赤色粒子少 良好 黒褐色	五領ヶ台式
51-13 43 J E09	深鉢	S I764J 覆土	—	—	口唇部内そぎ状	無文だが器面平滑	細砂多 良好 黒色→灰褐色	五領ヶ台式 10と同一個体
51-14 43 J E10	深鉢	S I764J 覆土	—	—	口唇部内そぎ状	無文だが器面平滑	細砂多 良好 黒色→灰褐色	五領ヶ台式 9と同一個体
51-15 43 J E11	深鉢	S I764J 覆土	—	—	胴部片	節の細かい縄文R	細砂多 金雲母多 良好 赤褐色	阿玉台式
51-16 43 J E12	深鉢	S I764J 覆土	—	—	胴部片	沈線文 縄文LR	細粗砂多 金雲母多 良好 暗褐色	阿玉台式
51-17 43 J E13	深鉢	S I764J 覆土	—	—	胴部片	縦位の隆帯文 縄文LR	細砂多 金雲母多 良好 外暗褐色 内黄褐色	阿玉台式
52-1 43 J E14	深鉢	S I764J 覆土	—	—	胴部片	横位の太沈線4本 縦位の細隆帯文 縄文施文 縄文LR	細粗砂・赤色粒子多 良好 外黒色 内暗褐色	五領ヶ台式 内面器面荒れ
52-2 43 J E15	深鉢	S I764J 覆土	—	—	胴部片	縦位の細隆帯文 縄文施文 沈線施行墨文 縄文LR	細粗砂多 良好 外暗褐色 内灰褐色	五領ヶ台式 内面コケ付着

第37表 縄文時代遺物一覧表 (28)

S 1764 J 住居 土 器 一 覧										
図面番号 国版番号 遺物番号	種別	別形	出土位置	口器底径 器底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
52-3 43 J E 16	深鉢	S 1764 J 覆土	—	—	底部付近の割部片	縦位の S 字状結節文 縄文 R.L.	細粗砂多 良好 灰褐色	—	五領ヶ台式	
52-4 43 J E 17	深鉢	S 1764 J 覆土	—	—	割部片	縦位の S 字状結節文 縄文 R.L.	細砂多 黒色粒子少 良好 黄褐色	—	五領ヶ台式	
52-5 43 J E 18	深鉢	S 1764 J 覆土	—	—	割部片	縄文 R.L.	細粗砂・赤色粒子多 良好 赤褐色	—	五領ヶ台式	
52-6 43 J E 19	深鉢	S 1764 J 覆土	—	—	割部片	横位比線文 隆等文	細粗砂・金雲母多 良好 赤褐色	—	五領ヶ台式	
52-7 — J E 20	深鉢	S 1764 J 覆土	—	—	底部	無文	細粗砂多 良好 外黄褐色 内灰黒色	—	五領ヶ台式 底面中央部荒れ	
52-8 43 J E 21	浅鉢	S 1764 J 覆土	—	—	口縁部	口縁部沈線文 沈線彫刺突 縄文 R.L. 割部無文	細砂多 雲母や少 良好 外暗褐色 内灰黒色	—	五領ヶ台式	
S 1764 J 住居 石 器 一 覧										
図面	国版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
52-9	43	AG01	打製石斧	覆土	(9.9)	5.8	2.0	149.0	砂岩	
52-10	—	AL17	磨石	覆土	9.5	9.6	5.0	584.8	砂岩	被熱。タール付着
52-11	43	AL19	棒状磨石	覆土	12.9	3.5	1.4	78.9	片岩	両極端打痕
52-12	43	AP04	石皿	覆土	(28.2)	(15.6)	4.7	2490.5	泥岩	両面平滑
52-13	43	AT03	剥片	覆土	3.3	2.7	0.7	2.9	黒曜石	
52-14	—	AT04	剥片	覆土	3.0	1.6	0.7	1.5	黒曜石	
S U9 屋外埋藏 土 器 一 覧										
図面番号 国版番号 遺物番号	種別	別形	出土位置	口器底径 器底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
54-5 45 J E 87	深鉢	S U9 皿 b 層	—	—	割部	全面に縄文 R.L.→縦位の細隆部で 4 分割 細隆部に添って竹管の押し し引きによる角押文と沈線を施す	細粗砂多 小石 良好 赤褐色	—	五領ヶ台式 内面下半部付着	
S S102 集石 土 器 一 覧										
図面番号 国版番号 遺物番号	種別	別形	出土位置	口器底径 器底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
53-15 44 J E 22	深鉢	S S102 集石内 皿 b 層	—	—	口縁部片	口唇部斜めキズミ	細砂多 ざらつく やや甘い 外黒褐色 内赤褐色	—	五領ヶ台式	
53-16 44 J E 23	深鉢	S S102 集石内 皿 b 層	—	—	割部片	沈線文	細砂少 堅緻 外黒褐色 内赤褐色	—	五領ヶ台式	
S X239 J 土 器 一 覧										
図面番号 国版番号 遺物番号	種別	別形	出土位置	口器底径 器底	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色	土成調	備 考	
58-10 48 J E 88	深鉢	S X239 J 皿 b 層	(25.0)	—	内筒状の割部から 口縁部外縁	口縁部と頭部を竹管押し引きによる 角押文で文様帯を区画→区画内に角 押文で円文や胎付文などを施す 割部無文	細砂多 良好 灰褐色→灰褐色 割れ口赤褐色	—	五領ヶ台式 口縁部 1/2 割・割部 1/4・ 底部欠	
58-11 48 J E 89	深鉢	S X239 J 皿 b 層	17.4	—	口縁部大きく開く	突如 無文	細粗砂多 良好 暗褐色→赤褐色	—	五領ヶ台式 底部欠	
58-13 48 J E 24	深鉢	S X239 J 皿 b 層	—	—	口縁部→割部 寸割型	縦位の細隆部文 口縁部下窪む 割部外面弱いヘラミガキ	細粗砂多 雲母多 良好 黒色	—	五領ヶ台式	
58-12 48 J E 25	深鉢	S X239 J 皿 b 層	—	—	口縁部外縁内凹	口縁部に平行する竹管による角押 文・円文。Y 字状懸垂文。縄文 R.L.	細粗砂多 小石 良好 黒褐色	—	五領ヶ台式	
58-14 48 J E 26	深鉢	S X239 J 皿 b 層	—	—	口縁部片 寸割型	口縁部下窪む 割部外面弱いヘラミガキ	細粗砂多 雲母多 良好 黒色	—	五領ヶ台式	

第38表 縄文時代遺物一覧表 (29)

S X239 J					土 器 一 覧					
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 調	備 考		
58-15 — J E27	深鉢	S X239 J Ⅲ b 層	— — —	— — —	胴部片 寸割型	底位の細隆帯文 胴部外面割いへラミガキ	細砂多 良好 灰褐色	五領ヶ台式		
S X239 J					石 器 一 覧					
図面	図版	遺物番号	種 別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
58-16	48	AP11	石皿	Ⅲ b 層	(12.7)	(8.8)	4.0	649.3	閃緑岩	
造 構 外 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 色 調	備 考		
70-24 55 J E29	深鉢	E L70 Ⅲ b 層	— — —	124.5 — —	波状口縁部 口縁部外傾内湾	波状口縁突起頂部太キザミ Y字状懸垂文の上端部	細砂多 良好 外黒褐色 内赤褐色	五領ヶ台式		
70-25 55 J E30	深鉢	E L71 Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部片	口唇部竹管による平行沈線 口縁部竹管による横位直線文・波状文	細砂多 雲母やや多 良好 暗褐色	五領ヶ台式		
70-26 55 J E31	深鉢	E N68 Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部内面肥厚	口唇部太キザミ 口縁部横位沈線文 縄文肌	細砂少 灰緑 赤褐色	五領ヶ台式		
70-27 55 J E32	深鉢	E O67 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部突起 肥厚	キタビラ文	細砂少 灰緑 赤褐色	五領ヶ台式		
70-28 — J E34	深鉢か	E P73 Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部片	キタビラ文	細砂少 良好 赤褐色	五領ヶ台式		
70-29 55 J E35	深鉢	E R84 — —	— — —	— — —	口縁部外面肥厚	口縁部に平行する2本の沈線の上 下に交互刺突 縄文肌	細砂多 金雲母多 良好 赤褐色	五領ヶ台式		
70-30 55 J E37	深鉢	E T84 Ⅲ b 層	— — —	— — —	波状口縁部 口縁部内面肥厚	口縁部に平行する2本の沈線文 印刻三叉文	細砂多 良好 外灰黒色 内赤褐色	五領ヶ台式		
70-31 55 J E38	深鉢	E T77 Ⅲ b 層	— — —	— — —	胴部が大きく出る 器形の頸部片	隆帯による区画 横位孔の把手	細砂多 金雲母多 良好 暗褐色	五領ヶ台式		
70-32 55 J E39	深鉢	F A76 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部内湾	沈線による三重垂線文	細砂多 良好 外黒色 内灰黒色	五領ヶ台式		
70-33 55 J E41	深鉢	F B70 Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部突起	突起下に環状突起を貼付	細砂多 良好 暗褐色	五領ヶ台式		
70-34 55 J E42	深鉢	F B76 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部片	口唇部太キザミ 口縁部下位に平行沈線文	細砂多 金雲母多 良好 暗褐色	五領ヶ台式		
70-35 55 J E43	深鉢	F C76 Ⅲ b 層	— — —	— — —	波状口縁部 口縁部内面肥厚	口縁部端部に割いキザミ 平行沈線文 沈線間刺突	細砂多 金雲母多 良好 外黒色 内赤褐色	五領ヶ台式		
70-36 55 J E44	深鉢	F C75 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	波状口縁部	隆帯による縦横区画内に沈線文 区画外縄文肌	細砂多 金雲母多 良好 赤褐色	五領ヶ台式		
70-37 — J E45	浅鉢か	F C75 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部片 口縁部外面肥厚	平行沈線文 沈線間刺突	細砂多 金雲母 良好 赤褐色	五領ヶ台式		
70-38 55 J E46	浅鉢	F C75 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部内面肥厚	口唇部キザミ 口縁部内面文隆帯 4段の連続爪形文 中央に交互刺突	細砂多 小石 良好 黄褐色	五領ヶ台式		
71-1 55 J E48	深鉢	F D81 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部突起	竹管による角押文	細砂多 良好 外黒色 内黄褐色	五領ヶ台式		
71-2 55 J E49	深鉢	F D81 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部外傾内湾	竹管による角押文で口縁 部文隆帯方形区画 Y字状懸垂文	細砂多 良好 出色	五領ヶ台式		
71-3 55 J E51	浅鉢	F D83 I・Ⅱ 層	— — —	— — —	口縁部	隆帯による三角区画文	細砂多 良好 黄褐色	五領ヶ台式		
71-4 55 J E52	深鉢	F D83 — —	— — —	— — —	口縁部 やや内湾	竹管による角押文 波状・円弧文	細砂少 良好 黄褐色	五領ヶ台式		

第39表 縄文時代遺物一覧表 (30)

遺 構 外 土 器 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種類 器形	出土位置	口部 器底	器高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色 土成調	備 考
71-55 J E 53	深鉢	FE84 Ⅲ b 層	—	—	口縁部内面肥厚	口縁部竹管による角押文 沈線区画 区画内印刻三叉文	細砂多 良好 黒褐色	金雲母 五領ヶ台式
71-65 J E 54	深鉢	FE79 Ⅲ b 層	—	—	口縁部内面肥厚	口縁部沈線文 キタビラ文	細粗砂多 良好 赤褐色	金雲母多 五領ヶ台式
71-75 J E 55	深鉢か	FK82 Ⅲ b 層	—	—	口縁部	沈線文	細砂多 良好 赤褐色	五領ヶ台式
71-8 — J E 57	深鉢	ET74 —	—	—	胴部	縄文 R L	細砂多 良好 黒褐色	五領ヶ台式
71-95 J E 58	深鉢	FA75 I・II 層	—	—	胴部	縄文 R L	細砂少 良好 赤褐色	五領ヶ台式
71-105 J E 68	深鉢	EL69 —	—	—	胴部	隆帯による区画 隆帯際沈線	細粗砂多 良好 黒褐色	金雲母多 五領ヶ台式
71-115 J E 70	深鉢	EL70 I・II 層	—	—	胴部	沈線による区画	細粗砂多 良好 黒色	金雲母 五領ヶ台式
71-125 J E 75	深鉢	EM76 Ⅲ b 層	—	—	胴部	横位三角刺突文	細砂多 微 赤褐色	五領ヶ台式
71-135 J E 79	深鉢	EN70 I・II 層	—	—	胴部	隆帯と沈線区画 沈線渦文	細砂多 良好 外黒色 内灰色	五領ヶ台式
71-145 J E 81	深鉢	EO80 Ⅲ b 層	—	—	胴部	横位爪形文 横位集合沈線文	細砂少 良好 赤褐色	五領ヶ台式
71-155 J E 82	深鉢	EQ70 I・II 層	—	—	胴部	縦位の集合条線	細粗砂多 良好 外暗褐色 内赤褐色	金雲母 五領ヶ台式
71-165 J E 84	深鉢	ER71 Ⅲ b 層	—	—	胴部	半截竹管文 縄文 L R	細砂少 良好 赤褐色	五領ヶ台式
71-175 J E 85	深鉢	FA73 Ⅲ b 層	—	—	胴部	隆帯文 沈線文	細砂少 良好 赤褐色	きめ細かい 五領ヶ台式
71-185 J E 86	深鉢	FA75 —	—	—	胴部	V字状貼付文 (作りはY字と同様)	細砂少 良好 黒色	きめ細かい 五領ヶ台式
71-19 — J E 91	深鉢	FA81 —	—	—	胴部	細隆帯による区画 (三角形か) 隆帯際に竹管による細角押文	細砂少 良好 赤褐色	五領ヶ台式
71-205 J E 92	深鉢	FA83 Ⅲ b 層	—	—	胴部	沈線区画 区画内三叉文か	細砂多 良好 赤褐色	五領ヶ台式 内面荒れ
71-215 J E 93	深鉢	FB75 —	—	—	胴部	沈線文 縄文 R L	細粗砂多 良好 暗褐色	金雲母少 五領ヶ台式
71-225 J E 95	深鉢	FB76 Ⅲ b 層	—	—	胴部	隆帯区画 (三角形か) 区画内沈線文	細粗砂多 良好 黒色	五領ヶ台式
71-23 — J E 98	深鉢	FC75 I・II 層	—	—	胴部	沈線方形区画 区画外縄文 R L	細粗砂多 良好 外黒色 内暗褐色	金雲母少 五領ヶ台式
71-245 J E 101	深鉢	FC81 Ⅲ b 層	—	—	胴部	細隆帯懸垂文 隆帯際竹管による角押文	細砂多 良好 黒褐色	五領ヶ台式
71-255 J E 102	深鉢	FC83 —	—	—	胴部	横位の隆帯区画 (狭長楕円形か) 隆帯上・縄文 R L	細砂少 良好 暗褐色	五領ヶ台式
71-265 J E 105	深鉢	FD83 I・II 層	—	—	口縁部下位～胴部上位	沈線による区画 区画内は三叉文か 口縁部側縄文 R L 密 胴部側縄文 R L 疎	細粗砂多 良好 暗褐色	五領ヶ台式
71-275 J E 106	深鉢	FD83 I・II 層	—	—	胴部	縄文 R L	細砂多 良好 暗褐色	金雲母多 五領ヶ台式 黒斑あり
71-28 — J E 109	深鉢	FD83 Ⅲ b 層	—	—	胴部	2本の沈線で縦区画 縄文 R L 沈線間結節文	細砂多 良好 暗褐色	金雲母多 五領ヶ台式

第40表 縄文時代遺物一覧表 (31)

遺 構 外 上 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	器 種	形 別	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 成 色	備 考
71-29 — J E 111	深鉢	F E 77 Ⅲ b 層	—	—	—	胴部	沈線による縦区画	細粗砂多 良好 外赤褐色 内黒色	五領ヶ台式
71-30 56 J E 113	深鉢	F E 80 Ⅲ a 層	—	—	—	胴部	沈線文と浮文 縄文L8	細粗砂多 良好 外黒褐色 内赤褐色	五領ヶ台式
71-31 — J E 114	深鉢	E M 70 I・II 層	—	—	—	底面 裾広がりの	沈線による縦区画 縄文R L	細粗砂多 良好 暗黒褐色	五領ヶ台式
71-32 56 J E 118	深鉢	E S 81 Ⅲ b 層	—	—	—	口縁部斜条線頸部に隆帯を巡らし、 円周を4分測した位置に隆帯を重 下し、隆帯上を円形連続刺突文で 飾る。区画内斜条線。	細砂少 精選 暗赤 外赤褐色 内灰黒色 →黄褐色	五領ヶ台式 胴部最大径(10.0)cm	
71-33 56 J E 131	深鉢	F B 75 Ⅲ b 層	—	—	—	胴部	ヒダ状頸部圧痕	細砂多 良好 灰褐色	阿玉台式
71-34 56 J E 132	深鉢	F B 81 I・II 層	—	—	—	口縁部 肥厚	縦歯状のキザミ 無文	細砂多 良好 外赤褐色 内黒色	阿玉台式
71-36 56 J E 134	深鉢	F D 84 Ⅲ b 層	—	—	—	胴部	角押文による胴部区画 区画内縦 らに爪形文	細砂多 雲母多 良好 外黒灰色 内黄褐色	阿玉台式
71-35 56 J E 143	浅鉢	F C 73 I・II 層	—	—	—	口縁部	角押文による円文 連続三角押文	細粗砂多 良好 赤褐色	脚版式

中 期 後 半 (J F)

SU8屋外埋藏 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 器	別 形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 成 色	備 考
54-45 J F 01	深鉢	S U 8 Ⅲ b 層	— —	— —	— —	胴部下位 逆「ハ」字状に大 きく開く	沈線による縦区画 無文帯と縄文 R L を交互に配する 内面へウミガキ顯著	細粗砂少 良好 堅微 色 測	胴部下位1/3割残 加曾利E 屋外埋藏
SS100集石 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 器	別 形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 成 色	備 考
53-6 44 J F 03	深鉢	S S 100 Ⅲ b 層	— —	— —	23.1 —	緩い屈曲のキャ リバー形 突起4箇所	懸垂文から変形した「H」状意匠の 上半部間に縦長帯区画を加えて 「単位」のモチーフとし、それを6 箇所配して縦位置に6分測。突起 は帯区画の位置に一つ置きに付く。 全面ではないが縄文R L が施される	細粗砂多 良好 外灰色・黒色・赤褐色 内灰色→灰褐色	加曾利E 集石内に横転 底部欠
53-7 44 J F 04	浅鉢	S S 100 Ⅲ b 層	— —	— —	24.0 17.8 8.0	キャリバー形の 胴下半部で輪縁 の外れた部分を 掘り縁として浅 鉢に転用	3本1組の縦位太沈線を9箇所配し9 分測に区画 区画内縄文R L	細砂多 良好 外灰色・黒色・黄褐色 内灰色→黒色	加曾利E 集石内に横転
53-8 — J F 05	深鉢	S S 100 Ⅲ b 層	— —	— —	— —	底面	無文帯	細粗砂少 良好 灰黄色	加曾利E 黒斑
SK3076J土坑 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 器	別 形	出土位置	口 器 底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 成 色	備 考
58-3 47 J F 06	深鉢	S K 3076 J 腹土	— —	— —	43.9 52.0 7.4	キャリバー形 突起4箇所	口縁部に幅1.3cm前後の極太沈線に よる楕円形・半月形区画を8箇所。 その下に2本1組の太沈線による 懸垂文で14に縦分測、一つ置き の7箇所の区画内に縄文L R を点施。 縄文は楕円形区画内にも施される。 突起の1箇所だけに通「S」字状の 極太沈線による文様が加えられる。 口唇部・胴部無文帯へウミガキ	細砂多 粗砂少 良好 外上半黒褐色→赤褐色 下 下半赤褐色→暗 褐色 内暗褐色・灰色	加曾利E 土坑内伏藏 胴部の1箇所は半球 状の塊の押接がある。 人為かどうか不明。 内面下位ツグ付着

第41表 縄文時代遺物一覧表 (32)

S K3076 J 土坑 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考
58-2 47 J F07	深鉢	S K3076 J 覆土	25.6 30.0 7.4	— — —	底部からわずかに影らみを持ちながら逆「U」状に開き、小さく括れてやや内湾して口縁部へ連なる	部分的に無紋縄文 R を施した後、太沈線で上部が連結する「U」形状の懸垂文 9 箇所、上端で小さく折り返し縦手状になる懸垂文 6 箇所の計 16 箇所が確認される	細砂・赤色粒子多 母 ぎめ細かい 良好 外上半黒褐色→黒色 下半赤褐色 内暗褐色	— — —	加曾利 E 土坑内伏壁 口縁部→胴部下位 1/3 欠 瀬れ口は人為的な 内面下位コゲ付着
P J-232 小穴 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考
66-12 — J F08	深鉢	覆土	— — —	— — —	胴部	縄文 R L	細砂多 良好 外灰黄色 内灰色	— — —	加曾利 E
遺 構 外 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色	土 成 調	備 考
71-38 56 J F17	深鉢	F B76 Ⅲ b 層	— — —	— — —	胴部	2本一組の縦位沈線区画 区画内結状体圧痕文	細砂多 やや軟質 灰黄褐色	— — —	加曾利 E
71-37 — J F20	浅鉢	F D79	— — —	— — —	口縁部	口縁部無文帯下縦位条線→横位沈線 内面へラミガキ	細砂少 良好 外黒色 内黄土色	— — —	加曾利 E
71-39 — J F24	浅鉢	G A74 Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部 内湾	口縁部無文帯下横位沈線 胴部部の大きい縄文 R L 内面へラミガキ	細砂少 良好 黄褐色	— — —	加曾利 E 外面荒れ
71-40 56 J F29	深鉢	G B75 Ⅲ b 層	— — —	— — —	口縁部 やや内湾	縄文 R L	細砂多 良好 外灰色 内赤褐色	— — —	加曾利 E 黒斑
71-41 56 J F45	浅鉢	E M75 Ⅲ b 層	— — —	— — —	胴部	2本一組の縦位沈線区画 区画内縄文 R L	細砂少 良好 外赤褐色 内暗褐色	— — —	加曾利 E
71-42 56 J F48	深鉢	E R65 Ⅲ a 層	— — —	— — —	胴部	隆帯による縦区画 区画内に縦長の 爪形刺突文を配す	細砂多 良好 外黄褐色 内灰黒色	— — —	加曾利 E
71-43 56 J F55	深鉢	F B74	— — —	— — —	胴部	隆帯による渦文区画と懸垂文の一部 縄文 L R	細砂少 赤色粒子多 良好 外黄褐色 内灰褐色	— — —	加曾利 E
71-44 56 J F62	深鉢	G A73 Ⅲ b 層	— — —	— — —	胴部	横位の沈線と太沈線区画内縄文 R L	細砂多 良好 外赤褐色 内灰褐色	— — —	加曾利 E
71-45 — J F69	深鉢	G B71 I・Ⅱ層	— — —	— — —	胴部	沈線による「U」状区画 区画内 縄文 R L	細砂多 良好 外暗褐色 内黒色	— — —	加曾利 E

後期 (J G)

遺 構 外 土 器 一 覧								
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別 器 形	出土位置	口 器底	径 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 焼 色 土 成 調	備 考
71-46 56 J G 01	深鉢	F A86 Ⅲ b 層	— — —	— — —	胴部	平行する2本の細沈線による直線 と円弧の組み合わせ文様 沈線間 に小さな三角形網文が加えられる 部分あり	細砂多 精選 良好 外黄褐色 内黒色	堀之内Ⅱ 02と同一個体の可能性 あり
71-47 56 J G 02	深鉢	F B86 I・II 層	— — —	— — —	胴部	平行する2本の細沈線で長円形(?) と帯状の区画をなし、長円形部に 弧線を重ねる、長円形内に刺突	細砂多 精選 良好 外黄褐色 内黒色	堀之内Ⅱ 01と同一個体の可能性 あり

第42表 縄文時代遺物一覧表 (33)

遺 構 外 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 器 高 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴			胎 土 焼 色 成 調	備 考	
71-48 56 J G03	深鉢	F C80 I・II層	— — —	胴部 括れ部	平行する細沈線と斜交沈線			細砂多 良好 外灰褐色 内黒色	堀之内II	
71-50 56 J G04	浅鉢	F D71 I・II層	— — —	胴部	外面平行沈線 平行沈線間に斜位の細かな刻みや縄文R Lを施す 全面丁寧なヘラミガキ			細砂少 良好 灰白色	堀之内II 精製	
71-49 56 J G05	深鉢	G B80 I・II層	— — —	胴部	横位沈線による文様帯区画内に縄文R Lを充填する 無文面ヘラミガキ			細砂少 良好 赤褐色	堀之内II 精製	
71-51 56 J G06	深鉢	E O82 I・II層	— — —	胴部	2本1組の幅狭の平行沈線長方形(?)の文様帯区画を行い、角に「8」字状文に似た刻みを加える。 沈線間には細かい刻みが施される部分がある。区画内は沈線で文様が隠れる。			細砂多 良好 灰白色	加曾利B	
71-52 56 J G07	深鉢	F A86 III層	— — —	胴部	3本の横位の細沈線の間に小さな突起を作り先端を斜突する。その上方に細沈線と縄文を配す。			細砂少 良好 灰色	加曾利B 両面穿孔あり	
71-53 56 J G08	浅鉢	G B80 I・II層	— — —	口縁部	口縁部下内面沈線 ヘラミガキ			細砂少 良好 外赤褐色 内暗褐色	加曾利B	
P J-112小穴 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
66-13	—	AL58	磨石	覆土	9.2	8.3	3.7	363.3	ホルンフェルス	磨面顕著でない
P J-304小穴 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
66-14	—	AL59	磨石	覆土	8.9	5.0	3.6	223.0	砂岩	
P J-373小穴 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
66-15	—	AK06	叩き石	覆土	11.1	8.1	3.9	362.3	砂岩	
P J-553小穴 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
66-16	—	AT39	剥片	覆土上層	3.3	3.2	0.6	3.6	頁岩	
P J-600小穴 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
66-17	—	AT40	剥片	覆土	4.2	4.1	1.1	18.0	ホルンフェルス	別図から剥離可能。3クレーパー状
遺 構 外 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
72-1	56	AB11	石鏃	FB71	(2.2)	(1.8)	0.4	0.9	黒曜石	
72-2	56	AB12	石鏃	ET81, IIIb層	(1.9)	1.8	0.6	1.1	黒曜石	
72-3	56	AB14	石鏃	ET78, IIIb層	2.1	1.3	0.5	0.8	黒曜石	
72-4	56	AB15	石鏃	EM74, IIIb層	3.4	2.1	0.5	2.5	黒曜石	
72-5	56	AB16	石鏃	EM83, IIIb層	2.6	2.1	0.3	1.0	黒曜石	
72-6	56	AB17	石鏃	FM68	2.0	1.8	0.35	0.9	チャート	
72-7	56	AB18	石鏃	GB72, IV層上部	2.0	1.7	0.2	0.6	チャート	
72-8	56	AB19	石鏃	FM78, IIIb層	(1.8)	1.9	0.4	0.6	チャート	
72-9	56	AB20	石鏃	FE79	(2.7)	1.8	0.4	1.1	チャート	
72-10	56	AB21	石鏃	ES85, IIIc層	2.2	1.7	0.4	0.8	チャート	
72-11	56	AB22	石鏃	EN75, IIIb層	(1.8)	1.9	0.5	1.1	チャート	
72-12	56	AB23	石鏃	ES84, IIIb層	(1.9)	1.5	0.4	0.8	チャート	
72-13	56	AB24	石鏃	ES85, IIIb層	(2.5)	1.5	0.5	1.1	チャート	

第43表 縄文時代遺物一覧表 (34)

遺 構 外 石 器 一 覧										
図面	図版	遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備 考
72-14	—	AD25	スクレーパー	ET72, IIIb層	9.2	11.3	1.4	201.3	ホルンフェルス	
72-15	—	AD28	スクレーパー	FS67, IIIb層	6.3	9.2	1.9	125.0	ホルンフェルス	
72-16	—	AG21	打製石斧	EK74	9.1	4.1	1.0	56.2	砂岩	
72-17	56	AG24	打製石斧	FE71	6.4	3.4	1.4	37.2	ホルンフェルス	
72-18	56	AG25	打製石斧	EN79, IIIb層	9.6	6.6	2.0	136.2	ホルンフェルス	
72-19	56	AG28	打製石斧	FL73, IIIc層下部	9.2	5.1	2.4	116.2	ホルンフェルス	
72-20	56	AG31	打製石斧	FD71, IIIb層	9.6	5.8	2.4	157.0	ホルンフェルス	
72-21	—	AG36	打製石斧	ES72, IIIb層	8.2	5.0	2.1	104.4	ホルンフェルス	
72-22	56	AG40	打製石斧	FC86, I・II層	7.8	5.2	1.5	77.1	頁岩	
72-23	56	AG45	打製石斧	EP80, IIIb層	9.2	5.6	1.2	75.6	ホルンフェルス	
72-24	56	AG47	打製石斧	EN80, IIIb層	7.6	4.8	1.6	65.8	ホルンフェルス	
72-25	56	AG53	打製石斧	FAR2, IIIb層	(15.3)	10.8	2.4	602.3	ホルンフェルス	
73-1	56	AG58	打製石斧	FAR4, IIIb層	22.4	12.6	4.0	1601.6	ホルンフェルス	
73-2	56	AH10	磨製石斧	FD81, IIIb層	6.9	3.4	1.6	50.6	黒色珪質頁岩	
73-3	—	AJ24	礫器	FC76, IIIb層	9.5	15.1	3.7	652.2	砂岩	
73-4	57	AJ28	礫器	EP85, IIIb層	8.7	13.3	2.7	350.1	ホルンフェルス	
73-5	57	AJ30	礫器	FO86, IIIb層	11.4	18.4	2.8	690.1	ホルンフェルス	
73-6	57	AK10	叩き石	FD67, IIIc層	10.5	4.3	3.3	209.4	砂岩	底面敲打痕顕著
73-7	—	AL60	磨石	EN64, I・II層	10.5	9.2	4.5	903.2	閃緑岩	一方に敲打痕
73-8	57	AL65	磨石	FD71, IIIa層	11.7	7.2	5.1	640.7	閃緑岩	
73-9	—	AL69	磨石	FAR3, IIIb層	9.8	6.3	5.5	453.5	砂岩	
73-10	57	AL75	磨石	ET83, IIIb層	10.4	9.4	3.1	454.5	閃緑岩	鋼線磨収顕著
74-1	57	AL85	磨石凹石	EP74, 亂丸	12.5	11.6	4.7	988.8	砂岩	
74-2	57	AL87	磨石凹石	EO79, IIIb層	14.5	14.5	9.2	2688.9	砂岩	
74-3	57	AL89	棒状磨石	EN79, IIIb層	14.2	5.5	2.3	297.5	砂岩	
74-4	57	AL96	棒状磨石	ET85, IIIb層	(10.9)	5.5	2.6	251.6	ホルンフェルス	
74-5	57	AM09	挟入磨石	FD85, IIIb層	7.3	(13.7)	2.7	438.3	閃緑岩	全面磨面、特に下端部顕著
74-6	57	AM13	挟入磨石	FJ76, IIIb層	8.0	13.9	3.0	498.5	閃緑岩	
74-7	57	AN55	スタンプ形	FG58, IIIb層	14.1	9.4	6.5	853.9	砂岩	
74-8	57	AN56	スタンプ形	FG72, IIIb層	12.5	12.5	4.6	880.4	閃緑岩	両側挟部磨耗、下面も磨耗
74-9	57	AN60	スタンプ形	FS67, IIIb層	13.1	10.1	5.4	995.0	閃緑岩	底面磨耗
74-10	57	AP12	石皿	ET80, IIIb層	18.3	22.7	4.5	2048.2	安山岩 (多孔質)	
74-11	—	AP13	石皿	EN72, I・II層	25.0	23.7	7.6	7000	砂岩	
74-12	—	AT43	剥片	EN65, IIIb層	5.8	3.8	1.1	19.3	黒曜石	
74-13	—	AT47	剥片	ET84, IIIb層	4.2	4.1	0.8	14.1	黒曜石	
74-14	—	AT54	剥片	FA72, IIIb層	5.9	4.2	1.1	29.6	チャート	

第44表 歴史時代竈穴住居一覧表

住居番号	位置	平面形状	規模 (m)			面積		主軸	壁高	周溝	床	電	貯蔵穴	壁・土	重要関係 (主要遺構のみ)	備考
			北	南	東	西	確認面積	床面積								
S1147	FD-66-67	方形	4.5	4.5	4	4.2	19.2	14.8	N23°E	40	全周	地床	北寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	第53次調査
S1148	FD-68-69	長方形	4.9	4.9	3.9	3.5	17.8	14.9	N105°E	5	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	ベツト状遺構 同上
S1152	FD-67-68	方形	[2.1]	[0.8]	3.2	—	[10.8]	[8.6]	N101°E	20	全周	地床	東寄中央部	—	SK284・284-10→SK301	西平分周部外 面積測定 同上
S11740	FD-68-69	長方形	3.7	3.6	2.5	2.4	10.6	7.1	N90°E	60	全周	地床	東寄中央部	有	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11741	FD-69-70	長方形	3.6	3.6	4	4.2	13.8	12.8	N81°W	42	一部	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11742	FD-69-70	長方形	3.1	3.1	2.4	2.4	8.2	7.2	N1°E	10	一部	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11743	FD-69-70	長方形	[0.2]	3.8	[1.5]	3	[12.0]	[9.9]	N91°E	5	半周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11744	FD-69-70	方形	—	3.3	[2.6]	[2.6]	[10.2]	[6.9]	N91°E	10	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11745	FD-69-70	方形	—	3.4	[3.4]	[3.3]	[13.4]	[10.4]	N93°E	10	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11746	FD-69-70	方形	2.6	—	[0.4]	[1.0]	—	—	—	10	周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11747	FD-69-70	方形	2.2	2.5	2.9	2.9	7.9	6	N90°E	20	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11748	FD-69-70	長方形	2.6	2.4	2.6	2.6	7.7	6.1	N107°W	10	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11749	FD-69-70	長方形	2.9	2.8	2.4	2.2	8	6.4	N92°E	40	無	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11750	FD-69-70	方形	3.1	—	[1.0]	[1.4]	—	—	N93°E	7	無	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11751	FD-69-70	方形	3.2	—	[2.0]	[2.2]	[10.8]	[8.1]	—	12	周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11752	FD-69-70	方形	2.3	2.4	3.1	2.9	9	5.8	N100°E	40	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11753	FD-69-70	方形	0.71	[1.1]	1.6	—	—	—	—	20	無	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11754	FD-69-70	方形	2.8	—	[2.9]	[3.0]	[9.8]	[6.7]	N5°E	—	周	一部	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
A	FD-69-70	方形	4.1	—	[2.9]	[3.0]	[13.5]	[10.5]	N5°E	28	周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
B	FD-69-70	方形	5.4	—	[2.9]	[3.0]	[28.8]	[20.9]	N94°E	28	周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
C	FD-69-70	方形	4.1	—	[2.8]	[2.2]	[16.7]	[12.1]	N95°E	10	周	一部	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11755	FD-69-70	方形	3.7	3.6	3.7	3.6	14.45	10.3	N81°E	28	全周	地床	東寄中央部	有	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11756	FD-69-70	方形	3.5	[2.9]	[0.7]	2	[7.0]	[6.1]	N100°E	14	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11757	FD-69-70	方形	—	2.4	[1.3]	[0.6]	—	—	—	30	周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11758	FD-69-70	方形	[1.2]	2.4	—	2.6	[6.1]	[5.1]	N107°E	18	ほぼ全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11759	FD-69-70	長方形	—	3.7	—	2.6	[9.6]	[7.8]	N107°E	18	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11760	FD-69-70	方形	[0.7]	[1.5]	2.1	—	—	—	—	2	周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑
S11761	FD-69-70	方形	—	—	[1.8]	—	—	—	N92°E	50	全周	地床	東寄中央部	無	SK284・284-10→SK301	床下に土坑

(規模の括弧は土壌の発見 面積の括弧は推定値 床面積は電・周溝を含まない)

第45表 歴史時代掘立柱建物一覧表・土坑一覧表(1)

掘立柱建物跡一覧表										
番号	位置	方向	柱間	規模	面積	主軸	形式	柱穴	重複関係	備考
S B47	FN~FP-70~72	東西棟	2×3	4.1×5.0	20.5	N88°W	総柱	円		建替えなし 第51次調査
S B48	FJ・FK-82・84	東西棟	2×3	4.4×5.4	23.8	N88°W	総柱	円	SK269・270	建替えなし 第51次調査
S B49	FK~FM-71・72	南北棟	2×3	3.6×6.7	24	N14°W	側柱	円	SK249・281	東柱1本あり 建替えなし 第51次調査
S B50	FI~FK-72~74	東西棟	2×3	4.0×5.7	22.8	N80°W	側柱	円	SK251・SD58	
S B206	EL~EN-77~79	東西棟	2×3	4.5×7.2	32	N90°E	総柱	円	SB207・□→SK2736・SK22	柱穴3~1なし SK207と重複するが新旧不明
S B207	EN・ED-78・79	南北棟	2×2	4.9×4.3	21.1	N6°E	総柱	円	SB206・?→SK221	炭化米
S B208	ERE T-78~80	東西棟	2×2	4.8×3.0	14.4	N84°W	総柱	円	□→SD382	
S B209	FD・FD-76~78	東西棟	2×3	6.4×4.8	30.7	N87°W	側柱	円	□→SB210→SK2785	掘込で柱穴2-1・4-1欠
S B210	ET~FC-78~81	東西棟	4×5	9.2×10.7	98.4	N84°W	側柱	円	□→SB209→SK2787・2806・2888→SK6	太くて深い柱穴多い
S B213	ES~EA-84~86	南北棟	2×3	5.0×7.6	38	N8°30'E	側柱・庇	方	□→SK3058・SD381	柱穴2-1なし

歴史時代土坑一覧表

番号	図面	図版	位置	平面形	断面形		規模(cm)			重複関係	覆土	主要遺物	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸	深さ				
2697	108		FE・FF79	長楕円形	逆台形	U字形	130	72	36	□→P818	ロ・焼		
2698	108	30-4	FC79	不整形円形	皿状	逆台形	160	84	24	□→SX6	ロ・焼	土師質灰・灰土層・漆器製品2	東上層焼土
2699	108	30-5-7	ES・ET82・83	楕円形	箱形	箱形	270	160	54		ロ・焼・炭	土師質灰・灰土層・漆器製品2	焼土少量
2700			ER80	円形?	皿状	—	92	56	20	SI755→SK2701→□	ロ・焼		南掘土
2701	108		EQ・ER80	狭長方形	箱形	箱形	(192)	90	60	SI755→SK2756→□	ロ・焼		南掘土
2702			EM・EN71・72	円形	皿状	—	80	(70)	15	SI752→□	ロ・焼		南掘土
2703	108	30-8-9	EL・EM71	長方形	逆台形	逆台形	(240)	74	50	SI752→□	ロ	■	北東・南掘土 最浅部
2704			EL71・72	楕円形	皿状	皿状	148	100	23	SI752→□	ロ		中央部掘土
2705	108		EL・EM69・70	狭長方形	逆台形	逆台形	(268)	60	31	SI749→□	ロ		南掘土
2706			ER67・68	楕円形	皿状	皿状	(66)	64	23	SK2794→□→SD383	ロ		東掘土
2707	108	30-10	EL・EM69	狭長方形	逆台形	逆台形	244	78	28	SI749→□	ロ・焼・炭	土師質灰	中央部掘土
2708			EQ73	不明	箱形	—	78	(32)	44		ロ		南掘土
2709	108		EM・EN・EO67	狭長方形	皿状	皿状	380	96	28	SI748→□	ロ		2基の重複か
2710			EQ・ER74	狭長方形	逆台形	逆台形	(196)	72	13	SI751→□	ロ		南掘土
2711	108	30-11	EO・EP67	不整形円形	逆台形	逆台形	96	78	19		焼・炭		西区内
2712	109		EK・EL65・66	不整形円形	箱形	—	(130)	(80)	37		ロ・焼・炭		西区内
2713	109	30-12	EP66	不整形円形	皿状	—	126	102	18		焼		
2714	109		EQ73・74	円形	逆台形	—	108	(54)	88	SI751→□	ロ・焼・炭		南平掘土
2715			EQ74	方形?	逆台形	逆台形	(66)	(40)	19	SI751→SK2716→□	ロ		南掘土
2716			EQ・ER74・75	長方形?	逆台形	—	(136)	70	16	SI751→□→SK2715	ロ		南掘土
2717			EQ75	狭長方形?	皿状	皿状	(75)	(58)	13	SI751→□→SK2716	ロ		南掘土
2718	109		EO65	円形	箱形	箱形	138	90	39		ロ		西区内・掘り出し
2719	109	30-13	EN・EO66・67	円形	中形	中形	100	90	53		ロ		破損面(4層)あり
2720	109		EO67	楕円形	皿状	皿状	154	(90)	26	□→SD383	ロ		東掘土
2721	109	30-14	EP・EQ67・68	狭長方形	逆台形	逆台形	160	(110)	32	□→SD383	ロ		南掘土
2722	109		EO70	狭長方形	皿状	皿状	(240)	50	15	SK2740→□	ロ・炭		
2723	109		EQ67	長方形	逆台形	逆台形	160	110	28		ロ		
2724	109		EP66・67	狭長方形	逆台形	逆台形	100	(88)	24		ロ・焼・炭		西区内掘土
2725	109		ER65	円形	箱形	—	106	(66)	48		ロ		西区内
2726	109		ES66・67	円形	皿状	—	80	67	6		ロ		
2727	110	30-15	FA・FB66	狭長方形	皿状	皿状	210	95	23		ロ		
2728			ER・ES66・67	円形	皿状	—	85	(57)	17		ロ・炭		西掘土平欠
2729	110		ER67	楕円形	皿状	皿状	92	72	10	SI747→□→SK2793	ロ		
2730	110	31-1	ER69	楕円形	逆台形	—	102	88	23		焼		
2731	110		EO68	楕円形	皿状	—	100	75	19		ロ・焼・炭		
2732	110		ER・ES69	円形	箱形	—	90	80	16		ロ・炭		
2733	110		ET69	円形	逆台形	—	72	68	21		ロ		
2734			EO71	狭長方形	皿状	皿状	74	58	8		ロ		西掘土 底面門凸
2735	110	30-16	EN・EO72・73	円形	箱形	箱形	—	58	50	15		ロ	底面門凸
2736	110		EM79	不整形円形	皿状	—	118	104	4	SB206→□	ロ		
2737	110		EQ69・70	円形	皿状	—	115	(114)	37		ロ・炭		東掘土
2738	110		EQ68・69	楕円形	逆台形	逆台形	78	63	14	□→P116	ロ・炭	土師質灰	
2739	110		EM75	不整形円形	—	皿状	110	86	14	SK2743→□	ロ・炭	青磁・土師質灰	
2740			EO70	円形	皿状	—	66	(26)	9	SK2722→□	ロ・炭		東掘土 平欠
2741	110		EP69	不整形円形	皿状	—	184	76	15	□→P224	ロ・焼		南土状
2742	110		ET68	不整形円形	逆台形	—	100	86	24	□→P115	ロ		北西掘土

第46表 歴史時代土坑一覧表(2)

歴史時代土坑一覧表													
番号	国庫	図版	位置	平面形	断面形		規模(cm)			重複関係	覆土	主要遺物	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸	深さ				
2743	110		EM・EN75・76	不整形長方形	皿状	皿状	210	84	15	□→SK2739	単		甕土甕状遺構に似る
2744	110		EM74	不整形	皿状	-	108	56	19	SK2746→□	単		甕土甕状遺構に似る
2745			EM75	不整形長方形	皿状	皿状	110	48	11	SK2746→□	単		甕土甕状遺構に似る
2746	110		EL・EM75	楕円長方形	皿状	-	100	70	11	□→SK2744	単・口・焼		
2747	110		EM75	円形	蓋台形	-	86	82	26		口		
2748			EQ72	方形?	皿状	-	110	(68)	12		単・口・焼		南北視見
2749			EO・EP72	円形	箱形	-	90	(68)	23	SK2750→□	単・口・焼		北視見、平穴
2750			EO・EP72	不整形	U字形	-	(40)	(39)	19	□→SK2749	単・口・焼・炭		北視見、平穴
2751	110		EO73	不整形長方形	U字形	-	96	82	55	SK2779→□	口		
2752	110		EO・EP75・76	円形	蓋台形	-	(98)	(90)	18	SK2754→□	単・口		西視見
2753			EP75	不整形	皿状	皿状	(44)	(14)	6	SK2754→□	単・口		甕土甕状遺構に似る
2754			EO・EP75・76	不整形円形?	皿状	-	172	(95)	28	□→SK2752→SK2753	単・口		北視見、底面傾斜
2755	111		ER・ES71	円形	皿状	-	88	70	10		単・口		
2756	111	31-2	EQ・ER80・81	楕円長方形	箱形	箱形	(150)	126	63	SK2701→□	口・焼・炭	持尊上坑、底面小穴8	
2757	111		EQ・ER78	楕円長方形	箱形	箱形	(240)	60	10	SK2754→□→SK2712	口		南視見、底面傾斜
2758	111		ER71・72	不整形長方形	皿状	皿状	(100)	64	14		単・口		
2759	111		ES72	円形	楕円状	-	88	87	38	□→P139	口		
2760			ET・FA67	円形?	U字形	-	75	(30)	43		口		南東視見1/3残
2761			EN76	円形?	皿状	-	70	(25)	6		単		南東視見1/4残
2762	111		EO75・76	円形	箱形	-	115	110	39	SK2767→□	単・口		
2763	111		ER75	楕円形	箱形	U字形	63	40	30	SK2765→□	単・口		
2764	111		ER75・76	楕円形	蓋台形	蓋台形	140	96	27	SK2765→□	口・焼		
2765	111		ER75	楕円形	皿状	皿状	(75)	(45)	11	□→SK2764→SK2763	口		底面傾斜
2766	111	31-3	FB69・70	楕円長方形	箱形	箱形	180	82	38		口		
2767	111		EO76	円形?	皿状	-	84	(24)	21	□→SK2762	口		
2768	111		ES・ET73	長方形	蓋台形	蓋台形	190	115	30		単・口・焼・炭	須磨器皿	
2769	111		EA75・76	楕円長方形	皿状	皿状	146	85	21		単・口		底面傾斜
2770	111		ETT4	不整形長方形	蓋台形	蓋台形	120	(88)	20		単・口		北視見
2771	111		ES・ET76	円形	蓋台形	-	116	108	36		口・焼・炭		
2772	111		FA・FB74・75	円形	蓋台形	-	98	86	18		単・口・焼		
2773	111		EQ・ER78	楕円長方形	箱形	箱形	(256)	77	29	□→SK2712	口・焼		南視見
2774	112		ES73・74	楕円長方形	皿状	皿状	(148)	70	11	SK2792→□	単・口・焼・炭		西視見
2775	112	31-4	FB75	円形	蓋台形	-	136	116	40	SK2778→□→SK2776	焼・口	鉄製品	東視見
2776	112	31-4	FB75	長方形	皿状	皿状	(180)	-	10	SK2778→SK2776→SK2777	焼・口		西視見
2777	112	31-4	FB74・75	方形	皿状	皿状	78	68	15	SK2776→□			
2778	112	31-4	FA・FB75	円形	蓋台形	-	100	(88)	18	□→SK2775→SK2776	焼		
2779	112		EO72	長方形	皿状	皿状	128	70	20	□→SK2751	単・口・焼		
2780	112		FD76	方形	皿状	皿状	102	97	10		単・焼		
2781	112		FC・FD76・77	楕円形	皿状	皿状	108	54	7		単・口		
2782	112	31-5	FC・FD74・75	円形	箱形	-	158	132	95		口・焼・炭	鉄製品	西視見、傾見
2783	112		ET・FA74	不整形長方形	箱形	箱形	116	94	27		口・焼		南視見
2784	112		ET・FA74・75	楕円長方形	蓋台形	蓋台形	230	136	37		口・焼・炭		南視見
2785	112		FD77	円形	蓋台形	-	80	60	23	SK209→□	単・焼		
2786	112		EST4・75	楕円形	皿状	-	90	74	11	SK2805→□	単・焼		
2787	112		FA・FB・FC77・78	楕円長方形	皿状	皿状	424	98	33	SK210→SK209→□	口・焼	土師質皿	中央部視見
2788	112		FA73	円形	皿状	-	104	92	10		単・口		
2789	112		FD78・79	円形	皿状	-	104	100	26		単・口		
2790	112		FC83	楕円形	皿状	皿状	86	72	10		口		
2791			FD77	円形?	皿状	-	86	(52)	9	□→SK218	単・口・焼		平穴
2792	113	31-6	EST4	円形	蓋台形	-	114	108	32	SK2805→□	単・口・焼	釘	
2793	113	31-7	EQ・ER67	楕円長方形	蓋台形	蓋台形	280	66	16	SK747→SK2729→□	口・焼		
2794	113		ER67・68	楕円形?	皿状	-	(92)	(90)	21	SK747→□→SK2706	口・焼		東視見2/3残
2795	113		ER76・77	円形	U字形	-	88	(80)	27	SK2796→□	口・焼		西視見
2796	113		ER76・77	不整形	皿状	皿状	(108)	114	11	SK2795	炭		
2797	113		FD71・72	楕円長方形	蓋台形	蓋台形	(276)	66	25	SK2798→□	口		東視見
2798	113		FC・FD72	楕円長方形	皿状	皿状	(136)	(24)	17	□→SK2797	口		東視見北端の一箇所
2799	113	31-88	ET・FA84・85	円形	蓋台形	-	136	132	50		口		
2801	113	31-9	PC82	方形	蓋台形	蓋台形	148	140	37		口		
2802	113		ET83・84	長方形	箱形	箱形	120	84	26		口		
2803	113		ET82	不整形長方形	蓋台形	蓋台形	200	158	31	SK2811→□	口		
2805	113	31-6	EST4	不整形長方形	皿状	皿状	166	126	16	□→SK2786・SK2792	口		
2806	113		PC81	長方形	蓋台形	蓋台形	155	86	26	SK210→□	口		
2807	113	31-10	EST8	長方形	箱形	箱形	156	(101)	69		口・焼・炭	土師質平皿、鉄製品	東視見
2808			FA・FB79・80	不整形長方形	蓋台形	蓋台形	(122)	(90)	33		口		北東部視見1/3残
2809	114	31-11	EB81・82	楕円長方形	箱形	箱形	(224)	116	47	SK755→□	口	鉄製品	持尊上坑、底面小穴
2810			EB81	円形?	皿状	-	144	(112)	13		単・口		東視見2/3残
2811	113	31-12	ET82	円形	皿状	-	(192)	(56)	11	□→SK2803・SK2826	口		

第47表 歴史時代土坑一覧表 (3)

歴史時代土坑一覧表													
番号	国函	図版	位置	平面形	断面形		規模 (cm)			重複関係	覆土	主要遺物	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸	深さ				
2812	114	31-12	EP85	方形	直状	直状	84	82	10		単・ロ・焼		
2813	114		ES76・77	円形	U字形	U字形	146	120	70	SK2814→□	□	須恵器大甕片・鉄片	
2814	114		ES76・77	円形	箱形	箱形	140	(126)	58	□→SK2813・SK2882	□		
2815	114		FB83	楕円形	逆台形	逆台形	140	(114)	31		□		西掘見
2816	114	31-13	ES77	長方形	直状	逆台形	115	68	19	□→SK282	単・ロ		
2817	114	31-14	ER76・77	楕円形	逆台形	逆台形	170	(120)	46	□→SK2796	ロ・焼	須恵器鬚・瓦	底面に長方形ピット
2818			EO・EP85	不整形円形	直状	直状	68	50	9		単・ロ		西掘見
2819	114		EO84・85	不整形円形	直状	直状	104	60	10		単・ロ・焼		
2820	114		ES71	不整形円形	逆台形	逆台形	176	86	39		□		底面凹凸
2821	114		ER72・73	円形	箱形	-	110	105	39		□		西掘見
2822	114		EN・EO82	楕円形	直状	-	134	108	13		ロ・焼		
2823	114		EN82・83	円形	逆台形	-	126	106	9		ロ・焼		
2824	115		EM82・83	円形	箱形	-	101	98	35		□		
2825			EL・EM83	円形	逆台形	-	106	(90)	31		□		南一帯区外
2826	113		ET82	円形	逆台形	-	86	82	26	SK2811→□	□		
2827			EM76	楕円形	直状	-	(66)	58	8	□→SK2743	単・ロ		
2828	115		EN・EO81	楕円形	逆台形	-	104	80	16	SK2829→□	単		
2829	115		EN・EO81	円形	逆台形	-	120	(44)	19	SK224→□→SK2828	単・ロ		
2830	115	31-15	ET77	円形	逆台形	-	96	90	32	□→SK222	□		
2831			EO85	不整形円形	直状	-	(76)	54	32	□→P295	□		
2832			EL82	方形	直状	-	74	(12)	10		□		南区外
2833	115		EN・EO80	楕円形	逆台形	逆台形	160	104	20	SK2834→□	ロ・焼		
2834	115	32-1	EO80・81	長方形	逆台形	逆台形	136	90	17	□→SK2833	□		
2835	115		EN79・80	円形	直状	-	110	100	12		ロ・焼		
2836	115	32-2	EO81	円形	箱形	-	102	98	41	SK2837→□	□・炭	土師器?	
2837			EO81	円形	逆台形	逆台形	96	(67)	18	□→SK2836	単・ロ・焼・炭		
2838	115		FD73・74	不整形円形	逆台形	逆台形	(246)	66	40		□	北・東・南掘見	
2839	115	32-3-4	EO・ER81・82	楕円長方形	箱形	箱形	152	94	66	SK755→□	ロ・焼・炭	炭輪軸器段皿	
2840	115	32-5	ER80	円形	逆台形	U字形	94	90	50		ロ・焼・炭	壁内堀 底面小穴12	
2841			FE71	不整形円形	逆台形	-	118	(84)	21		□		南掘見平穴
2842	115		FD・FE67	楕円形	直状	直状	80	60	7		□		
2843			FG67・68	不整形円形	直状	-	(108)	(70)	25	□→SK284	□		南西部一部残
2844	115	32-6	EM80・81	長方形	直状	-	116	78	26		□		
2845			EL80	楕円形	逆台形	-	74	(28)	20		□・炭		南区外1/2調査
2846	115		EL・EM79・80	円形	直状	-	64	56	5	SA25→□	単・ロ・焼		
2847	116	32-7	EN・EO80	円形	直状	-	112	104	14		□・焼		
2848	116		EO80・81	楕円形	直状	-	58	44	10		単・ロ・焼		
2849			FE69	楕円形	直状	-	(54)	(24)	9		単・ロ・炭		南掘見1/4残
2850	116		FF69	楕円形	直状	-	62	40	16		□		
2851			FE・FF70	楕円形?	逆台形	-	(90)	(40)	17	SK2852→□		南東掘見 1 b 層 並ぶ	
2852			FF70	不整形円形	直状	-	42	(24)	32	SK2859→□ → SK2851	□	一部のみ	
2853	116		ET80	不整形円形	直状	-	56	44	10		単・ロ		
2854	116		FA78・79	方形	逆台形	-	76	70	20		単・ロ		1 b 層掘入
2855	116		FA79	円形	直状	-	62	50	8		単・ロ		1 b 層掘入
2856	116		EM・EN76	楕円形	直状	-	60	42	7		単・ロ		
2857	116		EP81	楕円形	直状	-	72	30	22		単・ロ・焼		
2858			EP81・82	円形?	直状	-	50	(28)	13		焼		平穴
2859			FF70	不整形円形	逆台形	-	(50)	(25)	36	□→SK2852	□	一部のみ	
2860	116		FC73・74	不整形円形	-	逆台形	(110)	(108)	36		単・ロ		南掘見
2861			FC・FD73・74	長楕円形	直状	-	(102)	28	15		単		西掘見 土坑?
2862	116	32-8	ET81	楕円形	逆台形	-	90	75	24	SK2869→□	ロ・焼		
2863	116		ET80・81	不整形円形	直状	-	73	64	4		ロ・炭		
2864			PH68	不整形円形	直状	-	92	90	10	S K 2865→□	単		西掘見 1 b 層掘 東西掘見 1 b 層掘
2865			PH68	長方形?	直状	-	(50)	44	14	□→S K 2864			東浅い掘見
2866	116	32-9	FC73	楕円形	箱形	-	(172)	(142)	91		□	手鎌 小甕多	
2867	116		FA80・81	不整形円形	逆台形	-	74	(58)	51	SK2868→□	□		
2868	116		FA80・81	不整形円形	逆台形	-	(52)	40	19	□→SK2867	□		
2869	116		ES・ET81	不整形円形	逆台形	-	(65)	52	23	□→SK2862	□		
2870	116		EO78	円形	逆台形	-	100	(100)	20	□→SK221	ロ・焼		
2871	116	32-10	EO・EP82	円形	直状	-	62	58	11		ロ・焼		
2872	116		FC・FD71・72	楕円形	逆台形	-	94	(78)	20		□		南東掘見
2873	116		EO・EP78	円形	直状	-	67	60	6		単・ロ・焼		
2874	117		EN78	楕円形	U字形	-	70	56	41		ロ・焼		
2878	117		FC・FD78・79	不整形円形	U字形	-	88	(85)	48	□→SK210	ロ・焼		
2879			EN・EO79	不整形円形	直状	-	94	(40)	14		□		西掘見 1/2残
2880	117		EO83	長楕円形	逆台形	-	60	28	6		単・ロ		土坑
2881	117		EN84	不整形円形	直状	-	105	92	16	□→SK6	ロ・焼		
2882	117		FC79	楕円形	逆台形	-	(84)	68	25	SK2883→□	□		
2883	117		FC79	不整形円形	逆台形	-	56	(51)	22	□→SK2882	□		
2884	117		FC81・82	不整形円形	直状	-	63	50	10		単		
2885	117		ER81	不整形円形	直状	直状	(70)	58	11	□→SK755	ロ・焼・粘	S1755床下の埋み?	
2887	117		FC83	楕円形	直状	-	68	60	12		ロ・炭		

第48表 歴史時代土坑一覧表(4)

歴史時代土坑一覧表												
番号	図面	国版	位置	平面形	断面形	規模(cm)				重複関係	覆土	主要遺物
						長軸	短軸	長軸	短軸	深さ		備考
2888			FA・F181・82	不整形	逆台形	100	(92)	53			ロ・焼	南境瓦平穴
2889	117	32-11	FD・FE79・80	方形	逆台形	140	130	49			ロ・焼	
2890			EN・E667	不整形	逆台形	74	(64)	22	□→S1744		単・ロ・焼	
2891			FF79・80	不整形	逆台形	(80)	46	38			ロ	南西境瓦
2892	117		GB70	円形	圓状	80	80	8			単	
2893	117		GB71	円形	圓状	84	80	9			単	
2894	117		FT77	不整形	逆台形	(120)	(76)	55			ロ・焼	南境瓦平穴
2895			GB・GC81	不整形	圓状	(80)	55	26	□→SX234		単	北区内
2896			GB・GC81	長方形	圓状	(61)	54	13			単	北区内
2897	117		GA・GB75・76	不整形	円形	108	104	70			ロ	
2898	118		GA・GB67	楕円形	円形	128	96	47	SK2899-□		ロ	
2899			GA・GB67・68	不整形	逆台形	164	(22)	37	□→SD67-□SK2898		ロ	
2900			GC73	不整形	圓状	(75)	60	18			単・ロ	北区内
2931	117	32-12	FC70	円形	逆台形	94	82	17	□→P824		ロ・焼	
2932	117		FD70	不整形	円形	(40)	40	41	SK2933-□		ロ	
2933	117		FD70	不整形	逆台形	67	58	39	□→SK2932		ロ	
2934	117		FC79	方形	逆台形	(112)	98	11	SX6-□		ロ・焼・炭	
2935	117		FD79・80	円形	圓状	74	62	9			ロ	
2956	118		EL69・70	長方形	逆台形	132	124	20			ロ	南区内
2957			FC72	不整形	逆台形	94	(24)	39	□→S1741		ロ・焼	南境瓦
2958			FC72	不整形	圓状	(110)	(60)	25	□→S1741		ロ・焼	南境瓦平穴
2965	118	32-13	FC71	円形	逆台形	82	80	29			ロ	
2966			ER84	円形	逆台形	98	72	22	□→S1756		焼・炭	
2994			ER・ES84	円形?	圓状	84	(40)	13	□→S1756		ロ・焼	
3005	118	32-14	EM84・85	円形	楕円形	154	148	43	□→SX6		ロ・焼	
3006	118	32-15	EN86	円形	圓状	86	82	15			ロ・焼	
3011	118		ES85・86	不整形	圓状	162	73	13	□→P908		ロ	
3012	118		FC82	長方形	圓状	120	105	20			単	南境瓦一部穴
3013	118	33-1	EO・EP83・84	楕円形	円形	130	114	33	□→SX6		ロ・焼	土師買入 瀬洋
3014	118		EQ・ER86・87	不整形	圓状	170	146	32			ロ	
3015	118		FB・FC86・87	楕円形	圓状	(105)	70	19	□→SD386		ロ	
3017			EP82	不明	圓状	(128)	(50)	34			ロ	北境瓦一部残
3035	118		ES85	楕円長方形	圓状	86	74	12			単・ロ	
3036	119		ET85	楕円長方形	圓状	72	60	14			単・ロ	
3045	119		EO・EP76・77	不整形	逆台形	123	(88)	32			ロ・焼	北境瓦一部穴
3058			ES・ES86	楕円形	逆台形	112	74	47	□→SB213		ロ	
3060			F F 84・85	不整形	圓状	(70)	40	19	□→S1765		単・ロ	
3065	119	33-2	EN69	不整形	圓状	136	126	29			ロ	
3103	119		EN64・65	楕円形?	楕円形	106	36	30	□→SD388		ロ・焼・炭	西区内
3104			EN65	円形	圓状	70	(34)	12			ロ	東平穴
3105			EN65	円形	逆台形	46	(32)	12			ロ	
3106			EN65	楕円形	圓状	(48)	(20)	10			ロ	
3108	119	33-3	EN65	楕円形?	楕円形	100	(48)	56	□→SD388		ロ	南西区内

(覆土の単は単層・ロはローム層とブロック・焼は焼土・炭は炭化物。土器類は図示したもののみ。区外は調査区外。)

第49表 歷史時代主要遺構出土土器類集計表

歴史時代主要遺構出土土器類集計表

[illegible]

第50表 歴史時代主要遺構出土瓦埴集計表

主要遺構出土瓦埴集計表 (S A・S B・S I 以外は5点以上出土遺構)								
遺構	題 瓦	宇 瓦	男 瓦	女 瓦	製斗瓦	埴	不 明	合 計
S A24			6	2				8
S A25				1				1
S A26			1	1				2
S B206			2					2
S B207			1					1
S B210			2	3			1	6
S I 740		1	42	52	2		6	103
S I 741			19	26			5	50
S I 742				2				2
S I 743			5	6				11
S I 744			15	28		2	13	58
S I 745								0
S I 746								0
S I 747			4	6			2	12
S I 748			3	1			3	7
S I 749			10	17		2	4	33
S I 750			4	5			1	10
S I 751	1		6	10		2		19
S I 752			10	29		2	5	46
S I 753								0
S I 754			42	32		2	5	81
S I 755			7	4		1	1	13
S I 756			14	16			3	33
S I 757			3	1			3	7
S I 758								0
S I 765		1	2	6			1	10
S I 766								0
S I 767			8	14				22
S D385			3	4				7
S K2699			10	12				22
S K2782			2	8		1	2	13
S K2795			3	2			2	7
S K2807			2	3				5
S K2809			7	7			3	17
S K2839			3	2				5
S X6			32	62		5	13	112
S X217			2	4				6
S X221			2	2			1	5
S X238			2	3				5

第51表 歴史時代遺物一覧表(1)

S B207掘立柱建物 鉄 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法	備 考		
I22-1 S8 MM01	釘	1-1 覆土	折頭形 頭部方形 断面方形	全 長(3.0) 重さ2.3	先端折れ曲がり一部欠		
I22-2 S8 MZ24	不明鉄製品	3-1b 覆土	棒状 断面方形	全長(2.7) 重さ1.6	両端欠		
S B207掘立柱建物 青 銅 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法	備 考		
I22-3 — MG08	銅滓か	1-1 柱頭内	粒状	直径1〜4mm 重さ0.6	粒状滓が附着したものか		
S B209掘立柱建物 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考
I22-4 — P L01	土師質土器 杯	2-3 覆土上層	— 5.6		ロクロ右回転	細砂多 良好 灰褐色	底部のみ残
S B213掘立柱建物 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考
I22-5 S8 P K02	須恵器A 杯	3-2 覆土	(12.4) 3.9 4.4	口縁部やや肥厚 体部内湾	ロクロ右回転	精選 粗砂微 良好 灰白色	1/2弱残
I22-6 — P K01	須恵器A 杯	3-1 覆土	— 4.8		ロクロ右回転	細砂多 粗砂少 良好 灰褐色	底部残
S A24柱穴 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考
I22-7 — P L02	土師質土器 杯	P-21 覆土	— 4.2	体部丸み強い	ロクロ右回転	細砂微 きめ細かい 良好 暗赤褐色〜灰色	口縁部〜体部上半欠
I22-8 — P N01	灰胎陶器 碗	P-11 覆土	— 8.2		腰部ヘラケズリ 底部外面ナゲ	精選 細砂微 良好 体部灰色 底部灰褐色	底部のみ 内底面平滑 底部外面高台内に焼成 前の瓦紋なヘラケズリ 体部内面施釉 銀化 で灰色
S A24柱穴 女 瓦 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 胴端 広端 厚さ	成・整形の特徴				備 考	
	素材	凹 面		凸 面		端 面	
		布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
I22-9 (17.9) (12.5) KD86	不明	20×20	端縁ヘラケズリ。	正格子		端面1面ヘラケズリ。	硬質。黒灰色。自然釉付着。胎土粗雑。粗砂粒多い。海綿状針孔混入。
S A24柱穴 鉄 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法	備 考		
I22-10 — MZ01	不明鉄製品	S A24 柱穴覆土	棒状 断面方形	全長(2.7) 重さ2.4	両端欠		

第52表 歴史時代遺物一覧表(2)

S A 25柱穴列 青銅製品一覽							
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出土位置	形状	寸法	備考		
122-11 58 MG01	板状	P-1b 覆土	薄板	長(3.7) 幅(2.4) 厚さ0.8 重さ1.4			
122-12 58 MG02	銅滓	P-1b 覆土	不整形	長2.0 幅1.6 厚さ0.6 重さ2.6	表面は小さく波打ち径1mm以下の気孔がある		
122-13 — MG03	銅滓	P-1b 覆土	滴状	長1.3 幅0.6 厚さ0.4 重さ0.4	径1mm以下の気孔がやや多い		
S A 26柱穴列 瓦 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏線 幅 厚さ	成・整形の特徴				備考	
		素材	凹面		凸面		端面
			布目	特徴	叩き		特徴
122-14 69 KD87	(7.6) — 2.7	不明	24×24	無調整	正格子 押印「川口瓦印」あり	欠損	硬質。黒灰色。粗雑。砂 粒多量。胎土粗雑。粗砂 粒多い。
S 1740住居 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種別 器形	出土位置	口径 底径 高さ	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色 調整	備考
122-15 58 PH09	土師器 上師器	電内 煙道とその 脇 覆土	19.8 — —	11縁部外反 胴部中に最大径 を持ち、丸く張る。	11縁部横ナデ→胴上位斜ヘラ ケズリ→11縁下横ヘラケズ リ・中位下横ヘラケズリ	細砂少 良好 外灰褐色→黄褐色 内灰褐色	11縁部→胴部2/3残 底部なし 煙道瓦眼ぎ目を塞ぐ 胴部斜めヘラケズリ不明
122-16 — PH04	土師器 上師器	電内	21.0 — —	11縁部外反 胴部やや張る	11縁部横ナデ→胴上位斜ヘラ ケズリ→中位下横ヘラケズリ 胴内面上位横ヘラケ	細砂多 良好 黄褐色	11縁部→胴部下位1/4 残存 胴部外面上位・内面器 面荒れで調整痕不明
122-17 — PH05	土師器 上師器	電内 煙道北側	21.0 — —	—	11縁部輪縁直1段 11縁部横ナデ→胴中位下横ヘラ ケズリ→胴上位横ヘラケズリ 胴部内面横ヘラナデ	細砂多 良好 黄褐色	11縁部→胴部1/4残
122-18 58 PH02	土師器 上師器	電内 焚口	20.4 — —	11縁部短め	11縁部横ナデ→胴部横ヘラケ ズリ 胴部内面ナデツケ→横ヘラナデ	細砂多 良好 黄褐色	11縁部→胴上位1/2残 外面保に覆われる
123-1 — PH10	土師器 上師器	覆土	22.0 — —	11縁部「コ」字形	11縁部横ナデ→胴上位斜ヘラ ケズリ→胴上部横ヘラケズリ ・胴中位下横ヘラケズリ ・内面ナデツケ→上部横ヘラ	細砂少 良好 外灰黒褐色 内黄 褐色に斑に茶褐色	11縁部1/2・胴部1/4弱 残
123-2 — PH07	土師器 上師器	覆土	19.8 — —	11縁部「く」字形 胴部の張りやや強	11縁部横ナデ→胴上位横ヘラ ミギ 胴部内面横ヘラナデ	細砂多 良好 灰黒色	11縁部1/2・胴上半1/3 弱残
123-3 — PH03	土師器 上師器	電内 煙道部	20.4 — —	11縁部輪縁直1段	11縁部ヨコナデ→胴上部横ヘ ラケズリ 胴内面上部ヘラナデ	細砂多 赤色粒子 良好 灰白色	11縁部1/2・胴上半1/4 残 内外とも器面の荒れが 激しく調整痕不明
123-4 — PH08	土師器 小型壺	覆土	13.2 — —	11唇部周縁わずかに 凹む	11縁部ヨコナデ→胴上部横ヘ ラケズリ	細砂多 良好 外黒色 内灰黒色	11縁部→胴上部1/2残
123-5 — PH06	土師器 小型壺	電内 焚口 貯蔵穴	— — 47.1	胴部球形	胴中位横ヘラケズリ→胴下半横 ヘラケズリ 内面ヘラナデ	細砂多 微細雲母多 良好 外灰茶色 内灰黒色	胴中位以下1/2弱残
123-6 58 PH01	土師器 上師器	電内 焚口	12.4 4.5 6.0	底部突出 器底浅い	指頭ササエ→11縁部→内面 底部ヨコナデ 底部貼り付け	細砂・小石少 良好 暗赤褐色	ほぼ完形。11縁部の一 部欠く。
123-7 58 PK03	須恵器A 片	電内	11.7 4.7 5.0	—	ロクロ右回転 糸切り	細砂多 良好 灰色→灰黒色	完形 11縁部大きくへたる
123-8 58 PK04	須恵器B 片	電内 煙道部	13.6 4.5 4.5	体部内湾。11縁部 やや外反	ロクロメをナデで消す ロクロ右回転 糸切り	細砂多 微細雲母多 赤色粒子・小石微 良好 黄褐色	完形 11縁部の内湾1/3に爆 付着
123-9 58 PK05	須恵器A 片	電内 覆土	13.0 4.6 5.3	11縁部肥厚 体部内湾強い	ロクロ右回転 糸切り	細砂多 良好 黒色→暗褐色	全面ゴレ 内外面の 一部に爆付着

第53表 歴史時代遺物一覧表(3)

S 1740住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 器 底 高 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 色 土 成 調	備 考		
123-10 58 P L03	土師質土器 ?	竈内 2本の明瓦 の煙道竈目 上部	18.6 (6.5) 6.8	体部は高台からほ ぼ直線的に開く 大型	ロクロ右回転 糸切り 貼り付け高台	細砂多 赤色粒子少 比較的情道 軟質 外灰黄褐色 内灰褐色	口縁部～体部一部欠 高台は欠けているが描 れており、割れた後も 使用。体部内面に幅 2.7cmの蛇の目状に くすんだ赤色顔料を塗布		
123-11 58 P L07	土師質土器 ?	覆土	15.0 6.1 7.0	口縁部肥厚	ロクロ右回転 糸切り 貼り付け高台	細砂多 小石 堅緻 赤褐色	口縁部～体部1/3欠		
123-12 58 P L08	土師質土器 ?	覆土	13.9 5.4 8.0	口縁部小さく外傾 高台低い	ロクロ右回転 糸切り 貼り付け高台	細砂多 良好 外灰黄土色～赤褐色 内灰褐色	ほぼ完形 内面に、黒色の光沢を 持つ漆状皮膜が付着。		
124-1 58 P L06	土師質土器 ?	竈内 煙道上	(14.9) 6.1 (8.0)	体部外反	ロクロ右回転 糸切り 貼り付け高台	細砂少 精選 やや軟質 外黄褐色 内灰褐色	口縁部～体部1/3・底部 1/2残 高台はほとんど外れて おり一部だけ残る。体 部外面一部破片着		
124-2 59 P L05	土師質土器 ?	竈内 燃焼部左側	(15.0) 7.0 8.8	口縁部小さく外反 高台幅広く高い	ロクロ右回転 糸切り 貼り付け高台	細砂少 精選 良好 白黄褐色	口縁部～底部4/5欠		
124-3 — P L09	土師質土器 ?	覆土	— — 8.4	体部内湾 高台扁平	ロクロ右回転 糸切り 貼り付け高台	細砂少 良好 外灰褐色 内灰褐色	口縁部欠 体部内面薄く剥落		
124-4 59 P L04	土師質土器 耳皿	甕上面	10.6 1.8 5.4	口縁部緩く外反	ロクロ右回転 糸切り	細砂・赤色粒子少 精選されきめ細かい 軟質 黄褐色	片耳～体部一部欠 内底面に針書き 刺書 「太」		
124-5 — P K07	須恵器A 大甕	甕・覆土	— — —	—	外面縦位印が顕著	細砂多・小石少 良好 灰色	肩部片		
124-6 — P K06	須恵器A 坏	覆土	— — —	胴部張る	ロクロ後へらを当ててナデ調整	細砂少 良好 外頸部灰白色・胴部 灰色 内灰白色	頸部～胴部上半1/2割 残、口縁部と胴下半は 推定復元 胴部・口縁部内面に自然 釉 胴部割れ口に煤付着		
124-7 — P K08	須恵器A 大甕	覆土	— — —	胴部最大幅の下が 凹む 器壁薄い	内面当て木版顯著	細砂・骨針多 粗砂・ 小石少 良好 外灰色～灰白色 内 暗紫色	胴部1/4割残 胴部～口縁部と底部は 推定復元 胴部最大幅 (60.6) cm		
S 1740住居 宇 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	内 区		外 区				脇 区		
	厚さ	文様	上		下		厚さ	文様	
			厚さ	文様	厚さ	文様			
128-7 59 K B01	(6.0) (2.1) — 3.8	— — — 三重弧文	—	—	—	—	—	—	
S 1740住居 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整形の特徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
125-1 59 K C01	36.5 9.5 18.8 1.5	粘土組	20×19	細線ヘラケズリ。	—	横位ヘラ調整。細線 ヘラケズリ。	側面・広端・狭端面 1面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色。やや緻密。 細砂粒多い。	
125-2 — K C02	(28.8) (10.2) 1.6	粘土組	22×19	無調整。朱墨書 「寺」?あり。	—	縦叩き後、横位ヘラ 調整。	側面1面ヘラケズリ。	硬質。灰色・暗灰色。自然 釉付着。胎土緻密。砂 粒少量。	
126-1 — K C05	(27.1) 20.6 1.2	粘土組	16×18	細線わずかにナ デ調整。	—	縦叩き後、横位ヘラ 調整。細線わずかに ナデ。	側面ナデ。広端面1 面ヘラケズリ。	軟質。淡黄褐色。胎土 やや粗雑。砂粒・粗砂粒混 入。	

第54表 歴史時代遺物一覧表(4)

S 1740住居 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏線 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
126-2 — K D01	(31.2) — 29.6 2.6	粘土紐	22×25	側縁ナデ調整。	側目 L10本	側縁・広端縁ナデ調整。	側面ナデ(ヘラケズリ後?)。広端面1面ヘラケズリ。	硬質。明灰色～暗灰色。胎土緻密。細砂粒混入。	
127-1 — K D03	(20.3) (14.5) — 2.0	不明	27×28	側縁・広端縁ナデ調整。底背文字「生」(逆字)あり。	側目 L14本	側縁・広端縁ナデ調整。	側面ナデ(ヘラケズリ後?)。広端面ヘラケズリ後ナデ。	硬質。暗灰色～黒灰色。胎土粗雑。粗砂粒多量。0.5cmほどの小石混入。	
127-2 — K D07	(18.4) — 1.6	粘土紐	20×18	無調整。底背文字「中」あり。	側目 L6本	側縁わずかにナデ。	側面ナデ調整。	軟質。明褐色・明黄褐色。胎土やや粗雑。	
127-4 — K D08	(22.2) — (12.7) 2.2	粘土紐?	19×20	無調整。	側目 L10本	側縁・広端縁ナデ。	側面・広端面ナデ調整。	硬質。灰色・暗灰色。胎土粗雑。粗砂粒多く。1cm弱の小石混入。	
127-3 — K D09	35.5 (12.1) — 1.8	粘土紐	27×24	側縁・広端縁・広端縁ヘラケズリ。粘土紐接合痕あり。へう書き「瓦」あり。	側目 L3本	側縁・広端縁・広端縁ナデ調整。	側面・広端面1面ヘラケズリ。広端縁2面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色～黒灰色。胎土やや粗雑。砂粒多い。	
127-5 — K D12	(10.2) — (13.0) 1.8	粘土版	13×16	側縁ナデ調整。未切り痕あり。	側目 L1本	側縁ナデ調整。	側面・広端面1面ヘラケズリ。	軟質。淡黄褐色～淡黄灰色。胎土緻密。粘質。	
128-1 — K D13	(29.7) (12.8) — 4.1	粘土紐	24×23	側縁ヘラケズリ。広端縁幅広ヘラケズリ。一部縦位指ナデ。	斜格子	側縁・広端縁ナデ調整。	側面・広端面1面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色。胎土極めて緻密。	
127-6 — K D14	(18.9) (20.8) — 2.4	粘土紐	14×18	背底不明朱墨書「寺」?あり。	側目 L8本	側縁・広端縁ナデ調整。	側面ヘラケズリ後にナデ調整。広端面1面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色～暗灰褐色。胎土やや粗雑。粗砂粒を多く含む砂質。	
128-2 — K D15	(11.5) (12.7) — 2.4	粘土紐?	23×25	底背文字「七」あり。	側目 L11本	側縁・広端縁ナデ調整。	側面ナデ(削り後?)。広端面ナデ後ナデ。	硬質。暗灰色。胎土緻密。砂粒少量混入。胎土粗雑。砂粒多量。	
128-3 — K D16	(13.5) — 2.3	不明	20×20	底背文字「上」(逆字)あり。	側目 L8本	側縁・広端縁ナデ調整。	欠損。	硬質。暗灰色。胎土緻密。砂粒少量混入。	
128-4 — K D19	(18.3) — (13.7) 2.0	粘土紐?	16×18	側縁・広端縁ヘラケズリ。一部背ナデ。押印「格」。	側目 L8本	側縁・広端縁ナデ調整。	側面2面ヘラケズリ。広端面1面ヘラケズリ。	やや軟質。淡黄灰色。胎土緻密。海綿状骨針混入。	
S 1740住居 鬘 斗 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 端部 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
128-6 — K E01	(16.2) — 18.7 2.7	粘土紐	—	多数の板状圧痕あり。	側目	側面2～3回。端面1回ヘラケズリ。	軟質。褐色～暗赤褐色。胎土粗雑。粗砂粒、緑泥片岩混入。		
128-5 — K E02	(32.0) — 13.9 2.6	粘土版	16×19	無調整。	変形格子	側面2回。端面1回ヘラケズリ。	やや硬質。灰色～暗灰色。胎土やや粗雑。砂粒多い。		
S 1740住居 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法		備 考			
128-8 — M Z02	不明鉄製品	S 1740 覆土	棒状 断面方形	全長(2.8) 重さ1.7	幅0.5 厚0.4	一端折れる 釘か。			
128-9 — M Z03	不明鉄製品	S 1740 覆土上層	棒状 断面方形	全長(2.9) 重さ1.6	幅・厚0.4	一端折れる 釘か微などの基部			

第55表 歴史時代遺物一覧表(5)

S 1741住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種類	別形	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考
129-1 — P H12	土師器	甕	電	(25.0) —	肩部強く張る	口縁部ヨコナデ→胴上部横ヘラケズリ→胴下位縦ヘラケズリ 内面ナデツケ→上部ヘラナデ	細砂多 やや軟質 茶褐色	—	口縁部→胴下位1/4残 S 1740甕土出土土器 片1点と接合
129-2 59 P H11	土師器	甕	床面直上 覆土	21.6 —	口縁部短い	口縁部横ナデ→胴上位斜ヘラケズリ→胴上部横ヘラケズリ ・胴中位下縦ヘラケズリ 内面ナデ→部分的にハケメ	細砂・赤色粒子少 良好 外黄褐色 内灰黒色	—	口縁部→胴下位1/2残 胴部内面縦・ヨゴレ、底部 付近にコゲ付着
129-3 — P H13	土師器	甕	電 煙出し部	22.0 —	口縁部の開き弱い	口縁部ヨコナデ→胴上部横ヘラケズリ 内面ヘラナデ	細砂少 良好 外淡黄褐色→黒色 内灰黒色	—	口縁部4/5残 胴部は斜めヘラケズリも あるが器面荒れていて 観察不可
129-4 59 P K10	須恵器B 杯	甕	電内	12.2 3.8 5.4	—	ロクロ右回転	細砂少 良好 赤褐色	—	1/2強残
129-5 — P K11	須恵器A 杯	甕	電内	14.0 —	体部膨らむ	ロクロ右回転	細砂多 粗砂少 良好 外灰色→淡黄褐色 内淡黄褐色	—	1/2残 器面荒れ激しい
129-6 60 P K09	須恵器B 杯	甕	覆土	13.0 3.8 5.7	口唇部肥厚外反	ロクロ右回転	細砂少 良好 赤褐色	—	完形 内面皮膜状のタール付着
129-7 60 P K12	須恵器A 杯	甕	覆土	(13.4) —	—	ロクロ右回転	精選 きめ細かい 良好 灰白色	—	1/6の破片 口徑不安 体部内面に黒書「止」
129-8 — P L10	土師質土器	甕	床面直上 覆土	15.6 6.3 8.8	腰部から口縁部大きく開く	ロクロ左回転	細砂・赤色粒子多 良好 赤褐色	—	口縁部→体部3/4欠
S 1741住居 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 快端 広端 厚さ	成・整形の特徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面				
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
130-1 69 K C10	37.6 10.6 (19.9) 1.5	粘土板	15×20	側縁・広端縁ヘラケズリ。	—	横位ヘラ調整後、縦位ヘラ調整。調整が難で側面が明瞭に残る。	側面・狭端・広端1面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色。胎土やや粗雑。粗砂粒多く、海綿状骨針混入。	
130-2 — K C14	(28.4) (9.7) 2.0	粘土板	15×14	無調整。	—	縦叩き後、横位ヘラ調整。調整が難で側面が明瞭に残る。	側面・広端1面ヘラケズリ。広端面にワラ状注痕あり。	軟質。黄褐色・灰褐色。胎土粗雑。砂粒多い。1cm前後の小石混入。	
S 1741住居 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 快端 広端 厚さ	成・整形の特徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面				
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
130-3 69 K D20	(15.7) — 2.6	粘土板	18×19	側縁幅広く面取り。	捺押文字「花」。	側面1～2面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色。一部黄灰色。胎土緻密。砂粒少量。0.5～1.0cmの小石混入。		
131-1 60-69 K D21	(27.3) — 12.2 3.3	粘土板	21×16	側縁・広端縁幅広くヘラケズリ。押印「花」。	斜格子	側面2面ヘラケズリ。広端面1面ヘラケズリ。	軟質。黄灰色・淡灰色。胎土やや粗雑。粗砂粒を多く含む。		
131-2 — K D23	(29.6) (11.8) 2.1	粘土板	19×22	無調整。粘土粗質あり。	龍目10本	側面ナデ（ヘラケズリ後?）。広端面ヘラケズリ。	軟質。暗黄褐色。胎土やや粗雑。広端面にワラ状注痕あり。		
131-3 70 K D24	(24.3) (12.3) — 2.0	不明	29×33	側縁・快端縁わずかにヘラケズリ。捺押文字「七」あり。	龍目110本	側縁・広端縁ナデ調整。	硬質。暗灰色。一部黄灰色。胎土緻密。砂質。		
131-4 — K D26	(27.3) (13.1) 2.8	粘土板	19×21	側縁2回ヘラケズリ。広端縁1回ヘラケズリ。糸切り痕あり。	龍目17本	広端縁ヘラケズリ。	やや軟質。黄灰色→淡灰色。胎土粗雑。砂粒・粗砂粒多量。1cm弱の小石混入。		

第56表 歴史時代遺物一覧表(6)

S 1741住居 鉄製品一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法	備 考					
131-5 60 MZ04	不明鉄製品	S 1741 覆土	棒状 断面長方形	全長(5.1) 幅0.8 厚0.4 重さ4.9	一端折れる 刀子・工具類の基部か					
S 1742住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴		胎 土 焼 色	上 成 調	備 考	
131-6 60 P K 13	須臾器A 片	床面直上	11.43 — (6.0)	口縁部外反	ロクロ右回転		細砂多 良好 灰褐色		1/2残、高台欠 大きくへたり口縁 高台欠接ぎで使用する	
131-7 — P N 02	灰釉陶器 塊	床面直上	— 7.0		底部回転糸切り後高台取り付 け時にナデで周辺部を消す		精選 黒色粒子微 良好 灰白色		底部1/2残 体部内面施釉毛瑛り 淡黄緑色	
S 1742住居 女 瓦 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 換算 広端 厚さ	成・整形の特徴							備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面			
			布目	特 徴	叩き	特 徴	叩き	特 徴		
131-9 — K D 27	(10.4) — 2.0	不明	32×31	わずかに網緑面 取り。	網目 11.12本	網緑ナデ。	網面ナデ(ヘラケズ リ後)。	硬質。暗灰色～青灰色。 胎土粗雑。砂粒、粗砂粒 多く含む。		
131-8 — K D 28	(7.2) — 1.7	粘土組	26×27	網緑わずかにナ デ調整。	網目 11.0本	網緑ナデ調整。	網面一面ケズリ。	やや軟質。淡灰色。胎土 はやや緻密。差粒を少量 含む。		
S 1743住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴		胎 土 焼 色	上 成 調	備 考	
132-1 60 P L 11	土師質土器 塊	床面直上 覆土	— 7.0	高台潰れ	ロクロ右回転		粗砂多 やや軟質 赤褐色～灰褐色		口縁部欠 内面風化で大きく剥落	
S 1743住居 女 瓦 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 換算 広端 厚さ	成・整形の特徴							備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面			
			布目	特 徴	叩き	特 徴	叩き	特 徴		
132-2 — K D 29	(18.5) (8.9) — 1.6	不明	21×21	無調整。	網目 11.0本	網緑・端緑ナデ調整。	網面一面ナデ。	軟質。黄褐色～橙褐色。 胎土は緻密。細砂粒を少 量含む。		
132-3 — K D 30	(10.1) (15.9) — 2.2	不明	15×21	端緑わずかにナ デ調整。	網目 11.7本	無調整。	一面ヘラケズリ。	やや軟質。黄灰色。一部 黒灰色。胎土緻密。海綿 状骨針混入。		
S 1744住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 器 底	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴		胎 土 焼 色	上 成 調	備 考	
132-4 60 P L 12	土師質土器 皿	床面直上	11.53 —	口縁部やや外反	ロクロ右回転 外面に比して内面クロメ密		精選さの細かい 母・赤色粒子微 良好 淡黄褐色		口縁部1/2強・高台端部 欠	
132-5 — P L 13	土師質土器 皿	覆土	10.89 2.3 (5.8)	口縁部やや外反	ロクロ右回転		細砂少 良好 外黄褐色 内灰褐色		1/4割残	

第57表 歴史時代遺物一覧表(7)

S 1744住居 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
132-6 — K C 19	(17.6) — 1.7	粘土紐	40×31	側縁ヘラケズリ。 判読不明の朱墨書。	—	縄叩き後、縦位・斜位 ナデ調整。側縁ヘラ ケズリ。	側面1面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色・黄褐色。 胎土は粗雑で、砂粒・粗 砂粒が多く、1 cm弱の小 石混入。	
132-7 — K C 20	(33.5) — 1.8	粘土紐	25×25	側縁ナデ。	—	丁寧な横位ナデ。側 縁ナデ調整。	側面ヘラケズリ後、 ナデ。後端面ナデ。	硬質。青灰色・暗灰色。 胎土緻密。砂粒少量。	
S 1744住居 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
133-1 61・69 K D 31	(23.6) — 25.7 1.9	粘土紐	22×21	無調整。	縄目 11本	押印「人」?。	側面・広端面ナデ調 整。	軟質。明黄褐色〜黄褐色。 胎土緻密。砂粒少量。1 cm弱の小石混入。	
133-2 61 K D 32	(24.8) 24.6 — 2.1	粘土紐	20×16	縁を極一部ナデ。	縄目 18本	側縁ナデ調整。	ナデ調整。	硬質。灰色〜黄灰色。胎 土はやや緻密。砂粒多い。	
132-8 — K D 36	(15.3) — 2.4	粘土板	15×16	—	正格子	—	欠損。	軟質。黒褐色。黄褐色。 胎土粗雑。海綿状骨針混 入。	
S 1744住居 埴 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	長辺 短辺 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素 材	上 面		側 面				
			ナデ調整。		ナデ調整。				
133-3 — K H 01	— 6.2	粘土塊?	ナデ調整。		ナデ調整。		ナデ調整。	やや硬質。淡灰色。胎土やや 粗雑。	
S 1744住居 石 製 品									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法	石 材	備 考			
133-4 61 G L 01	礫石	覆土	扁平な長方形	長(4.5) 幅3.4 厚さ1.2 重さ(25.1)	凝灰岩系	平折 表面と斜側面縁糸痕顕著 中砥			
S 1747住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 部 底 径	口 部 高 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 成 調	備 考	
133-5 — P K 14	須恵器A 片	覆土	(12.0) 4.5 (5.8)	—	体部やや内湾	ロクロ右回転	細砂多 赤色粒少 やや軟質 灰白色	口縁部〜底部1/4残	
133-6 — P K 15	須恵器A 片	覆土	(7.8) —	—	口縁部外傾	ロクロ右回転	細砂少 良好 灰黒色	頸部1/2・口縁部1/7残	
S 1747住居 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
134-1 — K D 38	(16.3) 25.5 — 2.1	粘土板	29×27	側縁・伏端縁ヘ ラケズリ。糸切 り痕あり。	正格子	糸切り痕あり。	側面・伏端面一面ヘ ラケズリ。	硬質。灰色。胎土緻密。 砂粒少量で、黒色粒目立 つ。胎土粗雑。粗砂粒多 い。	
134-2 — K D 39	(11.6) — (13.5) 2.7	粘土板	18×21	側縁・伏端縁ヘ ラケズリ。	型押文字 「花」	—	側面・伏端面一面ヘ ラケズリ。	硬質。暗灰色〜青灰色。 胎土粗雑。粗砂粒多く、 約1 cmの小石混入。	
134-3 — K D 41	(13.0) — 1.7	粘土紐	17×20	無調整。	縄目 17本	側縁ナデ調整。	側面ナデ。	軟質。灰褐色〜淡灰色。 胎土緻密。砂粒少量。	

第58表 歴史時代遺物一覽表(8)

S I 747住居 鉄製品一覽									
図面番号 図版番号 遺物番号	種別	出上位置	形状	寸法		備考			
I34-4 61 M J 01	鎌	S I 747 床面直上	曲刀鎌	全長10.5 重さ17.4	刃幅1.8 背厚0.2	完形 折れ曲がる			
S I 748住居 土器一覽									
図面番号 図版番号 遺物番号	種類	別形	出上位置	口部 口径	口径 高さ	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色 土成調	備考
I34-5 61 P L 14	土師質土器 壺		P 1覆土	15.6 6.2 7.6		口縁部小さく外反	底部右回転 糸切り	精選 良好 赤褐色	口縁部へ体部1/3欠
S I 748住居 男瓦一覽									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整形の特徴						備考	
	素材	凹面		凸面		端部			
		布目	特徴	叩き	特徴	特徴			
I34-6 — K C 26	(6.4) — 1.7	粘土紐	30×35	無縁ナデ。割説 不明の朱塗色。	—	無叩き後、縦位ナデ。	凹面ヘラケズリ後、 ナデ。	硬質。暗灰色。胎土粗雑。 砂粒多く、1 cm割の小石 混入。	
S I 748住居 女瓦一覽									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整形の特徴						備考	
	素材	凹面		凸面		端部			
		布目	特徴	叩き	特徴	特徴			
I34-7 — K D 42	(7.2) — 2.0	粘土紐?	14×18	端縁面取り。		割格子	一面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色。自然輪付 着。胎土緻密。粗砂粒少 量混入。	
S I 749住居 土器一覽									
図面番号 図版番号 遺物番号	種類	別形	出上位置	口部 口径	口径 高さ	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎土 焼色 土成調	備考
I35-1 61 P H 19	土師器 小型壺		甕内 直立	15.8 — —		口縁部外反 胴部球形に近い 器壁内い	口縁部横ナデ 胴上位斜めヘラケズリ横ヘ ラケズリ・胴中位下縦ヘラケ ズリ	細砂多 雲母微 良好 茶褐色	胴部下平欠破片なし 人為的か 口縁部内面円周に沿っ て破片して黒色になる 胴中位へ胴部電話土付着
I35-2 61 P H 17	土師器 壺		甕内	14.09 4.1 8.0		口縁部内湾	口縁部横ナデ 体部軽い指頭 調整 無調整部あり 底部粗い方向のヘラケズリ	精選 雲母多 黒色 粒子少 良好 外黄褐色 内赤褐色	口縁部1/5・底部3/4残 内底面に布圧痕付着
I35-3 器図版62 P H 15	土師器 壺		床面直上	15.0 5.5 8.9		口縁部へ体部近く 内湾(いわゆる箱 型)	体部内面放射状暗文 体部外面下部ヘラケズリ→横 位→ヘラミガキ 底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	精選 赤色砂子・金 雲母少 堅緻 茶褐色 一部黒変	口縁部へ体部1/3欠 甲斐原式土器 体部内面に横位の浅い 沈線4本 底部外面中央部黒書 「国寺」
I35-4 61 P H 16	土師器 壺		甕左袖部 覆土	13.2 3.8 —		口縁部内湾	口縁部横ナデ 体部指頭調整 無調整部多い 底部縦横ヘラケズリ	細砂少 雲母やや多 良好 内外赤褐色	完形 北武蔵系環 口縁部一部欠はぼ完形
I35-5 61 P H 18	土師器 壺		甕左袖部 覆土	12.09 2.9 —		口縁部内湾 やや小振り	口縁部横ナデ 体部無調整 底部ヘラケズリ	細砂多 雲母微 良好 赤褐色	北武蔵系環 1/5残 PH16と同じ位置から出土
I35-6 61 P H 14	土師器 壺		床面直上	13.7 3.2 10.0		口縁部内湾	口縁部横ナデ 体部指頭調整 無調整部あり 底部ヘラケズリ	細砂少 雲母やや多 良好 暗赤褐色	完形 北武蔵系環 内底面に放射状のケル付着 PH16と入子で出土
I35-7 62 P K 16	須恵系B 壺		床面直上	13.6 3.6 8.0		体部わずかに内湾 内底面と体部の境 強い屈曲	口縁部左回転 体部下位ヘラケズリ 底部全面回転ヘラケズリ	細砂多 粗砂少 やや軟質 口縁へ体部赤褐色 底部灰色	完形 体部黒変 煤付着 内 底面底れ激しい PH14と入子で出土
I35-8 62 P K 17	須恵系A 壺		甕内	14.3 4.1 9.8		口縁部やや薄くなる 底平大	口縁部右回転 底部糸切り一輪の広い周縁ヘ ラケズリ	細砂・骨針多 良好 灰褐色	ほぼ完形 甕1に落とし蓋状に出 土
I35-9 62 P K 18	須恵系A 壺		甕内	18.63 — —		深い器形 口縁部内面沈線状 に浅み小さく外反	口縁部右回転	細砂少 粗砂・骨針微 良好 外黒色 内灰色	口縁部へ体部1/3残 胴部11の色調は赤褐色

第59表 歴史時代遺物一覧表(9)

S I 749住居 男 瓦 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 挟端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴				備 考		
		素 材	凹 面		凸 面			
			布目	特 徴	叩き		特 徴	
135-10 62 K C 27	39.6 (9.0) 16.2 2.3	粘土板	26×23	側縁ヘラケズリ。	—	横位ヘラケズリ後、 縦位ナデ。挟端縁・ 側端縁ヘラケズリ。	軟質。暗褐色・暗茶褐色。 胎土やや粗雑。粗砂粒多 い。	
136-1 62 K C 28	38.4 (9.4) 18.1 1.4	粘土板	22×22	広端・挟端・側 端縁ヘラケズリ。	—	縄叩き後に横位ヘラ 調整。縦位ナデ調整。 側縁ヘラケズリ。	やや軟質。暗灰色。内 褐色。胎土やや緻密。粗 砂粒少量。海綿状骨針混 入。	
136-2 63 K C 29	(17.2) 10.7 — 2.1	不明	23×24	側縁ヘラケズリ。 布紐じ痕あり。	—	丁字な横位ナデ。 挟端面指ナデ。	有段式男瓦。挟端部に段差 のある内筒形成形台を使用。 やや軟質。淡灰色、一部暗灰 色。胎土粗砂粒少量含む。	
136-3 — K C 31	(17.2) (9.5) — 1.9	不明	21×24	側縁ヘラケズリ。 一部指ナデ。	—	縄叩き後、横位ナデ。	軟質。黄褐色。粗雑。粗 砂粒多い。有段式男瓦と 同じ形状の内筒形成形台 を使用している。	
S I 749住居 女 瓦 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 挟端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴				備 考		
		素 材	凹 面		凸 面			
			布目	特 徴	叩き		特 徴	
137-1 63・69 K D 43	(19.2) (13.7) — 2.2	不明	—	全面縦位指ナデ。 端縁ヘラケズリ。	正格子	押印「様」あり。	端面一面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色～淡灰色。 胎土やや粗雑。海綿状骨 針混入。
137-2 — K D 46	(25.9) (14.8) — 2.1	粘土板	21×21	側縁・挟端縁ヘ ラケズリ。糸切 り痕あり。	縄目 18本	側面・挟端面1面ヘ ラケズリ。	やや軟質。黄灰色・淡灰 色。胎土粗雑。砂粒多い。	
137-3 — K D 47	(15.1) — (12.6) 2.3	粘土板	20×20	側縁・広端縁を 3cm幅のケズリ を加える。糸切 り痕あり。	正格子	側面2面、広端面1 面ヘラケズリ。ワ ラ状痕あり。	硬質。灰色・暗灰色。胎 土緻密。海綿状骨針。粗 砂粒少量。	
137-4 63 K D 48	(27.1) — — 1.6	粘土板	22×23	横骨痕、糸切り 痕あり。側縁ヘ ラケズリ。	縄目	側面1～2面ヘラケ ズリ。	硬質。暗褐色・暗茶褐色。 胎土粗雑。砂粒多い。海 綿状骨針混入。	
137-5 — K D 49	(24.6) (10.9) — 1.6	粘土板	21×24	横骨痕、糸切り 痕あり。横骨痕 を縦位ヘラで消 す。側縁・挟端 縁ヘラケズリ。	縄目	側面1ヘラケズリ後、 ナデ。挟端面1面ヘ ラケズリ。	硬質。暗灰色・黒灰色。 胎土粗雑。砂粒多い。海 綿状骨針混入。	
137-6 — K D 50	(15.1) — — 2.8	不明	21×25	—	斜格子	欠損。	軟質。黄褐色～赤褐色。 胎土緻密。砂質。	
138-1 — K D 121	(16.2) 6.0 — 2.1	不明	25×24	側縁・挟端縁ヘ ラケズリ。	斜格子	側面・挟端面1面ヘ ラケズリ。	硬質。灰色。胎土やや粗 雑。砂粒を多く含む。	
S I 749住居 埴 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 挟端 厚さ	成・整 形 の 特 徴				備 考		
		素 材	上 面		側 面			
			指ナデ調整。縁を面取り する。		指ナデ調整 (ヘラ調整 後か?)。ヘラ書き 「中」あり。			
138-3 71 K H 02	(15.3) (15.8) (4.9)	粘土板?	指ナデ調整。縁を面取り する。		指ナデ調整 (ヘラ調整 後か?)。ヘラ書き 「中」あり。		硬質。灰色。胎土やや緻密。 粗砂粒多く、海綿状骨針混入。	
138-2 63 K H 03	28.1 17.3 8.8	不明	ヘラ調整。縁を面取りす る。		ヘラ調整。縁を面取り する。		軟質。淡黄褐色・暗灰色・暗褐 色。胎土緻密。	

第60表 歴史時代遺物一覧表 (10)

S I749住居 鉄製品 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考	
138-4 63 MM03	釘	S I749 電	無頭形	全長6.9 幅0.5 厚0.5 重 さ6.8	完形		
S I750住居 土 器 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色	備 考
138-5 — PH20	土師器 台付甕	電線覆上	— 9.5	裾広がり	脂頭オサエ→横ナデ	細砂少 良好 灰黄色～黒色	脚台部残 底径は脚台部径
S I750住居 女 瓦 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整形の特徴				胎 土 焼 色	備 考
		素 材	凹 面 布 目	凸 面 特 徴	端 面 特 徴		
138-6 69 KD52	(8.5) — 1.8	粘土板	12×24	押印「文」あり	罫目 1.8本	欠損。	やや軟質。淡灰色。胎土 緻密粗砂粒少量。海綿状 骨針混入。
S I750住居 鉄 製 品 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考	
138-7 63 MM05	釘	S I750 覆上	折頭形 頭部方形	全長(8.4) 幅0.7 厚0.76 重さ16.7	先端欠		
138-8 63 MM04	釘?	S I750 床面直上	棒状	全長(5.4) 幅1.0 厚0.9 重さ13.8	両端大きく欠 大型釘か工具の一種		
138-9 63 MZ05	掛金!!?	S I750 覆上	フック状 掛部と基部の境目 あり	全長2.1 幅0.4 厚0.3 重 さ1.2	基部先端を欠くがほぼ完形		
S I751住居 土 器 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色	備 考
138-10 63 PH21	土師器 坪	中内 覆上	115.1 5.1 (8.2)	体部内湾	外面ヘラケズリー→丁寧なヘラ ミガキ 内面ナデ→ヘラミガキ	細砂少 良好 赤褐色～黒褐色	1/2強残
138-11 — PK19	須恵器A 壺	覆上	— (15.2)	底深 底径大	ロクロ左回転	細砂・雲母多 良好 灰色	底部1/2残 高台部・胴部内外の一 部にタール付着
138-12 63 PL15	土師器上層 皿	覆上	10.0 2.4 5.5	胴部張る	ロクロ右回転	細砂多 良好 淡黄褐色	口縁部一部欠けほぼ完形
S I751住居 女 瓦 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整形の特徴				胎 土 焼 色	備 考
		素 材	凹 面 布 目	凸 面 特 徴	端 面 特 徴		
139-1 71 KD53	(16.7) (6.7) — 2.4	粘土板	20×26	端部わずかにナ デ。糸切り痕あり 「ヘラ」書き 「花」あり。	罫目 19本	端部一面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色。胎土粗雑。 砂量多く1cm弱の小石混 入。
S I749住居 埴 輪 一 覧							
図面番号 国版番号 遺物番号	長辺 短辺 厚さ	成・整形の特徴				備 考	
139-2 — KH04	5.6	素 材	上 面	下 面	側 面	やや軟質。暗褐色。胎土粗雑。 粗砂粒多い。	
		粘土塊?	表面わずかに凹む。	ナデ調整 (ヘラケズリ 後か?)	上面と同じく凹む。		

第61表 歴史時代遺物一覧表 (11)

S I 751住居 鉄 製 品 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考		
139-3 63 MM06	釘	S I 751 覆土	折頭形 頭部長方形	全 長(5.4) 0.9	幅1.0 厚 重さ5.4	完形 頭部叩いて薄くして折り曲げる		
S I 752住居 土 器 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考	
139-4 — P H 23	土師器 甕	覆土	(20.0) —		外面口縁部ヨコナデへ横へう ケズリ 内面横へうケナデへハケを消す	細砂少 良好 外黒へ茶色 内茶色	1/4割残	
139-5 63 P H 22	土師器 埴	覆土	14.8 6.5 6.1	逆「ハ」字状に開く	外面黒いへうミガキ痕がある が不明 内面雑だがへうミガキが密に 施され光沢を持つ	細砂多 良好 黒色 高台暗赤褐色	口縁部約1/2欠 高台部以外の内外面黒 色処理	
139-6 63 P K 20	須恵器A 杯	床面直上 覆土	12.8 3.9 5.3	口縁部肥厚	ロクロ右回転	細砂少 精選 良好 灰白色	完形 体部内外面同一箇所に タール付着	
139-7 63 P K 21	須恵器A 杯	覆土	13.2 4.3 4.5	口縁部肥厚	ロクロ右回転	細砂多 良好 灰色	口縁部の一部欠	
139-8 — P K 22	須恵器A 杯	床面直上 覆土	(13.5) 4.7 (5.0)	器壁薄い	ロクロ右回転	細砂多 良好 灰色	1/3残	
139-9 — P K 23	須恵器 杯A	床面直上 覆土	(13.4) 4.7 4.8		ロクロ右回転	細砂多 良好 灰色	口縁部へ体部1/4・底部 1/2残	
139-10 64 P K 24	須恵器B 杯	電 床面直上 覆土	12.7 4.4 5.2	口縁部肥厚	ロクロ右回転	細砂多 良好 暗褐色へ黒褐色	2/3残	
139-11 — P K 25	須恵器B 杯	覆土	(14.0) 4.5 (5.0)	口縁部外反	ロクロ右回転	細砂多 良好 灰色へ淡赤褐色	1/4割残	
139-12 — P K 26	須恵器A 杯	電 覆土	13.2 — —	体部内湾	ロクロ右回転	細砂少 良好 灰白色	口縁部へ体部1/2強残	
139-13 64 P K 27	須恵器A 大甕	覆土	— — —	底部やや丸み	外面叩き痕	細砂少 良好 灰白色	胴部・底部片 同一胴体3点 内面に 非常に薄く赤色顔料の 痕跡 転写痕あり	
140-1 — P K 28	須恵器A 大甕	床面直上 覆土 周溝	(19.8) — —	頸部外傾 先端付 近でさらに小さく 折れ曲がる 肩部 張る 器壁薄い	外面ロクロナデ 内面当て具の凹凸面著 基部付け根と胴部上端に接合 痕	精選 きめ細かい 微量の粗砂・小石混 じる 非常に良好 灰色	肩部から上1/4残 接合しない破片の各部 位から図上復元 肩部に自然釉 酸化	
140-2 64 P N 03	灰釉陶器 皿	床面直上	(14.0) 2.8 7.0	口縁部端外反	ロクロ右回転 底部回転へうケズリ	細砂・黒色粒子少 良好 灰白色	1/2割残 体部内外施釉 白色へ 淡黄緑色	
S I 752住居 男 瓦 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 側端 広端 厚さ	成・整形の特徴					備 考	
		素材	凹 面		凸 面			端 面 特 徴
			布目	特 徴	叩き	特 徴		
140-3 70 K C 37	(7.4) — 1.6	粘土組	26×28	粘土組接合痕あり。	叩き	側面から横位ナデ 調整し、さらに、一 部縦位ナデ。へう書 き「父」あり。	やや硬質。淡灰色へ淡黄 灰色。粘土微塵で砂粒を 少量含む。海綿状骨針混 入。	
S I 752住居 女 瓦 一 覧								
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 側端 広端 厚さ	成・整形の特徴					備 考	
		素材	凹 面		凸 面			端 面 特 徴
			布目	特 徴	叩き	特 徴		
140-4 — K D 57	(19.4) (7.9) — 1.7	粘土組?	17×14	無調整。	側目 18本	側縁ナデ。	側面・狭端面ナデ。 軟質。赤褐色。粘土やや 粗粒。粗砂粒混入。	
140-5 70 K D 58	(22.1) — (15.2) 2.3	不明	17×22	側縁・広端縁む すかにナデ。側 面文字「玉」? あり。	側目 13本	側縁ナデ。	側縁2条の指ナデ。 広端面1面へうケズ リ。広端面ワラ状痕 有り。	

第62表 歴史時代遺物一覽表 (12)

S 1752住居 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴						備 考	
		素 材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
140-8 — KD59	(16.0) 25.9 — 1.9	不明	16×16	側縁・伏端緑ヘ ラケズリ。	端 19本	特になし	側面・伏端面1面ヘ ラケズリ。	硬質。暗灰色・黒灰色。 胎土緻密。細砂粒多い。	
S 1752住居 埴 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	長辺 短辺 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素 材	上 面		下 面			側 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
140-7 — KH05	(23.2) (9.0) — 5.5	粘土塊		ヘラケズリ。		ヘラケズリ。 粘土塊を3層ほどにわ けて成形する。	ヘラケズリ。	硬質。灰色。胎土粗雑。小石 を多量に含む。海綿状骨針を 混入。	
140-6 — KH06	(10.5) 16.5 — 5.6	粘土塊		ヘラケズリ後、ナデ調整。		ヘラケズリ後、ナデ調 整。	ヘラケズリ後、ナデ調 整。	粘土塊からなる層が3層ある。 硬質。灰色・暗灰色。胎土粗雑。 砂粒多い。	
S 1754住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	輪 器	別 形	出 土 位 置	口 器 底 径	器 形 の 特 徴	成・整 形 ・文 様 の 特 徴		胎 土 土 成 調	備 考
						成・整 形 ・文 様 の 特 徴			
141-1 64 P K29	須恵器A 坪	覆上		15.5 5.8 6.2	11縁部やや肥厚外 反	ロクロ右回転 糸切り		精選 小石少 良好 灰白色～灰黒色	完形 体内外面に「卍」様書
141-2 64 P K30	須恵器A 坪	覆上		12.8 4.2 5.8	11縁部やや肥厚	ロクロ右回転 糸切り		細砂・小石少 不良 灰白色～灰黒色	1/2割残
141-3 — P K31	須恵器A 坪	床面直上		12.6 3.7 (5.4)	11縁部やや肥厚	ロクロ右回転 糸切り		細砂多 良好 灰黒色～暗紫色	1/2割残
141-4 64 P K32	須恵器A 坪	覆上		12.5 4.1 5.0	11縁部やや肥厚外 反	ロクロ右回転 糸切り		細砂少 やや軟質 灰色～灰黄色	1/3残 体内部面施釉 やや透 明感のある黄緑色
141-5 — P N04	灰輪陶器 甕	甕		14.0 4.2 (6.4)	体部内湾 口縁部 端外反	ロクロ右回転 糸切り 底部回転ヘラケズリ		精選 黒色粒子微 良好 灰白色	1/4残
141-6 — P N05	灰輪陶器 甕	甕		16.0 — —	体部内湾 口縁部 端外反	ロクロ直削書		細砂少 良好 灰色	口縁部～体部1/5残 体部内外面施釉 深緑 色で気孔多い
S 1754住居 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴						備 考	
		素 材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
141-8 — KC39	(22.9) (13.6) — 1.9	粘土紐	24×28	伏端緑・側縁ヘ ラケズリ。	—	縄叩き後、横位ヘラ 調整。縦位・斜位にナ デ調整。側縁ヘラケ ズリ。	伏端面ナデ。	硬質。灰色。胎土緻密。 砂質。やや微密。海綿状 骨針混入。	
141-7 — KC43	(35.3) (20.4) — 1.0	粘土紐	16×18	無調整。	—	縄叩き後、横位ヘラ 調整し、特に上半部 は縦位にナデ調整を 加える。	側面1面ヘラケズリ。 広端面ナデ。広端面 にワラ状痕あり。	軟質。褐色・橙褐色・灰 褐色。胎土やや粗雑。	
S 1754住居 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴						備 考	
		素 材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
142-1 — KD63	(23.8) (13.8) — 2.4	粘土紐	16×18	端縁のみ面取り。 その他無調整。	端目 19本		端面1面ヘラケズリ。	軟質。橙褐色・暗黄褐色。 胎土緻密。海綿状骨針混 入。	
142-2 — KD65	(32.6) (5.6) — 2.5	粘土板	24×28	側縁・伏端緑ヘ ラケズリ。粘土 紐接合痕あり。	端目 19本	側縁ナデ。	側面ヘラケズリ後ナ デ。伏端面ヘラケズ リ。	硬質。暗灰色。胎土粗雑。 砂粒・粗砂粒多い。砂質。	
142-3 — KD66	(16.1) — — 2.5	不明	22×24	側縁ヘラケズリ。	斜格子		側面1面ヘラケズリ。	軟質。胎土粗雑。粗砂粒 を多く。1cm弱の小石混 入。	

第63表 歴史時代遺物一覧表 (13)

S I 754住居 女 瓦 一 覧

図面番号 図版番号 遺物番号	全長 挟端 広端 厚さ	素材	成・整 形 の 特 徴				備 考	
			凹 面		凸 面			
			布目	特 徴	叩き	特 徴		
142-5 — KD67	(20.7) — (18.5) 2.5	粘土紐	16×18	側面2面ケズリ。 端縁わずかにナデ。 粘土紐接合痕あり。	縦目 1.7本	一条の棒状圧痕あり。 側・端面とも1面ヘラケズリ。	硬質。灰色・暗灰色。胎土粗雑。砂粒多く混入。	
142-4 — KD68	(14.1) — 1.8	不明	17×16		斜格子	欠損。	やや硬質。淡灰色。胎土緻密。粗砂粒少量混入。	
143-1 — KD70	(8.0) — 2.9	不明	—	全面的に横位ヘラケズリ。押印「匠」あり。	斜格子	側面1面ヘラケズリ。	やや軟質。淡黄灰色。胎土やや粗雑。粗砂粒少量。1～2cmの小石混入。	
143-2 — KD71	(10.2) (12.4) — 2.2	粘土紐	19×18	端縁ヘラケズリ。	正格子	端面1面ヘラケズリ。	やや硬質。灰色・黄灰色。胎土やや粗雑。粗砂粒多い。海綿状骨針混入。	
143-3 — KD73	(24.0) (12.1) — 2.6	粘土板	16×17		壓印文字「匠」		硬質。暗灰色・黒灰色。自然釉付着。胎土やや粗雑。砂粒を多く、1cm弱の小石混入。	
143-4 — KD127	(14.3) (6.1) — 1.9	不明	17×18	端縁ヘラケズリ。 判読不明のへう書きあり。	縦目 1.8本	端面1面ヘラケズリ。	やや軟質。淡灰色～淡黄灰色。胎土やや粗雑。粗砂粒少量。海綿状骨針混入。	

S I 754住居 鉄 製 品 一 覧

図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法	備 考
143-5 64 MZ06	鍍金具	S I 754 覆土	「コ」字形 側面は幅広で薄くなる。 両側に目釘孔2孔	全長4.7 外幅30 内幅1.8 側幅1.5 厚0.3 目釘穴径0.4 重さ15.8	先端の一部を欠くがほぼ完形 片側が押し開かれて いる 左右の断面異なるのは鋸のせい

S I 755住居 土 器 一 覧

図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 器 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 流 色	備 考
143-6 — PK49	須恵器A 杯	覆土	(12.0) 3.9 (4.8)	体部内湾 口縁部外反	ロクロ右回転 糸切り	胎土粗砂少 良好 灰色～淡赤黄褐色	体部1/4、底部1/2割残
143-7 — PK50	須恵器A 杯	電	— 5.0		ロクロ右回転 糸切り	精選 細砂少 やや軟質 灰白色	体部下位～底部残

S I 755住居 男 瓦 一 覧

図面番号 図版番号 遺物番号	全長 挟端 広端 厚さ	素材	成・整 形 の 特 徴				備 考	
			凹 面		凸 面			
			布目	特 徴	叩き	特 徴		
143-8 — KC47	(10.4) — (3.6) 1.3	粘土紐	25×23	側縁わずかにナデ調整。	—	側面・広端面ナデ。 広端面ワラ状圧痕。	やや軟質。淡灰色・黄灰色。胎土やや緻密。粗砂粒少量。	

S I 755住居 女 瓦 一 覧

図面番号 図版番号 遺物番号	全長 挟端 広端 厚さ	素材	成・整 形 の 特 徴				備 考	
			凹 面		凸 面			
			布目	特 徴	叩き	特 徴		
143-9 — KD74	(9.0) — 2.1	不明	14×15	一部ナデ。	縦目 1.8本	側面ナデ（ヘラケズリ後？）。	軟質。暗赤褐色。胎土やや粗雑。	

第64表 歴史時代遺物一覧表 (14)

S I 756住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	器 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色	備 考		
144-1 64 P K 33	須恵器 B 杯	腹土	13.2 4.4 5.5	口縁部小さく外反	ロクロ右回転 糸切り	細砂・黒色粒子少 良好 赤褐色	完形		
144-2 64 P K 34	須恵器 A 杯	貯蔵穴 腹土	13.9 4.9 5.1	口縁部小さく外反	ロクロ右回転 糸切り	細砂少 やや軟質 灰白色	口縁部～体部1/8欠 内面ヨレ顕著		
144-3 — P K 36	須恵器 A 杯	貯蔵穴 —	— — 5.3	深い上底	ロクロ右回転 糸切り	細砂・赤色粒子少 やや軟質 外黄白色 内灰黒色	口縁部欠		
144-4 — P K 51	土師質上器 杯	貯蔵穴 床面直上 腹土	(14.2) — —	口縁部肥厚	ロクロ右回転	細砂多 赤色粒子少 良好 暗茶褐色	口縁部～体部2/3残		
144-5 — P K 36	須恵器 A 甕	電 貯蔵穴 —	(41.8) — —	口縁部大きく開く	口縁部ヨコナデ	細砂多くざらつく 良好 灰色	口縁部1/5強残		
144-6 — P N 06	灰釉陶器 甕	電	— — 8.6	体部内湾	底部回転ナデ	細砂少 黒色粒子多 良好 灰白色	底部～体部下位縁 体部内面亀裂 淡緑色 外面高台まで釉が1筋 垂れる		
S I 756住居 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏端 広端 厚さ	成 ・ 整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			特 徴
144-7 64 K D 75	(25.4) — 24.2 2.1	不明	20×16	圓縁・広端縁ヘ ラケズリ。	圓目 L10本	離れ砂付着。	側面・狭端面ヘラケ ズリ。	軟質。黄灰色・黄褐色。 胎土微黄。細砂粒混入。	
144-8 — K D 76	(21.1) — (10.3) 1.6	粘土組	17×21	無調整。	圓目 L9本	無調整。	側面・端面指ナデ (ヘ ラケズリ後?)。	暗灰色・暗灰褐色。胎土 やや粗雑。砂粒を多く含 む。	
146-1 70 K D 77	(23.5) (15.5) — 2.2	不明	19×18	圓縁・狭端縁ナ デ 模合文字 (印) あり。	圓目 L14本	圓縁・狭端縁ナデ調 整。	側面・狭端面1面ヘ ラケズリ。	やや軟質。黄灰色・灰色。 胎土やや粗雑。砂粒多く 粗砂粒少量。	
145-1 69 K D 78	(26.6) — (23.7) 2.5	粘土板	21×25	圓縁・広端縁ヘ ラケズリ。糸切 り痕あり。押印 (瓦) あり。	圓目 L9本	圓縁ナデ。	側面・広端面1面ヘ ラケズリ。広端部開 裂し。	硬質。自然釉付着。黒灰 色・暗灰色。胎土やや微 密。	
145-3 65・71 K D 79	40.7 (12.8) (16.2) 2.4	粘土組	19×20	無調整。割説不 明ヘラケズリ。割 説不明朱塗書 (寄?) あり。 粘土組接合痕あ り。	圓目 L10本	圓縁ナデ。	側面・広端面・狭端 面1面ヘラケズリ。 広端面にワラ状痕あ り。	硬質。暗灰色。胎土粗雑。 砂粒多い。	
145-2 70 K D 80	(19.5) (7.8) 1.3	粘土組	22×26	無調整。粘土組 接合痕あり。割 説不明模合文字 あり。	圓目 L9本	無調整。	端面1面ヘラケズリ。	硬質。淡灰色・灰色・暗 灰色。胎土粗雑。砂粒多 く、1cm前後の小石混入。	
S I 756住居 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
146-2 64 M H 01	刀子	S I 756 腹土	両端	全長(8.6) 刃部長3.9 刃部幅 1.0 背厚0.3 基部長(4.6) 基 部幅0.7 基部厚0.2 重き7.2		基部先端欠			
146-3 64 M M 07	釘	S I 756 腹土	折頭形 頭部不整形	全長(5.2) 幅0.6 厚0.5 重き 6.3		先端欠			
146-4 — M Z 08	不明鉄製品	S I 756 腹土	塊状 断面長方形	全長22.1 幅0.4 厚0.3 重き1.2		両端欠			

第65表 歴史時代遺物一覧表 (15)

S I 757住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考	
146-5 65 P H 25	土師器 杯	覆土	12.7 4.1 6.2	体部直線的に開く	口縁部から内面ヨコナデ 体部外面指オサエ	細砂少 やや軟質 外黒褐色 内灰黒色		3/4残	
146-6 — P K 37	須恵器A 杯	覆土	— — 6.5	低高台	口クロ調整	細砂多 黒色粒子少 良好 灰色		底部～体部1/2残	
146-7 — P K 38	須恵器A 甕	覆土	— — —			細砂多 良好 灰色	粗砂少	内面磨られて滑らか 側縁三面磨って整える 転用	
146-8 65 P L 16	土師質土器 碗	覆土	15.5 6.4 6.6	体部小さく内湾し ながら開き口縁部 で小さく外反 高台内面に残	口クロ右回転	精選 粗砂少 良好 黄褐色		口縁部1/4欠 口縁部～体部内面にター ル付着	
146-9 — C A 01	灰釉陶器 陶甕 (転用甕)	覆土	— — (8.8)		底部回転ヘラケズリ 口クロ左回転	細砂多 良好 灰色	粗砂少	底部1/2強残 内底面全面に黒灰 重ね 焼き灰の剥がれも磨り 減っている 施釉範囲不 明	
S I 757住居 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴					備 考		
		素 材	凹 面		凸 面			端 面	
			布 目	特 徴	叩 き	特 徴			
146-10 — K C 52	(25.6) — 1.4	粘土紐	19×19	側縁ヘラケズリ	—	側面叩き後、横位へラ 調整。側縁ヘラケズ リ	側面1面ヘラケズリ	硬質。暗灰色。胎土微黄。 粗砂粒少量。黒色粒目立 つ。	
S I 757住居 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
147-1 65 M X 01	板状鉄製品	S I 757 覆土下層	銅底状 緩やかにカーブす る	最大長(8.4) 最大幅(6.1) 厚 1.0～0.7 重さ(234.0)		破片 厚いが銅釜の蓋か X線写真で底部に直径2mmの小孔が確認されてい る			
S I 758住居 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器 形 の 特 徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考	
147-2 65 P H 26	土師器 杯	貯蔵穴	15.0 6.3 8.0	口縁部へたる	外面指オサエ2段 内面ナデ 高台ヨコナデ	細砂多 ざらつく 良好 赤褐色		口縁部1/4強欠 口縁部内面内周の1/3に 硬付着 黒灰	
147-3 65 P K 39	須恵器A 碗	貯蔵穴 床面直上	16.6 (13.0) 7.6	高台から口縁部 にかけて真直ぐ開く	口クロ右回転	精選 やや軟質 灰白色		高台欠 高台欠後も割れ口を磨 って使用 黒灰	
147-4 65 P L 17	土師質土器 杯	床面直上	11.4 4.3 5.4	体部ほぼ直線的に 開く	口クロ右回転	精選 良好 外赤褐色 内灰黒色		口縁部1/2弱欠 口縁部～底部外面離らに タール付着 内面痕痕状 の剥れ	
147-5 65 P L 18	土師質土器 杯	床面直上	12.2 4.4 6.2	体部小さく内湾し ながら開き口縁部 で小さく外反	口クロ左回転	細砂少 良好 赤褐色		口縁部一邵欠 ほぼ完形	
147-6 — P L 19	土師質土器 碗	覆土	— — 9.3	高台登付部凹む	口クロ右回転	細砂多 黒色粒子微 良好 外黄褐色 内灰黒色		体部中位～口縁部欠 内面ヨゴレ顯著	
S I 758住居 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
147-7 65 M M 08	釘	S I 758 掘方	無頭形 断面方形	全長(5.3) 幅0.5 厚0.4 重さ 3.3		先端欠			

第66表 歴史時代遺物一覧表 (16)

S I 765住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 部 径 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色 土 成 調	備 考			
147-8 65 P K 40	須恵器A 杯	甕土	12.2 3.7 4.6	少しへたる	ロクロ回転 糸切り	細砂多 良好 外灰色 内黄灰色	完形 外面体部中位以下と底 部面周縁後僅付着			
147-9 66 P K 41	須恵器B 杯	甕土	12.7 3.9 4.6	口縁部外反	ロクロ回転 糸切り	細砂・赤色粒子多 良好 赤褐色	口縁部一部欠くがほぼ 完形 外面面位「大」黒書 体部内面正位「大」黒書			
S I 765住居 宇 瓦 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	上弦弧幅 下弦弧幅 弧深 厚さ	内 区		外 区				備 考		
		厚さ	文様	上		下				
				厚さ	文様	厚さ	文様			
147-10 66 K B 02	(9.0) (8.5) — 5.9	1.5	均正唐草文	0.5	素文	0.9	素文	2.7~1.7		
S I 765住居 鉄 製 品 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考				
147-11 66 M Z 09	鋼餅	S I 765 甕土	反りあり 断面角の丸い三角 形で内側やや凹む	全長5.8 幅2.6 厚2.0 重さ45.9		小型 表面の一部に赤色顔料付着 本体との接面での突起跡か				
S I 767住居 土 器 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 部 径 底 径	器形の特徴	成・整形・文様の特徴	胎 土 焼 色 土 成 調	備 考			
148-1 66 P H 28	土師器 甕	甕 貯蔵穴 甕土上層	— — —	口部から底部に向 けて急遽に窄まる 口部部端凹む	口縁部ヨコナデ→胴上部 横ヘラケズリ→胴下平 ヘラケズリ 内面ナデ	細砂少 良好 黒褐色 一部赤褐色	口縁部→胴部2/3残			
148-2 66 P H 31	土師器 甕	甕	21.8 — —	全体に歪み強い	口縁部ヨコナデ→胴上部 から横ヘラケズリを3段 施す 内面ナデ 凹凸顯著	粗粗砂多 良好 灰黄褐色→黒褐色	胴部1/6と底部欠			
148-3 — P H 29	土師器 甕	甕 甕土上層	— — —	小さな底部から膨 らみながら胴中位 へ開く	縦ヘラケズリ→斜めヘ ラケズリ	粗粗砂多 赤色粒子 良好 灰黄褐色	口縁部・胴上位・底部欠			
148-4 — P H 30	土師器 甕	甕	— — 4.2	小さな底部から膨 らみながら胴中位 へ開く	縦ヘラケズリ→斜めヘ ラケズリ 内面縦位の隆起	細砂多 良好 黒色 底部黄白色	底部のみ残			
148-5 66 P H 27	土師器 杯	貯蔵穴	(12.0) 4.3 (4.8)	体部下端横ヘラケズリ 上部指オサエ 輪横紋顯著	体部下端横ヘラケズリ 上部指オサエ 輪横紋顯著	細砂多 良好 赤褐色	1/2弱残			
148-6 — P L 20	土師器上層 塊	甕土上層	— — (8.6)	高台側広がりが	ロクロ調整	細砂微 精選 良好 灰黄褐色	高台部1/4強・体部一部残 体部内面上位黒度			
S I 767住居 男 瓦 一 覧										
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 側面 弧幅 厚さ	成 ・ 整 形 の 特 徴					備 考			
		素材	凹 面		凸 面					端 面
			布目	特 徴	叩き	特 徴				特 徴
148-7 70 K C 76	(5.0) — (15.0) 1.7	粘土板	18×19	広端縁ヘラケズリ	—	縦位ナデ。ヘラ書き 「力」?あり。	広端面2面ヘラケズリ。	硬質。青灰色・黒灰色。 胎土緻密。細砂粒混入。		
148-7 — K C 78	(11.1) (11.1) 2.1	不明	—	広端縁ヘラケズリ 全面斜位に ナデ調整。	—	平行叩き後、ナデ調 整。側縁ヘラケズリ。	側面1面。広端面2 面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色・青灰色・ 黒灰色。胎土やや粗粒。 粗砂粒少量。1 cm弱の 石混入。		

第67表 歴史時代遺物一覧表 (17)

S I 767住居 女 瓦 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整形の特徴				備 考	
		素材	凹 面		凸 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴
149-1 66 K D 134	(12.1) — (10.2) 2.2	不明	22×22	無調整。底背文字「上」(逆字)。 縄目L11本		側面・広端面1面ヘラケズリ。	軟質。灰色・淡灰色・黄灰色。胎土緻密。
149-2 70 K D 135	(10.1) — 2.2	粘土紐?	16×18	側縁・広端縁ナデ。底背文字「中」。判読不明朱書きあり。 縄目L9本	一部ナデ。	側面1面ヘラケズリ。	硬質。灰色。胎土緻密。小石混入。
148-9 — K D 136	(20.3) — (8.2) 2.5	粘土紐	24×18	無調整。 縄目L12本	側縁・広端縁わずかにナデ。	側面・広端面ナゲ調整。	硬質。黒灰色。粗雑。砂粒多量。
149-3 71 K D 138	(14.8) — (10.3) 2.3	粘土紐	28×39	側縁・広端縁ヘラケズリ。判読不明のヘラ書きあり。 縄目L10本		側面・広端面1面ヘラケズリ。	硬質。灰色。胎土粗雑。小石含む。
149-5 — K D 139	(13.7) — 2.7	不明	21×21		斜格子	欠損。	軟質。橙褐色。胎土粗雑。砂粒多く含む。
149-4 — K D 141	(14.7) — (7.8) 2.5	不明	25×22	側縁・広端縁ヘラケズリ。 縄目L10本		側面・広端面1面ヘラケズリ。	やや軟質。黄灰色。胎土粗雑。海綿状骨針混入。
S D 383溝 青 銅 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法		備 考	
150-1 66 M G 04	板状	E M 68 覆土	不整形	長3.6 幅2.3 厚さ0.4 重さ14.0	板状完形 銅厚か大きく波打ち1mm以下の気孔が少数あり		
S D 384溝 鉄 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法		備 考	
150-2 66 M M 10	釘	S D 384 覆土	逆「し」字形 頭部側断面長方形 断面方形	全長 (4.6) 幅0.6 厚0.3 重さ2.8	頭部欠 頭部側折り曲げ 板目の木質付着 他に一括出土した3点の釘小片あり		
150-3 66 M M 11	釘	S D 384 覆土	断面長方形	全長 (3.6) 幅0.7 厚0.4 重さ2.5	頭部欠 何本かの釘を打ち付ける 板目の木質付着 他に3本あり。計測は最大長のみ		
150-4 — M M 09	釘	S D 384 覆土	頭部楕円形	全長 (4.0) 幅0.3 厚0.3 重さ1.6	先端欠		
150-5 66 M Z 10	不明鉄製品	S D 384 覆土	棒状	全長(11.9) 幅0.4 重さ2.4	接合しない同一個体片3片 全長・重さは合計数 薄い鉄板を畳み込んで棒状にする		
S D 384溝 青 銅 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法		備 考	
150-6 67 M G 05	針金	S D 384 覆土	折れ曲がる	長(16.3) 直径0.2 重さ3.0	両端切り落とされる		
S K 2698土坑 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 成 調 色	備 考
150-7 67 P L 21	土師質土器 杯	甕 貯蔵穴 覆土上層	— — —		ロクロ調整	精選 軟質 灰黄赤褐色	体部片 内面に焼成前の刻書「上」
150-8 67 P N 07	灰釉陶器 甕	覆土	(13.0) 2.8 (6.4)	体部内湾 口縁部 外反	ロクロ左回転	細砂・黒色粒子微 良好 灰色	1/3強残 内外面に漆状皮膜的に

第68表 歴史時代遺物一覧表 (18)

S K2698土坑 鉄 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考	
150-9 — MZ11	不明鉄製品	S K2698 覆土	棒状 断面方形	全長(2.9) 1.7	幅0.4 厚0.4 重さ	両端欠	
S K2699土坑 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径 器 形	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考
150-10 — P K42	須恵器A 杯	覆土	— 5.2	体部下位膨らみ	ロクロ右回転 糸切り	細粒砂多 良好 灰黒色	体部へ底部3/4残
150-11 67 P L22	土師質土器 甕	覆土上層	11.8 2.9 4.8	体部へ口縁部縁や かに内湾	ロクロ右回転 糸切り	赤・黒色粒子多 ざら つく 軟質 底黄赤褐色	口縁部一部欠ほぼ完形
150-12 — P L23	土師質土器 杯	覆土	11.0, 8.3 (6.2) 3.2	体部へ口縁部逆 「ハ」字状に開く	ロクロ右回転	細粒少 良好 赤褐色	口縁部へ底部1/4残
150-13 — P L24	土師質土器 甕	覆土	— (8.0)		ロクロ調整	精選 良好 淡黄褐色	体部下位へ高台部1/3残
S K2699土坑 鉄 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考	
150-14 67 MY01	鉄洋	S K2699 覆土	桶形洋 不整形円形	最大径66.6	厚2.3 重さ73.8	完形。灰赤褐色。上面は流動的で気孔が少なく小 孔を噴む。下面は気孔が多く瘤状をなす。乾状 の小突起が観察され、下面に多い。上面に弱い磁 性あり。下面に一部スサ入り粘土付着。	
S K2703土坑 鉄 製 品 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考	
150-15 67 MJ02	鎌	S K2703 覆土	曲刃鎌	全長12.8	刃幅2.4 背厚0.3 重 さ44.4	完形	
S K2707土坑 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径 器 形	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考
150-16 — P L25	土師質土器 杯	覆土上層	— — —	口縁部小さく外反	ロクロ調整 内面黒色処理ヘラミガキ 顕著	細粒少 良好 外黄白色 内黒色	口縁部片 体部外面に逆位で「卒」 の黒書
S K2739土坑 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径 器 形	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考
150-17 — P Q01	青磁 甕	覆土上層	— — —	体部小片		堅緻 灰色	胎調オリープ色 縁部弁文 13世紀中葉から14世紀前半 鹿泉窯 破片美調
S K2756土坑 土 器 一 覧							
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径 器 形	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考
150-18 — P H32	土師器 杯	覆土	11.3, 8.3 4.2 (5.6)		体部ヘラケズリ	細粒少 良好 黒褐色	口縁部へ体部1/4残
150-19 67 P L26	土師質土器 甕	覆土	— 7.0	高台先尖り	ロクロ右回転	細粒少 雲母目立つ 良好 外暗褐色 内黒色	口縁部へ体部1/4残 底部と体部に焼成後大小 の寄孔 体部内面黒色処理 煤付着

第69表 歴史時代遺物一覧表 (19)

S K2756土坑 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整形の特徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴			特 徴
150-20 70 K C62	(6.1) — 1.2	不明	27×33	割説不明へう書きあり。	—		欠損。	硬質。暗灰色・黒灰色。胎土緻密。	
S K2756土坑 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法			備 考		
150-21 67 M Z13	鍬	S K2756 覆土	両端尖る。	全長9.3 幅0.5 厚0.5 重さ7.5			完形 上半に木質の痕跡		
150-22 — M Z14	不明鉄製品	S K2756 覆土	棒状 断面長方形	全長(2.0) 幅0.4 厚0.2 重さ0.7			両端欠		
150-23 — M Z15	不明鉄製品	S K2756 覆土	棒状 断面円形	全長(1.0) 径0.4 重さ0.3			両端欠		
150-24 67 M Y03	鉄洋	S K2756 覆土	桶形洋 不整三角形	最大長5.0 最大厚3.0 重さ31.3			完形。灰茶褐色。上面は大小の気孔が多いがやや流動的。下面は気孔がさらに多く、一部にガラス質化した充塞した黒色部が見られる。比重軽く磁性なし。		
150-25 67 M Y02	鉄洋	S K2756 覆土	桶形洋 多角形	最大長3.8 最大厚2.1 重さ48.3			破片。周縁打ち欠きのため元の形状不明。上面灰茶褐色でやや流動的。下面茶褐色で薄く粘土付着。気孔1mm前後で少ない。洋下側に鋸状面が最大厚0.9cmある(斜線部)。磁性弱。比重重い。		
150-26 67 M Y04	鉄洋	S K2756 覆土	鉄洋 不整形	最大長2.0 最大厚1.3 重さ2.7			破片。灰黒色～茶褐色。大小の気孔多い。側面に粘土付着。非常に軽く、磁性なし。		
150-27 67 M Y05	鉄洋	S K2756 覆土	鉄洋 不整形	最大長2.2 最大厚0.8 重さ4.6			一部欠。黒色。表面に炭に褐色錆。微細な気孔があるが表面に多い。磁性なし。		
S K2764土坑 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整形の特徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴			特 徴
151-1 70 K C59	(7.2) — (7.1) 1.7	粘土紐	22×20	粘土紐接合部を指すナデ。広端縁ナデ。	—	細叩き後、横位ナデ。広端縁ヘラケズリ。	広端面にへう書き「山」?あり。	硬質。青灰色。胎土緻密。	
S K2768土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	別 類	出土位置	口 器 底 径	器 形 的特徴	成・整形の特徴	胎 土 成 調 色	備 考	
151-2 — P K43	須恵器A皿	覆土		110.8 2.8 5.7	体部直線的に開く	ロクロ右回転 糸切り	細砂・黒色粒子少 良好 灰色	体部～底部1/2・口縁部1/12残	
S K2775土坑 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法			備 考		
151-3 67 M X02	不明鉄製品	S K2775 覆土	板状	全長(5.3) 幅2.4 厚0.5 重さ15.4			一端が折れているが、折れ口は切り落とすようにシャープ		
S K2782土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	別 類	出土位置	口 器 底 径	器 形 的特徴	成・整形の特徴	胎 土 成 調 色	備 考	
151-4 — P L27	土師質土器皿	覆土		9.13 2.9 6.3	底面丸みあり	ロクロ調整	細砂多 良好 茶褐色 内底面灰褐色	口縁部～底部1/4残	

第70表 歴史時代遺物一覧表 (20)

S K2782土坑 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整形の特徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
151-5 70 KD95	(7.8) — 2.5	不明	21×27	模印文字「上」 (逆)あり。	端目 11本		欠損。	硬質。灰色。胎土緻密。 粗砂粒少量。	
S K2792土坑 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
151-6 67 MM12	釘	S K2792 覆土	折頭 頭部台形	全長 (8.2) 12.0	幅0.8 厚0.7 重さ	先端一部欠 直角に折れ曲がる			
S K2807土坑 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
151-7 — MZ17	不明鉄製品	S K2807 覆土	棒状 先端尖る 断面方形	全長 (8.2) 12.4	幅0.8 厚0.7 重さ	先端残 釘か			
S K2813土坑 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
151-8 67 MY06	鉄片	S K2813 覆土	不整形	最大長2.7 最大厚1.2	重さ7.2	黒色を基調に赤褐色の粘土が皮膜状に付着。大小 の気孔多い。棒状突起があり粒状浮 (径4mm) 付 着。黒色部には微細な白色物質がきらきらする。 磁性なし。			
S K2837土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径 器 形 高 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考		
151-9 — TH01	土師器 土罐	覆土	(4.5) 2.3 0.7	筒状 不整形	指頭によるオサエ	きめ細かい 良好 淡黄褐色	一端折れる		
S K2839土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径 器 形 高 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考		
151-10 67 CA02	灰釉陶器 段皿 (転用説)	覆土	(16.0) 3.0 8.2	輪花	ロクロ左回転 回転糸切り	細砂微 黒色粒子少 良好 灰白色	約1/2残 体部内外薄く刷毛塗り 淡灰緑色 内底面と割れ口に赤色顔 料付着 とくに割れ口に 顕著		
S K2866土坑 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
151-11 68 MJ03	手鎌	S K2866 覆土	一端が丸く納まる	全長 (4.1) 重さ9.3	刃幅2.1 背厚0.4	跡で目釘孔が確認できないが、形状・大きさから 手鎌とした			
S K2871土坑 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径 器 形 高 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考		
151-12 68 PL30	土師質土器 碗	覆土	(12.6) 6.0 7.2	高台から腰部で小 さく膨らみ口縁部 で外反	ロクロ右回転	細砂多 きめ細かい 良好 赤褐色～黄褐色	口縁部1/4 体部1/2残 口縁部少しへたる		

第71表 歴史時代遺物一覧表 (21)

S K3013土坑 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考	
151-13 68 P L31	土師質土器 杯	覆土	(13.5) —	口縁部外反	ロクロ右回転	細砂多 良好 赤褐色		口縁部1/6強残 体部外面に正位の墨書 「内」「西」「雨」などか	
S K3013土坑 青 銅 製 品 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
151-14 MG06	銅滓	覆土	不整形 角状・粒状の突起 がつく	長さ2.6 幅1.8 厚さ0.9 重さ 10.4		完形			
S X 6道路状遺構 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考	
151-15 68 P T02	陶器 窪ね鉢	路面2～3面内	— —	裏の底部を転用		細砂微 良好 外暗赤褐色 内灰色		底部1/10残 継美重13世紀前半 破片欠損	
151-16 68 P T01	陶器 鉢	路面内	— (7.0)	底部		細砂多 良好 灰白色		底部1/5残 輪調 透明感のある淡黄 緑色 内底面メ跡 17世紀中葉 から後半	
S X 6道路状遺構 男 瓦 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成 ・ 整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
151-17 69 K C65	(8.8) — 2.0	不明	22×21			押印「埴」あり。横 位調整	欠損。	硬質。淡灰色～暗灰色。 胎土粗雑。粗砂粒多く、 海綿状骨針混入。	
S X 6道路状遺構 女 瓦 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成 ・ 整 形 の 特 徴					備 考		
		素材	凹 面		凸 面			端 面	
			布目	特 徴	叩き	特 徴			
151-18 — K D105	(7.8) — 2.3	不明	16×18	側縁ヘラケズリ。 判読不明朱墨書 あり。	縦目 L12本		無面1面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色・青灰色。 胎土緻密。粗砂粒少量。	
151-19 71 K D106	(10.6) — 2.0	不明	17×20	一条の指ナデ。 ヘリ書き「石」? あり。	縦目 L11本		欠損。	硬質。暗灰色。胎土やや 粗雑。粗砂粒少量。	
P-40小穴 土 器 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 径 底 径	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色	土 成 調	備 考	
151-20 68 P K44	須恵器A 杯	覆土	15.2 4.5 6.8	体部やや内湾	ロクロ右回転 糸切り	細砂多 良好 灰褐色～黒色		3/4残 口縁部大きくへたる	
151-21 — P K46	須恵器A 釜	覆土	(24.0) —	口縁部外反	ロクロ調整	精選 細砂微 良好 外灰色がかかる茶色 内灰黒色		口縁部1/6強残 内外自然釉 外油膜状に 濃くかかる 内白い斑点 目立つ	
P-70小穴 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 国版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
151-22 68 M Z19	釜金具	P70 覆土	頭部円環 断面方 形 脚部割りピン状 座金方形	全長3.4 電頭部外縁1.4 同内径 0.7 幅0.5 厚0.4 座金推定長 3.2×3.0 座金間隔1.3 重さ7.6		座金3/4欠			

第72表 歴史時代遺物一覧表 (22)

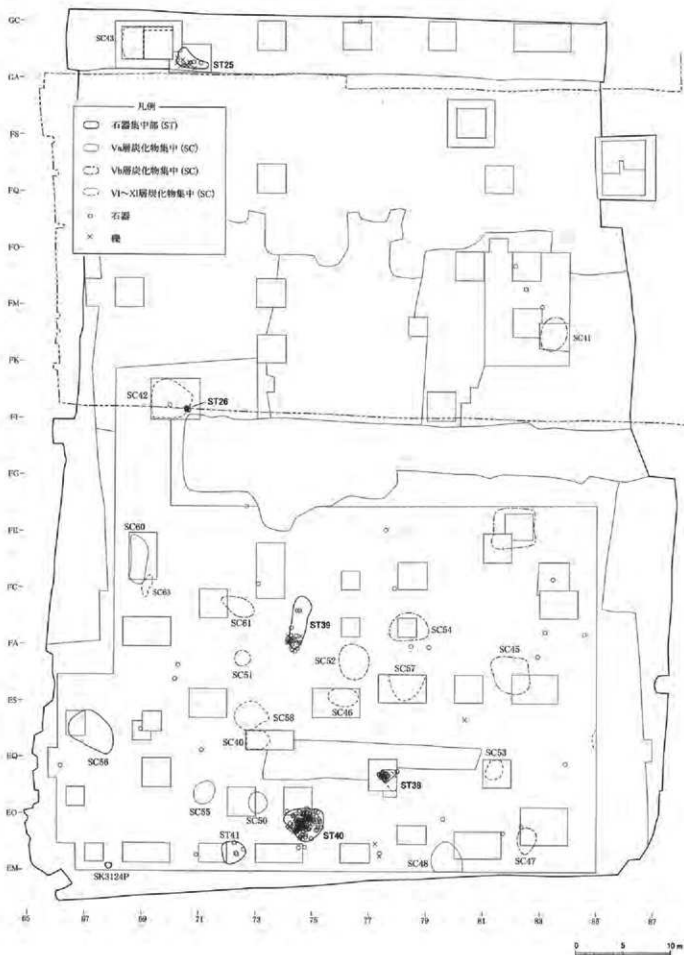
P-171小穴 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏線 広端 厚さ	成・整形の特徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
152-1 - KD110	(14.2) (20.7) - 2.0	不明	21×24	側縁・広端縁わずかにナデ。ヘラ書き「田」あり。	側目 L11本	なし。	側面ナデ（ヘラケズリの後?）。広端面1面ケズリ。	硬質。暗灰色～暗灰褐色。胎土やや緻密。粗砂粒少量。広端面にワラ状痕あり。	
P-328小穴 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	形 状	寸 法		備 考			
152-2 68 MH02	刀子	P328 覆土	やや細身	全長(5.4) 刃部幅1.1 背幅0.2 厚さ4.3		鋒部残			
P-437小穴 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 部 口径	径 高さ	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考	
152-3 68 PK48	須恵器B 坏	覆土上層	11.9 3.6 5.8	口縁部やや外反	口縁部や外反	ロクロ左回転 糸切り	細粗砂少 良好 黄褐色	口縁部3/4欠	
P-547小穴 土 器 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出 土 位 置	口 部 口径	径 高さ	器形の特徴	成・整形の特徴	胎 土 焼 色 成 調	備 考	
152-4 68 PK45	須恵器A 坏	覆土上層	14.2 5.5 6.2	体部大きく膨らみ 口縁部外反	口縁部外反	ロクロ右回転 糸切り	細砂多 良好 灰色	1/2焼残 高台かなりの部分外れているが、擦って使用	
P-595小穴 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏線 広端 厚さ	成・整形の特徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
152-5 68・69 KD113	(20.4) (14.1) 2.3	粘土板	15×17	側縁・広端縁ヘラケズリ。糸切り痕あり。背印「花」あり。	斜格子		側面・広端面1面ヘラケズリ。広端面ワラ状痕あり。	やや軟質。黄灰色・暗黄灰色。胎土やや粗雑。砂粒やや多い。	
152-6 - KD114	(23.7) - 14.6 3.2	不明	21×24	側縁・広端縁ヘラケズリ。一部ナデ調整。	側目 L12本		広端面1面ヘラケズリ。側面4面ヘラケズリ。	硬質。黒灰色・暗灰色・暗赤褐色。自然釉付着。胎土粗雑。砂粒多く含む。	
遺構外 男 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 伏線 広端 厚さ	成・整形の特徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
152-7 70 KC70	(21.1) - 14.9 1.5	粘土組	19×20	側縁わずかにナデ調整。	-	側叩き後、横位ヘラ調整し、さらに縦位ナデを加える。ヘラ書き「文」。	側面・広端面1面ヘラケズリ。	硬質。暗灰色。胎土やや緻密。粗砂少量。海綿状骨針混入。	

第73表 歴史時代遺物一覧表 (23)

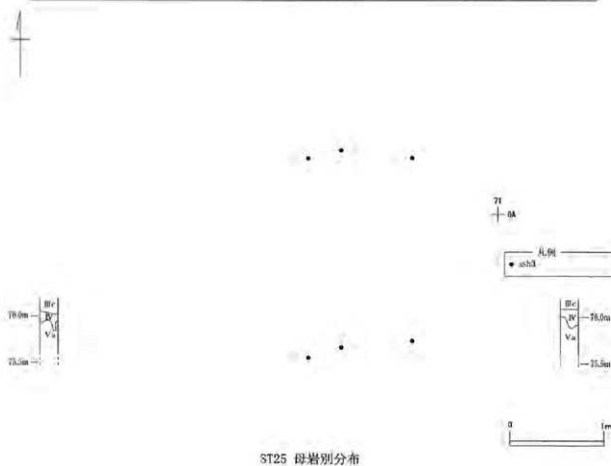
遺構外 女 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
153-1 09 KD117	(14.9) — 2.5	粘土板	21×21	押印「草瓦」あり	縄目 18本		欠損。	硬質。淡灰色。胎土緻密。 砂粒少量、海綿状骨針混入。	
153-2 71 KD118	(12.4) (7.1) — 1.8	粘土板	27×27	側縁・狭端縁ヘラケズリ。側縁不明ヘラ書きあり。	縄目 16本	2方向に叩きを叩く	狭端面・側面1面ヘラケズリ。	軟質。明黄褐色。胎土やや緻密。砂粒少量。海綿状骨針混入。胎土緻密。粗砂粒少量混入。	
152-8 — KD120	(9.9) (3.9) — 2.0	不明	25×24		縄目 19本		狭端面・側面1面ヘラケズリ。側面にヘラ書き「干」あり。	硬質。青灰色。胎土緻密。粗砂粒混入。	
遺構外 雙 斗 瓦 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	全長 狭端 広端 厚さ	成・整 形 の 特 徴						備 考	
		素材	凹 面		凸 面		端 面		
			布目	特 徴	叩き	特 徴	特 徴		
153-3 68 KE03	38.6 19.8 (11.4) 3.5	粘土板	14×16	側縁・短縁ヘラケズリ。糸きり痕明瞭。	縄目 18本	叩きは2方向から叩かれる。	側面・短面ともに一面ヘラケズリ。	硬質。灰色・淡灰色。胎土は緻密。砂粒。黒色泥混入。	
遺構外 埴 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	長辺 短辺 厚さ	成・整 形 の 特 徴				備 考			
		素 材	上 面	下 面	側 面				
153-4 — KH10	(14.3) 18.3 8.0	粘土板?	ヘラケズリ後ナゲ調整。縁を面取りする。	ヘラケズリ後、一部ナゲ。	ヘラケズリ後、一部ナゲ。	軟質。黄褐色・橙褐色・暗褐色。胎土やや粗粒。海綿状骨針混入。			
遺構外 鉄 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法			備 考		
				全長(5.2) 刃部長(2.5) 刃部幅1.0 刃部厚0.3 柄部幅1.0 重さ7.6					
153-5 68 MK01	鎌	F84	刃部轉葉形 刃部断面片面レンス状 柄断面長方形				鋒部と柄部の大半欠反り角28°		
153-6 — MH03	刀子	E079		全長(2.0) 刃幅0.9 背厚0.5 重さ2.3			刃部小片		
遺構外 青 銅 製 品 一 覧									
図面番号 図版番号 遺物番号	種 別	出土位置	形 状	寸 法			備 考		
				長(4.8) 幅1.0 厚さ0.6 重さ12.5					
153-7 68 MG09	不明青銅製品	EM65 日層	扁平棒状品の一端に孔をあけて鉄板を打つ。反対側にも半分に分れた目釘孔がある。	長(4.8) 幅1.0 厚さ0.6 重さ12.5			破片だが部品としてはほぼ完形か 飾り金具の一部か		
153-8 68 MG07	不明青銅製品	EM65 日層	厚めの青銅板に竪で3条の押し引き状の平行線を沈刻	長2.5 幅2.0 厚さ0.4 重さ7.0			破片 一端は斜めに切り落とされた状態 飾り金具の一部か		

圖 面

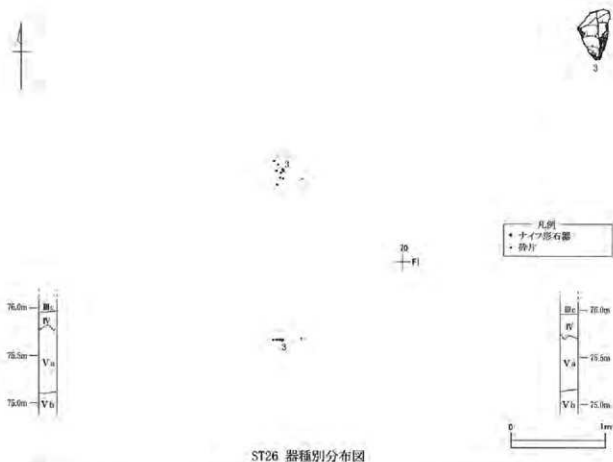
図面1 旧石器時代全体図



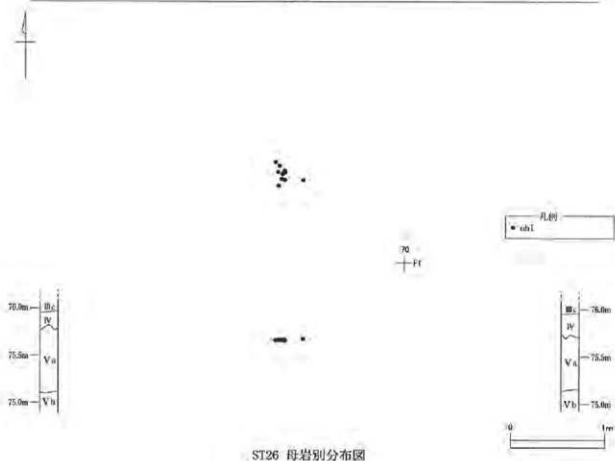
図面 2 ST25石器分布図



図面3 ST26石器分布図

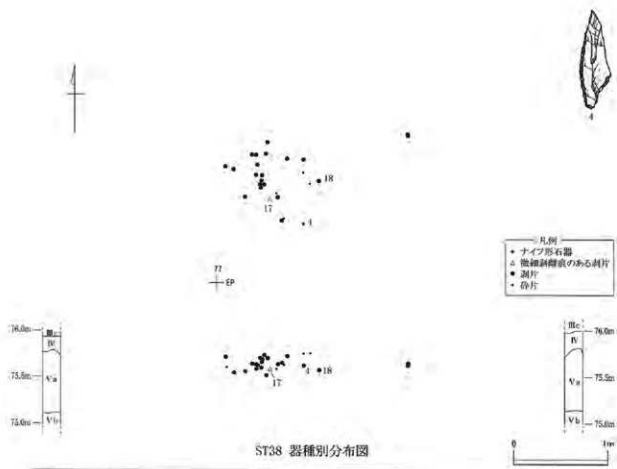


ST26 器種別分布図

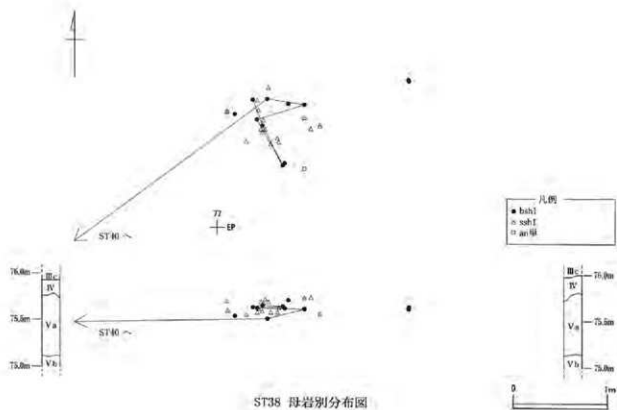


ST26 母岩別分布図

図面4 ST38石器分布図

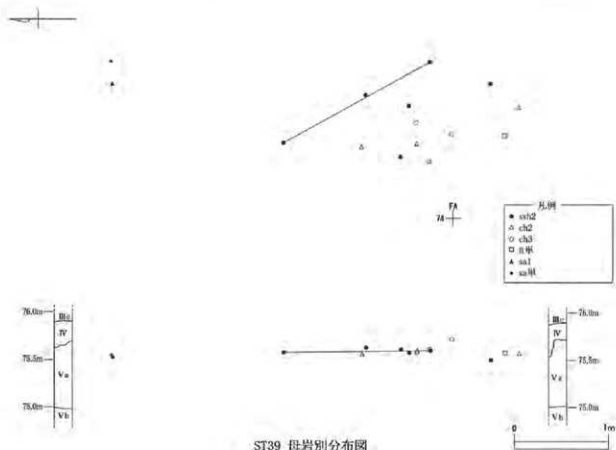


ST38 器種別分布図

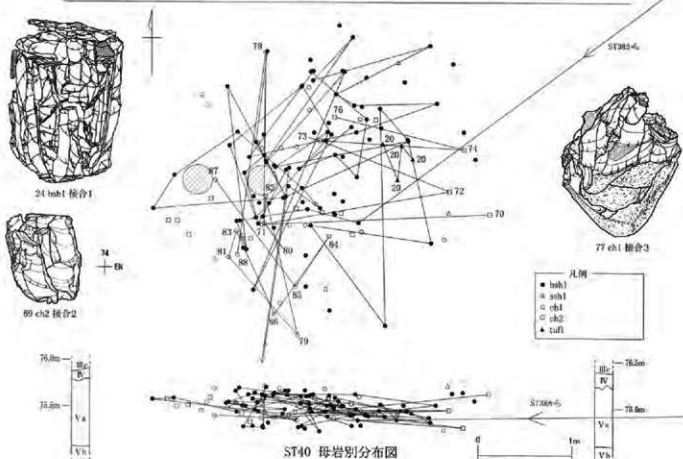
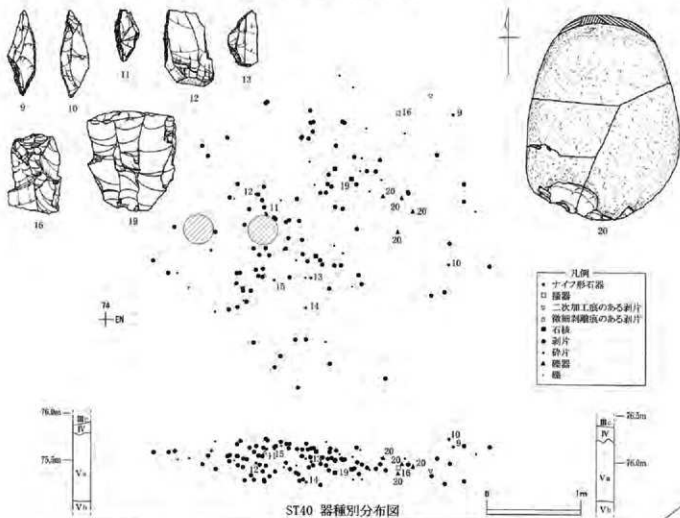


ST38 母岩別分布図

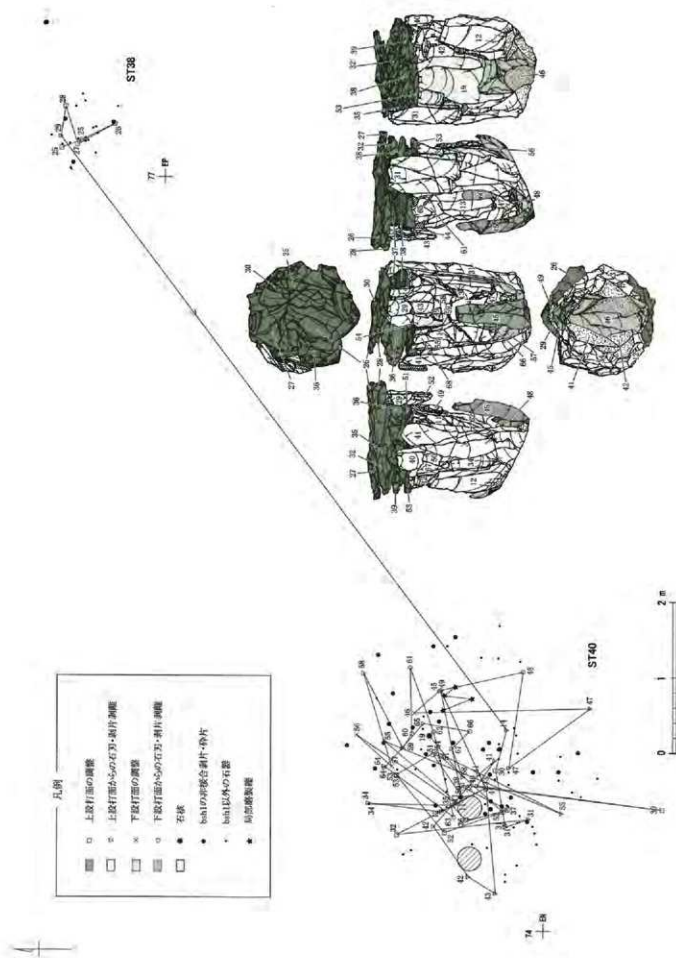
図面5 ST39石器分布図



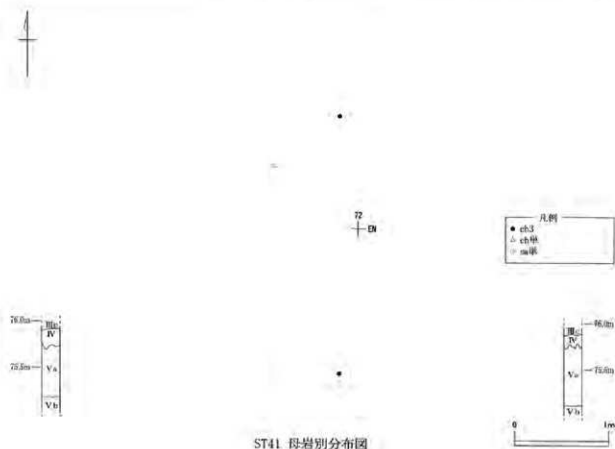
図面6 ST40石器分布図



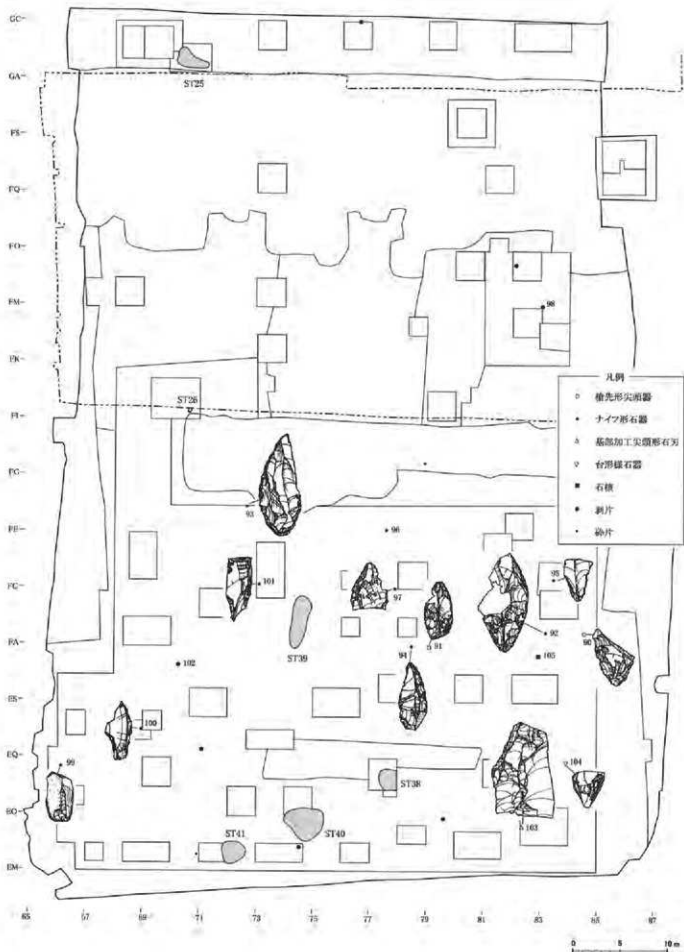
図面 7 接合 1 (bsh1)作業内容別分布図



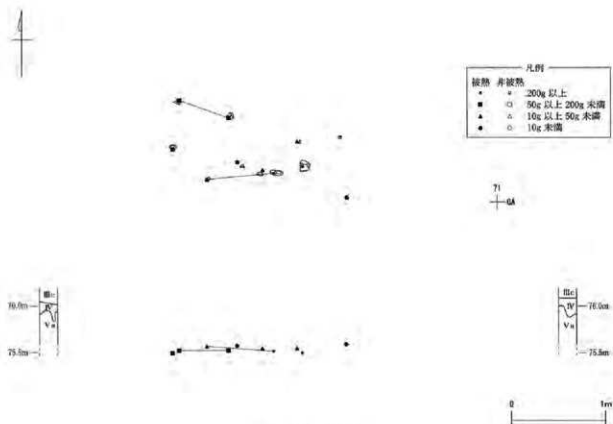
図面8 ST41石器分布図



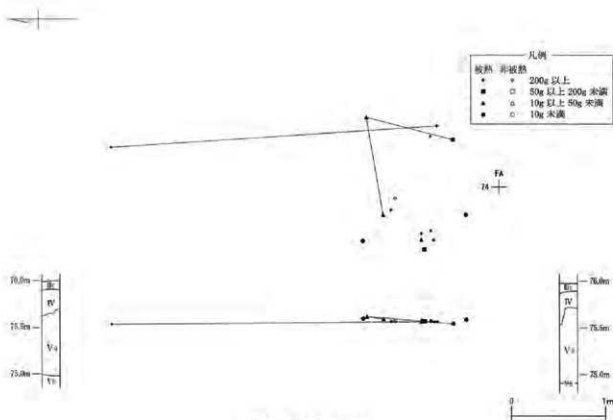
図面9 遺構外石器分布図



図面10 ST25・ST39礫分布図



ST25 礫状態別分布図

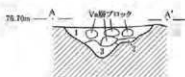


ST39 礫状態別分布図

図面11 SK3124P土坑・SC43炭化物集中区



SK3124P



SK3124P

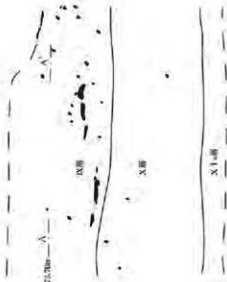
- 1 赤褐色土 赤色スコリア非常に多 黒色スコリア少 V字型ブロック含む
- 2 暗黄褐色土 黒色スコリア少
- 3 黄褐色土 赤色スコリア多 黒色スコリア少



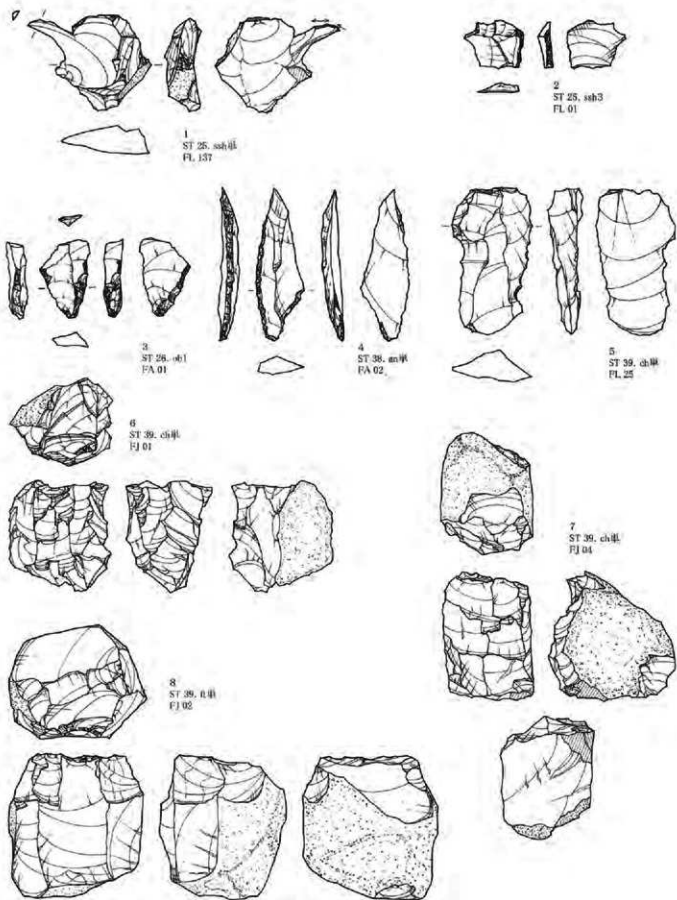
SC43炭化物集中区

73.10m B

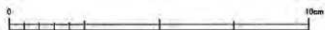
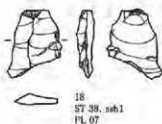
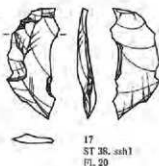
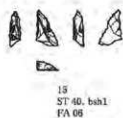
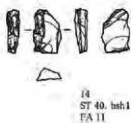
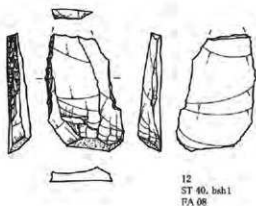
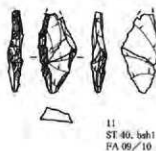
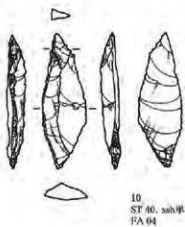
B'

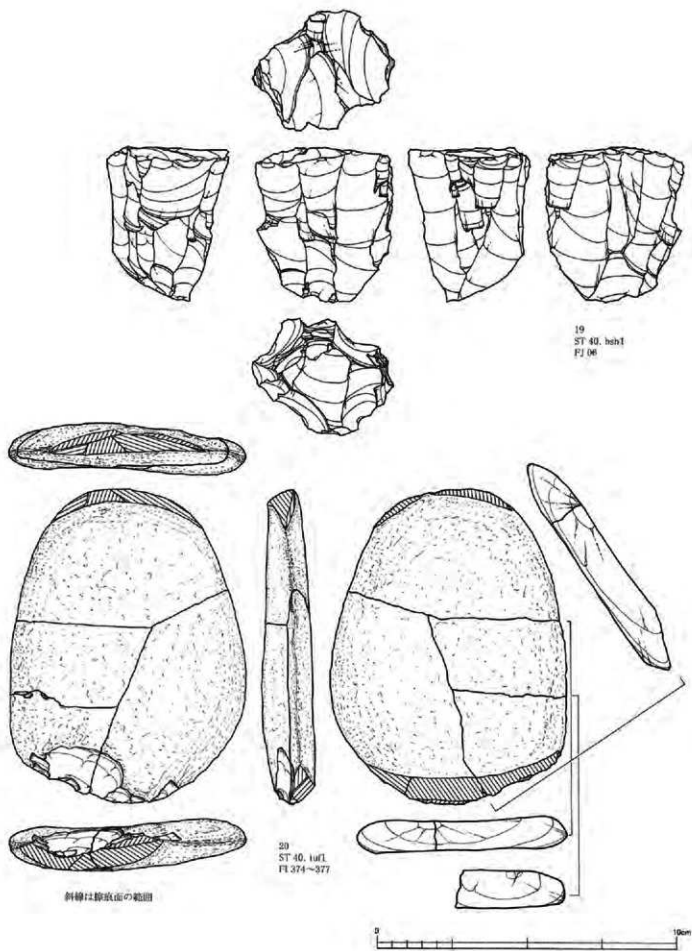


圖面12 ST25・ST26・ST38・ST39出土石器

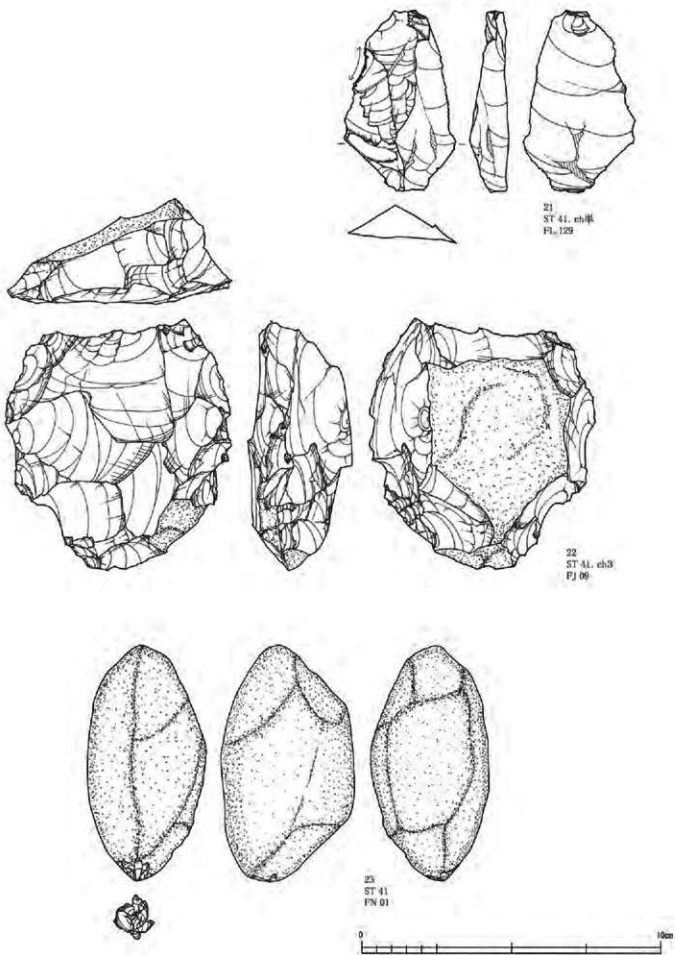


図面13 ST38・ST40(1)出土石器

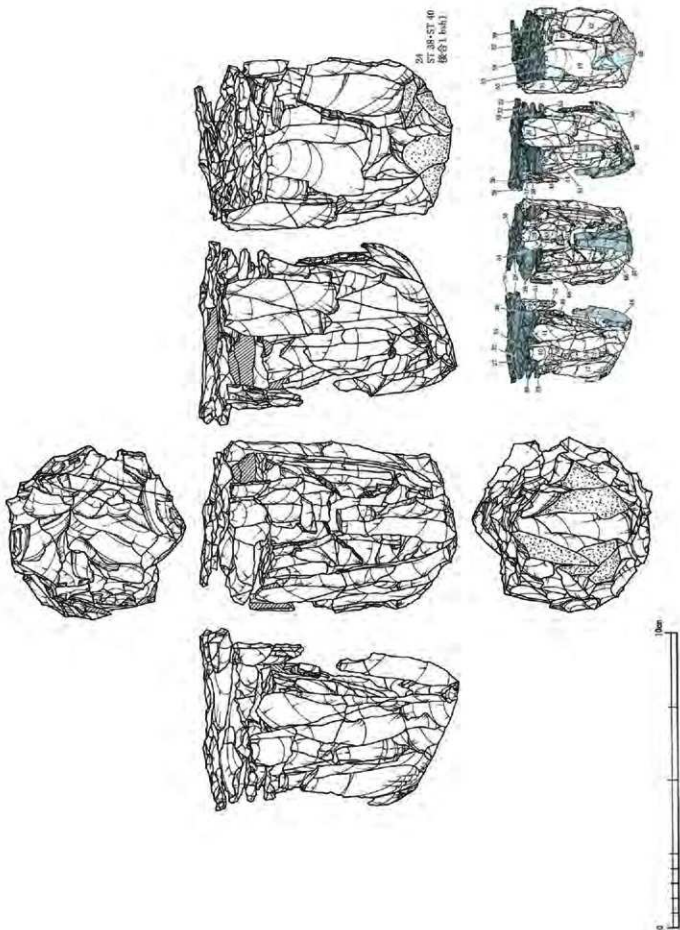




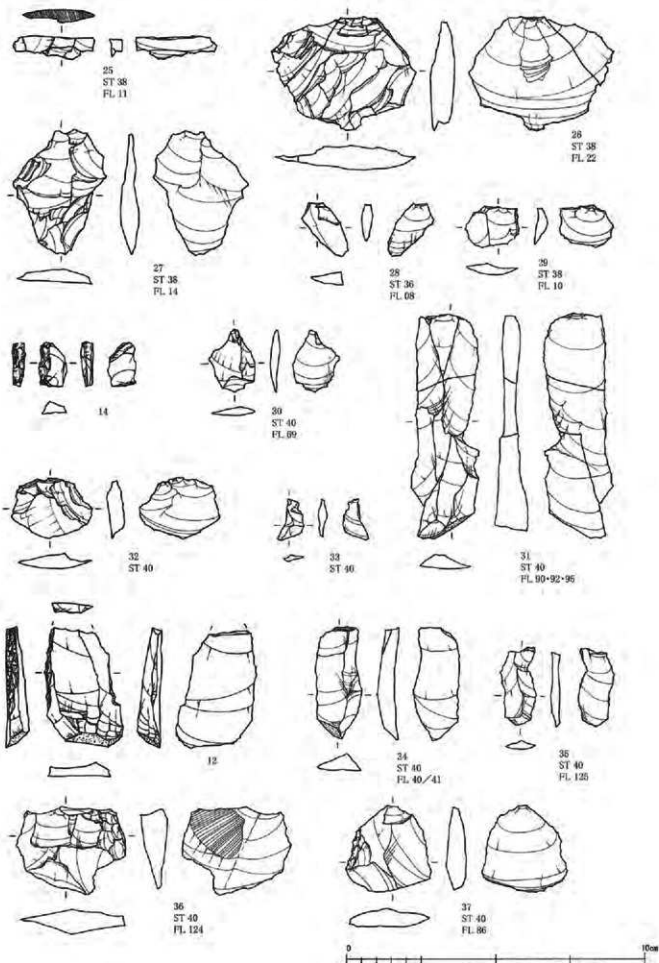
图面15 ST41出土石器



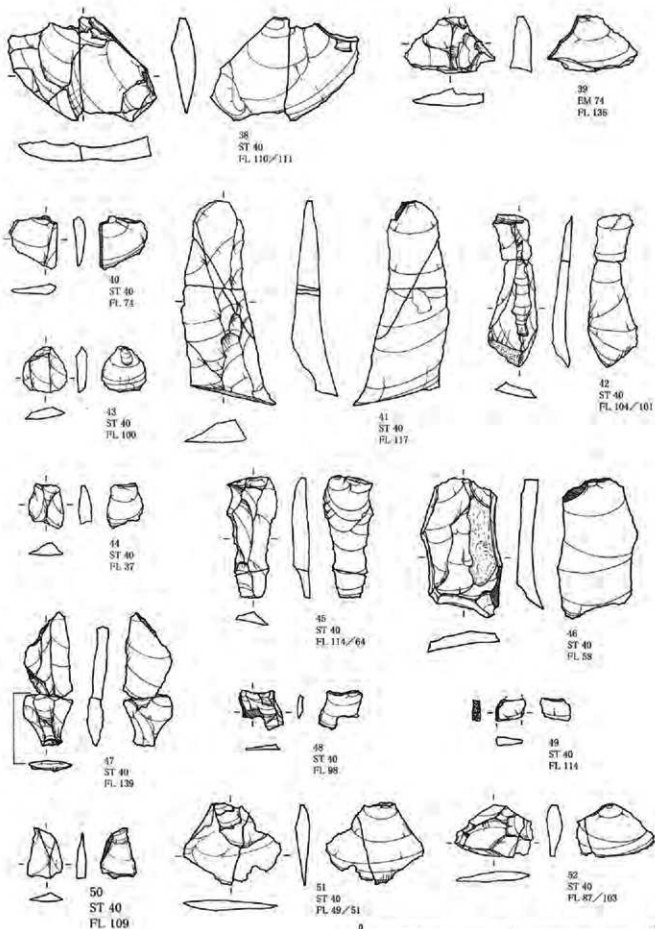
図面16 bsh1 接合資料(接合1) 1



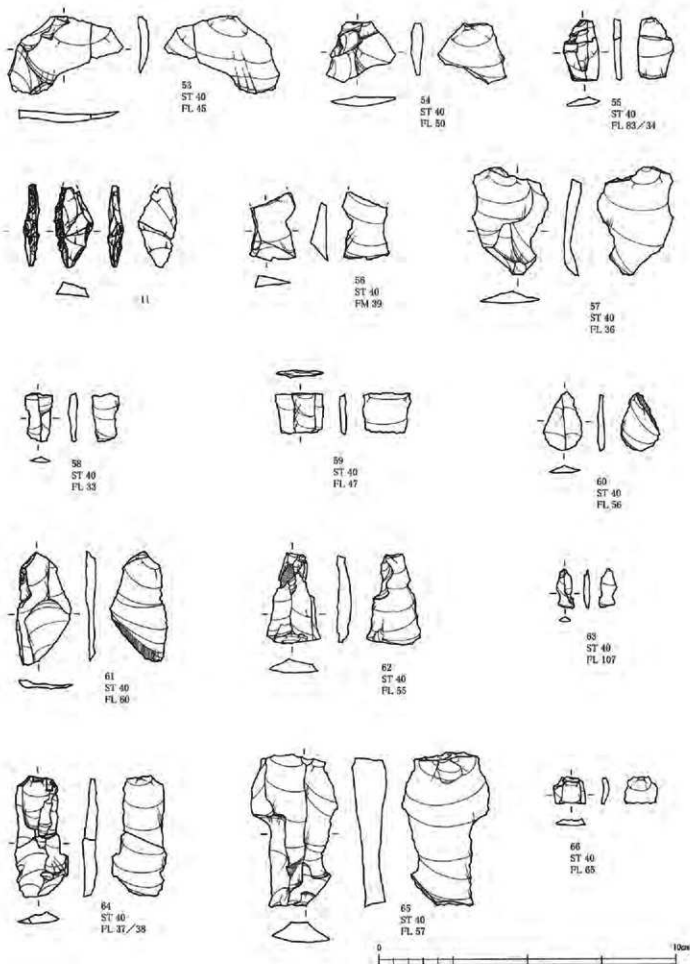
図面17 bshl接合資料(接合1) 2

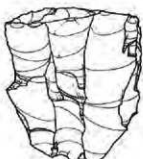
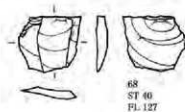
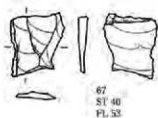


図面18. bsh1 接合資料(接合1)3



図面19 bshl接合資料(接合1) 4

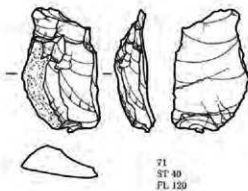
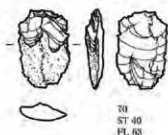
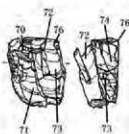
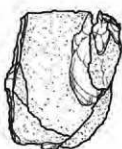




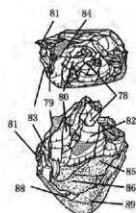
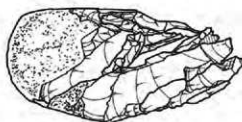
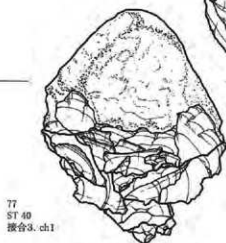
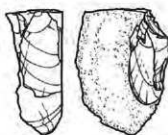
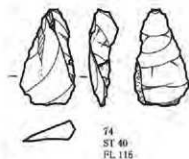
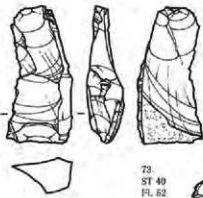
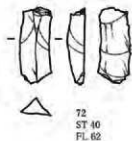
19



69
ST 40
接合2: ch2



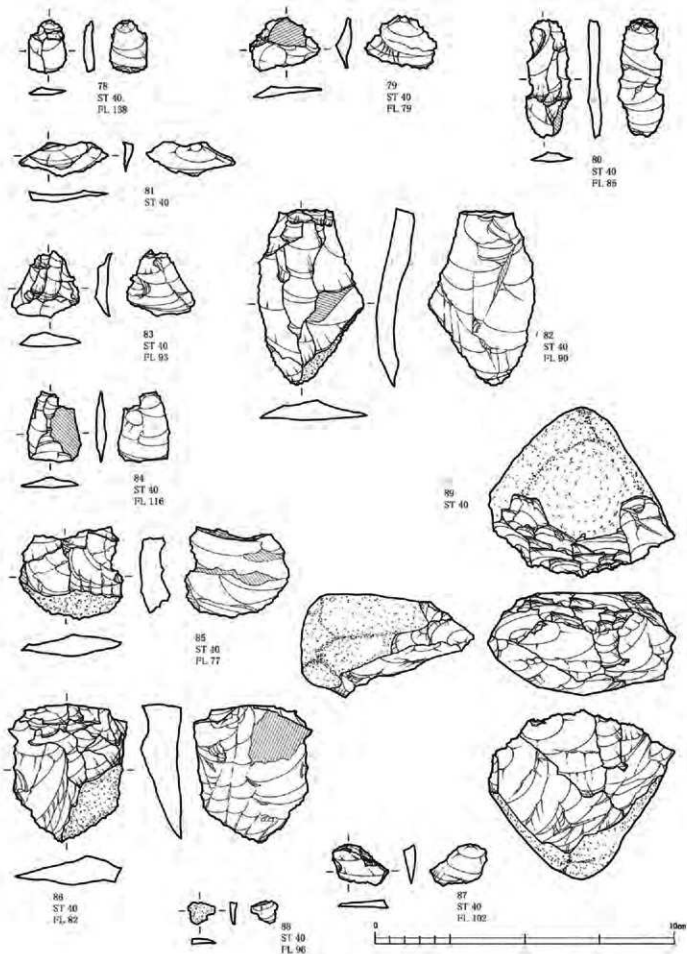
図面21 ch2接合資料(接合2) 2・ch1接合資料(接合3) 1



71
ST 40
FL 120



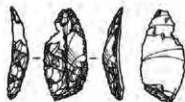
図面22 ch1 接合資料(接合3) 2



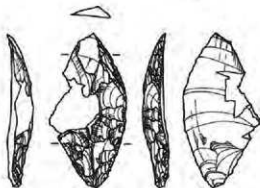
圖面23 遺構外出土石器1



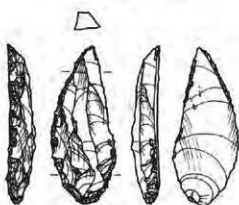
90
FA 84, ob 畢
FC 91



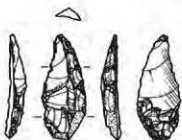
91
ET 79, ob 畢
FA 14



92
FA 83, ob 畢
FA 12



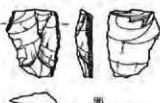
93
PE 72, ob 畢
FA 20



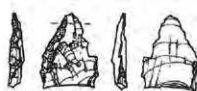
94
ET 78, ob 畢
FA 15



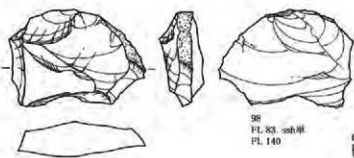
95
FC 83, ob 畢
FA 13



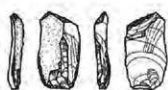
96
FE 77, ob 畢
FA 22



97
FB 77, ob 畢
FA 18



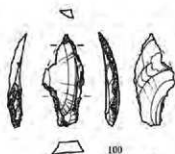
98
FL 83, ob 畢
FL 140



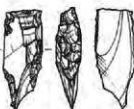
99
EP 66, ob 畢
FA 16



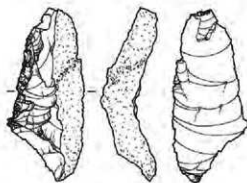
図面24 遺構外出土石器2



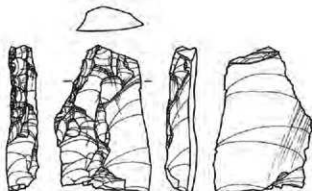
100
EQ 68, ch 畢
FA 17



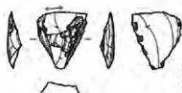
101
FC 73, ob 畢
FA 21



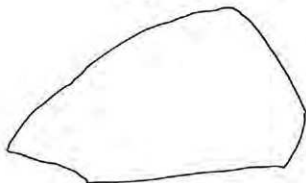
102
ET 70, ch 畢
FL 132



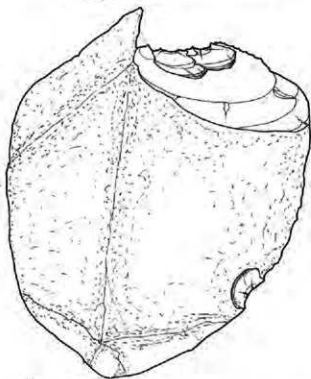
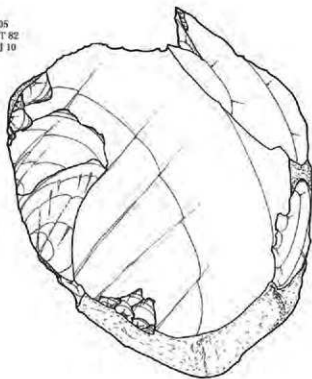
103
EN 82
PA 17
19



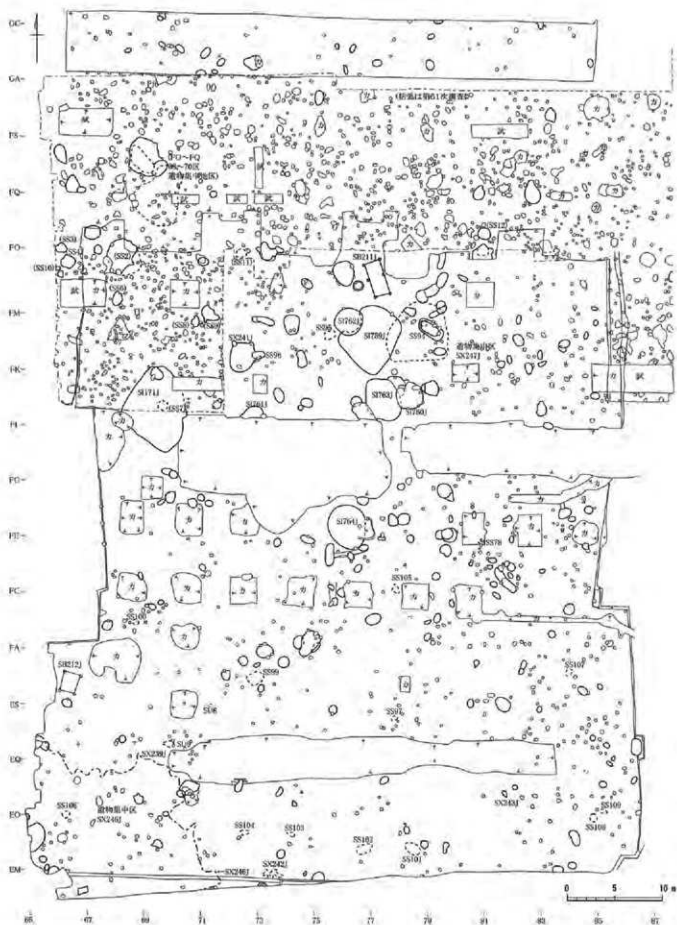
104
EP 83
PW 01



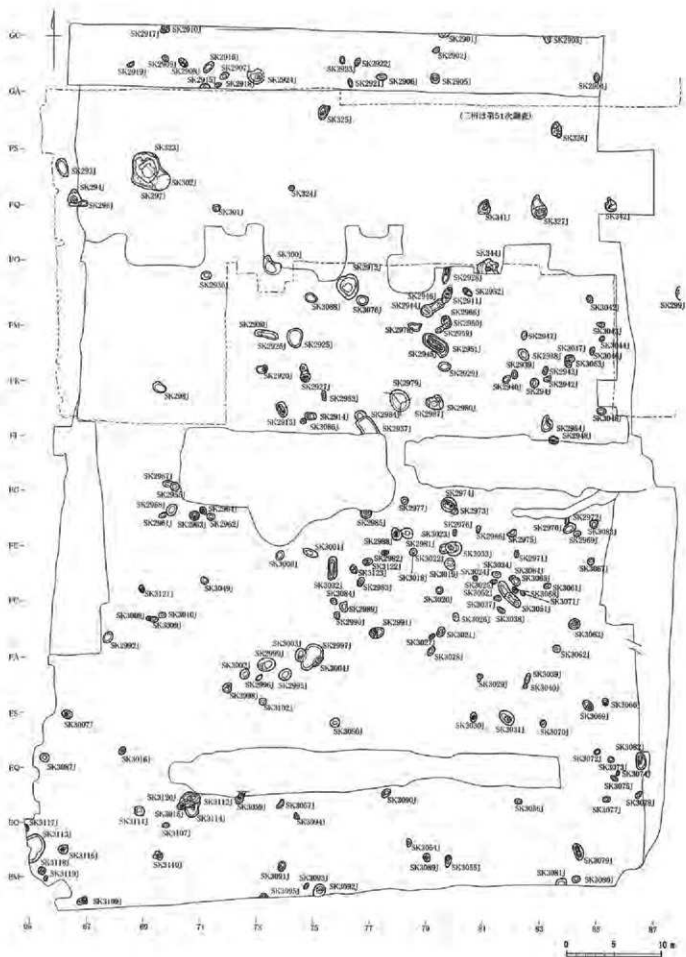
105
ET 82
FJ 10



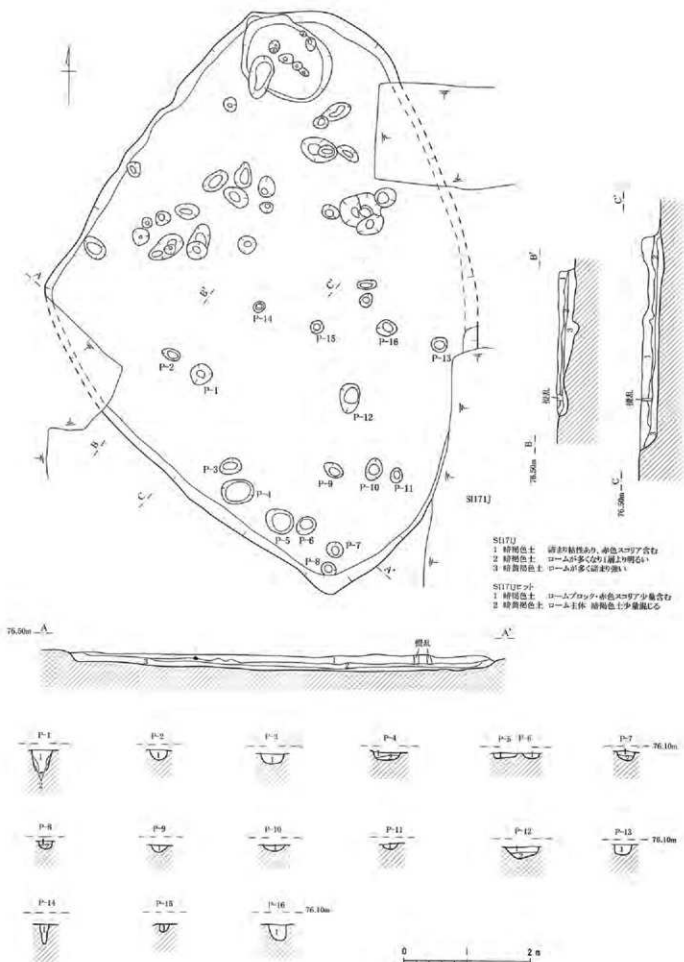
図面25 縄文時代遺構全体図

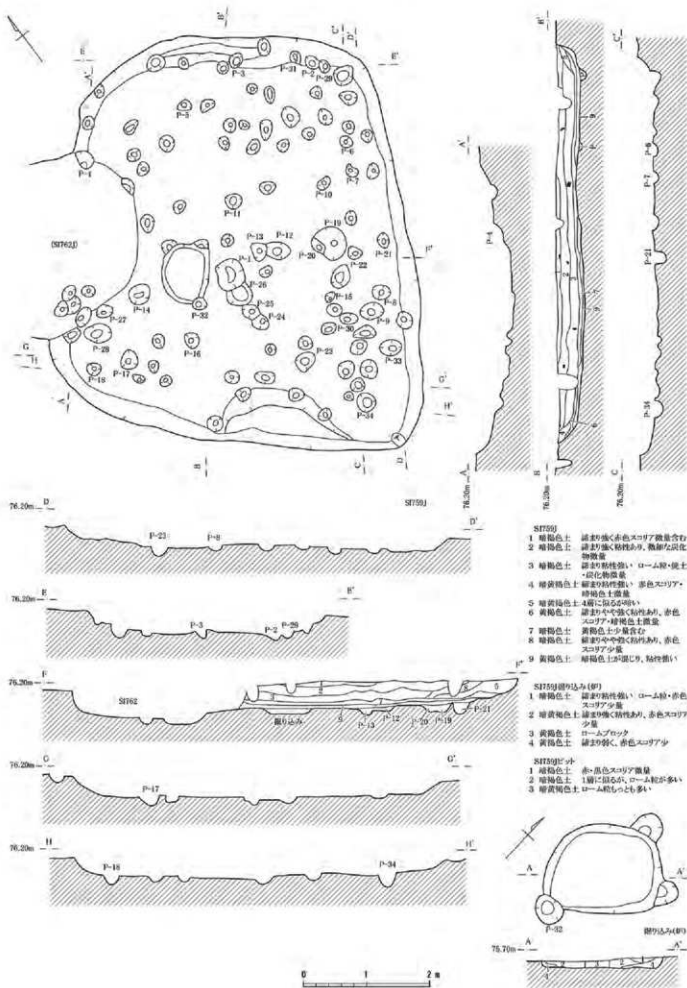


図面26 縄文時代土坑全体図

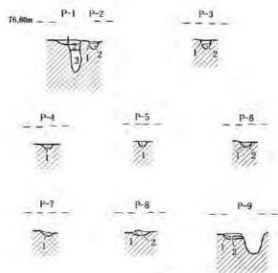
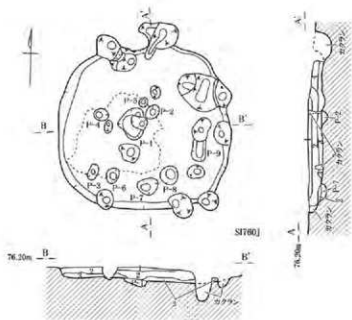
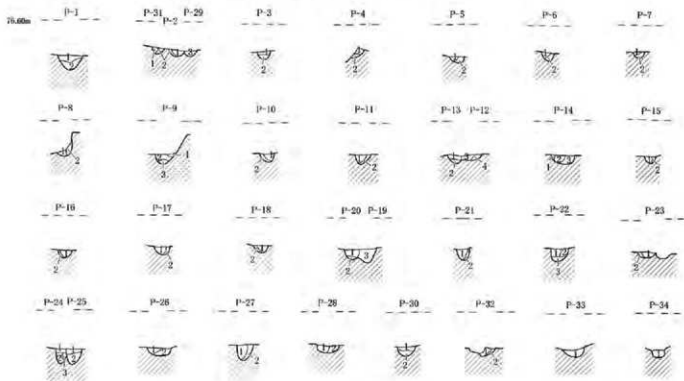


図面28 SI171J住居





図面30 SI759J・SI760J・SI761J住居



SI760J

- 1 暗褐色土 漆塗り痕があるが、粘土は粗い
- 2 暗褐色土 漆の層が赤褐色スコーラ・ローム粒少量
- 3 暗褐色土 漆塗り痕あり、漆山・黒ブロックラーム粒を含む
- 4 暗褐色土 2層に似るが黒ブロックラームが多く明るい

SI760Jピット

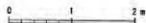
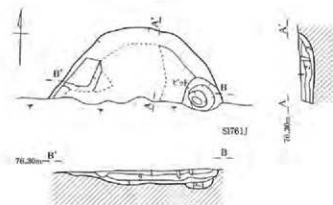
- 1 暗褐色土 漆塗り痕あり、ローム粒少量
- 2 暗褐色土 ロームがほとんどで暗褐色土量が多い

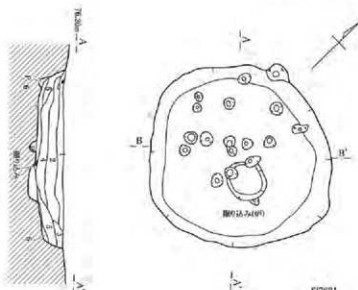
SI761J

- 1 暗褐色土 漆塗り痕あり、赤色スコーラ微量
- 2 暗褐色土 漆塗り痕あり、赤色スコーラ多い
- 3 暗褐色土 漆塗り痕あり、ローム粒多い

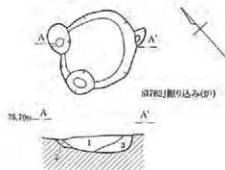
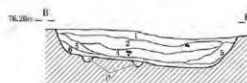
SI761Jピット

- 1 暗褐色土 漆塗り痕あり、ローム主体





SI762J



SI762J掘り込み(9F)

SI762J

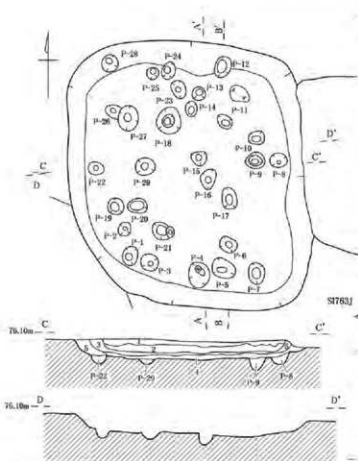
- 1 暗褐色土 腐り強く赤色スコリア少量
- 2 暗褐色土 やや明い、腐り強く赤色スコリア・ローム粒少量
- 3 暗褐色土 やや明い、腐り強く赤色スコリア・ローム粒多い
- 4 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤色スコリア・ローム粒多い
- 5 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤色スコリア・ローム粒多い
- 6 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤色スコリア・ローム粒多い

SI762J掘り込み(8F)

- 1 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア少量
- 2 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア少量
- 3 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア少量

SI762Jピット

- 1 暗褐色土 粘性あり、赤色スコリア・ローム粒少量



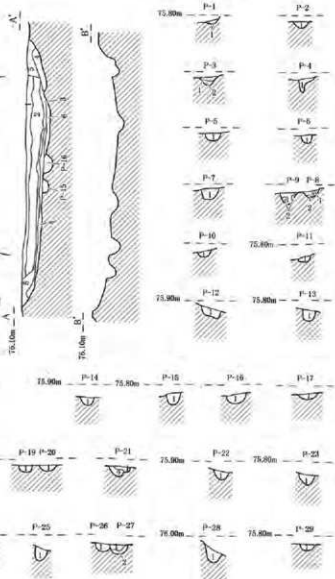
SI763J

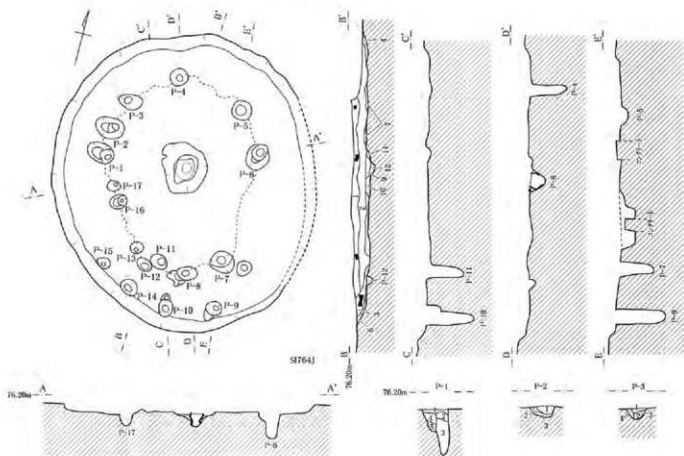
SI763J

- 1 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア少量
- 2 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア・ローム粒少量
- 3 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア・ローム粒少量
- 4 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア・ローム粒少量
- 5 暗褐色土 ローム主体
- 6 暗褐色土 ローム主体

SI763Jピット

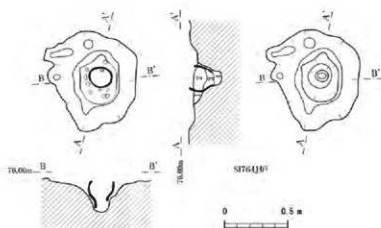
- 1 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア少量
- 2 暗褐色土 腐り強く暗褐色土・赤・黒色スコリア少量
- 3 暗褐色土 やや明い、ローム・赤色スコリア少量





SI764J

- 1 赤褐色土 縄文9層に粘性あり、赤色スクリュー・炭化物微量
- 2 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物少量
- 3 暗茶褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物少量
- 4 明褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 5 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 6 明褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 7 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 8 暗茶褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量



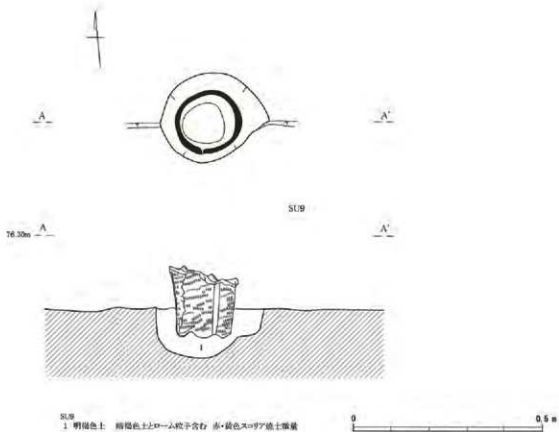
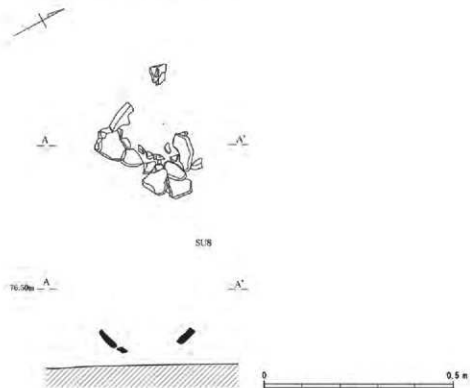
SI764J

- 1 赤褐色土 ローム状土に粘性あり
- 2 暗褐色土 土中にローム状土・炭化物微量
- 3 暗褐色土 土中にローム状土・炭化物微量
- 4 暗褐色土 土中にローム状土・炭化物微量

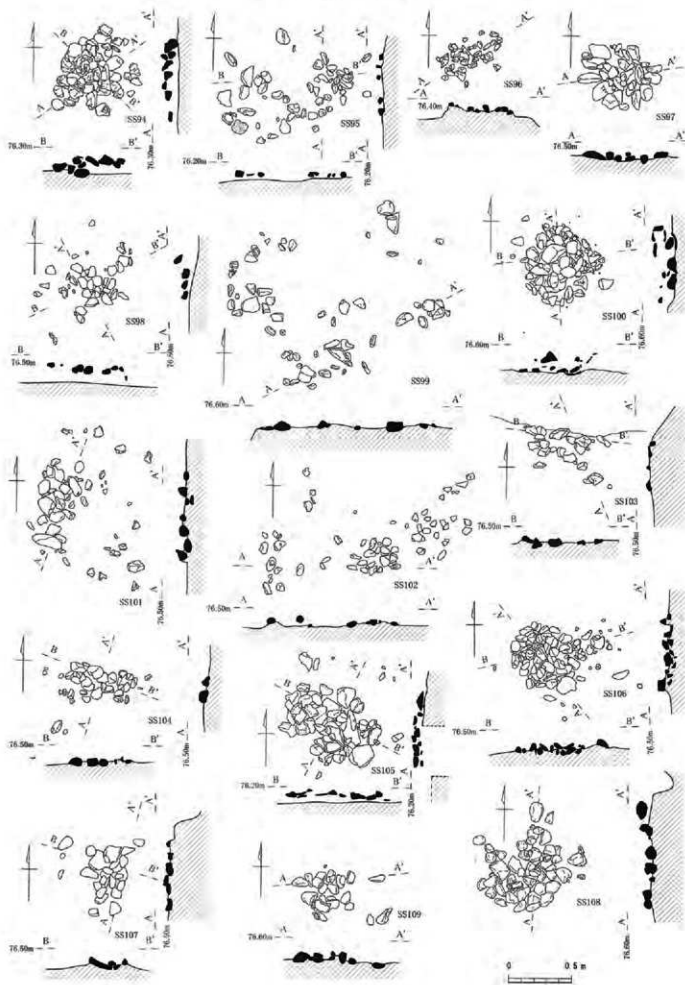
SI764J

- 1 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 2 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 3 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 4 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量
- 5 暗褐色土 縄文9層に粘性あり、赤・黒色スクリュー・炭化物微量

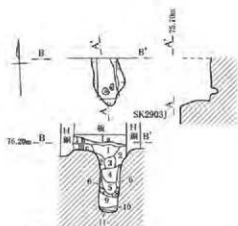
図面33 SU8・SU9屋外埋藏



図面34 SS94~SS109集石

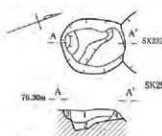


図面35 SK2903J・SK2905J～SK2907J・SK2909J・SK2911J・SK2912J土坑



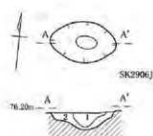
SK2903J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
- 2 明黄褐色土 赤色スコリア少量
- 3 褐色土 赤色スコリア多量
- 4 暗褐色土 赤色スコリア多量
- 5 暗褐色土 4層に似るがやや暗い
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック多量
- 7 暗黄褐色土 6層に似るがやや明るい
- 8 暗黄褐色土 6層に似るがやや暗い
- 9 暗黄褐色土 ロームブロックに暗褐色土を含む
- 10 黒褐色土 赤色スコリア多量
- 11 暗黄褐色土 9層に似るがやや明るい



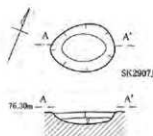
SK2905J

- 1 暗褐色土 褐色土・赤色スコリア少量
- 2 暗褐色土 褐色土・赤色スコリア少量 ローム粒子少量
- 3 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量
- 4 褐色土 ローム粒子多量



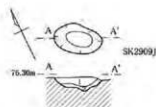
SK2906J

- 1 暗褐色土 褐色土少量 赤色スコリア少量
- 2 暗褐色土 褐色土多量 ローム粒子少量



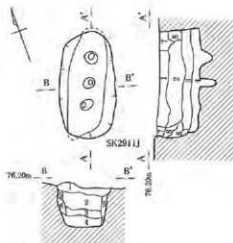
SK2907J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子少量 粘性無し
- 2 暗黄褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量



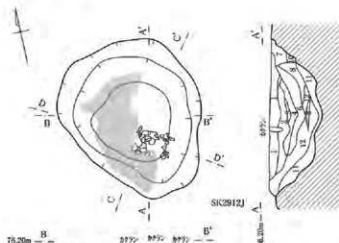
SK2909J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子少量
- 2 暗黄褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量



SK2911J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
- 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量
- 3 暗褐色土 2層に似るがやや暗い
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土にローム粒子多量
- 5 暗黄褐色土 4層と5層の互層 赤色スコリア少量
- 6 暗褐色土 ロームブロックに黒く腐す
- 7 暗褐色土 1層に似るがやや暗い
- 8 暗褐色土 7層に似るがやや明るい



SK2912J

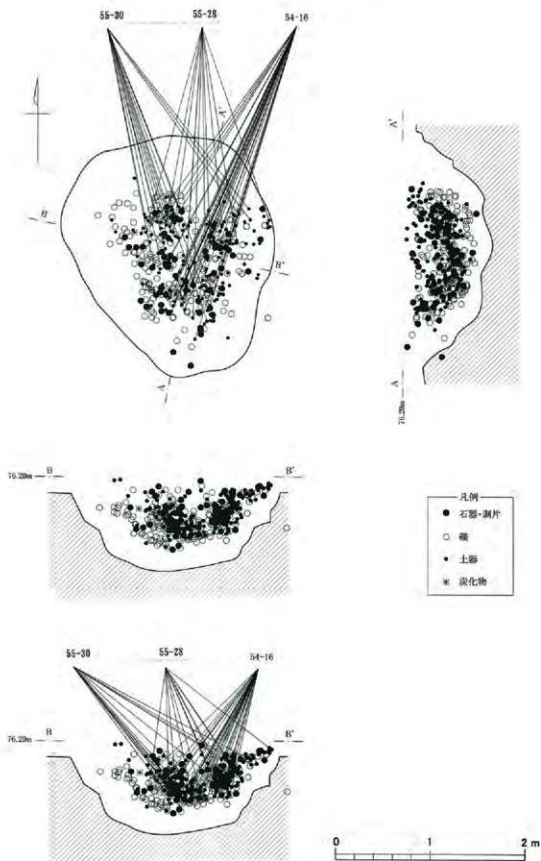
SK2912J

- 1 黒色土 しまり強い、粘性やや有り
- 2 黒色土 赤色スコリア少量 1層より明るい
- 3 褐色土 2層より明るい、しまり強い
- 4 褐色土 地土含み赤色腐ひる 地土腐
- 5 暗黄褐色土 ローム土体 暗褐色土を含む
- 6 暗褐色土 2層に似るが赤色腐ひる
- 7 暗黄褐色土 赤色スコリア・ロームブロックを含む
- 8 暗褐色土 6層より明るい、赤色スコリアを含む
- 9 暗褐色土 7層より暗い、しまり強い
- 10 暗黄褐色土 8層よりロームブロック多量
- 11 褐色土 8層よりローム土体 暗褐色土・赤色スコリアを含む 12層より明るい
- 12 暗黄褐色土 ローム土体 暗褐色土・赤色スコリアを含む 5層より明るい

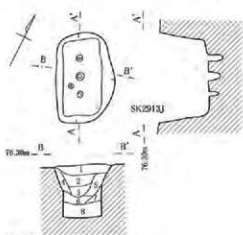
※全て赤色スコリア1～3mm

0 1 2 m

図面36 SK2912J土坑遺物出土状況

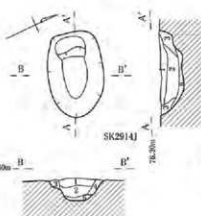


SK2912J 遺物分布・土器接合関係図



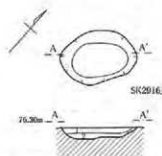
SK2913J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量
- 2 暗褐色土 1層より暗い 赤・黄色スコリア少量
- 3 暗褐色土 1層より暗い 赤色スコリア多量
- 4 暗褐色土 暗褐色土に付 赤色スコリア少量
- 5 暗褐色土 暗褐色土に付 4層に広がる赤色スコリア多量
- 6 暗褐色土 粘土層に 赤・黄色スコリア多量
- 7 黄褐色土 暗褐色土・赤色スコリア少量
- 8 暗褐色土 2・3層より赤色が広がる 赤色スコリア多量 ローム粒子少量



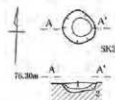
SK2914J

- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量
- 2 暗褐色土 赤黄色スコリア・ローム粒子少量
- 3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む
- 4 暗褐色土 3層に広がるやや暗くスコリア微量
- 5 黄褐色土 暗褐色土少量 赤色スコリア微量



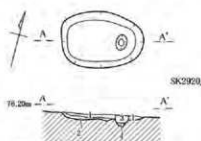
SK2916J

- 1 暗褐色土 褐色土少量 赤色スコリア微量 ローム粒子微量
- 2 褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量



SK2918J

- 1 暗褐色土 褐色土・赤色スコリア少量 ローム粒子微量
- 2 褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量



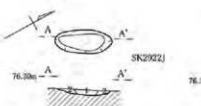
SK2920J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア多量 黄褐色土少量
- 2 暗褐色土 赤色スコリア少量
- 3 暗褐色土 1層より暗い 赤色スコリア少量
- 4 暗褐色土 赤色スコリア少量 1層より暗い



SK2921J

- 1 暗褐色土 褐色土・赤色スコリア少量
- 2 褐色土 赤色スコリア・ローム粒子微量



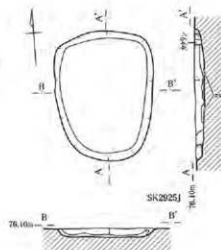
SK2922J

- 1 暗褐色土 褐色土少量 赤色スコリア微量
- 2 暗褐色土 褐色土多量



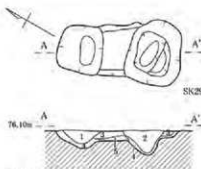
SK2924J

- 1 暗褐色土 褐色土・赤色スコリア少量
- 2 暗褐色土 褐色土多量 赤色スコリア微量 ローム粒子微量
- 3 褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子微量
- 4 黄褐色土 ロームブロック



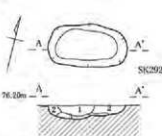
SK2925J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
- 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量
- 3 暗褐色土 赤色スコリア微量 1層より暗い



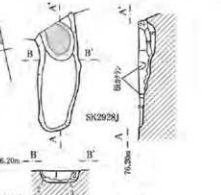
SK2927J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア多量 ローム粒子微量
- 2 暗褐色土 1層に広がるやや暗い
- 3 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量
- 4 暗褐色土 赤色スコリア微量 ロームブロック多量
- 5 暗褐色土 ローム土床で暗褐色土少量 赤色スコリア微量



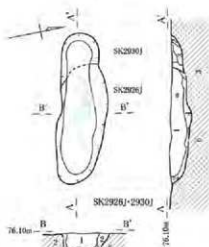
SK2928J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
- 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量 1層より暗い
- 3 暗褐色土 赤色スコリア少量

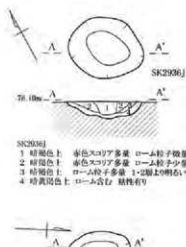


SK2929J

- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子微量 1層より暗い
- 3 暗褐色土 赤色スコリア少量
- 4 暗褐色土 赤色スコリア微量 粘土多量
- 5 赤褐色土 暗褐色土少量 粘土層

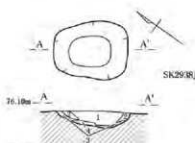


- SK2930J
1 暗褐色土 赤色スコリア少量 焼土微量
2 暗褐色土 ロームブロック少量
3 暗褐色土 焼土多量 ローム粒子少量



- SK2936J
1 暗褐色土 赤色スコリア多量 ローム粒子微量
2 暗褐色土 赤色スコリア多量 ローム粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 1-2層より明るい
4 暗褐色土 ローム含む 粘性有り

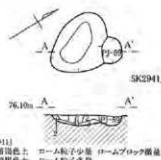
- SK2937J
1 暗褐色土 赤色スコリア少量
2 暗褐色土 赤色スコリア少量 1層より明るい
3 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量 2層より明るい
4 暗褐色土 赤色スコリア微量 3層より明るい
5 暗褐色土 ローム主体 暗褐色土少量 赤色スコリア微量



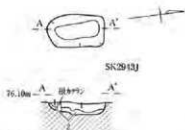
- SK2938J
1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量
2 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 1層より明るい
3 暗褐色土 ローム主体 暗褐色土少量 赤色スコリア微量
4 暗褐色土 1層と2層より明るい粘性有り



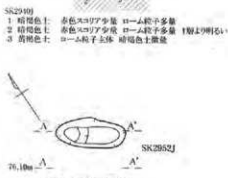
- SK2939J
1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子多量
2 暗褐色土 赤色スコリア少量
3 暗褐色土 ローム主体 暗褐色土少量



- SK2941J
1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量
2 暗褐色土 ローム粒子多量
3 暗褐色土 ローム粒子主体 暗褐色土微量



- SK2943J
1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ロームブロック多量
2 暗褐色土 ローム主体 暗褐色土少量



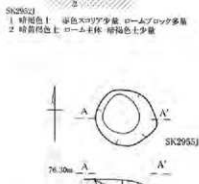
- SK2945J
1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量
2 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子多量 1層より明るい
3 暗褐色土 ローム粒子主体 暗褐色土微量



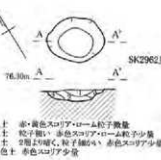
- SK2953J
1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
2 暗褐色土 ローム主体 暗褐色土少量



- SK2954J
1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子
2 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア微量



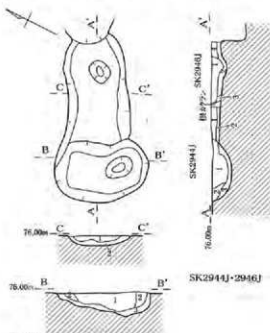
- SK2955J
1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ロームブロック多量
2 暗褐色土 ローム主体 暗褐色土少量



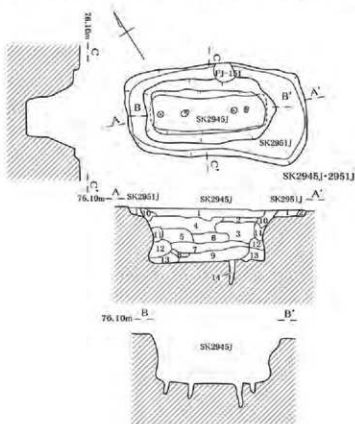
- SK2963J
1 暗褐色土 赤・黄赤色スコリア・ローム粒子微量
2 暗褐色土 粒子間、赤色スコリア・ローム粒子少量
3 暗褐色土 2層より暗く、粒子細く、赤色スコリア少量
4 暗褐色土 赤色スコリア少量

- SK2965J
1 暗褐色土 赤・黄赤色スコリア微量
2 暗褐色土 暗褐色土微量 赤・黄赤色スコリア少量
3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黄赤色スコリア少量

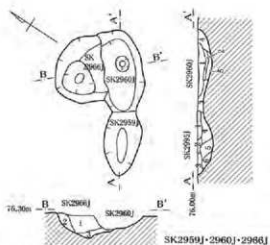
0 1 2 m



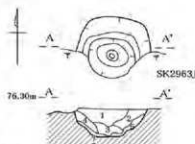
- SK2944J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 ローム少量 1層より多い
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア微量 ロームブロック多量
- SK2945J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 2層より多い
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子多量
 - 3 暗黄褐色土 ローム土坑 暗褐色土少量
 - 4 暗褐色土 ローム少量



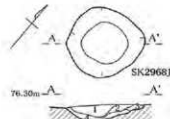
- SK2951J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 2 黄褐色土 ローム主体 暗褐色土微量



- SK2959J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 2層に広がるがローム粒子より多い
 - 4 暗黄褐色土 粒子細い 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア微量
 - 5 暗黄褐色土 粒子細い 暗褐色土にロームブロック含む 赤・黒色スコリア少量
 - 6 暗黄褐色土 赤色スコリア少量
- SK2960J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗黄褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 4 暗黄褐色土 赤色スコリア少量 赤色スコリア微量
- SK2963J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア多量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量 ローム粒子多量
 - 3 暗褐色土 2層に広がるがローム粒子とスコリアが大きい
 - 4 暗褐色土 3層に広がるが赤・黄色スコリア・ローム粒子多量
 - 5 暗黄褐色土 暗褐色土にロームブロック含む 赤色スコリア微量



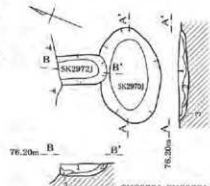
- SK2963J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア多量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量 ローム粒子多量
 - 3 暗褐色土 2層に広がるがローム粒子とスコリアが大きい
 - 4 暗褐色土 3層に広がるが赤・黄色スコリア・ローム粒子多量
 - 5 暗黄褐色土 暗褐色土にロームブロック含む 赤色スコリア微量



- SK2968J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤・黄色スコリア・ローム粒子少量
 - 3 暗黄褐色土 赤色スコリア微量 しりじり
 - 4 暗黄褐色土 赤色スコリア微量

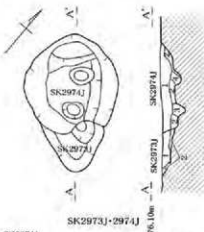


- SK2969J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗黄褐色土 暗褐色土にローム含む スコリア微量

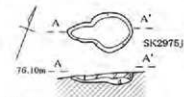


- SK2970J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗黄褐色土 暗褐色土にローム粒子含む スコリアは1層より多い
 - 3 暗黄褐色土 2層に広がるがやや明るくスコリアはやや大きい
 - 4 暗黄褐色土 スコリア微量
- SK2972J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア多量 ローム粒子少量
 - 2 暗黄褐色土 赤色スコリア少量
 - 3 黄褐色土 暗褐色土少量 赤色スコリア微量

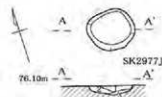




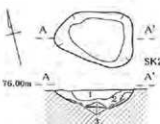
- SK2974J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア多量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量
 - 3 暗褐色土 粒子粗い 赤・黄・黒色スコリア微量
 - 4 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量 ローム粒子多量



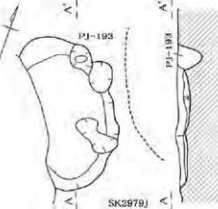
- SK2975J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤・黄・黒色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黄・黒色スコリア微量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土に3層より多くローム含む 赤色スコリア・炭化物微量



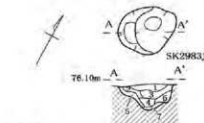
- SK2977J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 粒子粗い 赤色スコリア微量 ローム粒子多量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア微量



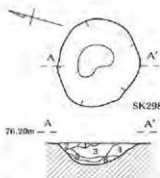
- SK2978J
- 1 暗褐色土 色調が暗い 赤色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子多量
 - 3 暗褐色土 ローム主体 暗褐色土少量 赤色スコリア微量



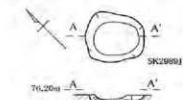
- SK2979J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 1層より多い明るいロームブロック微量



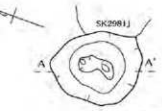
- SK2983J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア微量 しより多い 粘り有り
 - 2 暗褐色土 1層より多い 赤・黄色スコリア 炭化物微量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 1層と2層の中間色 スコリア多量
 - 4 暗褐色土 2層に似る スコリアやや大きめ
 - 5 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 6 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア少量
 - 7 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子多量 炭化物微量



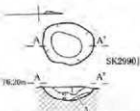
- SK2981J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 1層より多い 赤色スコリア・ローム粒子微量
 - 3 暗褐色土 1層より多い 赤色スコリア多量 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 3層に似るスコリアが少ない
 - 5 暗褐色土 3層に似るがやや暗い
 - 6 暗褐色土 暗褐色土少量 赤色スコリア微量



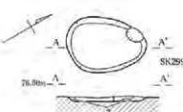
- SK2989J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア多量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 1層より多い
 - 3 暗褐色土 暗褐色土・赤色スコリア少量



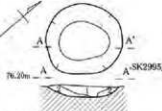
- SK2988J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア多量 しより多層よりやや多い
 - 4 暗褐色土 赤色スコリア少量 3層より多い
 - 5 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 6 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量



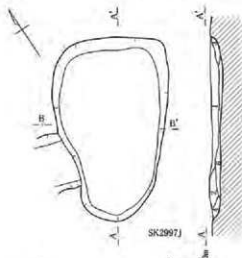
- SK2990J
- 1 暗褐色土 粒子粗い 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 粒子粗い 暗褐色土にローム粒子含む 赤色スコリア多量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土多量 赤・黒色スコリア微量



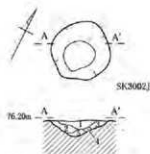
- SK2992J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア 1層より多い 赤色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 2層に似る 粘りより多いやや多い



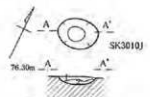
- SK2995J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア 赤・黒色スコリア 粘り炭化物粒子多量
 - 2 暗褐色土 ローム含む 赤色スコリア少量



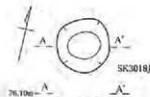
- SK2997J
- 1 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 1層に似るが赤色不明、砂子細い
 - 3 暗褐色土 色調明るい 赤・黒色スコリア・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 2層に似るがスコリア微量
 - 5 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量
 - 6 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア少量



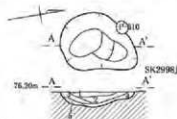
- SK3002J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 炭化物微量
 - 3 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 炭化物微量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土少量 赤色スコリア・炭化物微量
 - 5 暗褐色土 1層より明るい 赤色スコリア・炭化物微量



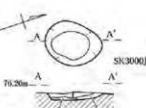
- SK3010J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・炭化物微量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭化物微量



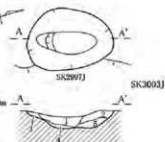
- SK3018J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア・炭化物微量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア・炭化物微量



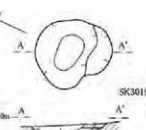
- SK2998J
- 1 暗褐色土 黒褐色少量 赤・黒・黒色スコリア・ローム粒子・炭・炭化物微量
 - 2 暗褐色土 黒褐色土1層より多量 赤・黒・黒色スコリア炭化物微量
 - 3 暗褐色土 赤・黒色スコリア微量
 - 4 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量
 - 5 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア微量 4層より明るい



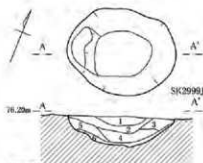
- SK3000J
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 赤・黒色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土・赤色スコリア少量



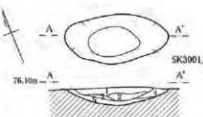
- SK3003J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 砂子細い 赤色スコリア
 - 3 暗褐色土 2層より明るい 赤色スコリア微量 ローム粒子少量 炭化物微量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土少量 赤・黒色スコリア微量
 - 5 暗褐色土 砂子細い 赤・黒色スコリア・炭化物微量



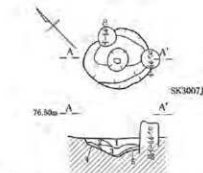
- SK3019J
- 1 暗褐色土 赤褐色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土・赤・黒色スコリア微量
 - 4 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量
 - 5 暗褐色土 赤色スコリア・炭化物微量



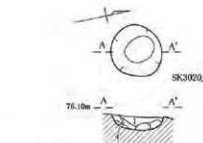
- SK2999J
- 1 暗褐色土 赤・黒色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 1層より明るい 赤・黒色スコリア少量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア・ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 5 暗褐色土 赤・黒色スコリア・ローム粒子少量
 - 6 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア微量



- SK3001J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 1層より明るい 赤・黒色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 赤色スコリア少量 1層より明るい
 - 5 暗褐色土 暗褐色土・赤・黒色スコリア少量

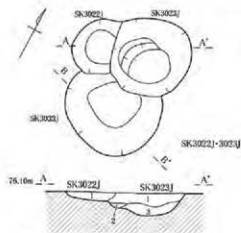


- SK3007J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・炭土微量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 1層より明るい 炭土・炭化物微量 ローム粒子多量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア・炭化物微量 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア微量
 - 5 暗褐色土 4層より粒子細い 赤・黒色スコリア微量

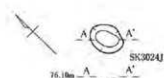
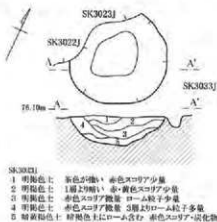


- SK3020J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 1層より明るい 炭土・炭化物微量 赤・黒色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土・赤・黒色スコリア少量 炭化物微量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土少量 赤・黒色スコリア微量

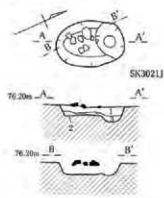
図面42 SK3021J~SK3024J・SK3026J・SK3028J・SK3030J~SK3032J・SK3033J・SK3034J土坑



- SK3022J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム含む 1層より少し深い
- SK3023J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量 黒色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤・黒・黄色スコリア・ローム粒子微量
 - 3 黄褐色土 暗褐色土に赤・黒・黄色スコリア微量



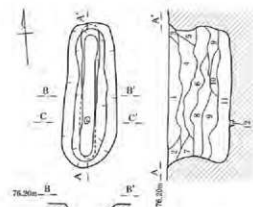
- SK3024J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子少量
 - 3 黄褐色土 暗褐色土に赤・黒・黄色スコリア少量 炭化物微量



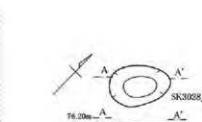
- SK3021J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭・炭化物・ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア少量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア微量



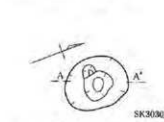
- SK3026J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア微量



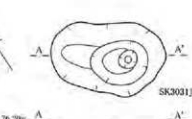
- SK3032J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 2層より少し深い 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 1層より少し深い 赤・黄色スコリア少量 赤色スコリア微量
 - 5 暗褐色土 4層に広がる赤・黄色スコリア・ローム粒子少量
 - 6 暗褐色土 6層に広がる赤・黄色スコリア微量 ローム少量
 - 7 暗褐色土 暗褐色土に赤・黒・黄色スコリア微量
 - 8 暗褐色土 8層より少し深い 暗褐色土に赤・黒・黄色スコリア微量
 - 9 黄褐色土 暗褐色土に赤・黒・黄色スコリア少量
 - 10 暗褐色土 赤・黒・黄色スコリア少量
 - 11 暗褐色土 粒子粗い、スコリア・ローム粒子少量
 - 12 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量



- SK3028J
- 1 暗褐色土 赤・黒・黄色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 黒色スコリア微量 1層より少し深い



- SK3030J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 3 黄褐色土 暗褐色土に赤・黒・黄色スコリア・炭化物微量
 - 4 暗褐色土 赤・黒・黄色スコリア・炭化物微量

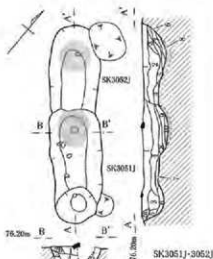


- SK3031J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 赤・黄色スコリア少量 黒色スコリア・ローム粒子微量
 - 3 暗褐色土 赤・黒・黄色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 赤・黒・黄色スコリア微量
 - 5 暗褐色土 2層より少し深い 赤・黒・黄色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 6 暗褐色土 赤・黒・黄色スコリア微量

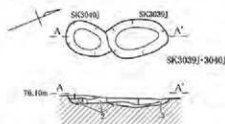


- SK3034J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 黄色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土にローム粒子含む 赤・黒色スコリア少量 炭化物微量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム少量 炭化物微量
 - 4 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム少量

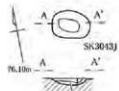




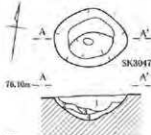
- SK3051J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スクリア少量 ローム粒子微量
 - 2a 暗褐色土 赤色スクリア・焼土微量 ローム粒子少量
 - 2b 暗褐色土 2a層に似るが、土質が硬い
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 3層に似るが焼土多量
 - 5 暗褐色土 赤色スクリア・焼土微量 ローム粒子少量
 - 6 暗褐色土 5層に似るがロームブロック多量
 - 7 暗褐色土 6層に似るがロームブロック少量 土質が硬い
 - 8 暗褐色土 焼土多量 ローム粒子少量
 - 9 暗褐色土 焼土含む 色濃黒い
 - 10 暗褐色土 白土 暗褐色土上層
 - 11 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 焼土少量
- SK3052J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スクリア・焼土・ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤・黄色スクリア・焼土・ローム粒子多量
 - 3 暗褐色土 粒子粗い 赤・黄色スクリア・炭化物微量 焼土多量 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スクリア・焼土微量
 - 5 暗褐色土 焼土多量 ローム粒子微量
 - 6 暗褐色土 赤・黄色スクリア・焼土・ローム粒子少量
 - 7 暗褐色土 焼土含む 色濃黒い
 - 8 暗褐色土 焼土多量



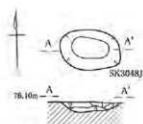
- SK3039J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スクリア少量 赤色スクリア・ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 1層よりも明るい 赤・黄色スクリア微量 ローム多量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黄色スクリア微量
- SK3040J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スクリア微量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土・赤・黄色スクリア・炭化物微量
 - 3 暗褐色土 ロームブロック



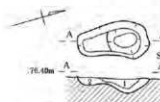
- SK3043J
- 1 暗褐色土 赤色スクリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土少量 赤色スクリア微量



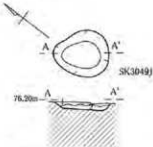
- SK3047J
- 1 暗褐色土 赤・黄色スクリア多量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 赤色スクリア微量 ローム粒子微量
 - 3 暗褐色土 赤・黄色スクリア微量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土にローム粒子含む 赤・黄色スクリア微量



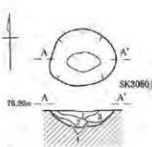
- SK3048J
- 1 暗褐色土 赤色スクリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 1層よりも明るい 赤色スクリア微量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 赤色スクリア微量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スクリア微量



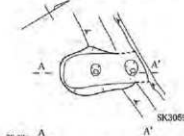
- SK3055J
- 1 暗褐色土 赤色スクリア微量
 - 2 暗褐色土 1層よりも明るい 赤・黄色スクリア・ローム粒子少量



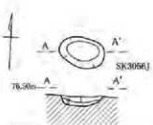
- SK3049J
- 1 暗褐色土 赤色スクリア少量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土少量 赤色スクリア微量



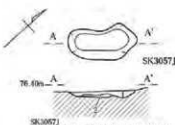
- SK3060J
- 1 暗褐色土 赤色スクリア少量
 - 2 暗褐色土 赤色スクリア・炭化物微量
 - 3 暗褐色土 2層よりも明るい 赤色スクリア多量 炭化物微量
 - 4 暗褐色土 赤・黄色スクリア微量



- SK3059J
- 1 暗褐色土 赤色スクリア・ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤色スクリア・焼土微量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 粒が粗い 赤色スクリア・ローム粒子微量
 - 4 暗褐色土 赤色スクリア・焼土微量 ローム粒子多量
 - 5 暗褐色土 粒が粗い ローム粒子多量
 - 6 暗褐色土 赤色スクリア微量 ロームブロック多量
 - 7 暗褐色土 6層に似るが粒子が粗い
 - 8 暗褐色土 ローム含む層に似る 粒が粗い

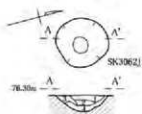


- SK3056J
- 1 暗褐色土 赤色スクリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 赤・黄色スクリア微量

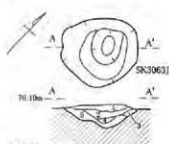


- SK3057J
- 1 暗褐色土 暗褐色土少量 焼土・ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土少量 焼土微量

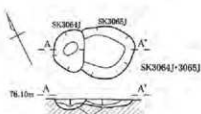




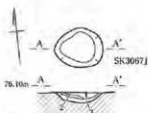
- SK3062J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 黒い砂少量 赤色スコリア微量
 - 3 明褐色土 赤色スコリア微量
 - 4 暗黄褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量



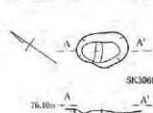
- SK3063J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 1層より明るい 赤色スコリア少量
 - 3 明褐色土 赤色スコリア微量
 - 4 明褐色土 赤・黄褐色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 5 暗黄褐色土 明褐色土にローム含む 赤色スコリア微量



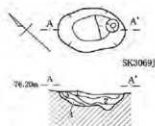
- SK3064J
- 1 暗褐色土 赤・黒色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗黄褐色土 赤・黒色スコリア微量



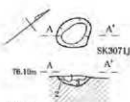
- SK3067J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子微量
 - 2 暗褐色土 1層より明るい 赤色スコリア微量
ローム粒子少量 炭化物微量
 - 3 明褐色土 赤色スコリア微量 炭化物微量



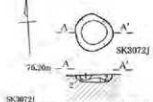
- SK3068J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子多量
 - 3 明褐色土 赤色スコリア微量
 - 4 暗黄褐色土 赤色スコリア微量 L.多り強い



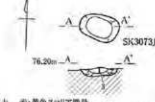
- SK3069J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 1層に砂がやや多い
 - 3 暗黄褐色土 暗褐色土を含む 赤色スコリア微量
 - 4 暗黄褐色土 赤色スコリア微量 L.多り強い



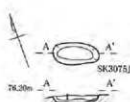
- SK3071J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 3 暗黄褐色土 赤色スコリア微量 L.多り強い



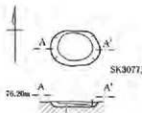
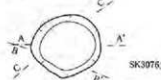
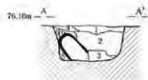
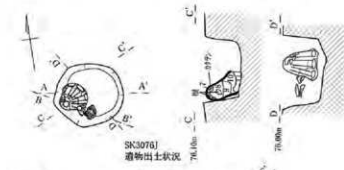
- SK3072J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・炭化物微量
 - 2 明褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア少量
炭化物微量
 - 3 明褐色土 赤色スコリア微量



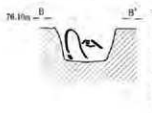
- SK3073J
- 1 暗褐色土 赤・黄褐色スコリア微量
 - 2 明褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア少量
炭化物微量
 - 3 明褐色土 赤色スコリア微量



- SK3075J
- 1 明褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量

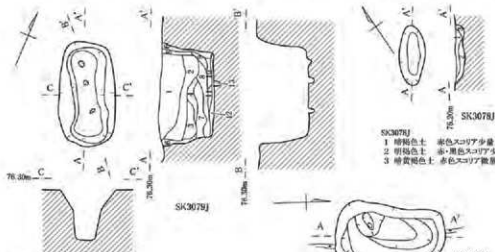


- SK3077J
- 1 明褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 2 暗黄褐色土 赤色スコリア微量

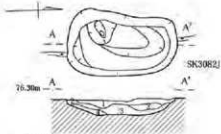


- SK3078J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量 ロームブロック少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア・ロームブロック多量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア・ロームブロック微量 粘性非常に強い
 - 4 暗褐色土 黒色スコリア微量 ローム少量 やや強い
 - 5 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム多量
 - 6 暗褐色土 3層と明るいL.多り強い
 - 7 暗褐色土 ローム粒子多量
 - 8 暗褐色土 1層と明るいL.やや強い
 - 9 暗褐色土 暗褐色土少量 ローム粒子多量
 - 10 暗褐色土 ローム粒子多量 L.多り強い
 - 11 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子多量

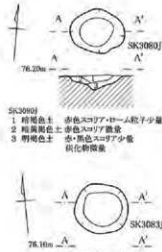




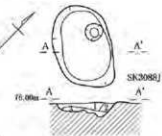
- SK3078J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 黒色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 2層より明色、赤・黒色スコリア・ローム粒子少量 炭化物微量
 - 4 暗褐色土 赤色スコリア少量
 - 5 暗褐色土 4層より明色、赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 6 暗褐色土 ローム含む 赤・黒色スコリア微量
 - 7 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量
 - 8 暗褐色土 粒子が粗い、赤・黒色スコリア・黒色スコリア微量
 - 9 暗褐色土 5層に広がる、赤・黒色スコリア微量
 - 10 暗褐色土 6層に広がる、赤・黒色スコリア微量
 - 11 暗褐色土 8層に広がる、赤・黒色スコリア微量
 - 12 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア微量
 - 13 暗褐色土 黄褐色土を含む 赤色スコリア微量 黒色スコリア微量



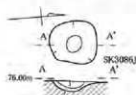
- SK3082J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア・炭化物微量
 - 4 暗褐色土 暗褐色土少量 赤色スコリア微量



- SK3080J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 炭化物微量



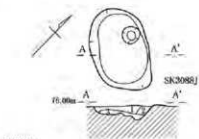
- SK3083J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア微量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア少量



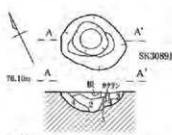
- SK3086J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 1層より明色、ローム少量



- SK3087J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭土・炭化物微量 ロームブロック含む
 - 2 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア少量
 - 3 暗褐色土 赤色スコリア少量 黒色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色土 ローム含む 赤色スコリア微量



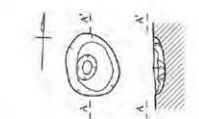
- SK3088J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア微量 ロームブロック少量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土少量 赤色スコリア少量



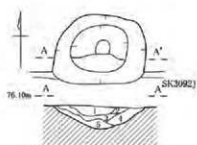
- SK3089J
- 1 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 黒色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 1層より明色、赤・黒色スコリア少量 黒色スコリア少量 炭化物微量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア少量
 - 4 暗褐色土 赤・黒・赤色スコリア少量



- SK3090J
- 1 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア少量
 - 4 暗褐色土 赤色スコリア少量 炭化物微量



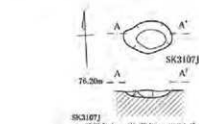
- SK3091J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色土 1層より明色、赤・黒色スコリア少量 ローム粒子少量 炭化物微量
 - 3 暗褐色土 暗褐色土にローム含む 赤・黒色スコリア少量



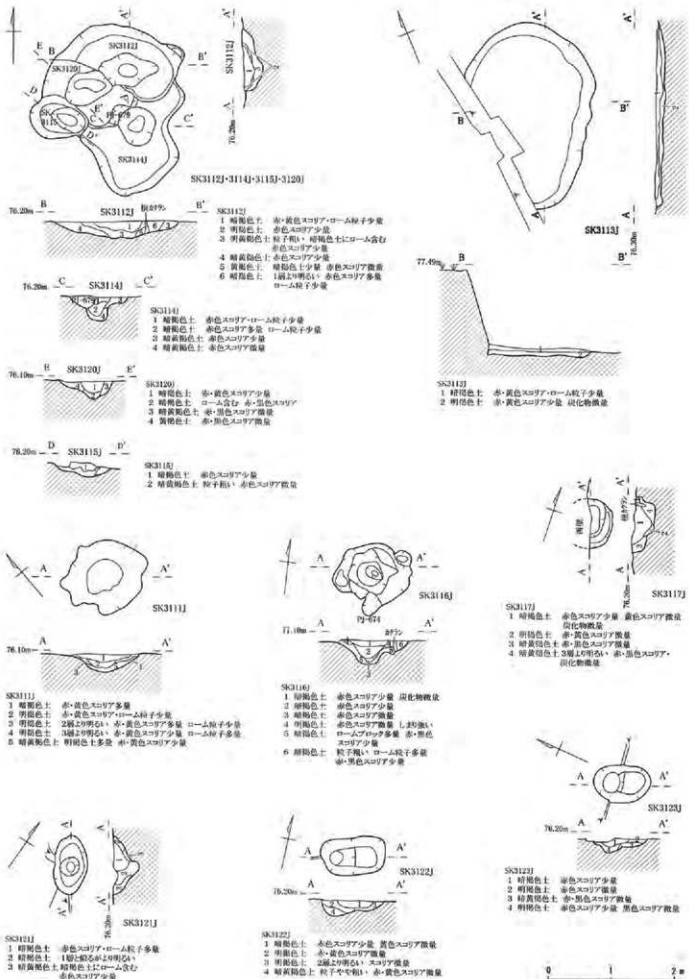
- SK3092J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量
 - 3 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 炭化物微量
 - 4 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量 炭化物微量
 - 5 暗褐色土 4層より明色、赤・黒色スコリア少量 炭化物微量



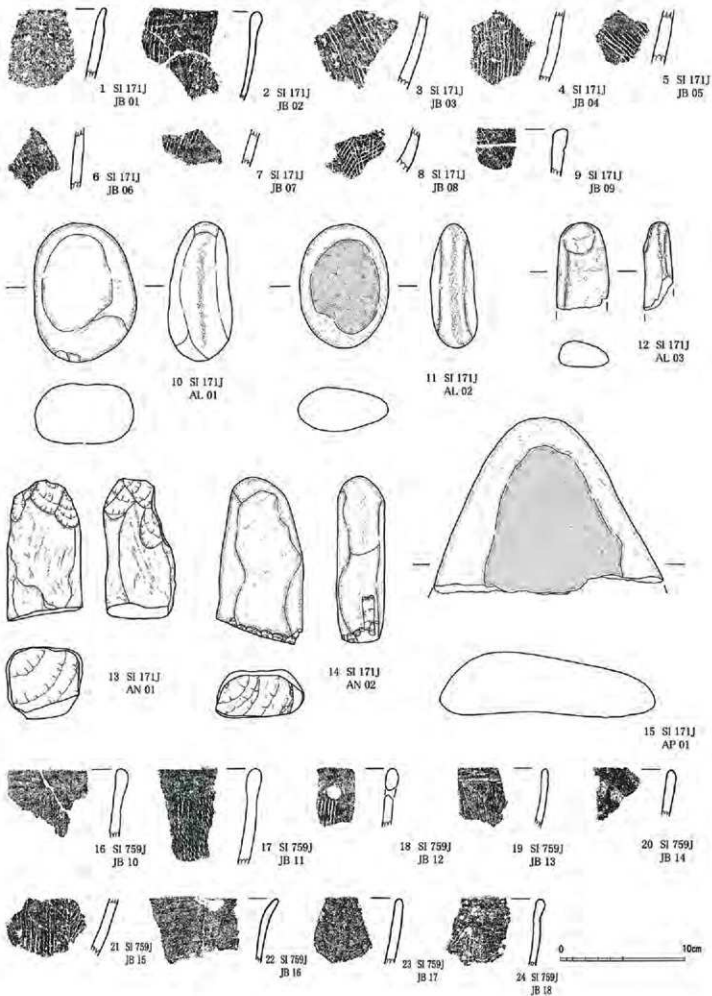
- SK3102J
- 1 暗褐色土 赤色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤色スコリア微量 黒色スコリア少量



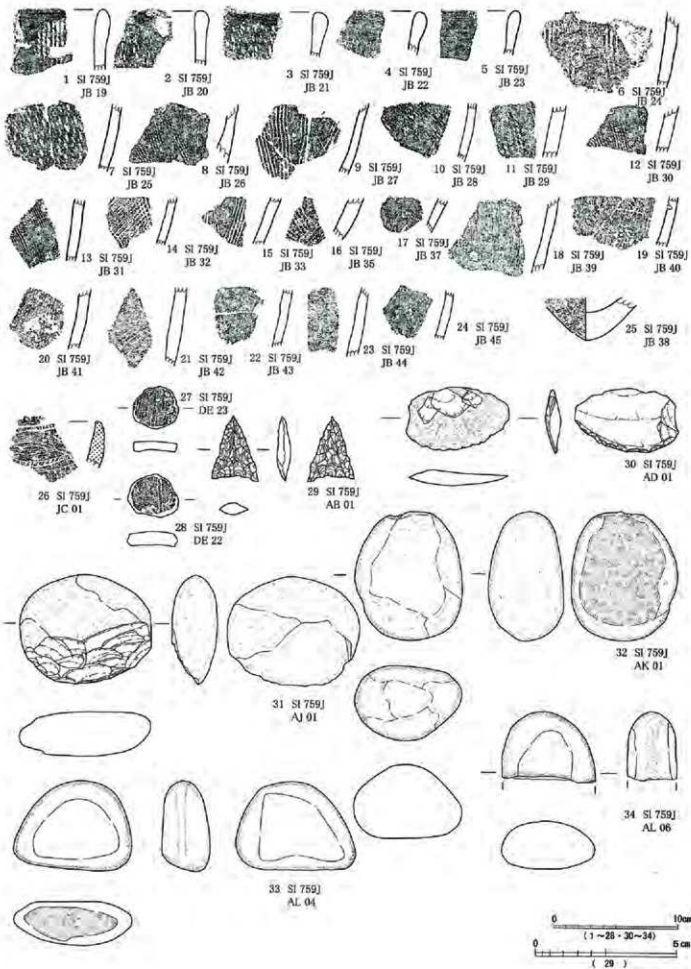
- SK3107J
- 1 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量
 - 2 暗褐色土 赤・黒色スコリア少量



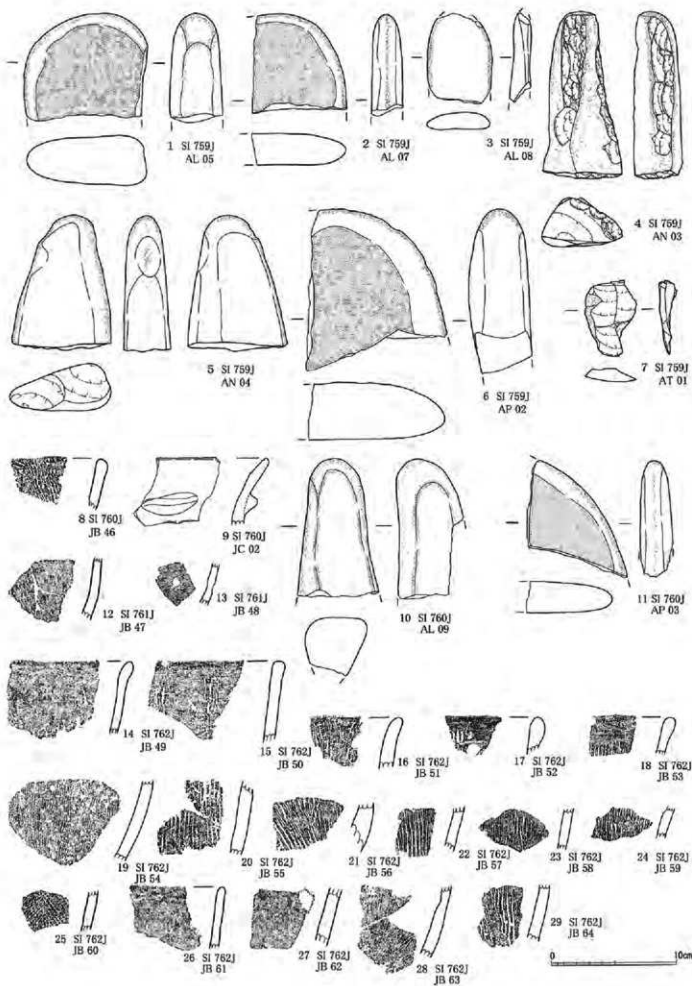
図面47 SI171J住居出土遺物・SI759J住居出土遺物(1)



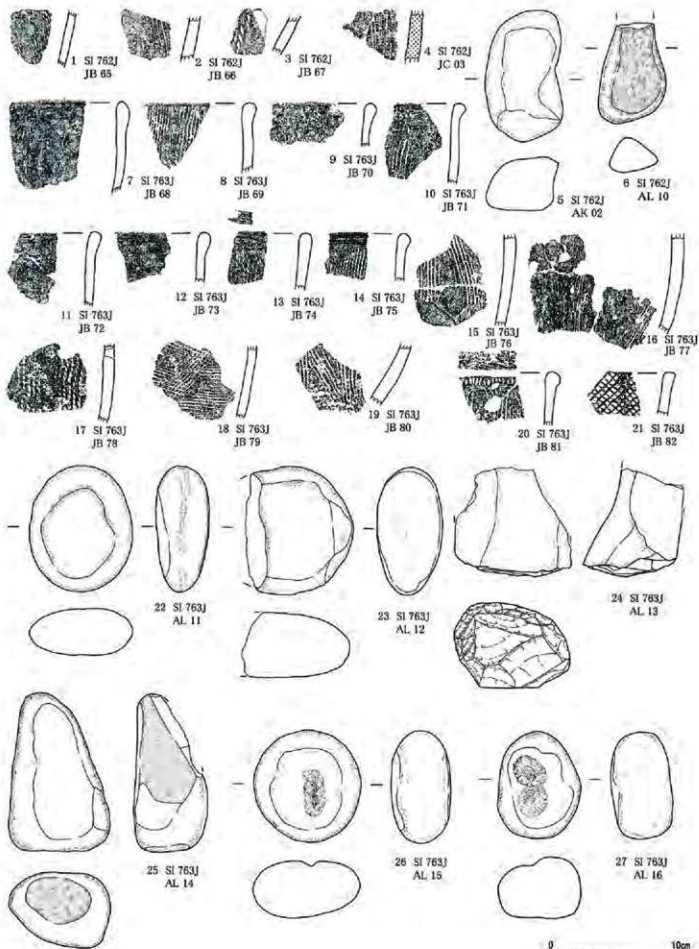
図面48 SI759J住居出土遺物(2)



図面49 SI759J住居出土遺物(3)・SI760J住居出土遺物・SI761J住居出土遺物・SI762J住居出土遺物(1)

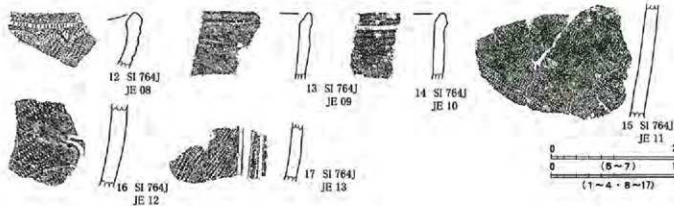
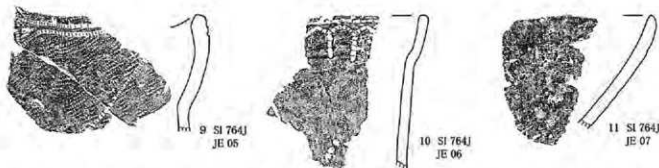
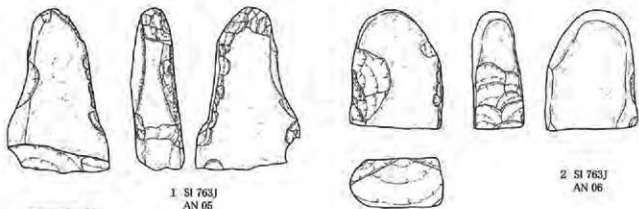


図面50 SI762J住居出土遺物(2)・SI763J住居出土遺物(1)



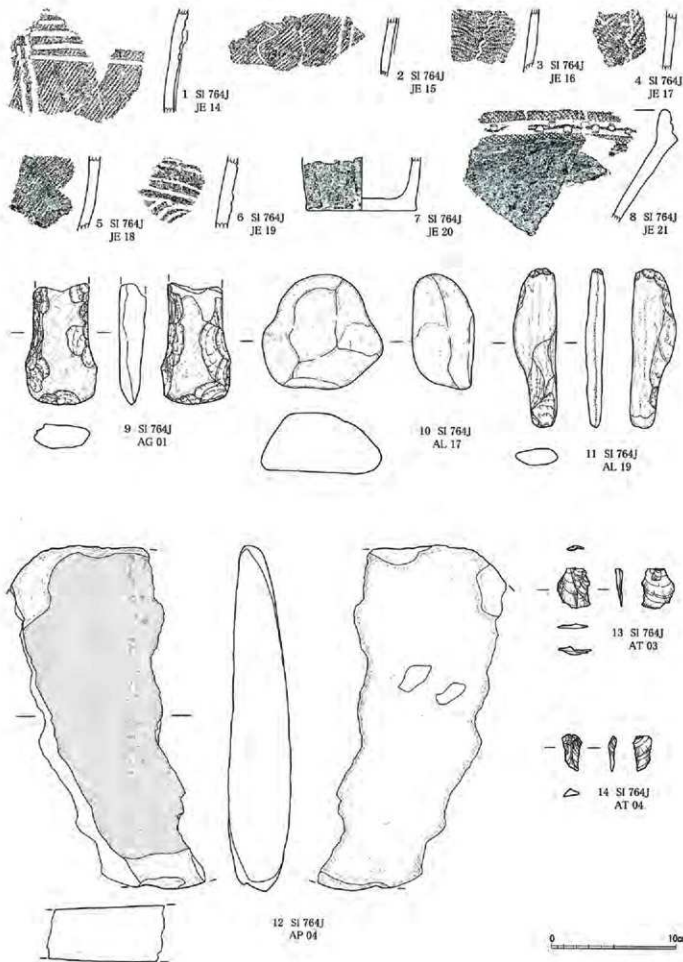
0 10cm

図面51 SI763J住居出土遺物(2)・SI764J住居出土遺物(1)

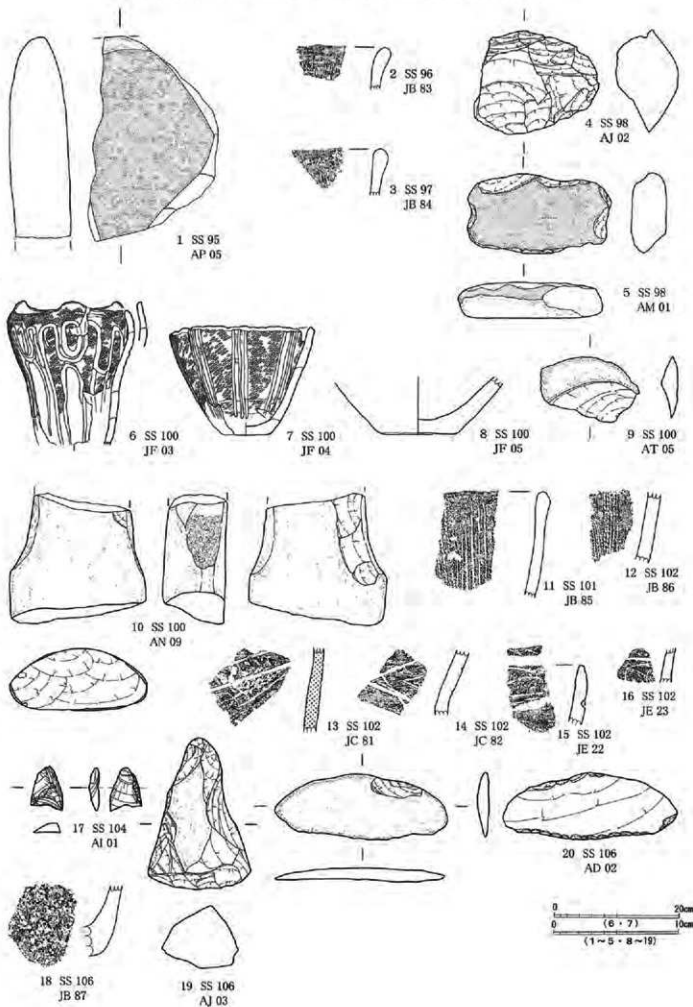


0 20cm
0 10cm
(5~7)
(1~4・8~17)

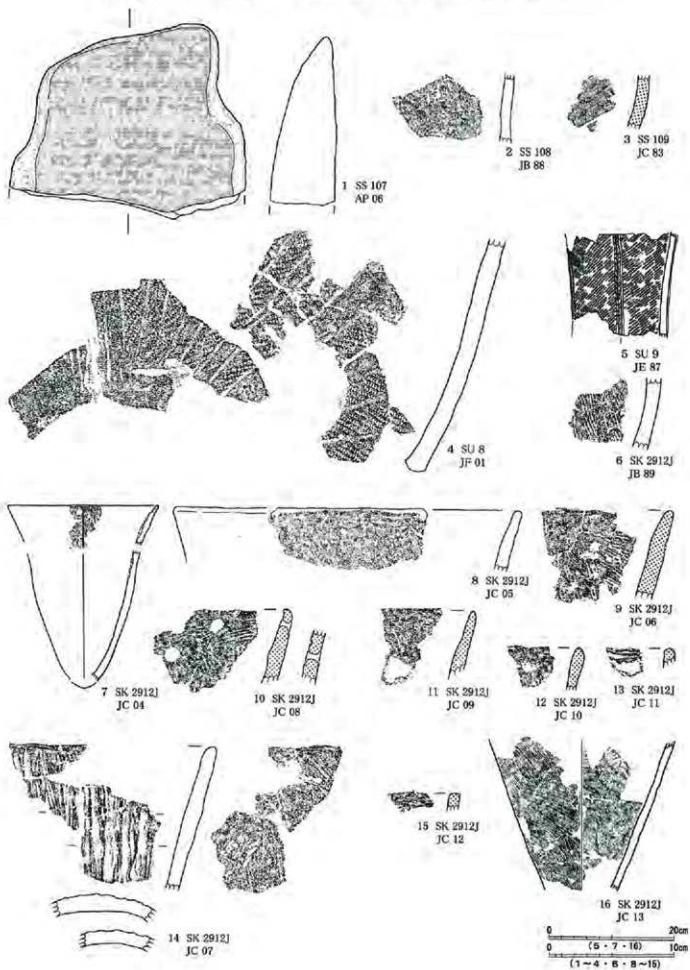
図面52 SI764J住居出土遺物(2)



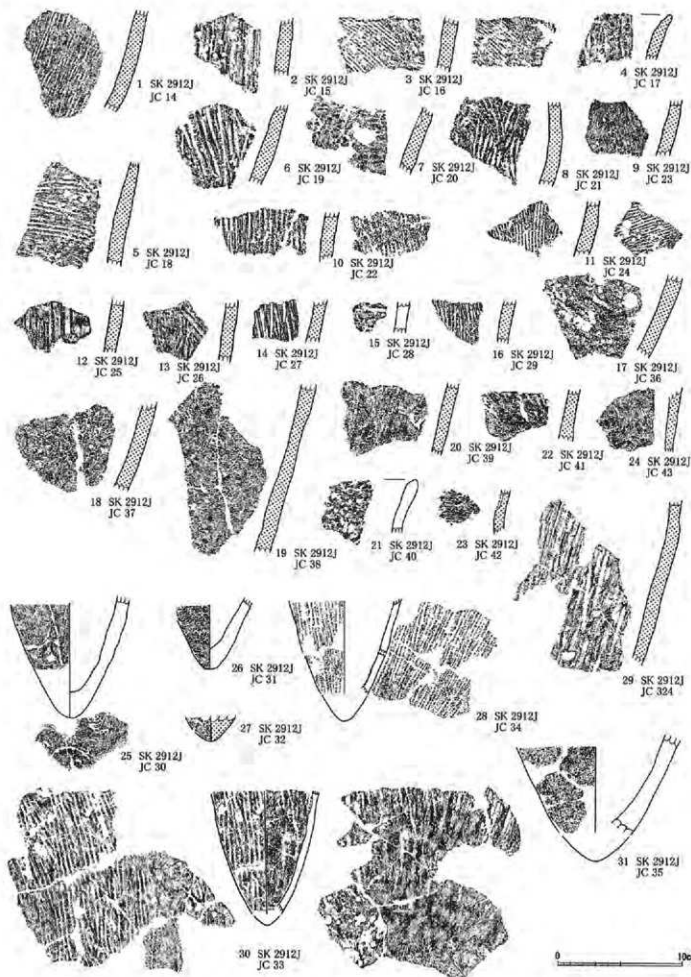
図面53 SS95~SS98・SS100~SS102・SS104・SS106集石出土遺物



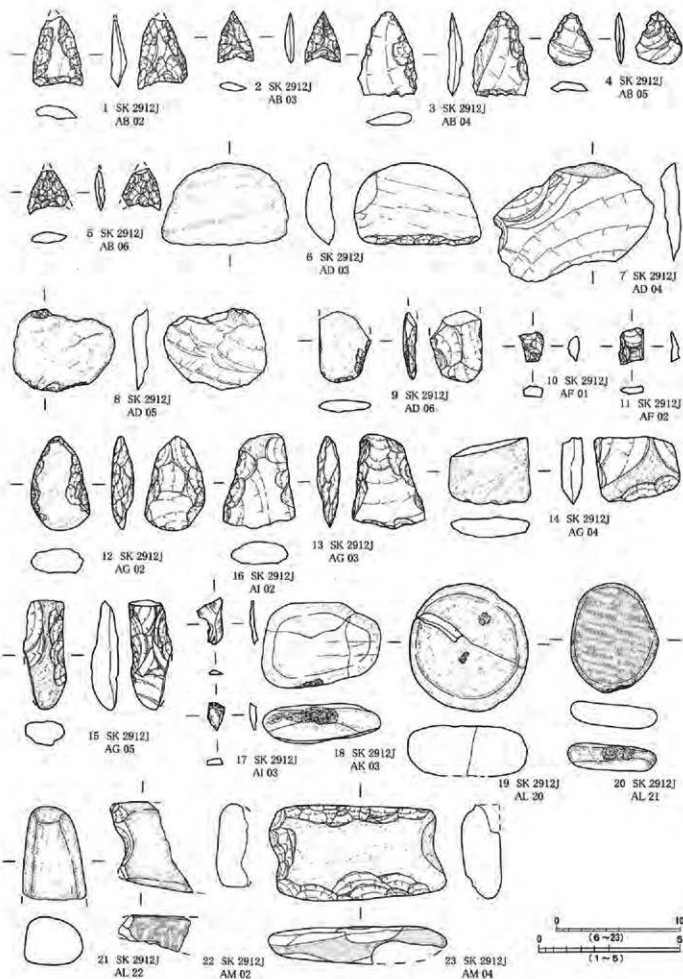
図面54 SS107~SS109集石、SU8・SU9層外埋壁、SK2912J土坑(1)出土遺物

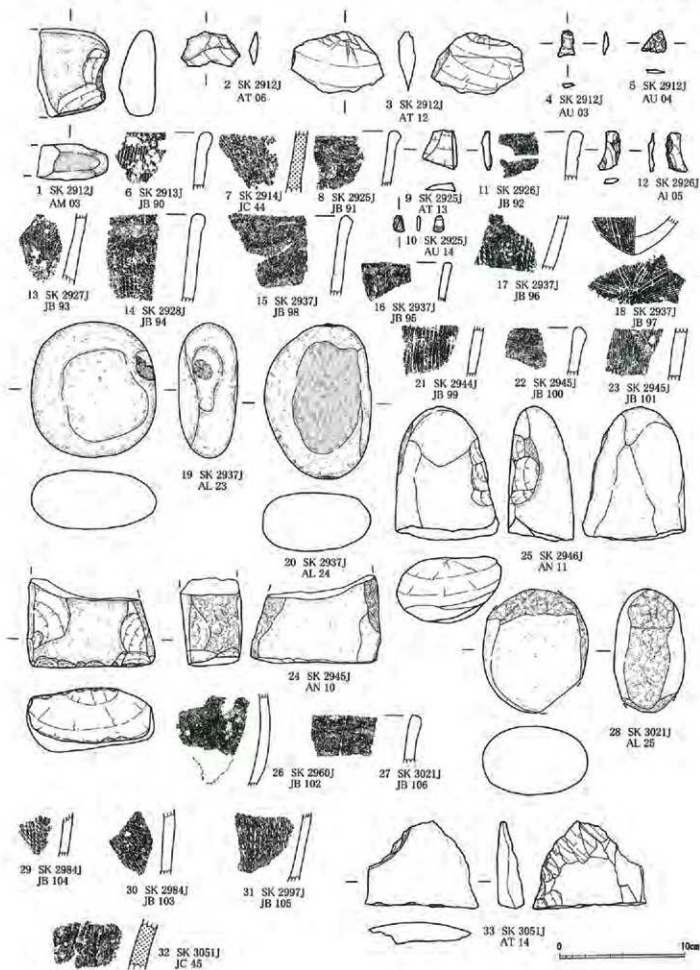


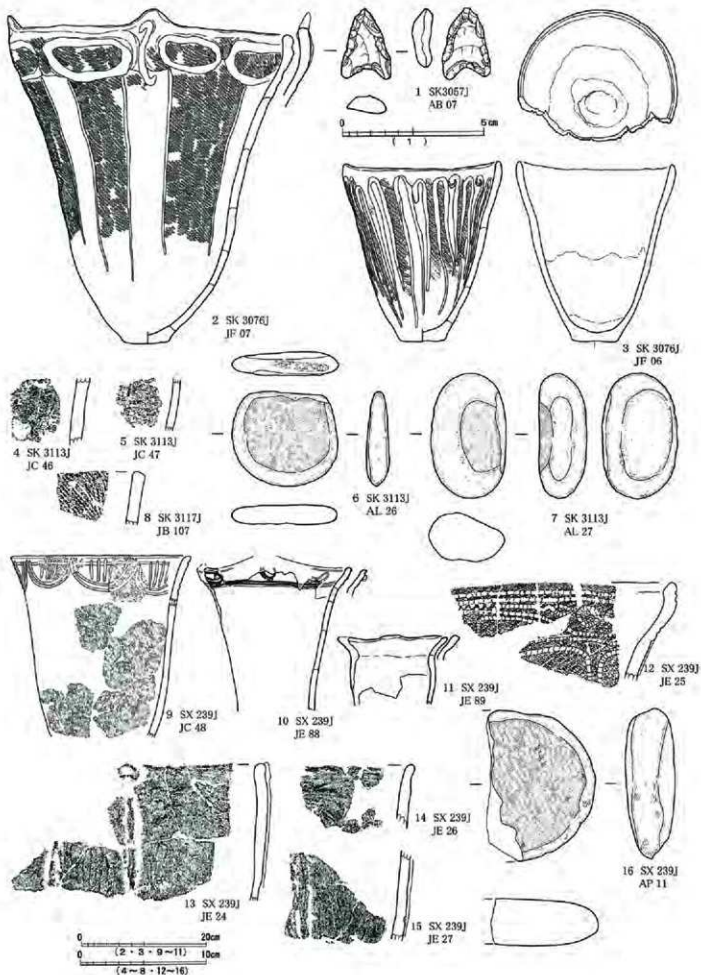
図面55 SK2912J土坑出土遺物(2)



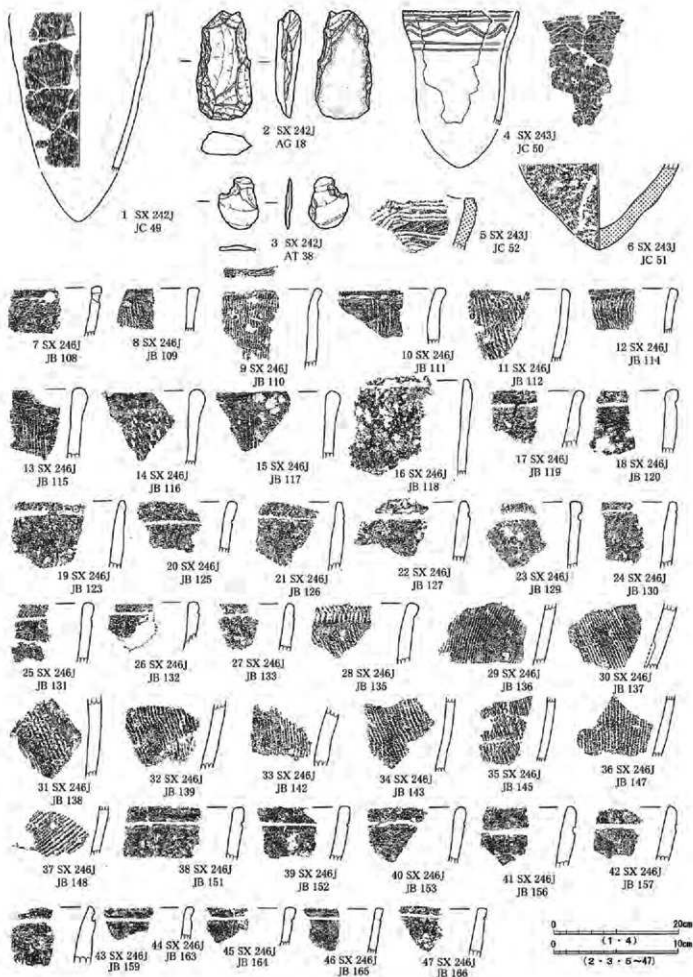
図面56 SK2912J土坑出土遺物(3)



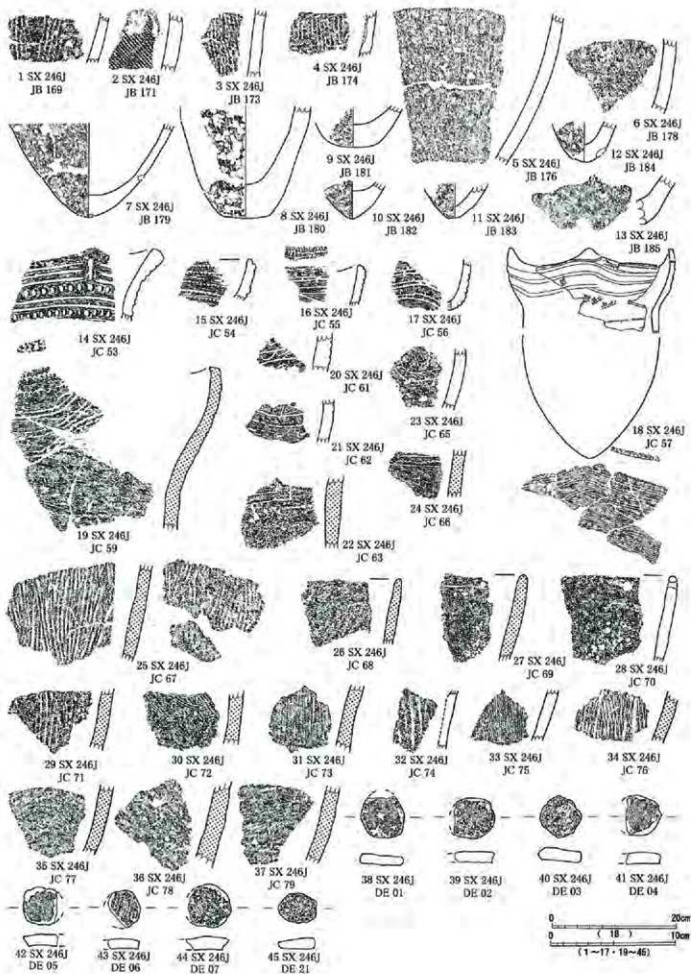




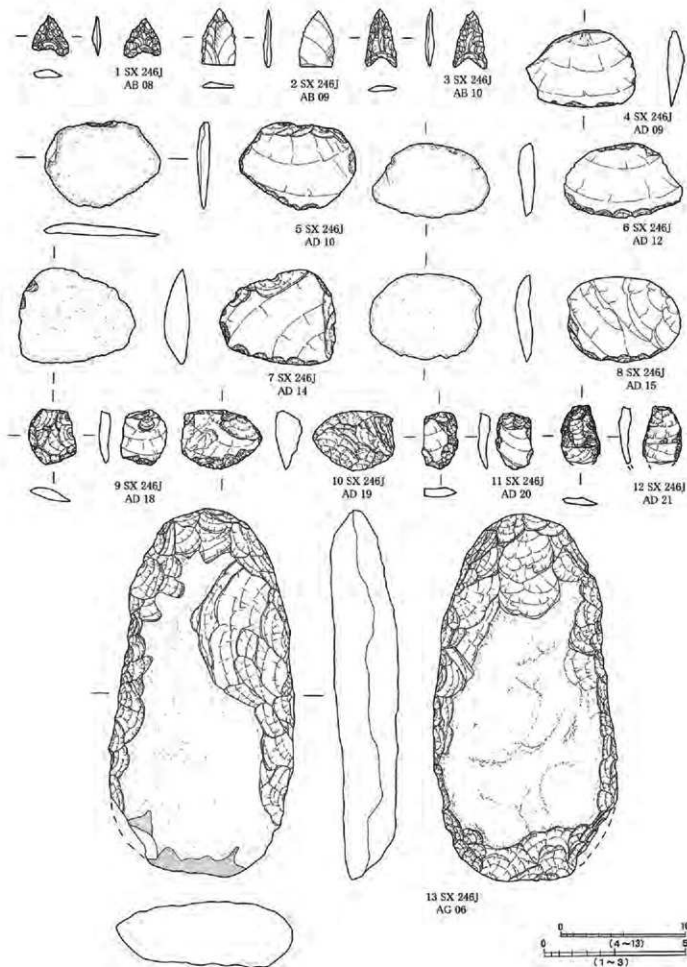
図面59 SX242J・SX243J・SX246J(1)遺物集中部出土遺物



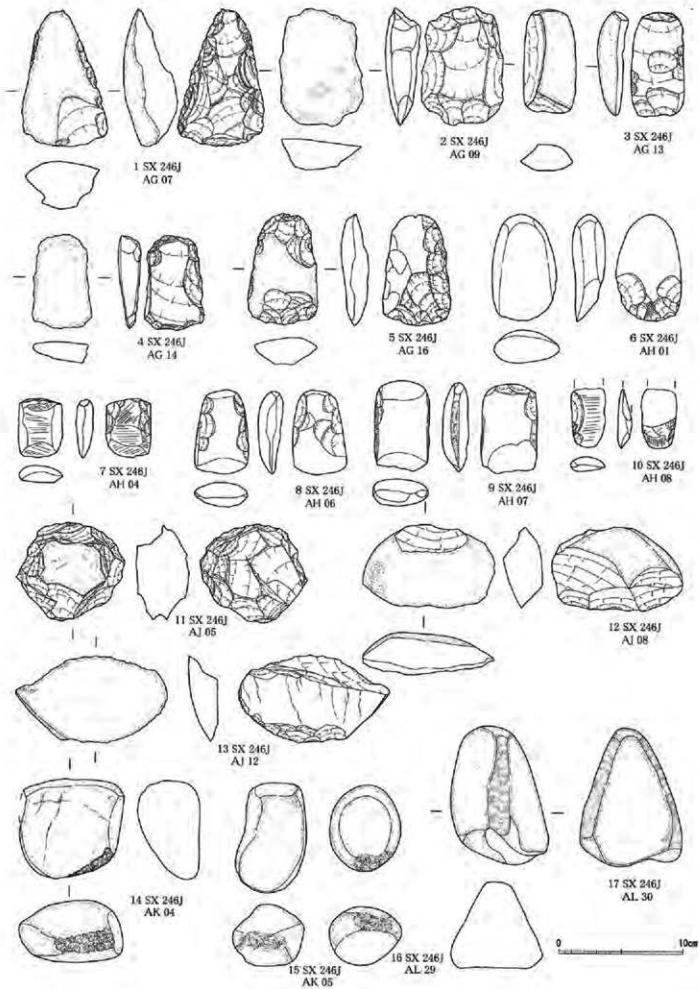
図面60 SX246J遺物集中部出土遺物(2)



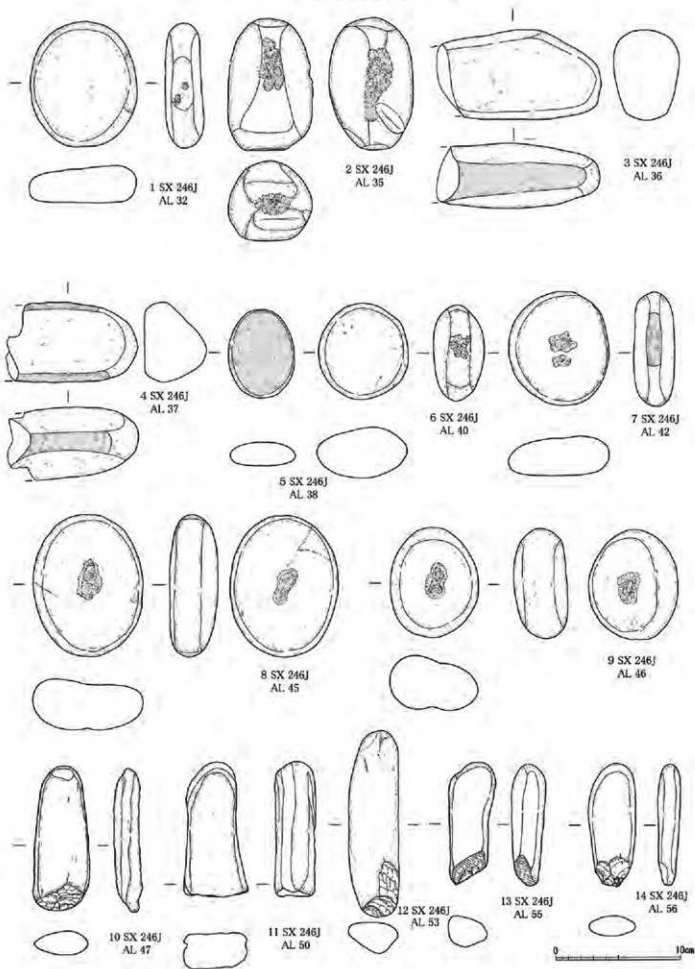
図面61 SX246J遺物集中部出土遺物(3)



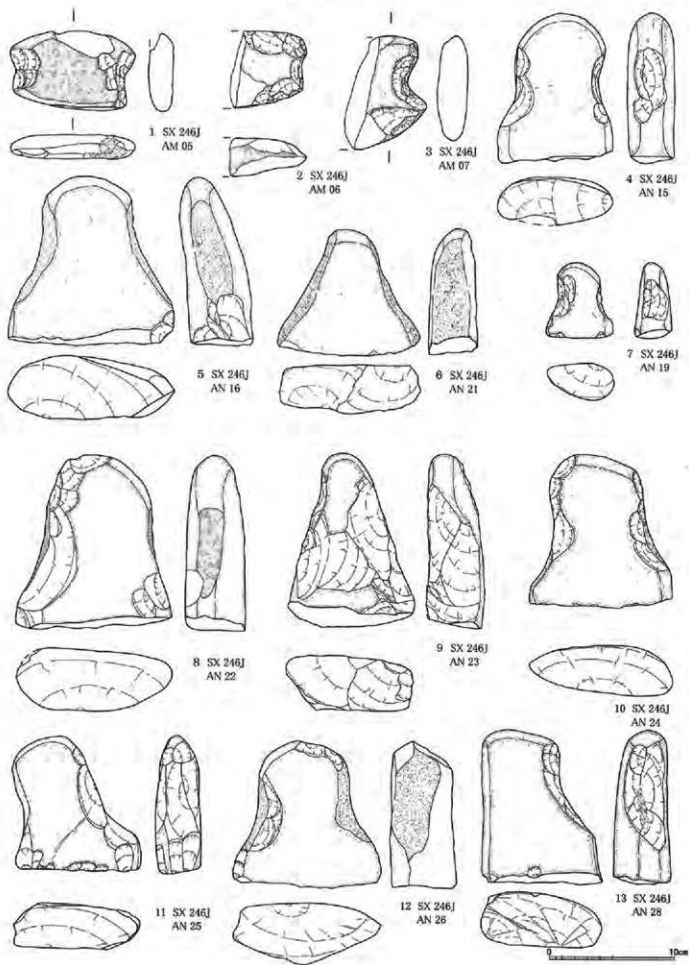
図面62 SX246J遺物集中部出土遺物(4)



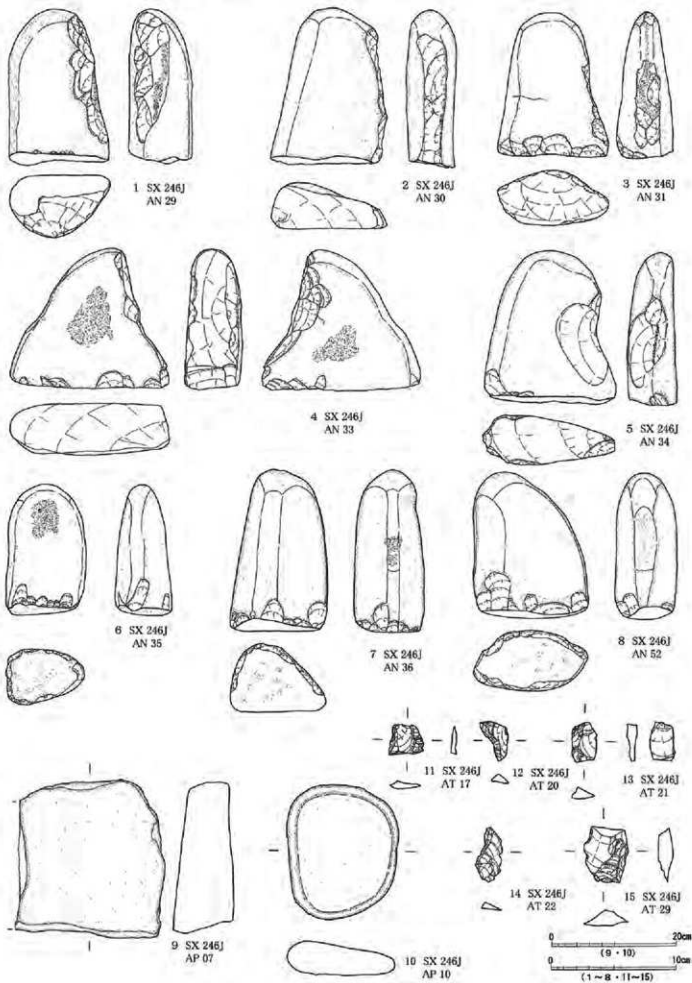
図面63 SX246J遺物集中部出土遺物(5)



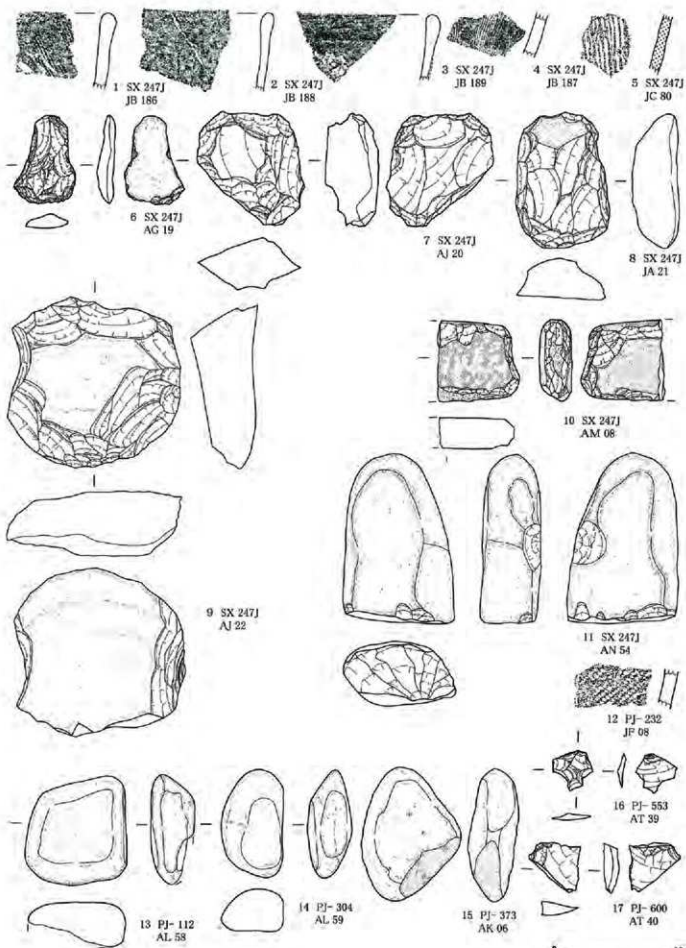
図面64 SX246J遺物集中部出土遺物(6)



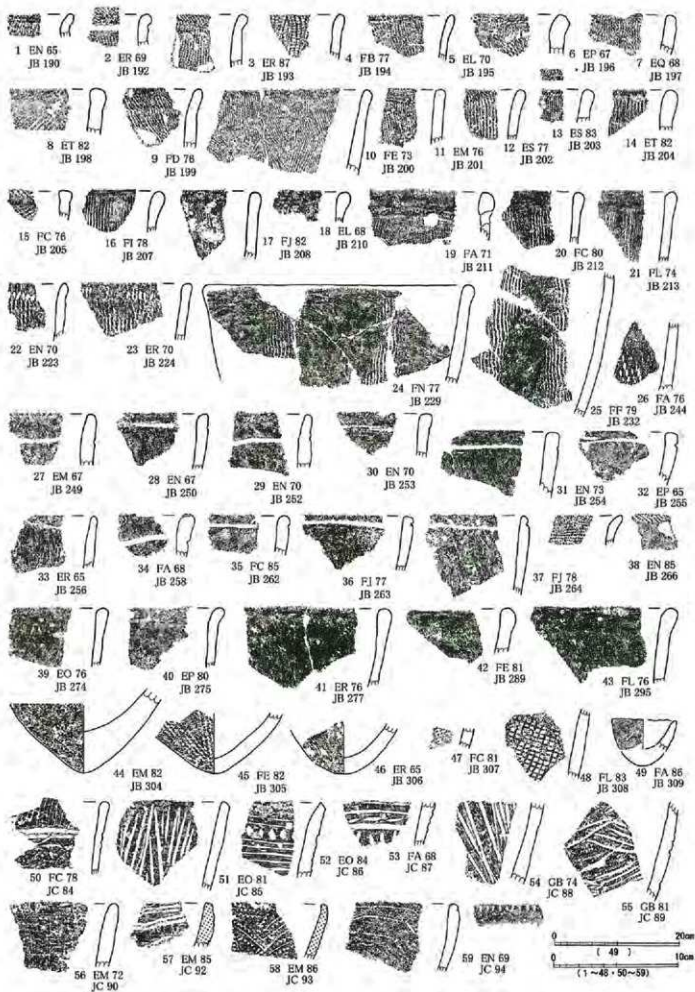
図面65 SX246J遺物集中部出土遺物(7)



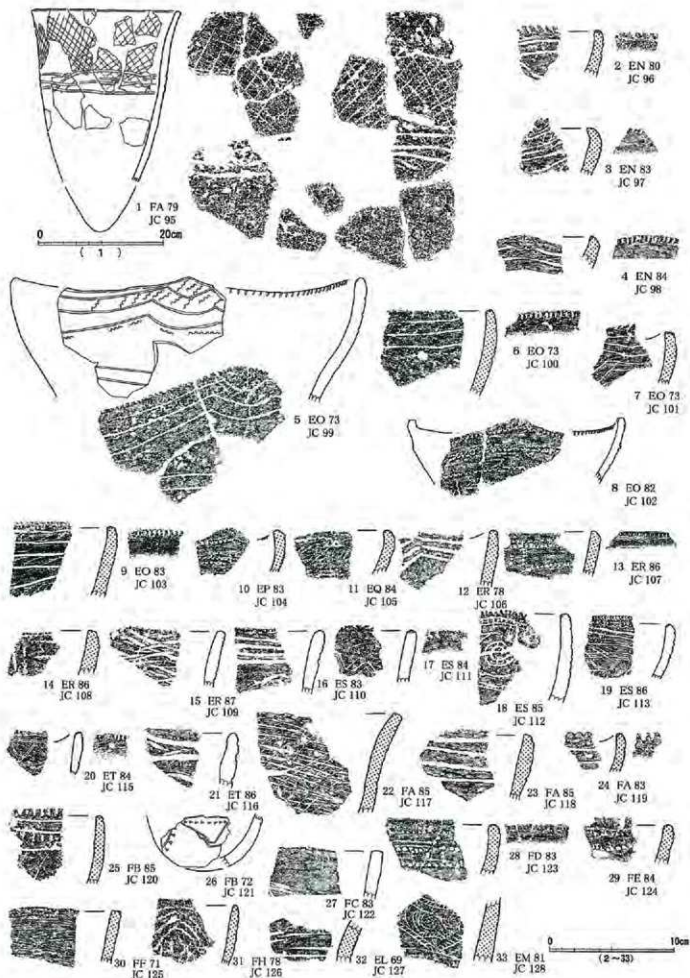
図面66 SX247J遺物集中部、PJ-112・PJ-232・PJ-304・PJ-373・PJ-553・PJ-600小穴出土遺物



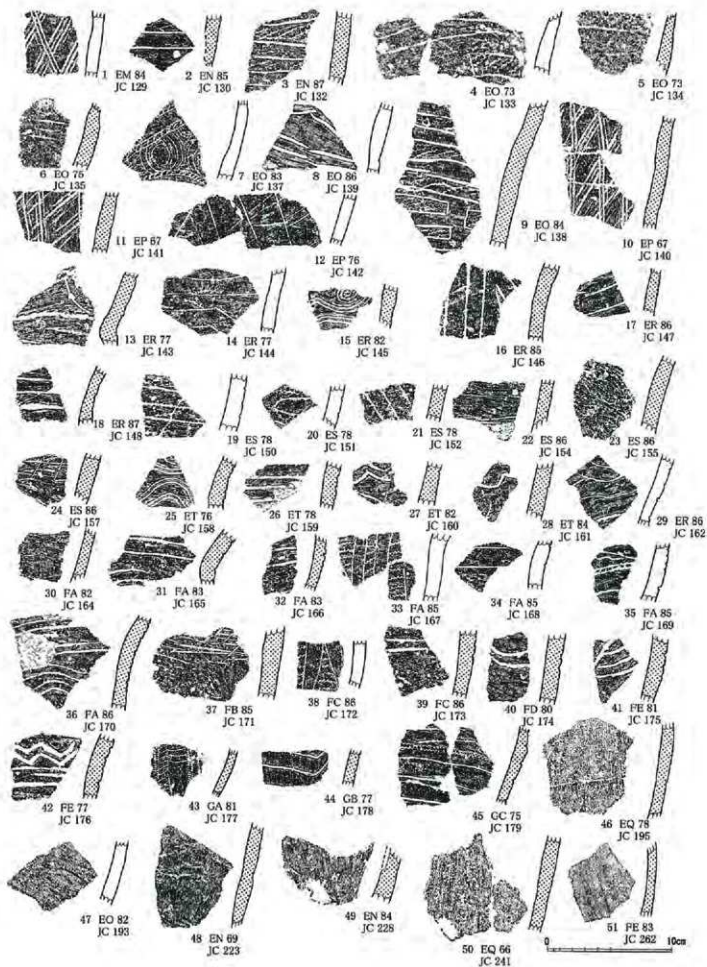
図面67 遺構外出土遺物(1)



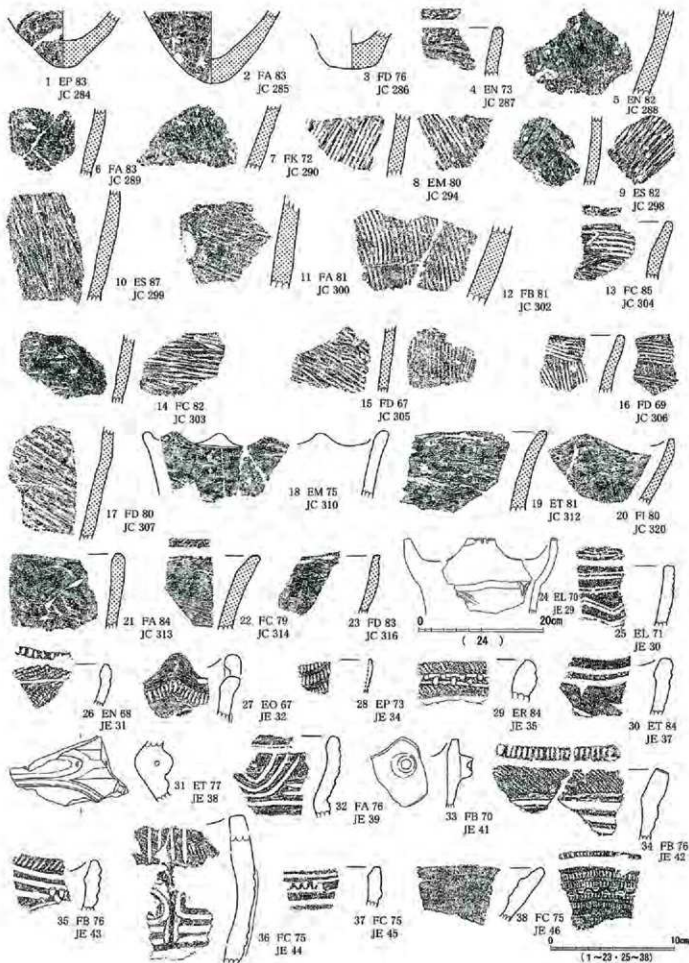
図面68 遺構外出土遺物(2)



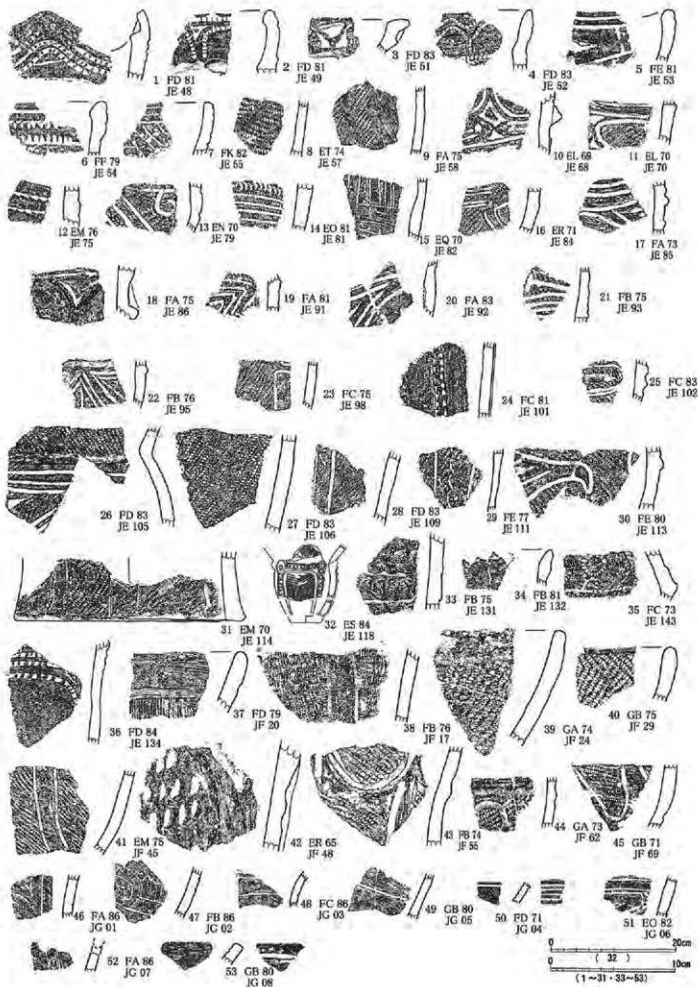
図面69 遺構外出土遺物(3)



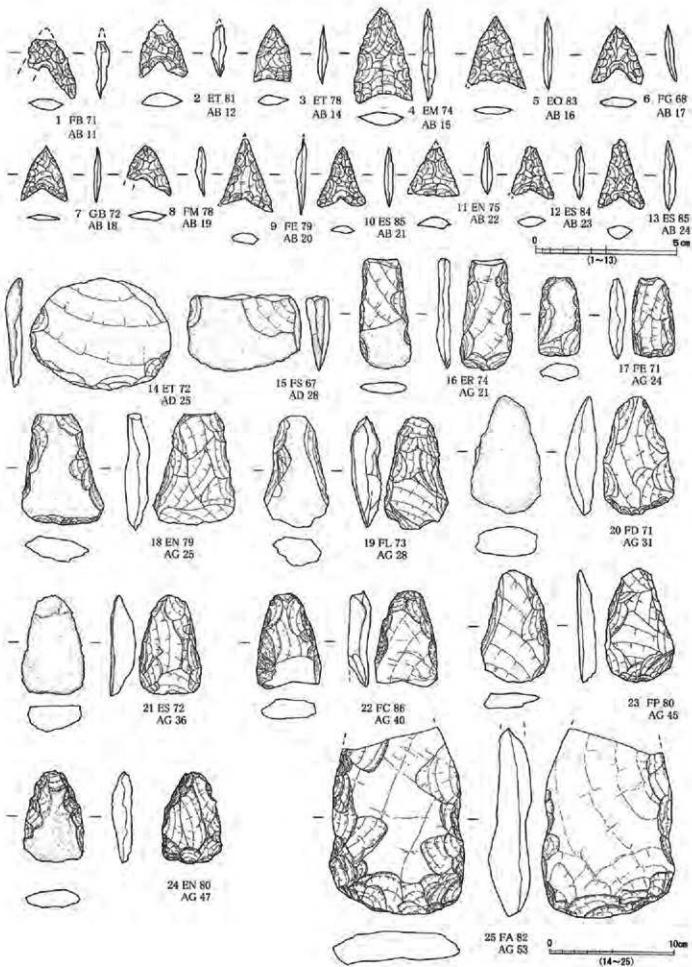
図面70 遺構外出土遺物(4)



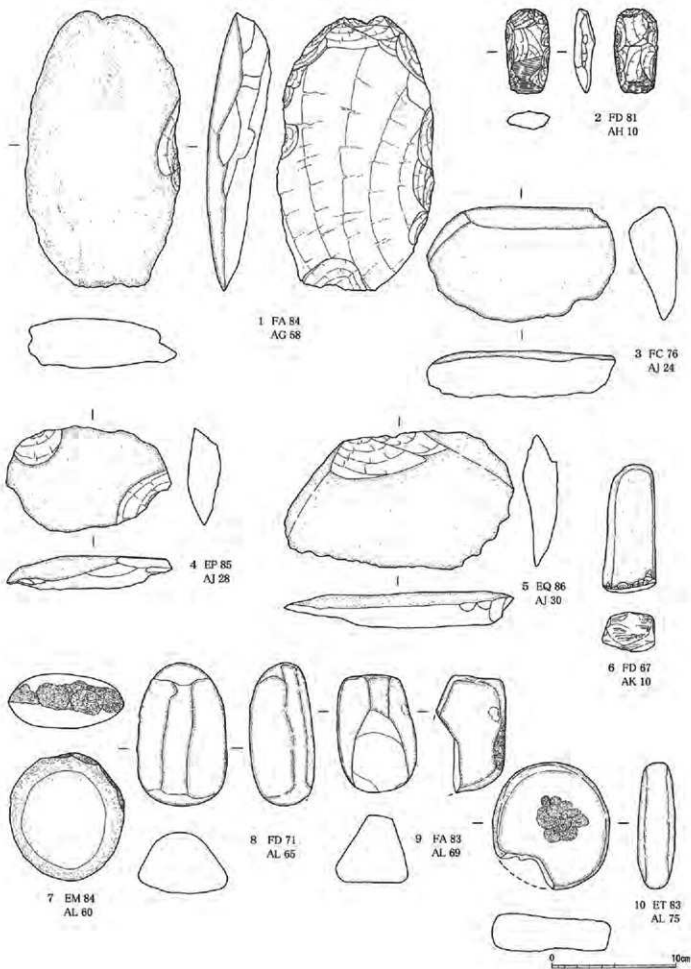
図面71 遺構外出土遺物(5)



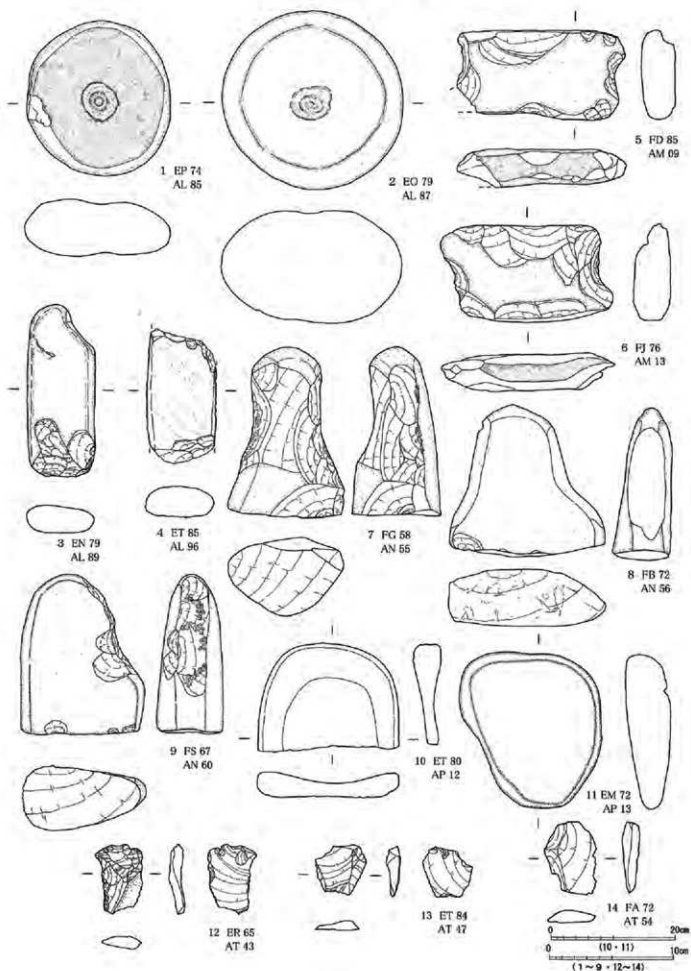
図面72 遺構外出土遺物(6)



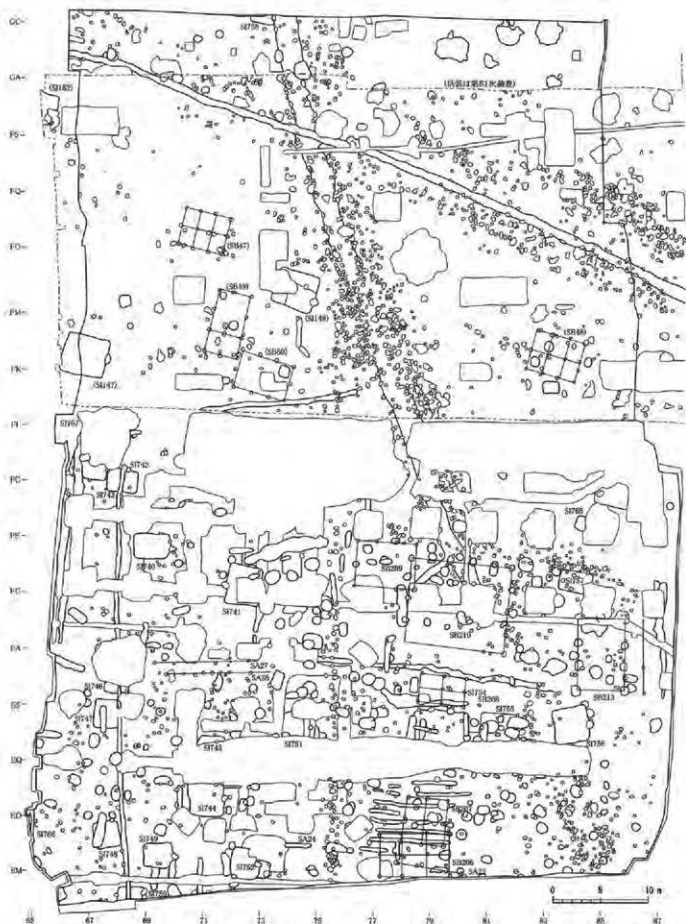
図面73 遺構外出土遺物(7)



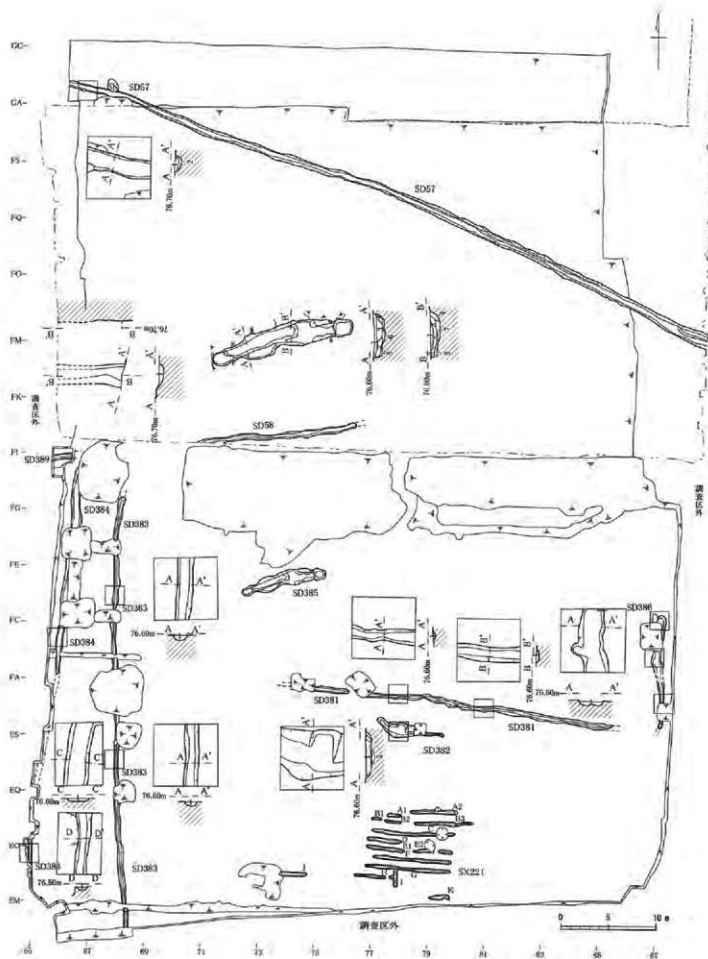
図面74 遺構外出土遺物(8)



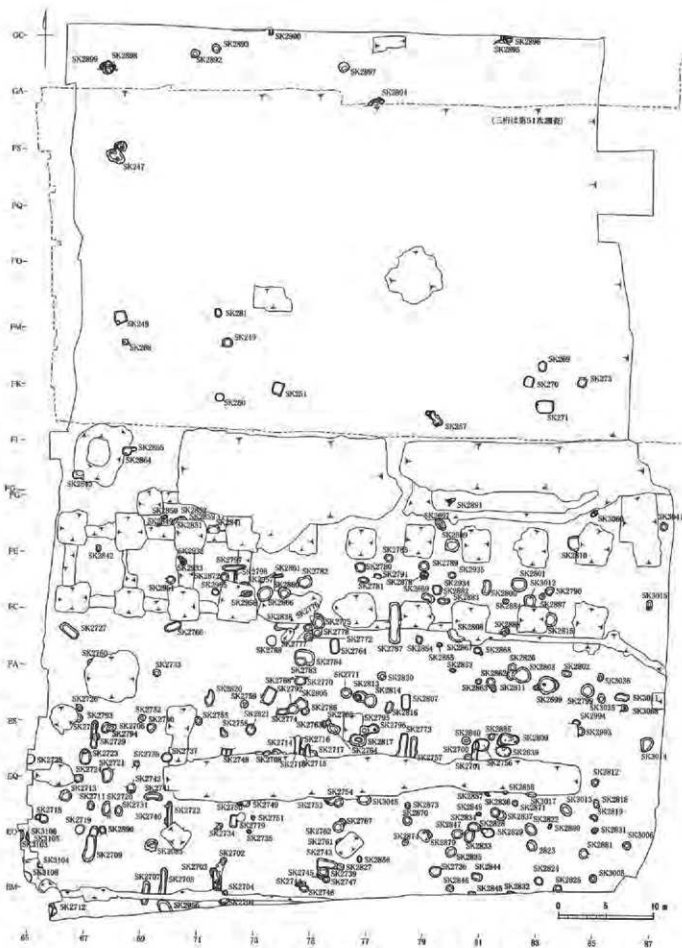
図面75 歴史時代遺構全体図



図面76 歴史時代溝状遺構分布図



圖面77 歷史時代土坑分布圖



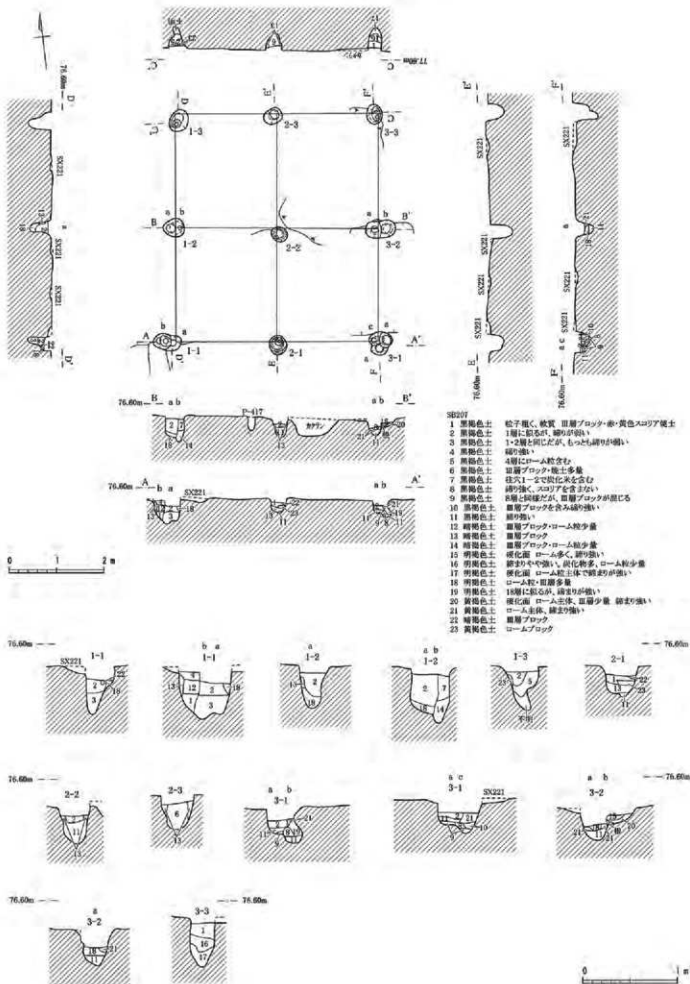
図面78 SB206掘立柱建物



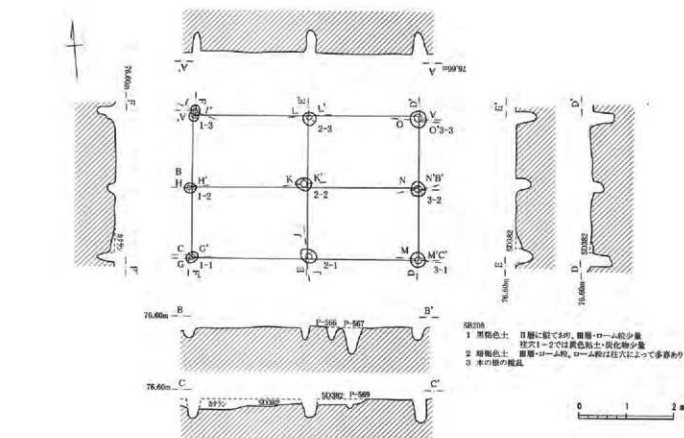
77.00m — —

77.00m — —

図面79 SB207掘立柱建物



図面80 SB208掘立柱建物



76.60m G 1-1 G'



H 1-2 H'



I 1-3 I'



J 2-1 J'



K 2-2 K'



L 2-3 L'



76.60m M 3-1 M'



N 3-2 N'

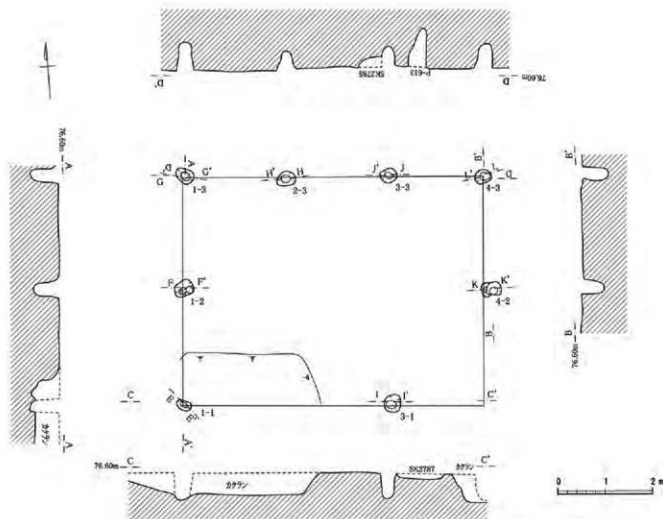


O 3-3 O'



0 1 2 m

図面81 SB209掘立柱建物



SB209

- 1 黄褐色土 柱間に於て軟質 田舎少量 柱穴3-1では粘土少量 柱穴3-3-4-2ではn-人形少量
 2 暗褐色土 田舎・ローム状 n-人形は柱穴によって多量あり 柱穴3-1では粘土少量
 3 明褐色土 田舎・n-人形多量 柱穴3-1では粘土少量
 4 明褐色土 硬質層

76.60m B I-1 J'



P I-2 P'



G I-3 G'



H I-4 H'



76.60m I I-5 I'



J I-6 J'



K I-7 K'

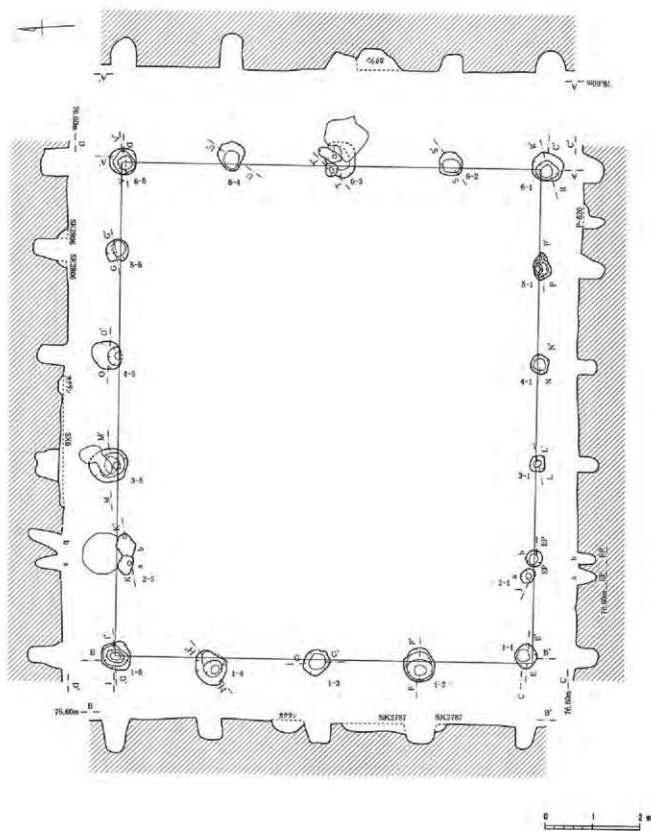


L I-8 L'

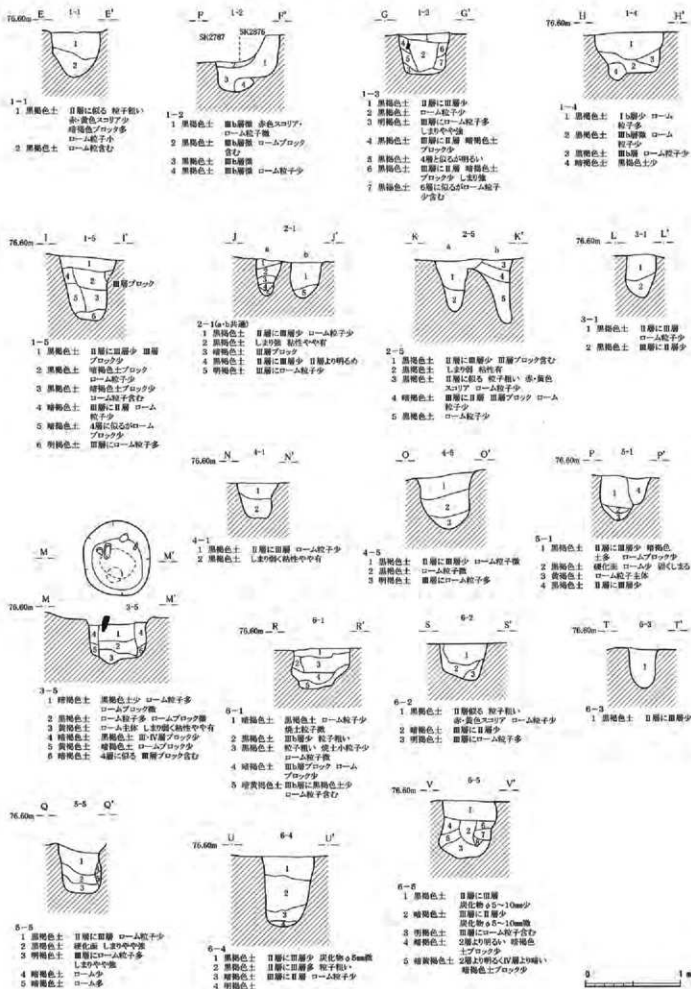


0 1 2 m

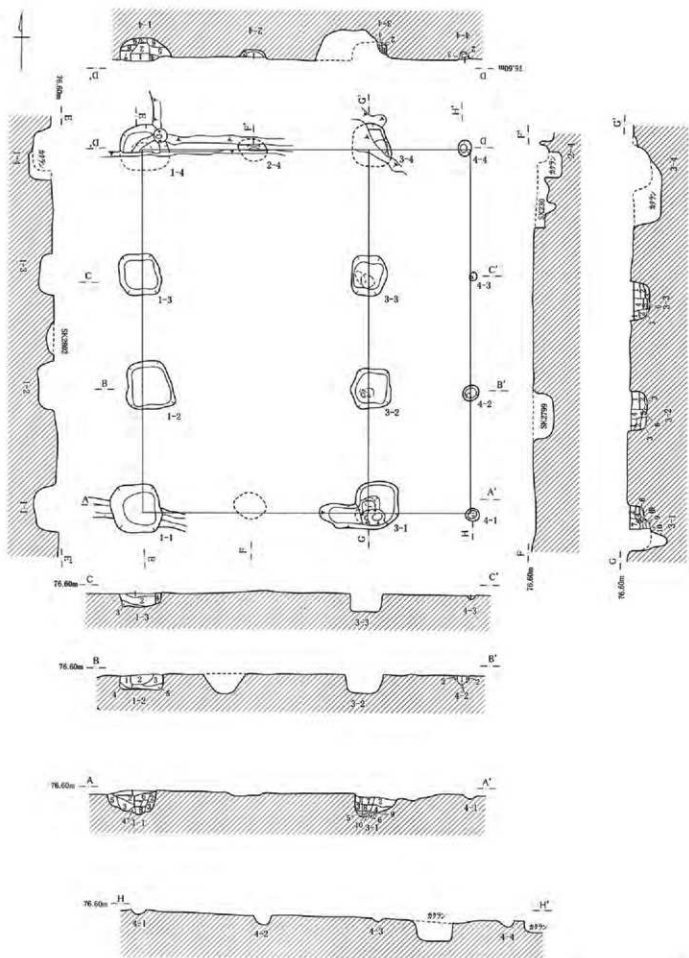
図面82 SB210掘立柱建物

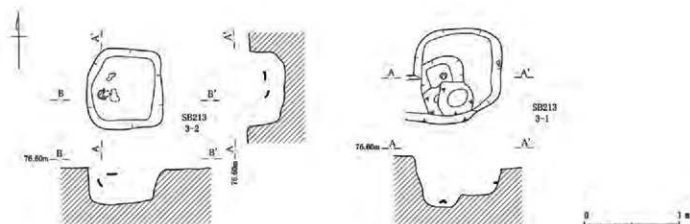
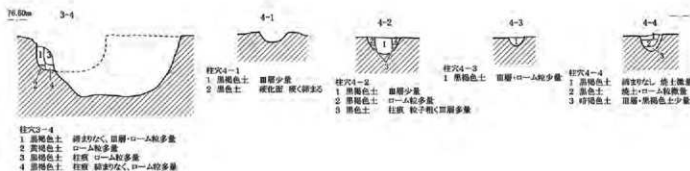
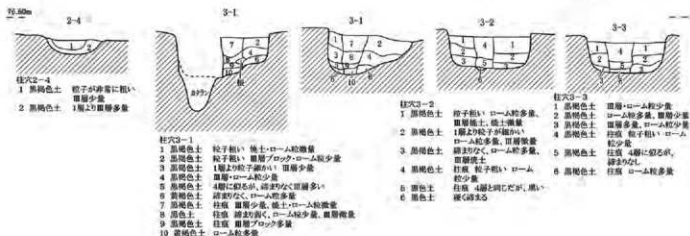
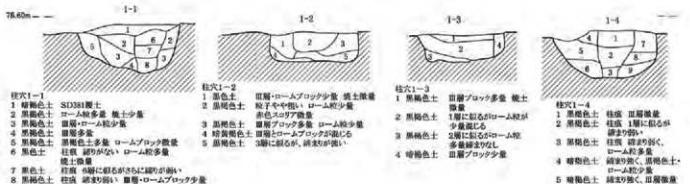


圖面83 SB210掘立柱建物柱穴斷面圖

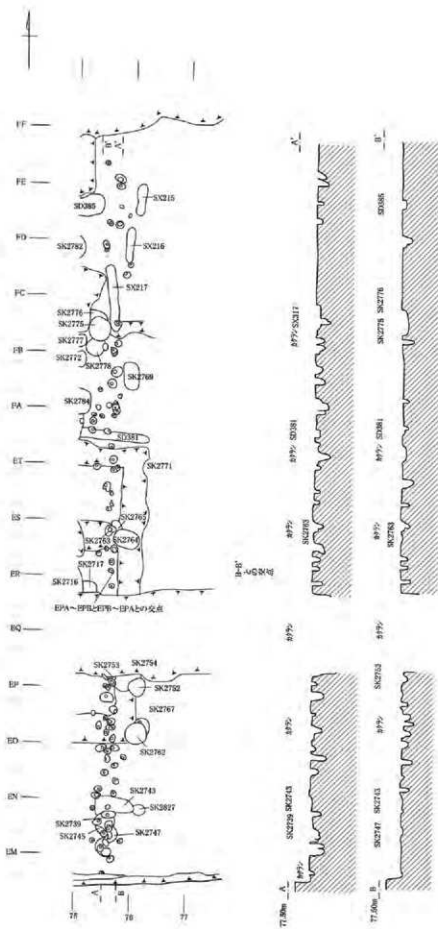


図面84 SB213掘立柱建物

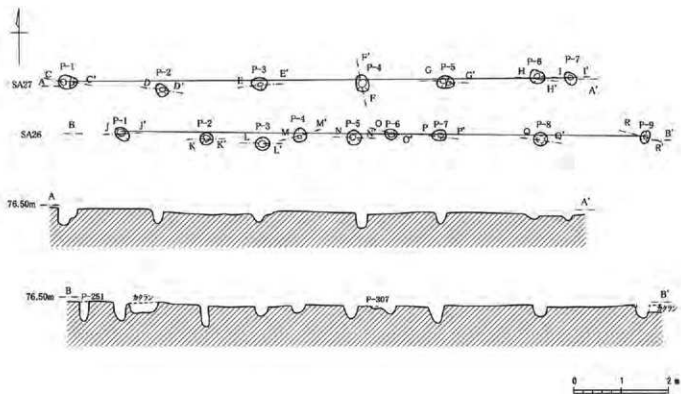
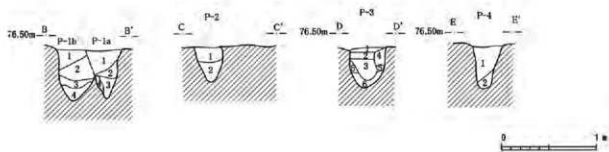
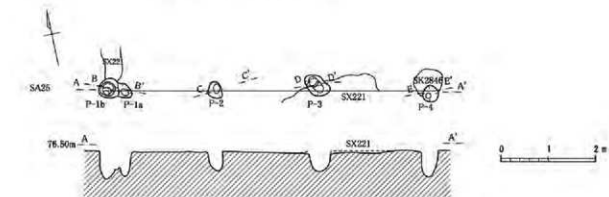




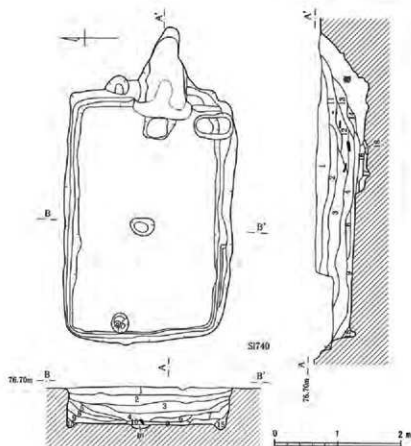
図面86 SA24柱穴



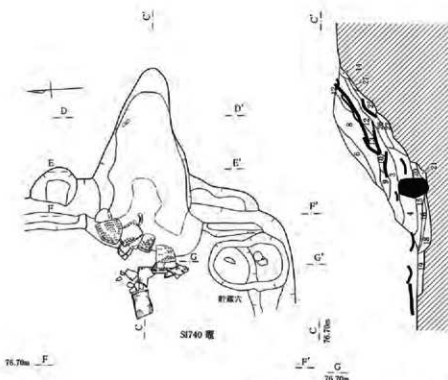
図面87 SA25・SA26・SA27柱穴列



図面88 SI740住居・竈



SI740

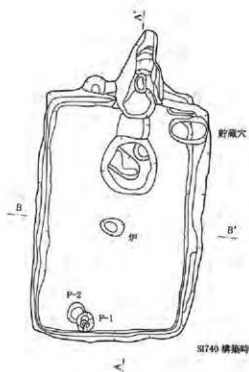


SI740 竈

76.70m

76.70m

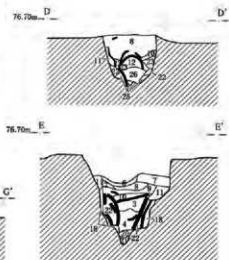
貯蔵穴
1 黒色土 焼土含む
2 黄褐色粘土
3 粘土



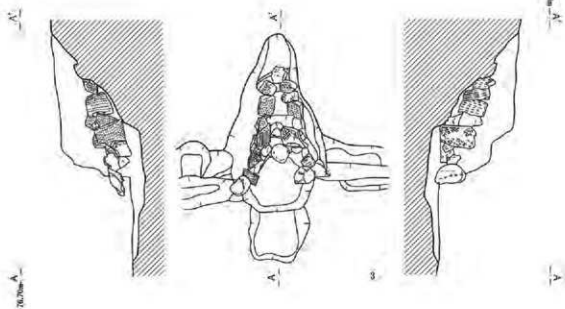
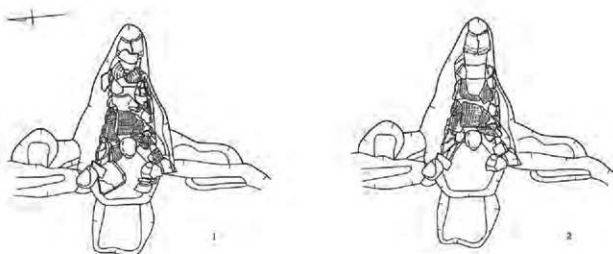
SI740 構築時

SI740

- 1 暗褐色土 きめ細かく硬まり強い、赤色スコリア多量
炭化物・白色灰子少量
- 2 暗褐色土 きめやや粗く硬まり強い、赤色スコリア多量
炭化物・白色灰子少量
- 3 暗褐色土 1・2層より強い、赤色スコリア・ローム粒少量
硬まり強い、赤色スコリア少量、粘土含む
- 4 黒色土 4層より硬まり強い、赤色スコリア少量
- 5 黒色土 黒色度強い、赤・黒色スコリア少量
- 6 黒色土 黒色度強い、赤・黒色スコリア少量
- 7 黒色土 黒色度強い、赤・黒色スコリア少量
- 8 黒色土 黒色度強い、赤・黒色スコリア少量
- 9 暗褐色土 ロームブロック含む
- 10 赤褐色土 粘土
- 11 暗褐色土 黒褐色土、きめ粗く粘土含む
- 12 暗褐色土 黒褐色土、粘土・ロームブロック多い
- 13 黒褐色土 黒褐色土、粘土含む
- 14 赤褐色土 黒褐色土、粘土含む
- 15 暗褐色土 ロームブロック多量
- 16 暗褐色土 硬まり強い、粘土・ローム・焼土多量
- 17 黒色土 ローム粒・焼土少量
- 18 黒色土 ローム多量、焼土少量

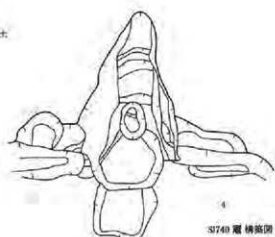


0 0.5 m



SI740 竈

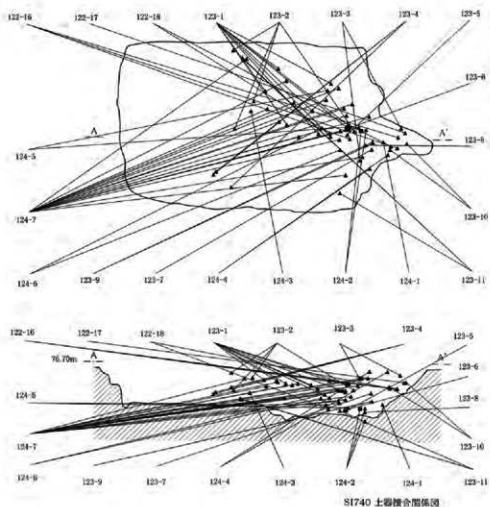
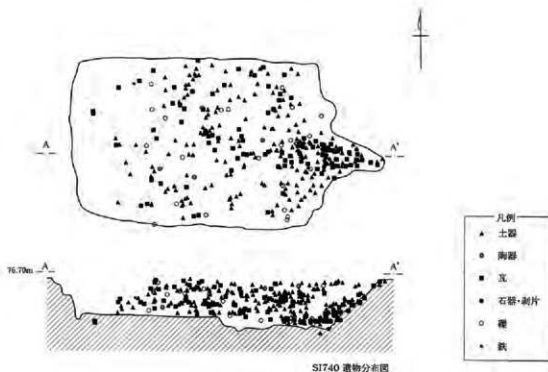
- 1 黄褐色土 ロームブロック
- 2 赤褐色土 粘土少量
- 3 黄褐色土 黄褐色土を少し含む凝結土
- 4 灰褐色土 粘土・粘土を含む軟質土 壁内層積土
- 5 黄褐色土 ローム・ローム 黄褐色土少量
- 6 赤褐色土 粘土・ローム少量
- 7 黄褐色土 黄褐色土少量 粘土多い
- 8 黄褐色土 a 粘土多き凝結土 b 粘土より粘土多き凝結土
- 9 黄褐色土
- 10 赤褐色土 粘土
- 11 赤褐色土 凝結してガリガリ
- 12 黄褐色土 黄褐色土・粘土少量
- 13 黄褐色土 黄褐色土を多く含む
- 14 黄褐色土 ローム・粘土少量
- 15 黄褐色土 粘土・灰化土・粘土含み凝結土
- 16 赤褐色土 凝結土
- 17 黄褐色土 粘土多量 粘土少量
- 18 黄褐色土 凝結土 焼けてぼろぼろする
- 19 黄褐色土 凝結土に似るが強い
- 20 黄褐色土 粘土・粘土・ローム混合
- 21 黄褐色土 凝結土に似るがぼろぼろする
- 22 黄褐色土 凝結土に似るが粘土多い
- 23 黄褐色土 黄褐色土少量
- 24 黄褐色土 粘土・ローム・灰化土混合
- 25 赤褐色土 粘土に黄褐色土を含む
- 26 赤褐色土 粘土に黄褐色土を含む
- 27 黄褐色土 粘土を含む凝結土



SI740 竈 構造図

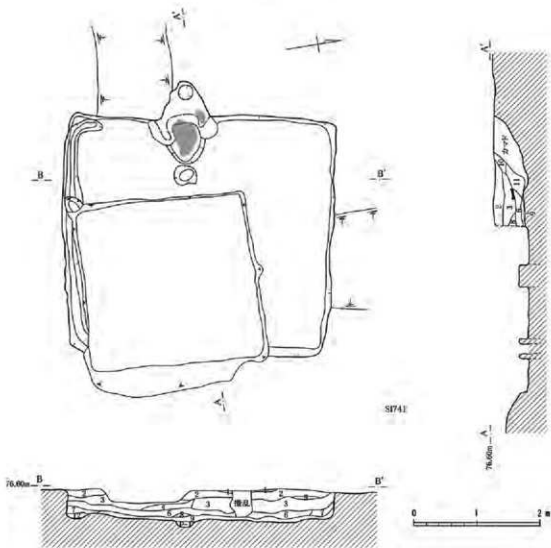


図面90 SI740住居跡遺物分布図



0 1 2 m

図面91 SI741住居



SI741

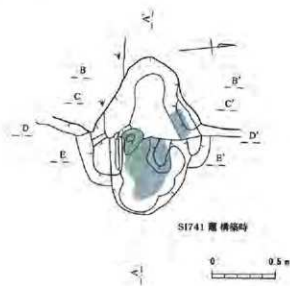
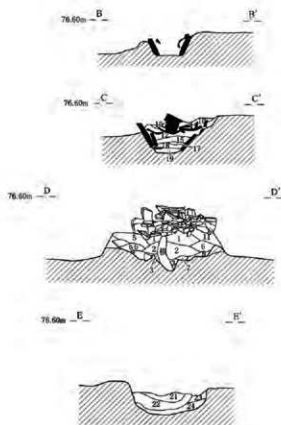
- 1 黒褐色土 きめ細かく締まり強い、赤・黄・黒色スコリア多量
- 2 黒褐色土 赤・黄色スコリア少量
- 3 黒褐色土 1・2層より強い、赤・黄・黒色スコリア多く、ローム粒が散じる
- 4 黒褐色土 3層に似るが、凝結土の産出が多い
- 5 黒褐色土 凝まり強く、ローム粒多い
- 6 黒色土 割竹あるいはやや軟質、赤色スコリア・ローム粒微量
- 7 黒色土 6層よりローム粒が多い
- 8 黒色土 凝結土が多い
- 9 黒色土 締まりやや強く、ローム粒多い
- 10 黒褐色土 5層に似るが、粘土が多い
- 11 黒褐色土 粘土・炭土を多く含む
- 12 黒色土 腐葉 軟質
- Y1 黒色土 ローム・粘土・炭化物を含み強い



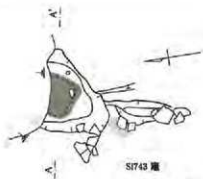
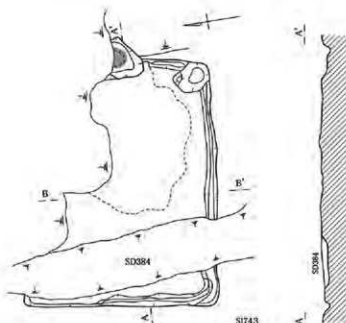
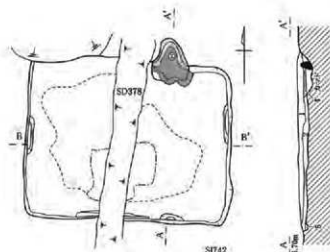
SI741 竈



- SI741 竈
- 1 黒褐色土 粘土・焼土少量
 - 2 黒色土 粘土・焼土・ローム総数量
 - 3 粘土 焼け跡までガリガリ 最終火床面
 - 4 黒褐色土 粘土多く、焼土少量
 - 5 黒褐色土 1層に似るが、それより形ない
 - 6 黒褐色土 粘土・焼土少量
 - 7 黒褐色土 粘土多い
 - 8 黒褐色土 焼け跡までいる
 - 9 黒褐色土 焼け跡の残りの地山直層
 - 10 黒褐色土 焼土少量
 - 11 粘土 焼けてピンクに変色
 - 12 黒褐色土 黒褐色土多く、焼土少量
 - 13 黒褐色土 粘土・焼土少量
 - 14 黒褐色土 焼土多量、粘土・焼土少量
 - 15 黒褐色土 焼土多量、粘土・焼土少量
 - 16 黒褐色土 焼土多量、粘土・焼土少量
 - 17 黒褐色土 粘土多量、焼土少量
 - 18 黒褐色土 粘土多量、焼土少量
 - 19 粘土 焼け跡までいる 焼土直層
 - 20 粘土 焼け跡のピンクに変色 焼土直層
 - 21 粘土 2層目の火床面でガリガリになっている
 - 22 黒褐色土 焼けてピンクになった粘土・焼土を含む
 - 23 黒褐色土 22層と同じだが、粘土・焼土が少ない
 - 24 粘土 最初の大断面で、ガリガリになっている
 - 25 黒褐色土 焼けて焼れた直層で焼土が散らばる 内壁
 - 26 黒褐色土 焼けて焼れた直層 内壁



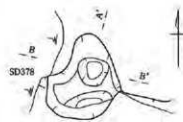
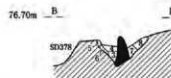
SI741 竈 構造物



SI743 竈



SI743 竈



SI742 竈 構築時



SI742

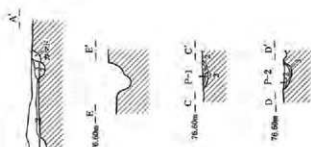
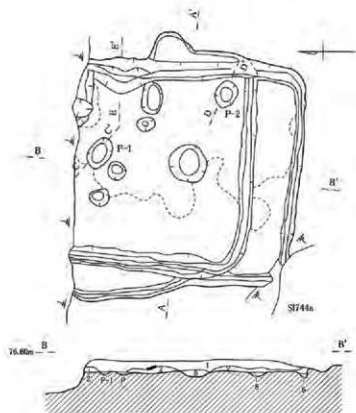
- 1 黒色土 軟質で土粒粗い 粘土・ローム物少量
- 2 黒褐色土 砂り強く、粘土微量
- 3 黒褐色土 ロームブロック少量、粘土微量
- 4 黒褐色土 粘土多い・硬皮土
- 5 黒褐色土 軟質 地山(3層)・ローム粒少量

SI742竈

- 1 暗褐色土 粘土・黒褐色土微量
- 2 暗褐色土 1層より黒褐色土が多く粘り
- 3 暗褐色土 粘土少量
- 4 暗褐色土 黄白色粘土・粘土少量
- 5 暗褐色土 黄白色粘土に暗褐色土・粘土混じる
- 6 暗褐色土 3層に混じる、暗褐色土・粘土が多い
- 7 暗褐色土 混化した地山層層に粘土土、木の根の強い上りか

SI743竈

- 1 暗褐色土 粘土・ローム粒微量
- 2 暗褐色土 1層に灰を含む
- 3 暗褐色土 粘土・地山(3層)少量
- 4 暗褐色土 暗褐色土・粘土・黒褐色土少量
- 5 暗褐色土 ローム粒・粘土少量



SI744

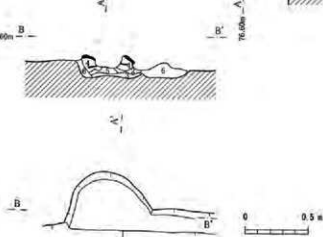
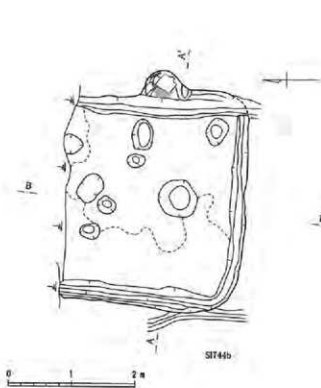
- 1 暗褐色土 コーム粒多く、焼土・炭化物少量
- 2 暗褐色土 コーム粒多く、瓦層ブロックを含む
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物多量 磁器土
- 4 暗褐色土 軟質でボロボロしている
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物・コーム粒少量
- 6 暗褐色土 瓦層 軟質で3層少量
- 7 暗褐色土 瓦層 コーム粒・焼土少量
- 8 暗褐色土 瓦層 瓦層ブロック少量
- 9 暗褐色土 堅く固い、焼土・炭化物多量

P-1

- 1 暗褐色土 焼土が粗量に層状に散入
炭化物粒子多し、2層非常に細
- 2 黄褐色土 コームブロック
- 3 暗茶褐色土 赤色スクリップ

P-2

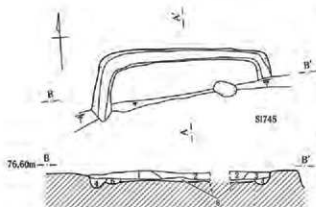
- 1 暗褐色土 焼土多 粘土粒子少 し、2層非常に粗
- 2 黒褐色土 焼土粘土・炭化物粒子少
- 3 暗茶褐色土 黒褐色土少 し、2層



SI744a 竈 構築時

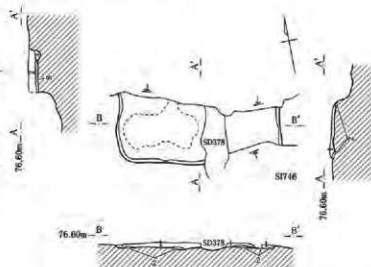
SI744

- 1 暗褐色土 粘土粒く、焼土・コーム粒少量
- 2 赤褐色土 焼土
- 3 暗茶褐色土 瓦層に包む 炭化物少量
- 4 黒褐色土 焼土・炭化物多量、白色粘土が混じる
- 5 黒褐色土 4層より厚く、炭化物が多い
- 6 暗褐色土 白色粘土・焼土・炭化物少量



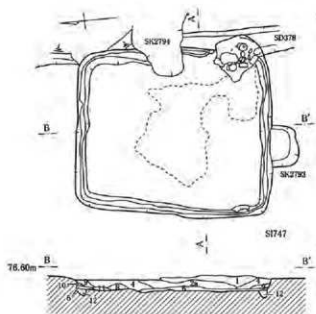
SI745

- 1 黒褐色土 赤色スクリア・粘土・炭化物少量
- 2 黒褐色土 砂り強く、赤色スクリア多い、粘土・ローム粒微量
- 3 黒褐色土 2層に似るが、ローム粒が細かい
- 4 赤色土 周縁 重層ブロック少量、赤色スクリア・粘土微量
- 5 黒褐色土 砂り強く、重層ブロック少量、赤色スクリア・粘土微量
- 6 赤色土 砂り強く、重層ブロックを含む
- 7 黒褐色土 砂り強く、粘土
- 8 黒褐色土 砂り強く、赤色スクリア・粘土微量



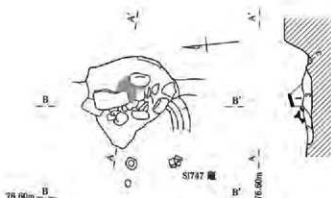
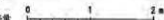
SI746

- 1 黒褐色土 砂り強く、赤色スクリア・ローム粒微量
- 2 黒褐色土 軟質で、赤色スクリア・ローム粒微量



SI747

- 1 黒褐色土 砂り強く、赤色スクリア・ローム粒少量、粘土・炭化物微量
- 2 黒褐色土 a 赤色スクリア・ローム粒微量
b aと似るが、ローム粒が太形
- 3 黒褐色土 1層に似るが、ローム粒多い
- 4 黒色土 砂り強く、赤色スクリア・ローム粒微量
- 5 黒褐色土 砂り強く、粘土が多い
- 6 黒色土 砂り強く、重層が多い
- 7 黒褐色土 ローム粒多量
- 8 赤色土 砂り強く、粘土・ローム粒多い
- 9 黒色土 重層・ローム粒少量
- 10 黒色土 4層に似るが、砂りが強い
- 11 黒色土 粘土少量
- 12 黒色土 周縁 砂り強くローム粒多量



SI747 墓

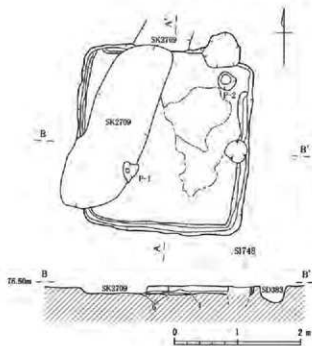


SI747 墓

- 1 黒色土 粘土少量
- 2 黒褐色土 粘土・ローム粒微量
- 3 黒色土 粘土少量

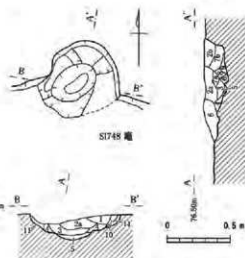


図面96 SI748住居・竈・SI749住居



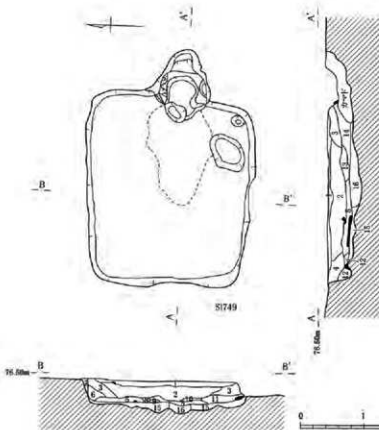
SI748

- 1 黒褐色土 砂り粗く、赤色スクリア・灰土少量
- 2 黒褐色土 砂り粗く、灰土・ローム粒少量
- 3 黒褐色土 灰土・粘土多い
- 4 黒褐色土 層層多く、灰土・ローム粒少量
- 5 黒色土 砂り粗く、ローム含む 同層
- 6 黒褐色土 壁に砂り、白色粘土・層層を含む



SI748竈

- 1 黒褐色土 灰土多く、粘土・炭化物を含む
- 2 黒褐色土 a 灰土・粘土少量
b a層と同じだが、砂りが粗い
- 3 黒褐色土 灰土多く、粘土少量
- 4 黒褐色土 層層・灰土・粘土少量
- 5 黒色土 炭化物多く、層層・灰土少量
- 6 黒褐色土 粘土多く、灰土が混じる
- 7 黒褐色土 a 粘土・粘土多い
b a層と同じだが、砂りが粗い
- 8 黒褐色土 粘土含む 灰土少量
- 9 黒色土 黒褐色土を微量含む
- 10 黒褐色土 砂り粗く、粘土少量



SI749

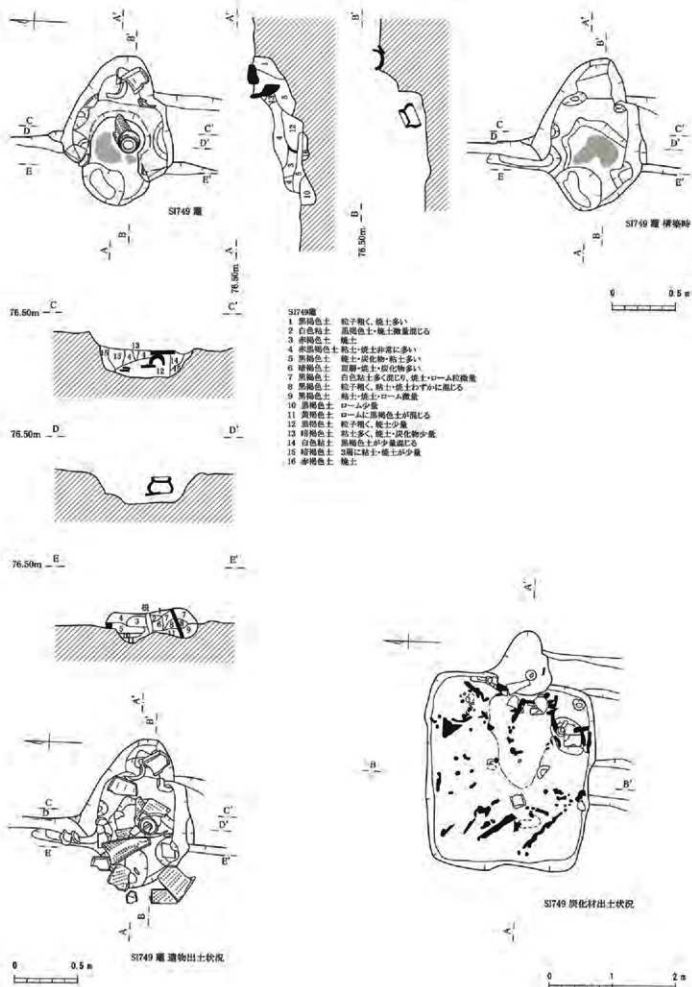


SI749 構築時

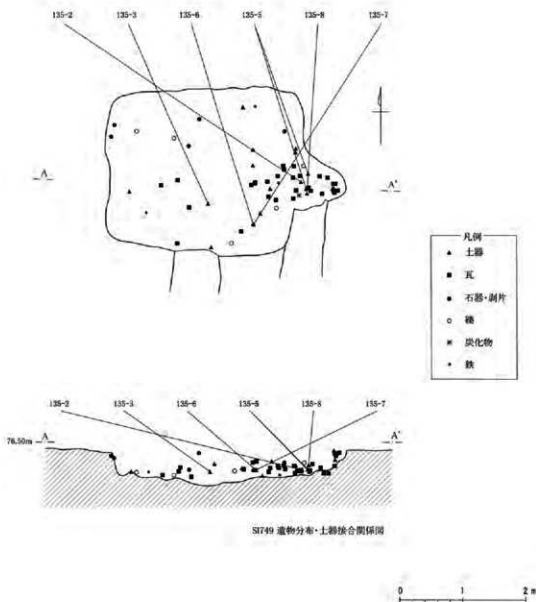
SI749

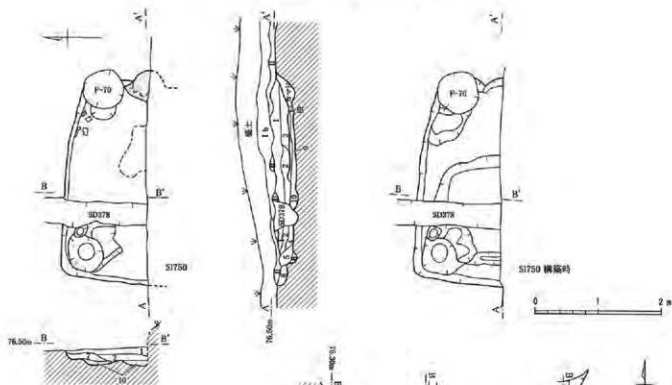
- 1 黒褐色土 砂り粗く、灰土・ローム粒少量
- 2 黒褐色土 砂り粗く、灰土・炭化物微量
- 3 黒褐色土 2層より明るい ローム粒微量
- 4 黒褐色土 層層多く、灰土・炭化物少量
- 5 黒色土 砂り粗く、炭化物多量
- 6 黒褐色土 砂り粗く、灰土・炭化物・ローム粒少量
- 7 黒褐色土 砂り粗く、層層多い
- 8 黒褐色土 灰土
- 9 黒褐色土 ロームブロック
- 10 黒褐色土 炭化物・ローム粒少量
- 11 黒褐色土 ローム粒多い
- 12 黒褐色土 ローム粒の混入と炭化物の混入
- 13 黒褐色土 白色粘土・灰土・炭化物少量
- 14 黒褐色土 13層に似るが明るい
- 15 黒褐色土 灰土 層層多く、ロームブロック混じる
- 16 黒褐色土 灰土 層層・ロームブロックの混入

図面97 SI749住居竈・炭化材出土状況



図面98 SI749住居遺物分布図



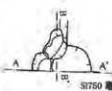


SI750

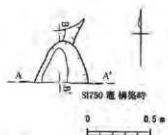
- 1 黒褐色土 ローム粒多く、赤色スコリア微量
- 2 黒褐色土 1層より暗い、赤色スコリア・ローム粒・炭土・炭化物微量
- 3 黒褐色土 1層に似る 炭土・ローム少量、粘土微量
- 4 黒褐色土 灰子粗く、黒層・赤色スコリア・ローム微量
- 5 黒褐色土 ローム粒多く、炭化物を含む
- 6 黒褐色土 細く暗く灰子粗い
- 7 黒褐色土 部分的に硬く、層厚少量
- 8 暗褐色土 層厚多く、赤・褐色スコリア少量
- 9 黒褐色土 硬く細く、粘土が多くローム粒少量 炭灰
- 10 黒褐色土 黒層・ローム粒少量、炭土・赤色スコリア微量

SI750 構築時

0 1 2 m



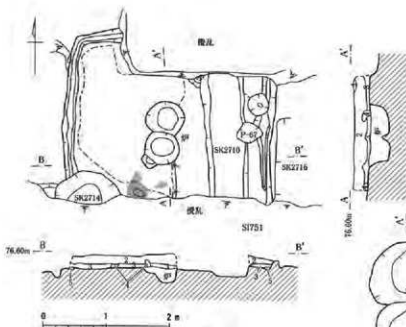
SI750 竈



SI750 電 構築時

SI750 竈

- 1 黒褐色土 粘土少量、炭土・炭化物微量
- 2 黒褐色土 灰子粗い、粘土少量、炭土微量
- 3 黒褐色土 粘土多く、炭土・小石少量
- 4 黒褐色土 灰子粗い、炭土・粘土・炭化物微量



SI751

- 1 暗褐色土 ローム粒多く、赤・黒色スコリア少量
- 2 暗褐色土 灰子粗く、炭土・炭化物少量
- 3 暗褐色土 プロット状 黒層・炭土・炭化物少量
- 4 暗褐色土 炭土
- 5 暗褐色土 3層主体、炭土少量

SI751 炉 構築時

- 1 暗褐色土 黒層・プロット・炭土・炭化物少量
- 2 暗褐色土 炭土
- 3 白色粘土 炭土少量混じる
- 4 暗褐色土 炭土・白色粘土少量
- 5 暗褐色土 炭土・白色粘土少量
- 6 暗褐色土 黒層多く粘土・炭土・ローム微量
- 7 暗褐色土 白粘土上少量
- 8 暗褐色土 粘土多量
- 9 暗褐色土 3層主体 ローム粒・プロット多く、炭土少量
- 10 暗褐色土 ロームプロット

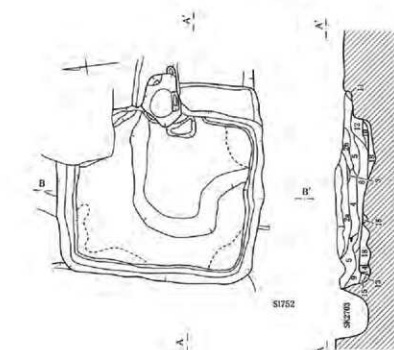


SI751 炉



SI751 炉

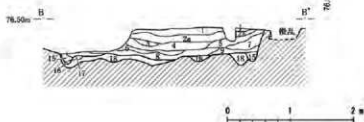
0 0.5 m



SI752



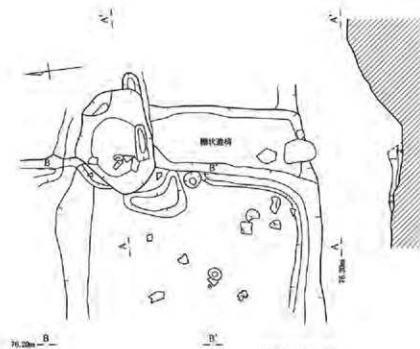
SI752 構築時



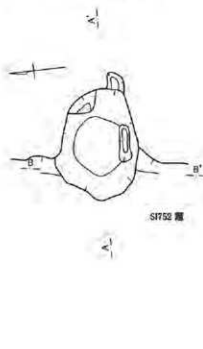
0 1 2 m

SI752

- 1 赤褐色土 赤色スコリア・焼土・ローム粒多く、炭化物微量
- 2 赤褐色土 a 1層に似るが、硝子粒・炭屑が混じる
- 3 赤褐色土 b a層に似るが、焼土が少い
- 4 赤褐色土 炭化物が多い
- 5 赤褐色土 やや軟質で、赤色スコリア・ローム粒少量、粘土微量
- 6 赤褐色土 4層に似るが、ローム粒が大きい
- 7 赤褐色土 硝子粒・炭屑・赤色スコリア・ローム粒多量、焼土少量
- 8 赤褐色土 ローム粒多量、赤色スコリア微量
- 9 赤褐色土 ローム粒・赤色スコリア多量
- 10 赤褐色土 7層に似るが、硝子粒が少なくブロック状になところがある
- 11 赤褐色土 硝子粒・炭屑・ローム粒多量
- 12 赤褐色土 硝子粒・炭屑・ローム粒多量
- 13 赤褐色土 11層に似るが、ロームブロック少量
- 14 赤褐色土 ローム粒少量
- 15 赤褐色土 硝子粒・炭屑・ロームブロック多量
- 16 赤褐色土 硝子粒・炭屑・ロームブロック多量、ローム粒多い
- 17 赤褐色土 硝子粒・炭屑・ロームブロック多量、硝子粒多い
- 18 赤褐色土 硝子粒・炭屑・ロームブロック多量、硝子粒多い

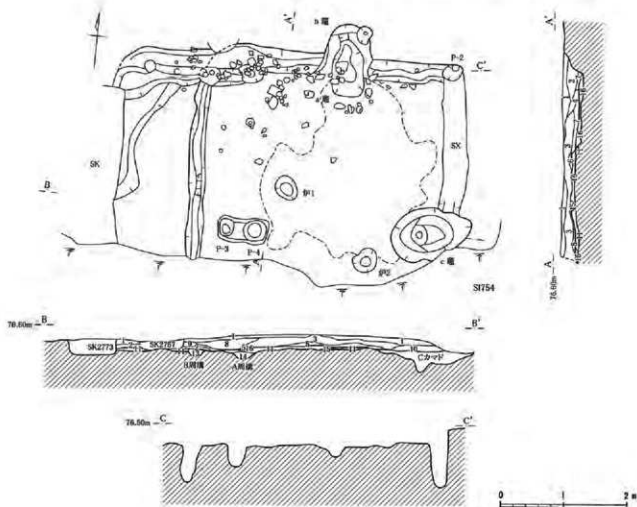
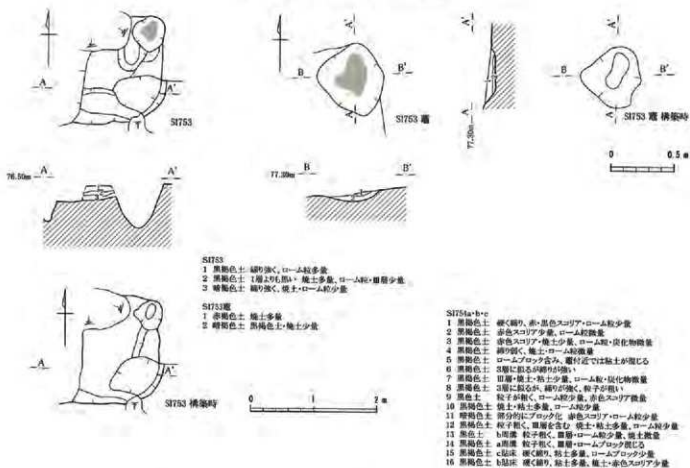


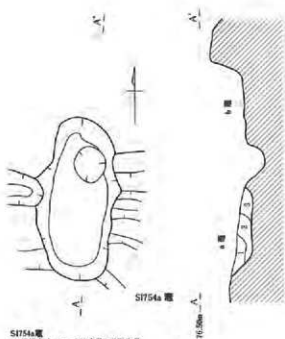
SI752 遺物出土状況



SI752 竈

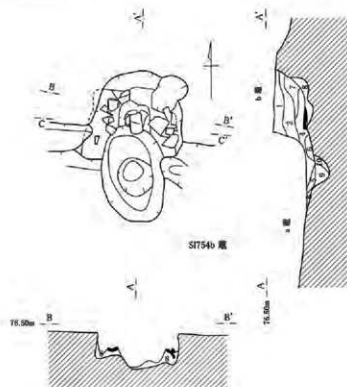
図面101 SI753住居・竈・SI754住居





SI754a 竪

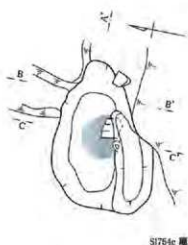
- 1 黒褐色土 ローム粒多量、珪砂少量
- 2 黒褐色土 ローム粒多量、灰土・赤色スコリア少量
- 3 黒褐色土 ローム粒多量、珪砂・赤色スコリア少量



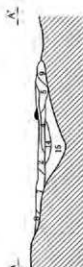
SI754b 竪

SI754b 竪

- 1 黒褐色土 黄色粘土・ローム粒少量、灰土少量
- 2 黒褐色土 1層より薄い 黄色粘土・珪砂少量
- 3 黒褐色土 ロームブロックを含む黄色粘土多量、灰土少量、熱焼酎内壁
- 4 黒褐色土 ロームブロックを含む、細りゆく少量の灰が見える 灰土・黄色粘土少量
- 5 黒褐色土 粘土層、灰土層
- 6 赤褐色土 灰土
- 7 黒褐色土 黄色粘土・灰土・ローム粒少量
- 8 黒褐色土 ロームブロック含む 灰土・赤色スコリア少量
- 9 黒褐色土 珪砂・赤土・灰土層
- 10 黒褐色土 ローム粒・ブロックが、黒褐色土が固まる

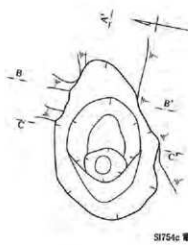


SI754c 竪

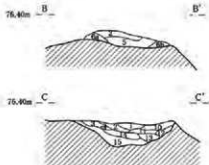


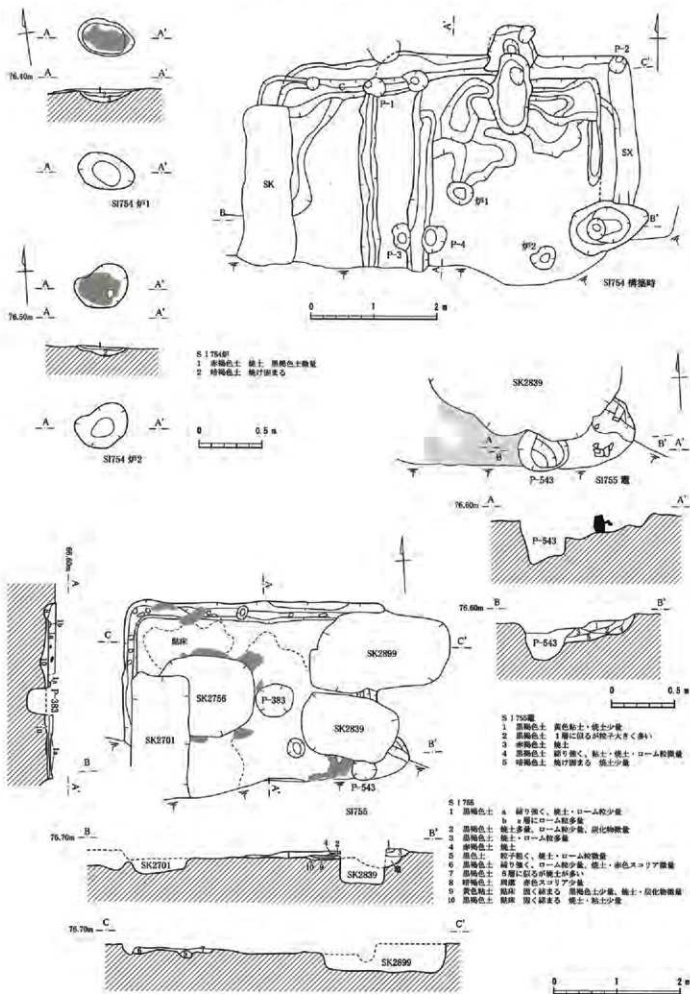
SI754c 竪

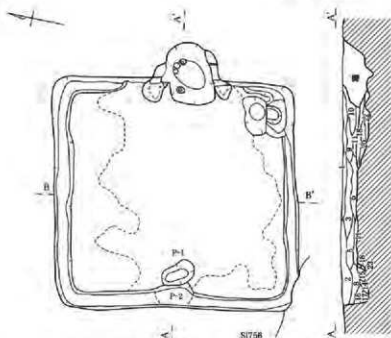
- 1 黒褐色土 白色粘土多量、灰土・黄色粘土少量
- 2 黒褐色土 灰土・白・黄色粘土少量
- 3 黒褐色土 白・黄色粘土が多く、灰土固まる
- 4 赤褐色土 灰を含む灰土、灰化物質少量
- 5 黒褐色土 白・黄色粘土多量、珪砂含む
- 6 黒褐色土 a 白・黄色粘土多量、灰土少量 珪砂含む
b a層より薄い(珪砂が少なく)
- 7 黒褐色土 a層に固まるが、珪砂が少なく(灰土が少なく)
- 8 黒褐色土 白色粘土少量、灰土・灰化物質少量
- 9 黒褐色土 白色粘土・灰土層
- 10 白色粘土 灰土少量
- 11 赤褐色土 灰を含む灰土、白色粘土多量
- 12 赤褐色土 灰土固まる 灰土・灰土少量
- 13 黒褐色土 灰土・灰土多量
- 14 赤褐色土 灰土固まる 灰土・灰土多量
- 15 黒褐色土 焼けて固まっている



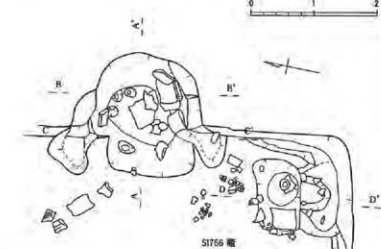
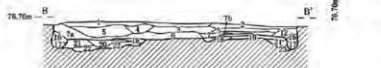
SI754c 竪 構築時



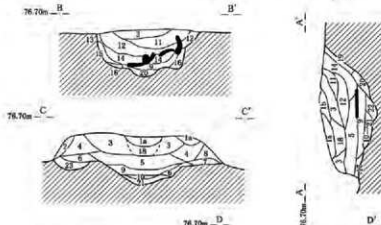




SI756



SI756 竈



SI756 竈



0 0.5 m



SI756 構築時

SI756

- 1 黒褐色土 赤・黄褐色スリヤ少量 焼土・ローム粒炭化物微量
- 2 黒褐色土 赤・黄褐色スリヤ少量 焼土・炭化物微量
- 3 黒褐色土 赤・黄褐色スリヤ・焼土・ローム粒・炭化物微量 上面に部分的な硬質面が形成されており、密に結んでいる
- 4 黒褐色土 赤褐色スリヤ少量 焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 5 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 6 黒褐色土 焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 7 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 8 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 9 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 10 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 11 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 12 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 13 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 14 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 15 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 16 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 17 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 18 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 19 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 20 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 21 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 22 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり
- 23 黒褐色土 赤褐色スリヤ・焼土・炭化物微量 3層同様の硬質面あり

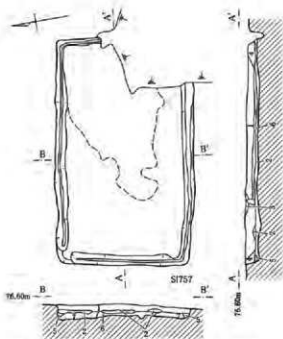
SI756 竈

- 1 黒褐色土 a 黄白色粘土・小石少量 焼土微量
- 2 黒褐色土 b a層に似るが、粘土が多く明るい
- 3 黄白色粘土 粘土・小石少量 焼土微量
- 4 黒褐色土 黄白色粘土少量 焼土微量
- 5 黒褐色土 黄白色粘土少量 焼土微量
- 6 黄白色粘土 フラック状で、黒褐色土・焼土と混じる
- 7 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 8 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 9 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 10 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 11 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 12 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 13 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 14 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 15 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 16 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 17 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 18 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 19 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 20 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 21 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 22 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 23 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量

SI756 竈

- 1 黒褐色土 a 黄白色粘土・小石少量 焼土微量
- 2 黒褐色土 b a層に似るが、粘土が多く明るい
- 3 黄白色粘土 粘土・小石少量 焼土微量
- 4 黒褐色土 黄白色粘土少量 焼土微量
- 5 黒褐色土 黄白色粘土少量 焼土微量
- 6 黄白色粘土 フラック状で、黒褐色土・焼土と混じる
- 7 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 8 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 9 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 10 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 11 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 12 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 13 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 14 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 15 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 16 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 17 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 18 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 19 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 20 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 21 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 22 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量
- 23 黒褐色土 粘土・小石少量 焼土微量

SI756 竈 構築時



SI757

- 1 黒褐色土 厚さ約10cm、細りあり、ローム粒・粘土少量
- 2 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒・粘土少量
- 3 黒褐色土 ローム粒少量
- 4 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 5 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 6 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 7 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量

SI758

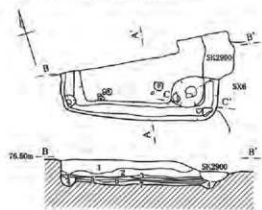
- 1 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 2 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 3 黒褐色土 ローム粒少量、厚さ約10cm
- 4 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 5 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 6 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 7 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量

貯蔵穴

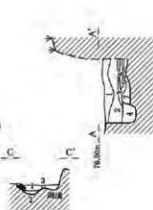
- 1 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 2 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 3 黒褐色土 ローム粒・厚さ約10cm

床下土坑

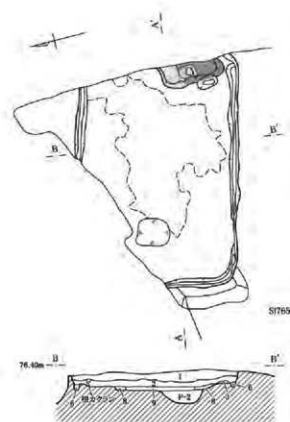
- 1 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 2 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量
- 3 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量



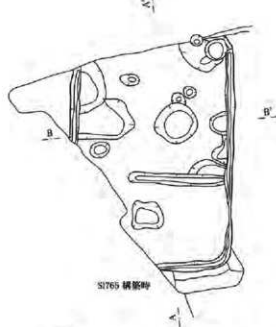
SI758



SI758 構築時



SI765



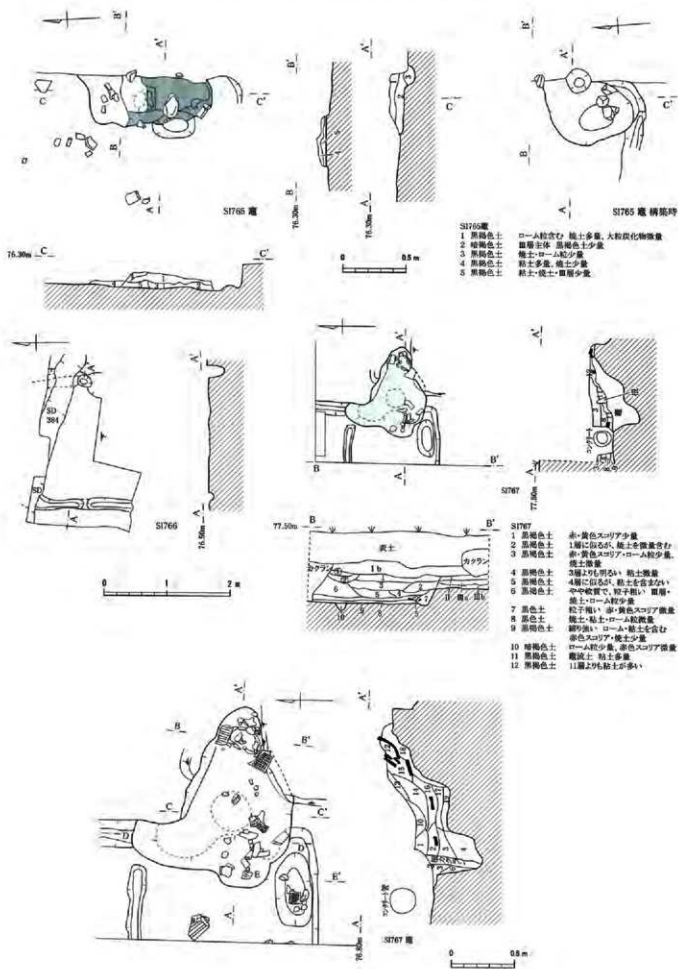
SI765 構築時

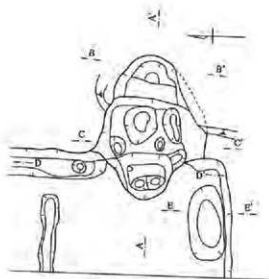
SI765

- 1 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 2 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 3 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 4 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 5 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 6 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 7 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 8 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm
- 9 黒褐色土 厚さ約10cm、ローム粒少量、厚さ約10cm

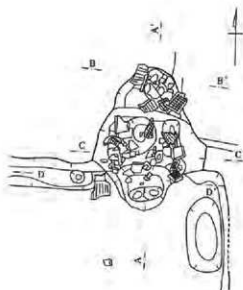
0 1 2 m

図面106 SI765住居竈・SI766住居・SI767住居・竈

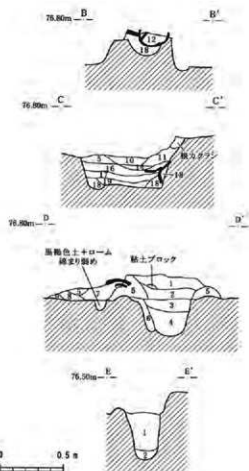




SI767 竈 構築時

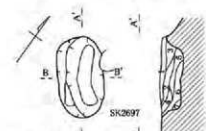


SI767 竈 遺物出土状況



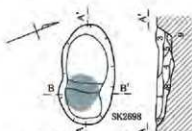
SI767竈

- | | |
|----------|------------------------|
| 1 黒褐色土 | 黄白色粘土少量、ローム粒微量 |
| 2 黒褐色土 | 粘土含む、ローム粒・粘土少量 |
| 3 黒褐色土 | 粘土・ローム粒・粘土少量、粘土は2層より多い |
| 4 黒褐色土 | 粘土粒、ローム粒多量、粘土・粘土少量 |
| 5 黄白色粘土 | 黒褐色土少量、ローム粒微量 |
| 6 黄褐色土 | 黒褐色土少量、ローム粒微量 |
| 7 黒褐色土 | 粘土粒 |
| 8 黒褐色土 | 粘土・ローム粒少量 |
| 9 黄褐色土 | 粘土粒のみ、黒褐色土を含む |
| 10 黒褐色土 | 粘土・ローム粒微量 |
| 11 黒褐色土 | 粘土多量 |
| 12 黒褐色土 | 粘土粒、粘土・粘土少量 |
| 13 黒褐色土 | 粘土多量・粘土少量 |
| 14 黒褐色土 | 13層に似るが、粘土が細かい |
| 15 黒褐色土 | 13層に似るが、粘土が少し多い |
| 16 黄白色粘土 | 黒褐色土・粘土微量 |
| 17 黒褐色土 | 粘土やや多く、ローム粒少量 |
| 18 黒褐色土 | 粘土多量 |
| 19 黒褐色土 | 粘土粒、粘土多量 |



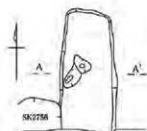
SK2697
76.60m B-B' A-A'

- 1 黒褐色土 赤・黄褐色スクリア・ローム粒子少量
暗褐色土少量 緑の強い
2 黒褐色土 赤・黄・白色スクリア・ローム粒子少量
暗褐色土少量
3 黒褐色土 赤・黄スクリア少量 黒褐色土少量
暗褐色土少量
4 黒褐色土 暗褐色土含む 粒子細かい 赤・黄
スクリア・ローム粒子少量 緑の強い
5 黒褐色土 粒子細かい 赤・黄・白色スクリア・ローム
粒子少量 暗褐色土少量
6 暗褐色土 暗褐色土含む 暗褐色土少量
暗褐色土少量 緑の強い
7 暗褐色土 赤褐色スクリア・黒褐色土・黄褐色土
暗褐色土少量 緑の強い



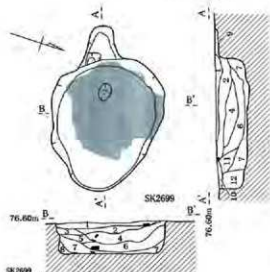
SK2698
76.60m B-B' A-A'

- SK2698
1 赤褐色土 暗褐色土少量 緑の強い
2 黒褐色土 赤褐色スクリア少量 暗褐色土少量
3 黒褐色土 赤褐色スクリア少量 暗褐色土少量 緑の強い
4 黒褐色土 暗褐色土少量 緑の強い
5 黒褐色土 暗褐色土少量 緑の強い
6 黒褐色土 赤褐色スクリア・暗褐色土少量 ローム粒子少量
7 黒褐色土 暗褐色土少量
8 暗褐色土 暗褐色土少量
9 黒褐色土 赤褐色スクリア・暗褐色土少量

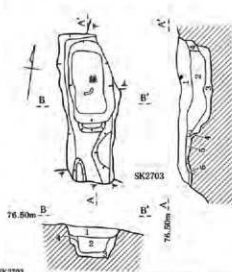


SK2758
76.60m A-A' Y

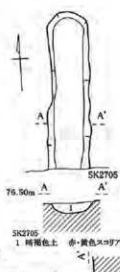
- SK2701
1 暗褐色土 暗褐色土少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量
3 暗褐色土 暗褐色土少量
4 黒褐色土 ローム粒子少量



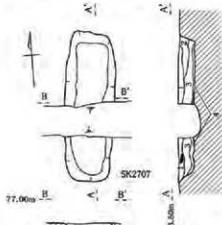
- SK2699
1 暗褐色土 暗褐色土少量
2 黒褐色土 暗褐色土少量 暗褐色土少量
3 黒褐色土 2層に似る暗褐色土少量
4 赤褐色土 暗褐色土・暗褐色土少量
5 黒褐色土 3層に似る暗褐色土少量 暗褐色土少量
6 黒褐色土 暗褐色土少量
7 黒褐色土 ローム粒子含む 暗褐色土少量
8 黒褐色土 7層に似る暗褐色土少量 暗褐色土少量
9 暗褐色土 1層に似る暗褐色土少量 暗褐色土少量
10 暗褐色土 1層に似る暗褐色土少量 暗褐色土少量
11 暗褐色土 7層に似る暗褐色土少量 暗褐色土少量
12 黒褐色土 ローム粒子少量 暗褐色土少量



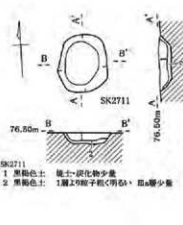
- SK2703
1 黒褐色土 赤・黄褐色スクリア少量 緑の強い
2 黒褐色土 暗褐色土少量 暗褐色土少量
3 暗褐色土 暗褐色土少量 暗褐色土少量



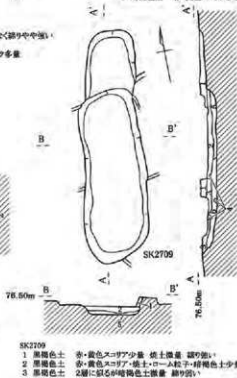
- SK2705
1 暗褐色土 赤・黄褐色スクリア少量



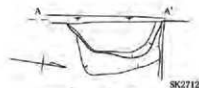
- SK2707
1 暗褐色土 暗褐色土少量
2 暗褐色土 暗褐色土少量
3 黒褐色土 暗褐色土少量
4 黒褐色土 暗褐色土少量



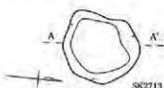
- SK2711
1 暗褐色土 暗褐色土少量
2 暗褐色土 1層に似る暗褐色土少量 暗褐色土少量



- SK2709
1 暗褐色土 赤・黄褐色スクリア少量 暗褐色土少量 暗褐色土少量
2 暗褐色土 赤・黄褐色スクリア・暗褐色土少量 暗褐色土少量
3 暗褐色土 2層に似る暗褐色土少量 暗褐色土少量
4 暗褐色土 ローム粒子少量 暗褐色土少量
5 暗褐色土 暗褐色土少量
6 暗褐色土 暗褐色土少量



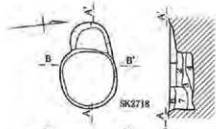
- SK2712
- 1 原褐色土 暗褐色土を含む 赤・灰色スコリア少量 硝子類い
 - 2 原褐色土 赤・灰色スコリア・灰土・灰化物微量 硝子類い
 - 3 黒色土 ローム粒子少量
 - 4 黒色土 ローム粒子・灰土少量 灰化物微量
 - 5 黒色土 ローム粒子少量



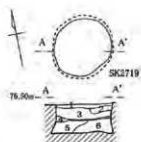
- SK2713
- 1 原褐色土 灰土少量、とくに上の方
 - 2 黒褐色土 硝子類少量



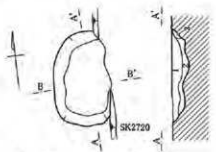
- SK2714
- 1 暗褐色土 赤・灰色スコリア・ローム粒子含む
 - 2 原褐色土 非常に黒い 赤色スコリア・ローム粒子多量 硝子類微量
 - 3 暗褐色土 硝子類い 灰化物多量 ローム粒子・硝子類少量
 - 4 黄褐色土 ロームに黒褐色土微量
 - 5 黒褐色土 ロームブロック少量
 - 6 暗褐色土 硝子類主体 ロームブロック多量 原褐色土少量
 - 7 暗褐色土 硝子類主体 ロームブロック・原褐色土少量
 - 8 黄褐色土 ロームブロックがつまっている 硝子類ブロック少量
 - 9 黄褐色土 ロームブロックと原褐色土を含む
 - 10 暗褐色土 ロームブロック・原褐色土少量 ローム粒子多量
 - 11 暗褐色土 ローム粒子多量 原褐色土少量



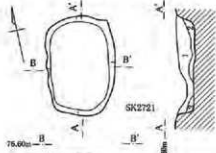
- SK2718
- 1 原褐色土 非常に黒い 赤色スコリア微量
 - 2 原褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
 - 3 原褐色土 ローム粒子多量
 - 4 原褐色土 暗褐色土ブロック多量
 - 5 暗褐色土 ローム粒子少量
 - 6 暗褐色土 非常に黒い ローム粒子多量
 - 7 原褐色土 硝子類と硝子 ローム粒子少量



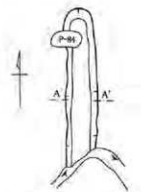
- SK2719
- 1 暗褐色土 1b層主体 赤色スコリア微量 原褐色土少量
 - 2 原褐色土 ローム粒子多量
 - 3 原褐色土 非常に黒い ローム粒子多量
 - 4 暗褐色土 非常に黒い 赤色スコリア微量
 - 5 暗褐色土 暗褐色土・ロームブロック少量 ローム粒子多量
 - 6 暗褐色土 ロームブロックに原褐色土少量 硝子類多量
 - 7 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子・硝子類多量
 - 8 暗褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子多量
 - 9 暗褐色土 硝子類と硝子 ローム粒子少量



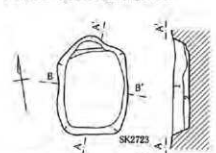
- SK2720
- 1 暗褐色土 硝子類い 赤色スコリア微量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色土 原褐色土少量
 - 4 暗褐色土 赤色スコリア少量 原褐色土多量



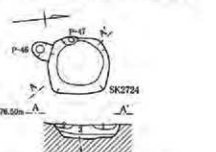
- SK2721
- 1 原褐色土 硝子類と硝子 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 2 原褐色土 1層より硝子(硝子)と硝子(硝子) 硝子類少量



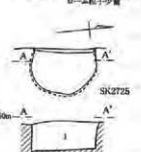
- SK2722
- 1 暗褐色土 赤色スコリア・硝子類微量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子少量



- SK2723
- 1 原褐色土 硝子類い 赤色スコリア微量 ローム粒子少量
 - 2 原褐色土 ローム粒子少量 硝子類と硝子(硝子) 硝子類少量
 - 3 暗褐色土 原褐色土少量



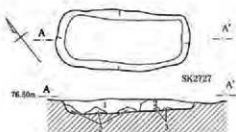
- SK2724
- 1 原褐色土 非常に黒い ローム粒子多量
 - 2 原褐色土 灰土多量 灰化物少量
 - 3 暗褐色土 ローム粒子・原褐色土少量 灰土微量
 - 4 暗褐色土 ローム粒子少量



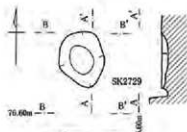
- SK2725
- 1 原褐色土 非常に黒い ローム粒子多量
 - 2 原褐色土 ロームブロック多量



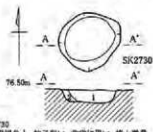
- SK2726
- 1 原褐色土 赤色スコリア・硝子類微量



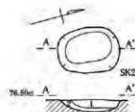
- SK2727
1 黒褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子多量
2 黒褐色土 1層より明い・粗い層ブロック少量
赤色スコリア微量
3 黒褐色土 ローム粒子のあたりに黒褐色土が少量



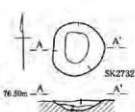
- SK2729
1 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子・粗い層少量
しりぞ



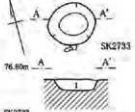
- SK2730
1 黒褐色土 粗い層に 赤褐色土少量
2 黒褐色土 粗い層に 赤褐色土少量



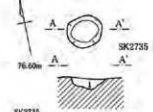
- SK2731
1 黒褐色土 ローム粒子・粗い層少量
しりぞに多い
2 黒褐色土 粗い層を含む 赤色スコリア・
ローム粒子少量 しりぞに多い



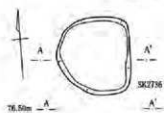
- SK2732
1 黒褐色土 粗い層・粗い層少量
ローム粒子・粗い層少量
2 黒褐色土 粗い層を含む



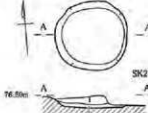
- SK2733
1 黒褐色土 ローム粒子・粗い層ブロック少量
ロームブロック少量



- SK2735
1 黒褐色土 粗い層より明い・
赤・赤色スコリア少量



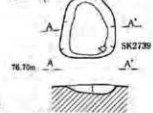
- SK2736
1 粗い層土 粗い層より明い・
赤・赤色スコリア多量



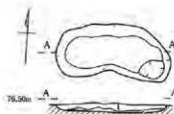
- SK2737
1 黒褐色土 赤褐色土・粗い層少量
ローム粒子少量
2 黒褐色土 粗い層より明い・粗い層少量



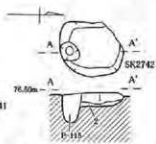
- SK2738
1 黒褐色土 粗い層・赤色スコリア微量
赤褐色土・ローム粒子少量
2 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒褐色土少量



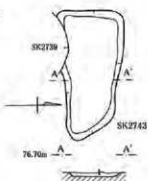
- SK2739
1 粗い層土 ロームブロック多量
しりぞに多い



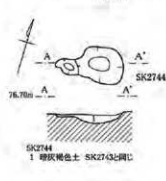
- SK2741
1 黒褐色土 粗い層・赤色スコリア・
ローム粒子・粗い層少量
2 黒褐色土 1層に粗い層が少量
しりぞに多い



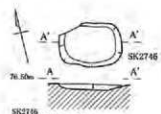
- SK2742
1 黒褐色土 粗い層・赤色スコリア微量
ローム粒子多量
2 黒褐色土 粗い層・ローム粒子多量



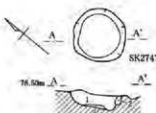
- SK2743
1 粗い層土 粗い層・赤褐色土・粗い層に似る
粗い層



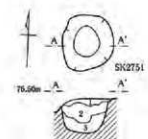
- SK2744
1 粗い層土 SK2743と同じ



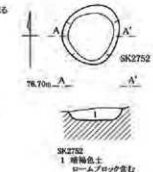
- SK2746
1 粗い層土 粗い層・粗い層少量
粗い層・粗い層・ローム粒子少量



- SK2747
1 黒褐色土 粗い層に粗い層が少量
ローム粒子・粗い層ブロック少量
2 粗い層土 粗い層に粗い層が少量
3 黒褐色土 ローム粒子少量

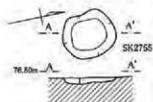


- SK2751
1 粗い層土 赤色スコリア微量・ローム粒子多量
2 粗い層土 赤色スコリア微量・ローム粒子多量
粗い層ブロック少量
3 粗い層土 ローム粒子・赤褐色土多量
ロームブロック多量

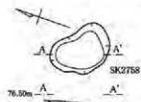


- SK2752
1 粗い層土
ロームブロックを含む
粗い層

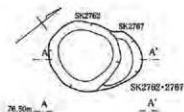




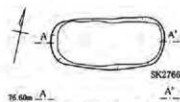
SK2755
1 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層・ローム粒子多量



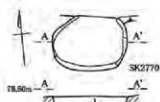
SK2758
1 黒褐色土 赤色C粒子粗い・ローム粒子多量



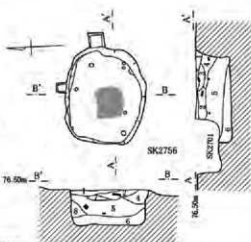
SK2762
1 黒褐色土 赤色スコリア微量 ロームブロック多量
SK2767
1 黒褐色土 黒土層多量



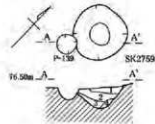
SK2766
1 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層・ローム粒子少量 締り強い
2 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層・ローム粒子少量 締り強い
3 黒褐色土 黒土層・ローム粒子多量
4 黒褐色土 黒土層・ローム粒子多量
5 黒褐色土 黒土層・ローム粒子多量



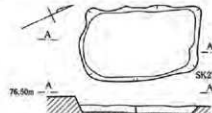
SK2770
1 黒褐色土 赤・黒色スコリア少量 ローム粒子多量



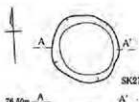
SK2756
1 黒褐色土 赤色スコリア・焼土少量 ローム粒子微量 締り強い
2 赤褐色土 焼土 黒褐色土少量 締り強い
3 黒褐色土 焼土多量
4 黒褐色土 ローム粒子・焼土微量
5 黒褐色土 ローム粒子・焼土少量 炭化物微量
6 黒褐色土 ローム粒子 粘土粗い・ロームブロック含む
7 黒褐色土 黒土層・ローム粒子・焼土微量 締り強い
8 黒褐色土 5層に似るが締り有り 粘性あり



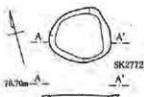
SK2759
非常に黒い 黒色スコリア・ローム粒子少量
1 黒褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子多量
2 黒褐色土 赤褐色土・ローム粒子少量
3 黒褐色土 赤褐色土・ローム粒子少量
4 黒褐色土 ローム粒子のたまり 黒土層・黒褐色土少量



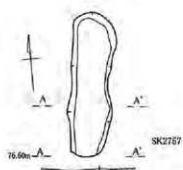
SK2768
1 黒褐色土 赤・黒色スコリア・焼土少量 炭化物微量 ローム粒子多量



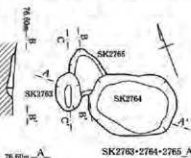
SK2771
1 黒褐色土 赤色スコリア・炭化物微量 焼土少量 ローム粒子多量
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量



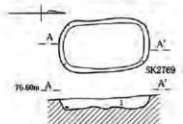
SK2772
1 黒褐色土 ローム粒子・黒土層・ロームブロック少量 焼土微量



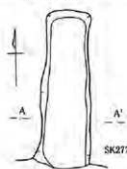
SK2757
1 黒褐色土 黒土層含む 赤・黒色スコリア微量 ローム粒子少量
2 黒褐色土 非常に黒い 赤・黒色スコリア少量 ロームブロック多量
3 暗褐色土 赤色スコリア・黒褐色土・ローム粒子微量



SK2763
1 黒褐色土 黒土層・ローム粒子微量
SK2764
1 黒褐色土 赤色スコリア・焼土微量 ローム粒子・黒土層少量
SK2765
1 黒褐色土 非常に粗い 赤色スコリア・ローム粒子微量



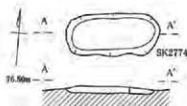
SK2769
1 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒色スコリア・ローム粒子少量



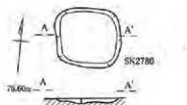
SK2773
1 黒褐色土 黒土層含む 赤色スコリア・ローム粒子 締り強い
2 黒褐色土 非常に黒い 赤色スコリア・焼土少量 ローム粒子1層より多量 締り強い



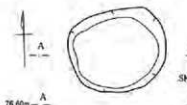
図面112 SK2774~SK2790土坑



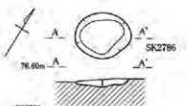
SK2774
1 黒褐色土 粘土質、ローム粒子少量
2 灰土・炭化物微量



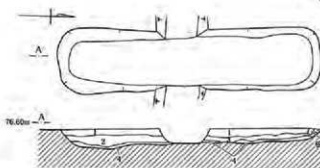
SK2780
1 黒褐色土 粘土質、
焼土微量



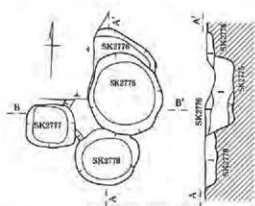
SK2782
1 黒褐色土 灰褐色 ローム粒子多量 炭化物微量 焼土少量
2 黒褐色土 灰褐色 ローム粒子・ロームブロック少量
3 黒褐色土 黒い ローム粒子多量 ロームブロック少量
4 黒褐色土 ローム粒子多量
5 黒褐色土 ローム粒子少量



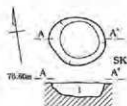
SK2786
1 暗褐色土 黒色スコリア少量 焼土微量



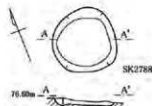
SK2787
1 黒褐色土 明るい ローム粒子・焼土少量
2 黒褐色土 黒い ローム粒子・焼土少量
3 黒褐色土 明るい ローム粒子・焼土少量
4 黒褐色土 暗褐色土



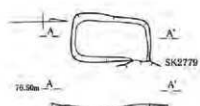
SK2776
1 黒褐色土 非常に黒い 焼土が一画に散っている
2 黒褐色土 少し茶色い 焼土少量 ローム粒子多量
SK2777
1 黒褐色土 非常に黒い 焼土・ローム粒子少量
SK2778
1 黒褐色土 少し茶色い 赤色スコリア・
黒色スコリア微量
SK2779
1 黒褐色土 非常に黒い 赤色スコリア微量
黒色スコリア・焼土少量



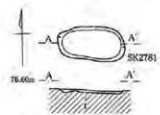
SK2785
1 暗褐色土 黒色スコリア少量
焼土微量



SK2788
1 黒褐色土 非常に黒く粘土質、
赤・黒色スコリア微量 ローム粒子少量



SK2779
1 黒褐色土 赤色スコリア・焼土微量
ローム粒子少量



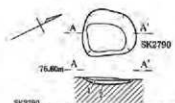
SK2781
1 暗褐色土 赤色スコリア微量
黒色スコリア・ローム粒子少量



SK2783
1 黒褐色土 1 b層・ローム粒子少量 焼土微量
2 黒褐色土 1層より黒い 暗褐色ブロック微量 焼土少量
3 黄褐色土 ロームブロックに黒褐色土少量
SK2784
1 黒褐色土 1 b層多量 焼土微量、ローム粒子少量
2 黒褐色土 1層より黒い 焼土少量
3 黒褐色土 赤・黒色スコリア炭化物微量 暗褐色ブロック・
ローム粒子少量

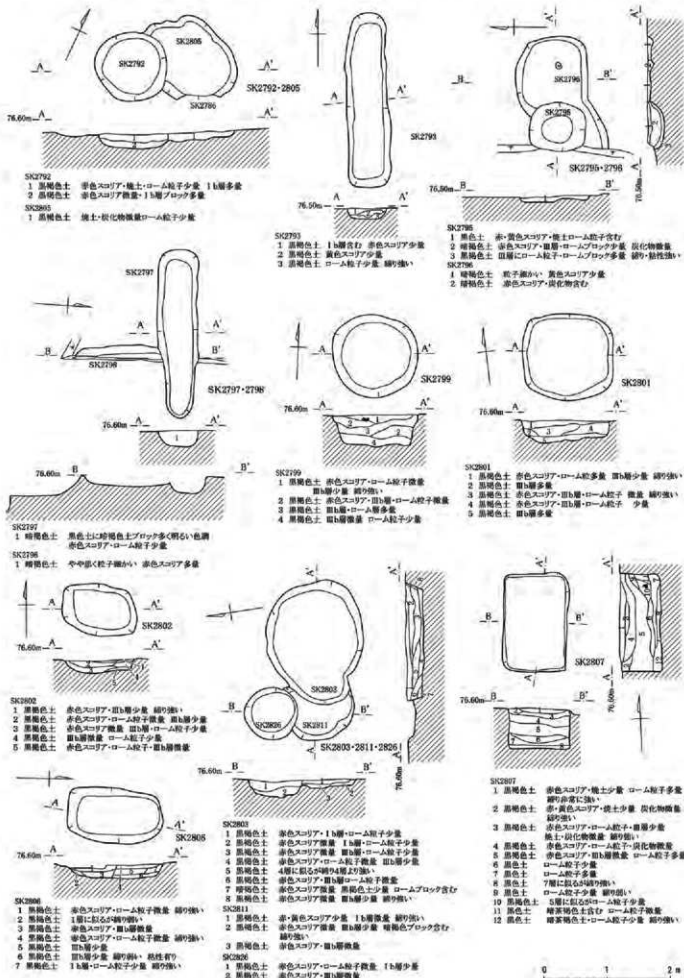


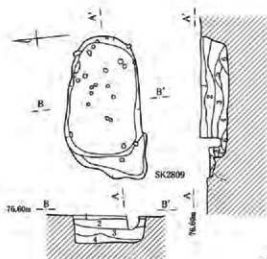
SK2789
1 黒褐色土 黒く粘土質、
ローム粒子少量 焼土微量



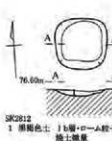
SK2790
1 黒褐色土 赤色スコリア少量 1 b層焼土 暗褐色、
2 黒褐色土 赤色スコリア・1 b層・ローム粒子少量



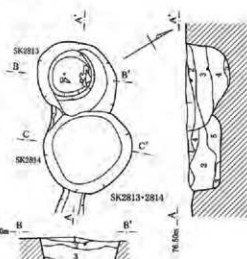




- SK2809
- 1 黒褐色土 赤色スクリア・1b層少量 ローム粒子少量 締り強い
 - 2 黒褐色土 赤色スクリア少量 黒土層・ローム粒子少量
 - 3 黒褐色土 2層に似る5層の強い
 - 4 黒褐色土 赤色スクリア・黒土層少量 ロームブロック含む
 - 5 黒褐色土 赤色スクリア・黒土層少量 ローム粒子多量
 - 6 黒褐色土 黒土層少量 ローム粒子多量
 - 7 暗褐色土 赤色スクリア・ローム粒子少量 黒褐色土多量

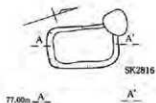


- SK2812
- 1 黒褐色土 1b層・ローム粒子少量 締り強い



- SK2813
- 1 黒褐色土 赤色スクリア・ローム粒子少量 1b層少量
 - 2 黒褐色土 黒土層・ローム粒子・ロームブロック少量 締り強い
 - 3 黒褐色土 赤色スクリア・黒土層・ローム粒子少量 ロームブロック含む 締り強い
 - 4 黒褐色土 黒土層・ロームブロック少量 ローム粒子多量
 - 5 黒褐色土 黒土層少量 ローム粒子多量

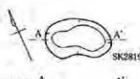
- SK2814
- 1 黒褐色土 赤色スクリア少量 1b層・ローム粒子少量 ロームブロック含む
 - 2 黒褐色土 黒土層・ローム粒子多量 スクリア含む
 - 3 黒褐色土 黒土層・ローム粒子・ロームブロック少量
 - 4 黒褐色土 赤色スクリア・1b層少量 ローム粒子少量
 - 5 暗褐色土 赤色スクリア・ロームブロック・ローム粒子多量 黒褐色土少量



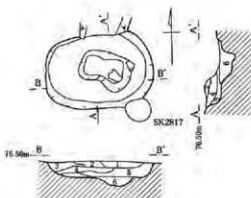
- SK2815
- 1 黒褐色土 赤色スクリア・1b層少量 ローム粒子少量 締り強い
 - 2 黒褐色土 赤色スクリア・黒土層・ローム粒子少量 締り強い
 - 3 黒褐色土 赤色スクリア少量 黒土層少量 ロームブロック・暗褐色土含む
 - 4 黒褐色土 黒土層・ローム粒子多量
 - 5 黒褐色土 赤色スクリア少量 黒土層・ローム粒子多量



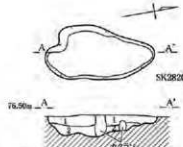
- SK2816
- 1 黒褐色土 赤色スクリア・黒土層・ローム粒子少量



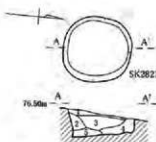
- SK2819
- 1 黒褐色土 黒色スクリア・ローム粒子・黒土・1b層少量



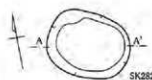
- SK2817
- 1 黒褐色土 赤色スクリア・ローム粒子・黒土層少量 締り強い
 - 2 黒褐色土 黒土層含む 赤色スクリア少量 ローム粒子・黒土少量
 - 3 黒褐色土 黒土層含む 暗褐色土少量 ローム粒子少量
 - 4 黒褐色土 黒土層含む
 - 5 黒褐色土 4層に似るローム粒子多量
 - 6 黒褐色土 黒土層含む 赤色スクリア少量 ロームブロック多量



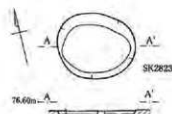
- SK2820
- 1 暗褐色土 粘土・赤色スクリア少量 ローム粒子多量
 - 2 暗褐色土 1層の締り強い



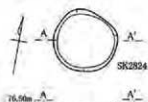
- SK2821
- 1 黒褐色土 スクリア・ロームブロック少量 黒土層・黒褐色ブロック・ローム粒子少量 締り強い
 - 2 黒褐色土 スクリア・黒土層・ローム粒子少量
 - 3 黒褐色土 スクリア少量 黒土層・黒褐色ブロック・ロームブロック少量 ローム粒子多量
 - 4 黒褐色土 スクリア少量 黒土層・ローム粒子多量
 - 5 黒褐色土 スクリア・黒土層少量 黒褐色ブロック多量 ローム粒子少量



- SK2822
- 1 黒褐色土 粘土・ローム粒子・黒土層・ロームブロック少量
 - 2 黒褐色土 粘土・ローム粒子少量 黒土層・ロームブロック多量

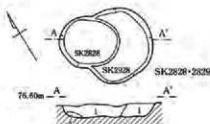


- SK2823
- 1 暗褐色土 粘土・ローム粒子・黒土層・ロームブロック少量
 - 2 黒褐色土 粘土・ローム粒子少量 黒土層・ロームブロック多量
 - 3 暗褐色土 黒土層・ロームブロック



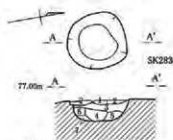
SK2824

- 1 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子微量 砂り強い
- 2 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層少量 ローム粒子少量
- 3 黒褐色土 2層にわたる赤土層、粘性有り
- 4 黒褐色土 黒土層少量



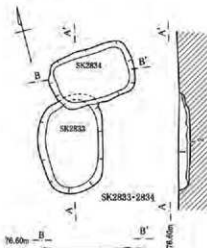
SK2826

- 1 黒褐色土 赤色スコリア・1層層少量 黄色スコリア少量 砂り強い
 - 2 黒褐色土 黒土層少量
- SK2829
- 1 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土・ローム粒子少量



SK2830

- 1 黒褐色土 粒子粗く非常に黒い、ローム粒子少量
- 2 黒褐色土 赤色スコリア微量 1層層少量
- 3 黒褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量 黒土層少量
- 4 黒褐色土 2層にわたる赤土層少量
- 5 黒褐色土 赤色スコリア微量 ローム粒子少量 黒褐色土少量
- 6 暗褐色土 ローム粒子含む
- 7 暗褐色土 ローム粒子主体

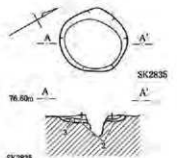


SK2833

- 1 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 粘土層少量
- 2 黒褐色土 黒土層少量 ローム粒子少量 粘土層少量

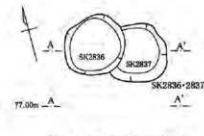
SK2834

- 1 黒褐色土 赤色スコリア・1層層少量
- 2 黒褐色土 赤色スコリア・黒土層少量 暗褐色ブロック、ロームブロック含む
- 3 暗褐色土 黒褐色土微量 砂り強い



SK2835

- 1 黒褐色土 粘土・ローム粒子微量
- 2 黒褐色土 暗褐色土少量
- 3 黄褐色土 ロームブロック

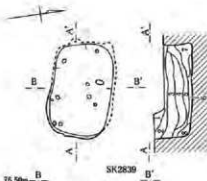


SK2836

- 1 黒褐色土 非常に赤い、ローム粒子少量 粘土層少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量 粘土層少量
- 3 黒褐色土 ローム粒子少量
- 4 黒褐色土 ローム粒子少量
- 5 黒褐色土 暗褐色土ブロック少量
- 6 黒褐色土 1層層、ローム粒子少量

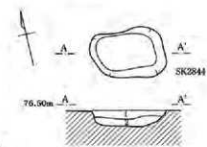
SK2837

- 1 黒褐色土 暗褐色土少量 粘土層、炭化物、ローム粒子微量



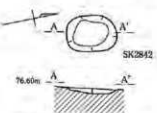
SK2839

- 1 黒褐色土 きり跡が、赤色スコリア・ローム粒子・粘土・黒土層少量 砂り非常に強い
- 2 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む
- 3 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む
- 4 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む
- 5 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む
- 6 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む
- 7 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む
- 8 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む
- 9 黒褐色土 砂り強い、ローム粒子少量 粘土層少量 炭化物含む



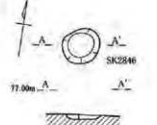
SK2840

- 1 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層・ローム粒子・粘土少量
- 2 黒褐色土 赤色スコリア・炭化物微量 ローム粒子少量
- 3 黒褐色土 赤色スコリア・炭化物微量 ローム粒子少量 粘土層少量
- 4 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子微量 黒土層少量
- 5 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子微量 粘土層少量
- 6 黒褐色土 ローム粒子微量



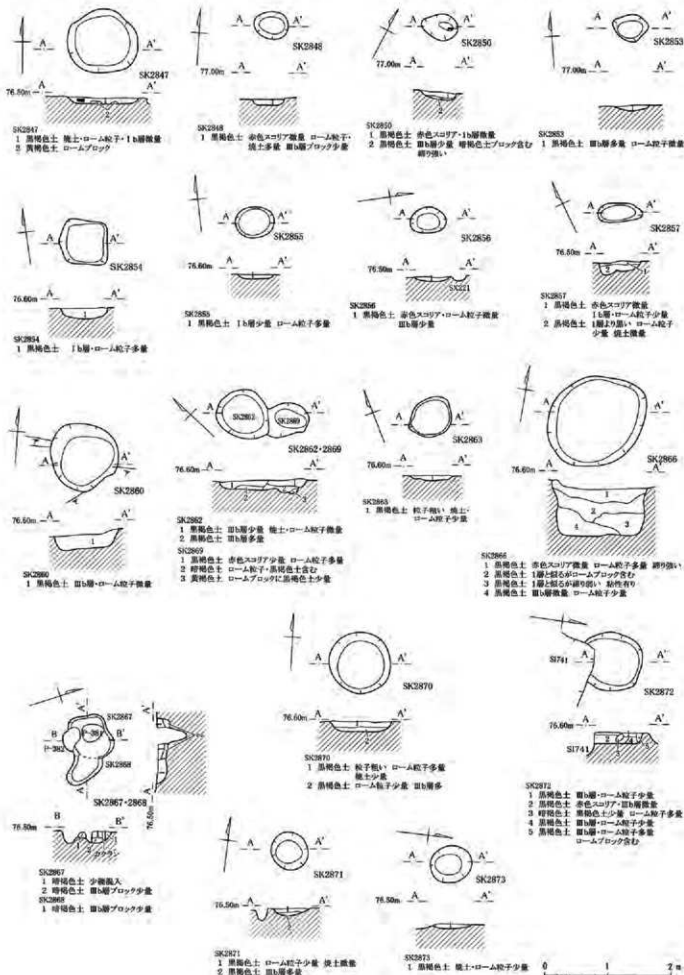
SK2842

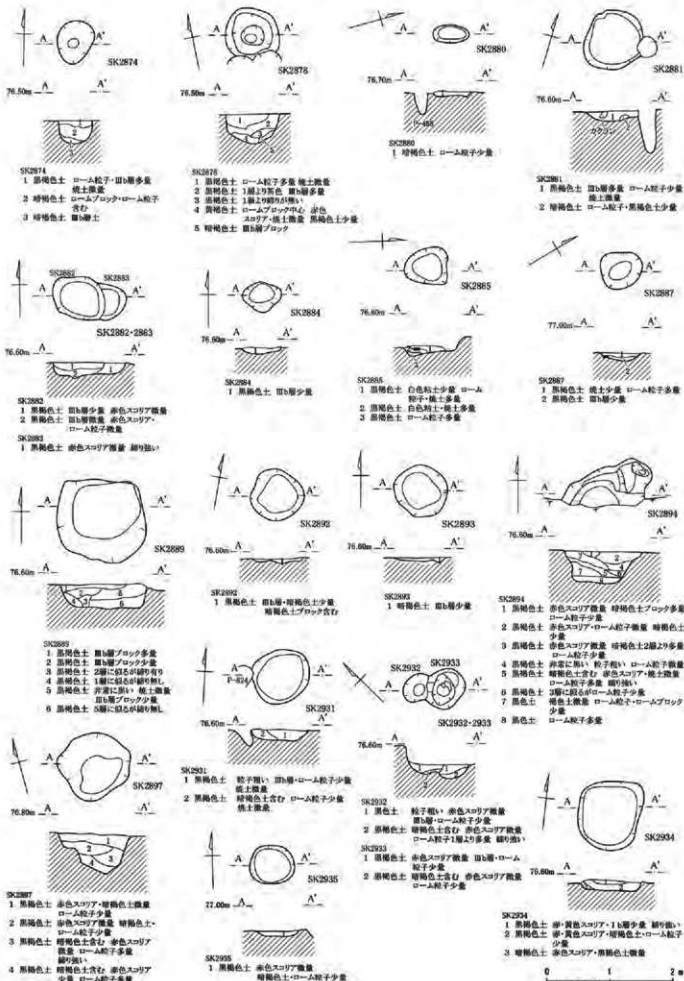
- 1 黒褐色土 粒子粗い、ローム粒子少量

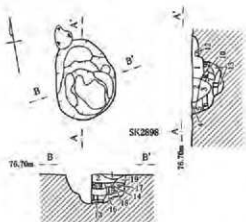


SK2844

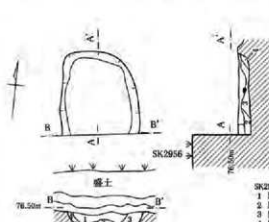
- 1 黒褐色土 粘土・ローム粒子微量 1層層少量



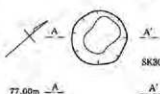




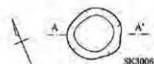
- K2898
- 1 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層・ローム粒子少量 硬く強い
 - 2 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層・暗褐色土 ブロック少量
 - 3 黒褐色土 2層にわたる暗褐色土 ブロック少量
 - 4 黒褐色土 2層にわたる暗褐色土
 - 5 黒褐色土 2層にわたる暗褐色土
 - 6 黒褐色土 1層にわたる暗褐色土
 - 7 黒褐色土 2層にわたる暗褐色土
 - 8 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒褐色土少量
 - 9 黒褐色土 1層にわたる暗褐色土
 - 10 黒褐色土 ローム粒子少量
 - 11 黒褐色土 黒土層・ローム粒子少量
 - 12 黒褐色土 ブロック
 - 13 黒褐色土
 - 14 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 黒土層多量
 - 15 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 黒土層多量
 - 16 黒褐色土 1層にわたる暗褐色土
 - 17 黒褐色土 赤色スコリア・黒土層少量
 - 18 黒褐色土 1層にわたる暗褐色土
 - 19 黒褐色土 赤色スコリア・ローム粒子少量 黒土層少量



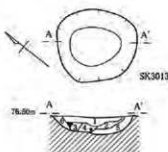
- SK2956
- 1 黒褐色土 赤・黄色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 黒褐色土 粘土層 1層より強い スコリア 微量 ローム粒子少量
 - 3 黒褐色土 粘土層 1層より強い ローム 粒子・黒土層少量
 - 4 黒褐色土 黒土層少量 ローム粒子少量
 - 5 黒褐色土 黒土層少量 ローム粒子少量



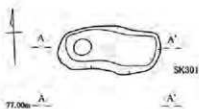
- SK2965
- 1 黒褐色土 赤色スコリア・黒土層少量
 - 2 黒褐色土 1層より強い 赤色スコリア微量
 - 3 黒褐色土 赤色スコリア・黒土層少量
 - 4 黒褐色土 暗褐色土含む 赤色スコリア微量 ローム粒子少量



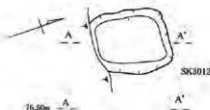
- SK3006
- 1 黒褐色土 黄色スコリア・粘土・ローム粒子少量
 - 2 黒褐色土 黄色スコリア微量 黒土層ブロック少量



- SK3013
- 1 黒褐色土 非常に強い 赤色スコリア・ローム粒子少量
 - 2 黒褐色土 黒土層少量
 - 3 黒褐色土 黒土層・ローム粒子少量
 - 4 黒褐色土 黒土層・ローム粒子少量
 - 5 黒褐色土 黒土層・ローム粒子少量
 - 6 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒褐色土少量



- SK3011
- 1 黒褐色土 非常に強い ローム粒子少量
 - 2 黒褐色土 黒土層・ローム粒子少量



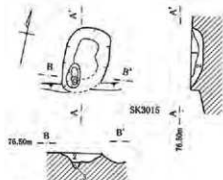
- SK3012
- 1 黒褐色土 黒土層・ローム粒子少量



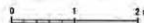
- SK3035
- 1 黒褐色土 非常に強い 赤色スコリア・ローム粒子少量

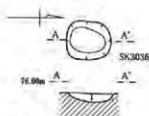


- SK3014
- 1 黒褐色土 ローム粒子少量
 - 2 黒褐色土 1層より強い 赤色スコリア微量 黒土層・ローム粒子少量

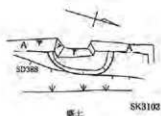


- SK3015
- 1 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒土層少量
 - 2 黒褐色土 赤色スコリア微量 黒褐色土少量
 - 3 黒褐色土 ローム粒子 黒褐色土少量

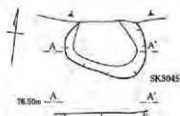




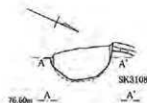
SK3036
1 黒褐色土 非常に湿り強い ローム粒子少量



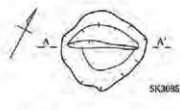
SK3103
1 黒褐色土 赤・黄色スコリア・1層少量 硬土散在
2 黒褐色土 赤・黄色スコリア少量 硬土散在
3 黒褐色土 赤・黄色スコリア少量 硬土散在
4 黒褐色土 3層より強い 赤・黄色スコリア、硬土ブロック散在
5 黒褐色土 3層より強い 硬土少量 ローム粒子散在
6 黒褐色土 硬土少量 湿り強い



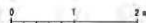
SK3045
1 黒褐色土 硬土少量 赤・黄色スコリア・硬土散在
ローム粒子少量
2 黒褐色土 硬土散在 ローム粒子少量



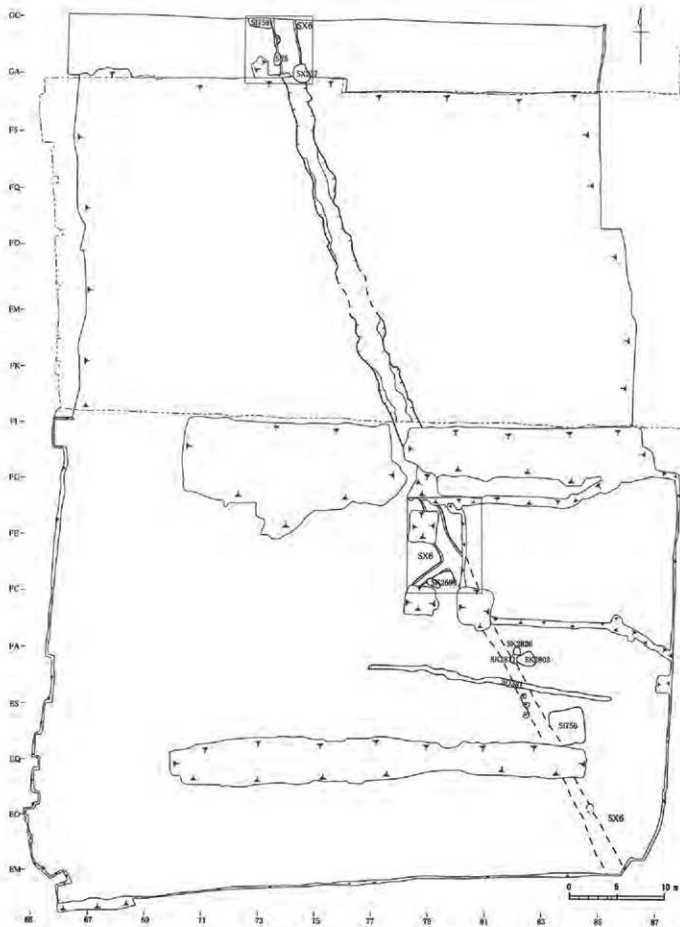
SK3108
1 黒褐色土 硬土・ローム粒子少量
2 黒褐色土 ローム粒子少量
3 黒褐色土 1層に散在するローム粒子少量
4 黒褐色土 非常に強い 硬土・ローム粒子少量
赤・黄色スコリアに散在



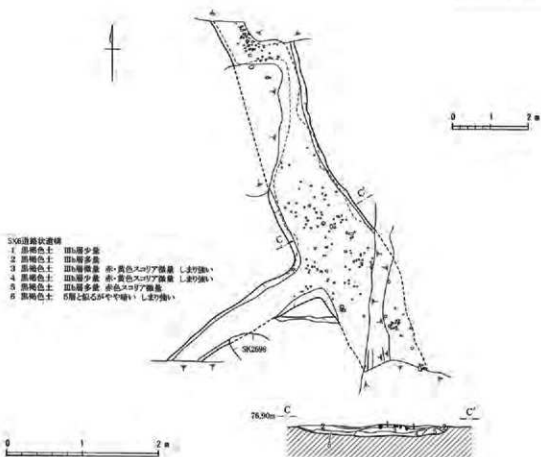
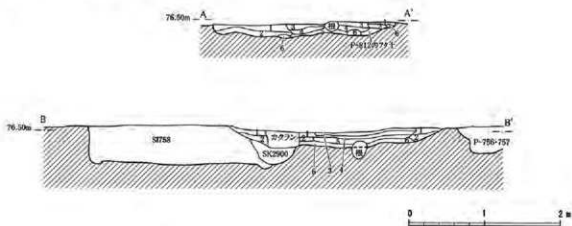
SK3085
1 黒褐色土 1層・硬土含む 赤・黄色スコリア少量
2 黒褐色土 硬土・ローム含む 赤・黄色スコリア少量
3 黒褐色土 硬土に散在
4 黒褐色土 ローム・スコリア
5 黒褐色土
6 黒褐色土 硬土あり
7 黒褐色土



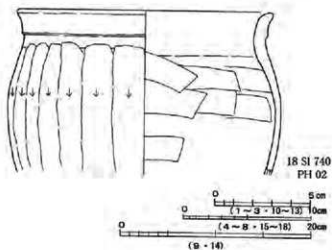
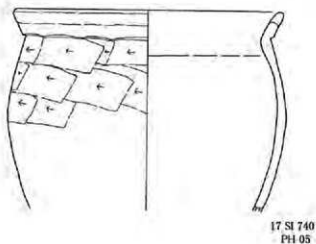
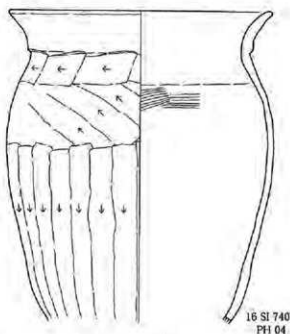
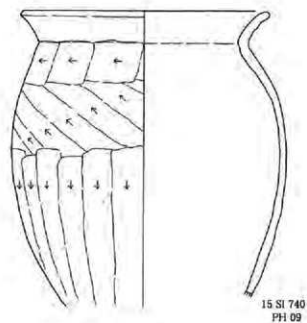
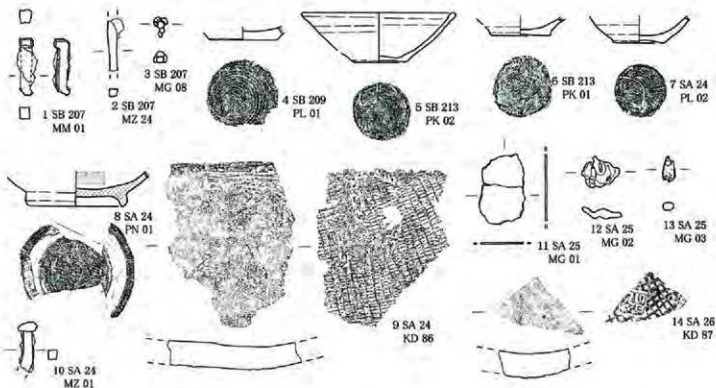
図面120 SX6道路状遺構(1)

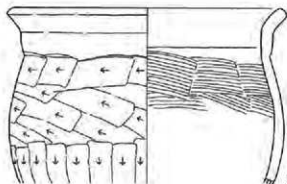


図面121 SX6道路状遺構(2)

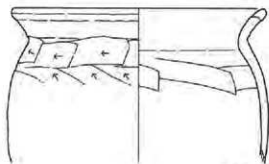


図面122 SB207・SB209・SB213掘立柱建物出土遺物、SA24・SA25・SA26柱穴出土遺物、SI740住居出土遺物(1)

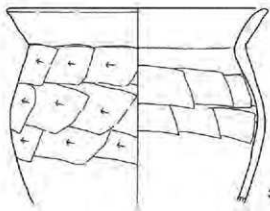




1 SI 740
PH 10



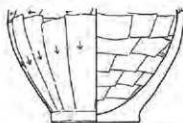
2 SI 740
PH 07



3 SI 740
PH 03



4 SI 740
PH 08



5 SI 740
PH 06



6 SI 740
PH 01



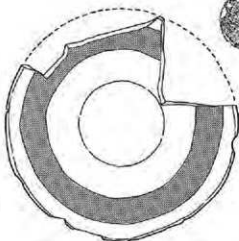
7 SI 740
PK 03



8 SI 740
PK 04



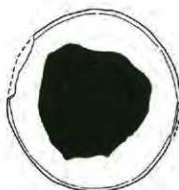
9 SI 740
PK 05



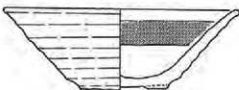
10 SI 740
PL 03



11 SI 740
PL 07

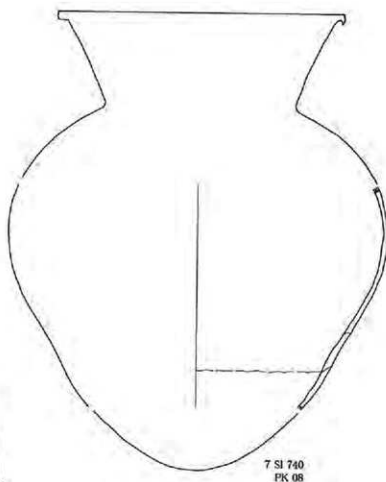
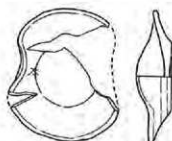
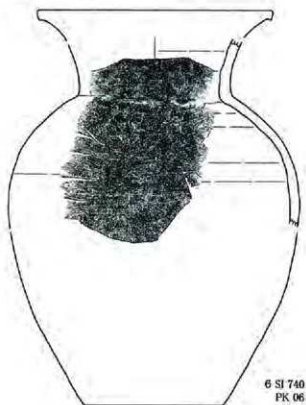
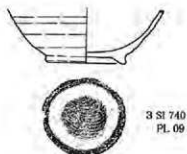
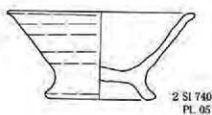


12 SI 740
PL 08



0 10cm

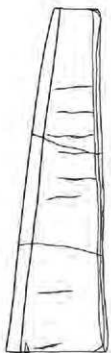
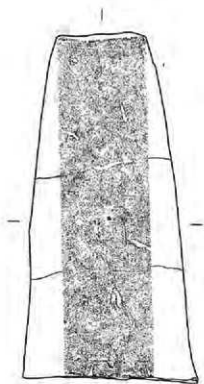
図面124 SI740住居出土遺物(3)



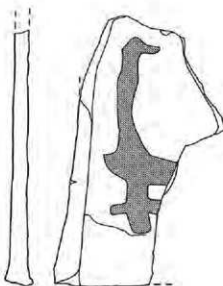
0 10cm
(1~6)

0 10cm
(7)

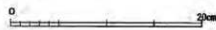
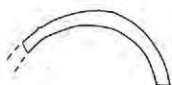
図面125 SI740住居出土遺物(4)



1 SI 740
KC 01

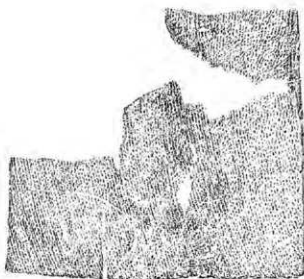
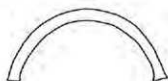


2 SI 740
KC 02

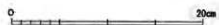




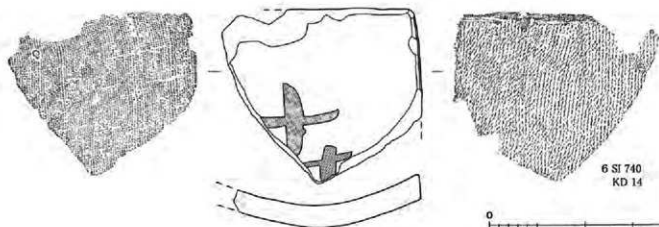
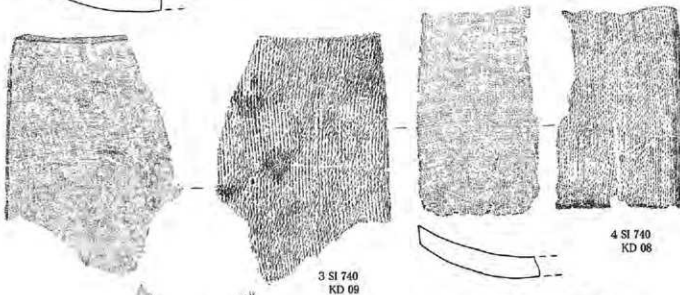
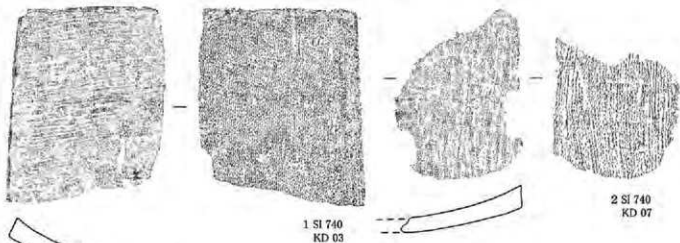
1 SI 740
KC 06



2 SI 740
KD 01

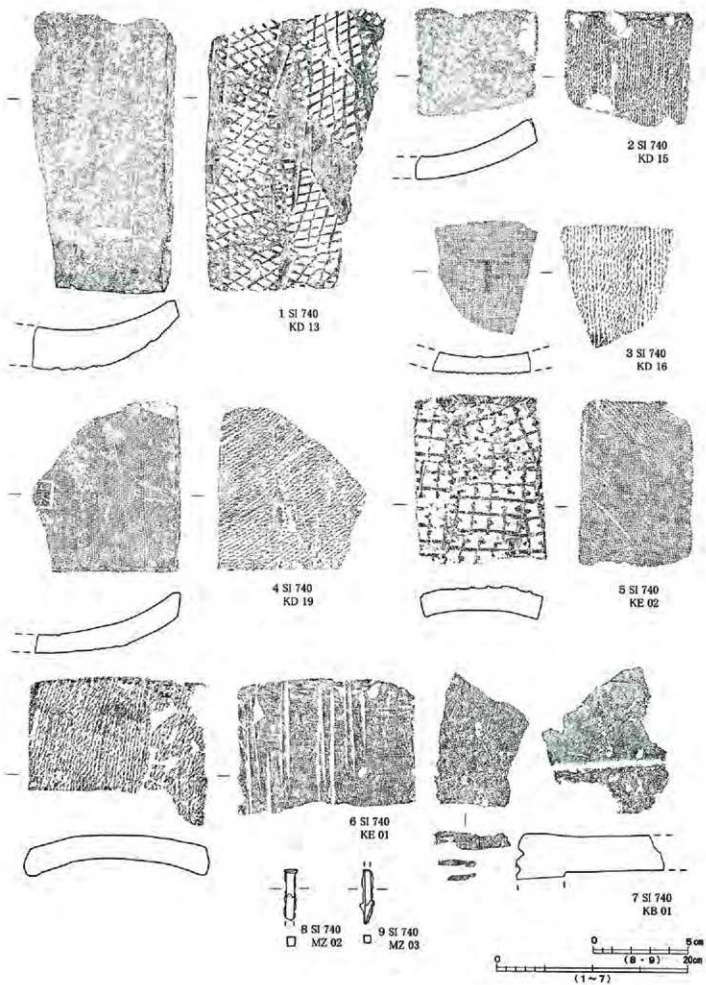


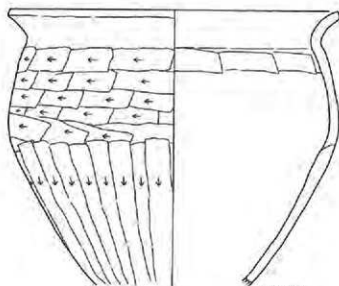
図面127 SI740住居出土遺物(6)



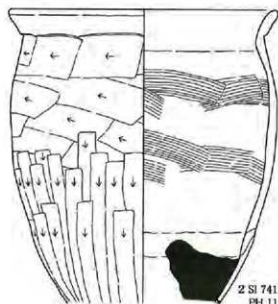
0 20cm

図面128 SI740住居出土遺物(7)

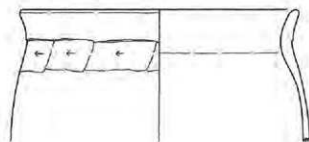




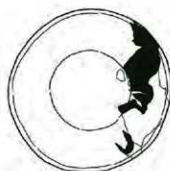
1 SI 741
PH 12



2 SI 741
PH 11



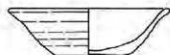
3 SI 741
PH 13



4 SI 741
PK 10



5 SI 741
PH 11



6 SI 741
PK 09



7 SI 741
PK 12

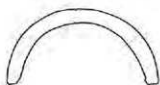


8 SI 741
PL 10





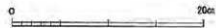
1 SI 741
KC 10



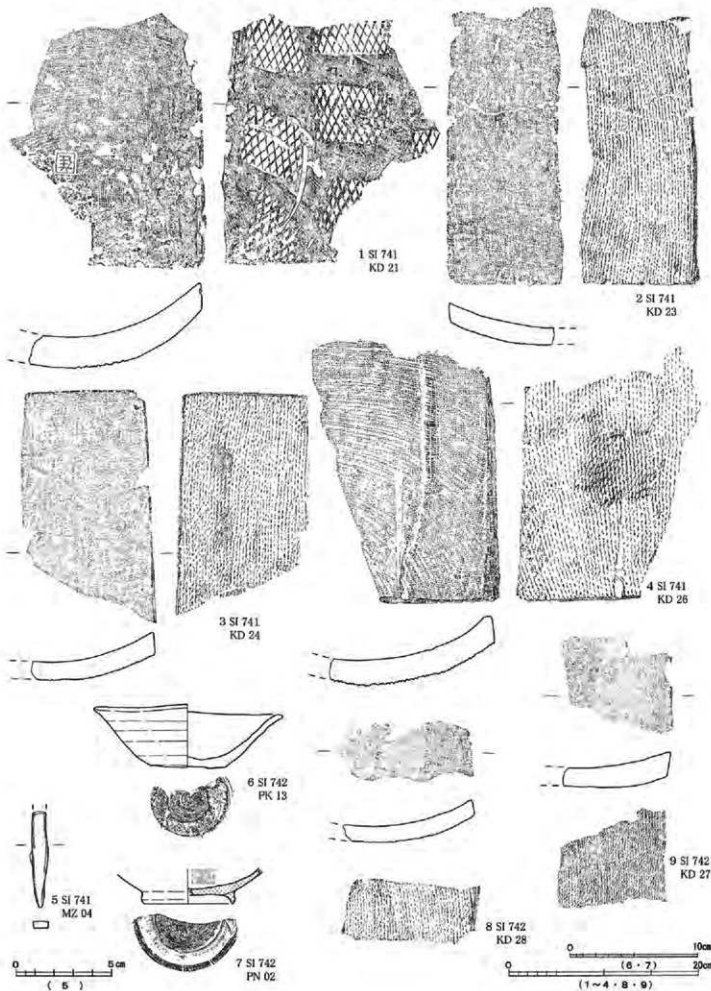
3 SI 741
KD 20



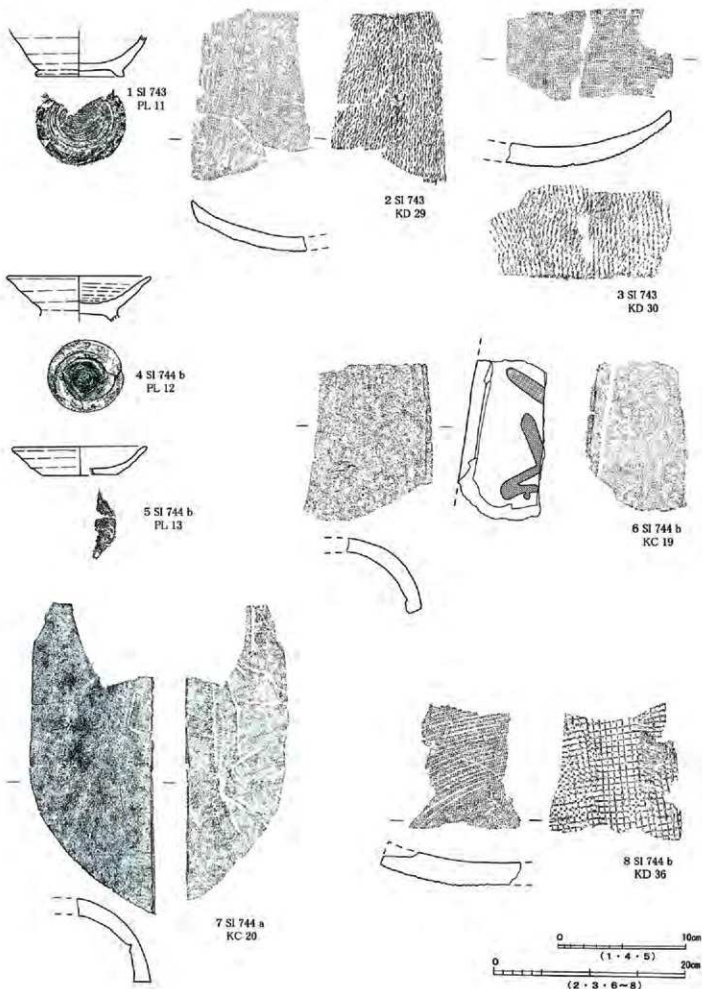
2 SI 741
KC 14

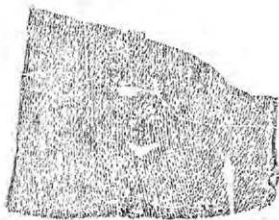
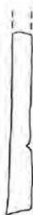
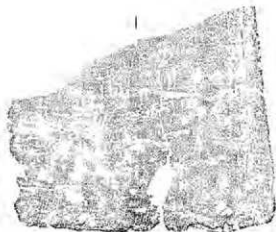


図面131 SI741住居出土遺物(3)・SI742住居出土遺物

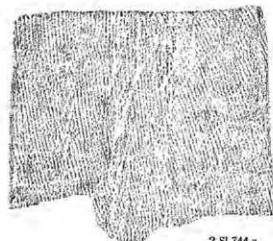


図面132 SI743住居出土遺物・SI744住居出土遺物(1)

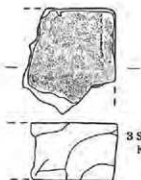




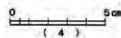
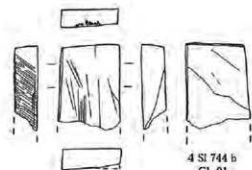
1 SI 744 a
KD 31



2 SI 744 a
KD 32



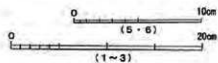
3 SI 744 b
KH 01



5 SI 747
PK 14



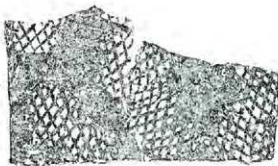
6 SI 747
PK 15



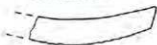
図面134 SI747住居出土遺物(2)・SI748住居出土遺物



1 SI 747
KD 38



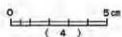
2 SI 747
KD 39



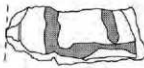
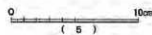
3 SI 747
KD 41



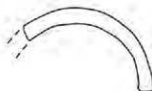
4 SI 747
MJ 01



5 SI 748
PL 14



6 SI 748
KC 26

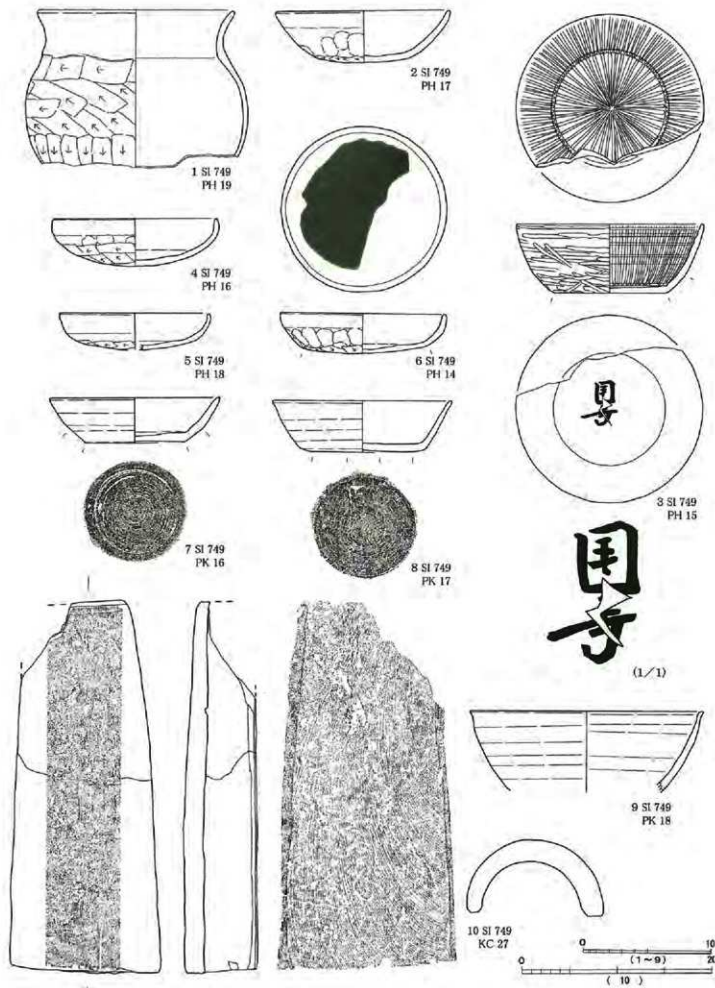


7 SI 748
KD 42

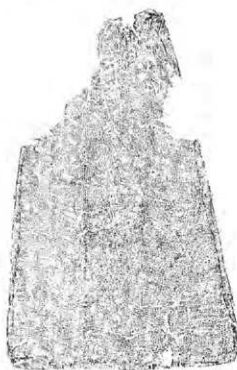
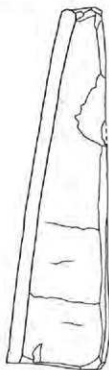
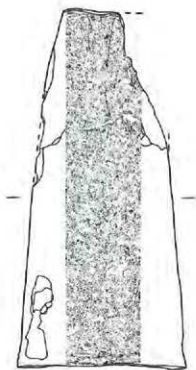


(1~3・6・7)

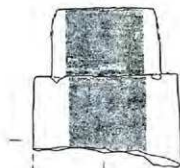
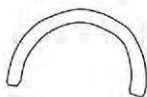
図面135 SI749住居出土遺物(1)



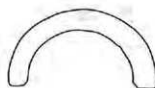
図面136 SI749住居出土遺物(2)



1 SI 749
KC 28



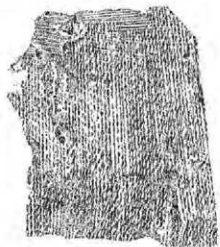
2 SI 749
KC 29



3 SI 749
KC 31



図面137 SI749住居出土遺物(3)



2 SI 749
KD 46



1 SI 749
KD 43



3 SI 749
KD 47



4 SI 749
KD 48



5 SI 749
KD 49

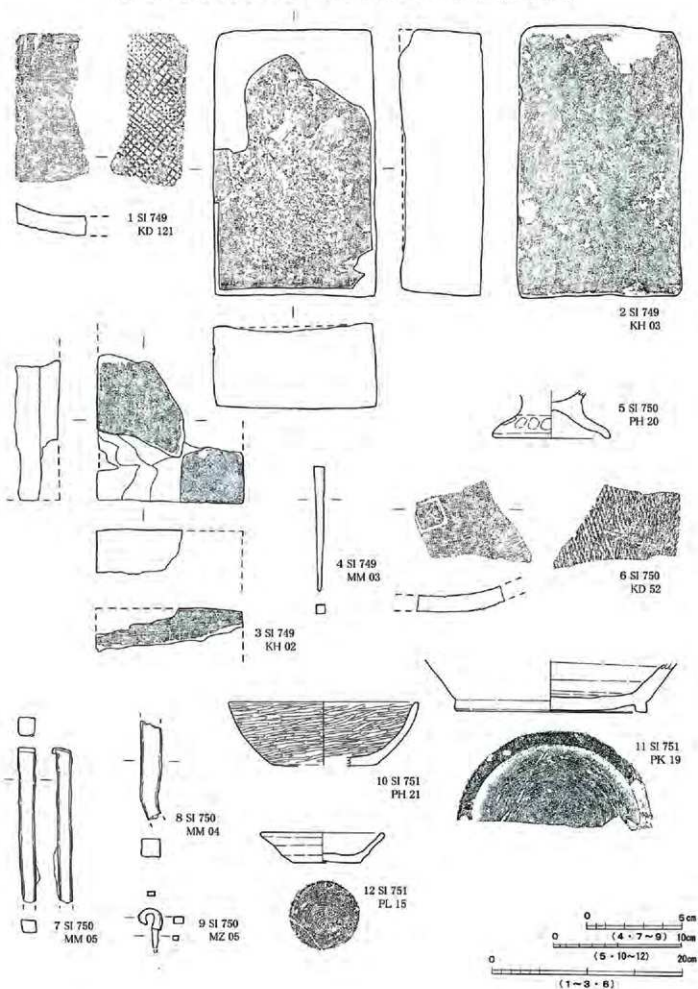


6 SI 749
KD 50

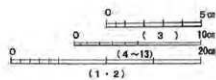
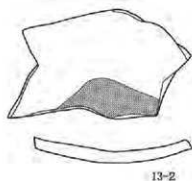
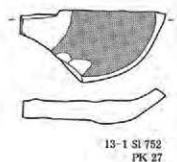
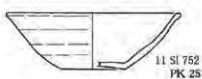
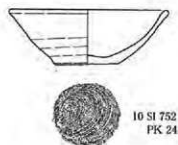
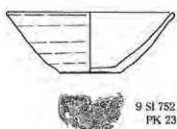
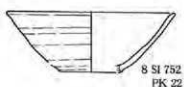
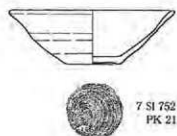
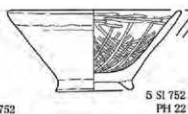
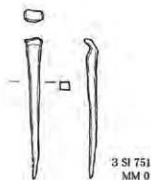


0 20cm

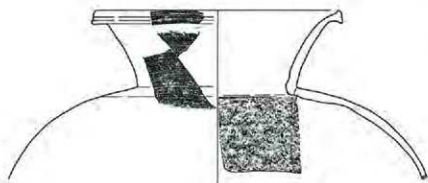
図面138 SI749住居出土遺物(4)・SI750住居出土遺物・SI751住居出土遺物(1)



図面139 SI751住居出土土遺物(2)・SI752住居出土遺物(1)



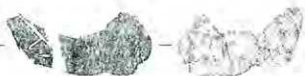
図面140 SI752住居出土遺物(2)



1 SI 752
PK 28



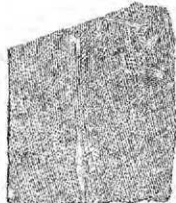
2 SI 752
PN 03



3 SI 752
KC 37



4 SI 752
KD 57



5 SI 752
KD 58



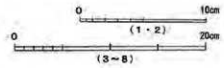
6 SI 752
KH 06



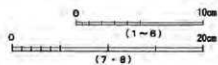
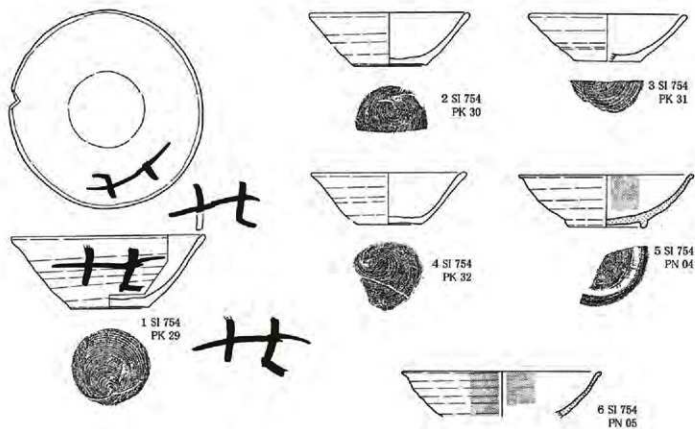
8 SI 752
KD 59



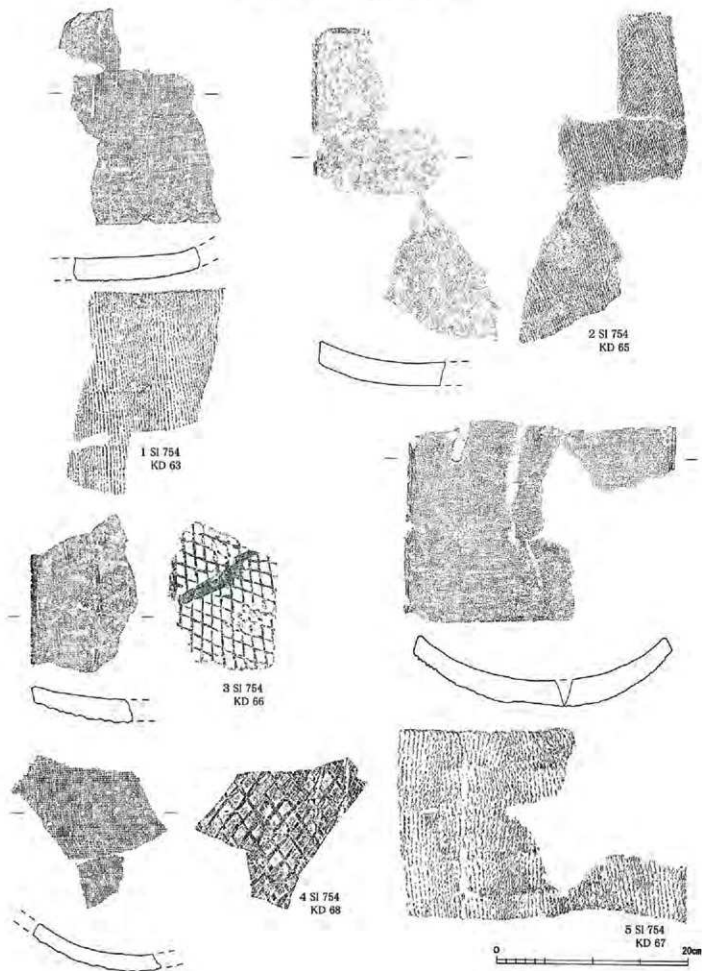
7 SI 752
KH 06



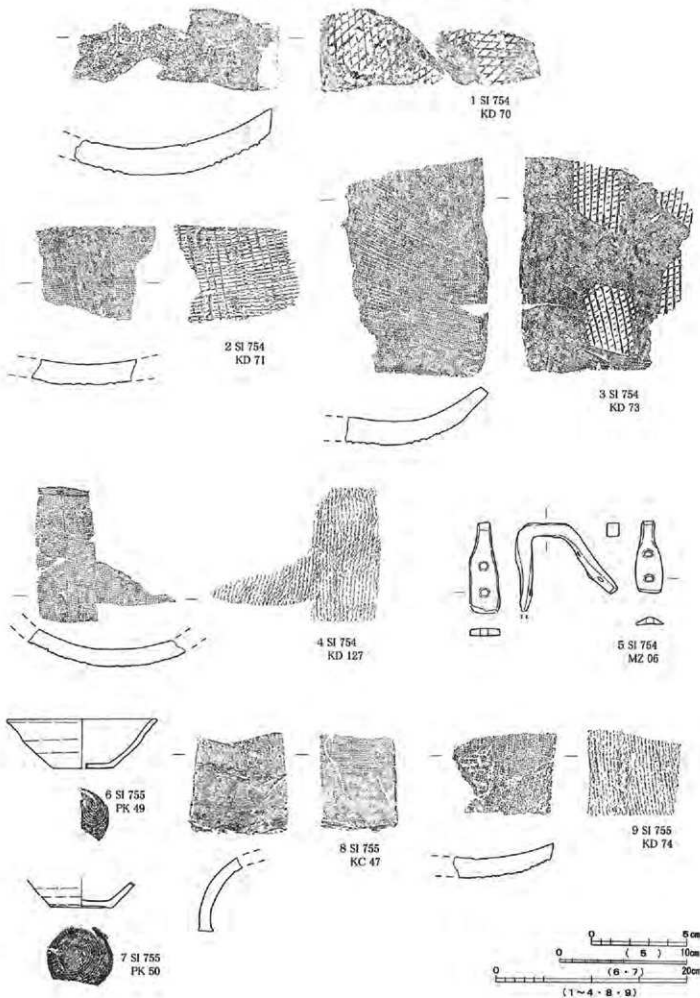
図面141 SI754住居出土遺物(1)



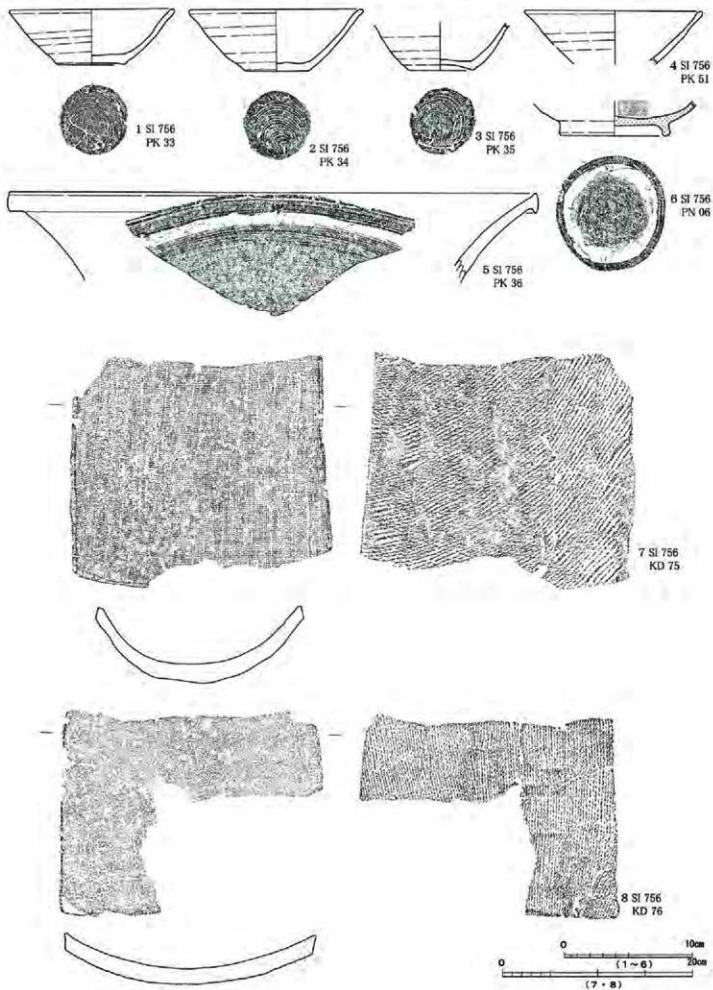
図面142 SI754住居出土遺物(2)



図面143 SI754住居出土遺物(3)・SI755住居出土遺物



図面144 SI756住居出土遺物(1)



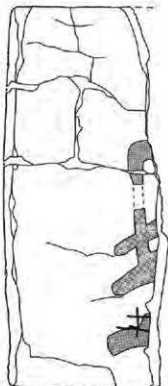
図面145 SI756住居出土遺物(2)



1 SI 756
KD 78



2 SI 756
KD 80



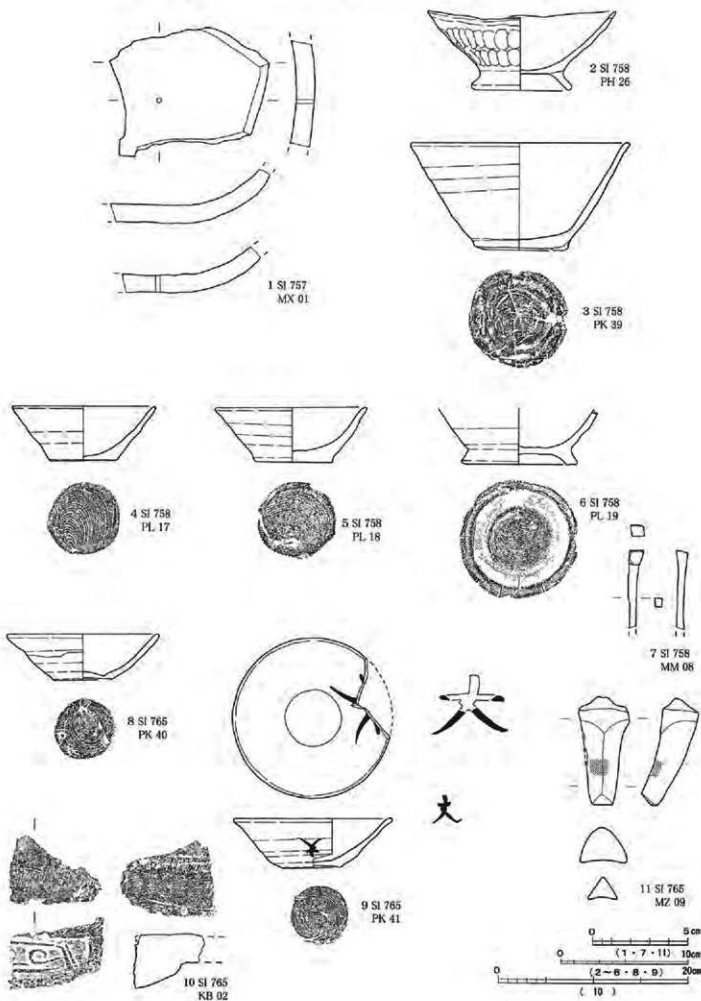
3 SI 756
KD 79



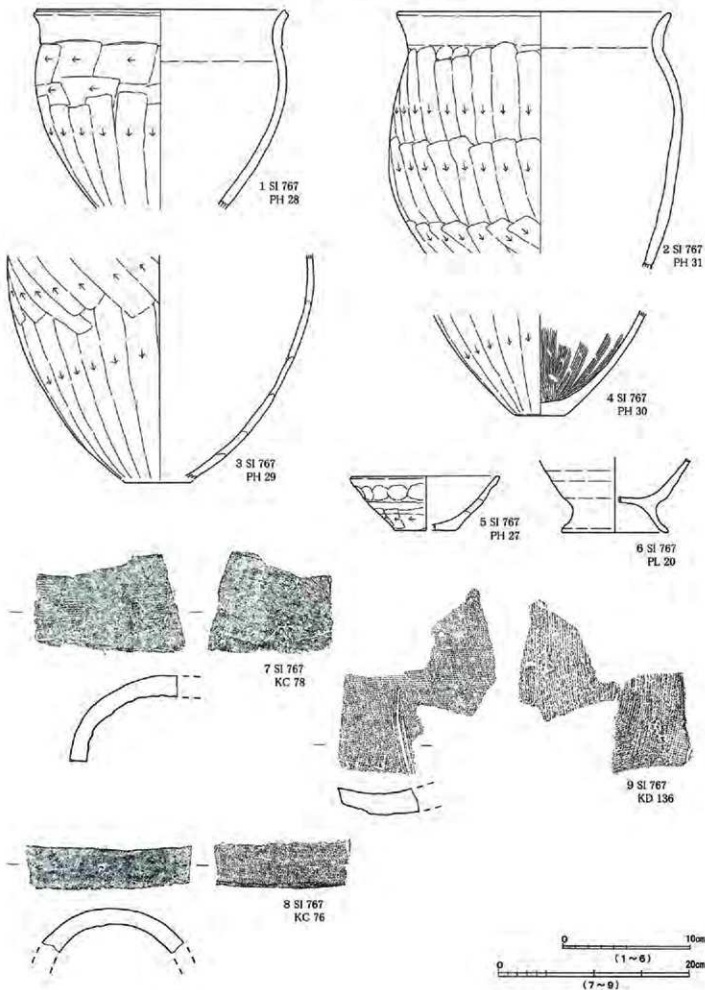
図面146 SI756住居出土遺物(3)・SI757住居出土遺物(1)



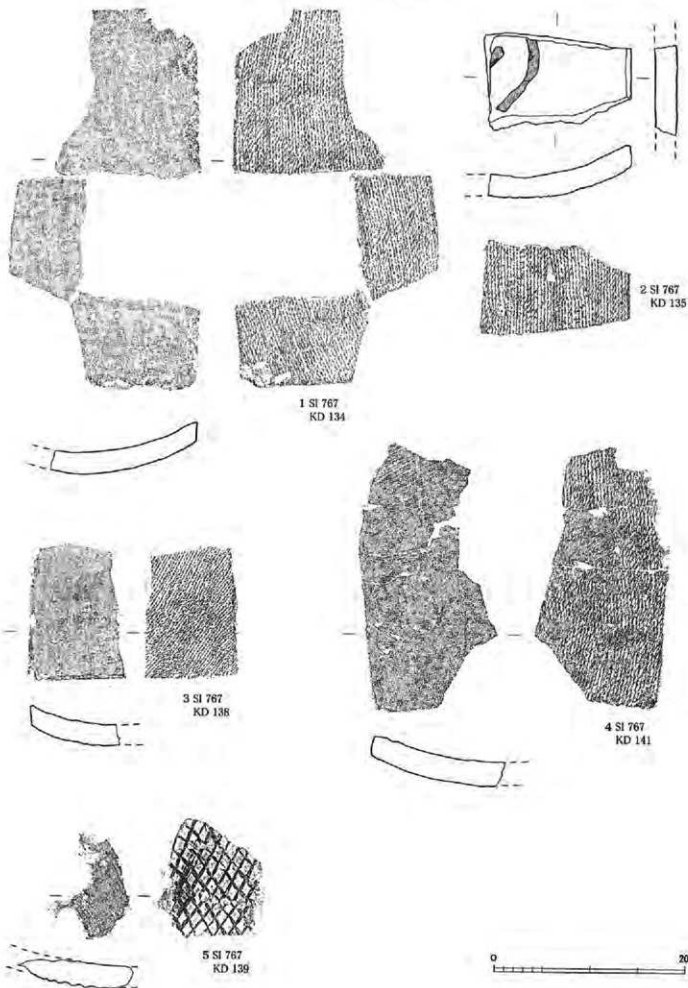
図面147 SI757住居出土遺物(2)・SI758住居出土遺物・SI765住居出土遺物



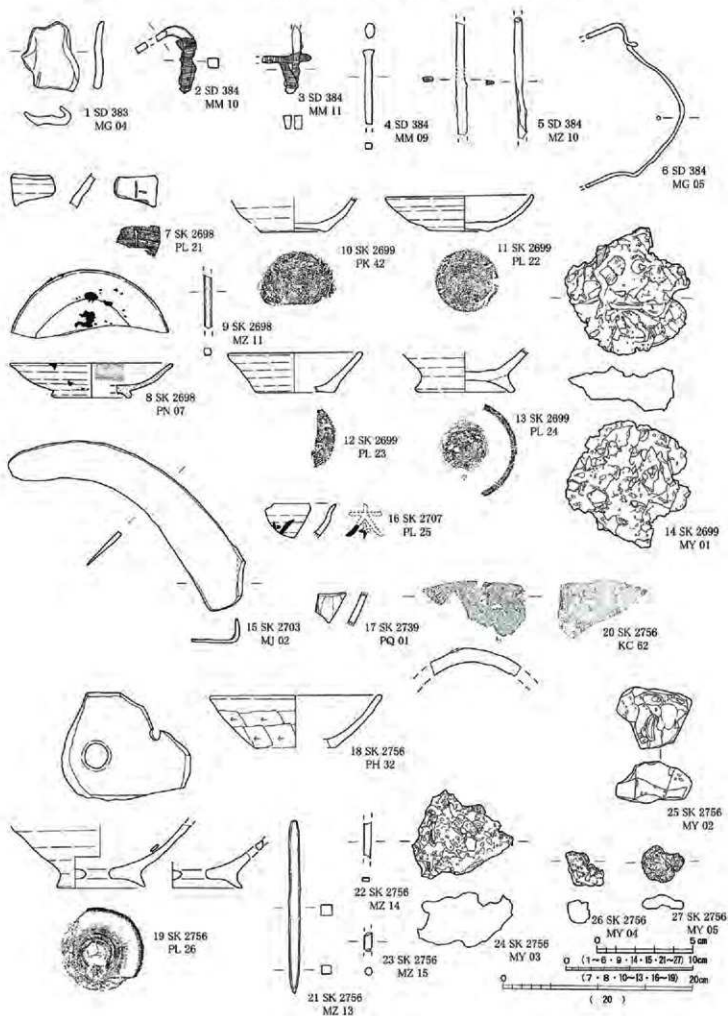
図面148 SI767住居出土遺物(1)

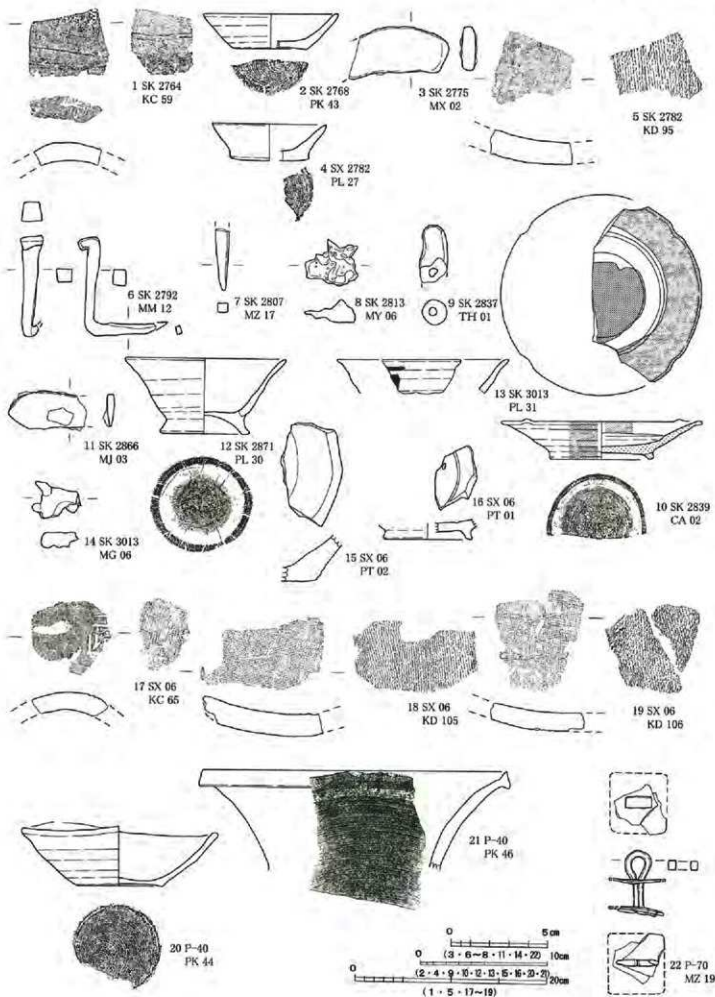


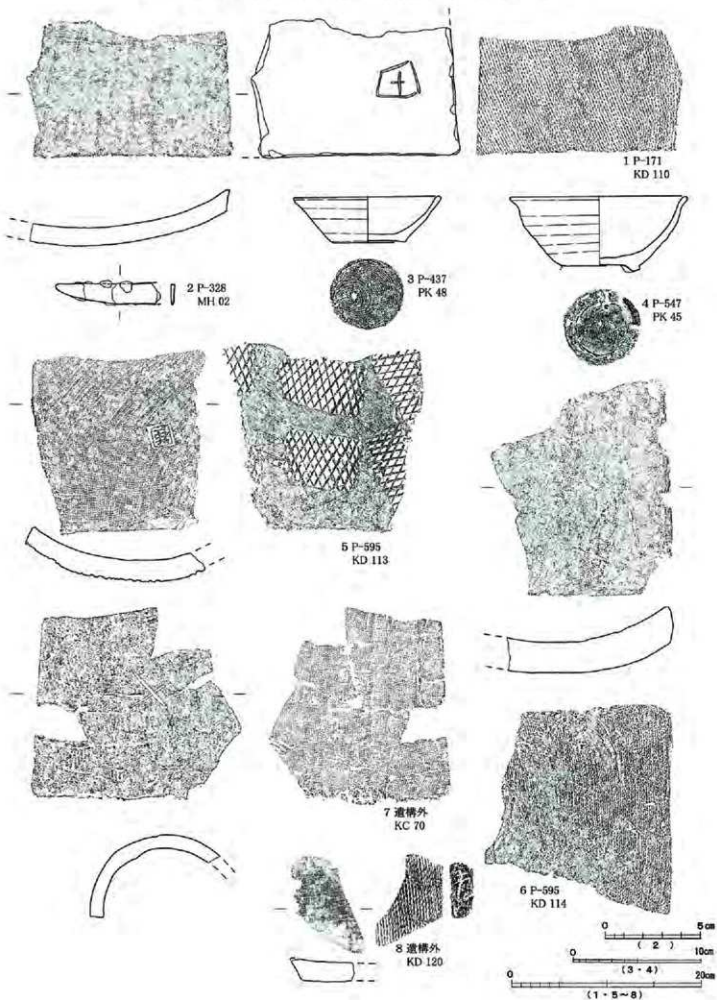
図面149 SI767住居出土遺物(2)



図面150 S0383・S0384溝、SK2698・SK2699・SK2703・SK2707・SK2739・SK2756土坑出土土遺物







図面153 遺構外出土遺物(2)

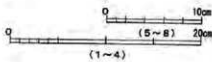
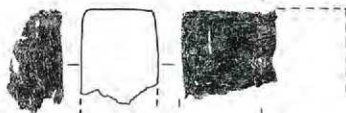
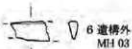
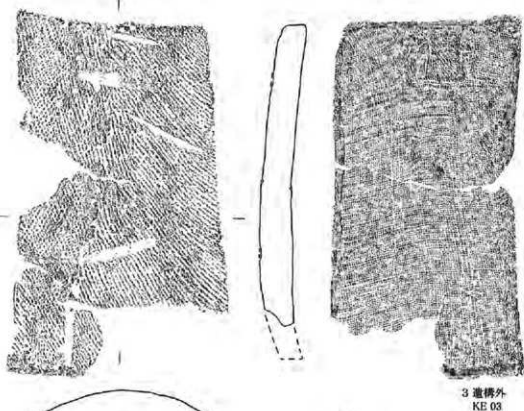
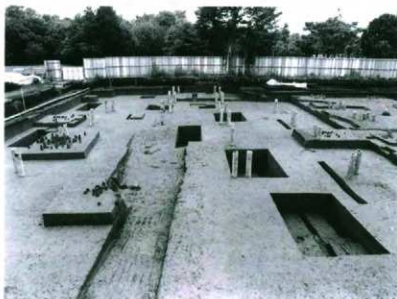


圖 版



1. 旧石器時代南側調査区ST38～ST41（東から）



2. 旧石器時代トレンチ（南から）



3. 旧石器時代第1トレンチ北壁土層（南から）



1. ST25石器集中部 (北から)



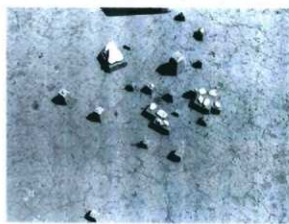
2. ST26石器集中部 (南から)



3. ST38石器集中部 (西から)



4. ST39石器集中部 (東から)



5. ST39石器集中部南側 (北から)



6. ST39石器集中部北側 (南から)



7. ST39石器集中部遺物出土状況 (南から)



8. ST39石器集中部石核出土状況 (南から)



1. ST39石器集中部台石出土状況（南から）



2. ST40石器集中部（西から）



3. ST40石器集中部（東から）



4. ST40石器集中部最下面（東から）



5. ST40石器集中部石核周辺遺物出土状況（東から）



6. ST40石器集中部石器・剥片出土状況（南から）



7. ST40石器集中部局部磨製出土状況（東から）



8. ST41石器集中部（東から）



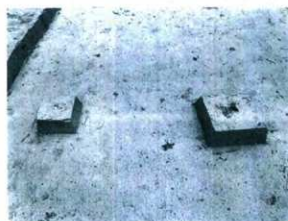
1. ST40・ST41石器集中部（南西から）



2. FE-72区Va層ナイフ形石器出土状況（南から）



3. ES-70区Va層遺物出土状況（南東から）



4. FA-83区Va層遺物出土状況（北から）



5. ET-78区Va層石器出土状況（南から）



6. ET-79区Va層ナイフ形石器出土状況（南から）



7. EN-82区VI層石器出土状況1（東から）

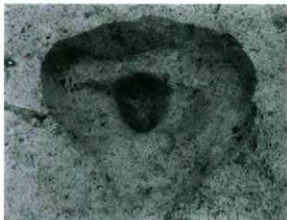


8. EN-82区VI層石器出土状況2（東から）

図版5 遺構外石器出土状況、SK3124P土坑、SC41・SC43炭化物集中部



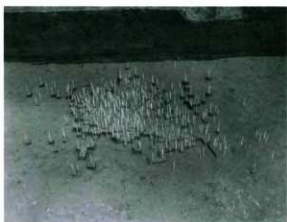
1. FL-82区VI層石器出土状況（南から）



2. SK3124P土坑（南から）



3. SK3124P土坑土層断面（東から）



4. SC41炭化物集中部（西から）



5. SC41炭化物集中部断面（南から）



6. SC43炭化物集中部（東から）



7. SC43炭化物集中部炭化材出土状況（南から）



8. SC43炭化物集中部炭化材出土状況（東から）



1. 縄文時代調査区東側（南から）



2. 縄文時代調査区南半中央部（東から）



3. 縄文時代早期集落（東から）



1. SI171J住居 (北西から)



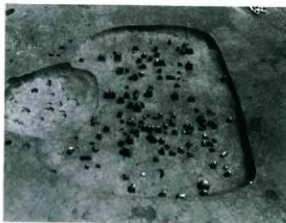
2. SI759J・SI762J住居 (西から)



3. SI759J住居 (東から)



4. SI759J住居北側柱穴状況 (東から)



5. SI759J住居遺物出土状況 (南から)



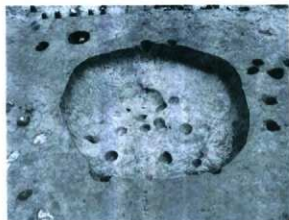
6. SI760J住居 (東から)



7. SI760J住居遺物出土状況 (西から)



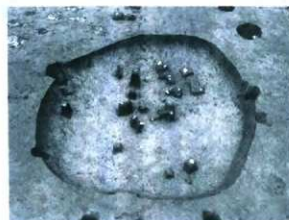
8. SI761J住居 (北から)



1. SI762J住居 (北西から)



2. SI762J住居 (北から)



3. SI762J住居遺物出土状況 (南から)



4. SI763J住居 (西から)



5. SI764J住居 (南から)



6. SI764J住居埋壺 (西から)



7. SI764J住居出入り口施設 (南から)



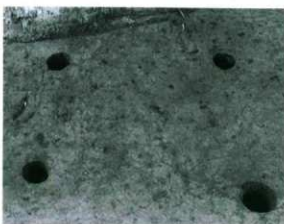
8. SI764J住居南西部遺物出土状況 (南東から)



1. SB211J掘立柱建物（南から）



2. SB211J掘立柱建物1-3（西から）



3. SB212J掘立柱建物（東から）



4. SB212J掘立柱建物2-2土層断面（東から）



5. SS94集石（西から）



6. SS95集石（東から）



7. SS96集石（東から）



8. SS97集石（東から）



1. SS98集石 (北から)



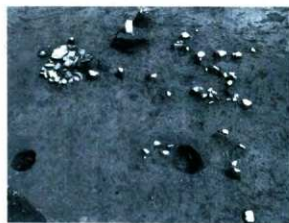
2. SS99集石 (西から)



3. SS100集石 (北から)



4. SS100集石最下面 (南から)



5. SS100集石周辺 (南から)



6. SS100集石クルミ出土状況 (南から)



7. SS101集石 (北から)



8. SS102集石 (北から)



1. SS103集石 (北から)



2. SS104集石 (北から)



3. SS105集石 (北から)



4. SS106集石 (南から)



5. SS107集石 (西から)



6. SS108・SS109集石 (南から)



7. SU8屋外埋甕 (東から)



8. SU9屋外埋甕 (南から)



1. SK2912J土坑（南西から）



2. SK2912J土坑（北から）



3. SK2912J土坑遺物・焼土出土状況（北西から）



1. SK3076J土坑（東から）



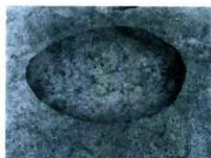
2. SK3076J土坑土層断面（南から）



3. SK3076J土坑（南から）



1. SK2903J陥穴 (南から)



2. SK2907J土坑 (南から)



3. SK2909J土坑 (南から)



4. SK2911J陥穴 (南から)



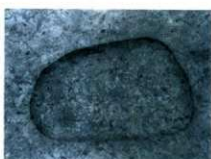
5. SK2913J陥穴 (東から)



6. SK2914J土坑 (北から)



7. SK2918J土坑 (北から)



8. SK2925J土坑 (東から)



9. SK2926J・SK2930J戸穴 (東から)



10. SK2943J土坑 (東から)



11. SK2945J陥穴・SK2951J土坑 (東から)



12. SK2960J・SK2960J・SK2966J土坑 (南から)



13. SK2962J土坑 (南から)



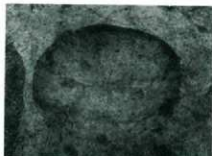
14. SK2969J土坑 (南から)



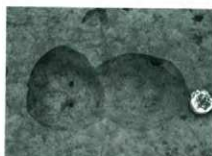
15. SK2971J土坑 (東から)



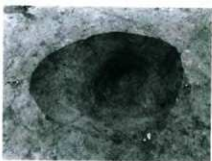
1. SK2976J土坑 (東から)



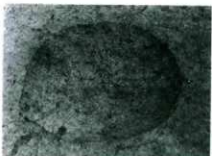
2. SK2977J土坑 (南から)



3. SK2981J・SK2988J土坑 (南から)



4. SK2983J土坑 (南から)



5. SK2995J土坑 (東から)



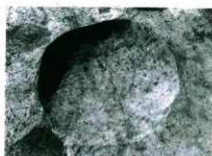
6. SK2997J土坑 (東から)



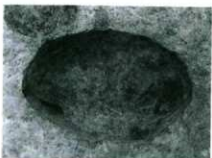
7. SK3002J土坑 (南から)



8. SK3012J土坑 (東から)



9. SK3018J土坑 (南から)



10. SK3024J土坑 (南から)



11. SK3025J土坑 (南から)



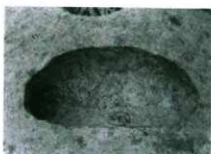
12. SK3028J土坑 (南から)



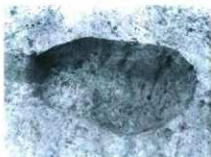
13. SK3032J陥穴 (南から)



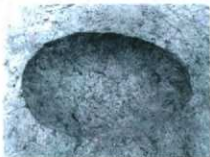
14. SK3033J土坑 (北から)



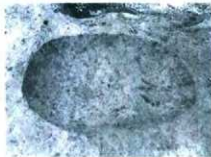
15. SK3038J土坑 (南から)



1. SK3046J土坑 (東から)



2. SK3047J土坑 (南から)



3. SK3048J土坑 (南から)



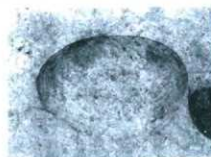
4. SK3051J・SK3052J竈穴 (北東から)



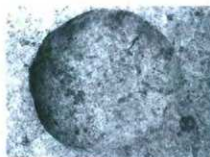
5. SK3059J竈穴 (北から)



6. SK3069J土坑 (南から)



7. SK3071J土坑 (東から)



8. SK3072J土坑 (南から)



9. SK3075J土坑 (南から)



10. SK3078J土坑 (東から)



11. SK3079J竈穴 (南から)



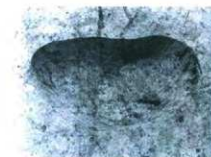
12. SK3084J土坑 (南から)



13. SK3089J土坑 (南から)



14. SK3090J土坑 (南から)



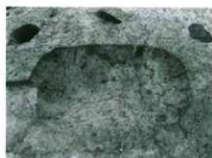
15. SK3093J土坑 (東から)



1. SK3102J土坑 (東から)



2. SK3113J土坑 (東から)



3. SK3122J土坑 (南から)



4. SK3123J土坑 (東から)



5. SX239J遺物集中部遺物出土状況 (東から)



6. SX242J遺物集中部遺物出土状況 (北から)



7. SX246J遺物集中部第1面 (北から)



8. SX246J遺物集中部第2面 (東から)



9. SX246J遺物集中部南端部第2面近景 (東から)



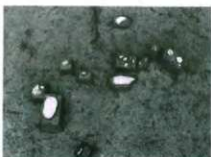
10. SX246J遺物集中部南端部大型打製石斧出土状況(北から)



11. SX246J遺物集中部石皿出土状況(北西から)



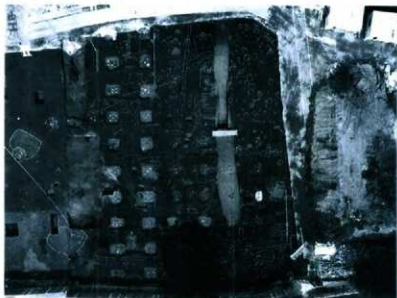
12. SX246J遺物集中部磨製石斧出土状況 (北から)



13. ET-84区大型打製石斧出土状況 (西から)



14. PJ-235小穴断ち割り状況



1. 調査区南半部空撮（上空から）



2. 調査区中央部（南から）



3. 調査区西半部（南から）



1. SB206掘立柱建物(東から)



2. SB206掘立柱建物1-3柱穴出土状況(南から)



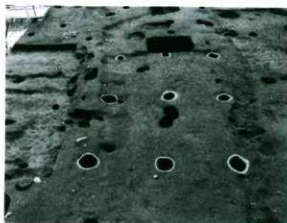
3. SB207掘立柱建物(東から)



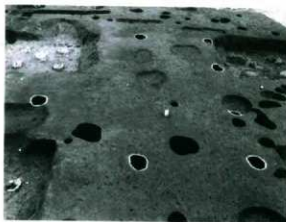
4. SB207掘立柱建物2-1(南から)



5. SB206・SB207掘立柱建物(東から)



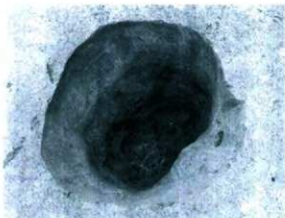
6. SB208掘立柱建物(東から)



7. SB209掘立柱建物(東から)



8. SB210掘立柱建物(東から)



1. SB210掘立柱建物1-5 (南から)



2. SB210掘立柱建物6-4 (南から)



3. SB213掘立柱建物 (南から)



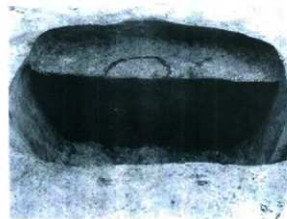
4. SB213掘立柱建物 (西から)



5. SB213掘立柱建物東側柱穴確認状況 (南から)



6. SB213掘立柱建物3-1柱痕跡 (南から)



7. SB213掘立柱建物3-2柱痕跡 (東から)



8. SB213掘立柱建物3-2遺物出土状況 (東から)



1. SA24柱穴列南側（南から）



2. SA26・SA27柱穴列（東から）



3. SI740住居（西から）



4. SI740住居竈（西から）



5. SI740住居竈長軸断面（南から）



6. SI740住居遺物出土状況（西から）



7. SI740住居竈煙道部状況（西から）



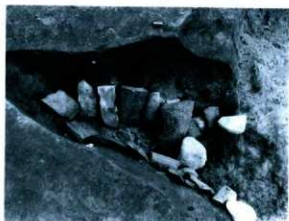
8. SI740住居竈煙道部男瓦除去後状況（西から）



1. SI740住居電芯瓦列出土状況 (西から)



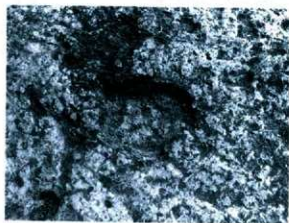
2. SI740住居電北側瓦列出土状況 (南から)



3. SI740住居電南側瓦列出土状況 (北から)



4. SI740住居電掘方 (西から)



5. SI740住居炉 (西から)



6. SI741住居 (東から)



7. SI741住居電と周辺遺物出土状況 (東から)



8. SI741住居電 (東から)



1. SI741住居電 (東上から)



2. SI741住居電天井部掘除去後状況 (東から)



3. SI741住居電掘方 (東から)



4. SI742住居 (南から)



5. SI742住居電 (南から)



6. SI743住居 (北から)



7. SI744a・SI744b住居 (西から)



8. SI744a住居電 (西から)



1. SI745住居 (南から)



2. SI747住居 (南西から)



3. SI747住居竈 (西から)



4. SI747住居中央部遺物出土状況 (南から)



5. SI748住居 (南から)



6. SI749住居 (西から)



7. SI749住居炭化材検出状況 (北から)



8. SI749住居竈 (西から)



1. SI749住居電（北から）



2. SI749住居電掘方（西から）



3. SI749住居北東隅部炭化材検出状況（北から）



4. SI749住居南東部遺物出土状況（北から）



5. SI749住居甲斐原暗文土器（「国寺」墨書）出土状況（北から）



6. SI750住居（西から）



7. SI751住居（東から）



8. SI751住居炉状ビット（東から）



1. SI751住居炉状ピット土層断面 (東から)



2. SI752・SI753住居 (西から)



3. SI752住居貼床 (西から)



4. SI752住居遺物出土状況 (西から)



5. SI753住居 (北から)



6. SI754c住居 (西から)



7. SI754a～SI754c住居掘方 (西から)



8. SI754c住居竈 (西から)



1. SI754c住居炉1 (西から)



2. SI754c住居炉2土層断面 (北から)



3. SI754c住居北壁際遺物出土状況 (東から)



4. SI754c住居遺物出土状況 (東から)



5. SI754b住居竈 (南から)



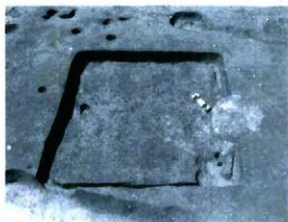
6. SI755住居 (西から)



7. SI755住居竈掘方 (西から)



8. SI755住居周溝内ピット (東から)



1. SI756住居 (南から)



2. SI756住居遺物出土状況 (南から)



3. SI756住居掘方 (南から)



4. SI756住居竈 (西から)



5. SI756住居竈掘方 (西から)



6. SI756住居鉄製品出土状況 (南から)



7. SI757住居 (南から)



8. SI757住居遺物出土状況 (東から)



1. SI757住居遺物出土状況（南から）



2. SI758住居（東から）



3. SI758住居掘方（東から）



4. SI765住居（西から）



5. SI765住居鉄製品出土状況（北西から）



6. SI766住居（東から）



7. SI767住居（西から）



8. SI767住居掘方（西から）



1. SD381・SD382溝状遺構 (西から)



2. SD383・SD384溝状遺構 (南から)



3. SD385溝状遺構 (西から)



4. SK2698土坑 (南から)



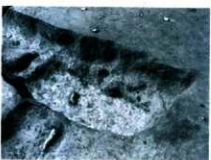
5. SK2699土坑 (南から)



6. SK2699土坑焼土検出状況 (南から)



7. SK2699土坑南北土層断面 (東から)



8. SK2703土坑 (北東から)



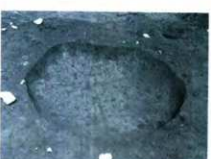
9. SK2703土坑東西土層断面 (南から)



10. SK2707土坑 (南から)



11. SK2711土坑 (南から)



12. SK2713土坑 (南から)



13. SK2719土坑 (南から)



14. SK2721土坑 (東から)



15. SK2727土坑 (南から)



1. SK2730土坑 (南から)



2. SK2756土坑 (南から)



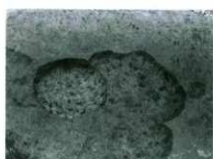
3. SK2766土坑 (南から)



4. SK2775～SK2778土坑 (南東から)



5. SK2782土坑 (南から)



6. SK2792・SK2805土坑 (南から)



7. SK2793土坑 (南から)



8. SK2799土坑 (南から)



9. SK2801土坑 (南から)



10. SK2807土坑 (東から)



11. SK2809土坑 (南から)



12. SK2813・SK2814土坑 (南から)



13. SK2816土坑 (東から)



14. SK2817土坑 (北から)



15. SK2830土坑 (西から)



1. SK2834土坑 (南から)



2. SK2836(左)・SK2837(右)土坑 (南から)



3. SK2839土坑 (南から)



4. SK2839土坑東西土層断面 (南から)



5. SK2840土坑 (南から)



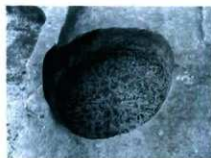
6. SK2844土坑 (南から)



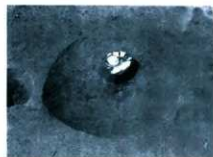
7. SK2847土坑 (南から)



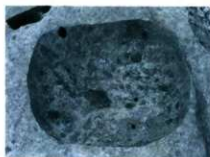
8. SK2862土坑 (南から)



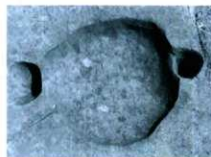
9. SK2866土坑 (南から)



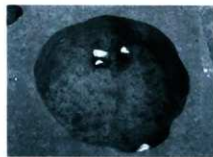
10. SK2871土坑 (南から)



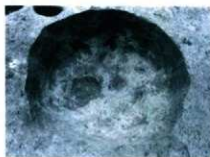
11. SK2889土坑 (南から)



12. SK2931土坑 (南から)



13. SK2965土坑 (南から)



14. SK3005土坑 (南から)



15. SK3006土坑 (南から)



1. SK3013土坑 (北から)



2. SK3058土坑 (南から)



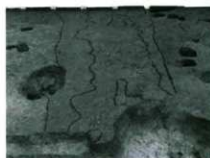
3. SK3108土坑 (東から)



4. SX6道路状遺構 (北西から)



5. SX6道路状遺構 (東から)



6. SX6道路状遺構北端部検出状況 (南から)



7. SX6道路状遺構北端部第4面 (南から)



8. SX6道路状遺構北端部掘方 (南から)



9. ビット群 EM~EP-83~85 (南から)



10. ビット群 ET~FA-80~81 (南から)



11. P-40 (北から)



12. P-70鍍金具出土状況 (北から)



13. P-595瓦出土状況-2枚重ねの上 (西から)



14. P-595瓦出土状況-2枚重ねの下 (西から)



1



2



3



4



5



6



7



16



8



9



10



17



18



20



22



23

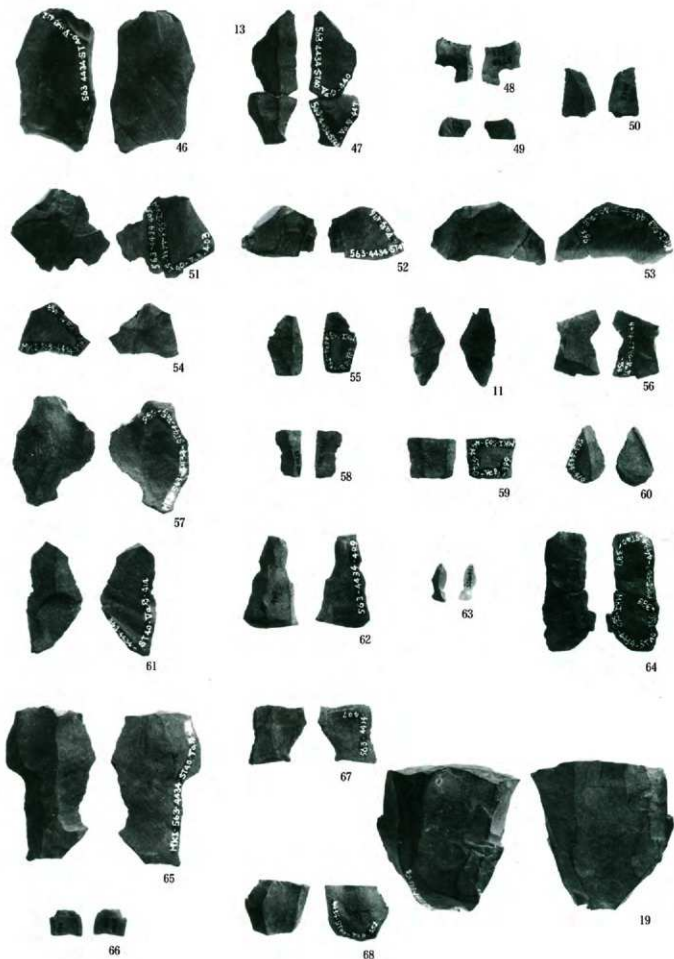


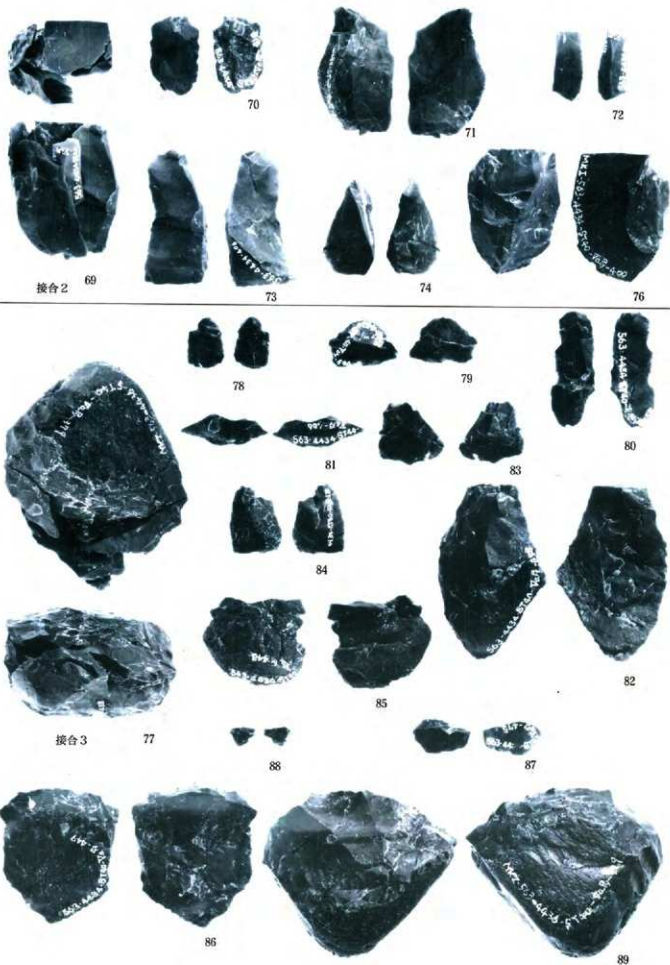
24

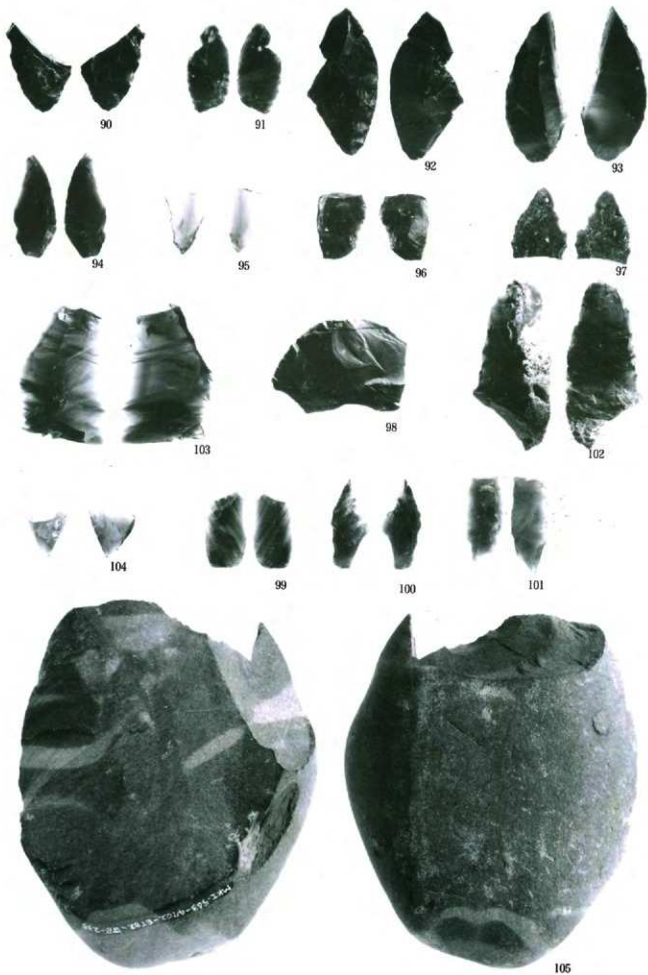
接合1



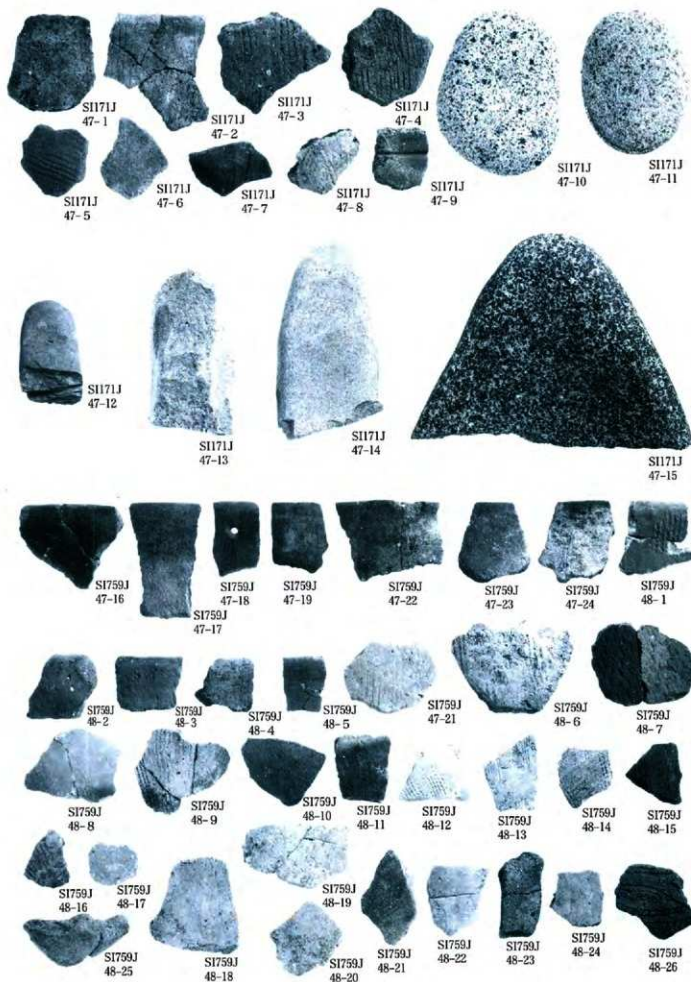
圖版37 旧石器時代出土遺物 (4)







図版40 縄文時代遺物 (1)





SI759J
48-27



SI759J
48-28



SI759J
48-29



SI759J
48-30



SI759J
48-31



SI759J
48-32



SI759J
48-33



SI759J
49-1



SI759J
48-34



SI759J
49-2



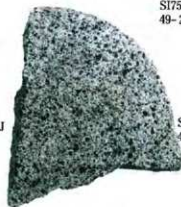
SI759J
49-3



SI759J
49-4



SI759J
49-5



SI759J
49-6



SI760J
49-8



SI760J
49-9



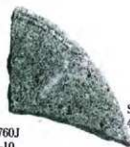
SI761J
49-12



SI761J
49-13



SI760J
49-10



SI760J
49-11



SI762J
49-14



SI762J
49-15



SI762J
49-16



SI762J
49-17



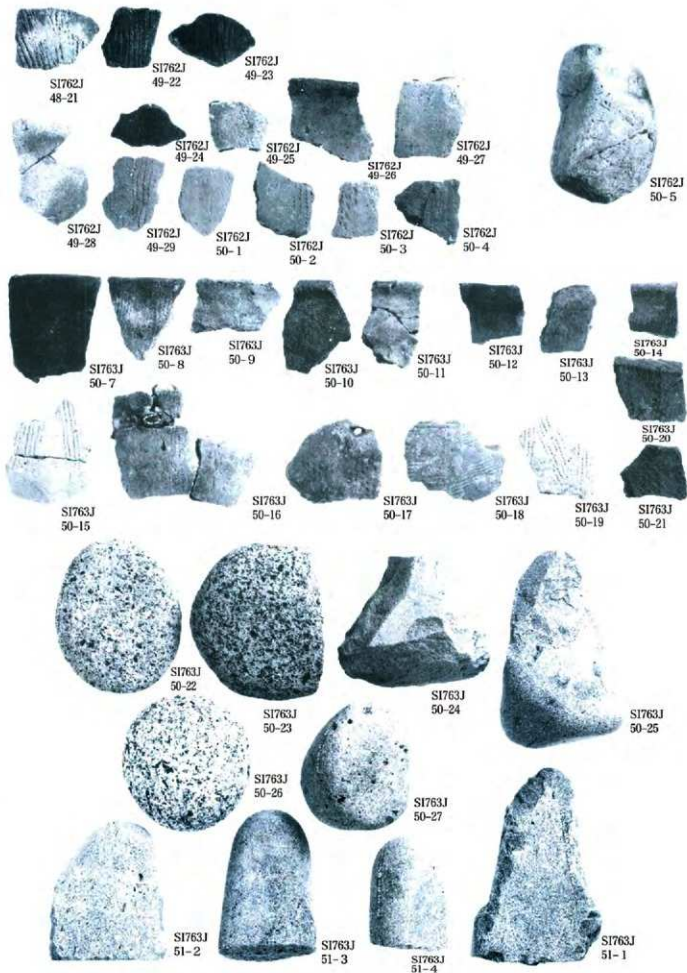
SI762J
49-18

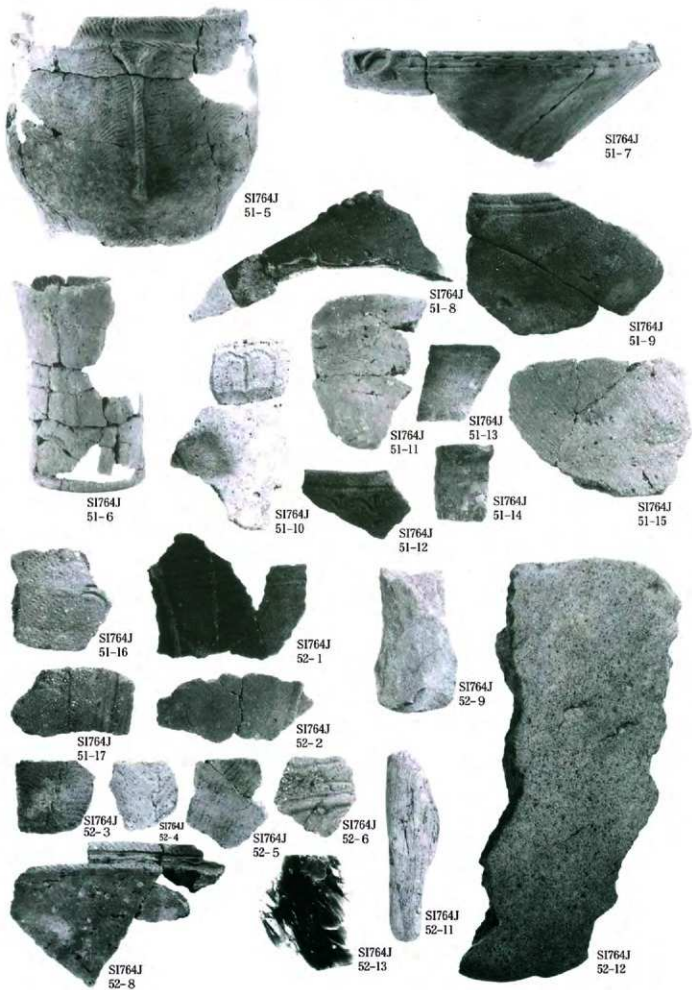


SI762J
49-19

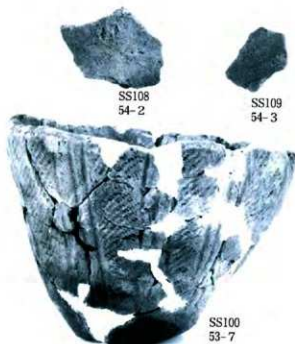


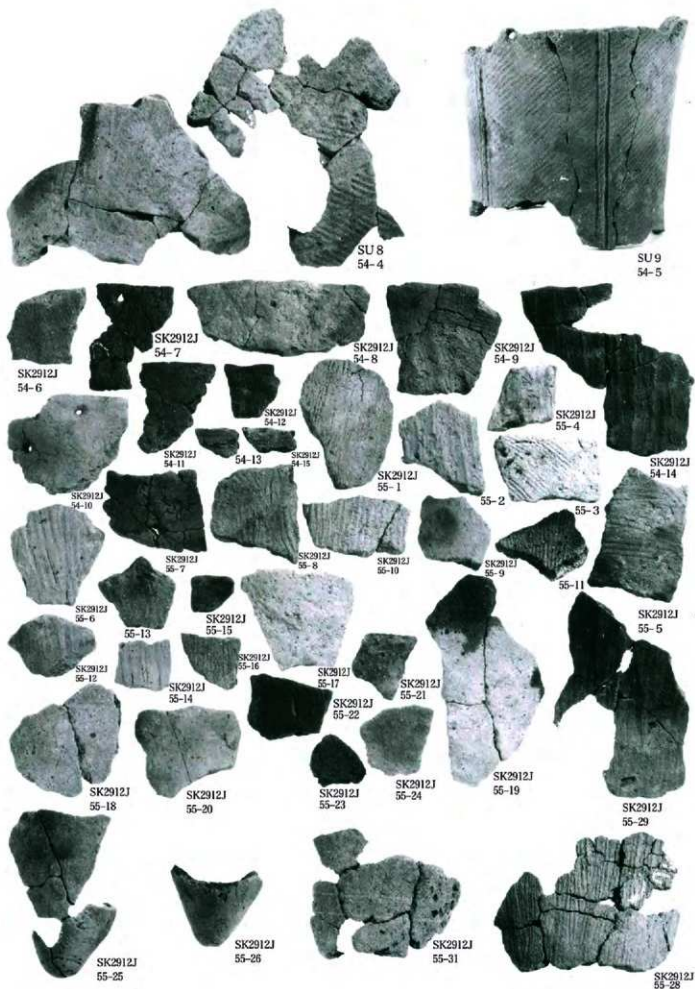
SI762J
49-20

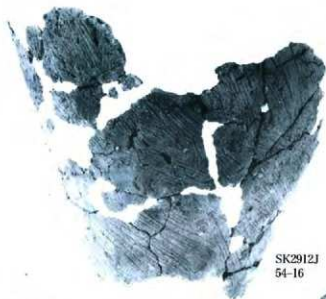




図版44 縄文時代遺物 (5)







SK2912J
54-16



SK2912J
55-30



SK2912J
56-1



SK2912J
56-2



SK2912J
56-3



SK2912J
56-4



SK2912J
56-5



SK2912J
56-6



SK2912J
56-7



SK2912J
56-8



SK2912J
56-9



SK2912J
56-12



SK2912J
56-13



SK2912J
56-14



SK2912J
56-15



SK2912J
56-18



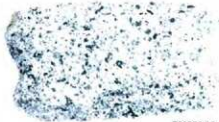
SK2912J
56-19



SK2912J
56-21



SK2912J
56-22



SK2912J
56-23



SK2912J
57-1



SK2912J
57-2



SK2912J
57-3



SK2912J
57-4



SK2912J
57-5



SK2912J
56-10



SK2912J
56-11

SK2912J
56-16



SK2912J
56-17



SK3076J
58-2



SK3076J
58-3





SK3057J
58-1



SK2937J
57-19



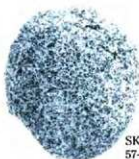
SK2937J
57-20



SK2945J
57-24



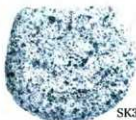
SK2946J
57-25



SK3021J
57-28



SK3051J
57-33



SK3113J
58-6



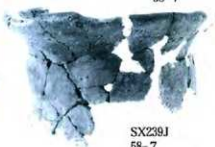
SK3113J
58-7



SX239J
58-9



SX239J
58-10



SX239J
58-7



SX239J
58-12



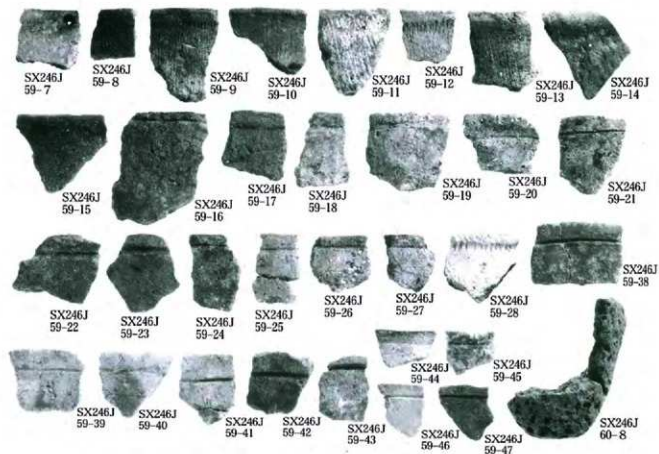
SX239J
58-13

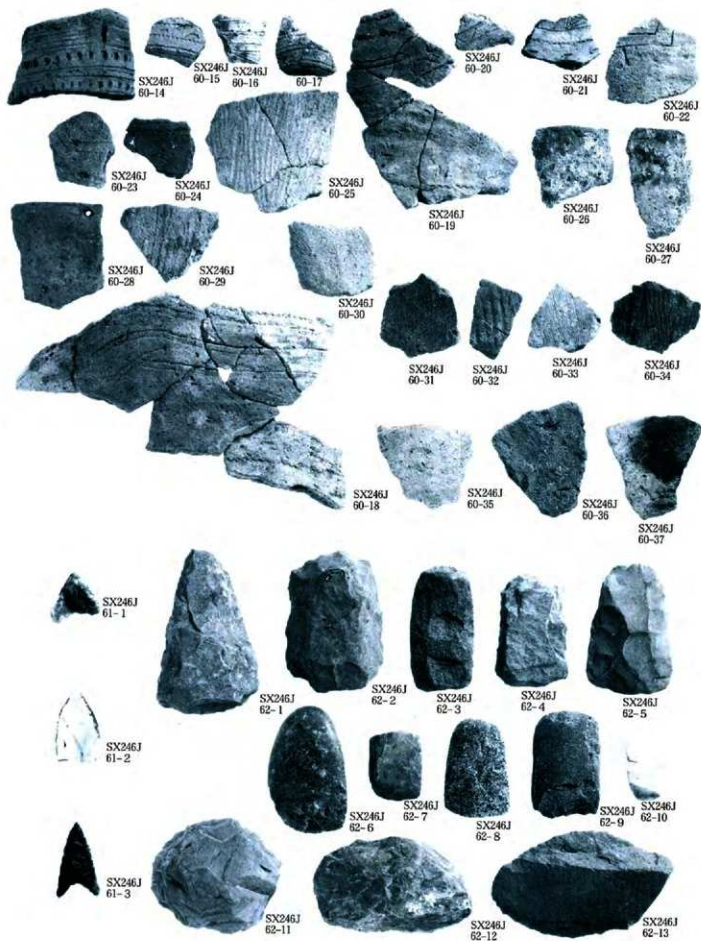


SX239J
58-14



SX239J
58-16







SX246J
61-13



SX246J
62-14



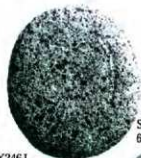
SX246J
62-15



SX246J
62-16



SX246J
62-17



SX246J
63-1



SX246J
63-2



SX246J
63-3



SX246J
63-4



SX246J
63-5



SX246J
63-10



SX246J
63-6



SX246J
63-7



SX246J
63-8



SX246J
63-9



SX246J
63-13



SX246J
63-14



SX246J
64-1



SX246J
64-4



SX246J
64-6



SX246J
64-2



SX246J
64-3



SX246J
64-5



SX246J
64-7



SX246J
64-8



SX246J
64-9



SX246J
64-13



SX246J
65-2



SX246J
65-5



SX246J
65-6



SX246J
65-7



SX246J
65-8



SX246J
65-11



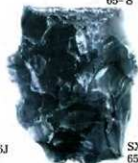
SX246J
65-12



SX246J
65-13

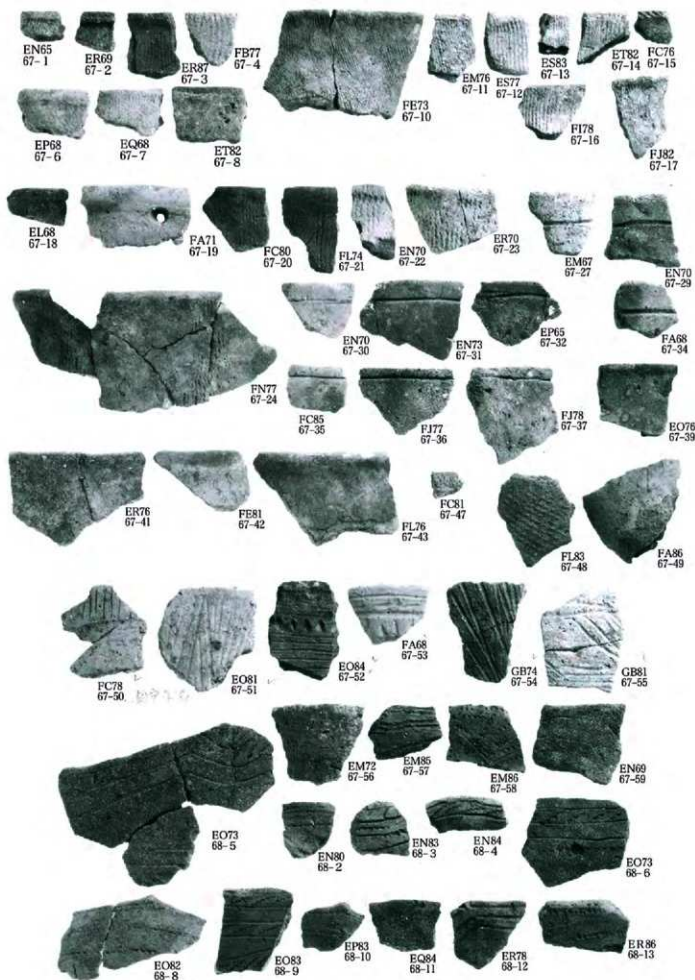


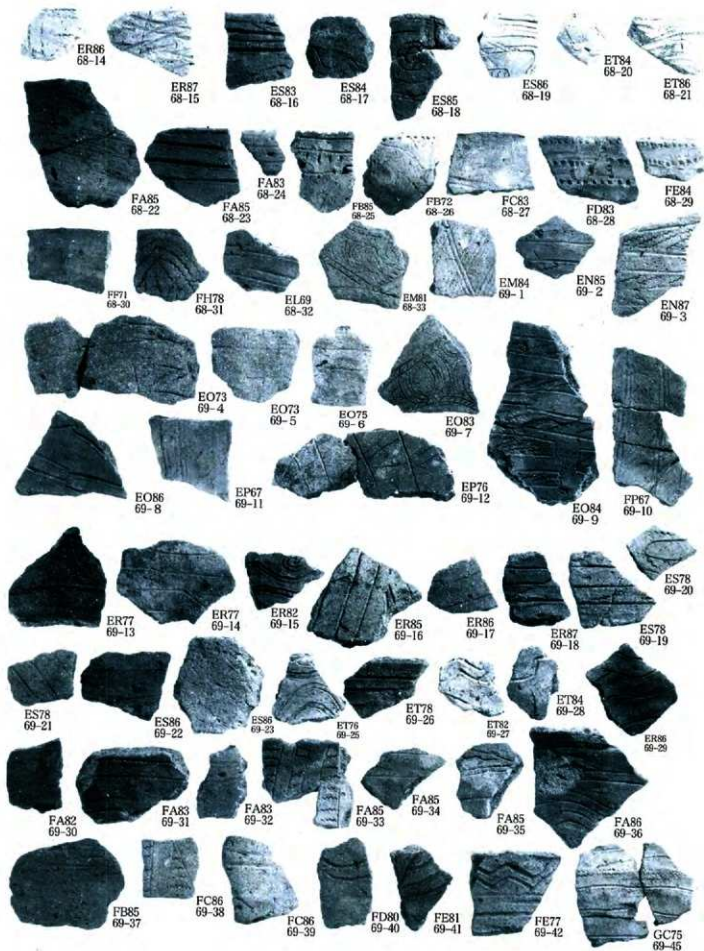
SX246J
65-14

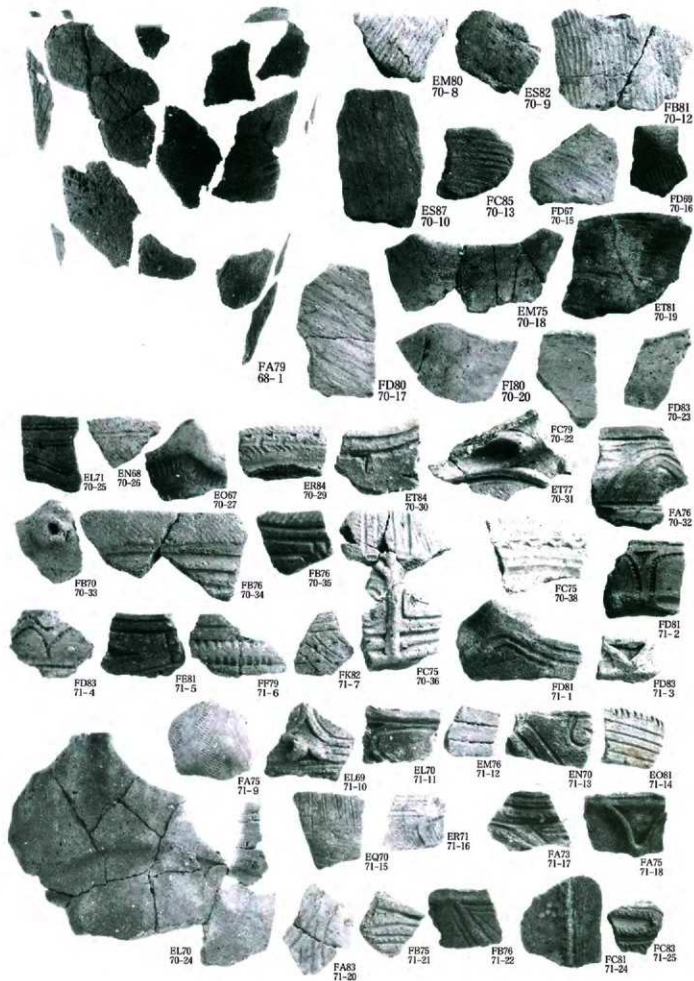


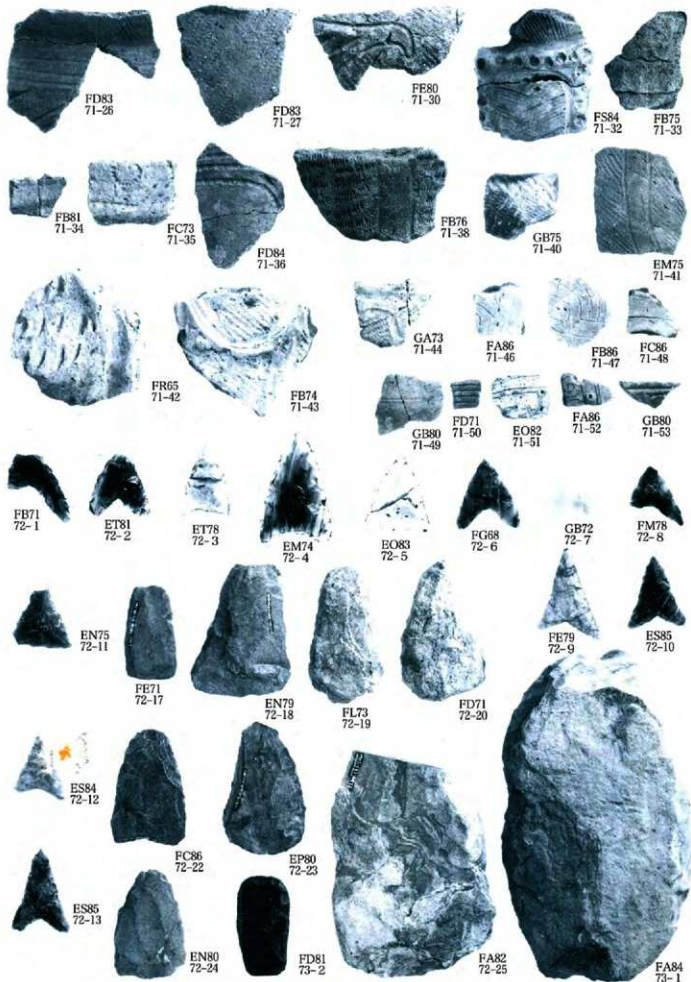
SX246J
65-15

図版53 縄文時代遺物 (14)











EP85
73-4



EQ86
73-5



FD71
73-8



FD67
73-6



ET83
73-10



EP74
74-1



EO79
74-2



FD85
74-5



FJ76
74-6



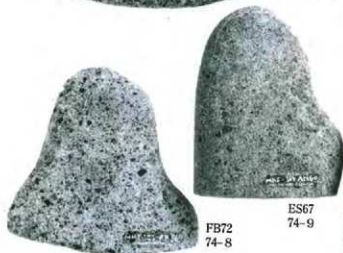
EN79
74-3



ET85
74-4



FG58
74-7



FB72
74-8



ES67
74-9



ET80
74-10



SB207
122-1



SB207
122-2



SB213
122-5



SA25
122-11



SA25
122-12



SI740
122-15



SI740
122-18



SI740
123-6



SI740
123-7



SI740
123-8



SI740
123-9



SI740
123-10



SI740
123-11



SI740
123-12



SI740
124-1



SI740
124-2



SI740
128-9



SI740
124-4



SI740
128-7



SI740
125-1



SI740
128-1



SI740
128-6



SI741
129-2



SI740
128-5



SI741
129-4



SI741
129-6



SI741
129-7



SI741
130-1



SI741
131-1



SI741
131-5



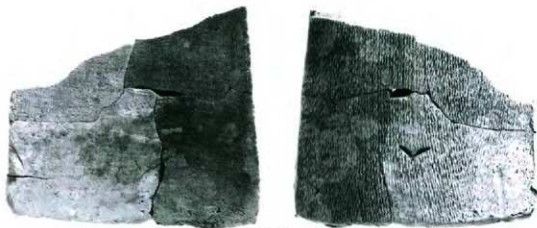
SI742
131-6



SI743
132-1



SI744b
132-4



SI744a
133-1



SI744a
133-2



SI744b
133-4



SI747
134-4



SI748
134-5



SI749
135-1



SI749
135-4



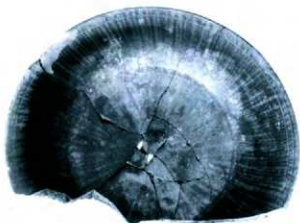
SI749
135-5



SI749
135-2



SI749
135-6



SI749
135-3



SI749
135-7



SI749
135-8



SI749
135-9



SI749
135-10



SI749
136-1





SI749
136-2



SI749
137-1



SI749
137-2



SI749
138-2



SI749
138-4



SI750
138-7



SI750
138-8



SI750
138-9



SI751
138-10



SI751
138-12



SI752
139-6



SI752
139-7



SI751
139-3



SI752
139-5



SI752
139-10



SI752
139-13-2



SI752
140-2



SI754
141-2



SI754
141-4



SI754
141-1



SI754
143-5



SI756
144-1



SI756
144-2



SI756
144-7



SI756
146-3



SI756
146-2



SI756
145-3



SI757
146-8



SI757
146-5



SI758
147-2



SI757
147-1



SI758
147-3



SI758
147-4



SI758
147-5



SI758
147-7



SI765
147-8



SI765
147-9



SI765
147-10



SI765
147-11



SI767
148-2



SI767
148-1



SI767
148-5



SI767
149-1



SD383
150-1



SD384
150-2



SD384
150-3



SD384
150-5

図版67 歴史時代遺物 (10)



SD384
150-6



SK2698
150-7



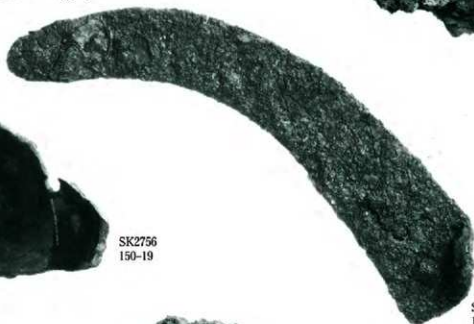
SK2698
150-8



SK2699
150-11



SK2699
150-14



SK2703
150-15



SK2756
150-19



SK2756
150-24



SK2756
150-25



SK2756
150-26



SK2756
150-21



SK2792
151-6



SK2813
151-8



SK2756
150-27



SK2775
151-3



SK2839
151-10



SK2866
151-11



SK2871
151-12



SK3013
151-13



SX 6
151-15



SX 6
151-16



P-40
151-20



P-328
152-2



P-437
152-3



P-70
151-22



P-547
152-4



P-595
152-5



遺構外
153-3



遺構外
153-5



遺構外
153-7



遺構外
153-8



151-17
KC65



大 KC71



128-4
KD19



131-1
KD21



133-1
KD31



153-1
KD43



138-6
KD52



145-1
KD78



122-14
KD87



153-1
KD117



152-5
KD113



130-3
KD20



127-1
KD03



127-2
KD07



128-2
KD15



128-3
KD16



七 131-3
KD24



玉? 140-5
KD58



丙 146-1
KD77



判読不明 145-2
KD80



工 KD85



上(逆字) KD95



十? KD119



丙 KD128



上(逆字) 149-1
KD134



中 149-2
KD135



山? 151-1
KC59



判読不明 150-20
KC62



父 152-7
KC70



父 140-3
KC37



方? 148-8
KC76



瓦 127-3
KD09



在 139-1
KD53



中 138-3
KH02



判読不明 145-3
KD79



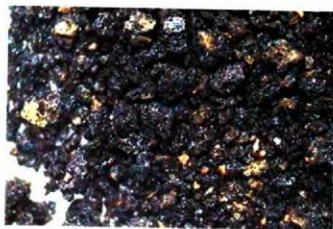
右? 151-19
KD106



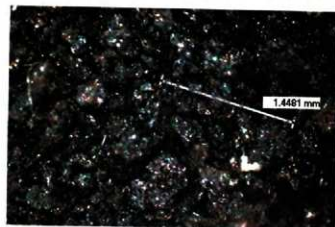
判読不明 153-2
KD118



判読不明 149-3
KD138



TMK13 炭化物AAA処理前 12倍



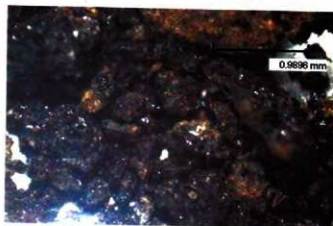
TMK13 炭化物AAA処理後 24倍



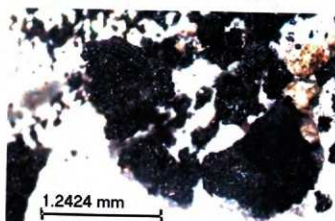
TMK13 裏面 炭化物付着状況



TMK13 裏面 炭化物付着状況



TMK1126 炭化物AAA処理前 24倍



TMK1126 炭化物AAA処理後 24倍



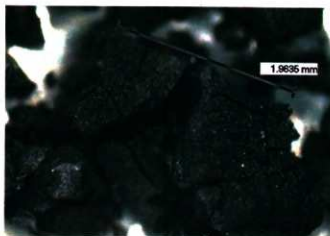
TMK1126 裏面 炭化物付着状況



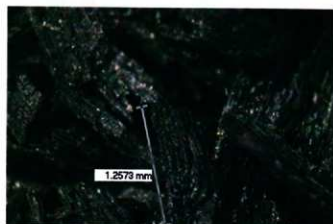
TMK1126 裏面 炭化物付着状況



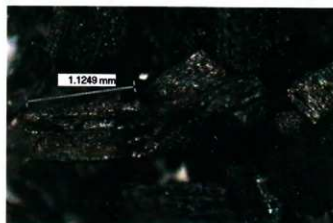
TMK1126 表面



TMK1100 炭化材AAA処理後 24倍



TMK14302 炭化材AAA処理後 24倍



TMK14388 炭化材AAA処理後 24倍

武蔵国分寺跡発掘調査概報 30

— 北方地区・(仮称) 国分寺プロジェクト計画工事に伴う調査 —

発行日	平成17年3月31日
編著者	国分寺市遺跡調査団 © (団長 坂詰 秀一)
発行所	国分寺市遺跡調査会 〒185-8501 国分寺市戸倉1-6-1 TEL 042-325-0111 (代表) 東京都国分寺市教育委員会内
印刷所	コロニー東村山印刷所
